

環境庁委託

## 第3回自然環境保全基礎調査

# 特定植物群落調査報告書(全国版)

1988年

財団法人 日本野生生物研究センター



## は じ め に

本報告書は、環境庁自然保護局から、調査の委託を受けて実施した「第3回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査情報処理業務」についてまとめたものである。

本調査は、昭和59年度から実施された第3回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査の結果を点検、整理、修正し、電算機に入力するとともに、各種の集計や分布メッシュ図を作成し、特定植物群落の状況について考察を行ったものである。この報告書が、特定植物群落の保全対策を検討する際の基礎資料として資することがあれば幸いである。

調査の実施にあたっては、特定植物群落分科会をはじめ、環境庁自然保護局、都道府県関係者各位に数々の御協力を賜った。

ここに記して、厚く御礼申し上げる次第である。

昭和63年3月

財団法人 日本野生生物研究センター  
理事長 佐藤大七郎



調査スタッフ

山瀬	一裕	日本野生生物研究センター	主任研究員
真板	昭夫	日本野生生物研究センター	主任研究員
菰田	誠	日本野生生物研究センター	研究員
鋤柄	直純	日本野生生物研究センター	研究員
中野	康範	日本野生生物研究センター	研究員
芥藤	秀生	日本野生生物研究センター	研究員
入倉	清次	日本野生生物研究センター	研究員

# 目 次

はじめに

調査スタッフ

I . 特定植物群落調査の概要	1
1 . 調査目的	3
( 1 ) 追跡調査	4
( 2 ) 追加調査	4
( 3 ) 生育状況調査	4
2 . 調査内容及び調査結果のとりまとめ	4
( 1 ) 追跡調査	4
( 2 ) 追加調査	5
( 3 ) 生育状況調査	6
II . 集計解析作業の概要	9
1 . 集計解析作業の目的	11
2 . 集計解析作業の対象	11
3 . 集計解析作業の内容	11
( 1 ) 追跡調査結果の集計解析	11
( 2 ) 追加調査結果の集計解析	12
( 3 ) 生育状況調査結果の集計解析	13
III . 集計解析結果	15
1 . 追跡調査結果の集計解析	17
( 1 ) 追跡調査の概要	17
( 2 ) 特定植物群落の変化状況と人為圧とのかかわり	19
( 3 ) 特定植物群落に対する保護制度の適用状況	71

( 4 ) 特定植物群落の変化状況と保護制度の適用状況	83
2 . 追加調査結果の集計解析	92
( 1 ) 追加調査（第 3 回）の概要	92
( 2 ) 追加・削除後の総数とその概要	96
( 3 ) 選定基準別の分布状況	100
( 4 ) 面積別の分布状況	110
( 5 ) 標高別の分布状況	112
( 6 ) 立地別の分布状況	113
( 7 ) 取り扱い別の分布状況	115
( 8 ) 保存状態別の分布状況	116
( 9 ) 当該群落へのインパクトの分布状況	117
( 1 0 ) 保護対策の適用状況	119
( 1 1 ) 相観区分別の分布状況	124
( 1 2 ) 主な群落別の分布状況	144
3 . 生育状況調査結果の集計解析	155
( 1 ) 生育状況調査結果の概要	155
( 2 ) 相観区分別の分布状況	155
( 3 ) 地域類型別の分布状況	159
( 4 ) 保護対策の適用状況	160
( 5 ) 対象群落へのインパクトの状況	163
( 6 ) 種組成の類似度による群落の分類	163
IV . とりまとめ、考察	179
( 1 ) 追跡調査結果	181
( 2 ) 追加調査結果	188
( 3 ) 生育状況調査結果	199
( 4 ) 考察	201
V . 図表編	205

VI. 特定植物群落一覽	425
1. 変化した群落一覽	427
2. 特定植物群落一覽	437
VII. 資料	531
1. 検討会名簿	533
2. 特定植物群落調査要綱	534

# 図 表 一 覧

## 追跡調査

表1. 1-1	特定植物群落調査結果（追跡調査）の概要 .....	18, 207
表2. 1. 1-1	変化状況の集計 .....	21, 208
表2. 1. 2-1	地方別の変化状況（件数） .....	209
表2. 1. 2-2	都道府県別の変化状況 .....	210
表2. 1. 3-1	相観区分別の変化状況 .....	214
表2. 1. 3-2	特定植物群落の面積増加事例（100%を超える） .....	218
表2. 2. 1-1	変化原因の集計結果 .....	31, 219
表2. 2. 1-2	変化原因の内容例 .....	219
表2. 2. 2-1	地方別の変化原因（件数） .....	220
表2. 2. 2-2	都道府県別の変化原因（件数） .....	221
表2. 2. 3-1	相観区分別の変化原因 .....	225
表2. 3. 1-1	変化状況と変化原因の集計 .....	40, 229
表2. 3. 2-1	相観区分別にみた変化状況と変化原因（暖温帯常緑広葉高木林） .....	230
表2. 3. 2-2	相観区分別にみた変化状況と変化原因（個体群） .....	231
表2. 3. 2-3	相観区分別にみた変化状況と変化原因（冷温帯夏緑広葉高木林） .....	232
表2. 3. 2-4	相観区分別にみた変化状況と変化原因（湿地植生） .....	233
表2. 3. 2-5	相観区分別にみた変化状況と変化原因（暖温帯常緑針葉高木林） .....	234
表2. 3. 2-6	相観区分別にみた変化状況と変化原因（暖温帯植生） .....	235
表2. 3. 2-7	相観区分別にみた変化状況と変化原因（海浜植生） .....	236
表2. 3. 2-8	相観区分別にみた変化状況と変化原因（冷温帯常緑針葉高木林） .....	237
表2. 3. 3-1	群落別にみた変化状況と変化原因（高山ハイデ及び風衝草原） .....	238
表2. 3. 3-2	群落別にみた変化状況と変化原因（雪田草原） .....	238
表2. 3. 3-3	群落別にみた変化状況と変化原因（シラビソートウヒ群団） .....	239
表2. 3. 3-4	群落別にみた変化状況と変化原因（チシマザサープナ群団） .....	239
表2. 3. 3-5	群落別にみた変化状況と変化原因（スズタケープナ群団） .....	240
表2. 3. 3-6	群落別にみた変化状況と変化原因（サカキーウラジロガシ群集） .....	240
表2. 3. 3-7	群落別にみた変化状況と変化原因（サカキーコジイ群集） .....	241

表2.3.3-8	群落別にみた変化状況と変化原因（スダジイ群落）	241
表2.3.3-9	群落別にみた変化状況と変化原因（タブ群落）	242
表2.3.3-10	群落別にみた変化状況と変化原因（ウバメガシ群落）	242
表2.3.3-11	群落別にみた変化状況と変化原因（ツルコケモモミズゴケクラス）	243
表2.3.3-12	群落別にみた変化状況と変化原因（ヌマガヤオーダー）	243
表2.3.3-13	群落別にみた変化状況と変化原因（ヨシクラス）	244
表2.3.3-14	群落別にみた変化状況と変化原因（砂丘植生）	244
表2.4.1-1	特定植物群落の変化状況と地域類型	56, 245
表2.4.2-1	特定植物群落の変化原因と地域類型	58, 246
表2.4.3-1	相観区分別にみた変化状況と地域類型（暖温帯常緑広葉高木林）	247
表2.4.3-2	相観区分別にみた変化状況と地域類型（冷温帯夏緑広葉高木林）	247
表2.4.3-3	相観区分別にみた変化状況と地域類型（個体群）	248
表2.4.3-4	相観区分別にみた変化状況と地域類型（湿地植生）	248
表2.4.3-5	相観区分別にみた変化状況と地域類型（暖温帯常緑針葉高木林）	249
表2.4.3-6	相観区分別にみた変化状況と地域類型（暖温帯植生）	249
表2.4.3-7	相観区分別にみた変化状況と地域類型（海浜植生）	250
表2.4.3-8	相観区分別にみた変化状況と地域類型（冷温帯常緑針葉高木林）	250
表2.5.1-1	存続・削除に関する地方別集計	65, 251
表2.5.1-2	存続・削除に関する都道府県別集計	252
表2.5.3-1	変化状況と存続・削除に関する集計	67, 253
表2.5.3-2	相観区分別にみた変化状況と存続・削除に関する集計（個体群）	253
表2.5.3-3	相観区分別にみた変化状況と存続・削除に関する集計 （暖温帯常緑広葉高木林）	254
表2.5.3-4	相観区分別にみた変化状況と存続・削除に関する集計（海浜植生）	254
表2.5.3-5	相観区分別にみた変化状況と存続・削除に関する集計（湿地植生）	255
表2.5.3-6	相観区分別にみた変化状況と存続・削除に関する集計 （冷温帯夏緑広葉高木林）	255
表2.5.3-7	相観区分別にみた変化状況と存続・削除に関する集計 （暖温帯夏緑広葉高木林）	256
表2.5.3-8	相観区分別にみた変化状況と存続・削除に関する集計（河辺植生）	256

表3. 1-1	保護制度のかかっていない特定植物群落（相観区分）の件数	72, 257
表3. 2-1	国の自然公園の相観区分別適用状況	258
表3. 2-2	国の自然環境保全地域への相観区分別適用状況	261
表3. 2-3	都道府県の自然公園、自然環境保全地域への相観区分別適用状況	262
表3. 2-4	天然記念物の相観区分別適用状況	264
表4. 1-1	保護制度別の変化状況（件数）	84, 266
表4. 1-2	自然公園・自然環境保全地域の変化状況	267
表4. 1-3	削除された特定植物群落一覧 （自然公園法、自然環境保全法下に存在する）	86, 268
表4. 1-4	天然記念物の変化状況	269
表4. 1-5	削除された特定植物群落一覧（文化財保護法と重複する）	88, 270
表4. 1-6	保護制度別の変化原因（件数）	88, 270
表4. 1-7	自然公園・自然環境保全地域の変化原因	271
表4. 1-8	天然記念物の変化原因	272

#### 追加調査

表5. 1-1	選定基準別の追加件数及び面積	93, 273
表5. 1-2	相観区分別の件数及び面積	94, 274
表5. 1-3	都道府県別の件数及び面積	275
表5. 2-1	追加後の都道府県別の件数及び面積	97, 276
表5. 2-2	地方別の件数及び面積	277
表5. 3-1	選定基準別の件数及び面積	101, 278
表5. 3-2	地方別選定基準別の件数及び面積	279
表5. 3-3	都道府県別選定基準別の件数及び面積	280
表5. 3-4	選定基準別相観別の件数及び面積	282
表5. 4-1	地方別面積区分別の件数	111, 287
表5. 4-2	都道府県別面積区分別の件数	288
表5. 5-1	都道府県別標高区分別の件数及び面積	291
表5. 5-2	選定基準別標高区分別の件数及び面積	295
表5. 6-1	立地区別の件数及び面積	114, 296

表5. 6-2	都道府県別立地区別の件数及び面積	297
表5. 7-1	都道府県別取扱別の件数及び面積	301
表5. 8-1	地方別保存状態別の件数及び割合	305
表5. 8-2	都道府県別保存状態別の件数及び面積	306
表5. 9-1	都道府県別インパクトの種類別の件数及び面積	309
表5. 10-1	保護区別の件数及び面積	120, 313
表5. 10-2	自然公園・自然環境保全地域別の件数及び面積	314
表5. 10-3	天然記念物別の件数及び面積	122, 318
表5. 10-4	自然公園・自然環境保全地域別選定基準別の件数及び面積	319
表5. 10-5	天然記念物別選定基準別の件数及び面積	321
表5. 11-1	相観区別の件数及び面積	125, 322
表5. 11-2	都道府県別相観区別の件数及び面積	324
表5. 11-3	相観区別面積区別の件数	332
表5. 11-4	相観区別保護制度別の件数	341
表5. 12-1	群落別都道府県別の件数及び面積（高山ハイデ及び風衝草原）	350
表5. 12-2	群落別面積区別の件数	351
表5. 12-3	群落別都道府県別の件数及び面積（雪田草原）	352
表5. 12-4	群落別都道府県別の件数及び面積（シラビソートウヒ群団）	352
表5. 12-5	群落別都道府県別の件数及び面積（チシマザサーブナ群団）	353
表5. 12-6	群落別都道府県別の件数及び面積（スズタケープナ群団）	354
表5. 12-7	群落別都道府県別の件数及び面積（サカキーウラジログシ群集）	355
表5. 12-8	群落別都道府県別の件数及び面積（サカキーコジイ群集）	356
表5. 12-9	群落別都道府県別の件数及び面積（スダジイ群落）	357
表5. 12-10	群落別都道府県別の件数及び面積（タブ群落）	358
表5. 12-11	群落別都道府県別の件数及び面積（ウバメガシ群落）	359
表5. 12-12	群落別都道府県別の件数及び面積（高層湿原）	360
表5. 12-13	群落別都道府県別の件数及び面積（中間湿原）	361
表5. 12-14	群落別都道府県別の件数及び面積（低層湿原）	362
表5. 12-15	群落別都道府県別の件数及び面積（砂丘植生）	363

## 生育状況調査

表6. 1-1	生育状況調査の都道府県別の件数	156, 364
表6. 2-1	選定された群落の事例	365
表6. 2-2	相観区分別の件数	157, 366
表6. 2-3	相観区分別暖かさの指数別の件数	158, 367
表6. 3-1	相観区分別地域類型別の件数	368
表6. 4-1	保護対策の適用状況（自然公園、自然環境保全地域）	161, 371
表6. 4-2	保護対策の適用状況（天然記念物）	162, 372
表6. 5-1	インパクトの種類別の件数	162, 372

## 追跡調査

図2. 1. 2-1	特定植物群落変化・消滅群落位置図	22, 373
図2. 1. 3-1	面積の増減した特定植物群落の割合	374
図2. 3. 3-1	特定植物群落変化状況図	49, 375

## 追加調査

図5. 2-1	特定植物群落位置図	98, 376
図5. 3-1	選定基準別件数及び面積	102, 377
図5. 3-2	選定基準別平均面積	102, 377
図5. 3-3①	原生林等の分布（選定基準A）	378
図5. 3-3②	希な植物群落の分布（選定基準B）	379
図5. 3-3③	分布限界にみられる植物群落の分布（選定基準C）	380
図5. 3-3④	特殊な立地にみられる植物群落の分布（選定基準D）	381
図5. 3-3⑤	郷土景観を代表する植物群落の分布（選定基準E）	382
図5. 3-3⑥	長期にわたって人手の入っていない人工林の分布（選定基準F）	383
図5. 3-3⑦	人為によって少なくなるおそれのある植物群落の分布（選定基準G）	384
図5. 3-3⑧	学術上重要な植物群落の分布（選定基準H）	385
図5. 3-4	相観区分別選定基準別の割合	386
図5. 10-1	地域区分別件数及び面積	387
図5. 11-1	亜寒帯常緑針葉樹林の分布	388

図5. 11-2	冷温帯常緑針葉樹林の分布	389
図5. 11-3	暖温帯常緑針葉樹林の分布	390
図5. 11-4	暖温帯常緑広葉樹林の分布	391
図5. 11-5	亜熱帯常緑広葉樹林の分布	392
図5. 11-6	マングローブ林の分布	393
図5. 11-7	亜寒帯夏緑広葉樹林の分布	394
図5. 11-8	冷温帯夏緑広葉樹林の分布	395
図5. 11-9	暖温帯夏緑広葉樹林の分布	396
図5. 11-10	高山荒原植生の分布	397
図5. 11-11	浮葉・沈水植物群落の分布	398
図5. 11-12	湿地植生の分布	399
図5. 11-13	河辺植生の分布	400
図5. 11-14	海浜植生の分布	401
図5. 11-15	個体群の分布	402
図5. 12-1	高山ハイデ及び風衝草原の分布	403
図5. 12-2	雪田草原の分布	404
図5. 12-3	シラビソートウヒ群団の分布	405
図5. 12-4	チシマザサーブナ群団の分布	406
図5. 12-5	ズタケーブナ群団の分布	407
図5. 12-6	サカキーウラジロガシ群集の分布	408
図5. 12-7	サカキーコジイ群集の分布	409
図5. 12-8	スダジイ群落の分布	410
図5. 12-9	タブ群落の分布	411
図5. 12-10	ウバメガシ群落の分布	412
図5. 12-11	高層湿原の分布	413
図5. 12-12	中間湿原の分布	414
図5. 12-13	低層湿原の分布	415
図5. 12-14	砂丘植生の分布	416

## 生育状況調査

図6. 2-1	相観区分別暖かさの指数別の頻度分布	417
図6. 6-1	調査対象群落の分布（オオシラビソ林）	164, 418
図6. 6-2	調査対象群落の分布（ブナ林）	165, 419
図6. 6-3	調査対象群落の分布（シイ、カシ林）	166, 420
図6. 6-4	オオシラビソ林の類型区分	168, 421
図6. 6-5	ブナ林の類型区分	171, 422
図6. 6-6	シイ、カシ林の類型区分	175, 424



# I . 特定植物群落調査の概要



# I . 特定植物群落調査の概要

## 1 . 調査目的

本調査は、わが国の多様な植物群落の中から、地域の代表的、典型的な群落や希少な群落などを都道府県別に選定（以下に示す8つの選定基準）し、その分布や生育状況及び変化の状況を把握しようとするものである。

### 特定植物群落選定基準

- A 原生林もしくはそれに近い自然林  
(特に照葉樹林についてはもれのないように注意すること)
- B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
- C 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
- D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの(特に湿原についてはもれのないように注意すること。)
- E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの(武蔵野の雑木林、社寺林等)
- F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
- G 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
- H その他、学術上重要な植物群落または個体群

特定植物群落調査は、第2回自然環境保全基礎調査(53年度)から実施しており、今回が2回目である。前回の調査では、全国で3,834の特定植物群落を選定し、その分布や、生育状況を調査した。昭和59年度から61年度にわたり実施された第3回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査は、以下の3つの調査から構成される。これらの調査目的は、次のとおりである。

### (1) 追跡調査

昭和53年度に実施した特定植物群落調査において選定した特定植物群落について、その後の改変等の変化状況を把握するための調査を行う。

### (2) 追加調査

昭和53年度に実施した特定植物群落調査において調査もれとなった植物群落、あるいは、その後新たに発見された植物群落のうち、「特定植物群落選定基準」に該当するものをリストアップし、その生育地及び生育状況について調査する。

### (3) 生育状況調査

特定植物群落の生育地及び生育状況の現況を把握し、併せて自然環境保全施策の基礎となるバックデータを蓄積する目的で、既に選定された特定植物群落の中から植物群落の類型ごとに代表的、典型的な群落を抽出し、標本的な群落を対象として、生育地及び生育状況の現況を詳細に調査する。

## 2. 調査内容及び調査結果のとりまとめ

上記の3つの調査内容は、次のとおりである。

### (1) 追跡調査

#### ① 調査対象群落

昭和53年度に実施した特定植物群落において選定した3,834群落を対象とする。

#### ② 調査事項

ア. 群落の消滅または一部改変等の変化状況及びその原因を調査する。

イ. 保護の現状及び群落に対するインパクトの状況を調査する。

### ③ 調査方法

対象群落について、既存資料（植生調査等）の収集、市町村等からの情報収集、及び現地確認等により調査を行う。

### ④ 調査結果のとりまとめ

ア. 調査結果は「特定植物群落調査調査票（追跡調査）」にとりまとめる。

イ. 「面積に著しい変化」のあった群落（くくり線の変更を要する変化のあった群落）については、昭和53年度調査の際に作成した「特定植物群落生育地図」の該当部分のコピーに改変状況などの概略を記入した変化状況図を、調査票に添付する（変化部分を赤線でくくり、赤ハッチを入れる）。

なお、生育地が小さく、上記生育地図では小黒丸で表示された群落については、見取り図程度の改変状況図を作成し添付する（図面の大きさはB5版またはB4版とする）。

## (2) 追加調査

### ① 調査対象群落

調査対象群落は、群落の面積の大小にかかわらず「特定植物群落選定基準」に該当するものとする。

### ② 調査事項

ア. 植物群落の位置、面積

イ. 植物群落の概要

ウ. 保護の現状

エ. 保護管理に関する所見

### ③ 調査方法

今までに実施した自然環境保全基礎調査による植生図、空中写真等を参考にしながら、既存資料その他の知見の収集を行うとと

もに、必要に応じて現地調査を行う等して調査を実施する。

#### ④ 調査結果のとりまとめ

- ア. 特定植物群落生育地図（特定植物群落の生育地は、国土地理院発行の5万分の1地形図に表示する。）
- イ. 特定植物群落調査票（調査した事項は、「特定植物群落調査票」にとりまとめるものとし、調査票には、原則として代表的な地点における植生調査表を添付する。）

### （3）生育状況調査

#### ① 調査対象群落

「特定植物群落調査実施要領（生育状況調査）」により、第3回調査までにリストアップされた特定植物群落の中から、当該群落の代表性・典型性及び保全が長期間担保される可能性等を勘案して選定する。

なお、2以上の群落から成る特定植物群落を生育状況調査群落として選定する場合には、当該特定植物群落のうち、どの部分の群落を生育状況調査の対象とするかを明らかにする。

#### ② 調査事項

##### ア. 生育状況調査群落の概要調査

- a. 植物群落の位置、面積等
- b. 生育環境
- c. 植物群落の概要（周辺の状況を含む）
- d. 保護管理の現状
- e. 選定理由
- f. 現況写真の撮影

##### イ. コドラート調査

- a. 一般植生調査（植物社会学的方法による植生調査）
- b. 毎木調査（樹高8m以上の樹木のみ）

## c. コドラート現況写真の撮影

### ③ 調査方法

「生育状況調査群落の概要調査」は、現地調査及び既存資料により行う。「コドラート調査」は、現地調査により行う。詳細は、「特定植物群落調査実施要領（生育状況調査）」による。

### ④ 現地調査の実施時期

現地調査（現況写真の撮影を含む）は、夏期に実施する。

### ⑤ 調査結果のとりまとめ

調査結果は、調査対象群落毎に以下の形式でまとめる。

- ア. 生育状況調査群落概要調査票
- イ. コドラート位置図
- ウ. 植生調査表
- エ. 毎木調査票
- オ. 現況写真撮影方法記録票



## Ⅱ．集計解析作業の概要



## Ⅱ．集計解析作業の概要

### 1．集計解析作業の目的

集計解析作業の目的は、昭和59年度から実施された第3回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査の結果を磁気テープにファイルするとともに、現況及び経年変化等について全国的な視点から集計、解析を行い、自然環境に対して具体的かつ有効な保護対策を検討する際の基礎資料を提供することである。

### 2．集計解析作業の対象

昭和59年度から実施された第3回自然環境保全基礎調査のうちの特定植物群落調査結果（追加調査、追跡調査、生育状況調査）を対象とし、地域的には、全国を対象とする。

### 3．集計解析作業の内容

特定植物群落調査結果の集計解析作業の内容は、以下の通りである。

#### (1) 追跡調査結果の集計解析

追跡調査においては、特定植物群落の変化状況及びその原因などの解析により、特定植物群落の経年変化及び人為圧、保護制度との関連などを明らかにする。

#### ① 特定植物群落の変化状況と人為圧とのかかわり

特定植物群落の変化状況やその原因を分析するとともに、変化状況の大きな特定植物群落は、どの程度の人為圧が加わっている地域に存在しているのかを明らかにする。集計解析の内容は、以下のとおりである。

ア．変化状況の集計解析

イ．変化原因の集計解析

- ウ． 変化状況と変化原因の集計解析
- エ． 人為圧と変化状況・変化原因の集計解析
- オ． 存続・削除に関する意見の集計解析

## ② 特定植物群落に対する保護制度の適用状況

特定植物群落について、相観区分別に保護制度の適用状況を明らかにする。集計解析の内容は、以下のとおりである。

- ア． 保護制度の有無の集計解析
- イ． 保護制度の適用状況の集計解析

## ③ 特定植物群落の変化状況と保護制度の適用状況

保護制度と特定植物群落の変化状況及び変化原因との関係を調べた。集計解析の内容は、以下のとおりである。

- ア． 保護制度と変化状況の集計解析
- イ． 保護制度と変化原因の集計解析

## (2) 追加調査結果の集計解析

追加調査においては、第2回調査で選定されたものと合わせ特定植物群落全体の現状を把握するとともに各群落の全国的な位置付け等を明らかにする。

集計解析は、第2回調査結果の変化部分（例えば、面積、保護状況等）を修正したデータに、第3回追加調査結果を加えて行う。集計解析の内容は、以下のとおりである。

- ア． 分布概要
- イ． 選定基準別の分布状況
- ウ． 面積別の分布状況
- エ． 標高別の分布状況
- オ． 立地別の分布状況
- カ． 取り扱い別の分布状況
- キ． 保存状態別の分布状況

- ク．保護対策の適用状況
- ケ．相観区分別の分布状況
- コ．主な群落別の分布状況

### (3) 生育状況調査結果の集計解析

生育状況調査においては、主要な群落毎に典型的な種組成、生育環境などを明らかにすると共に、今後の自然環境保全施策の基礎となるバックデータとして整理をする。集計解析の内容は、以下のとおりである。

- ア．分布概要
- イ．相観区分別の分布状況
- ウ．地域類型別の分布状況
- エ．保護対策の適用状況
- オ．対象群落へのインパクトの状況
- カ．種組成の類似度による群落の分類

なお、以上(1)から(3)までの調査結果(図表)は、VI図表編に取りまとめ、その一部は本文中に重複して掲載した。



### Ⅲ．集計解析結果

（文中の図表は、Ⅳ．図表編のなかから）  
（一部を重複して掲載したものである。）



### Ⅲ．集計解析結果

#### 1．追跡調査結果の集計解析

ここでは、特定植物群落の変化状況・原因（インパクト）の解析を行い、以下の点を明らかにする。

##### （1）追跡調査の概要

都道府県で行われた追跡調査の調査票の回収状況は表 1.1 - 1 に示した。

第 2 回自然環境保全基礎調査の「特定植物群落調査」では、3,834 件が調査対象であった。今回の追跡調査は、これらを対象として行ったものであるが、回収された調査票は 3,772 件であった。この件数の違いは、以下によるものである。

青森県では、特定植物群落が 80 件存在する。昭和 60 年度に実施した追跡調査は、改変されている恐れのある群落（19 群落）を対象とし、残りの 61 件は改変の恐れがないとして取り扱われた。

長野県では、前回調査時に鹹川のヒノキ林（3,000ha）として扱われた鹹川、瀬戸川流域の天然林は、その伐採が進行しているため、保存可能（瀬戸川の木曽ヒノキ学術参考保護林、助六学術参考保護林）で特徴のある 2 つの林分に分割されて報告されている。

静岡県では、前回調査の群落（1 件）が今回は他の群落と統合されて報告されている。

鳥取県では、前回調査時の鳴竜山の自然林が、2 つの群落に分けられて報告されたいる。

広島県では、前回の調査で秘密扱いのもの（2 群落）が除外されている。

回収された調査表 3,772 件について、比較的件数の多い（100 以上）相観区分をみると、暖温帯常緑広葉高木林 923（24%）、個体群 428（11%）、冷温帯夏緑広葉高木林 427（11%）、湿地植

表1.1-1 特定植物群落調査結果（追跡調査）の概要

県No.	県名	第2回調査時の件数	追跡調査の件数
01	北海道	1 1 5	1 1 5
02	青森県	8 0	1 9
03	岩手県	7 1	7 1
04	宮城県	7 5	7 5
05	秋田県	7 6	7 6
06	山形県	7 9	7 9
07	福島県	1 1 2	1 1 2
08	茨城県	6 5	6 5
09	栃木県	6 5	6 5
10	群馬県	1 1 3	1 1 3
11	埼玉県	6 1	6 1
12	千葉県	8 7	8 7
13	東京都	9 6	9 6
14	神奈川県	9 1	9 1
15	新潟県	9 4	9 4
16	富山県	1 3 6	1 3 6
17	石川県	1 0 2	1 0 2
18	福井県	5 9	5 9
19	山梨県	1 0 1	1 0 1
20	長野県	5 6	5 7
21	岐阜県	1 3 2	1 3 2
22	静岡県	1 3 5	1 3 5
23	愛知県	6 8	6 8
24	三重県	1 0 4	1 0 4
25	滋賀県	1 1 9	1 1 9
26	京都府	8 3	8 3
27	大阪府	3 2	3 2
28	兵庫県	9 4	9 4
29	奈良県	2 5	2 5
30	和歌山県	8 7	8 7
31	鳥取県	6 0	6 0
32	島根県	7 8	7 8
33	岡山県	5 6	5 6
34	広島県	1 2 6	1 2 4
35	山口県	6 9	6 9
36	徳島県	6 8	6 8
37	香川県	3 3	3 3
38	愛媛県	6 1	6 1
39	高知県	7 8	7 8
40	福岡県	7 7	7 7
41	佐賀県	6 5	6 5
42	長崎県	9 0	9 0
43	熊本県	3 7	3 7
44	大分県	7 0	7 0
45	宮崎県	6 1	6 1
46	鹿児島県	9 1	9 1
47	沖縄県	1 0 1	1 0 1
合計		3, 8 3 4	3, 7 7 2

生 238 (6%)、暖温帯常緑針葉高木林 179 (5%)、暖温帯植  
生 168 (4%)、海浜植生 134 (4%)、冷温帯常緑針葉高木林  
131 (3%)、暖温帯夏緑広葉高木林 127 (3%)、植生一般  
103 (3%) 等があげられる。

このように暖温帯常緑広葉高木林、個体群、冷温帯夏緑広葉高  
木林、湿地植生の4つで追跡調査の対象の特定植物群落全体の約  
50%を占める。

また、相観区分が2つ及び3つにわたる特定植物群落は、以下  
に示す7件が回答されている。

#### 相観区分 (2つ)

暖温帯植生と暖温帯常緑広葉高木林

暖温帯植生と海浜植生

暖温帯常緑針葉高木林と暖温帯夏緑広葉高木林

常緑針葉高木植林と暖温帯常緑広葉高木林

個体群と常緑広葉高木植林

#### 相観区分 (3つ)

冷温帯単子葉草本草原と浮葉・沈水植物群落と浮水植物群落

冷温帯単子葉草本草原と浮葉・沈水植物群落と湿地植生

## (2) 特定植物群落の変化状況と人為圧とのかかわり

ここでは、特定植物群落の変化状況及びその原因、また変化状  
況の大きな特定植物群落は、どの程度の人為圧が加わっている地  
域に存在しているのかを調べた。

### 2.1 変化状況の集計結果

変化状況は、その内容が以下の5つに分けられている。

1. 面積、群落構成とも著しい変化なし
2. 面積に著しい変化あり (その面積 +・- 約 ha)
3. 群落構成に著しい変化あり
4. 個体数 (個体群選定の場合) に著しい変化あり

## 2.1.5 群落又は個体群の消滅

この回答様式は特に指定されていないため、複数回答が認められた。

### 2.1.1 変化状況の全国集計

ここでは、変化状況の各項目の全国の集計結果を示す（表 2.1.1-1）。

- ① 面積、群落構成とも著しい変化がなかった特定植物群落は、3,384件（88%）である。
- ② 面積に著しい変化があった特定植物群落は、159件（4%）である。
- ③ 群落構成に著しい変化があった特定植物群落は、96件（3%）である。
- ④ 個体群の個体数に著しい変化があった特定植物群落は、47件（1%）である。
- ⑤ 群落又は個体群の消滅した特定植物群落は、79件（2%）である。

以上の①-⑤は、変化状況の単一回答に基づくものである。変化状況の回答には複数回答もみられ、これらを含めると全体として前回選定された3,835件（3,834件との差は、調査対象群落の統合、分割による）のうち、過去5年間において面積変化等何らかの変化のあった群落は420件（11%）であり、変化状況の中では、「面積に著しい変化あり」が最も多い（後記Ⅶ-1）。

### 2.1.2 変化状況の地方別、都道府県別集計

ここでは、どのような変化状況が、どの地方、県に現れているのかを明らかにするために、地方別、都道府県別に変化状況の集計を行った（表 2.1.2-1、2）。また、面積、群落構成、個体群の個体数が変化した群落及び消滅した群落の位置を図 2.1.2-1 に示した。

- ① 面積に著しい変化があった特定植物群落（192件、重複あり）

表2.1.1-1 変化状況の集計

変化状況	件数 (%)	
記入なし (不明)	31	0.8
変化なし	3,384	88.2
変化なし・群落構成変化	1	0.0
変化なし・個体数変化	2	0.1
面積変化	159	4.2
面積変化・群落構成変化	11	0.3
面積変化・群落構成変化・個体数変化	3	0.1
面積変化・群落構成変化・個体数変化・消滅	2	0.1
面積変化・群落構成変化・消滅	2	0.1
面積変化・個体数変化	6	0.2
面積変化・個体数変化・消滅	1	0.0
面積変化・消滅	8	0.2
群落構成変化	96	2.6
群落構成変化・個体数変化・消滅	1	0.0
群落構成変化・消滅	1	0.0
個体数変化	47	1.3
個体数変化・消滅	1	0.0
消滅	79	2.1
	3,835	

注1) 前回調査の群落数3,834件との差は、調査対象群落の統合・分割による

注2) 変化なしには、変化の恐れのないものとして調査対象とならなかった群落61件（青森県）を、また、記入なし（不明）には、秘密扱いのため報告のなかった群落2件（広島県）を含んでいる

凡 例  
△ 変化した群落 (変化状況 2~4)  
× 消滅した群落 (変化状況 5)



図2.1.2-1 特定植物群落変化・消滅群落位置図

の割合が高い地方は、北海道（地方内全群落比 8.7%）、東北（7.2%）、近畿（5.8%）、九州（5.8%）である。

県別では、長野県（県内全群落比 21.7%、13件）、和歌山県（14.8%、13件）、滋賀県（9.8%、12件）、東京都（11.3%、11件）、北海道（8.7%、10件）、広島県（7.5%、10件）等である。

② 群落構成に著しい変化があった特定植物群落（117件、重複あり）の割合が高い地方は、関東（6.0%）、東北（3.6%）、北海道と中国（3.5%）である。

県別では、茨城県（23.1%、15件）、鳥取県（10.0%、6件）、青森県（9.5%、2件）、奈良県（8.0%、2件）、東京都（7.2%、7件）等である。

③ 個体群の個体数に著しい変化があった特定植物群落（63件、重複あり）の割合が高い地方は、九州（3.4%）である。

県別では、宮崎県（8.2%、5件）、熊本県（7.5%、3件）、山梨県（4.9%、5件）、宮城県（4.9%、4件）等である。

④ 群落または個体群が消滅した特定植物群落（95件、重複あり）の割合が高い地方は、関東（4.1%）、中部（3.4%）である。

県別では、栃木県（6.1%、4件）、埼玉県（9.8%、6件）、岐阜県（9.0%、12件）、広島県（6.0%、8件）、愛媛県（4.9%、3件）等である。

このように上記の①から④の各種の変化を受けた特定植物群落は、地方別にみると北海道、東北、関東、中部、近畿、九州で多い。また、県別にみると北海道、宮城県、栃木県、茨城県、埼玉県、東京都、長野県、岐阜県、滋賀県、和歌山県、広島県、宮崎県等で多い。

### 2.1.3 変化状況の相観区分別集計

ここでは、どのような変化状況がどんな相観区分に現れているのかを明らかにするために、変化状況と相観区分（全体で58に分類される）との集計を行った（表2.1.3-1）。

変化のあった群落の割合が高い相観区分は、浮水植物群落（100.0%）、河辺植生（58.6%）、浮葉・沈水植物群落（38.7%）、海浜植生（30.3%）、湿地植生（19.0%）等の水辺の植物群落及び暖温帯ササ原（60.0%）、冷温帯、暖温帯、亜熱帯の各単子葉草本草原（それぞれ53.8%、34.8%、33.3%）等である。以下に変化状況別の結果を述べる。

- ① 面積に著しい変化があった相観区分は、31区分（重複あり）、192件があげられる。回答件数の多い順に主な相観区分と対応する都道府県及び事例（一部の相観区分だけ）をみると以下のとおりである。

- ・ 冷温帯夏緑広葉高木林（チシマザサブナ群団、スズタケブナ群団等からなる）が、最も多く28件（14.6%）である。都道府県では、16県にみられ、岩手県が多く（6件）、続いて、福島県（3件）、秋田県、新潟県、福井県、長野県、滋賀県（2件）、青森県、宮城県、岐阜県、兵庫県、和歌山県、鳥取県、島根県、広島県、熊本県（1件）となる。

都道府県の具体的な事例として、森林施業に伴う伐採（岩手、秋田、宮城）、道路バイパス工事により群落の一部が消失した（福島）、林道の開通に伴い伐採（長野）、冠山ブナ林の伐採（広島）、自然林の大半が伐採され人工林となる（熊本）等があげられる。

- ・ 海浜植生（塩沼地植生、砂丘植生等からなる）は、21件（10.9%）である。都道府県では、15県にみられ、神奈川県（3件）、北海道、千葉県、静岡県、広島県（2件）、秋田県、山形県、東京都、新潟県、三重県、和歌山県、鳥取県、島根県、愛媛県、福岡県（1件）となる。

都道府県の具体的な事例として、海岸に1年中人やオートバイの立ち入りがある（神奈川）、河川敷地の拡大のため、埋め立てられた（愛媛）、上流にダムができ、砂泥の流出が減少した（島根）等があげられる。

- ・ 暖温帯常緑広葉高木林（サカキ－ウラジロガシ群集、サカキ－コジイ群集、スタジイ群落等からなる）は、20件（10.4%）である。都道府県では、14県にみられ、東京都（3件）、岐阜県、滋賀県、兵庫県、和歌山県（2件）、埼玉県、静岡県、愛知県、岡山県、愛媛県、福岡県、大分県、宮崎県、鹿児島県（1件）となる。

都道府県の具体的な事例として、宅地造成（埼玉）、神社本殿の改築に際して伐採（東京）、神社建設に伴う道路の設置により伐採（兵庫）、研修センターが設置された（和歌山）、森林施業に伴う伐採（大分）等があげられる。

- ・ 湿地植生（ツルコケモモ－ミズゴケクラス、ヌマガヤオーダー、ヨシクラス等からなる）は、16件（8.3%）である。都道府県では、12県にみられ、北海道（3件）、石川県、静岡県（2件）、青森県、山形県、福島県、千葉県、福井県、長野県、兵庫県、和歌山県、熊本県（1件）となる。

都道府県の具体的な事例として、埋め立てられて、資材置き場となる（青森）、農地として利用される（山形）等があげられる。

- ・ 個体群（オトメクジャク等）は、13件（6.8%）である。都道府県では、11県にみられ、静岡県、大分県（2件）、岩手県、宮城県、秋田県、群馬県、新潟県、京都府、和歌山県、徳島県、宮崎県（1件）となる。
- ・ 植生一般は、13件（6.8%）である。都道府県では、7県にみられ、長野県（4件）、宮城県（3件）、和歌山県（2件）、埼玉県、広島県、大分県、宮崎県（1件）となる。
- ・ 暖温帯常緑針葉高木林（モミ－シキミ群集、ツガーハイノキ

群集等からなる)は、12件(6.3%)である。都道府県では、6県にみられ、和歌山県、福岡県(3件)、静岡県、広島県(2件)、長野県、高知県(1件)となる。

- ・ 河辺植生(河辺ヤナギ低木群落、ヨシクラス、オギ群集等からなる)は、10件(5.2%)である。都道府県では、4県にみられ、東京都(6件)、滋賀県(2件)、宮城県、京都府(1件)となる。

② 群落構成に著しい変化があった相観区分は、30区分(重複あり)、119件があげられる。回答件数の多い順に主な相観区分と対応する都道府県及び事例(一部の相観区分だけ)をみると以下のとおりである。

- ・ 暖温帯常緑広葉高木林が、最も多く25件(21.0%)である。都道府県では、13県にみられ、茨城県(5件)、東京都、鳥取県(4件)、神奈川県、鹿児島県(2件)、石川県、岐阜県、静岡県、奈良県、山口県、香川県、福岡県、大分県(1件)となる。

都道府県の具体的な事例として、石材の採石が進んだ(茨城)、下刈りによって林床植生が貧弱になった(東京)、シラカシ林に人里植物が侵入した(岐阜)、マツクイムシの被害木の除去に伴い樹林の一部が破壊された(山口)、クズ等の侵入(香川)、生徒指導のため下層が刈払われ路傍植物が一部侵入した(大分)、タブの巨木が老齢によって倒れている(鹿児島)等があげられる。

- ・ 湿地植生は、12件(10.1%)である。都道府県では、9県にみられ、岩手県、三重県、滋賀県(2件)、秋田県、茨城県、石川県、福井県、広島県、佐賀県(1件)となる。

都道府県の具体的な事例として、乾地化により帰化植物が侵入した(三重、佐賀)、道路建設と公園整備により水路の切断と土砂の流入などが起こり、水生植物群落が見られなくなった

(広島)、湿原を横切る道路が設置され湿原内に土砂が多く流入した(佐賀)等があげられる。

- 暖温帯植生(サカキ-ウラジログシ群集、コナラ群落等からなる)は、9件(7.6%)である。都道府県では、4県にみられ、茨城県(6件)、宮城県、鳥取県、高知県(1件)となる。
- 海浜植生は、9件(7.6%)である。都道府県では、8県にみられ、徳島県(2件)、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、広島県、熊本県、大分県(1件)となる。

都道府県の具体的な事例として、車、バイクの乗入れ(千葉)、海水浴による過度の利用(徳島)、護岸工事と休憩所の建設(熊本)、海浜の埋め立て(大分)等があげられる。

- 暖温帯常緑針葉高木林(モミ-シキミ群集、ツガー-ハイノキ群集等からなる)は、7件(5.9%)である。都道府県では、5県にみられ、京都府、広島県(2件)、茨城県、石川県、静岡県(1件)となる。

都道府県の具体的な事例として、クロマツ林内の常緑広葉樹の伐採(静岡)、マツの枯死(京都)等があげられる。

- 個体群(タチスミレ、ヤマタバコ等)は、7件(5.9%)である。都道府県では、6県にみられ、群馬県(2件)、宮城県、秋田県、福島県、千葉県、静岡県(1件)となる。

③ 個体群の個体数に著しい変化があった相観区分は、19区分(重複あり)、65件があげられる。回答件数の多い順に主な相観区分と対応する都道府県及び事例(一部の相観区分だけ)をみると以下のとおりである。

- 個体群(カッコウ、コモチシダ等)が、最も多く、40件(61.5%)である。都道府県では、24県にみられ、宮城県(4件)、群馬県、千葉県、山梨県、長崎県(3件)、岩手県、茨城県、静岡県、和歌山県、大分県(2件)、宮城県、秋田県、神奈川県、新潟県、石川県、長野県、京都府、島根県、山口県、徳

島県、香川県、愛媛県、福岡県、鹿児島県（1件）となる。

都道府県の具体的な事例として、常緑広葉樹の成長に伴い、オオバネムの成長が不利になる（宮崎）、大雨により個体が出た（長崎）、ダム建設（山口）、盗採（京都）、湿地の乾燥化（新潟）等があげられる。

- ・ 湿地植生は、6件（9.2%）である。都道府県では、5県にみられ、石川県（2件）、富山県、兵庫県、熊本県、宮崎県（1件）となる。

都道府県の具体的な事例として、サクラソウの盗採（宮崎）、草地開発事業（熊本）等があげられる。

- ・ 冷温帯常緑針葉高木林（ヒノキアスナロ群落、クロベ－ヒメコマツ群落等からなる）は、2件（3.1%）である。都道府県では、2県にみられ、群馬県、長野県（1件）となる。
- ・ 暖温帯単子葉草本草原（ススキ群団、シバ群団、ヨシクラス、ハチジョウススキ群落等からなる）は、2件（3.1%）である。都道府県では、熊本県だけにみられる。

④ 群落又は個体群が消滅した相観区分は、21区分（重複あり）、97件があげられる。回答件数の多い順に主な相観区分と対応する都道府県及び事例（一部の相観区分だけ）をみると以下のとおりである。

- ・ 個体群（クマガイソウ、ヒメザゼンソウ等）が、最も多く、19件（19.6%）である。都道府県では、13県にみられ、静岡県（4件）、岐阜県（3件）、群馬県（2件）、岩手県、宮城県、福島県、埼玉県、千葉県、山梨県、長野県、滋賀県、奈良県、和歌山県（1件）となる。

都道府県の具体的な事例として、樹木の成長に伴う環境の変化（静岡）、住宅地開発、保養基地建設のため（岐阜）、平坦地造成のため（和歌山）等があげられる。

- ・ 湿地植生は、13件（13.4%）である。都道府県では、9県にみ

られ、栃木県、富山県、石川県、岐阜県（2件）、青森県、福島県、愛知県、滋賀県、福岡県（1件）となる。

都道府県の具体的な事例として、生育場所の陸化（富山）、住宅地開発（岐阜）、地下水層（トンネル掘）が変化し湧水が枯欠した（愛知）、水路工事により湿地が水没した（福岡）等があげられる。

- ・ 海浜植生は、11件（11.3%）である。都道府県では、7県にみられ、広島県（3件）、愛媛県、沖縄県（2件）、島根県、香川県、福岡県、大分県（1件）となる。

都道府県の具体的な事例として、不燃ゴミの埋め立てによる（広島）、ゴルフ練習場が建設された（愛媛）、周辺の開発が進み、砂浜が攪乱された（沖縄）等があげられる。

- ・ 冷温帯夏緑広葉高木林は、8件（8.2%）である。都道府県では、7県にみられ、富山県（2件）、秋田県、群馬県、石川県、愛知県、滋賀県、徳島県（1件）となる。
- ・ 浮葉・沈水植物群落（ヨシクラス、ウキクサクラス、ヒルムシロクラス等からなる）は、7件（7.2%）である。都道府県では、5県にみられ、千葉県、京都府（2件）、宮城県、富山県、和歌山県（1件）となる。
- ・ 暖温帯常緑広葉高木林は、6件（6.2%）である。都道府県では、5県にみられ、埼玉県（2件）、茨城県、東京都、愛知県、福岡県（1件）となる。
- ・ 暖温帯夏緑広葉高木林（ケヤキ群落、コナラ群落等からなる）は、5件（5.2%）である。都道府県では、5県（茨城県、東京都、神奈川県、岐阜県、滋賀県）にみられる。

このように①から④のような変化を受けた特定植物群落は、その相観区分をみると、特に水と関連した植物群落が多いことが目立つ。

#### ⑤ 特定植物群落の面積の増減

変化状況の解析から、面積に著しい変化があった特定植物群落は、159件である。

面積の増減欄への記入は、156件である。このうち、増加は18件、減少は138件である。面積の増加、減少の割合（増減の面積×100%／前回の面積）をみると、100%を超えるものは7件（全部増加）、100%以下が149件（増加：11件、減少：138件）である（表2.1.3-2）。

増加、減少割合が100%以下を示した特定植物群落（149県）をみると、最も件数が多いのは、減少率10%未満（31件、21%）を示した特定植物群落である（図2.1.3-1）。続いて、減少率30～39%が、17件（12%）、減少率10～19%及び20～29%が、各15件（10%）である。減少率50%以上は、48件（32%）である。

表2.2.1-1 変化原因の集計結果

変化原因	件数 (%)
農林業開発	88 ( 2.3)
その他の開発	46 ( 1.2)
その他	40 ( 1.1)
盗採	27 ( 0.7)
人の立入	24 ( 0.6)
道路開発	22 ( 0.5)
植物の侵入	22 ( 0.5)
自然災害	21 ( 0.5)
虫害・菌害	18 ( 0.5)
水辺の開発	16 ( 0.4)
観光開発	8 ( 0.2)
周辺の開発	5 ( 0.1)
動物の侵入	2 ( 0.1)
汚染物質の侵入	1 ( 0.0)
記入なし	3,344 ( 88.7)
複数回答	88 ( 2.3)
合 計	3,772

## 2.2 変化原因の集計結果

変化原因は、その内容が以下の15に分けられている。

1 人の立入	9 植物の侵入
2 盗採	10 虫害・菌害
3 農林業開発	11 動物の侵入
4 道路開発	12 汚染物質の侵入
5 観光開発	13 ゴミの投棄
6 水辺の開発	14 自然災害
7 その他の開発（土地造成等）	15 その他
8 周辺の開発 （上記3～7の開発が群落の周 辺で行われているもの）	（地盤沈下、潮流変化、 採石・採泥、河川 の増水等）

この回答様式は、原則として主要なもの1つを回答するとなっているが、中には複数回答を含んでいる。

### 2.2.1 変化原因の全国集計

ここでは、変化原因の各項目の全国の集計結果（表2.2.1-1）及び変化原因の内容例（表2.2.1-2）を示す。

変化原因を件数の多い順に見ると、農林業開発（88件、2.3%）、その他の開発（46件、1.2%）、その他（40件、1.1%）、盗採（27件、0.7%）、人の立入（24件、0.6%）等があげられる。これらは、変化原因の単一回答に基づくものである。

変化原因の複数回答例は、その事例が少なく88件であり、人の立入、盗採、農林業開発、道路開発、水辺の開発、周辺の開発などの変化原因が各々組合わさっている。

全国的に変化原因をみると、既に述べたように農林業開発が最も多く、続いて、その他の開発となり、各種の開発に伴うインパクトが特定植物群落の変化の主要な原因といえる。

## 2.2.2 変化原因の地方別、都道府県別集計

ここでは、どのような変化原因が、どの地方、県に現れているのかを明らかにするために、地方別、都道府県別に変化原因の集計を行った（表2.2.2-1、2）。

変化原因の件数の多い順にその特徴をみると以下のとおりである。

- ① 「農林業開発」の影響を受けている特定植物群落（109件、重複あり）が最も多い地方は、北海道（地方内全群落構成比 7.7%、変化群落での構成比 56.3%）、東北（4.8%、38.9%）、近畿（2.9%、23.5%）、九州（3.7%、27.1%）である。

県別では、北海道（8.3%、9件）、岩手県、長野県（7.3%、8件）、和歌山県（6.4%、7件）、熊本県、大分県（5.5%、6件）、茨城県、滋賀県（4.6%、5件）等である。

- ② 「その他の開発（土地造成等）」の影響を受けている特定植物群落（61件、重複あり）が最も多い地方は、関東（地方内全群落構成比 3.0%、変化群落での構成比 15.4%）、四国（2.0%、20.8%）、中部（1.9%、12.4%）である。

県別では、岐阜県（14.8%、9件）、東京都（9.8%、6件）、愛知県（8.2%、5件）、広島県（6.6%、4件）、茨城県、埼玉県、愛媛県（4.9%、3件）等である。

- ③ 「人の立入」の影響を受けている特定植物群落（53件、重複あり）が最も多い地方は、沖縄（地方内全群落構成比 2.9%、変化群落での構成比 21.4%）、関東（2.5%、12.8%）、中部（2.1%、13.9%）である。

県別では、愛知県（28.3%、15件）、神奈川県（9.4%、5件）、東京都（7.6%、4件）、群馬県、沖縄県（5.7%、3件）等である。

- ④ 「その他（類型に属さない各種のインパクト）」の影響を受けて

いる特定植物群落（48件、重複あり）が最も多い地方は、沖縄（地方内全群落構成比 2.9%、変化群落での構成比 21.4%）、北海道（2.6%、18.7%）、関東（2.2%、11.1%）である。

県別では、東京都（12.5%、6件）、山梨県（8.3%、4件）、北海道、埼玉県、長野県、静岡県、沖縄県（6.3%、3件）等である。

- ⑤ 「盗採」の影響を受けている特定植物群落（46件、重複あり）が最も多い地方は、九州（地方内全群落構成比 2.4%、変化群落での構成比 17.1%）、関東（1.7%、8.5%）、東北（1.6%、13.0%）である。

県別では、静岡県（8.7%、4件）、群馬県、千葉県、山梨県、滋賀県、長崎県、大分県、宮崎県（6.5%、3件）等である。

- ⑥ 「道路開発」の影響を受けている特定植物群落（45件、重複あり）が最も多い地方は、中国（地方内全群落構成比 2.0%、変化群落での構成比 17.0%）、近畿（1.8%、14.7%）、北海道（1.7%、12.5%）である。

県別では、広島県（11.1%、5件）、長野県、和歌山県（8.9%、4件）、石川県、滋賀県（6.7%、3件）等である。

- ⑦ 「水辺の開発」の影響を受けている特定植物群落（33件、重複あり）が最も多い地方は、九州（地方内全群落構成比 1.6%、変化群落での構成比 11.4%）、関東（1.5%、7.7%）である。

県別では、千葉県、神奈川県（12.1%、4件）、福岡県（9.1%、3件）、岐阜県、京都府、大分県（6.1%、2件）等である。

- ⑧ 「植物の侵入」の影響を受けている特定植物群落（32件、重複あり）が最も多い地方は、四国（地方内全群落構成比 2.0%、変化群落での構成比 20.8%）、中部（1.3%、8.8%）である。

県別では、富山県（12.5%、4件）、愛知県（9.4%、3件）、神奈

川県、静岡県、徳島県、愛媛県（6.3%、2件）等である。

次に、地方別にどのような変化原因が多く現れているのかをみると以下のとおりである。

北海道では、農林業開発（地方内全群落構成比 7.7%、変化群落での構成比 56.3%）の他、その他（2.6%、18.7%）、道路開発（1.7%、12.5%）、自然災害（1.7%、12.5%）が多い。

東北では、農林業開発（地方内全群落構成比 4.8%、変化群落での構成比 38.9%）の他、盗採（1.6%、13.0%）、その他の開発（1.4%、11.1%）が多い。

関東では、その他の開発（地方内全群落構成比 3.0%、変化群落での構成比 15.4%）、農林業開発（2.5%、12.8%）、人の立入（2.5%、12.8%）が多い。

中部では、農林業開発（地方内全群落構成比 2.1%、変化群落での構成比 13.9%）、人の立入（2.1%、13.9%）、その他の開発（1.9%、12.4%）が多い。

近畿では、農林業開発（地方内全群落構成比 2.9%、変化群落での構成比 23.5%）の他、道路開発（1.8%、14.7%）が多い。

中国では、道路開発（地方内全群落構成比 2.0%、変化群落での構成比 17.0%）、虫害・菌害（1.5%、12.8%）が多い。

四国では、その他の開発（地方内全群落構成比 2.0%、変化群落での構成比 20.8%）、植物の侵入（2.0%、20.8%）が多い。

九州では、農林業開発（地方内全群落構成比 3.7%、変化群落での構成比 27.1%）の他、盗採（2.4%、17.1%）が多い。

沖縄では、人の立入（地方内全群落構成比 2.9%、変化群落での構成比 21.4%）、その他（2.9%、21.4%）、農林業開発（1.9%、14.3%）が多い。

このように各地方にみられる変化原因は様々であるが、主なものは前述したように農林業開発、その他の開発といった各種の開発に伴うインパクトがあげられる。

### 2.2.3 変化原因の相観区分別集計

ここでは、どのような変化原因がどんな相観区分に現れているのかを明らかにするために、変化原因と相観区分との集計を行った(表2.2.3-1)。以下に変化原因別の結果を述べる。

① 農林業開発の影響を受けている相観区分は、21区分(重複あり)、109件があげられる。回答件数の多い順に主な相観区分をみると、冷温帯夏緑広葉高木林が最も多く、25件(農林業開発が原因で変化を受けた群落に占める割合 22.9%)、続いて、個体群10件(9.2%)、植生一般、暖温帯常緑広葉高木林、湿地植生各9件(8.3%)、冷温帯植生8件(7.3%)、冷温帯常緑針葉高木林7件(6.4%)等となる。

② その他の開発の影響を受けている相観区分は、16区分(重複あり)、61件があげられる。回答件数の多い順に主な相観区分をみると、暖温帯常緑広葉高木林が多く、10件(その他の開発が原因で変化を受けた群落に占める割合 16.4%)、海浜植生、湿地植生各8件(13.1%)、暖温帯夏緑広葉高木林、個体群各6件(9.8%)等となる。

③ 人の立入の影響を受けている相観区分は、16区分(重複あり)、53件があげられる。回答件数の多い順に主な相観区分をみると、暖温帯常緑広葉高木林が多く、12件(人の立入が原因で変化を受けた群落に占める割合 22.6%)、個体群、海浜植生各9件(17.0%)、河辺植生4件(7.6%)、湿地植生3件(5.7%)等となる。

④ その他の影響を受けている相観区分は、22区分(重複あり)、48件があげられる。回答件数が多い順に主な相観区分をみると、暖温帯常緑広葉高木林11件(22.9%)、海浜植生7件(14.6%)、湿地植生4件(8.3%)、個体群3件(6.3%)等となる。

その他の影響による変化の事例をみると、暖温帯常緑広葉高木

林では、老木の枯死（鹿児島、鳥取）、生徒指導のため下層が刈払われ路傍植物が一部侵入した（大分）、マツクイムシの被害木の除去に伴い樹林の一部が破壊された（山口）、本殿の改築に際して伐採（東京）、防犯のため、高木層を伐採（埼玉）、石材の採石が進んだ（茨城）等があげられる。海浜植生では、上流にダムができ、砂泥の流出が減少した（島根）、大增水により干潟が拡大した（東京）、車、バイクの乗入れ（千葉）等があげられる。

⑤ 盗採の影響を受けている相観区分は、13区分（重複あり）、46件があげられる。回答件数が多い順に主な相観区分をみると、個体群24件（52.2%）、湿地植生5件（10.9%）、亜寒帯植生2件（4.4%）等となる。

⑥ 道路開発の影響を受けている相観区分は、18区分（重複あり）、45件があげられる。回答件数が多い順に主な相観区分をみると、個体群6件（13.3%）、暖温帯常緑広葉高木林、冷温帯夏緑広葉高木林各5件（11.1%）、暖温帯植生、湿地植生、海浜植生各4件（8.9%）等となる。

⑦ 水辺の開発の影響を受けている相観区分は、13区分（重複あり）、33件があげられる。回答件数が多い順に主な相観区分をみると、海浜植生9件（27.3%）、個体群5件（15.2%）、浮葉・沈水植物群落、河辺植生各3件（9.1%）等となる。

⑧ 植物の侵入の影響を受けている相観区分は、16区分（重複あり）、32件があげられる。回答件数が多い順に主な相観区分をみると、個体群8件（25.0%）、湿地植生7件（21.9%）、暖温帯常緑広葉高木林3件（9.4%）、海浜植生2件（6.3%）等となる。

このように上記の変化を受けた特定植物群落の割合が高い相観区分をみると、主なものは、河辺植生（56.9%）、暖温帯ササ原、

亜熱帯単子葉草本草原（50.0%）、暖温帯広葉草原（42.9%）、暖温帯単子葉草本草原（37.4%）、海浜植生（34.2%）、冷温帯単子葉草本草原（33.3%）、浮葉・沈水植物群落（32.3%）、湿地植生（22.0%）等である。

## 2.3 変化状況と変化原因の集計結果

ここでは、第1に、変化状況と変化原因との関連集計を行い、変化原因別に変化状況の傾向を検討した。

第2に、変化を受けている件数の比較的多い相観区分の中から、8つ（暖温帯常緑広葉高木林、暖温帯常緑針葉高木林、暖温帯植生、冷温帯夏緑広葉高木林、冷温帯常緑針葉高木林、湿地植生、海浜植生、個体群）を取り出し、変化状況と変化原因との集計を行い、これらの関連を検討した。

第3に、各気候帯を代表すると考えられる植物群落を次のとおり14群落選定し、その群落を含む特定植物群落について変化状況と変化原因との集計を行い、これらの関連を検討した。なお、選定に当たっては、出現件数の多さと変化を受ける可能性を考慮した。

気候帯植生	群 落
寒帯・高山帯自然植生（3）	高山ハイデ及び風衝草原、雪田草原
亜寒帯・亜高山帯自然植生（13）	シラビソートウヒ群落
ブナクラス域自然植生（25）	チシマザサープナ群団、スズタケープナ群団
ヤブツバキクラス域自然植生（35）	サカキウラジログシ群集、サカキコジイ群集、スタジイ群落、タブ群落、ウバメガシ群落
河辺・湿原・塩沼地、砂丘植生（20）	ツルコケモモミズゴケクラス（高層湿原）、ヌマガヤオーダー（中間湿原）、ヨシクラス（低層湿原）、砂丘植生

（ ）内は含まれる群落の種類数である

### 2.3.1 変化状況と変化原因の解析

変化状況及び変化原因は、共に複数回答となっている。これらの集計結果は、表2.3.1-1に示した。

変化原因の件数の多い順に、どのような変化状況が生じているのかをみると、以下のとおりである。

表2.3.1-1 変化状況と変化原因の集計

変化原因	記入 なし	変化 なし	面積 変化	群落構成 変化	個体数 変化	消滅	合計
記入なし	28.	3287.	21.	8.	8.	3.	3555.
	0.83	97.97	0.63	0.24	0.24	0.09	
	93.33	98.47	8.47	5.00	9.88	2.44	84.30
人の立入	0.	20.	10.	16.	7.	4.	57.
	0.00	35.09	17.54	28.07	12.28	7.02	
	0.00	0.60	4.03	10.00	8.64	3.25	1.43
盗採	0.	5.	7.	10.	23.	13.	58.
	0.00	8.62	12.07	17.24	39.66	22.41	
	0.00	0.15	2.82	6.25	28.40	10.57	1.46
農林業 開発	1.	4.	76.	14.	10.	17.	122.
	0.82	3.28	62.30	11.48	8.20	13.93	
	3.33	0.12	30.65	8.75	12.35	13.82	3.07
道路開発	1.	1.	31.	10.	4.	11.	58.
	1.72	1.72	53.45	17.24	6.90	18.97	
	3.33	0.03	12.50	6.25	4.94	8.94	1.46
観光開発	0.	3.	9.	6.	2.	3.	23.
	0.00	13.04	39.13	26.09	8.70	13.04	
	0.00	0.09	3.63	3.75	2.47	2.44	0.58
水辺の 開発	0.	1.	10.	6.	5.	12.	34.
	0.00	2.94	29.41	17.65	14.71	35.29	
	0.00	0.03	4.03	3.75	6.17	9.76	0.85
その他の 開発	0.	3.	29.	6.	2.	28.	68.
	0.00	4.41	42.65	8.82	2.94	41.18	
	0.00	0.09	11.69	3.75	2.47	22.76	1.71
周辺の 開発	0.	2.	7.	8.	3.	7.	27.
	0.00	7.41	25.93	29.63	11.11	25.93	
	0.00	0.06	2.82	5.00	3.70	5.69	0.68
植物の 侵入	0.	3.	5.	19.	6.	6.	39.
	0.00	7.69	12.82	48.72	15.38	15.38	
	0.00	0.09	2.02	11.88	7.41	4.88	0.98
虫害・ 菌害	0.	2.	6.	21.	0.	1.	30.
	0.00	6.67	20.00	70.00	0.00	3.33	
	0.00	0.06	2.42	13.12	0.00	0.81	0.75
動物の 侵入	0.	1.	0.	2.	0.	0.	3.
	0.00	33.33	0.00	66.67	0.00	0.00	
	0.00	0.03	0.00	1.25	0.00	0.00	0.08
汚染物質 の侵入	0.	0.	2.	3.	2.	3.	10.
	0.00	0.00	20.00	30.00	20.00	30.00	
	0.00	0.00	0.81	1.88	2.47	2.44	0.25
ゴミの 投棄	0.	3.	4.	3.	2.	1.	13.
	0.00	23.08	30.77	23.08	15.38	7.69	
	0.00	0.09	1.61	1.88	2.47	0.81	0.33
自然災害	0.	2.	9.	11.	3.	8.	33.
	0.00	6.06	27.27	33.33	9.09	24.24	
	0.00	0.06	3.63	6.88	3.70	6.50	0.83
その他	0.	1.	22.	17.	4.	6.	50.
	0.00	2.00	44.00	34.00	8.00	12.00	
	0.00	0.03	8.87	10.63	4.94	4.88	1.26
合計	30.	3338.	248.	160.	81.	123.	3980.
	0.75	83.87	6.23	4.02	2.04	3.09	

上段：件数

中段：横の合計に対する割合（％）

下段：縦の合計に対する割合（％）

① 農林業開発（112件）

これによる変化状況は、面積に著しい変化あり（76件）、群落又は個体群の消滅（17件）、群落構成に著しい変化あり（14件）、個体数に著しい変化あり（10件）となる。

このように農林業開発は、主として特定植物群落の面積に著しい変化を与えている。

② その他の開発（68件）

これによる変化状況は、面積に著しい変化あり（29件）、群落又は個体群の消滅（28件）、群落構成に著しい変化あり（6件）、個体数に著しい変化あり（2件）となる。

このようにその他の開発は、主として特定植物群落の面積の著しい変化及び消滅の原因となっている。

③ 盗採（58件）

これによる変化状況は、個体数に著しい変化あり（23件）、群落又は個体群の消滅（13件）、群落構成に著しい変化あり（10件）、面積に著しい変化あり（7件）となる。

このように盗採は、主として特定植物群落の個体数の変化及び消滅の原因となっている。

④ 道路開発（58件）

これによる変化状況は、面積に著しい変化あり（31件）、群落又は個体群の消滅（11件）、群落構成に著しい変化あり（10件）、個体数に著しい変化あり（4件）となる。

このように道路開発は、主として特定植物群落の面積に著しい変化を与えている。

⑤ 人の立入（57件）

これによる変化状況は、群落構成に著しい変化あり（16件）、

面積に著しい変化あり（10件）、個体数に著しい変化あり（7件）、群落又は個体群の消滅（4件）となる。

このように人の立入は、主として特定植物群落の群落構成及び面積に著しい変化を与えている。

⑥ その他（50件）

これによる変化状況は、面積に著しい変化あり（22件）、群落構成に著しい変化あり（17件）、群落又は個体群の消滅（6件）、個体数に著しい変化あり（4件）となる。

このようにその他（変化原因1～14以外）は、主として特定植物群落の面積及び群落構成に著しい変化を与えている。

⑦ 植物の侵入（39件）、虫害・菌害（30件）、自然災害（33件）、周辺の開発（27件）は、主として特定植物群落の群落構成に著しい変化を与えている。

⑧ 水辺の開発（34件）は、主として特定植物群落の消滅の原因となっている。

⑨ 観光開発（23件）は、主として特定植物群落の面積に著しい変化を与えている。

### 2.3.2 相観区別にみた変化状況と変化原因の解析

比較的变化を受けている件数の多い相観区分8個を取り出し、変化状況と変化原因との集計を行い、これらの関連を検討した。

① 暖温帯常緑広葉高木林（947件）

シイ林、カシ林、タブ林等のいわゆる照葉樹林の主体をなすこの相観区分では、66件（7.0%）に変化がみられる（表2.3.2-1）。

変化原因をみると、人の立入が最も多く13件、続いて、その他11件、その他の開発11件、農林業開発10件、虫害・菌害8件の順となる。

人の立入による変化状況は、変化なし（変化原因となるインパクトはあるが著しい変化なし）が最も多く9件、続いて、群落構成に著しい変化あり2件となる。

その他による変化状況は、群落構成に著しい変化ありが最も多く7件を占める。

その他の開発による変化状況は、面積に著しい変化がありが最も多く6件を占める。

虫害・菌害による変化状況をみると、群落構成に著しい変化ありが最も多く6件を占める。

このようにこの相観では、人の立入、その他、その他の開発等により、面積及び群落構成に影響が生じている。

この相観区分は、比較的都市地域に近いところにも分布しており、各種の開発の影響を受けやすく、特に首都圏や近畿圏などの大都市圏では、宅地開発によりスダジイ林が消滅（茨城県）したり、霊園建設によりコジイ林が消滅（愛知県）したほか、宅地造成や道路建設などにより面積や群落構成に著しい変化（埼玉県、東京都、神奈川県、滋賀県など）を生じている例が多い。

また、西日本ではマツクイムシによる被害木の伐採の影響による群落構成や面積の変化（鳥取県、山口県、愛媛県など）の例が多い。

このほか、スダジイ林やツクパネガシ林が植林のための伐採により消滅（埼玉県）したり、アラカシ林（岐阜県）、コジイ林（大分県）、イスノキ林（宮崎県）がそれぞれ森林施業のために伐採され、面積に著しい変化を生じている例がある。

さらに、火山噴火による消滅（東京都）や大雪による被害（石川県）など自然災害の例もある。

## ② 個体群（457件）

この相観区分では、96件（21.0%）に変化がみられる（表2.3.2-2）。

変化原因をみると、盗採が最も多く29件、続いて、農林業開発11件、人の立ち入り、植物の侵入各9件の順となる。

盗採による変化状況は、個体数に著しい変化ありが最も多く17件、群落又は個体群の消滅が7件と続く。

農林業開発による変化状況は、個体数に著しい変化ありが最も多く5件、群落または個体群の消滅が3件となる。

このようにこの相観では、盗採及び農林業開発により、個体群の個体数変化及び消滅という影響が生じている。

これらの例として、盗採によりスギ林からクマガイソウがほとんど姿を消す（千葉県）、園芸業者によるホテイアツモリ等の盗採（山梨県、長野県）、山草収集マニア、山草販売業者によるイワザクラの盗採（宮崎県）などがあるほか、観光開発により、一部地形の変貌がありフクロダガヤ生育地が消滅（茨城県）という例もある。

## ③ 冷温帯夏緑広葉高木林（438件）

ブナ林、ミズナラ林などが主体をなすこの相観区分では、50件（11.4%）に変化がみられる（表2.3.2-3）。

変化原因をみると、農林業開発が最も多く27件、続いて、道路開発5件の順となる。

農林業開発による変化状況は、面積に著しい変化ありが最も多く22件を占めており、森林施業に伴う伐採等の影響を受けていると考えられる。

東北から九州まで各地で森林施業や林道建設によりブナ林が伐採されている例がみられ、スギ植林のために皆伐され消滅（滋賀県、徳島県）したものもある。

特定植物群落から削除された面積（消滅を含む）の大きい群落

は、熊本県（1,200ha）、長野県（2,500ha）、岩手県（700ha）、徳島県（400ha）、兵庫県（155ha）、秋田県（150ha）などにみられる。

また、ダム建設により水没するため伐採され消滅（石川県）したり、スキー場建設のため一部が伐採（宮城県）などの例もある。

ブナ林の他ハルニレ林がダム建設による水没のため伐採され消滅（秋田県）、草地造成によりシラカバ林が消滅（福島県）、ハルニレ林やサワグルミ林が土取場やスギ植林のために消滅（共に富山県）した例もある。

#### ④ 湿地植生（272件）

ミズゴケの発達した高層湿原やヨシなどの低層湿原などのこの相観区分では、70件（25.7%）に変化がみられる（表2.3.2-4）。

変化原因をみると、植物の侵入が最も多く11件、続いて、農林業開発10件、道路開発9件、その他の開発7件の順となる。

植物の侵入による変化状況は、群落構成に著しい変化ありと群落または個体群の消滅が各4件を占める。

農林業開発による変化状況は、面積に著しい変化ありが最も多く5件、続いて、群落または個体群の消滅3件となる。

このようにこの相観では、各種の人為的攪乱により、湿地植生の群落構成、面積の変化、群落または個体群の消滅という影響が生じている。

これらの例として、低層湿原（原野植生）が農地造成で面積減（北海道など）のほか、農地造成や草地造成によってツルコケモモ群落などが消滅（青森県、岩手県、福島県）したり、保養地の造成（岐阜県）やトンネル工事（愛知県）でも消滅したものがあ

る。

このほか、湿原を横断する道路建設により群落構成が著しく変化（佐賀県）したり、マニアの盗採によるサクラソウ群落の個体数の減少（宮崎県）など、各地で様々な原因による影響を受けている。

⑤ 暖温帯常緑針葉高木林（198件）

マツ林やスギ林などのこの相観区分では、38件（19.2%）に変化がみられる（表2.3.2-5）。

変化原因をみると、虫害・菌害が最も多く11件、続いて、汚染物質の侵入が6件、農林業開発5件の順となる。

虫害・菌害による変化状況は、群落構成に著しい変化ありが6件、面積に著しい変化ありが4件となる。

汚染物質の侵入による変化状況は、群落構成に著しい変化あり、面積に著しい変化あり、群落または個体群の消滅が各2件となる。

農林業開発による変化状況は、全てが面積に著しい変化あり（5件）に含まれる。

このようにこの相観では、虫害・菌害、汚染物質の侵入、農林業開発により、主に特定植物群落の群落構成及び面積に著しい変化が生じている。

これらの例として、マツ林では、いわゆるマツクイムシ被害による被害木の伐採とこれに伴う林内環境の変化による群落構成の変化や面積減少（茨城県、京都府、広島県、福岡県）のほか、土地造成による消滅（埼玉県）、ヒメコマツ稚樹及びヒカゲツツジの盗採（千葉県）、林道建設や森林施業による面積減少（福岡県など）等がある。

⑥ 暖温帯植生（180件）

この相観区分では、27件（15.0%）に変化がみられる（表2.3.2-6）。

変化原因をみると、農林業開発と道路開発が最も多く各7件、続いて、その他の開発、汚染物質の侵入が各3件の順となる。

農林業開発による変化状況は、面積及び群落構成に著しい変化ありが各3件となる。

道路開発による変化状況は、面積に著しい変化あり4件、群落または個体群の消滅3件となる。

このようにこの相観では、各種の開発により、主に特定植物群落の面積、群落構成の変化、群落または個体群の消滅が生じている。

これらの例として、ナシ畑への転換や宅地造成（千葉県）、石灰岩の採掘によって自生地が失われた（静岡県）、植林が進められているため自然林が減少（滋賀県）、道路幅の拡張等による消滅（広島県）等があるほか、アカマツの枯死後コナラ、クリ、シラカシ等が成長し、群落の変化がみられる（茨城県）という例もある。

#### ⑦ 海浜植生（155件）

砂浜などの海岸に生育する海浜植生では、58件（37.4%）に変化がみられる（表2.3.2-7）。

変化原因をみると、その他の開発が最も多く11件、続いて、人の立入、水辺の開発が各10件、その他6件の順となる。

その他の開発による変化状況は、群落又は個体群の消滅と面積に著しい変化ありが各5件となる。

人の立入による変化状況は、群落構成に著しい変化ありが5件となる。

このようにこの相観では、これらの変化原因により、主に特定植物群落の面積、群落構成の変化、消滅などの影響が生じている。

これらの例として、海浜の埋立や護岸工事（千葉県、神奈川県、新潟県、広島県など）のほか、海水浴などの過剰な利用（秋田県、東京都、徳島県）、オートバイなどの乗入れ（神奈川県）によるものもある。

#### ⑧ 冷温帯常緑針葉高木林（144件）

ウラジロモミ林、ツガ林、ヒメコマツ林等が含まれるこの相観区分では、25件（17.4%）に変化がみられる（表2.3.2-8）。

変化原因をみると、農林業開発が最も多く10件、続いて、人の

立入、道路開発が各4件の順となる。

農林業開発による変化状況は、面積に著しい変化ありが4件、群落構成に著しい変化あり、個体数に著しい変化あり、群落及び個体群の消滅が各2件となる。

人の立ち入り、道路開発による変化状況は、群落構成に著しい変化ありが各2件となる。

このようにこの相観では、これらの変化原因により、主に特定植物群落の面積、群落構成に著しい変化が生じている。

変化の例として、林道の開発に伴うモミ林の伐採（宮城県）、林業開発に伴う索道設置のため一部を伐採（群馬県）、伐採による消滅（三重県）、マツクイムシによるアカマツの枯死（鳥取県）等があるほか、地盤沈下による立枯もしくは土壌の乾燥化によるアカエゾマツ林へのトドマツの侵入（北海道）という例もある。

### 2.3.3 群落コード別にみた変化状況と変化原因の解析

各気候帯を代表すると考えられる植物群落を14群落取り出し、その群落を含む特定植物群落について変化状況と変化原因との集計を行い、これらの関連を検討した。

#### ① 高山ハイデ及び風衝草原（104件）

コメバツガザクラミネズオウ群集やコマクサーイワツメクサクラス等を含むこの特定植物群落では、6件（5.8%）に変化がみられる（表2.3.3-1）。

変化原因をみると、自然災害が3件、盗採、観光開発が各2件、人の立入、ゴミの投棄が各1件となる。

自然災害による変化状況は、群落構成に著しい変化ありが2件、面積に著しい変化ありが1件となる。

盗採による変化状況は、群落構成及び個体数に著しい変化ありが各1件となる。

### 特定植物群落変化状況図

・ブナ林

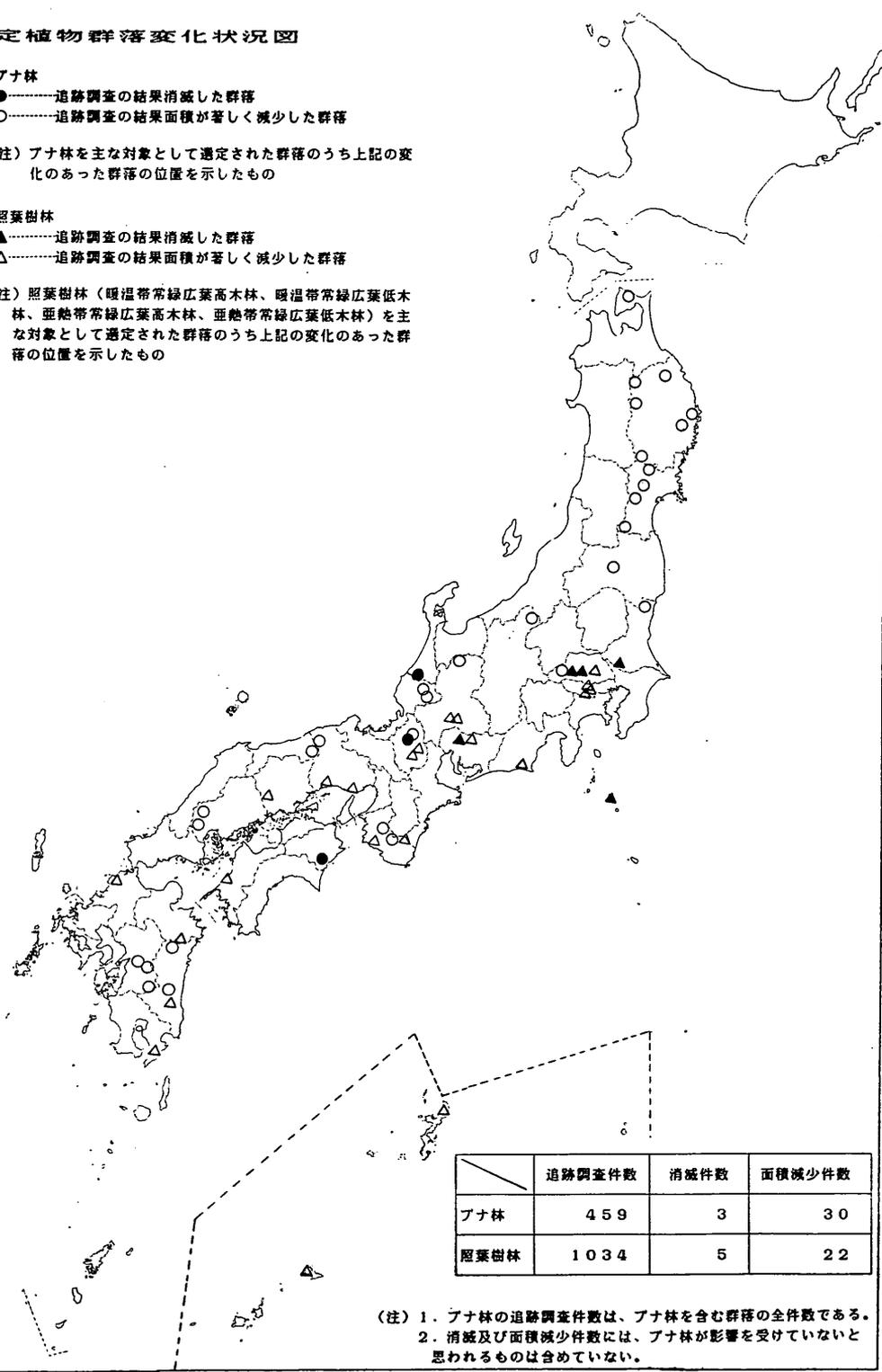
- 追跡調査の結果消滅した群落
- 追跡調査の結果面積が著しく減少した群落

(注) ブナ林を主な対象として選定された群落のうち上記の変化のあった群落の位置を示したもの

・照葉樹林

- ▲----- 追跡調査の結果消滅した群落
- △----- 追跡調査の結果面積が著しく減少した群落

(注) 照葉樹林(暖温帯常緑広葉高木林、暖温帯常緑広葉低木林、亜熱帯常緑広葉高木林、亜熱帯常緑広葉低木林)を主な対象として選定された群落のうち上記の変化のあった群落の位置を示したもの



(注) 1. ブナ林の追跡調査件数は、ブナ林を含む群落の全件数である。  
 2. 消滅及び面積減少件数には、ブナ林が影響を受けていないと思われるものは合せていない。

図2.3.3-1 特定植物群落変化状況図

② 雪田草原（69件）

タカネヤハズハハコーアオノツガザクラ群集やタカネヒゴタイ  
ーミヤマキンバイ群集などを含むこの特定植物群落では、5件  
（7.3%）に変化がみられる（表2.3.3-2）。

変化原因をみると、自然災害が3件、人の立入、盗採、観光開  
発、ゴミの投棄が各1件となる。

自然災害による変化状況は、群落構成に著しい変化ありが2件、  
面積に著しい変化ありが1件となる。

③ シラビソートウヒ群団（91件）

この特定植物群落では、5件（5.5%）に変化がみられる（表2.  
3.3-3）。

変化原因をみると、自然災害が3件、盗採、観光開発が各1件  
となる。

自然災害による変化状況は、群落構成に著しい変化ありが2件、  
面積に著しい変化ありが1件となる。

④ チシマザサーブナ群団（269件）

この特定植物群落では、31件（11.5%）に変化がみられる（表2.  
3.3-4、図2.3.3-1）。

変化原因をみると、農林業開発が最も多く19件、盗採3件、道  
路開発、観光開発が各2件、人の立入、その他の開発が各1件と  
なる。

農林業開発による変化状況は、面積に著しい変化ありが最も多  
く17件、群落構成に著しい変化ありが2件となる。

⑤ スズタケープナ群団（221件）

この特定植物群落では、26件（11.7%）に変化がみられる（表2.  
3.3-5、図2.3.3-1）。

変化原因をみると、農林業開発が最も多く17件、道路開発3件、

動物の侵入、その他が各2件、人の立入、観光開発、その他の開発、自然災害が各1件となる。

農林業開発による変化状況は、面積に著しい変化ありが最も多く14件、群落又は個体群の消滅が2件、個体数に著しい変化ありが1件となる。

⑥ サカキ－ウラジログシ群集（218件）

この特定植物群落では、26件（11.9%）に変化がみられる（表2.3.3-6）。

変化原因をみると、農林業開発が最も多く11件、その他5件、自然災害4件、道路開発3件、虫害・菌害2件、人の立入、その他の開発、動物の侵入が各1件となる。

農林業開発による変化状況は、面積に著しい変化ありが5件、群落又は個体群の消滅が3件、群落構成に著しい変化ありが2件、面積、群落構成とも著しい変化なしが1件となる。

⑦ サカキ－コジイ群集（156件）

この特定植物群落では、6件（3.9%）に変化がみられる（表2.3.3-7）。

変化原因を見ると、人の立入が4件、農林業開発3件、その他の開発2件、周辺の開発、虫害・菌害、ゴミの投棄、その他が各1件となる。

人の立入による変化状況は、全てが面積、群落構成とも著しい変化なしである。

農林業開発による変化状況は、面積に著しい変化ありが2件となる。

⑧ スダジイ群落（355件）

この特定植物群落では、20件（5.6%）に変化がみられる（表2.3.3-8）。

変化原因をみると、農林業開発、自然災害が各 4 件、人の立入、虫害・菌害、その他が各 3 件、観光開発、その他の開発が各 2 件、道路開発、水辺の開発、周辺の開発が各 1 件となる。

農林業開発による変化状況は、面積、群落構成、個体数に著しい変化あり、面積、群落構成とも著しい変化なしが各 1 件となる。

自然災害による変化状況は、群落構成に著しい変化ありが 3 件、群落又は個体群の消滅が 1 件となる。

#### ⑨ タブ群落 (162件)

この特定植物群落では、9 件 (5.6%) に変化がみられる (表 2.3.3 - 9)。

変化原因をみると、道路開発が 3 件、人の立入、周辺の開発、自然災害が各 2 件、ゴミの投棄が 1 件となる。

道路開発による変化状況は、面積に著しい変化ありが 2 件、個体数に著しい変化ありが 1 件となる。

#### ⑩ ウバメガシ群落 (167件)

この特定植物群落では、18 件 (10.8%) に変化がみられる (表 2.3.3 - 10)。

変化原因をみると、人の立入、盗採が各 4 件、虫害・菌害が 3 件、その他の開発、植物の侵入、ゴミの投棄が各 2 件、道路開発、周辺の開発、動物の侵入が各 1 件となる。

人の立入による変化状況は、面積、群落構成とも著しい変化なしが 2 件、面積、群落構成に著しい変化ありが各 1 件となる。

盗採による変化状況は、群落構成に著しい変化ありと個体数に著しい変化ありが各 2 件となる。

#### ⑪ ツルコケモモ - ミズゴケクラス (63件)

高層湿原とよばれるこの特定植物群落では、7 件 (11.1%) に変化がみられる (表 2.3.3 - 11)。

変化原因をみると、農林業開発が3件、自然災害、その他が各2件、観光開発が1件となる。

農林業開発による変化状況は、群落又は個体群の消滅が2件、面積に著しい変化ありが1件となる。

自然災害による変化状況は、全てが群落構成に著しい変化ありとなる。

#### ⑫ ヌマガヤオーダー（172件）

中間湿原とよばれるこの特定植物群落では、41件（23.8%）に変化がみられる（表2.3.3-12）。

変化原因をみると、道路開発、その他の開発が各7件、観光開発、植物の侵入が各6件、農林業開発、その他が各4件、人の立入、盗採、周辺の開発が各3件、汚染物質の侵入が1件となる。

道路開発による変化状況は、面積、個体数に著しい変化あり、群落又は個体群の消滅が各2件、群落構成に著しい変化ありが1件となる。

その他の開発による変化状況をみると、群落又は個体群の消滅が5件、面積、群落構成に著しい変化ありが各1件となる。

#### ⑬ ヨシクラス（218件）

低層湿原とよばれるこの特定植物群落では、72件（33.0%）に変化がみられる（表2.3.3-13）。

変化原因をみると、農林業開発が14件、植物の侵入が9件となる。

農林業開発による変化状況は、面積に著しい変化ありが最も多く9件、個体数に著しい変化あり、群落又は個体群の消滅が各2件、群落構成に著しい変化ありが1件となる。

植物の侵入による変化状況は、群落又は個体群の消滅、群落構成に著しい変化ありが各4件、個体数に著しい変化ありが1件となる。

⑭ 砂丘植生（112件）

ハマグルマ-コウボウムギ群落、ハマナス群落、グンバイヒルガオ-クロイワザサ群落等を含むこの特定植物群落では、37件（33.0%）に変化がみられる（表2.3.3-14）。

変化原因をみると、主なものは水辺の開発が8件、人の立入が6件、その他の開発が5件となる。

水辺の開発による変化状況は、面積に著しい変化ありが3件、群落構成、個体数に著しい変化ありが各2件、群落又は個体群の消滅が1件となる。

人の立入による変化状況は、群落構成に著しい変化ありが3件、面積に著しい変化ありが2件、群落又は個体群の消滅が1件となる。

その他の開発による変化状況は、面積に著しい変化ありが3件、群落構成に著しい変化あり、群落又は個体群の消滅が各1件となる。

## 2.4 人為圧と変化状況・変化原因の集計結果

ここでは、変化状況の大きな特定植物群落は、どの程度の人為圧が加わっている地域に存在しているのかを明らかにするために、第1に、人為圧と変化状況の関係、第2に、人為圧と変化原因の関係、第3に、相観区分別に人為圧と変化状況の関係を調べた。

### 2.4.1 人為圧と変化状況の解析

ここでは様々な人為圧の加わっている地域の特定植物群落が、どのような変化状況を示しているのかを検討した。

人為圧の加わっている地域の分類は、土地利用形態と人口密度による3分類を用いた（日本野生生物研究センター 昭和62年3月）。

森林主体地域：森林型土地利用率が70%以上で、かつ人口密度が2次メッシュ（約10km×10km）当たり5千人未満の国土

農地主体地域：森林型土地利用率が70%以上で、かつ人口密度が2次メッシュ当たり5千人以上3万人未満の国土と森林型土地利用率が70%以下で、かつ人口密度が2次メッシュ当たり3万人未満の国土

都市主体地域：人口密度が2次メッシュ当たり3万人以上の国土  
特定植物群落が分布する地域の人為圧分類と変化状況との集計結果は、表2.4.1-1に示した。

- ① 変化のあった群落（総件数 599）は、森林主体地域には243件（変化のあった全群落の40.6%）、農地主体地域には198件（33.0%）、都市主体地域には158件（26.4%）が含まれるが、地域毎の変化群落の割合は、森林主体地域11%、農地主体地域13%、都市主体地域19%となり、都市地域で変化を受けた割合が高い。
- ② 変化状況は、森林主体地域では面積に著しい変化あり（150件、地域内の変化状況構成比61.7%）が多く、農地主体地域でも同様

表2.4.1-1 特定植物群落の変化状況と地域類型

変化状況	森林主体地域	農地主体地域	森林主体地域
面積、群落構成とも著しい変化なし	1,962 (89.0)	1,338 (87.1)	716 (81.9)
面積に著しい変化あり	150 ( 6.8) (61.7)	87 ( 5.7) (43.9)	67 ( 7.7) (42.4)
群落構成に著しい変化あり	45 ( 2.0) (18.5)	46 ( 3.0) (23.2)	50 ( 5.7) (31.7)
個体数に著しい変化あり	26 ( 1.2) (10.7)	31 ( 2.0) (15.7)	10 ( 1.1) ( 6.3)
群落又は個体群の消滅	22 ( 1.0) ( 9.1)	34 ( 2.2) (17.2)	31 ( 3.6) (19.6)
合計	2,205	1,536	874

注) ( ) 内 上段は、各地域類型全体に対する割合 (%)  
下段は、変化状況の中での構成比 (%)

(87件、43.9%)となっているが、都市主体地域では面積変化(67件、42.4%)のほか、群落構成に著しい変化のあるもの(50件、31.6%)も比較的多い。

(注) 日本野生生物研究センター(1987): 森林情報の整備に関する調査(I)

#### 2.4.2 人為圧と変化原因の解析

ここでは様々な人為圧が加わっている地域の特定植物群落には、どのような変化原因が存在するのかを検討した。特定植物群落が分布する地域の人為圧分類と変化原因との集計結果は、表2.4.2-1に示した。

##### ① 森林主体地域における変化原因

森林主体地域では、変化原因への記入があった件数は253件、記入なしは1,973件となる。主な変化原因は、農林業開発112件(変化原因への記入があった件数の44.3%)、自然災害25件(9.9%)、道路開発23件(9.1%)、盗採18件(7.1%)、人の立入14件(5.5%)、観光開発13件(5.1%)等である。

このように森林主体地域においては、農林業開発が主要な変化原因となり、特定植物群落の面積に著しい変化をもたらしていると考えられる。

##### ② 農地主体地域における変化原因

農地主体地域では、変化原因への記入があった件数は212件、記入なしは1,341件となる。主な変化原因は、農林業開発54件(変化原因への記入があった件数の25.5%)、人の立入、盗採が各19件(9.0%)、水辺の開発、その他の開発、虫害・菌害が各16件(7.6%)、道路開発、その他が各15件(7.1%)等である。

このように農地主体地域においては、農林業開発が多く変化原因の約26%を占め、特定植物群落の面積に著しい変化をもたらす

表2.4.2-1 特定植物群落の変化原因と地域類型

変化原因	不明	森林主体 地域	農地主体 地域	都市主体 地域	合計
記入なし	1.	1973.	1341.	705.	4020.
	0.02	49.08	33.36	17.54	
	100.00	88.63	86.35	76.55	85.51
人の立入	0.	14.	19.	29.	62.
	0.00	22.38	30.65	46.77	
	0.00	0.63	1.22	3.15	1.32
盗採	0.	18.	19.	7.	44.
	0.00	40.91	43.18	15.91	
	0.00	0.81	1.22	0.76	0.94
農林業 開発	0.	112.	54.	16.	182.
	0.00	61.54	29.67	8.79	
	0.00	5.03	3.48	1.74	3.87
道路開発	0.	23.	15.	16.	54.
	0.00	42.59	27.78	29.63	
	0.00	1.03	0.97	1.74	1.15
観光開発	0.	13.	8.	8.	29.
	0.00	44.83	27.59	27.59	
	0.00	0.58	0.52	0.87	0.62
水辺の 開発	0.	7.	16.	22.	45.
	0.00	15.56	35.56	48.89	
	0.00	0.31	1.03	2.39	0.96
その他の 開発	0.	12.	16.	39.	67.
	0.00	17.91	23.88	58.21	
	0.00	0.54	1.03	4.23	1.43
周辺の 開発	0.	3.	9.	9.	21.
	0.00	14.29	42.86	42.86	
	0.00	0.13	0.58	0.98	0.45
植物の 侵入	0.	5.	10.	22.	37.
	0.00	13.51	27.03	59.46	
	0.00	0.22	0.64	2.39	0.79
虫害・ 菌害	0.	4.	16.	7.	27.
	0.00	14.81	59.26	25.93	
	0.00	0.18	1.03	0.76	0.57
動物の 侵入	0.	4.	0.	0.	4.
	0.00	00.00	0.00	0.00	
	0.00	0.18	0.00	0.00	0.09
汚染物質 の侵入	0.	1.	4.	3.	8.
	0.00	12.50	50.00	37.50	
	0.00	0.04	0.26	0.33	0.17
ゴミの 投棄	0.	4.	4.	6.	14.
	0.00	28.57	28.57	42.86	
	0.00	0.18	0.26	0.55	0.30
自然災害	0.	25.	7.	8.	40.
	0.00	62.50	17.50	20.00	
	0.00	1.12	0.45	0.87	0.85
その他	0.	8.	15.	24.	47.
	0.00	17.02	31.91	51.06	
	0.00	0.36	0.97	2.61	1.00
合計	1.	2226.	1553.	921.	4701.
	0.02	47.35	33.04	19.59	

上段：件数

中段：積の合計に対する割合（％）

下段：縦の合計に対する割合（％）

ていると考えられる。

### ③ 都市主体地域における変化原因

都市主体地域では、変化原因への記入があった件数は 216件、記入なしは 705件となる。主な変化原因は、その他の開発39件（変化原因への記入があった件数の18.1%）、人の立入29件（13.4%）、その他24件（11.1%）、水辺の開発、植物の侵入が各22件（10.2%）、農林業開発、道路開発が各16件（7.4%）等である。

このように都市主体地域においては、上記の2つの地域と異なり、その他の開発、人の立入、その他、水辺の開発、植物の侵入などが主な変化原因となり、特定植物群落の面積、群落構成に著しい変化を与えたり、群落又は個体群の消滅をもたらしていると考えられる。

## 2.4.3 相観区別にみた人為圧と変化状況の解析

ここでは比較的变化を受けている件数の多い相観区分8個（2.3.2で取りあげた）を取り出し、人為圧と変化状況との関連を検討した。

### ① 暖温帯常緑広葉高木林（1,012件）

この相観区分では、56件に変化がみられ、これらは都市主体地域に30件（53.6%）、農地主体地域に14件（25.0%）、森林主体地域に12件（21.4%）となる（表2.4.3-1）。

地域毎に主な変化状況をみると、森林主体地域では、面積に著しい変化があったものが約3.2%（7件）、農地主体地域では、群落構成に著しい変化があったものが約1.6%（7件）、都市主体地域では、面積に著しい変化があったものが約3.9%（14件）を占める。都市主体地域では、他の地域と比べて群落又は個体群が消滅したものを多く含んでいる。

このように森林、農地、都市主体地域に分布する暖温帯常緑広

葉高木林は、面積に変化を受けている割合がともに高く、また、都市主体地域では、他の地域と比べて面積、群落構成、群落又は個体群の消滅などの変化を受けている割合が高い。

## ② 冷温帯夏緑広葉高木林（525件）

この相観区分では、61件に変化がみられ、これらは森林主体地域に47件（77.1%）、農地主体地域に14件（22.9%）となる（表2.4.3-2）。

地域毎に主な変化状況をみると、森林主体地域では、面積に著しい変化があったものが約9.8%（36件）、農地主体地域では、同じく面積に著しい変化があったものが約6.2%（8件）を占める。都市主体地域では、全ての群落が変化なしである。

このように森林主体地域に分布する冷温帯夏緑広葉高木林は、面積に変化、群落又は個体群が消滅を受けている割合が高く、農地主体地域では、群落構成に変化を受けている割合が高い。

## ③ 個体群（399件）

この相観区分では、61件に変化がみられ、これらは森林主体地域に22件（36.1%）、農地主体地域に26件（42.6%）、都市主体地域に13件（21.3%）となる（表2.4.3-3）。

地域毎に主な変化状況をみると、森林、農地、都市主体地域ともに個体数に著しい変化があったものが、各々5.6%（10件）、8.6%（14件）、8.5%（5件）を占める。続いて、森林、農地主体地域では、面積に著しい変化があったものが、各々3.4%（6件）、3.7%（6件）、都市主体地域では、群落構成に著しい変化があったものが約6.8%（4件）を占める。

このように森林、農地、都市主体地域に分布する個体群は、個体群の個体数に変化を受けている割合がともに高く、また、都市主体地域では、他の地域よりも群落構成に変化を受けている割合が高い。

#### ④ 湿地植生（278件）

この相観区分では、66件に変化がみられ、これらは森林主体地域に25件（37.9%）、農地主体地域に26件（39.4%）、都市主体地域に15件（22.7%）になる（表2.4.3-4）。

地域毎に主な変化状況をみると、森林、農地、都市主体地域ともに面積に著しい変化があったものが、各々9.6%（15件）、14.7%（11件）、10.9%（5件、群落構成に変化ありも同じ割合を示す）を占める。続いて、森林主体地域では、群落構成に変化があったものが約3.2%（5件）、農地主体地域では、個体群の個体数に変化があったものが約9.3%（7件）、都市主体地域では、群落又は個体群が消滅したものが約8.7%（4件）を占める。

このように森林、農地、都市主体地域に分布する湿地植生は、面積に変化を受けている割合がともに高く、農地主体地域では、個体群の個体数、都市主体地域では、群落又は個体群が消滅を受けている割合が高い。

#### ⑤ 暖温帯常緑針葉高木林（209件）

この相観区分では、30件に変化がみられ、これらは森林主体地域に9件（30.0%）、農地主体地域に16件（53.3%）、都市主体地域に5件（16.7%）となる（表2.4.3-5）。

地域毎に主な変化状況をみると、森林主体地域、都市主体地域では、面積に著しい変化があったものが、各々9.6%（7件）、10.5%（4件）、農地主体地域では、群落構成に変化があったものが約7.1%（7件）を占める。

このように森林、農地、都市主体地域に分布する暖温帯常緑針葉高木林は、面積に変化を受けている割合がともに高く、農地主体地域では、群落構成に変化、群落又は個体群が消滅を受けている割合が高い。

#### ⑥ 暖温帯植生（206件）

この相観区分では、26件に変化がみられ、これらは森林主体地域に2件(7.7%)、農地主体地域に11件(42.3%)、都市主体地域に13件(50.0%)となる(表2.4.3-6)。

地域毎に主な変化状況をみると、農地主体地域では、群落構成に著しい変化があったものが約5.7%(5件)、都市主体地域では、面積に著しい変化があったものが約8.7%(6件)を占める。続いて、農地主体地域では、面積に著しい変化があったものが約4.6%(4件)、都市主体地域では、群落構成に著しい変化があったものが約5.8%(4件)を占める。

このように農地、都市主体地域に分布する暖温帯植生は、面積、群落構成に変化を受けている割合が高いが、森林主体地域では変化を受けている割合が低い。

#### ⑦ 海浜植生(172件)

この相観区分では、58件に変化がみられ、これらは森林主体地域に7件(12.1%)、農地主体地域に30件(51.7%)、都市主体地域に21件(36.2%)となる(表2.4.3-7)。

地域毎に主な変化状況をみると、森林、農地、都市主体地域ともに面積に著しい変化があったものが、各々12.9%(4件)、15.2%(15件)、33.3%(14件)を占める。農地主体地域では、群落構成に変化があったものが8.1%(8件)、群落又は個体群が消滅したものが7.1%(7件)と続く。都市主体地域では、群落又は個体群が消滅したものが9.5%(4件)、群落構成に変化があったものが7.1%(3件)と続く。

このように森林、農地、都市主体地域に分布する海浜植生は、面積に変化を受けている割合がともに高く、農地、都市主体地域では、群落構成に変化、群落又は個体群が消滅を受けている割合が高い。

#### ⑧ 冷温帯常緑針葉高木林(163件)

この相観区分では、20件に変化がみられ、これらは森林主体地域に14件(70.0%)、農地主体地域に5件(25.0%)、都市主体地域に1件(5.0%)となる(表2.4.3-8)。

地域毎に主な変化状況を見ると、森林、農地主体地域では、面積に著しい変化があったものが、各々6.0%(7件)、10.8%(4件)を占める。森林主体地域では、群落又は個体群が消滅したものが2.6%(3件)と続く。

このように森林、農地主体地域に分布する冷温帯常緑針葉高木林は、面積に変化を受けている割合が高く、特に、森林主体地域では、群落又は個体群が消滅を受けている割合が高い。

## 2.5 存続・削除に関する意見の全国集計

回収された調査票は、3,772件である。この回答様式は、存続か削除のどちらかに答えることになっている。

特定植物群落として存続という意見は、3,666件（97.2%）、特定植物群落から削除は、106件（2.8%）となる。存続という意見の中には、他の群落への包含による削除（1件、静岡県）と記入なし（55件）を含む。

この存続・削除に関する意見の集計をみると、特定植物群落の大半は今後も存続させる価値を持っていると考えられる。

### 2.5.1 存続・削除に関する意見の地方、都道府県別集計

ここでは、特定植物群落の存続・削除に関する意見の傾向を明らかにするために地方別、都道府県別に集計を行った（表2.5.1-1、2）。

削除という意見が出された特定植物群落の地方別の分布は、主に関東（地方内構成比 5.5%、削除群落構成比 30.1%）、中部（3.9%、32.1%）に多く、続いて、近畿（2.8%、14.2%）、四国（2.9%、6.6%）にみられる。東北（1.4%、5.7%）、九州（1.0%、4.7%）では少なく、北海道と沖縄ではともにみられない。

削除という意見が出された主な都道府県別の、削除件数（県別構成比、削除群落構成比）をみると、岐阜県15件（県別構成比 10.6%、削除群落構成比 13.1%）、埼玉県8件（14.8%、8.4%）、東京都7件（7.2%、6.5%）、静岡県7件（5.2%、6.5%）、富山県6件（4.4%、5.6%）、滋賀県5件（5.0%、5.6%）、栃木県4件（6.1%、3.7%）、群馬県4件（6.1%、3.7%）、島根県4件（5.1%、3.7%）等となる。

特定植物群落から削除という意見が出されなかった県は、12（北海道、宮城県、兵庫県、奈良県、鳥取県、岡山県、高知県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県、沖縄県）あげられる。

表2.5.1-1 存続・削除に関する地方別集計

地方	存続	削除	合計
北海道	115 (100.0) ( 3.1)	0 ( 0.0) ( 0.0)	115
東北	426 ( 98.6) ( 11.6)	6 ( 1.4) ( 5.7)	432
関東	546 ( 94.5) ( 14.9)	32 ( 5.5) ( 30.1)	578
中部	850 ( 96.1) ( 23.2)	6 ( 3.9) ( 32.1)	884
近畿	529 ( 97.2) ( 14.4)	15 ( 2.8) ( 14.2)	544
中国	380 ( 98.2) ( 10.4)	7 ( 1.8) ( 6.6)	387
四国	233 ( 97.1) ( 6.4)	7 ( 2.9) ( 6.6)	240
九州	486 ( 99.0) ( 13.3)	5 ( 1.0) ( 4.7)	491
沖縄	101 (100.0) ( 2.8)	0 ( 0.0) ( 0.0)	101
	3,666	106	3,772

注1) ( )内 上段は、横の合計に対する割合(%)

下段は、縦の合計に対する割合(%)

注2) 存続の中には、他の群落への包含による削除(1件)  
と記入なし(55件)を含む

## 2.5.2 存続・削除に関する意見の相観区分別集計

ここでは、特定植物群落の削除に関する意見がどのような相観区分に現れているのかを明らかにするために、相観区分と削除との集計を行った。

- ① 削除件数（削除群落構成比）の多い順に主な相観区分をみると、  
個体群20件（18.9%）、暖温帯常緑広葉高木林13件（12.3%）、海浜植生12件（11.3%）、湿地植生11件（10.4%）、冷温帯夏緑広葉高木林9件（8.5%）、暖温帯夏緑広葉高木林9件（8.5%）、河辺植生6件（5.7%）、暖温帯常緑針葉高木林4件（3.8%）、浮葉・沈水植物群落4件（3.8%）、暖温帯植生3件（2.8%）、暖温帯夏緑広葉低木林3件（2.8%）等となる。

このように削除件数（削除群落構成比）からみると、個体群、暖温帯常緑広葉高木林及び水と関連した相観区分（海浜植生、湿地植生、河辺植生、他）が主な削除対象となっている。

- ② 削除率（削除件数／各相観区分件数×100%）の高い順に主な相観区分をみると、河辺植生21.4%（6件/28件）、浮葉・沈水植物群落14.3%（4件/28件）、海浜植生8.9%（12件/135件）、暖温帯夏緑広葉高木林7.0%（9件/128件）等となる。

このように削除率からみると、上記①の結果と比べてより一層水と関連した相観区分が削除対象となっていることがわかる。

以上①、②にみるように、特定植物群落から削除の対象となる主な相観区分は、個体群、海浜植生、河辺植生、湿地植生、浮葉・沈水植物群落、暖温帯常緑広葉高木林、夏緑広葉高木林（冷温帯、暖温帯）などがあげられ、大きな変化がこれらに生じたと考えられる。

## 2.5.3 相観区分別にみた変化状況と存続に関する意見の集計

ここでは、第1に変化状況と存続に関する意見との集計を行い、

表2.5.3-1 変化状況と存続・削除に関する集計

	変化なし	面積に 変化	群落構成 に変化	個体数に 変化	群落・個体 群の消滅	合計
存続	3,360( 90.3) ( 99.9)	171( 4.6) (89.1)	105( 2.8) (88.2)	62( 1.7) (95.4)	23( 0.6) (23.7)	3,721 (97.0)
削除	2( 1.8) ( 0.1)	21(18.4) (10.9)	14(12.3) (11.8)	3( 2.6) ( 4.6)	74(64.9) (72.3)	114 ( 3.0)
合計	3,362	192	119	65	97	3,835

注1) 複数回答のため、合計件数は実際の選定群落数とは合致しない

注2) ( )内 上段は、横の合計に対する割合(%)

下段は、縦の合計に対する割合(%)

注3) 変化なしには、記入なし及び変化状況不明が含まれる。

第2に削除の意見が比較的多い相観区分（7区分）を取り出し、変化状況と存続等との関連を検討した。

削除の対象となる変化状況は、群落又は個体群の消滅が最も多く74件（64.9%）、続いて、面積に著しい変化あり21件（18.4%）、群落構成に著しい変化あり14件（12.3%）、個体数に著しい変化あり3件（2.6%）の順となる（表2.5.3-1）。

一方、存続の対象となるものをみると、面積、群落構成とも変化なしが最も多く3,360件（90.3%）を占める。しかし、一部には、面積に著しい変化あり172件（4.6%）、群落構成に著しい変化あり105件（2.8%）、個体数に著しい変化あり62件（1.7%）、群落又は個体群の消滅23件（0.6%）があり、これらの存続には今後十分注意を払う必要がある。

削除の意見が比較的多い相観区分の変化状況と存続等との関連は、以下のとおりである。

① 個体群（439件）

削除された個体群の変化状況は、回答数（20件）の大半が群落又は個体群の消滅（16件、80%）である（表2.5.3-2）。

存続している個体群の変化状況は、回答数（404件）の大半が面積、群落構成ともに変化なし342件（85%）である。一方、変化した群落は、62件あり、個体数に著しい変化ありが多く37件、面積に著しい変化ありが11件、群落構成に著しい変化ありが6件となる。

② 暖温帯常緑広葉高木林（927件）

削除された暖温帯常緑広葉高木林の変化状況は、回答数（14件）の多くが群落又は個体群の消滅5件（36%）と面積に著しい変化あり5件（36%）であり、続いて群落構成に著しい変化ありが3件（21%）となる（表2.5.3-3）。

存続している暖温帯常緑広葉高木林の変化状況は、回答数（901件）の大半が面積、群落構成ともに変化なし860件（95%）である。

一方、変化した群落は、41件あり、群落構成に著しい変化ありが19件、面積に著しい変化ありが15件となる。

③ 海浜植生（247件）

削除された海浜植生の変化状況は、回答数（13件）の半数が群落又は個体群の消滅7件（54%）が占め、続いて、面積に著しい変化あり3件（23%）、群落構成に著しい変化あり3件（23%）となる（表2.5.3-4）。

存続している海浜植生の変化状況は、回答数（124件）の多くが面積、群落構成ともに変化なし95件（77%）である。一方、変化した群落は、29件あり、面積に著しい変化ありが多く18件、群落構成に著しい変化ありが6件、群落又は個体群の消滅が4件となる。

④ 湿地植生（247件）

削除された湿地植生の変化状況は、回答数（12件）の多くが群落又は個体群の消滅9件（75%）となり、面積に著しい変化ありが2件（17%）、群落構成に著しい変化ありが1件（8%）となる（表2.5.3-5）。

存続している湿地植生の変化状況は、回答数（232件）の大半が面積、群落構成ともに変化なし197件（85%）である。一方、変化した群落は、35件あり、面積に著しい変化ありが13件、群落構成に著しい変化ありが10件、個体数に著しい変化ありが6件、群落又は個体群の消滅が4件となる。

⑤ 冷温帯夏緑広葉高木林（430件）

削除された冷温帯夏緑広葉高木林の変化状況は、回答数（10件）の多くが群落又は個体群の消滅7件（70%）となり、続いて、群落構成に著しい変化あり2件（20%）となる（表2.5.3-6）。

存続している冷温帯夏緑広葉高木林の変化状況は、回答数（412件）の大半が面積、群落構成ともに変化なし382件（93%）である。

一方、変化した群落は、24件あり、すべてが面積に著しい変化ありとなる。

⑥ 暖温帯夏緑広葉高木林（130件）

削除された暖温帯夏緑広葉高木林の変化状況は、回答数（10件）の半数が群落又は個体群の消滅5件（50%）となり、続いて、面積に著しい変化ありが3件（30%）、群落構成に著しい変化ありが2件（20%）となる（表2.5.3-7）。

存続している暖温帯夏緑広葉高木林の変化状況は、回答数（116件）の大半が面積、群落構成ともに変化なし111件（96%）である。一方、変化した群落は、5件あり、群落構成に著しい変化ありが3件、面積に著しい変化ありが2件となる。

⑦ 河辺植生（29件）

削除された河辺植生の変化状況は、回答数（6件）の多くが群落又は個体群の消滅4件（67%）となり、続いて、面積に著しい変化あり2件（33%）となる（表2.5.3-8）。

存続している河辺植生の変化状況は、回答数（23件）の約半数が面積、群落構成ともに変化なし12件（52%）である。一方、変化した群落は、11件あり、面積に著しい変化ありが8件、群落構成に著しい変化ありが3件となる。

### (3) 特定植物群落に対する保護制度の適用状況

ここでは、特定植物群落に対する保護制度の適用状況と変化状況とのかかわりを分析するため、まず、相観区分別に保護制度の適用状況を調べた。ここで取りあげた保護制度は、特定植物群落を直接、間接的に保護していると考えられる自然環境保全法、自然公園法、文化財保護法である。

#### 3.1 相観区分別保護制度の有無

ここでは、特定植物群落に対する保護の現状を明らかにするため、相観区分別に上記の保護制度の有無（特定植物群落の一部が含まれていても分析対象とする）を調べた（表3.1-1）。

上記の保護制度のいずれかがかかっている相観区分は、2,401件（63.5%重複あり）、上記の保護制度のいずれもかかっていない相観区分は、1,378件（36.5%）となる。このように特定植物群落の約2/3は、自然環境保全法、自然公園法、文化財保護法のいずれかが適用されている。

次に、上記の保護制度がかかっていない割合が高い相観区分は、亜熱帯ササ原（100%）、暖温帯ササ原（75%）、浮葉・沈水植物群落（68%）、亜熱帯常緑針葉低木林（67%）、亜熱帯単子葉草本草原（67%）、暖温帯広葉草原（60%）等となる。ブナ林等で代表される冷温帯夏緑広葉高木林は35%（151件）、シイ林、カシ林、タブ林等で代表される暖温帯常緑広葉高木林は43%（394件）のものが保護制度のかかっていない地域に存在する。このように保護制度が比較的にかかっていない特定植物群落は、主に亜熱帯の植生（ササ原、単子葉草本草原、等）、暖温帯の植生（ササ原、草原）にみられる。

一方、全てに保護制度がかかっている相観区分は、亜寒帯夏緑広葉高木林、亜寒帯ササ原、亜寒帯単子葉草本草原、夏緑針葉高木植林、蘚苔類植物群落、浮水植物群落の6区分である。このように保護制度が全てにかかっている特定植物群落は、主に亜寒帯の植生（ササ原、単子葉草本草原、夏緑広葉高木林）にみられる。

表3.1-1 保護制度のかかっていない特定植物群落（相観区分）の件数

相観区分	保護制度なし の件数 (A)	相観区分 件数 (B)	A/B × 100 (%)
植生一般	22	103	21
亜寒帯植生	11	53	21
冷温帯植生	22	82	27
暖温帯植生	73	170	43
亜熱帯植生	2	8	25
亜寒帯常緑針葉高木林	9	68	13
冷温帯常緑針葉高木林	48	131	37
暖温帯常緑針葉高木林	75	180	42
常緑針葉高木植林	29	75	39
夏緑針葉高木植林	1	11	10
夏緑針葉高木植林	0	2	0
暖温帯常緑広葉高木林	394	925	43
亜熱帯常緑広葉高木林	25	48	52
常緑広葉高木植林	3	14	21
亜寒帯夏緑広葉高木林	0	10	0
冷温帯夏緑広葉高木林	151	427	35
暖温帯夏緑広葉高木林	64	128	50
夏緑広葉高木植林	3	6	50
亜寒帯常緑針葉低木林	4	18	22
冷温帯常緑針葉低木林	1	7	14
暖温帯常緑針葉低木林	1	16	6
亜熱帯常緑針葉低木林	2	3	67
冷温帯常緑広葉低木林	2	15	13
暖温帯常緑広葉低木林	15	44	34
亜熱帯常緑広葉低木林	8	17	47
亜寒帯夏緑広葉低木林	4	15	27
冷温帯夏緑広葉低木林	13	45	29
暖温帯夏緑広葉低木林	10	37	27
冷温帯ササ草原	1	13	8
暖温帯ササ草原	3	4	75
亜熱帯ササ草原	1	1	100
亜寒帯広葉草原	2	14	14
冷温帯広葉草原	3	15	20
暖温帯広葉草原	3	5	60
冷温帯単子葉草原	2	10	20
暖温帯単子葉草原	5	21	24
亜熱帯単子葉草原	4	6	67
草本シダ群落	4	11	36
岩上多礫地	8	43	19
ヤマケシ林	2	5	40
ヤマシロ林	3	13	23
マングル植物群落	2	13	15
マツ植物群落	0	2	0
浮葉・沈水植物群落	19	28	68
浮水植物群落	0	1	0
高山荒原植生	2	33	6
雪山田植生	6	30	20
火山荒原植生	2	20	10
湿地植生	100	239	42
河辺植生	16	28	57
海浜植生	47	135	35
亜寒帯ササ草原	0	1	0
亜寒帯単子葉草原	0	2	0
個体群	151	429	35
合計	1,378	3,779	

### 3.2 保護制度の適用状況

前項の分析において、追跡調査の対象の特定植物群落の約2/3は自然環境保全法、自然公園法、文化財保護法のいずれかがかかっている地域に存在することが明らかになった。

ここでは、保護制度の下にある特定植物群落がどんな種類の保護制度のどの地域（区分）に存在するのかを明らかにするため、相観区分と保護制度との集計を行い、これらの関連を検討した。なお、集計は、保護制度を国の自然公園（国立公園、国定公園）、国の自然環境保全地域（原生自然環境保全地域、自然環境保全地域）、都道府県の自然公園と自然環境保全地域及び天然記念物の4つに分けて行った。天然記念物は、国指定特別天然記念物・特別名勝、国指定天然記念物・名勝、都道府県指定天然記念物、市町村指定天然記念物からなる。

#### 1) 国の自然公園の適用状況

これらに含まれる相観区分は、52区分（1,241件、重複あり）が該当する。1,241件の内訳をみると、国定公園特別地域が最も多く33.4%（415件）、続いて、国立公園特別地域28.0%（348件）、国立公園特別保護地区11.4%（142件）、国立公園の特別－普通地域などの重複11.3%（140件）等となる。このように国の自然公園内に存在する特定植物群落は、約60%が特別地域に含まれる（表3.2-1）。

国の自然公園に含まれる割合が高い相観区分は、暖温帯常緑広葉高木林（18.1%、225件）、冷温帯夏緑広葉高木林（12.3%、152件）、個体群（10.3%、128件）、湿地植生（5.4%、67件）、海浜植生（4.7%、58件）等である。以下に、これらの相観区分がどのような地域（区分）に存在しているのかについて述べる。

##### ① 暖温帯常緑広葉高木林

国の自然公園に含まれるものは、225件あり、暖温帯常緑広葉

高木林全体（925件）の24.3%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、国定公園特別地域42.8%（96件）、国立公園特別地域32.0%（72件）、国立公園特別保護地区6.7%（15件）等があげられる。

## ② 冷温帯夏緑広葉高木林

国の自然公園に含まれるものは、152件あり、冷温帯夏緑広葉高木林全体（427件）の35.6%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、国定公園特別地域34.9%（53件）、国立公園特別地域30.3%（46件）等があげられる。

## ③ 個体群

国の自然公園に含まれるものは、128件あり、個体群全体（429件）の29.8%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、国定公園特別地域39.8%（51件）、国立公園特別地域29.7%（38件）、国立公園普通地域7.8%（10件）等があげられる。

## ④ 湿地植生

国の自然公園に含まれるものは、67件あり、湿地植生全体（239件）の28.0%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、国立公園特別地域32.8%（22件）、国立公園特別保護地区20.9%（14件）、国定公園特別地域20.9%（14件）等があげられる。

## ⑤ 海浜植生

国の自然公園に含まれるものは、58件あり、海浜植生全体（135件）の43.0%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、国定公園特別地域51.7%（30件）、国立公園特別地域25.9%（15件）等があげられる。

## ⑥ 植生一般

国の自然公園に含まれるものは、47件あり、植生一般全体（103件）の45.6%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、国立公園特別－普通地域の重複44.7%(21件)、国立公園特別地域25.5%(12件)等があげられる。

⑦ 亜寒帯常緑針葉高木林

国の自然公園に含まれるものは、44件あり、亜寒帯常緑針葉高木林全体（68件）の64.7%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、国立公園特別地域50.0%(22件)、国立公園特別－普通地域の重複31.8%(14件)等があげられる。

⑧ 暖温帯常緑針葉高木林

国の自然公園に含まれるものは、42件あり、暖温帯常緑針葉高木林全体（180件）の23.3%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、国立公園特別地域45.2%(19件)、国立公園特別地域35.7%(15件)等があげられる。

⑨ 冷温帯常緑針葉高木林

国の自然公園に含まれるものは、41件あり、冷温帯常緑針葉高木林全体（131件）の31.3%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、国立公園特別地域41.5%(17件)、国立公園特別地域24.4%(10件)等があげられる。

以上のように、国の自然公園に含まれる特定植物群落は、主に国立公園特別地域、国立公園特別地域、国立公園特別保護地区等に存在する。

2) 国の自然環境保全地域の適用状況

これらに含まれる相観区分は、10区分（16件、重複あり）が該当する。16件の内訳をみると、自然環境保全地域特別地区が最も多く68.8%（11件）、原生自然環境保全地域31.3%（5件）となる。

このように国の自然環境保全地域内に存在する特定植物群落は、全てが特別地区に含まれる（表 3.2-2）。

国の自然環境保全地域に含まれる割合が高い相観区分は、植生一般（25.0%、4件）、亜寒帯植生（18.8%、3件）、亜寒帯常緑針葉高木林（12.5%、2件）等である。以下に、これらの相観区分がどのような地域（区分）に存在しているのかについて述べる。

#### ① 植生一般

国の自然環境保全地域に含まれるものは、4件あり、植生一般全体（103件）の3.9%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、自然環境保全地域特別地区75.0%（3件）、原生自然環境保全地域25.0%（1件）があげられる。

#### ② 亜寒帯植生

国の自然環境保全地域に含まれるものは、3件あり、亜寒帯植生全体（53件）の5.7%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、原生自然環境保全地域66.7%（2件）、自然環境保全地域特別地区33.3%（1件）があげられる。

#### ③ 亜寒帯常緑針葉高木林

国の自然環境保全地域に含まれるものは、2件あり、亜寒帯常緑針葉高木林全体（68件）の2.9%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、原生自然環境保全地域と自然環境保全地域特別地区が各50.0%（各1件）となる。

#### ④ 暖温帯常緑針葉高木林は、原生自然環境保全地域に1件含まれる。

#### ⑤ 冷温帯植生、冷温帯常緑針葉高木林、暖温帯常緑広葉高木林、冷温帯夏緑広葉高木林、岩上・多礫地草本植生、雪田植生は、自

然環境保全地域特別地区に各1件が含まれる。

### 3) 都道府県の自然公園、自然環境保全地域の適用状況

これらに含まれる相観区分は、あわせて38区分（814件、重複あり）が該当する。814件の内訳をみると、都道府県立自然公園普通地域が最も多く34.4%（280件）、都道府県立自然公園特別地域23.1%（188件）、都道府県自然環境保全地域普通地区13.9%（113件）、都道府県自然環境保全地域特別地区13.5%（110件）等となる（表3.2-3）。

都道府県の自然公園、自然環境保全地域に含まれる割合が高い相観区分は、暖温帯常緑広葉高木林（21.9%、179件）、冷温帯夏緑広葉高木林（14.0%、114件）、個体群（10.6%、86件）等である。以下に、これらの相観区分がどのような地域（区分）に存在しているのかについて述べる。

#### ① 暖温帯常緑広葉高木林

都道府県の自然公園、自然環境保全地域に含まれるものは、179件あり、暖温帯常緑広葉高木林全体（925件）の19.4%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、都道府県立自然公園普通地域43.0%（77件）、都道府県立自然公園特別地域24.0%（43件）、都道府県自然環境保全地域普通地区18.4%（33件）等があげられる。

#### ② 冷温帯夏緑広葉高木林

都道府県の自然公園、自然環境保全地域に含まれるものは、114件あり、冷温帯夏緑広葉高木林全体（427件）の26.7%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、都道府県立自然公園普通地域26.3%（30件）、都道府県立自然公園特別地域17.5%（20件）、都道府県自然環境保全地域特別地区と普通地区が各16.7%（各19件）等があげられる。

### ③ 個体群

都道府県の自然公園、自然環境保全地域に含まれるものは、86件あり、個体群全体（429件）の20.1%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、都道府県立自然公園普通地域 39.5%（34件）、都道府県立自然公園特別地域 24.4%（21件）、都道府県自然環境保全地域特別地区 15.1%（13件）等があげられる。

### ④ 暖温帯常緑針葉高木林

都道府県の自然公園、自然環境保全地域に含まれるものは、52件あり、暖温帯常緑針葉高木林全体（180件）の28.9%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、都道府県立自然公園普通地域36.5%（19件）、都道府県立自然公園特別地域21.2%（11件）等があげられる。

### ⑤ 暖温帯植生

都道府県の自然公園、自然環境保全地域に含まれるものは、47件あり、暖温帯植生全体（170件）の27.7%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、都道府県立自然公園普通地域31.9%（15件）、都道府県自然環境保全地域特別－普通地区の重複19.2%（9件）、都道府県立自然公園特別地域と都道府県自然環境保全地域普通地区が各 17.0%（各8件）等があげられる。

### ⑥ 湿地植生

都道府県の自然公園、自然環境保全地域に含まれるものは、42件あり、湿地植生全体（239件）の17.6%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、都道府県立自然公園特別地域33.3%（14件）、都道府県自然環境保全地域特別地区 26.2%（11件）等があげられる。

### ⑦ 冷温帯常緑針葉高木林

都道府県の自然公園、自然環境保全地域に含まれるものは、36件あり、冷温帯常緑針葉高木林全体（131件）の27.5%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、都道府県自然環境保全地域特別地区 27.8%（10件）、都道府県自然環境保全地域特別－普通地区の重複と都道府県立自然公園特別地域が各19.4%（各7件）等があげられる。

#### ⑧ 植生一般

都道府県の自然公園、自然環境保全地域に含まれるものは、35件あり、植生一般全体（103件）の34.0%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、都道府県立自然公園普通地域37.1%（13件）、都道府県立自然公園特別地域20.0%（7件）等があげられる。

#### ⑨ 暖温帯夏緑広葉高木林

都道府県の自然公園、自然環境保全地域に含まれるものは、32件あり、暖温帯夏緑広葉高木林全体（128件）の25.0%となる。これらが含まれる割合が高い地域区分は、都道府県立自然公園普通地域 50.0%（16件）、都道府県立自然公園特別地域 25.0%（8件）等があげられる。

以上のように、都道府県の自然公園、自然環境保全地域に含まれる特定植物群落は、主に自然公園の普通地域や特別地域等に存在する。

#### 4) 天然記念物の適用状況

ここで扱う天然記念物は、国指定特別天然記念物・特別名勝（以後、国特別と略す）、国指定天然記念物・名勝（同じく、国指定）、都道府県指定天然記念物（同じく、都道府県指定）、市町村指定天然記念物（同じく、市町村指定）である。

これらに含まれる相観区分は、47区分（856件、重複あり）が該当する。856件の内訳をみると、都道府県指定が最も多く41.2%

(353件)、国指定29.0%(248件)、市町村指定18.7%(160件)等となる。このように既に天然記念物に指定されており、しかも特定植物群落に選定されているものの内、約60%が都道府県指定・市町村指定である(表3.2-4)。

天然記念物に指定されている割合が高い相観区分は、暖温帯常緑広葉高木林(28.6%、245件)、個体群(15.2%、130件)、湿地植生(6.5%、56件)、冷温帯夏緑広葉高木林(5.8%、50件)等である。以下に、これらの相観区分がどのような天然記念物に指定されているのかについて述べる。

#### ① 暖温帯常緑広葉高木林

天然記念物に指定されているものは、245件あり、暖温帯常緑広葉高木林全体(925件)の26.5%となる。これらが指定されている割合が高い天然記念物は、都道府県指定49.0%(120件)、国指定24.9%(61件)、市町村指定21.6%(53件)があげられる。

#### ② 個体群

天然記念物に指定されているものは、130件あり、個体群全体(429件)の30.3%となる。これらが指定されている割合が高い天然記念物は、都道府県指定44.6%(58件)、国指定32.3%(42件)、市町村指定17.7%(23件)があげられる。

#### ③ 湿地植生

天然記念物に指定されているものは、56件あり、湿地植生全体(239件)の23.4%となる。これらが指定されている割合が高い天然記念物は、都道府県指定41.1%(23件)、国指定28.6%(16件)、市町村指定17.9%(10件)があげられる。

#### ④ 冷温帯夏緑広葉高木林

天然記念物に指定されているものは、50件あり、冷温帯夏緑広

葉高木林全体（427件）の11.7%となる。これらが指定されている割合が高い天然記念物は、都道府県指定 40.0%（20件）、国指定 28.0%（14件）、市町村指定 24.0%（12件）があげられる。

⑤ 暖温帯植生

天然記念物に指定されているものは、47件あり、暖温帯植生全体（170件）の27.7%となる。これらが指定されている割合が高い天然記念物は、都道府県指定 53.2%（25件）、国指定 23.4%（11件）、市町村指定 17.0%（8件）があげられる。

⑥ 暖温帯常緑針葉高木林

天然記念物に指定されているものは、32件あり、暖温帯常緑針葉高木林全体（180件）の17.8%となる。これらが指定されている割合が高い天然記念物は、都道府県指定 40.6%（13件）、国指定 21.9%（7件）、市町村指定 21.9%（7件）があげられる。

⑦ 海浜植生

天然記念物に指定されているものは、29件あり、海浜植生全体（135件）の21.5%となる。これらが指定されている割合が高い天然記念物は、市町村指定 44.8%（13件）、都道府県指定 37.9%（11件）、国指定 13.8%（4件）があげられる。

⑧ 常緑針葉高木植林

天然記念物に指定されているものは、20件あり、常緑針葉高木植林全体（75件）の 26.7%となる。これらが指定されている割合が高い天然記念物は、都道府県指定 70.0%（14件）、国指定 15.0%（3件）があげられる。

⑨ 暖温帯夏緑広葉高木林

天然記念物に指定されているものは、20件あり、暖温帯夏緑広

葉高木林全体（128件）の15.6%となる。これらが指定されている割合が高い天然記念物は、市町村指定 50.0%（10件）、都道府県指定45.0%（9件）があげられる。

以上のように、天然記念物に指定されており、しかも特定植物群落として選定されているものは、都道府県指定天然記念物が多く、続いて、国指定、市町村指定、国指定特別となる。

#### (4) 特定植物群落の変化状況と保護制度の適用状況

ここでは、特定植物群落に対する保護制度の適用状況と変化状況とのかかわりを検討するため、保護制度と特定植物群落の変化状況及び変化原因との関係を調べた。

##### 4.1 保護制度と変化状況及び変化原因

ここでは、現在の保護制度の適用状況と変化状況とのかかわりを明らかにするために、保護制度と特定植物群落の変化状況及び変化原因との集計を行い、これらの関連を検討した。保護制度は、大きく2つ（自然公園法及び自然環境保全法、文化財保護法）に分けて集計を行った。

###### 1) 保護制度と変化状況

保護制度毎の特定植物群落の変化状況は、表4.1-1に示した。

① 過去5年間において、面積等に変化のあった群落は自然公園法及び自然環境保全法による指定ありでは207件（9.9%、全件数2,091件）、文化財保護法による指定ありでは70件（8.2%、868件）、上記の何れの保護制度なしでは235件（16.7%、1,408件）となる。このように保護制度下に存在しない特定植物群落は、変化を受ける割合が高いと考えられる。

② 各変化状況をみると、面積に著しい変化があった特定植物群落の割合が高い保護制度は、上記の保護制度なしが6.7%（94件）と多く、自然公園法及び自然環境保全法が4.5%（93件）、文化財保護法が3.0%（26件）である。

群落構成に著しい変化があった特定植物群落の割合が高い保護制度は、上記の保護制度なしが3.6%（50件）と多く、文化財保護法が2.8%（24件）、自然公園法及び自然環境保全法が2.6%（54件）

表4.1-1 保護制度別の変化状況（件数）

保護制度	変化なし	面積変化	群落構成変化	個体数変化	消滅	合計
自然公園法及び 自然環境保全法	1,884(90.1)	93( 4.5) (44.9)	54( 2.6) (26.1)	35( 1.7) (16.9)	25( 1.2) (12.1)	2,091
文化財保護法	798(91.8)	26( 3.0) (37.1)	24( 2.8) (34.3)	11( 1.3) (15.7)	9( 1.0) (12.9)	868
上記の保護制度 なし	1,173(83.3)	94( 6.7) (40.0)	50( 3.6) (21.3)	25( 1.8) (10.6)	66( 4.8) (28.1)	1,408
合計	3,855(88.3)	213( 4.9) (41.6)	128( 2.9) (25.0)	71( 1.6) (13.9)	100( 2.3) (19.5)	4,367

注1) 複数回答のため、合計群落数は、実際の選定群落数とは合致しない。

注2) ( )内 上段は、群落全体（横の合計）に対する割合（％）

下段は、変化の中での構成比（％）

注3) 「変化なし」には、記入なし及び変化状況不明が含まれる。

である。

個体群の個体数に著しい変化があった特定植物群落の割合が高い保護制度は、上記の保護制度なしが1.8%（25件）、自然公園法及び自然環境保全法が1.7%（35件）、文化財保護法が1.3%（11件）である。

群落又は個体群が消滅した特定植物群落の割合が高い保護制度は、上記の保護制度なしが4.8%（66件）と多く、自然公園法及び自然環境保全法が1.2%（25件）、文化財保護法が1.0%（9件）である。

このように変化状況を個別にみても、保護制度（自然公園法及び自然環境保全法、文化財保護法）下に存在する特定植物群落は、保護制度下に存在しないものよりも変化を受ける割合が低い。特に、群落又は個体群の消滅の割合を比較すると、保護制度下に存在する特定植物群落は、保護制度下に存在しない群落の約1/4となり、これらの保護制度のかかる地域では、保護制度なしの地域と比較すると、群落又は個体群の消滅をもたらすインパクトの発生は少ないと考えられる。しかし、面積の著しい変化をはじめその他の変化をもたらすインパクトの発生割合は、保護制度なしの地域とくらべ、それほど低いものとはなっていない。

- ③ 自然公園法及び自然環境保全法がかけられている地域に存在する特定植物群落の変化状況を地域区別にみると、以下のとおりである（表4.1-2）。

面積等に変化があった特定植物群落の割合が高い自然公園及び自然環境保全地域は、国立公園普通地域 15.7%（変化件数8件、全体51件）、都道府県立自然公園普通地域 15.2%（同じく43件、282件）、都道府県立自然公園特別－普通地域の重複16.0%（同じく8件、50件）、都道府県自然環境保全地域普通地区11.2%（同じく13件、116件）等があげられる。

一方、面積等に変化があった特定植物群落の割合が低い自然公

表4.1-3 削除された特定植物群落一覧（自然公園法、自然環境保全法下に存在する）

県	件名 (NO.)	保護の現状	変化状況	備考
茨城	大子町のコナリ群落 (31)	県立自然公園普通地域	5	道路開発
	石岡市の常緑樹林 (54)	県自然環境保全地域普通地区	3	石材採石
埼玉	大高取山のスダジイ林 (21)	県立自然公園普通地域	5	植林
	都幾川村のツバキ群落 (31)	県立自然公園普通地域	5	植林
	ヤブツバキ林 (36)	県立自然公園普通地域	5	駐車上の設置
	武甲山石灰岩地の森林 (40)	県立自然公園普通地域	5	採石のため伐採
	武甲山のイソノキ群落 (41)	県立自然公園普通地域	5	採石のため伐採
東京	多摩川河辺植生 (35)	都立自然公園普通地域	2	取水堰の影響
	式根島大浦の海岸砂丘植生 (76)	富士箱根伊豆国立公園特別地域	3	人の立入
	三宅島新澤池周辺のスダジイ林 (86)	富士箱根伊豆国立公園特別-普通地域	5	大噴火
新潟	剣龍峡のナラ林 (14)	県立自然公園特別地域	2	憩いの場整備
福井	六呂師妻平湿原 (12)	県立自然公園普通地域	2, 3	宿泊施設
岐阜	東杉原の河岸岩上植生 (112)	県立自然公園普通地域	5	徳山ダム建設
	杉原のツバキ群落 (124)	県立自然公園普通地域	5	徳山ダム建設
静岡	川奈崎のクロマツ天然林 (4)	富士箱根伊豆国立公園特別地域	2	クロマツ枯死
	富士山東斜面のナラ群落 (21)	富士箱根伊豆国立公園特別地域	5	盗採
	猫越峠のナラ群落 (47)	富士箱根伊豆国立公園特別地域	5	樹林環境の変化
	富士山西麓のナラ群落 (62)	富士箱根伊豆国立公園普通地域	5	生育地破壊
三重	砂丘海岸植物群落 (22)	県立自然公園普通地域	2	砂浜の埋立
	父が谷のツバキ林 (79)	吉野熊野国立公園普通地域	5	伐採
	父が谷のコナリ林 (80)	吉野熊野国立公園普通地域	5	伐採
滋賀	西浅井町のハナキ林 (62)	琵琶湖国定公園特別地域	5	伐採、埋立
	佐波江のツバキ林 (86)	琵琶湖国定公園特別地域	5	護岸工事、河川改修
島根	今津海岸イタドリ自生地 (69)	大山隠岐国立公園特別地域	5	自然災害
徳島	竜宮の磯浜植物群落 (3)	瀬戸内海国立公園特別地域	3	乾燥場に利用
	淡島の海浜植物群落 (9)	室戸阿南海岸国定公園特別地域	3	過度の利用
愛媛	御五神島のハチジョウオウスキ群落 (57)	足摺宇和海国立公園特別地域	5	人の立入、採取

注) 変化状況 2:面積に著しい変化あり 3:群落構成に著しい変化あり 5:群落又は個体群の消滅

園及び自然環境保全地域は、原生自然環境保全地域（0.0%）、国定公園特別保護地区（0.0%）、国立公園特別保護地区（2.8%）等があげられる。

このように、自然公園内、自然環境保全地域内での変化状況を見ると、普通地域（区）等規制の弱い地域区分で変化がより多く生じ、特別保護地区、原生自然環境保全地域等規制の強い地域区分では変化があまり生じていない。また、自然公園の特別地域や都道府県自然環境保全地域の特別地区については、個別の変化状況を併せてみると、消滅はあまり生じていないものの、その他の変化の発生割合はあまり低いとはいえない。

各種の変化を受けた結果、特定植物群落から削除された具体例は表4.1-3に示した。

削除された特定植物群落（27件）は、群落又は個体群の消滅が18件で最も多く、面積に著しい変化と群落構成に著しい変化が各5件となる。

- ④ 文化財保護法がかけられている地域に存在する特定植物群落の変化状況は、以下のとおりである（表4.1-4）。

面積等に変化があった特定植物群落の割合は、都道府県指定が最も多く9.0%（変化件数32件、全体356件）、続いて、国指定7.9%（同じく20件、252件）、国特別7.3%（同じく5件、68件）、市町村指定6.1%（同じく10件、164件）となる。

このように比較的变化を受けることが多いのは、天然記念物の中でも都道府県指定であると考えられる。

また、変化状況を個別にみると、面積変化の割合が高く、群落構成の変化がついでいる。

各種の変化を受けた結果、特定植物群落から削除された具体例は表4.1-5に示した。

削除された特定植物群落（9件）は、群落又は個体群の消滅が7件と多く、面積に著しい変化、群落構成に著しい変化、個体群

表4.1-5 削除された特定植物群落一覧（文化財保護法と重複する）

県	件名 (NO.)	保護の現状	変化状況	備考
埼玉	大高取山のスカンツイ林 (21)	県指定天然記念物	5	植林
	武甲山石灰岩地の森林 (40)	国指定天然記念物	5	採石のため伐採
	武甲山のワソモク群落 (41)	国指定天然記念物	5	採石のため伐採
千葉	成東マガイワ群生地 (17)	県指定天然記念物	5	盗採、スギ林の管理
	安食のオニバシ群生地 (34)	県指定天然記念物	5	排水し泥を取り除く
富山	十二町瀧のオニバシ群生地 (125)	国指定天然記念物	5	記述なし
静岡	女神山山頂の石灰岩地植物群落 (118)	県指定天然記念物	4	石灰石の採掘
島根	今津海岸ワタゲキ自生地 (69)	町指定天然記念物	5	自然災害
鹿児島	城山のタケ林 (40)	国指定天然記念物	2, 3	除去

注) 変化状況 2:面積に著しい変化あり 3:群落構成に著しい変化あり  
 4:個体群の個体数に著しい変化あり 5:群落又は個体群の消滅

表4.1-6 保護制度別の变化原因 (件数)

保護制度	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
自然公園法及び自然環境保全法	1,878 (88.4)	24 (1.1)	27 (1.3)	56 (2.6)	17 (0.8)	11 (0.5)	13 (0.6)	13 (0.6)	6 (0.3)	12 (0.6)	15 (0.7)	3 (0.1)	2 (0.1)	7 (0.3)	21 (1.0)	19 (0.9)	2,124
文化財保護法	793 (87.4)	12 (1.3)	10 (1.1)	10 (1.1)	7 (0.8)	4 (0.4)	7 (0.8)	5 (0.6)	6 (0.7)	10 (1.1)	5 (0.6)	0 (0.0)	5 (0.6)	4 (0.4)	7 (0.8)	22 (2.4)	907
上記の保護制度なし	1,168 (81.5)	24 (1.7)	16 (1.1)	50 (3.5)	27 (1.9)	7 (0.5)	17 (1.2)	47 (3.3)	14 (1.0)	15 (1.1)	12 (0.8)	0 (0.0)	3 (0.2)	4 (0.3)	9 (0.6)	20 (1.4)	1,433
合計	3,839 (86.0)	60 (1.3)	53 (1.2)	116 (2.6)	51 (1.1)	22 (0.5)	37 (0.8)	65 (1.5)	26 (0.6)	37 (0.8)	32 (0.7)	3 (0.1)	10 (0.2)	15 (0.3)	37 (0.8)	61 (1.4)	4,464

注1) 複数回答のため、合計群落数は、実際の選定群落数とは合致しない。  
 注2) ( )内 上段は、群落全体(横の合計)に対する割合(%)  
 下段は、変化原因の中での構成比(%)  
 注3) 「記入なし」には、変化なし及び変化原因不明が含まれる。

の個体数に著しい変化が各1件となる。

## 2) 保護制度と変化原因

保護制度毎の特定植物群落の変化原因は、表4.1-6に示した。

① 過去5年間において、農林業開発などの変化原因を受けた群落は自然公園法及び自然環境保全法による指定地域246件(11.6%、全件数2,124件)、文化財保護法による指定地域114件(12.6%、907件)、上記の何れの保護制度なし265件(18.5%、1,433件)となる。上記1)の変化状況の解析結果と同様に、保護制度下に存在しない特定植物群落の方が、変化原因となるインパクトを受ける割合が高いと考えられる。

② 各変化原因をみると、人の立入、農林業開発、道路開発、水辺の開発、その他の開発、周辺の開発によるインパクトは、保護制度ありと比較して、保護制度なしに該当する特定植物群落で受ける割合が高い。

汚染物質の侵入、その他のインパクトは、文化財保護法(天然記念物)により指定された特定植物群落で受ける割合が高い。

盗採、観光開発、虫害・菌害、ゴミの投棄は、保護制度の有無による違いは認められない。

このように保護制度下に存在しない特定植物群落は、各種開発に伴うインパクトを受ける割合が高い。

③ 2つの保護制度(自然公園法及び自然環境保全法、文化財保護法)の変化原因を比較すると、農林業開発の影響を受けている割合は、自然公園法及び自然環境保全法下に存在するものの方が高い。

逆に、周辺の開発、植物の侵入、汚染物質の侵入、その他の影

響を受けている割合は、文化財保護法下に存在するものの方が高い。

人の立入、盗採、道路開発、観光開発、水辺の開発、その他の開発、虫害・菌害、ゴミの投棄、自然災害は、これらの保護制度ともに同様な値を示している。

- ④ 自然公園法及び自然環境保全法がかけられている地域に存在する特定植物群落の変化原因は、以下のとおりである（表 4.1 - 7）。

変化を受けている特定植物群落の割合が高い地域区分は、都道府県立自然公園特別－普通地域の重複 21.6%（変化原因件数 11 件、全体 51 件）、都道府県立自然公園普通地域 17.4%（同じく 50 件、288 件）があげられる。

一方、変化を受けている特定植物群落の割合が低い地域区分は、原生自然環境保全地域（0.0%）、国立公園特別保護地区（2.8%）があげられる。

このように変化原因となるインパクトは、各保護制度のうち都道府県立自然公園でややその多さが目立つ。

次に、変化原因を個別にみると、都道府県立自然公園区域に分布する特定植物群落では、特に農林業開発、道路開発、観光開発、水辺の開発、その他の開発の影響を受けている割合が高い。また、各自然公園の特別地域に分布する特定植物群落は、盗採の影響を受ける割合が比較的高いのが目立つ。

- ⑤ 文化財保護法がかけられている地域に存在する特定植物群落の変化原因は、以下のとおりである（表 4.1 - 8）。

変化原因となるインパクトを受けている特定植物群落の割合が高い天然記念物は、各種の天然記念物の重複 24.2%（変化原因件数 8 件、全体 33 件）、都道府県指定 14.1%（同じく 53 件、375 件）、国指定 13.3%（同じく 35 件、263 件）があげられる。

一方、変化原因となるインパクトを受けている特定植物群落の割合が低い天然記念物は、国特別8.6%（同じく6件、70件）、市町村指定7.2%（同じく12件、166件）があげられる。

次に、変化原因を個別にみると、都道府県指定天然記念物と重複することの多い特定植物群落は、他の天然記念物と比べて、農林業開発、盗採、人の立入、道路開発、観光開発、水辺の開発、その他の開発の影響を受けている割合が高い。

## 2. 追加調査結果の集計解析

ここでは、第2回調査結果の変化部分（例えば、面積、保護状況等）を修正したデータに、第3回追加調査結果を加えて、特定植物群落全体の現状（生育地、生育状況など）を把握し、各群落の全国的な位置付けを明らかにする。

### (1) 追加調査（第3回）の概要

対象となる植物群落は、昭和53年度に実施した特定植物群落調査において調査もれとなった植物群落、または、その後新たに発見された植物群落のうち、「特定植物群落選定基準」に該当するものである。

今回、全国で1,356件（約21万ha）の特定植物群落が追加して選定された。

#### ① 選定基準別の内訳は、以下のとおりである（表5.1-1）。

選定された件数が最も多い選定基準はA（原生林、原生林に近い自然林）の529件（39.0%）、続いて、D（湿原など特殊な立地特有の植物群落又は個体群）の401件（29.6%）、E（社寺林など郷土景観を代表する植物群落）の390件（28.8%）等があげられる。

面積では、Aの129,388ha（61.2%）が最も多く、続いて、Eの54,444ha（25.7%）、Dの34,188ha（16.2%）等があげられる。

特定植物群落の選定には、この3つの基準（A、E、D）が多く用いられている。AとDが件数、面積ともに多く選定されている傾向は第2回調査結果と同様であるが、Eとして選定された面積がB（極めて希な植物群落又は個体群）、C（分布限界になる産地にみられる植物群落又は個体群）と比べて多いことは今回の追加調査の特徴と考えられる。

#### ② 相観区分別の内訳は、以下のとおりである（表5.1-2）。

選定された相観区分は、シイ林、カシ林等の暖温帯常緑広葉高木林が最も多く353件（26.0%）、続いて、個体群の225件（16.6%）、

表5.1-1 選定基準別の追加件数及び面積

選定基準	件数	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)
A	529	39.01	129,388.72	61.15
B	196	14.45	16,028.00	7.57
C	158	11.65	4,469.00	2.11
D	401	29.57	34,188.21	16.16
E	390	28.76	54,444.63	25.73
F	38	2.80	1,237.00	0.58
G	140	10.32	4,651.50	2.20
H	214	15.78	14,352.90	6.78
合計	1,356		211,600.08	

注) 1 群落に対して複数の選定基準が対応している場合があり  
 件数・面積とも A～H の計と合計(定数)は合わない。

表5.1-2 相観区分別の件数及び面積

相観区分	件数	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)
植生一般	5.	0.37	1475.00	0.70
亜寒帯植生	13.	0.96	36393.00	17.20
冷温帯植生	3.	0.22	295.00	0.14
暖温帯植生	8.	0.59	3248.80	1.54
亜熱帯植生	3.	0.22	200.80	0.09
亜寒帯常緑針葉高木林	20.	1.47	15532.70	7.34
冷温帯常緑針葉高木林	51.	3.76	3514.00	1.66
暖温帯常緑針葉高木林	47.	3.47	1120.10	0.53
亜熱帯常緑針葉高木林	1.	0.07	25.00	0.01
常緑針葉高木植林	18.	1.33	1160.00	0.55
夏緑針葉高木林	1.	0.07	300.00	0.14
夏緑針葉高木植林	1.	0.07	1.00	0.00
暖温帯常緑広葉高木林	353.	26.03	7926.30	3.75
亜熱帯常緑広葉高木林	33.	2.43	2623.50	1.24
常緑広葉高木植林	1.	0.07	3.50	0.00
亜寒帯夏緑広葉高木林	3.	0.22	7263.00	3.43
冷温帯夏緑広葉高木林	199.	14.67	61837.91	29.22
暖温帯夏緑広葉高木林	29.	2.14	388.60	0.18
亜熱帯夏緑広葉高木林	2.	0.15	110.10	0.05
亜寒帯常緑針葉低木林	5.	0.37	73.00	0.03
冷温帯常緑針葉低木林	1.	0.07	1.00	0.00
暖温帯常緑針葉低木林	3.	0.22	6.50	0.00
亜熱帯常緑針葉低木林	1.	0.07	0.00	0.00
冷温帯常緑広葉低木林	2.	0.15	495.00	0.23
暖温帯常緑広葉低木林	16.	1.18	56.10	0.03
亜熱帯常緑広葉低木林	6.	0.44	16.70	0.01
亜寒帯夏緑広葉低木林	10.	0.74	1631.70	0.77
冷温帯夏緑広葉低木林	16.	1.18	398.00	0.19
暖温帯夏緑広葉低木林	14.	1.03	26.50	0.01
冷温帯ササ原	1.	0.07	5.00	0.00
亜寒帯広葉草原	1.	0.07	0.00	0.00
冷温帯広葉草原	3.	0.22	47.40	0.02
冷温帯単子葉草本草原	4.	0.29	160.00	0.08
暖温帯単子葉草本草原	4.	0.29	2299.20	1.09
亜熱帯単子葉草本草原	1.	0.07	3.00	0.00
草本シダ群落	2.	0.15	8.50	0.00
岩上, 多礫地草本植生	46.	3.39	2051.10	0.97
タケ形林	2.	0.15	70.00	0.03
ヤシ形林	9.	0.66	93.50	0.04
マングローブ林	2.	0.15	76.00	0.04
ツル植物群落	1.	0.07	5.00	0.00
浮葉・沈水植物群落	21.	1.55	6481.00	3.06
浮水植物群落	1.	0.07	0.10	0.00
高山荒原植生	7.	0.52	7.80	0.00
雪田植生	5.	0.37	502.80	0.24
火山荒原植生	6.	0.44	224.90	0.11
湿地植生	85.	6.27	4749.20	2.24
河辺植生	5.	0.37	124.00	0.06
海浜植生	58.	4.28	4649.40	2.20
亜寒帯ササ原	2.	0.15	12580.00	5.95
個体群	225.	16.59	31340.48	14.81
合 計	1356.	100.00	211600.70	100.00

ブナ林等の冷温帯夏緑広葉高木林の199件（14.7%）等があげられる。

面積では、冷温帯夏緑広葉高木林が最も多く61,837ha（29.2%）、続いて、亜寒帯植生の36,393ha（17.2%）、個体群の31,340ha（14.8%）等があげられる。

③ 都道府県別の内訳は、以下のとおりである（表5.1-3）。

都道府県別にみると、山口県が最も件数が多く128件、続いて、島根県106件、北海道105件、宮城県104件となる。一方、追加調査で特定植物が選定されていない都道府県は、9県（栃木県、埼玉県、千葉県、岐阜県、三重県、大阪府、広島県、高知県、佐賀県）があげられる。

## (2) 追加・削除後の総数とその概要

前回調査で選定された特定植物群落の件数は、3,834件、面積は、約94万haである。これから、今回の追跡調査の結果、削除(106件、他1件は別の群落に包含される)されたり、面積が減少した分を差し引き、それに今回追加された前述(1)の群落(1,356件、約21万ha)を加えると、特定植物群落の現状は、全国で5,085件、約113万haとなり、これは国土面積の約3%にあたる(表5.2-1)。これら5,085件のうち、長野県、鳥取県で前回調査の1つの群落を2つの群落に分けたことにより生じた4件については、群落内容などが不明なためこれらを除いた5,081件を対象として特定植物群落の現状把握を行う(後記VI-2)。

都道府県別に件数をみると、北海道が最も多く220件、続いて、山口県196件、静岡県180件、島根県180件となる。一方、大阪府が最も少なく31件、続いて、香川県34件、奈良県40件、埼玉県52件となる。

都道府県別に面積をみると、北海道が最も広く約37万ha、続いて、長野県約24万ha、山形県約13万haとなる。一方、大阪府が最も少なく約92ha、次いで、富山県約304ha、香川県約319ha、埼玉県約462haとなる。

県土面積に占める特定植物群落の面積割合は、長野県が最も高く18.1%、続いて、山形県14.0%があげられる。この両県では、面積の大きな特定植物群落(飛驒山脈の自然植生、朝日連峰の自然林、等)が選定されているために、他県と比べて特定植物群落の面積割合が高くなっているものと考えられる。この両県を除くと、宮城県(5.2%)、東京都(4.7%)、北海道(4.5%)等が高い割合を示している。全国的には、県土面積に占める割合が高い県は、東北日本に多く、中部以西には少ない。

地方別の件数と面積をみると、北海道、東北、中部では特定植物群落の1件当たりの面積が、関東、近畿、中国、四国、沖縄と比べ大きいと考えられる(表5.2-2)。

表5.2-1 追加後の都道府県別の件数及び面積

県名	前回 件数	削除 件数	追加 件数	追加後 の件数	追加後 の面積 (ha)	県土面積に対する 割合 (%)
北海道	115	0	105	220	374312.09	4.48
青森	80	1	80	159	45563.61	5.06
岩手	71	1	20	90	33424.50	2.21
宮城	75	0	65	140	38071.33	5.22
秋田	76	1	94	169	44066.13	3.85
山形	79	1	10	88	130284.92	13.97
福島	112	2	5	115	5751.80	0.42
茨城	65	5	3	63	5504.50	0.90
栃木	65	4	0	61	2142.60	0.33
群馬	113	4	37	146	26033.62	4.10
埼玉	61	9	0	52	461.80	0.12
千葉	87	2	0	85	2538.10	0.50
東京	96	7	2	91	10049.10	4.68
神奈川	91	1	9	99	5461.98	2.28
新潟	94	1	40	133	6374.31	0.53
富山	136	6	36	166	304.32	0.07
石川	102	1	11	112	3083.00	0.73
福井	59	1	39	97	949.03	0.23
山梨	101	1	16	116	7759.43	1.82
長野	56	1	35	91	237285.83	18.07
岐阜	132	14	0	118	3390.10	0.32
静岡	135	6	52	180	7002.33	0.96
愛知	68	3	22	87	714.27	0.14
三重	104	3	0	101	8751.50	1.52
滋賀	119	6	40	153	2484.23	0.62
京都	83	3	3	83	2832.90	0.61
大阪	32	1	0	31	91.90	0.05
兵庫	94	0	9	103	1124.90	0.13
奈良	25	0	15	40	7874.70	2.13
和歌山	87	2	20	105	2519.05	0.53
鳥取	60	0	15	76	2224.60	0.38
島根	78	4	106	180	2282.81	0.34
岡山	56	0	26	82	945.02	0.13
広島	126	2	0	124	12289.50	1.45
山口	69	1	128	196	4537.75	0.74
徳島	68	3	19	84	2851.86	0.69
香川	33	1	2	34	319.42	0.17
愛媛	61	3	15	73	911.66	0.16
高知	78	0	0	78	11097.80	1.56
福岡	77	1	30	106	3734.83	0.75
佐賀	65	0	0	65	1788.00	0.74
長崎	90	0	13	103	1764.80	0.43
熊本	37	0	56	93	10868.69	1.51
大分	70	1	4	73	14890.70	2.35
宮崎	104	0	61	165	30395.81	4.22
鹿児島	91	3	6	94	10750.30	1.17
沖縄	101	0	64	165	6471.50	2.88
全 国	3834	106	1356	5085	1134336.28	3.04

注1) 長野、鳥取県では、前回の1群落が2つの群落に分けられたことによる件数増を含む。

注2) 静岡県では、前回の1群落が他の群落と統合されたことによる件数減を含む。



图5.2-1 特定植物群落位置图

特定植物群落は、全国広範囲に分布しており、北海道、東北、中部、九州に大面積の群落が目立ち、その他の地方では、小面積の群落が分散してみられる（図 5.2 - 1）。

### (3) 選定基準別の分布状況

選定基準別では基準 A（原生林もしくはそれに自然林）が件数（1,965件、全体の38.7%）、面積（745,203ha、65.8%）ともに最も多い。

件数は、AについてE（社寺林など郷土景観を代表する植物群落）が1,308件（25.7%）、D（湿原など特殊な立地特有の植物群落又は個体群）が1,298件（25.6%）等となる。

面積は、AについてDが475,644ha（42.0%）、B（国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群）が220,641ha（19.5%）となる（表5.3-1、図5.3-1）。

群落1件当りの平均面積と選定基準との関係を見ると、選定基準A～Dは300ha以上と面積が大きく、E～Gは100ha未満と小さい（図5.3-2）。このように原生林等として選定された群落は大面積のものが多く、一方、社寺林など郷土景観を代表するものとして選定された群落は小面積のものが多く。

選定基準毎の分布状況は、表5.3-2, 3①から⑧に示した。

#### ① 選定基準 A（原生林もしくはそれに近い自然林）

地方別の分布は、中部に多く523件（25.6万ha）、続いて、中国320件（1.1万ha）、九州273件（5.5万ha）等があげられる。沖縄は、11件（0.4万ha）と少ない。

1件当たりの平均面積は、北海道が最も広く1,688ha、続いて、東北（992ha）、中部（488ha）、沖縄（404ha）となる。一方、件数が多い中国は、1件当たりの平均面積は最も狭く33haとなる。

このように選定基準Aで選ばれた群落は、北海道では大面積のものであるが数は多くなく、東北、中部では大面積のものが数多く分布しておりが、中国、近畿では小面積のものが多数分布している。

都道府県の分布は、島根県（116件）、山口県（115件）、宮崎県（87件）、兵庫県（85件）、秋田県（79件）などでは比較的件数が多く、茨城県（9件）、滋賀県（6件）、大阪府（4件）、香川県

表5.3-1 選定基準別の件数及び面積

選定基準	件数	構成比 (%)	面積 (ha)	構成比 (%)	1件当たりの 平均面積(ha)
A	1,965	38.67	745,203	65.75	379
B	643	12.65	220,641	19.47	343
C	611	12.03	206,845	18.25	339
D	1,298	25.55	475,644	41.97	366
E	1,308	25.74	104,427	9.21	80
F	177	3.48	10,516	0.93	59
G	525	10.33	31,361	2.77	60
H	653	12.85	92,903	8.20	142
合 計	5,081		1,133,369		223

注) 1群落に対して複数の選定基準が対応している場合があり  
件数・面積ともA～Hの計と合計(定数)は合わない。

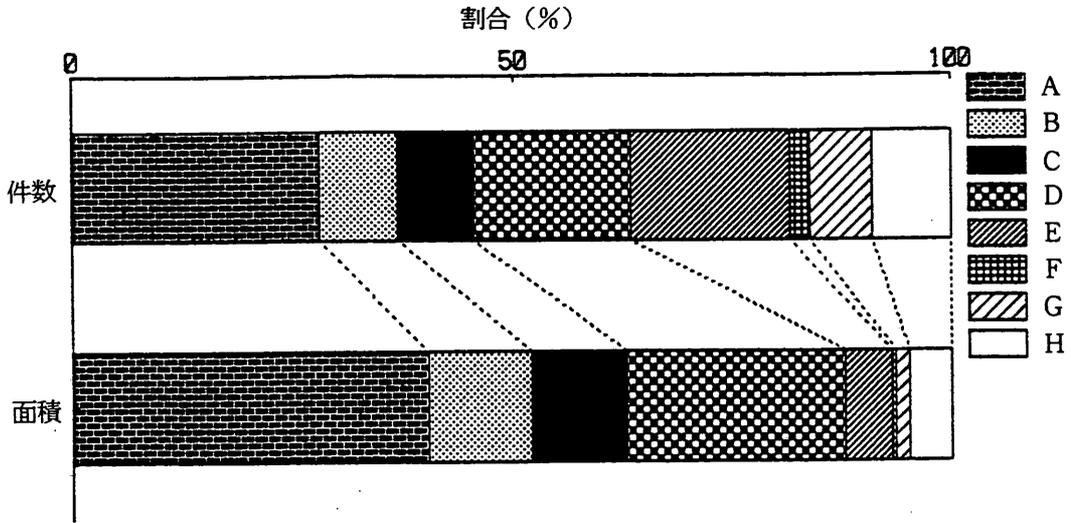


図5.3-1 選定基準別件数及び面積

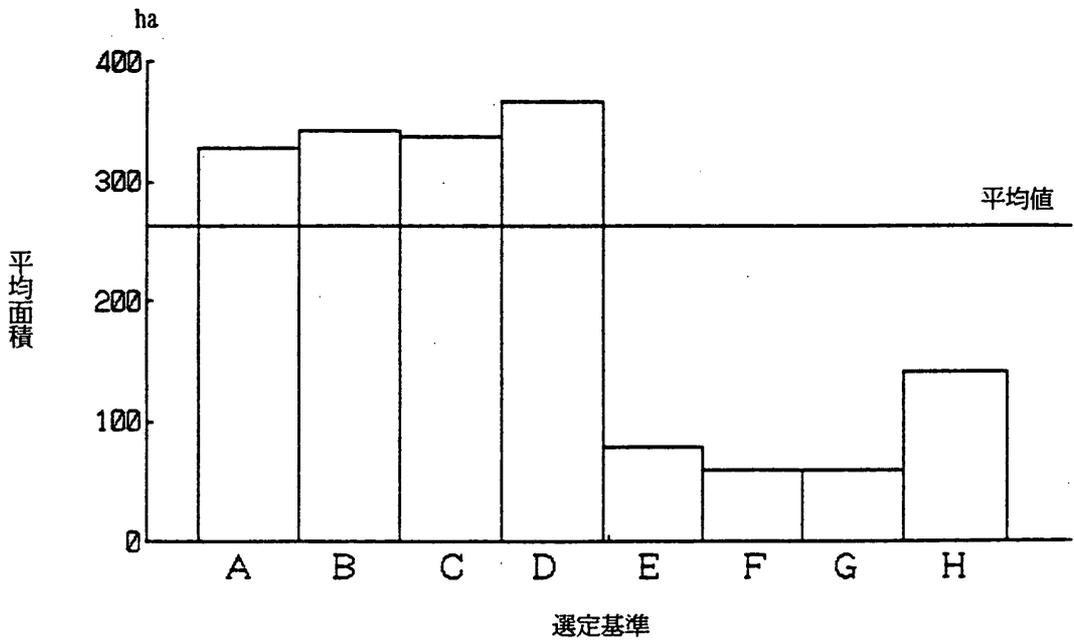


図5.3-2 選定基準別平均面積

(6件) などでは比較的少ない(図5.3-3①)。

② 選定基準B(国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群)

地方別の分布は、九州に多く195件(2.8万ha)、続いて、中部158件(17.3万ha)等があげられる。北海道は、12件(0.6万ha)と少ない。

1件当たりの平均面積は、中部が最も広く1,095ha、続いて、北海道(486ha)、九州(142ha)等となる。近畿は、1件当たりの平均面積は最も狭く10haである。

このように選定基準Bで選ばれた群落は、中部では大面積のものが数多く、北海道では中規模のもので数少なく、九州では中規模のものが数多く、関東、近畿、四国では小規模のもので数少なく分布している。

都道府県の分布は、宮崎県(94件)、群馬県(31件)、長野県(33件)、岐阜県(31件)、滋賀県(31件)、長崎県(30件)、沖縄県(34件)などで比較的多く、宮城県(2件)、福島県(4件)、埼玉県(3件)、千葉県(1件)、京都府(3件)、奈良県(4件)、鳥取県(1件)、岡山県(3件)、香川県(4件)などでは比較的少ない。また、山形県、大阪府からは選定されていない(図5.3-3②)。

③ 選定基準C(比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群)

地方別の分布は、中部に多く149件(15.1万ha)、続いて、東北122件(0.4万ha)、九州115件(1.3万ha)等があげられる。北海道11件(2.6万ha)、四国17件(0.2万ha)、沖縄21件(0.03万ha)では少ない。

1件当たりの平均面積は、北海道が最も広く2,402ha、続いて、中部(1,014ha)等となる。沖縄(16ha)、中国(21ha)、東北(35

ha)、関東(41ha)では、1件当たりの平均面積は狭い。

このように選定基準Cで選ばれた群落は、北海道では大規模のもので数少なく、中部では中規模のものが数多く、沖縄、中国では小規模のもので数少なく分布している。

都道府県の分布は、宮崎県(42件)、青森県(40件)、宮城県(25件)、茨城県(26件)、富山県(26件)、静岡県(25件)などで比較的多く、東京都(2件)、神奈川県(2件)、三重県(1件)、鳥取県(3件)、香川県(1件)、高知県(2件)などでは比較的少ない。また、岡山県からは選定されていない(図5.3-3③)。

- ④ 選定基準D(砂丘、断崖地、塩沼地、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの)

地方別の分布は、東北に多く298件(3.1万ha)、続いて、中部278件(19.6万ha)、九州158件(0.8万ha)、関東142件(1.1万ha)等があげられる。四国59件(0.7万ha)、沖縄62件(0.08万ha)では少ない。

1件当たりの平均面積は、北海道が最も広く2,189ha、続いて、中部(706ha)等となる。関東、近畿、中国、九州、沖縄は100ha以下であり、中でも近畿(19ha)、沖縄(13ha)では、1件当たりの平均面積は狭い。

このように選定基準Dで選ばれた群落は、北海道では大規模のもので数少なく、中部では中規模のものが数多く、近畿、沖縄では小規模のもので数少なく分布している。

都道府県の分布は、北海道(98件)、青森県(60件)、秋田県(73件)、沖縄県(62件)などで比較的多く、茨城県(6件)、奈良県(7件)、香川県(2件)などでは比較的少ない。また、大阪府からは選定されていない(図5.3-3④)。

- ⑤ 選定基準E(郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特

徴が典型的なもの)

地方別の分布は、中国に多く343件(0.7万ha)、続いて、中部247件(0.8万ha)、近畿202件(0.8万ha)等があげられる。北海道46件(2.4万ha)、四国50件(0.1万ha)、沖縄51件(0.05万ha)では少ない。

1件当たりの平均面積は、北海道が最も広く522ha、続いて、東北(384ha)、九州(118ha)等となる。関東、中部、近畿、中国、四国、沖縄は全て40ha以下であり、中でも中国(19ha)、沖縄(11ha)では、1件当たりの平均面積は狭い。

このように選定基準Eで選ばれた群落は、北海道、東北では比較的大規模のもので数少なく、中部、近畿、中国では小規模のものが数多く分布している。

都道府県の分布は、山口県(114件)、島根県(89件)、岡山県(61件)などで比較的多く、福島県(4件)、福井県(5件)、兵庫県(3件)、佐賀県(4件)、長崎県(3件)などでは比較的少ない(図5.3-3⑤)。

⑥ 選定基準F(過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても長期にわたって伐採等の手が入っていないもの)

地方別の分布は、中部に多く40件(0.06万ha)、続いて、関東33件(0.2万ha)、東北27件(0.4万ha)、近畿24件(0.05万ha)、九州24件(0.3万ha)があげられる。四国7件(0.02万ha)、沖縄5件(0.003万ha)では少ない。北海道からは、選定されていない。

1件当たりの平均面積は、東北が最も広く154ha、続いて、九州(130ha)等となる。中部(15ha)、近畿(22ha)、中国(4ha)、四国(23ha)、沖縄(6ha)では、1件当たりの平均面積は狭い。

このように選定基準Fで選ばれた群落は、東北では比較的規模の大きなものが数多く、九州では比較的規模の大きなもので数少なく、中部、近畿では小規模のものが数多く分布している。

都道府県の分布は、東京都(12件)、静岡県(13件)、福岡県

(11件)などで比較的多く、神奈川県、山梨県、京都府、岡山県、高知県などでは全て1件である。また、北海道、埼玉県、石川県、大阪府、兵庫県、徳島県、佐賀県、長崎県からは選定されていない(図5.3-3⑥)。

⑦ 選定基準G(乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群)

地方別の分布は、中部に多く183件(0.8万ha)、一方、北海道25件(1.6万ha)、四国14件(0.005万ha)、沖縄15件(0.0008万ha)では少ない。

1件当たりの平均面積は、北海道が最も広く623ha、他の地方は全て60ha未満である。中でも、関東(20ha)、近畿(19ha)、中国(19ha)、四国(3ha)、沖縄(6ha)では、1件当たりの平均面積は狭い。

このように選定基準Gで選ばれた群落は、北海道では比較的規模の大きなもので数少なく、中部では比較的規模の小さなものが数多く、四国、九州では小規模のもので数少なく分布している。

都道府県別の分布は、岐阜県(89件)、北海道(25件)、群馬県(23件)、新潟県(39件)、静岡県(21件)、滋賀県(41件)、山口県(24件)、宮崎県(26件)などで比較的多く、岩手県、茨城県、千葉県、富山県、石川県、福井県、三重県、大阪府、広島県、徳島県、香川県、高知県、大分県などでは全て4件以下である。また、山形県、愛知県、兵庫県、岡山県からは選定されていない(図5.3-3⑦)。

⑧ 選定基準H(その他学術上重要な植物群落または個体群)

地方別の分布は、近畿107件(1.7万ha)、中国107件(0.2万ha)に多く、北海道21件(2.7万ha)、四国26件(0.02万ha)では少ない。

1件当たりの平均面積は、北海道が最も広く1,276ha、続いて、東北(366ha)となる。一方、中部(15ha)、中国(15ha)、四国

(6ha)では、1件当たりの平均面積は狭い。

このように選定基準Hで選ばれた群落は、北海道では比較的規模の大きなものが数少なく、中部、中国では比較的規模の小さなものが数多く分布している。

都道府県別の分布は、沖縄県(72件)、静岡県(34件)、滋賀県(41件)、山口県(55件)、福岡県(42件)などで比較的多く、茨城県、千葉県、東京都、福井県、愛知県、大阪府、高知県、佐賀県、長崎県、大分県などでは全て4件以下である。また、兵庫県、岡山県、広島県、香川県からは選定されていない(図5.3-3⑧)。

以上のように、特定植物群落は、選定基準により地方別の分布状況に違いがあると考えられる。

次に、選定基準毎に、どのような相観区分をもつ特定植物群落が選定されているのかを調べた。選定基準別相観区分別の件数及び面積は、表5.3-4、件数の多い相観区分(上位から10区分)の選定基準別の件数割合は、図5.3-4に示した。選定基準と相観区分との関連性は、相観区分毎の選定基準別構成比と合計欄の選定基準別構成比との比較によって検討した。なお、選定基準は、1つの群落に複数記入されている場合も若干あり、合計などは単純集計結果とは合致しない。

- ① 基準A(原生林等)の構成比が全体の構成比(27.4%)を上回っている相観区分は、冷温帯常緑針葉高木林(45.1%)、暖温帯常緑針葉高木林(29.2%)、暖温帯常緑広葉高木林(43.8%)、冷温帯夏緑広葉高木林(48.7%)の4区分である。これらの相観を呈する群落が、原生林またはそれに近い森林として選定されている場合が多い。また、総件数は少ないが、亜寒帯常緑針葉高木林でもAの割合(62.6%)が高い。このように基準Aで選定された群落は、日本における極相林を代表する相観区分と考えられる。

- ② 基準B(稀少な群落等)の構成比が全体の構成比(9.0%)を上回

っている相観区分は、冷温帯常緑針葉高木林（9.2%）、暖温帯夏緑広葉高木林（11.0%）、岩上・多礫地草本植生（25.0%）、個体群（20.8%）の4区分である。これらの相観を呈する群落は、他の相観区分と比べ、稀少な群落が多いものと考えられる。

③ 基準C（分布限界等）の構成比が全体の構成比（8.5%）を上回っている相観区分は、暖温帯植生（9.1%）、暖温帯夏緑広葉高木林（10.6%）、岩上・多礫地草本植生（10.9%）、湿地植生（9.6%）、海浜植生（9.2%）、個体群（24.3%）の6区分である。

④ 基準D（特殊な立地）の構成比が全体の構成比（18.1%）を上回っている相観区分は、岩上・多礫地草本植生（41.8%）、湿地植生（63.0%）、海浜植生（57.1%）の3区分である。その外に比較的件数は少ないが、基準Dの構成比が高い値を示すものとして、マングローブ林（48.0%）、浮葉・沈水植物群落（59.0%）、高山荒原植生（54.1%）、雪田植生（78.0%）、火山荒原植生（65.5%）、河辺植生（56.8%）等があげられる。これらの相観区分は、いずれも特殊な立地の代表的なものと考えられる。

⑤ 基準E（郷土景観を代表する群落）の構成比が全体の構成比（18.2%）を上回っている相観区分は、暖温帯植生（31.2%）、暖温帯常緑針葉高木林（28.0%）、暖温帯常緑広葉高木林（36.3%）、暖温帯夏緑広葉高木林（22.0%）の4区分である。このように暖温帯に成立する相観区分が、主にこの基準で取りあげられている。

⑥ 基準F（長期に人手が入っていない人工林）の構成比が全体の構成比（2.5%）を上回っている相観区分は、暖温帯植生（6.7%）、冷温帯常緑針葉高木林（2.9%）、暖温帯常緑針葉高木林（2.7%）、暖温帯夏緑広葉高木林（4.5%）の4区分である。これも上記の基準Eと同様に暖温帯に成立する相観区分が多い。

⑦ 基準 G (乱獲等が脅威となる群落) の構成比が全体の構成比 (7.3%) を上回っている相観区分は、冷温帯常緑針葉高木林 (9.1%)、冷温帯夏緑広葉高木林 (8.8%)、暖温帯夏緑広葉高木林 (12.9%)、岩上・多礫地草本植生 (14.1%)、湿地植生 (10.0%)、海浜植生 (11.7%)、個体群 (15.3%) の 7 区分である。この基準で選定されている相観区分は多くのものがあげられ、乱獲等による人為の影響が群落の存立に対して脅威となっていると考えられる。

⑧ 基準 H (その他学術上重要) の構成比が全体の構成比 (9.3%) を上回っている相観区分は、冷温帯常緑針葉高木林 (11.7%)、暖温帯常緑針葉高木林 (9.5%)、冷温帯夏緑広葉高木林 (9.7%)、暖温帯夏緑広葉高木林 (10.2%)、個体群 (19.4%) の 5 区分である。このように相観区分では、冷温帯と暖温帯の常緑針葉樹林と夏緑広葉樹林が学術上重要とされているケースが多い。

#### (4) 面積別の分布状況

最も頻度が高いのは、1ha以上10ha未満のもので、全特定植物群落の約34.3%（1,741件）である。続いて、1ha未満が28.8%（1,465件）となり、両者を合わせると、10ha未満のものが全体の約63%を占めている（表5.4-1）。

10ha以上100ha未満のものは約22%（1,139件）あり、100ha以上1,000ha未満が約11%（558件）、1,000ha以上のものは約4%（178件）となっており、大面積のものほど少なくなっている。

地方別の面積区分は、1ha未満（1,465件）は、中部（421件）、近畿（243件）、九州（199件）、中国（195件）となり、小規模のものは、中部以西から比較的選定されている。

1ha以上10ha未満（1,741件）は、中部（377件）、中国（278件）に多く、10ha以上50ha未満（871件）は、東北（170件）、中部（154件）に多く、500ha以上1,000ha未満（113件）及び1,000ha以上5,000ha未満（137件）は、それぞれ北海道、東北に多数分布し、5,000ha以上（41件）は、北海道（16件）、東北（13件）、中部（10件）、近畿（2件）に分布するだけである。

このように比較的小規模のものは中部以西から、規模の大きなものは北海道、東北、中部から選定されている。

大面積（1,000ha以上）のものが多く選定されている都道府県は、北海道（57件）、岩手県（11件）、山形県（18件）、長野県（23件）などがあげられる（表5.4-2）。また、小面積（1ha未満）のものが多いい県は、群馬県（59件）、富山県（103件）、石川県（62件）、愛知県（59件）、滋賀県（76件）、兵庫県（56件）、山口県（74件）、沖縄県（58件）などがあげられる。

表5.4-1 地方別面積区分別の件数

地方	- 1ha	-10	-50	-100	-500	-1000	-5000	-10000	10000ha以上	合 計
北海道	4 ( 1.8)	22 (10.0)	41 (18.6)	17 ( 7.7)	56 (25.5)	23 (10.5)	41 (18.6)	9 ( 4.1)	7 ( 3.2)	220
東北	134 (17.6)	221 (29.0)	170 (22.3)	46 ( 6.0)	106 (13.9)	34 ( 4.5)	37 ( 4.9)	8 ( 1.1)	5 ( 0.7)	761
関東	162 (27.1)	216 (36.2)	110 (18.4)	35 ( 5.9)	50 ( 8.4)	12 ( 2.0)	12 ( 2.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	597
中部	421 (38.3)	377 (34.3)	154 (14.0)	41 ( 3.7)	64 ( 5.8)	15 ( 1.4)	15 ( 1.5)	5 ( 0.5)	5 ( 0.5)	1098
近畿	243 (39.5)	210 (34.1)	94 (15.3)	33 ( 5.4)	30 ( 4.9)	2 ( 0.3)	2 ( 0.3)	2 ( 0.3)	0 ( 0.0)	616
中国	195 (29.7)	278 (42.4)	98 (14.9)	40 ( 6.1)	36 ( 5.5)	6 ( 0.9)	3 ( 1.1)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	656
四国	49 (18.2)	123 (45.7)	53 (19.7)	15 ( 5.6)	24 ( 8.9)	2 ( 0.7)	3 ( 1.1)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	269
九州	199 (28.5)	234 (33.5)	125 (17.9)	35 ( 5.0)	66 ( 9.4)	19 ( 2.7)	21 ( 3.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	699
沖縄	58 (35.2)	60 (36.4)	26 (15.8)	6 ( 3.6)	13 ( 7.9)	0 ( 0.0)	2 ( 1.2)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	165
合 計	1465 (28.8)	1741 (34.3)	871 (17.1)	268 ( 5.3)	445 ( 8.8)	113 ( 2.2)	137 ( 2.7)	24 ( 0.5)	17 ( 0.3)	5081

### (5) 標高別の分布状況

全体としては、200m未満に分布するものが最も多く2,129件(41.9%)、標高が高くなるにつれて、漸次減少してゆく傾向がみられる(表5.5-1)。

標高3,000m以上の区分の面積が大きいが、これは標高の代表値として群落の最高標高を取って集計したため、飛驒山脈の自然植生といった大面積の群落がこの区分に含まれるためである。この区分を除くと、1,000mから1,200mの区分と1,800mから2,200mにかけての区分で面積が大きい。

各選定基準(A-H)で選ばれた群落が、どのような標高に分布しているのかを調べた(表5.5-2)。

各選定基準とも、標高200m以下から最も件数が多く選ばれている。選ばれた特定植物群落の総面積が比較的大きな標高は、選定基準Aでは、1,000mから2,000m、Bでは、1,000mから1,800m、Cでは、1,600mから2,200m、Dでは、1,600mから2,400m、Eでは、1,400mから1,800m、Gでは、1,000mから1,600m、Hでは、1,200mから2,000mがあげられる。

このように比較的大きな面積を持つ特定植物群落(2,800m以上は除く)は、最高標高が1,800mから2,400mに含まれるものが選定されている。

## (6) 立地別の分布状況

特定植物群落が分布する立地は、件数、面積ともに一般（気候立地）が最も多く、2,360件（51.8%）、896,200ha（79.1%）となる（表5.6-1）。その他の立地は、件数では海岸付近（477件、9.4%）、湿地、湧水地（397件、7.8%）、溪畔斜面（270件、5.3%）が多く、面積では、溪畔斜面（60,751ha、5.4%）、湿地、湧水地（43,516ha、3.8%）、風衝地（22,693ha、2.0%）が多い。

立地区分毎に1件当たりの面積をみると、火山噴出物堆積地（413.8ha）、蛇紋岩地（368.1ha）、一般（気候立地、340.8ha）等は比較的広く、風穴付近（2.3ha）、流水・水中（4.7ha）、塩湿地（11.2ha）、隆起サンゴ礁（12.3ha）、河口（17.9ha）等は立地の特性上、小面積で選定されている。

上記の立地区分の都道府県別の分布状況（表5.6-2）をみると、「海岸付近」は、北海道が40件と最も多く、続いて、山口県32件、島根県31件となる。この立地は、北海道、東北と中国、九州から比較的選定されている。

「湿地、湧水地」は、北海道と滋賀県の27件が最も多く、続いて、秋田県24件、岐阜県23件等があげられる。この立地は、北海道、東北及び中部から比較的選定されている。

「溪畔斜面」は広島県の18件が最も多く、続いて、静岡県16件、滋賀県14件等があげられる。この立地は、東北、中部、中国から比較的選定されている。

「風衝地」は富山県の24件が最も多く、続いて、青森県19件、岐阜県11件等あげられる。この立地は、比較的中部、東北から選定されている。

表5.6-1 立地区別の件数及び面積

立地区分	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)	1件当たりの面積(ha)
一般(気候立地)	2630.	51.76	896200.75	79.07	340.8
急崖地, 岩壁	142.	2.79	4220.10	0.37	29.7
岩角地	151.	2.97	5451.50	0.48	36.1
岩礫地	111.	2.18	12832.70	1.13	115.6
崩壊地	15.	0.30	1515.70	0.13	101.0
砂浜, 礫浜	127.	2.50	12643.80	1.12	99.6
河口	38.	0.75	680.00	0.06	17.9
河辺	96.	1.89	3882.50	0.34	40.4
溪畔斜面	270.	5.31	60751.13	5.36	225.0
流水, 水中	39.	0.77	183.10	0.02	4.7
湿地, 湧水地	397.	7.81	43516.84	3.84	109.6
塩湿地	37.	0.73	414.80	0.04	11.2
池塘	62.	1.22	1567.10	0.14	25.3
雪田・雪の吹き溜り	48.	0.94	1762.00	0.16	36.7
風衝地	174.	3.42	22693.00	2.00	130.4
海岸付近	477.	9.39	21006.60	1.85	44.0
硫気孔, 噴気孔原	18.	0.35	2331.00	0.21	129.5
火山噴出物堆積地	54.	1.06	22342.70	1.97	413.8
石灰岩地	123.	2.42	6916.30	0.61	56.2
蛇紋岩地	33.	0.65	12147.30	1.07	368.1
隆起サンゴ礁	22.	0.43	270.90	0.02	12.3
風穴付近	17.	0.33	39.30	0.00	2.3
合計	5081.	100.00	1133371.75	100.00	223.1

#### (7) 取り扱い別の分布状況

乱獲等を危惧して、調査者が（群落の位置等を）秘密扱いとした特定植物群落は、30の県に存在し、186件、3,167.3haにのぼる（表5.7-1）。これは、件数では全特定植物群落の約4%、面積では0.3%に相当する。

都道府県別にみると、岐阜県と静岡県で秘密扱いの件数が最も多く各18件、続いて、山梨県と熊本県各16件、長野県と京都府各13件、秋田県と滋賀県各10件となる。

このように特定植物群落の秘密扱いは、中部39.8%(74件)、九州17.2%(32件)、関東15.6%(29件)、近畿14.5%(27件)に多く、中国1.6%(3件)、四国2.7%(5件)に少ない。

## (8) 保存状態別の分布状況

特定植物群落は、どのような状態で保存されているのかを調べた。保全状態は、調査表の記述により良好、普通、やや不良、不良、絶滅、確認されず、記載なしの7つに区分した。

特定植物群落の保存状態は、記載なしが3,107件(61.2%)を占める。これらは良好又は普通の状態であると考えられる。

保存状態を個別にみると、良好なものは、720件(14.2%)、普通のもの、386件(7.6%)、やや不良のものは、768件(15.1%)、不良のものは、97件(1.9%)、確認されないものは、3件(0.1%)となる(表5.8-1)。

保存状態がやや不良の割合が高い地方は、四国(地方内構成比、19.7%)、九州(17.6%)、近畿(17.4%)、関東(16.8%)等があげられる。同じく、不良の割合が高い地方は、九州(4.7%)、四国(3.3%)、関東(2.7%)等があげられる。

都道府県別に保存状態をみると、やや不良なものは、北海道(34件)、千葉県(35件)、東京都(34件)、石川県(39件)、滋賀県(37件)、島根県(33件)、広島県(35件)等で多く、同じく不良なものは、宮崎県が最も多く15件、続いて、福岡県(7件)、群馬県、千葉県、徳島県各(6件)となる(表5.8-2)。

このように特定植物群落の約17%は、保存状態がやや不良又は不良であり、これらの割合が高い地方は、関東、四国、九州等があげられる。

## (9) 当該群落へのインパクトの分布状況

ここでは当該群落へどのようなインパクトが及んでいるのかを調べた。

当該群落へのインパクトは、人の立入が最も多く、516件（10.2%）、続いて、農林業開発 333件（6.6%）、盗採155件（3.1%）、周辺の開発154件（3.0%）、道路開発92件（1.8%）等があげられる。

これらのインパクトがどの都道府県に現れているのかをみると、以下のとおりである（表5.9-1）。

- ① 人の立入の影響を受けている特定植物群落（516件）は、島根県に最も多く70件（13.6%）、続いて、山口県41件（7.9%）、宮崎県38件（7.4%）等に存在する。
- ② 農林業開発の影響を受けている特定植物群落（333件）は、宮崎県に最も多く52件（15.6%）、続いて、北海道49件（14.7%）、秋田県、沖縄県が各20件（6.0%）等に存在する。
- ③ 盗採の影響を受けている特定植物群落（155件）は、宮崎県に最も多く17件（11.0%）、続いて、青森県、秋田県が各10件（6.5%）、滋賀県、山口県が各9件（5.8%）等に存在する。
- ④ 周辺の開発の影響を受けている特定植物群落（154件）は、北海道に最も多く26件（16.9%）、続いて、青森県、福岡県が各9件（5.8%）、島根県、沖縄県が各7件（4.5%）等に存在する。
- ⑤ 道路開発の影響を受けている特定植物群落（92件）は、北海道に多く9件（9.8%）、続いて、福井県8件（8.7%）、福岡県6件（6.5%）等に存在する。

このように当該群落へのインパクトを全国的にみると、人の立入、農林業開発、盗採、周辺の開発、道路開発等が多い。地方別にみると、北海道（地方別件数に対するインパクトを受けている件数の割

合、53.2%)、九州(49.9%)、沖縄(43.6%)で比較的高く、中部(19.4%)、関東(24.0%)、近畿(27.4%)で比較的低い値を示している。

## (10) 保護対策の適用状況

植物群落を保護する制度として、主なものは自然公園法（国立公園、国定公園、都道府県立自然公園）、自然環境保全法（原生自然環境保全地域、自然環境保全地域、都道府県自然環境保全地域）、文化財保護法（国指定特別天然記念物、国指定天然記念物、都道府県指定天然記念物、市町村指定天然記念物）があげられ、その他に自治体の条例等による保護区の指定がある。

自然公園に含まれている（一部も含む）特定植物群落は、2,339件あり、全体の46.0%を占める（表5.10-1）。また、自然環境保全地域に含まれているものは、389件（7.7%）であり、両者を合わせると件数では2,728件（53.7%）、面積では1,109,334.5ha（86.1%）となる（図5.10-1）。

地域区別にみると大半は、特別地域（区）または特別保護地区に含まれている。普通地域（区）に存在しているのは、件数で596件（11.6%）、面積で81,140.0ha（6.3%）である。

自然公園、自然環境保全地域に含まれている特定植物群落の1件当たりの面積は、原生自然環境保全地域が最も大きく約9,000ha、続いて、自然環境保全地域約1,400ha、国立公園約600haの順となる。一方、自然公園、自然環境保全地域以外が最も小さく約74ha、続いて、都道府県自然環境保全地域約172haとなる。

このように国の自然公園、自然環境保全地域に含まれている特定植物群落は、1件当たりの面積が比較的大規模なものが多い。

国立公園別の件数をみると、特定植物群落を多く含む公園は、富士箱根伊豆117件、続いて、中部山岳83件、瀬戸内海61件等があげられる（表5.10-2）。特定植物群落の分布が少ない公園は、知床2件、大雪山6件、利尻礼文サロベツ7件等があげられる。

特定植物群落の面積が広い公園は、磐梯朝日約8.4万ha、続いて、中部山岳約8.0万ha、南アルプス約5.2万ha等があげられる。特定植物群落の面積が少ない公園は、西海約88ha、山陰海岸261ha、大山隠岐414ha等があげられる。

表5.10-1 保護区分別の件数及び面積

保護区分	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)	1件当たりの面積(ha)
保護制度なし	2429.	47.10	179291.88	13.91	74
国立公園					
特別保護地区	171.	3.32	8494.90	0.66	
特別地域	432.	8.38	75172.94	5.83	
普通地域	57.	1.11	6631.50	0.51	
上記の重複	165.	3.20	402728.75	31.25	
国立公園計(含重複)	825.	16.01	493028.09	38.25	598
国定公園					
区分不明	17.	0.33	84792.30	6.58	
特別保護地区	68.	1.32	6799.50	0.53	
特別地域	570.	11.05	106128.17	8.24	
普通地域	42.	0.81	5145.00	0.40	
上記の重複	98.	1.90	67003.30	5.20	
国定公園計(含重複)	795.	15.41	269868.27	20.95	339
原生自然環境保全地域	5.	0.10	44569.00	3.46	8914
自然環境保全地域					
特別地区	2.	0.04	4850.00	0.38	
普通地区	11.	0.21	14057.10	1.09	
上記の重複	1.	0.02	257.00	0.02	
自然環境保全地域計(含重複)	14.	0.27	19164.10	1.49	1369
都道府県立自然公園					
区分不明	4.	0.08	67.00	0.01	
特別地域	306.	5.93	117618.91	9.13	
普通地域	350.	6.79	37555.00	2.91	
上記の重複	59.	1.14	63670.00	4.94	
都道府県立公園計(含重複)	719.	13.94	218910.91	16.99	304
都道府県自然環境保全地域					
区分不明	21.	0.41	3692.10	0.29	
特別地域	131.	2.54	14838.90	1.15	
普通地域	136.	2.64	17751.40	1.38	
上記の重複	82.	1.59	27505.90	2.13	
都道府県立自環計(含重複)	370.	7.18	63788.30	4.95	172
合 計	5157.	100.00	1288626.38	100.00	250

国定公園別の件数をみると、特定植物群落を多く含む公園は、琵琶湖54件、続いて、津軽38件、老岐対馬33件、栗駒33件、玄海32件等があげられる。特定植物群落が少ない公園は、明治の森高尾1件、沖縄戦跡1件、大和青垣2件、大沼、明治の森箕面、金剛生駒の各3件等があげられる。

特定植物群落の面積が広い公園は、日高山脈襟裳約7.2万ha、続いて、津軽約3.1万ha、栗駒約2.7万ha等があげられる。特定植物群落の面積が少ない公園は、金剛生駒2.4ha、沖縄戦跡8.0ha、大和青垣31.0ha等があげられる。

原生自然環境保全地域別にみると、十勝川源流部2件（約3.8万ha）、屋久島1件（1.2千ha）、大井川源流部1件（1.1千ha）、遠音別岳1件（4.7千ha）となる。

自然環境保全地域別にみると、利根川源流部5件、早池峰4件、稲尾岳、大平山、白髪岳、和賀岳、笹ヶ峰の各1件となる。面積をみると、利根川源流部約7.3千ha、早池峰約6千haとなる。

特定植物群落のうち天然記念物の指定と重複するものは、942件（18.5%）、271,916ha（24.0%）となる（表5.10-3）。件数が最も多いものは、都道府県指定天然記念物の381件であり、面積が最も大きいのは、国指定天然記念物の193,403haである。

国指定天然記念物（1件当たり714ha）を除くと、天然記念物の指定と重複する特定植物群落の面積は、天然記念物の指定と重複しない群落の面積よりかなり小さい。

このように天然記念物の指定と重複する特定植物群落は、比較的小規模な場合が多いと考えられる。

群落が選定された視点（選定基準）と保護制度との関係をみると、自然公園、自然環境保全地域に分布している群落では、選定基準A（原生林等）、D（特殊な立地）により選定された群落の割合が高く、選定基準E（郷土景観を代表する群落）により選定された群落の割合が低い（表5.10-4）。特に、この傾向は原生自然環境保全地域、自然環境保全地域で顕著であり、都道府県立自然公園、

表5.10-3 天然記念物別の件数及び面積

保護区分	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)	1件当たりの 面積(ha)
天然記念物以外	4139.	81.46	861454.81	76.01	808
国指定特別天然 記念物	73.	1.44	6383.00	0.56	87
国指定天然記念物	271.	5.33	193403.17	17.06	714
都道府県指定天然 記念物	381.	7.50	54711.02	4.83	144
市町村指定天然 記念物	188.	3.70	13336.00	1.18	71
上記天然記念物 の重複	29.	0.57	4083.60	0.36	141
合 計	5081.		1133371.75		223

都道府県自然環境保全地域では明確でない。

原生自然環境保全地域、自然環境保全地域、国立公園、国定公園に分布している群落には、原生林、特殊な立地等に存在するものが比較的多く、都道府県立自然公園、都道府県自然環境保全地域に分布している群落には、郷土景観を代表する群落が比較的多いと考えられる。原生自然環境保全地域、自然環境保全地域内の特定植物群落の内容は、地域指定の趣旨とよく一致しているといえよう。

国指定の天然記念物と重複する群落では、選定基準 A、D により選定された群落の割合が比較的高い（表 5.10-5）。また、都道府県指定、市町村指定の天然記念物と重複する群落では、選定基準 A、D に加えて、E により選定されている割合も比較的高い。

このように国では、原生林等が指定の対象の中心となり、都道府県、市町村では、これらに加え郷土景観を代表するものがよく選定されていると考えられる。

## (11) 相観区分別の分布状況

特定植物群落は、その相観から58区分（第2回調査では、個体群を除く57区分）に分けられている。相観区分別の件数及び面積、都道府県別・相観区分別の件数及び面積をそれぞれ表5.11-1, 2に示した。

最も件数の多い相観区分は、シイ林、カシ林等の暖温帯常緑広葉高木林(1,287件)であり、続いて、ブナ林等の冷温帯夏緑広葉高木林(675件)、湿地植生(334件)等があげられる。

面積では、植生一般が約40万haと大きく、続いて、亜寒帯植生(約22万ha)、冷温帯夏緑広葉高木林(約14万ha)等があげられる。植生一般のような大区分の相観区分が大きな面積を占めているほか、冷温帯夏緑広葉高木林が件数、面積ともに多い傾向がみられる。

相観区分別面積区分別の件数を表5.11-3に示した。

多くの相観区分では、1件当たりの面積が、50ha未満である。

100ha以上の群落を多く含む主な相観区分は、植生一般及び大区分の植生を除くと、亜寒帯常緑針葉高木林、冷温帯常緑針葉高木林、温帯夏緑広葉高木林、火山荒原植生の4区分である。

一方、小面積のもの比率が高い相観区分は、亜熱帯常緑広葉高木林、海浜植生等があげられる。

高緯度、高標高の地域に成立する相観区分からは大面積の群落が選定され、暖温帯等の温暖な地域に成立する相観区分からは小面積の群落が選定される傾向が認められる。これらの結果は、人為の影響等を受けつつも残存している群落の現状(面積)をそのまま反映したものといえよう。

次に、各気候帯を構成する植物群落の中から、針葉樹林、常緑広葉樹林、夏緑広葉樹林、高山植生、池沼・湿地・河辺・海浜植生、個体群に該当する相観区分を抽出し、これらが、どの地域から主に選定されているのかを調べた。

表5.11-1 相観区分別の件数及び面積

相観区分	件数	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)
植生一般	103.	2.03	397437.10	35.07
亜寒帯植生	71.	1.40	215677.00	19.03
冷温帯植生	100.	1.97	78526.80	6.93
暖温帯植生	189.	3.72	22011.30	1.94
亜熱帯植生	14.	0.28	760.50	0.07
亜寒帯常緑針葉高木林	93.	1.83	49126.30	4.33
冷温帯常緑針葉高木林	212.	4.17	26759.80	2.36
暖温帯常緑針葉高木林	239.	4.70	12071.90	1.07
亜熱帯常緑針葉高木林	1.	0.02	25.00	0.00
常緑針葉高木植林	128.	2.52	7628.80	0.67
夏緑針葉高木林	12.	0.24	1475.10	0.13
夏緑針葉植林	6.	0.12	95.00	0.01
暖温帯常緑広葉高木林	1287.	25.33	23534.50	2.08
亜熱帯常緑広葉高木林	83.	1.63	5760.90	0.51
常緑広葉高木植林	16.	0.31	170.30	0.02
亜寒帯夏緑広葉高木林	14.	0.28	7475.10	0.66
冷温帯夏緑広葉高木林	675.	13.28	138627.94	12.23
暖温帯夏緑広葉高木林	183.	3.60	2631.20	0.23
亜熱帯夏緑広葉高木林	3.	0.06	110.10	0.01
夏緑広葉高木植林	7.	0.14	20.00	0.00
亜寒帯常緑針葉低木林	26.	0.51	2459.10	0.22
冷温帯常緑針葉低木林	7.	0.14	1035.20	0.09
暖温帯常緑針葉低木林	20.	0.39	67.30	0.01
亜熱帯常緑針葉低木林	4.	0.08	1.30	0.00
冷温帯常緑広葉低木林	18.	0.35	1534.60	0.14
暖温帯常緑広葉低木林	74.	1.46	2010.80	0.18
亜熱帯常緑広葉低木林	21.	0.41	513.30	0.05
亜寒帯夏緑広葉低木林	30.	0.59	5978.10	0.53
冷温帯夏緑広葉低木林	87.	1.71	2830.30	0.25
暖温帯夏緑広葉低木林	78.	1.54	749.00	0.07

相観区分	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
冷温帯ササ原	17.	0.33	1113.60	0.10
暖温帯ササ原	5.	0.10	105.30	0.01
亜熱帯ササ原	1.	0.02	90.00	0.01
亜寒帯広葉草原	17.	0.33	51.90	0.00
冷温帯広葉草原	25.	0.49	271.30	0.02
暖温帯広葉草原	9.	0.18	1013.10	0.09
冷温帯単子葉草本草原	15.	0.30	2725.70	0.24
暖温帯単子葉草本草原	31.	0.61	3015.20	0.27
亜熱帯単子葉草本草原	6.	0.12	23.50	0.00
草本シダ群落	32.	0.63	19.20	0.00
岩上, 多礫地草本植生	124.	2.44	5468.60	0.48
タケ形林	9.	0.18	78.90	0.01
ヤシ形林	22.	0.43	225.80	0.02
マングローブ林	17.	0.33	340.60	0.03
ツル植物群落	3.	0.06	5.10	0.00
蘚苔類植物群落	2.	0.04	146.10	0.01
浮葉・沈水植物群落	46.	0.91	6778.90	0.60
浮水植物群落	2.	0.04	0.10	0.00
流水岩上植物群落	8.	0.16	5.40	0.00
高山荒原植生	41.	0.81	251.00	0.02
雪田植生	36.	0.71	1716.90	0.15
火山荒原植生	25.	0.49	11243.40	0.99
湿地植生	334.	6.57	37291.32	3.29
河辺植生	26.	0.51	2077.80	0.18
海浜植生	196.	3.86	8048.40	0.71
亜寒帯ササ原	3.	0.06	12615.00	1.11
亜寒帯単子葉草本草原	2.	0.04	200.50	0.02
個体(群)	226.	4.45	31340.78	2.77
合計	5081.	100.00	1133371.75	100.00

## 1) 針葉樹林

針葉樹林は、亜寒帯、冷温帯、暖温帯、亜熱帯の各針葉樹林と夏緑針葉樹林の5区分に取りまとめた。針葉樹林は、主として、亜寒帯に分布しており、代表的な群落が選定されている。また、ウラジロモミ、スギ、ヒノキ、モミ、ツガ、ヒメコマツ、アカマツ等暖温帯と冷温帯の中間的な位置や特定の立地に成立する冷温帯や暖温帯の針葉樹林も選定されている。これらの針葉樹林の分布は、以下のとおりである。

### ① 亜寒帯常緑針葉樹林（相観コード：6,21）

件数：119、面積：51,585.4ha

これらの分布は、北海道では稚内、雄阿寒岳・雌阿寒岳を中心とした山群、石狩山地、黒松内、東北では、八甲田、八幡平等の奥羽山脈、三国山脈、中部では、赤石山脈、飛驒山脈、白山等の高山ないし亜高山にみられる。近畿では、大台ヶ原、四国では、石鎚山にみられる（図5.11-1）。

優占種は地方により異なり、北海道ではエゾマツ、トドマツ、東北、中部、近畿ではシラビソ、オオシラビソ（アオモリトドマツ）、コメツガ、トウヒ、四国ではシコクシラベが主に優占している。

亜寒帯常緑針葉低木林（ハイマツ林）は、北海道から本州中部にかけてみられる。

都道府県別に面積をみると、北海道（26,094.2ha）が、他県と比較して広く、続いて、岩手県（4,867.0ha）と長野県（4,400.0ha）等があげられる。

個別にみると、北海道では、雌阿寒岳山麓のアカエゾマツ林（6,100ha）、雄阿寒岳山麓のエゾマツ・トドマツ林（7,360ha）、ウコタキヌプリ山の自然林（4,570ha）、川湯のアカエゾマツ林（4,500ha）、青森県では、八甲田山のオオシラビソ林（1,400ha）、岩手県では、八幡平のオオシラビソ林（3,000ha）、山形県では、吾妻山のオオシラビソ林（2,770ha）、群馬県では、尾瀬のオオシラビソ林（3,500ha）、長野県では、鉢盛山の針葉樹林（2,000ha）等が比較的

広大な面積を占めている。

② 冷温帯常緑針葉樹林（相観コード：7,22）

件数：219、面積：27,795.0ha

これらの分布は、北海道の低地から東北、関東、中部、近畿、四国、九州の各山及び鹿児島県屋久島の山地でみられる（図5.11-2）。

優占種は、北海道ではアカエゾマツ、トドマツ、エゾマツ、本州以南ではウラジロモミ、スギ、ヒノキ、アカマツ、ヒメコマツ、クロベ、アスナロ等である。

都道府県別に面積をみると、長野県（5,820.6ha）が最も広く、続いて、京都府（2,041ha）や秋田県（4,286.2ha）、山梨県（4,930ha）等があげられる。

火山荒原に生育する群落として、北海道硫黄山麓のハイマツ林や群馬県浅間山のアカマツ林等があげられる。

個別にみると、北海道では、江差のヒノキアスナロ・アオトドマツ林（500.7ha）、岩手県では、早池峰のヒノキアスナロ林（1,000.0ha）、秋田県では、桃洞・佐渡のスギ林（1,215ha）、山梨県では、青木が原のヒノキーツガ林（4,800.0ha）、京都府では、芦生の自然林（2,000.0ha）等が主なものである。

③ 暖温帯常緑針葉樹林（相観コード：8,23）

件数：259、面積：12,139.2ha

これらの分布は、東北地方の海岸沿いから関東、中部、近畿、四国、九州及び鹿児島県屋久島の山地にみられる（図5.11-3）。

優占種は、アカマツ、モミ、ヒメコマツ、ヒノキアスナロ等である。

太平洋側では、岩手県陸中海岸の海崖上のアカマツ林が北限にあたり、福島県では、阿武隈山地の東側山麓のモミ林とヒメコマツ林、関東地方では、平野部から内陸部にまで点在してみられる。中部、

近畿では、内陸部の山地に点在し、四国では、瀬戸内海に面した地域と太平洋に面した地域、九州では、北部の海岸に面した地域などにみられる。

日本海側では、新潟県佐渡島の弁天岬のネズ林が北限にあたり、能登半島ではヒノキアスナロ林やモミ林が報告されているが、大半は、富山湾に面した冬季季節風の風背側にあたる地域からのものである。中国地方の日本海側では、海岸砂丘や海崖のクロマツ林、隠岐島のクロベ林などがあげられる。

都道府県別に面積をみると、広島県(3,174.3ha)、高知県(1,148.0ha)、鹿児島県(1,799.0ha)の3県で全対象面積の54%を占める。

個別にみると、広島県では、宮島のモミ、ツガ、アカマツなどの針葉樹林(2,418ha)、高知県では、雁巻山の森林(350ha)、鹿児島県では、大浪池斜面のツガ林(550ha)と屋久島のヤクスギ林(1,219ha)、神奈川県では、奥湯河原のモミ林(200ha)、長野県では、朝日大峰山のアカマツ林(300ha)、佐賀県では、虹の松原のクロマツ林(283ha)等があげられる。

#### ④ 亜熱帯常緑針葉樹林(相観コード:9,24)

件数:5、面積:26.3ha

これらの分布は、鹿児島県、沖縄県の島嶼にみられる。

個別にみると、鹿児島県では、種子島のハイネズ南限群落(0.2ha)、沖縄県では、伊是名島のリュウキュウマツ群落(25.0ha)、オキナワハイネズ群落(1.1ha)等があげられる。

#### ⑤ 夏緑針葉樹林(相観コード:11)

件数:12、面積:1,475.1ha

これらの分布は、東北、中部にみられる。優占種は、カラマツである。

都道府県別に面積をみると、福島県(1ha)、群馬県(600ha)、富山県(0.1ha)、山梨県(2ha)、長野県(300ha)、岐阜県(1ha)、静

岡県（570ha）等があげられる。

個別にみると、福島県では、燧ヶ岳のカラマツ林（1ha）、群馬県では、浅間山のカラマツ林（450ha）、車坂峠のカラマツ林（150ha）、山梨県では、櫛形山のカラマツ林（1ha）、長野県では、熊穴沢のカラマツ林（300ha）、静岡県では、富士山麓南西斜面のカラマツ林（500ha）等があげられる。

## 2) 常緑広葉樹林

常緑広葉樹林は、冷温帯、暖温帯、亜熱帯、ヤシ形林、マングローブ林の5区分に取りまとめた。常緑広葉樹林は、主として、暖温帯から亜熱帯に分布する。暖温帯常緑広葉樹林は、わが国の照葉樹林の主体を占めており、シイ、カシ、タブ等の林が多数選定されている。さらに、亜熱帯の常緑広葉樹林、ビロウ、ソテツ、ヤシ等のヤシ形林、マングローブ林等が奄美、沖縄諸島を中心に選定されている。これらの常緑広葉樹林の分布は、以下のとおりである。

### ① 冷温帯常緑広葉樹林（相観コード：25）

件数：18、面積：1,534.6ha

これらの分布は、青森県、秋田県、群馬県、新潟県、富山県、岐阜県、静岡県、三重県、滋賀県、愛媛県、佐賀県、長崎県、鹿児島県にみられる。

優占種はシャクナゲ類やアセビ、ヤマグルマ、イヌツゲなどで、尾根付近の風衝地や急斜面に生育している。

個別にみると、青森県では、権山のヤブツバキ北限地（18ha）、秋田県では、松ヶ崎のカシワ林（270ha）、群馬県では、草津白根山のアズマシャクナゲ群落（422ha）、新潟県では、白鳥山のホンシャクナゲ林（225ha）、ドンデン山のハクサンシャクナゲ林（100ha）、岐阜県では、養老山頂のアセビ群落（85ha）、長崎県では、野岳のイヌツゲ群落（80ha）、普賢岳のヤマグルマ林（10ha）、鹿児島県では、屋久島のヤクシマシャクナゲ群落（250ha）等があげられる。

② 暖温帯常緑広葉樹林（相観コード：13,26）

件数：1,361、面積：25,545.3ha

これらの分布は、太平洋側では岩手県、日本海側では秋田県から鹿児島県までみられる（図5.11-4）。

優占種は、シイ類、カシ類、タブ、ヤブツバキ等である。

太平洋側では、岩手県から福島県までは、海岸付近に存在する。宮城県牡鹿半島付近ではタブ林が対象とされている。関東以南の各地方では、海岸線、平野部及び山間部にみられる。

日本海側では、秋田県男鹿半島（ヤブツバキ林）、山形県飛島（タブ林）から新潟県までは海岸付近に存在する。能登半島および富山平野以南では、海岸線、平野部、丘陵地などでみられる。

都道府県別に件数をみると、島根県（107件）、山口県（103件）、兵庫県（69件）、石川県（50件）が比較的多い。

都道府県別に面積をみると、宮崎県（7,721.3ha）、大分県（3,601.4ha）、東京都（2,220.0ha）、鹿児島県（1,677.0ha）等が他県に比較して高い値を示す。

兵庫県と石川県では、対象となる常緑広葉樹林のほとんどが社叢のため、一件当たりの面積は数haである。

県別に比較的規模の大きなものをみると、岩手県では、三貫島のタブ林（35ha）、宮城県では、樺島のタブ林（20ha）、山形県では、飛島のタブ林（50ha）、茨城県では、仏頂山の照葉樹林（250ha）、東京都では、御蔵島の自然林（1,200ha）、神津島のスダジイ林（445ha）、岐阜県では、金華山のコジイ林（220ha）、静岡県では、明神峡のシイ・カシ林（220ha）、三重県では、香落溪谷のアラカシ林（240ha）、島根県では、奥匹見峡のウラジログシ林（200ha）、広島県では、深山峡の自然林（447ha）、山口県では、高瀬峡谷のアラカシ林（500ha）、福岡県では、志賀島のマテバシイ林（200ha）、長崎県では、対馬・御岳の山地自然林（411ha）、熊本県では、北向山のウラジログシ林（120ha）、大分県では、河岸断崖のアラカシ林（1,900ha）、宮崎県では、境川下流域の照葉樹林（1,000ha）、鹿

児島県では、屋久島のヤマグルマ林（800ha）等があげられる。

③ 亜熱帯常緑広葉樹林（相観コード：14,27）

件数：104、面積：6,274.2ha

これらの分布は、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県にみられ、大半は、沖縄諸島にみられる（図5.11-5）。

個別にみると、大分県では、大島のアコウ林、宮崎県では、虚空蔵島の亜熱帯性植物群落、鹿児島県では、湯湾岳のスタジイ林等があげられる。特に、沖縄県では西表島の中部山地の自然林（1,500ha）、普久川上流域の照葉樹林（1,000ha）は、面積の大きなものとしてあげられる。

④ ヤシ形林（相観コード：43）

件数：22、面積：225.80ha

これらの分布は、愛媛県、高知県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県までの島嶼や岬などに点在してみられる。

優占種は、ビロウ、ソテツ、ヤエヤマヤシ、ニッパヤシ等があげられる。

多くは、10ha未満であるが、南大東島のビロウ林（50ha）、粟国島のソテツ群落（40ha）、渡名喜島の自然植生（30ha）、奄美大島のソテツ低木林（30ha）が比較的面積がまとまったものである。

⑤ マングローブ林（相観コード：44）

件数：17、面積：340.6ha

これらの分布は、長崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県までの島嶼や湾岸にみられる（図5.11-6）。

優占種は、マングローブ、ハマジンチョウ、メヒルギ、オヒルギ、サガリバナ等があげられる。

多くは、20ha未満であるが、奄美大島のマングローブ林（71ha）、仲間川流域のマングローブ林（150ha）、名蔵川河口域のマングロ

ブナ林（75ha）は、比較的面積がまとまったものである。

### 3) 夏緑広葉樹林

夏緑広葉樹林は、亜寒帯、冷温帯、暖温帯、亜熱帯の4区分に取りまとめた。冷温帯に主として分布しておりブナ林が大半を占め、シデ類やミズナラの林もみられる。亜寒帯では、ダケカンバ、ミヤマナラ等の林、暖温帯では、ケヤキ、コナラ、シデ類等の林が選定されている。これらの夏緑広葉樹林の分布は、以下のとおりである。

#### ① 亜寒帯夏緑広葉樹林（相観コード：16,28）

件数：44、面積：13,453.2ha

これらの分布は、宮崎県西臼杵郡の山地風衝低木林（ウラジロヨウラク－ミヤマナラ群落）を南限として、北海道、東北、中部の亜高山帯にみられる（図5.11-7）。

優占種は、ダケカンバ、ミヤマナラ、ミヤマハンノキ、コメツツジ、ケショウヤナギ等があげられる。

北海道では、ミヤマハンノキの低木林、ケショウヤナギ林、東北では、ミヤマナラ林、中部では、サラサドウダン低木林、ミヤマハンノキ低木林、ドロノキ林、ダケカンバ林等が対象とされている。

個別にみると、岩手県焼石岳のミヤマナラ林（500ha）、群馬県の朝日岳－小沢岳のミヤマナラ林（3,500ha）等は、広大な面積を占めている。また、群馬県と栃木県にまたがる日光白根山、岐阜県の乗鞍岳、御岳からは、小面積のミヤマハンノキ－ダケカンバ林が選定されている。

#### ② 冷温帯夏緑広葉樹林（相観コード：17,29）

件数：762、面積：141,458.24ha

これらの分布は、千葉県と沖縄県を除く各都道府県で見られる（図5.11-8）。特に、奥羽山脈から関東山地、中部山岳、中国山地にかけて分布している。

優占種は、ブナ、ミズナラ、シデ類、カシワ等である。

冷温帯の気候的極相林であるブナ林は、北海道の黒松内地区から鹿児島県高隅山まで分布している。また、北海道から東北の日本海側の海岸付近では、カシワ林やエゾイタヤーシナノキ林、本州や九州の山地帯ではシデ類とミズナラ林がみられる。

面積をみると、中部以北に全面積の約7割が存在する。

個別にみると、北海道では、狩場山塊のブナ林（10,700ha）、大千軒岳の自然林（5,330ha）、秋田県と岩手県では、栗駒山周辺のブナ林（8,750ha）、青森県と秋田県では、赤石川及び粕毛川源流のブナ林（6,300ha）、岩手県では、葛根田のブナ林（5,000ha）等が比較的大きなものである。

低木林としては、各地の山地風衝地、火山荒原に生育するツツジ科低木林があげられる。比較的まとまったものとして、宮崎県では、霧島山系のミヤマキリシマ群落（582ha）、東京都では、日原の石灰岩地のチチブミネバリやヨコグラノキの低木林（100ha）等があげられる。

### ③ 暖温帯夏緑広葉樹林（相観コード：18,30）

件数：261、面積：3,380.2ha

これらの分布は、北海道、青森、岩手、群馬、長野、沖縄を除く都府県にみられ、鹿児島県諏訪瀬島の火山山頂付近の植生が南限にあたる（図5.11-9）。

優占種は、コナラ、クヌギ、クリ、ケヤキ、ハンノキ、シデ類、キイシモツケ、マルバサツキ、フサザクラ等があげられる。

個別にみると、福島県では、御斎所のケヤキ林（40ha）、東京都では、狭山丘陵のコナラ林（600ha）、広島県では、藤尾溪谷の峡谷植生（135ha）、山口県では、崖石峡谷のケヤキ林（260ha）等が比較的面積の大きな群落としてあげられる。

和歌山県竜門山の蛇紋岩地のキイシモツケ群落、徳島県高の瀬峡と高知県石立山の石灰岩地のイワシデ群落、鹿児島県諏訪瀬島の火山山頂荒原のマルバサツキ群落等は、特異な立地に成立する。

④ 亜熱帯夏緑広葉樹林（相観コード：19）

これらの分布は、宮崎県では、日南海岸の鶴戸のギョボク林（0.03ha）、沖縄県では、根謝銘城跡のクスノハカエデ林（110ha）、許田のヤエヤマネム群落（0.1ha）の3件である。

4）高山植生

高山植生としては、高山の岩石地や風衝地に生育する高山荒原植生や日本海側の多雪地に発達する雪田植生を対象とした。また、亜寒帯植生として大きくくくられた中に高山植生が含まれている例も多い。主な高山植生の分布は、以下のとおりである。

① 高山荒原植生（相観コード：50）

件数：41、面積：251.0ha

高山荒原植生は、青森県、秋田県、福島県、群馬県、富山県、石川県、山梨県、岐阜県、静岡県の9県から選定されている。これらの分布は、奥羽山脈及び飯豊山、草津白根山、赤石山脈、白山でみられる（図5.11-10）。

個別にみると、青森県では、白神岳の風衝草原、赤倉岳高山植物群落、岩木山の崖壁植物群落、秋田県では、八幡平の岩壁植生、福島県では、飯豊山の乾生草原、群馬県では、蛇骨岳の高山風衝低木林、富山県では、白馬鍾のツクモグサ群落、山梨県では、北岳のキタダケソウ群落、岐阜県では、乗鞍岳のコマクサ群落、静岡県では、千枚岳の高山植物等が比較的まとまったものとしてあげられる。

② 雪田植生（相観コード：51）

件数：36、面積：1,716.9ha

雪田植生は、青森県、秋田県、山形県、福島県、群馬県、新潟県、富山県、石川県、岐阜県の9県から選定されており、いずれも日本海型気候の多雪地である。これらの分布は、高山荒原植生と同様に、八甲田山、鳥海山、月山、飯豊山、吾妻山、三国山脈、飛驒山脈、白山でみられる。

個別にみると、青森県では、八甲田山の雪田植生（200ha）、秋田県では、萩形の岩壁植生（500ha）、山形県では、月山の雪田植生（411ha）、鳥海山の雪田植生（117ha）等が比較的まとまったものとしてあげられる。

#### 5) 池沼、湿地、河辺、海浜植生

浮葉・沈水植物等の水草を対象とした植物群落、亜寒帯から亜熱帯までの様々な湿原、ヨシやヤナギ等の河辺植生、ハマナス、ハマオモト等の砂丘植生が選定されている。主な池沼、湿地、河辺、海浜植生の分布は、以下のとおりである。

##### ① 浮葉・沈水植物群落（相観コード：47）

件数：46、面積：6,778.9ha

これらの分布は、北海道（宗谷郡猿払町キモマ沼）から沖縄県までの主に暖温帯の池沼にみられる（図5.11-11）。

浮葉植物群落は、ジュンサイ、ガガブタ、ヒシ、オニバス等、沈水植物群落は、エビモ、ササバモ、クロモ等の水草類が優占する。特に、オニバス群落が多く報告されている。

個別にみると、青森県では、小川原湖の水生植物群落（6,320ha）、秋田県では、乙越沼の水生植物群落（12ha）、群馬県では、たたら沼干拓地の水生植物群落（34ha）、新潟県では、福島潟の沼沢植物群落（120ha）、朝日池の水生植物群落（80ha）、佐潟のオニバス群落（50ha）、広島県では、千田町のオニバス群落（12ha）、大分県では、宇佐平野のため池の水生植物群落（29ha）、沖縄県では、塩川のカワツルモ（0.1ha未満）等があげられる。

##### ② 湿地植生（相観コード：53）

件数：334、面積：37,291.32ha

これらの分布は、北海道から沖縄県までみられ、亜寒帯から亜熱帯までの様々な湿地植生が対象とされている（図5.11-12）。

面積的には、北海道・東北・関東に97%（36,210.69ha）が遍在し

ている。特に、北海道には100ha以上の広大な面積の湿原植生が13ヶ所存在する。

個別にみると、北海道では、釧路湿原（18,290ha）、サロベツ原野（3,540ha）、猿払川中流の湿原（2,530ha）、霧多布湿原（2,250ha）、風蓮湿原（1,600ha）等がある。青森県では、八甲田山の湿原（1,500ha）、岩手県では、八幡平の湿原（170ha）、宮城県では、伊豆沼・内沼の沼沢地植生（560ha）、福島県と群馬県では、尾瀬が原湿原（750ha）、茨城県では、菅生沼の植生（231ha）、栃木県では、戦場が原湿原（260ha）、滋賀県では、西の湖のヨシ群落（167ha）等があげられる。

### ③ 河辺植生（相観コード：54）

件数：26、面積：2,077.8ha

河辺植生は、近年、護岸・治水工事等によって減少している植物群落の1つである。

これらの分布は、宮城県追波川、東京都多摩川、神奈川県相模川にみられ、この3河川で92%（1,906.2ha）を占める（図5.11-13）。

河辺植生には、ツルヨシ、カワラノギク、オギ、ヨシ等の草本群落や、ヤナギ類、アキグミ等の低木の群落がある。

個別にみると、宮城県では、追波川の河辺植生（840ha）、北上川の河辺植生（80ha）、秋田県では、小坂川のホツスガヤ群落（37ha）、東京都では、多摩大橋下流の河辺植生（68ha）、多摩川、浅川合流点付近の河辺植生（52ha）、多摩川拝島橋付近の河辺植生（47ha）、神奈川県では、相模川の河辺植生（800ha）等があげられる。

### ④ 海浜植生（相観コード：55）

件数：196、面積：8,048.4ha

海浜植生は、河辺植生と同様に、砂丘地帯では農業、造林が行われ、さらに護岸工事、埋め立て、海水浴客による攪乱等が加えられ、

全国的に減少している植物群落の1つである。

これらの分布は、北海道から沖縄県までの海岸に面した砂浜、海崖等にみられる（図5.11-14）。

優占種は、砂浜、礫浜の群落では、ハマグルマ、コウボウムギ、ハマニンニク、ハマオモト等、海崖の群落では、ホソバワダン、ハチジョウススキ、ダルマガク等である。北海道と東北ではハマナス群落が、九州ではハマオモト群落が比較的多く選定されている。

個別にみると、北海道では、根室海岸の草原（1,810ha）、積丹半島海岸段崖植物群落（1,210ha）、以久科海岸草原群落（955ha）等100ha以上の海浜植生が10ヶ所みられる。宮城県では、仙台湾沿岸の砂浜植生（240ha）、秋田県では、男鹿半島の海岸植物群落（100ha）、千葉県では、九十九里浜の砂丘植生（75ha）、新潟県では、頸城海岸の砂丘植物群落（200ha）、宮崎県では、日向灘中部海岸の海浜植生（87ha）、鹿児島県では、志布志湾の砂丘植生（150ha）、宝島の砂丘植生（110ha）、沖縄県では、南大東島の海浜植生（64ha）等があげられる。

## 6) 個体群（相観コード：58）

件数：226、面積：31,340.78ha

第2回調査では、個体群は単独による集計は行っておらず、それを含む相観区分により集計されていた。ここで取り扱う個体群は、第3回の調査で取り上げられたものである。これらの分布は、全国にみられる（図5.11-15）。

選定された件数は、青森県（52件）、群馬県（46件）、静岡県（46件）、山口県（41件）、山梨県（40件）、熊本県（35件）、宮崎県（33件）等で多く、埼玉県（2件）、東京都（1件）、兵庫県（2件）、岡山県（1件）等で少ない。

個体群の構成種としては、ホルトノキ、サラサドウダン、レンゲツツジ、シロヤシオ、ハクサンシャクナゲ、ホンシャクナゲ、バクチノキ、オガタマノキ、イヌマキ、コウヤミズキ、ハイビャクシン、

ユキツバキ、カタクリ、ノハナショウブ、エヒメアヤメ、ヒメユリ、ダルマガク、ツキヌキソウ、オオサクラソウ、コアツモリソウ、サギスゲ、ヤシャイノデ、シロヤマシダ、カツモウイノデ、カネコシダ、コタニワタリ、イチョウシダ等様々な種があげられる。

## 7) 相観区分と保護制度

ここでは、相観区分がどのような保護制度のもとに存在しているのかを調べた。保護制度は、自然公園法、自然環境保全法、文化財保護法の3つを対象とした。相観区分と保護制度との集計結果は、表5.11-4に示した。

自然公園、自然環境保全地域に存在する特定植物群落は、2,728件(53%、重複あり)である。

自然公園、自然環境保全地域に存在する割合が高い相観区分は、植生一般(82%)、亜寒帯植生(80%)、亜寒帯常緑針葉高木林(80%)、亜寒帯常緑針葉低木林(92%)、亜寒帯夏緑広葉高木林(86%)、亜寒帯単子葉草原(100%)、高山荒原植生(95%)、雪田植生(90%)、火山荒原植生(96%)、蘚苔類植物群落(100%)、冷温帯常緑針葉低木林(86%)、冷温帯ササ原(89%)、夏緑針葉高木林(83%)、暖温帯常緑針葉低木林(85%)、亜熱帯常緑針葉高木林(100%)等があげられる。

一方、自然公園、自然環境保全地域に存在する割合が低い相観区分は、亜熱帯植生(29%)、亜熱帯常緑広葉高木林(26%)、亜熱帯常緑広葉低木林(19%)、亜熱帯ササ原(0%)、暖温帯ササ原(20%)、夏緑広葉高木植林(29%)、浮葉・沈水植物群落(24%)、流水、岩上植物群落(25%)等があげられる。

このように亜寒帯、冷温帯に属する相観区分は、自然公園法、自然環境保全法の下に含まれる割合が高いが、亜熱帯及び池沼等に属する相観区分は上記の保護制度に含まれる割合が低いと考えられる。

天然記念物の指定と重複する地域に存在する割合が高い相観区分は、亜熱帯植生(57%)、夏緑針葉植林(50%)、マングローブ林(53%)

%)、蘚苔類植物群落(50%)、流水、岩上植物群落(87%)等があげられる。

一方、天然記念物の指定と重複する地域に存在する割合が低い相観区分は、亜寒帯常緑針葉高木林(9%)、亜寒帯常緑針葉低木林(4%)、亜寒帯夏緑広葉高木林(0%)、亜寒帯夏緑広葉低木林(3%)、亜寒帯広葉草原(6%)、亜寒帯ササ原(0%)、亜寒帯単子葉草原(0%)、冷温帯夏緑広葉高木林(10%)、亜熱帯常緑針葉高木林(0%)、亜熱帯常緑針葉低木林(0%)、亜熱帯夏緑広葉高木林(0%)、亜熱帯ササ原(0%)、岩上・多礫地草本植生(10%)、ツル植物群落(0%)、浮水植物群落(0%)、河辺植生(0%)、個体群(9%)等があげられる。

このようにマングローブ林、蘚苔類植物群落、流水、岩上植物群落等に属する相観区分は、天然記念物の指定と重複する割合が高いが、亜寒帯、亜熱帯等に属する相観区分は、上記の指定と重複する割合が低いと考えられる。

次に、比較的件数の多い相観区分と保護制度との関連をみると、以下のとおりである。

#### ① 暖温帯常緑広葉高木林(1294件)

自然公園、自然環境保全地域に存在する暖温帯常緑広葉高木林は、506件(39%)である。

保護制度がかかっているもののうちこの相観区分が含まれる割合が高い地域区分は、国定公園特別地域24%(122件)、都道府県立自然公園普通地域20%(100件)、国立公園特別地域16%(83件)等である。

天然記念物の指定と重複するものは、282件であり、中でも都道府県指定天然記念物が多く130件、続いて、国指定天然記念物73件、市町村指定天然記念物65件となる。

#### ② 冷温帯夏緑広葉高木林(693件)

自然公園、自然環境保全地域に存在する冷温帯夏緑広葉高木林は、

415件（60%）である。

この相観区分が含まれる割合が高い地域区分は、国立公園特別地域16%（67件）、都道府県立自然公園普通地域11%（46件）、都道府県立自然公園特別地域11%（45件）等である。

天然記念物の指定と重複するものは、68件であり、都道府県指定天然記念物が25件、続いて、国指定天然記念物23件、市町村指定天然記念物16件となる。

### ③ 湿地植生（334件）

自然公園、自然環境保全地域に存在する湿地植生は、161件（48%）である。

この相観区分が含まれる割合が高い地域区分は、国立公園特別地域20%（32件）、国定公園特別地域14%（22件）、都道府県立自然公園特別地域14%（22件）、国立公園特別保護地区11%（18件）等である。

天然記念物の指定と重複するものは、68件であり、都道府県指定天然記念物が27件、続いて、国指定天然記念物21件、市町村指定天然記念物13件となる。

### ④ 暖温帯常緑針葉高木林（242件）

自然公園、自然環境保全地域に存在する暖温帯常緑針葉高木林は、121件（50%）である。

この相観区分が含まれる割合が高い地域区分は、国定公園特別地域21%（25件）、都道府県立自然公園普通地域19%（23件）、都道府県立自然公園特別地域15%（18件）、国立公園特別地域14%（17件）等である。

天然記念物の指定と重複するものは、39件であり、国指定天然記念物11件、都道府県指定天然記念物15件、市町村指定天然記念物8件となる。

⑤ 個体群（226件）

自然公園、自然環境保全地域に存在する個体群は、94件（42%）である。

この相観区分が含まれる割合が高い地域区分は、国立公園特別地域40%（38件）、都道府県立自然公園特別地域16%（15件）、国立公園特別地域14%（13件）、都道府県立自然公園普通別地域14%（13件）等である。

天然記念物の指定と重複するものは、20件であり、中でも都道府県指定天然記念物が11件、続いて、市町村指定天然記念物4件、国指定天然記念物3件となる。

⑥ 冷温帯常緑針葉高木林（215件）

自然公園、自然環境保全地域に存在する冷温帯常緑針葉高木林は、133件（62%）である。

この相観区分が含まれる割合が高い地域区分は、国立公園特別地域19%（25件）、国立公園特別地域16%（21件）、都道府県立自然公園特別地域12%（16件）等である。

天然記念物の指定と重複するものは、28件であり、国指定天然記念物10件、都道府県指定天然記念物8件、市町村指定天然記念物5件となる。

⑦ 海浜植生（197件）

自然公園、自然環境保全地域に存在する海浜植生は、123件（62%）である。

この相観区分が含まれる割合が高い地域区分は、国立公園特別地域32%（39件）、国立公園特別地域18%（22件）、都道府県立自然公園普通地域11%（14件）、都道府県立自然公園特別地域9%（11件）等である。

天然記念物の指定と重複するものは、34件であり、中でも市町村指定天然記念物が14件、都道府県指定天然記念物13件、国指定天然

記念物 5 件となる。

以上のように相観区分と保護制度との関連を見ると、冷温帯夏緑広葉高木林や海浜植生は、約 60%のものが自然公園、自然環境保全地域などに存在するが、暖温帯常緑広葉高木林、湿地植生、個体群などは、前者よりも低く、約40%から50%のものが存在するにとどまっている。

## (12) 主な群落の分布状況

ここでは、既に2.3(変化状況と変化原因の集計結果)で選定された14群落を含む特定植物群落の分布を調べた。14群落は、以下のとおりである。

気候帯植生	群 落
寒帯・高山帯自然植生(3)	高山ハイデ及び風衝草原、雪田草原
亜寒帯・亜高山帯自然植生(13)	シラビソートウヒ群落
ブラク拉斯域自然植生(25)	チシマザサーブナ群団、スズタケ ブナ群団
ヤブツバキク拉斯域自然植生(35)	サカキウラジロガシ群集、サカキ コジイ群集、スダジイ群落、タブ 群落、ウバメガシ群落
河辺・湿原・塩沼地、砂丘植生(20)	ツルコケモモミズゴケク拉斯(高 層湿原)、ヌマガヤオーダー(中間 湿原)、ヨシク拉斯(低層湿原)、 砂丘植生

( )内は含まれる群落の種類数である。

なお、ここで表示する分布は14群落を含む特定植物群落全てであり、他の群落を同時に含んでいるものが多いことに注意すべきである。

### 1) 寒帯・高山帯自然植生

高山ハイデ及び風衝草原、雪田草原の分布は、以下のとおりである。

#### ① 高山ハイデ及び風衝草原

高山の風衝地は、風当たりが強く、冬は雪に被われることが少ないので寒さが厳しく、乾燥が激しい。このような立地には特有の植生がみられる。

高山ハイデは、ツツジ科植物を主とした乾生の小低木群落であるコメバツガザクラミネズオウ群集にまとめられ、北海道のチシマツガザクラ亜群集と本州のトウヤクリンドウ亜群集に区分される。

風衝草原は、高山ハイデが発達できないような立地に成立する草原(オヤマノエンドウヒゲハリスゲ群集)であり、落葉性の低木とイネ科、カヤツリグサ科を主とした乾燥に強い草本とからなる。

この植生は、北海道、東北、中部地方の各山地にみられ、117件、360,188ha が選定されている（表 5.12-1、図 5.12-1）。面積が10ha未満のものが、約43%（51件）を占める（表 5.12-2）。

北海道では、知床半島、石狩山地、日高山脈に比較的分布地が集中しており、他に礼文島、利尻島等があげられる。

東北では、白神山地、岩木山（青森県）、和賀岳、秋田駒ヶ岳（秋田県）、早池峰山、岩手山、焼石連峰（岩手県）、蔵王山（宮城県）、朝日、飯豊山地（山形県）等に点在している。

中部では、飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈に分布地が集中している。

## ② 雪田草原

雪田植生は、冬の季節風の風下側である山の北面から東面に発達し、積雪が多い日本海側の高山に広くみられ、雪の少ない赤石山脈等では貧弱である。

融雪後でも水が供給される立地では、イワイチョウ等の草原、母岩が現れていたり乾燥しやすい立地では、アオノツガザクラを主とした小低木群落がみられる。

この植生は、北海道から静岡県において、77件、312,417ha が選定されている（表 5.12-3、図 5.12-2）。面積が10ha未満のものが、約32%（25件）を占める。

北海道では、知床半島、石狩山地、日高山脈、利尻島等にみられる。

東北では、真昼山地、月山、朝日、飯豊山地等にみられる。

中部では、飛騨山脈、赤石山脈にみられる。

## 2) 亜寒帯・亜高山帯自然植生

### ① シラビソートウヒ群団

亜高山針葉樹林は、高木の種類が、2種から3種で多くても5種をこえない。これらの林床は、コケ類、地衣類、シダ類等が大半を

占める。

高木は、シラビソ、オオシラビソであり、これにトウヒ、乾燥地ではコメツガがみられる。

この植生は、青森県から高知県において、102件、279,234haが選定されている（表5.12-4、図5.12-3）。面積が100haから5,000haまでのものが、約43%（45件）を占める。

東北では、積雪が多く、群落の発達が悪くシラビソやトウヒを欠いている。八甲田山、八幡平、蔵王山、吾妻山等で比較的面積の大きなオオシラビソ林がみられる。北上山地のうち、青松葉山ではオオシラビソ林、早池峰ではコメツガが混交し、五葉山ではオオシラビソに代わってコメツガとヒノキアスナロの林がみられる。

関東、中部では、関東山地北部、飛驒山脈、木曾山脈、赤石山脈、越後山脈、白山等にみられる。関東山地北部では、浅間山と黒斑山にシラビソ-オオシラビソ林、三国山脈では、苗場山から志賀高原にかけてオオシラビソ林とハイマツ林が対象とされている。中部では、八ヶ岳、金峰山においてシラビソ-オオシラビソ林とハイマツ林、小金沢山においてコメツガ-シラビソ林が対象とされている。上信越高原（黒姫・戸隠山等を含む）では、オオシラビソ林、コメツガ-オオシラビソ林、コメツガ林とハイマツ林、富士山では、コメツガとシラビソの林が対象とされている。白山では、亜高山帯以上ではダケカンバ林の分布面積が多く、オオシラビソ林は小面積で分布する。

近畿では、紀伊山地の大台が原のトウヒ林、大峰山のシラビソ林、四国では、剣山、石鎚山等でシコクシラベ林が選定されている。

### 3) ブナクラス域自然植生

日本の夏緑広葉樹林帯は、最近100年位の間には人々の影響が加えられており、ブナ林等が伐採され、スギ、ヒノキ、カラマツ等が跡地に植林されてきた。

ブナ林分布域の気候は、冬のモンスーンによって多量の降水（雪）

がもたらされる日本海型気候とその影響をあまり受けない太平洋型気候の2つがみられる。この2つの気候環境は、ブナ林の林床植生に変化をもたらし、日本海型気候下ではチシマザサーブナ林、太平洋型気候下ではスズタケブナ林が発達する。

日本のブナ林は、北海道渡島半島の黒松内付近を北限とし、鹿児島県大隅半島の高隈山を南限として分布することが知られている。

ブナ林を含む特定植物群落は、全国で602件、500,915haが選定されている（植生一般等の大きなくくりの中に一部がブナ林を含むものも存在するため、この面積にはブナ林以外のものも含まれる）。特定植物群落調査においても、北限の「歌才のブナ林」から南限の「高隈山系のブナの南限林」まで各地から数多くのブナ林が選定されている。

#### ① チシマザサーブナ群団

この日本海側のブナ林は、北海道の渡島半島から本州中部にかけて広く分布しており、そのうち大規模で代表的な群落が特定植物群落として選定されている。近畿・中国地方では、大面積のブナ林は分布していないが、琵琶湖西部から中国山地にかけて小規模なブナ林がもたらさず特定植物群落として選定されている（図5.12-4）。

この植生は、全国で357件、397,423haが選定されており、50ha未満のものが、約50%（176件）を占める（表5.12-2, 5）。

北海道では、狩場山塊、大千軒岳、大平山、ピリカのブナ林等があげられる。

東北では、栗駒山周辺（秋田県、岩手県）、赤石川及び粕毛川源流（青森県、秋田県）、葛根田（岩手県）、蔵王山北部及び雁戸山、生保内川源流部、翁山・小国川源流部（山形県）、大旭又沢、白岩岳（秋田県）等のブナ林があげられる。

関東では、朝日岳から小沢岳、武尊山北面（群馬県）等のブナ林があげられる。

中部では、カヤノ平（長野県）、関田山脈（長野県、新潟県）等

のブナ林があげられる。

近畿では、1件当たりの面積が300ha以下であり、三国山（鳥取県）、あざみヶ岳（島根県）、新庄（岡山県）、大万木山、比婆山（広島県）等のブナ林があげられる。

## ② スズタケ-ブナ群団

太平洋側のブナ林は、本州、四国、九州の寡雪地帯の山地に分布するが、日本海側のものと比較すると、小規模のものが多く面積的にも限られている（図5.12-5）。

この植生は、全国で252件、225,045haが選定されており、50ha未満のものが、約50%（131件）を占める（表5.12-2, 5）。

東北では、北上高地の太平洋側、阿武隈山地にみられ、黒森山、十二神山、津軽石川源流域（岩手県）、西風藩山、黒沢山、谷山、手倉山、佐保山（宮城県）、木戸川、八溝山、背戸峨廊（福島県）等のブナ林等があげられる。

関東では、関東山地、丹沢山地、箱根地域等にみられ、奥多摩日原川上流域（東京都）、丹沢山（神奈川県）等に比較的面積の大きな群落が存在する。

中部では、赤石山脈、伊豆半島の天城山（静岡県）、富士山大室山（山梨県）、四阿屋山、焼山、風越山（長野県）等にみられる。飛驒山脈（長野県）では80,000haが対象とされているが、ブナ林はごく一部にすぎない。

近畿では、紀伊山地にみられる。大杉谷、迷岳、明神平（三重県）、伯母子岳、高見山、金剛山（奈良県）、護摩壇山、果無山脈、法師山、若薮山（和歌山県）等のブナ林があげられる。

中国では、物見岳（山口県）でみられる。

四国では、剣山地と石鎚山脈にみられる。剣山、高城山、肉湊谷、三嶺、柴小屋、高越山、国見山（徳島県）、四国カルスト、小屋山（愛媛県）、中央部の笹ヶ峰周辺（高知県）等のブナ林があげられる。

九州では、九州中央山地に主にみられる。内大臣、五家荘、市房山、白髪岳（熊本県）、九重山、祖母傾山、犬ヶ岳、英彦山、釈迦・御前岳（大分県）、東霧島山、白岩山、扇山、奥椎葉県境（宮崎県）等のブナ林があげられる。

#### 4) ヤブツバキクラス域自然植生

この常緑広葉樹林帯では、日本人の生活域として古くから人手が加えられてきたため、自然林は非常に少なく、社寺林やあまり人の近づかない川沿いの急斜面や離島にこの断片を見ることができる程度である。

この自然林は、海岸沿いのシータブ林と内陸のカシ林に分けることができる。カシ林の分布上限付近では、モミ、ツガ等が優占していることが多い。

##### ① サカキーウラジロガシ群集

この群落は、宮城県から鹿児島県において、248件、33,306haが選定され、内陸部を中心に分布がみられる（表5.12-7、図5.12-6）。面積が10ha未満のものが、約54%（135件）を占める。

面積が比較的大きな群落（400ha以上）は、鹿児島県、宮崎県、長崎県にみられ、屋久島のヤマグルマ林、肝属山地の照葉樹林（鹿児島県）、鰐塚山周辺の照葉樹林（宮崎県）、対馬御岳山の自然林（長崎県）等があげられる。

##### ② サカキーコジイ群集

この群落は、岐阜県から鹿児島県において、211件、4,863haが選定され、分布の中心は、近畿、中国、四国、九州の内陸低山地である（表5.12-8、図5.12-7）。面積が10ha未満のものが、約77%（162件）を占める。

面積が比較的大きな群落（200ha以上）は、宮崎県、大分県、岐阜県にみられ、田辺周辺、秋社川周辺（宮崎県）、宇目町（大分県）、金華山（岐阜県）等の樹林があげられる。

### ③ スタジイ群落

この群落は、福島県から沖縄県において、500件、12,874haが選定され、海岸線に沿って分布している（表5.12-9、図5.12-8）。面積が10ha未満のものが、約79%（397件）を占める。

面積が比較的大きな群落（500ha以上）は、沖縄県、宮崎県、鹿児島県、東京都にみられ、西表島中部山地、普久川上流域（沖縄県）、小松山山系（宮崎県）、湯湾岳（鹿児島県）、御蔵島（東京都）等の樹林があげられる。

分布の北限は、太平洋側では、福島県仁井田の樹林（1.5ha）、日本海側では、新潟県小佐渡の樹林（7.5ha）があげられる。

### ④ タブ群落

タブ林は、海岸沿いの低地や谷間で土壌が深く、やや湿っているところに生育する。この群落は、岩手県から沖縄県において、215件、10,000haが選定されている（表5.12-10、図5.12-9）。

このタブ林は、構成種の違いにより、イノデータブ群集、ムサシアブミータブ群集に分けられている。イノデータブ群集は、伊豆半島以東及び日本海沿岸、ムサシアブミータブ群集は、四国、九州の海岸に近い沖積地や谷沿いの崖錐地に生育している。

面積が10ha未満のものが、約75%（161件）を占める。

面積が比較的大きな群落（30ha以上）は、沖縄県、長崎県、宮崎県、山口県、山形県、岩手県にみられ、魚釣島（沖縄県）、男女群島（長崎県）、満谷国有林（宮崎県）、小祝島（山口県）、飛島（山形県）、三貫島（岩手県）等の樹林があげられる。

分布の北限は、太平洋側では、岩手県船越大島の樹林（5ha）、日本海側では、秋田県南部の象潟周辺と飛島（50ha）があげられる。

### ⑤ ウバメガシ群落

この群落は、海岸の岩場とか急斜地のような土壌の極めて浅い場所に生育しており、多様な海岸風衝低木林を含む。

この群落は、青森県から沖縄県において、198件、4,222haが選定されている（表5.12-11、図5.12-10）。面積が10ha未満のものが、約71%（141件）を占める。

面積が比較的大きな群落（140ha以上）は、大分県、長崎県、三重県、和歌山県にみられ、日豊海岸のがけ斜面（大分県）、男女群島（長崎県）、錦港周辺（三重県）、浦神半島（和歌山県）等の樹林があげられる。

青森県では、尻屋崎のハイネズ、ミヤマビャクシン低木林、椿山と深浦町のヤブツバキ林として選定されている。

太平洋側では、相模湾沿岸の海崖のマサキートベラ林やトベラークロマツ林、知多半島から紀伊半島南東部、瀬戸内海沿岸のウバメガシ林が選定されている。

日本海側では、島根県西部の石見郡の海崖上のトベラークロマツ林、玄海灘に面した海岸のハマビワ、ハマヒサカキ、トベラなどの海岸風衝林、対馬のハイビャクシン低木林、男女群島のマサキモクタチバナ林やマルバニッケイ林として選定されている。

## 5) 湿原

主に地形的な原因で過湿状態が保たれる場所には、耐水性の強い植物が繁茂する。泥炭湿原のうちでも、地表面が凹形もしくは平坦で少なくとも夏期には水面下にあるものを低層湿原、泥炭が集積して小凸地や小凹地及び泥炭池沼等の構造を持ったものを高層湿原という。これらの中間的な性格を持つものは、中間湿原という。

低層湿原では、比較的無機質に富み、酸性度もそれほど高くない。これに対して、高層湿原では、雨水だけであり貧養酸性の状態にある。

### ① 高層湿原（ツルコケモモ－ミズゴケクラス）

この湿原は、主に北海道から中部において、88件、40,804haが選定されている。また、京都府、岡山県、鹿児島県に隔離的に分布する（表5.12-12、図5.12-11）。面積が10ha未満のもの

が、約47% (42件) を占める。

北海道では、湿地植生として選定された特定植物群落の多くは、高層、中間、低層湿原をそれぞれ含んでいる。比較的面積が大きな湿原 (400ha以上) として、サロベツ原野、霧多布湿原、風蓮湿原、苫小牧トキサタマツプ湿原、雨滝沼高地等があげられる。

東北では、奥羽山脈に分布がみられる。比較的面積が大きな湿原として、八甲田山の湿原、田代平湿原 (青森県)、八幡平の湿原 (岩手県)、吾妻山弥兵衛平・明星湖湿原、月山月見ヶ原湿原 (山形県)、磐梯山周辺の雄国沼 (福島県)、尾瀬が原 (福島県、群馬県) 等があげられる。

関東では、戦場ヶ原湿原 (栃木県)、外田代湿原 (群馬県) 等があげられる。

中部では、苗場山の山頂台地や霧ヶ峰の八島ヶ原等に、飛騨山脈の北部から両白山地に高層湿原が選定されている。

低海拔地に発達する高層湿原は、青森県七里長浜の屏風山湿原、秋田県の天王出戸湿原等に限られている。

これらの高層湿原とは離れて、京都府の深泥ヶ池、岡山県細池湿原、鹿児島県屋久島の花之江河湿原が高層湿原として報告されている。

## ② 中間湿原 (ヌマガヤオーダー)

この湿原は、北海道から鹿児島県において、200件、37,085haが選定されている (表5.12-13、図5.12-12)。面積が10ha未満のものが、約70% (139件) を占める。また、①で述べた高層湿原分布地には、多少なりとも中間湿原が付随して発達している。

北海道では、前述の高層湿原に加え、猿払川中流の湿原、静狩湿原等があげられる。

東北では、青森県、宮城県、秋田県にみられ、主な分布は、八甲田山、八幡平、大場谷地・前谷地の湿原、月山弥陀ヶ原湿原等があげられる。

関東では、栃木県、群馬県で主にみられ、戦場ヶ原湿原（栃木県）、尾瀬が原、外田代湿原、バラギ湿原、小池沼の湿原（群馬県）等があげられる。

中部以西では、分布面積の大半が、小規模である。長野県で大面積を示すのは、苗場山の自然植生（6,000ha）の中に高層湿原と中間湿原が含まれているためである。また、大分県では、九重山群の植生（4,565ha）の中に中間湿原が含まれているためである。

中間湿原の南限は、高層湿原と同様に鹿児島県屋久島の花之江河湿原があげられる。

### ③ 低層湿原（ヨシクラス）

この湿原は、北海道から沖縄県において、222件、37,332haが選定されている（表5.12-14、図5.12-13）。面積が10ha未満のものが、約59%（131件）を占める。

北海道では、わが国最大の釧路湿原（18,290ha）、サロベツ原野、霧多布湿原、風蓮湿原、浅茅野湿原、クッチャロ湖等の湿原があげられる。

本州では、各地の沖積低地を中心に分布が散在している。

東北では、青森県、宮城県で比較的選定された面積が大きい。青森県では、八甲田山の湿原、加藤沢沼の湿原、宮城県では、伊豆沼・内沼の沼沢地植生、追波川の植生等があげられる。

関東では、多摩川、相模川、利根川水系、霞ヶ浦等に沿って形成された低湿地、湖沼に分布がみられる。

中部では、長野県の菅平の湿生林（140ha）に低層湿原が含まれているため、面積が大きくなっている。

近畿では、滋賀県の西之湖のヨシ群落、永原のエゾリンドウ群落、饗庭野湿原、京都府の宇治川、木津川に沿った低湿地の低層湿原等があげられる。

中国では、山口県の阿知須町の湿地植物群落、四国では、徳島県の黒沢の湿原等が比較的大きなものである。

九州では、大分県の日出生台の湿原、猪の瀬戸の湿原、鹿児島県のいむた池の湿原等が他の群落を含みながらも比較的大きなものである。

沖縄県では、南大東島、伊平屋島、池間島等の湿原があげられ、クロミノオオシンジュガヤ、ヒメガマ、カンガレイ等が優占している。

## 6) 砂丘植生

この砂丘植生は、北海道から沖縄県において、130件、16,308haが選定され、海岸線に沿ってみられる(表5.12-15、図5.12-14)。面積が10ha未満のものが、約63%(80件)を占める。

北海道では、知床半島、オホーツク海に面した海岸、釧路から十勝にいたる海岸にみられる。

東北では、山形県の飛島、宮城県の仙台湾沿岸、長面浜大谷海岸にみられる。

関東では、茨城県勝田市の海岸植生、中部では、福井県三里浜の砂丘植物、近畿では、三重県神島の海浜植物群落、中国では、鳥取砂丘、四国では、室戸岬の植物群落、九州では、福岡県のさつき松原、雁巣の海浜植物群落、宮崎県の日向灘中部海岸、鹿児島県の志布志湾、宝島、吹上浜の植生、沖縄県では、前浜のハテルマカズラ群落等があげられる。

### 3. 生育状況調査結果の集計解析

ここでは、生育状況調査の対象群落の都道府県別、相観区分別、地域類型別の分布状況、保護制度の適用状況、インパクトの状況、種組成の類似度による群落の分類を明らかにする。

#### (1) 生育状況調査結果の概要

生育状況調査は、第2回及び第3回自然環境保全基礎調査までに選定された特定植物群落の中から、代表的・典型的及び長期間担保される可能性等を持ち、特に、広域的に分布する種（トドマツ、エゾマツ、シラビソ、オオシラビソ、ブナ、スダジイ、コジイ）を優占種とする群落を主な対象とした。

全国で、475件が選定された（表6.1-1）。

#### (2) 相観区分別の分布状況

都道府県別に選定された群落の事例は、表6.2-1に示した。オオシラビソ林、ブナ林、スダジイ林等が比較的多く選定されている。

これらの群落の相観区分別の件数は、表6.2-2に示した。シイ林、カシ林、タブ林等のいわゆる照葉樹林帯の主体をなす暖温帯常緑広葉高木林（100件）、ブナ林、ミズナラ林等が主となる冷温帯夏緑広葉高木林（69件）、湿地植生（41件）等に属する相観区分が、比較的多い。

次に、これらの相観区分が、暖かさの指数（吉良、1949）のどのような範囲に分布しているのかを調べた（表6.2-3、図6.2-1）。主な相観区分の分布は、以下のとおりである。

亜寒帯常緑針葉高木林（エゾマツ、トドマツ、オオシラビソ、コマツガ、トウヒ等の林）は、約83%（15件）が暖かさの指数 $10^{\circ}$ から $45^{\circ}$ の範囲（亜寒帯）に含まれており、最頻値は $25^{\circ}$ から $30^{\circ}$ 未満に存在する。

冷温帯常緑針葉高木林（ウラジロモミ、スギ、ヒノキ、アカマツ、

表6.1-1 生育状況調査の都道府県別の件数

県 No.	県 名	生育調査の件数
01	北海道	27
02	青森県	10
03	岩手県	7
04	宮城県	9
05	秋田県	13
06	山形県	9
07	福島県	10
08	茨城県	9
09	栃木県	9
10	群馬県	9
11	埼玉県	7
12	千葉県	12
13	東京都	15
14	神奈川県	8
15	新潟県	13
16	富山県	9
17	石川県	9
18	福井県	7
19	山梨県	13
20	長野県	10
21	岐阜県	10
22	静岡県	13
23	愛知県	9
24	三重県	8
25	滋賀県	11
26	京都府	14
27	大阪府	5
28	兵庫県	6
29	奈良県	6
30	和歌山県	10
31	鳥取県	9
32	島根県	16
33	岡山県	8
34	広島県	17
35	山口県	13
36	徳島県	9
37	香川県	7
38	愛媛県	8
39	高知県	7
40	福岡県	7
41	佐賀県	8
42	長崎県	10
43	熊本県	8
44	大分県	9
45	宮崎県	16
46	鹿児島県	8
47	沖縄県	8
合計		475

表6.2-2 相観区分別の件数

相観区分	件数	構成比(%)
1 植生一般	26.	5.49
2 亜寒帯植生	14.	2.95
3 冷温帯植生	13.	2.74
4 暖温帯植生	26.	5.49
5 亜熱帯植生	1.	0.21
6 亜寒帯常緑針葉高木林	18.	3.80
7 冷温帯常緑針葉高木林	23.	4.85
8 暖温帯常緑針葉高木林	20.	4.22
10 常緑針葉高木植林	7.	1.48
11 夏緑針葉高木林	1.	0.21
13 暖温帯常緑広葉高木林	100.	21.10
14 亜熱帯常緑広葉高木林	5.	1.05
15 常緑広葉高木植林	2.	0.42
17 冷温帯夏緑広葉高木林	69.	14.35
18 暖温帯夏緑広葉高木林	14.	2.95
21 亜寒帯常緑針葉低木林	2.	0.42
22 冷温帯常緑針葉低木林	3.	0.63
23 暖温帯常緑針葉低木林	2.	0.42
25 冷温帯常緑広葉低木林	2.	0.42
26 暖温帯常緑広葉低木林	4.	0.84
28 亜寒帯夏緑広葉低木林	1.	0.21
29 冷温帯夏緑広葉低木林	3.	0.63
30 暖温帯夏緑広葉低木林	4.	0.84
32 暖温帯ササ原	1.	0.21
34 亜寒帯広葉草原	1.	0.21
35 冷温帯広葉草原	2.	0.42
36 暖温帯広葉草原	1.	0.21
38 暖温帯単子葉草本草原	5.	1.05
39 亜熱帯単子葉草本草原	1.	0.21
40 草本シダ群落	1.	0.21
41 岩上, 多礫地草本植生	11.	2.32
42 タケ形林	1.	0.21
43 ヤシ形林	2.	0.42
44 マングローブ林	4.	0.84
47 浮葉・沈水植物群落	3.	0.63
50 高山荒原植生	2.	0.42
51 雪田植生	3.	0.63
52 火山荒原植生	6.	1.27
53 湿地植生	41.	8.65
54 河辺植生	2.	0.42
55 海浜植生	24.	5.06
58 個体(群)	4.	0.84
合 計	475.	

表6.2-3 相観区分別暖かさの指数別の件数

暖かさの 指数(°)	亜寒帯常緑 針葉高木林	冷温帯常緑 針葉高木林	冷温帯夏緑 広葉高木林	暖温帯常緑 広葉高木林	湿地植生
20- 25° 未満	1				
25- 30	5				3
30- 35	4				0
35- 40	2				3
40- 45	3		1		2
45- 50	1	1	4		2
50- 55	1	3	6		2
55- 60	1	3	8		3
60- 65		1	4		2
65- 70		6	14		4
70- 75		0	4		3
75- 80		0	6		1
80- 85		2	8		1
85- 90		3	7		2
90- 95		3	1	2	0
95-100		0	4	4	3
100-105		0	2	6	1
105-110		0		7	0
110-115		1		21	2
115-120				15	2
120-125				10	1
125-130				9	1
130-135				4	0
135-140				1	1
140-145				3	
145-150				1	
合計	18	23	69	83	39

注1) 合計欄の件数が表6.2-2と一致しないのは、調査場所の位置が特定できなかったことによる。

注2) 暖かさの指数(15° - 45° : 亜寒帯、45° - 85° : 冷温帯、85° - 180° : 暖温帯)

ヒメコマツ、クロベ等の林)は、約70% (16件)が暖かさの指数45°から85°の範囲(冷温帯)に含まれており、最頻値は65°から70°未満に存在する。

冷温帯夏緑広葉高木林は、約78% (54件)が暖かさの指数45°から85°の範囲(冷温帯)に含まれており、最頻値は65°から70°未満に存在する。

暖温帯常緑広葉高木林は、約55% (55件)が暖かさの指数110°から130°の範囲(暖温帯)に含まれており、最頻値は110°から115°未満に存在する。

湿地植生は、暖かさの指数25°から140°の範囲にみられ、亜寒帯から暖温帯までの様々な植生がこの区分に含まれる。

このように生育状況調査の対象群落は、温度軸(暖かさの指数)からみた場合、各気候区分の範囲内に大半が分布していると考えられる。

(注) 吉良竜夫(1949):日本の森林帯(林業解説シリーズ)、日本林業技術協会

### (3) 地域類型別の分布状況

生育状況調査の対象群落が、追跡調査(2.4 人為圧と変化状況・変化原因の集計結果)で述べた3つの地域類型のどれから主に選定されているのかを調べた(表6.3-1)。

森林主体地域から選定されている割合が高い(70%以上)相観区分は、植生一般、亜寒帯植生、高山荒原植生、雪田植生、亜寒帯常緑針葉高木林、亜寒帯常緑針葉低木林、亜寒帯広葉草原、冷温帯植生、冷温帯常緑針葉高木林、冷温帯常緑針葉低木林、冷温帯夏緑広葉高木林、夏緑針葉高木林、暖温帯ササ原、亜熱帯単子葉草本草原、マングローブ林の15区分があげられる。

農地主体地域から選定されている割合が高い(70%以上)相観区分は、亜寒帯夏緑広葉低木林、冷温帯常緑広葉低木林、暖温帯広葉草原、草本シダ群落、亜熱帯植生の5区分があげられる。

都市主体地域から選定されている割合が高い(70%以上)相観区分は、浮葉・沈水植物群落があげられる。また、海浜植生の割合は約50%となり、他の地域類型と比べて高い値を示す。

このように亜寒帯、冷温帯の植生は、主に森林主体地域、浮葉・沈水植物群落、海浜植生は、都市主体地域から選定されている。また、シイ林、カシ林等の暖温帯常緑広葉高木林は、森林、農地、都市主体地域からそれぞれ選定されている。

#### (4) 保護対策の適用状況

生育状況調査の対象群落が、追跡調査(3.2 保護制度の適用状況)で述べた保護制度のどれに含まれているのかを調べた。

自然公園に含まれている群落は、320件あり、全体の67.4%を占める(表6.4-1)。また、自然環境保全地域に含まれている群落は、37件(7.8%)であり、両者を合わせると、357件(75.2%)となる。

地域区別にみると、大半は特別地域(区)または特別保護地区に含まれている。普通地域(区)に存在しているのは、43件(9.1%)である。

天然記念物の指定と重複する群落は、142件(29.9%)である(表6.4-2)。国指定天然記念物が56件(11.8%)、都道府県指定天然記念物が40件(8.4%)、市町村指定天然記念物が23件(4.8%)、国指定特別天然記念物が12件(2.5%)となる。

このように対象群落は、約7割強が自然公園法、自然環境保全法が適用されている地域に存在し、また、約3割が各種の天然記念物の指定と重複する。

また、具体的な保護対策は、「歩道、木道等利用者のための施設がある」、「立入禁止柵、制札等群落保護のための措置がある」、「監視人、管理人等の配置」、「土地所有者の意向等により、通常立ち入りが制限されている」等が主なものである。



表6.4-2 保護対策の適用状況（天然記念物）

保護区分	件数	構成比(%)
国指定特別天然記念物	12.	2.5
国指定天然記念物	56.	11.8
都道府県指定天然記念物	40.	8.4
市町村指定天然記念物	23.	4.8
上記の重複	11.	2.3
上記の天然記念物以外	333.	70.1
合計	475.	

表6.5-1 インパクトの種類別の件数

インパクト	件数	構成比(%)
特になし	189	39.9
人の立入	49	10.3
盗採	10	2.1
農林業開発	19	4.0
道路開発	2	0.4
観光開発	5	1.1
水辺の開発	1	0.2
その他の開発	3	0.6
周辺の開発	14	3.0
動物の侵入	8	1.7
汚染物質の侵入	0	0.0
ゴミの投棄	4	0.8
その他	10	2.1
上記の複数回答	161	33.9
合計	475	

注) 複数回答は、67凡例あり、大半は、1凡例当たり2～3件となる。

## (5) 対象群落へのインパクトの状況

生育状況調査の対象群落に対するインパクトの状況を調べた(表6.5-1)。

対象群落へのインパクトが特にないものは、189件(39.9%)である。

インパクトが加えられているものは、262件(55.0%)あり、なかでも、人の立入49件(10.3%)、農林業開発19件(4.0%)、周辺の開発14件(3.0%)、盗採10件(2.1%)等が主なものである。

対象群落は、代表的、典型的なものが選定されることになっているが、約6割弱のものが各種のインパクトを受けている。

## (6) 種組成の類似度による群落の分類

群落の種組成は、自然環境条件(地形、標高等)、社会環境条件(人為的改変の度合)、生物的条件(種間関係等)によって様々に変化する。植生の保護対策、植生の復元等を検討するためには、群落の種組成とこれらの諸条件との関係を明らかにすることが必要となる。

従来の植物社会学的方法による群落の類型化では、標徴種、識別種を抽出し、それらの種の有無により群落を類型化するという方法を取っていた。この方法では、群落を特徴づける種の存在により群落を類型化できる反面、群落単位の抽出、決定に任意性が生まれるという欠点があった。そこで、客観的に種組成の類似度による群落の類型化を行うために、一つのアプローチとしてクラスター分析を用いた。類型化を行った後、出現頻度の高い種を選出し、類型の特徴を検討した。

### 1) 各群落の種組成の類型化の方法

対象群落は、オオシラビソ林(26件)、ブナ林(64件)、シイ、カシ林(126件)である(図6.6-1、2、3)。

各群落の種組成の類似性比較を行い、次に、クラスター分析を行

凡 例

番号は各群落の対照番号を示す

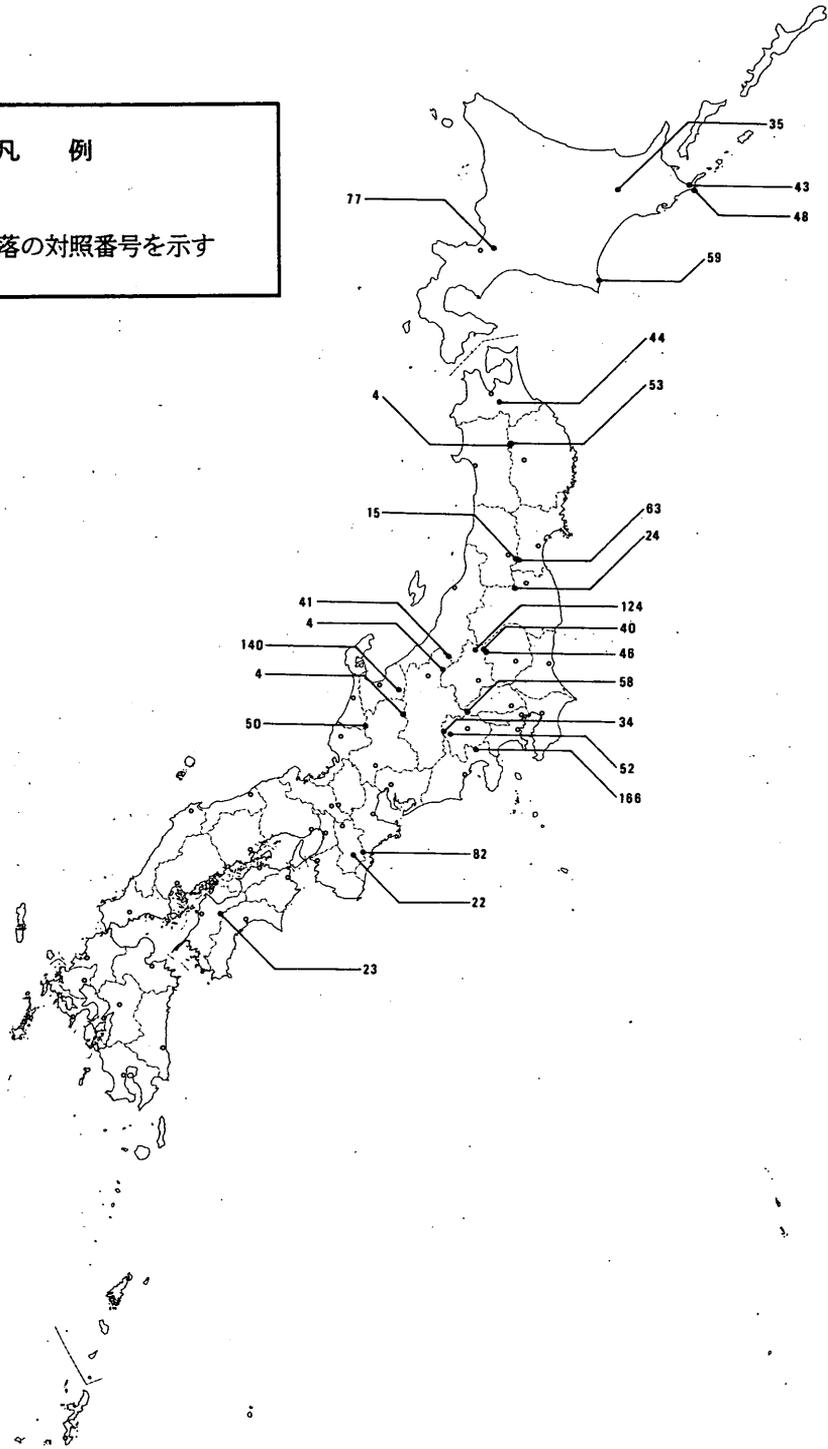


図6. 6-1 調査対象群落の分布 (オオシラビソ林)

凡 例

番号は各群落の対照番号を示す

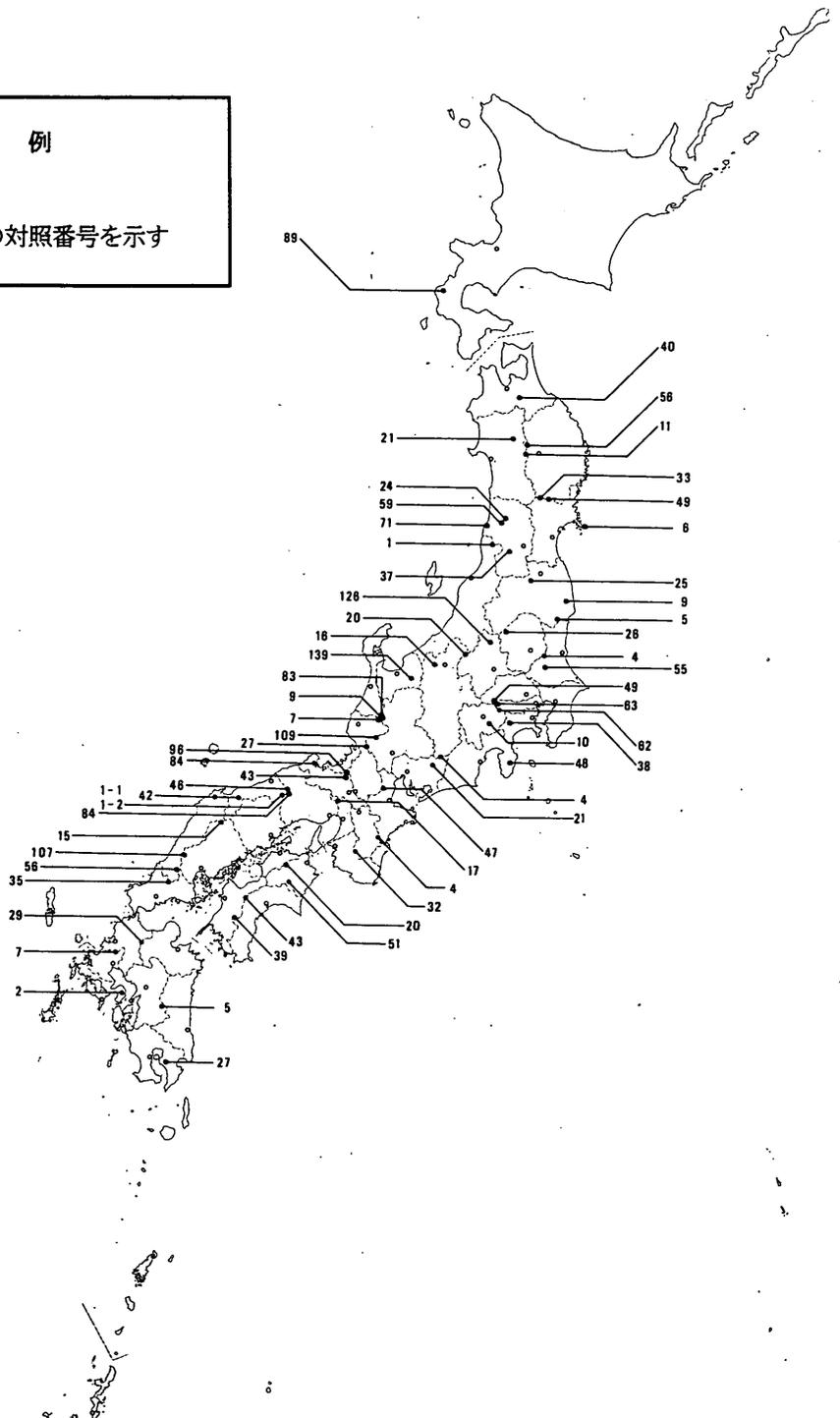


図6.6-2 調査対象群落の分布 (ブナ林)

凡 例

番号は各群落の対照番号を示す

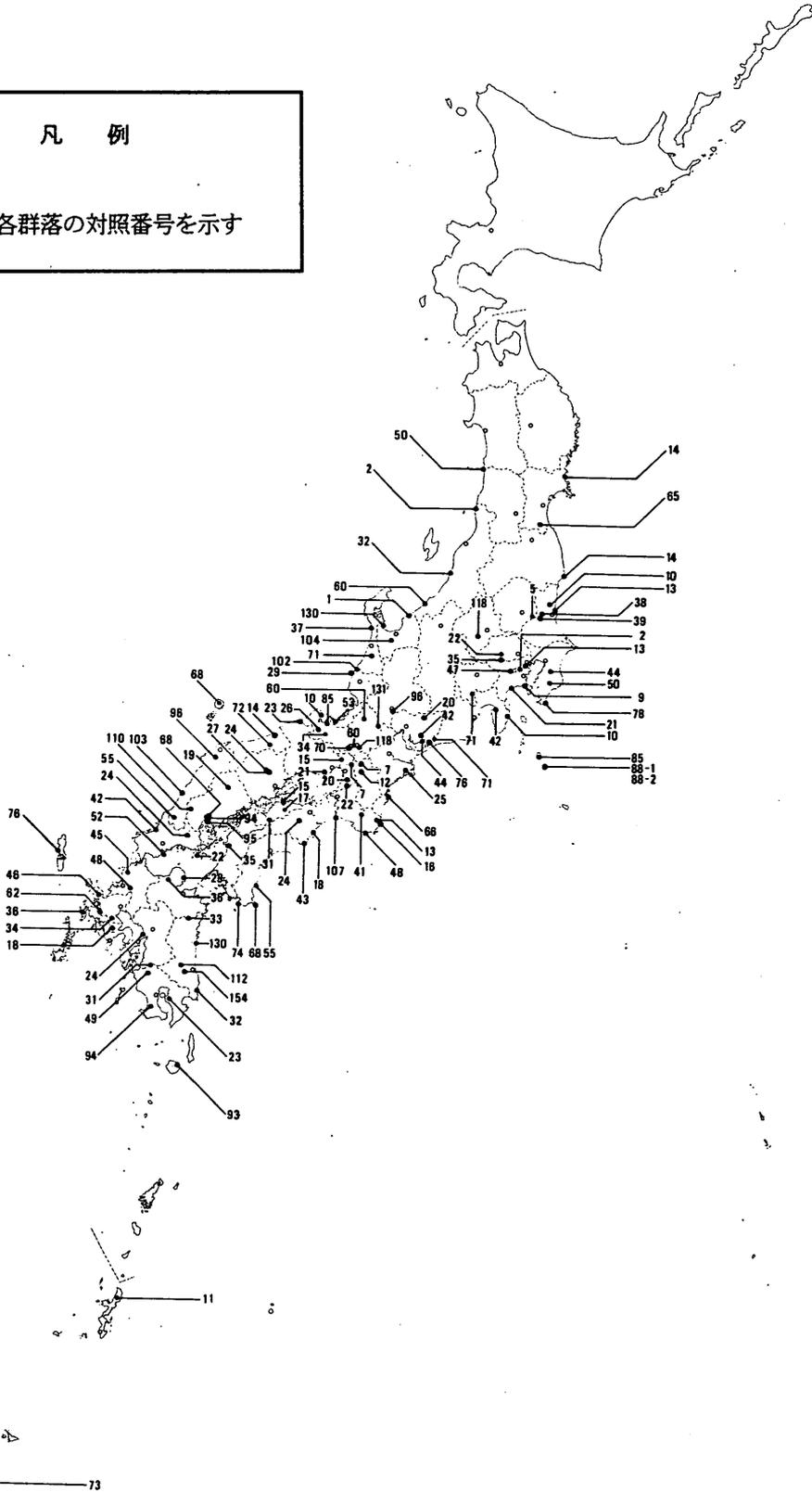


図6.6-3 調査対象群落の分布 (シイ、カシ林)

って検討を加えた。分析には、Sorensenの類似係数(Q.S.)を用いた。

$$Q.S. = 2c / (a + b)$$

ただし、a、bはA、B各群落の種類数、cは両群落での共通種類数である。

各群落について、類似度マトリックス表を作成した後、類型区分するためにクラスター分析を行った。なお、クラスター分析の結果は、系統樹を作成する方法を用いることで類型化を容易にした。ここでは、Mountford法を用いた。この方法は、まずマトリックス中で最も高い数値に注目し、次いで残りの群落と最初に形成されるクラスターとの間の類似度を改めて計算し、新しいマトリックスを作成する。この過程を繰り返すことによって、系統樹を作成した。

クラスターの名称は、植物社会学の命名法とは関係なく、共通性の高い種、あるいは代表的な種を2種または3種組み合わせて言い表した。

## 2) 類型化の結果及び考察

図6.6-4、5、6はクラスター分析によって類型化されたオオシラビソ林、ブナ林、シイ、カシ林である。

### ① オオシラビソ林

オオシラビソ林は、小さな不均質なクラスターを除去すると、比較的均質な5個のクラスターに区分される。5タイプに類型区分されたオオシラビソ林の種組成の呼称は、以下のとおりである。

a1: トドマツ-ノリウツギ型

a2: カニコウモリ-オオシラビソ型

a3: マイヅルソウ-オオシラビソ型

a4: イワツツジ-アカエゾマツ型

a5: クマイザサ-トドマツ型

これらの類型区分中、類似性の高いクラスターはa4型(約50%)であり、他のは約30~40%でクラスターを形成している。

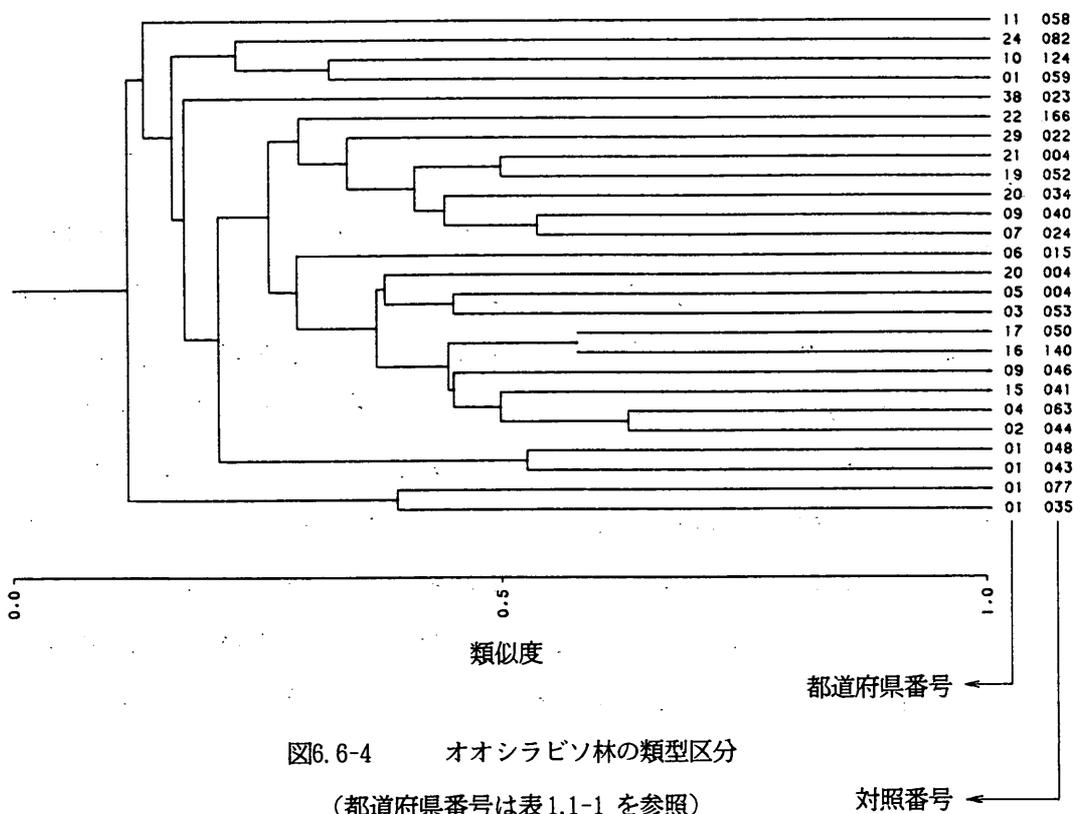


図6.6-4 オオシラビソ林の類型区分  
(都道府県番号は表1.1-1を参照)

トドマツーノリウツギ型では、ノリウツギ、ゴトウヅル、イワガラミ、ナナカマド、ツタウルシ、コシアブラ等が出現頻度の高い種である。この型は、北海道（対象番号No.59）と群馬（No.124）が該当する。

カニコウモリーオオシラビソ型では、シラビソ、ナナカマド、オオシラビソ、シノブカグマ、トウヒ、コミヤマカタバミ、ダケカンバ、ゴゼンタチバナ、ハリブキ、マイヅルソウ、チシマザサ等が出現頻度の高い種である。この型は、福島（No.24）、栃木（No.40）、長野（No.34）、山梨（No.52）、岐阜（No.4）、奈良（No.22）が該当する。

マイヅルソウーオオシラビソ型では、オオシラビソ、ヤマソテツ、マイヅルソウ、ツルリンドウ、チシマザサ、シノブカグマ、ミツバオウレン、タケシマラン、ミネカエデ等が出現頻度の高い種である。カニコウモリーオオシラビソ型と比べると、この型では、カニコウモリ、コシアブラ、フタバラン等を欠いている。この型は、長野（No.4）、秋田（No.4）、岩手（No.53）、石川（No.50）、富山（No.140）、栃木（No.46）、新潟（No.41）、宮城（No.63）、青森（No.44）が該当する。

イワツツジーアカエゾマツ型では、トドマツ、アカエゾマツ、シラネワラビ、ナナカマド、コミヤマカタバミ、ツタウルシ、ツルツゲ、イワツツジ、ミミコウモリ、マイヅルソウ等が出現頻度の高い種である。この型は、北海道（No.48、43）が該当する。

クマイザサートドマツ型では、トドマツ、ヤマドリゼンマイ、シラネワラビ、オシダ、ハルニレ、オヒョウ、キタコブシ、ルイヨウショウマ、サラシナショウマ、ゴトウヅル、シウリザクラ、ナナカマド、キハダ、エゾイタヤ、ツルウメモドキ、フッキソウ、ヤマブドウ、シナノキ、ハリギリ、クルマバソウ、マイヅルソウ、エンレイソウ、クマイザサ等が出現頻度の高い種である。この型は、北海道（No.77、35）が該当する。

亜高山帯の針葉樹林は、北海道のエゾマツ群団と本州・四国のオ

オシラビソ群団とに2分される（鈴木、1966）。

今回類型化されたカニコウモリーオオシラビソ型及びマイズルソウーオオシラビソ型は、種組成、分布地からみると、上記のオオシラビソ群団に対応すると考えられる。

イワツツジーアカエゾマツ型、クマイザサートドマツ型は、上記のエゾマツ群団に対応すると考えられる。

（注）鈴木時夫（1966）：森林立地 8：1-12

## ② ブナ林

ブナ林は、不均質なクラスターを除去すると、比較的均質な14個のクラスターに区分される。14タイプに類型区分されたブナ林の種組成の呼称は、以下のとおりである。

b1：ブナーイヌブナ型

b2：チマキザサーブナ型

b3：スズタケーブナ1型

b4：スズタケーブナ2型

b5：スズタケーブナ3型

b6：スズタケーブナ4型

b7：スズタケーブナ5型

b8：チシマザサーブナ1型

b9：チシマザサーブナ2型

b10：チシマザサーブナ3型

b11：チシマザサーブナ4型

b12：チシマザサーブナ5型

b13：チシマザサーブナ6型

b14：チシマザサーブナ7型

これらの大半は、約20～30%でクラスターを形成している。

ブナーイヌブナ型では、コナラ、タチツボスミレ、ヤマツツジ、キッコウハグマ等が出現頻度の高い種である。この型は、福島（No. 9）、宮城（No. 6）が該当する。

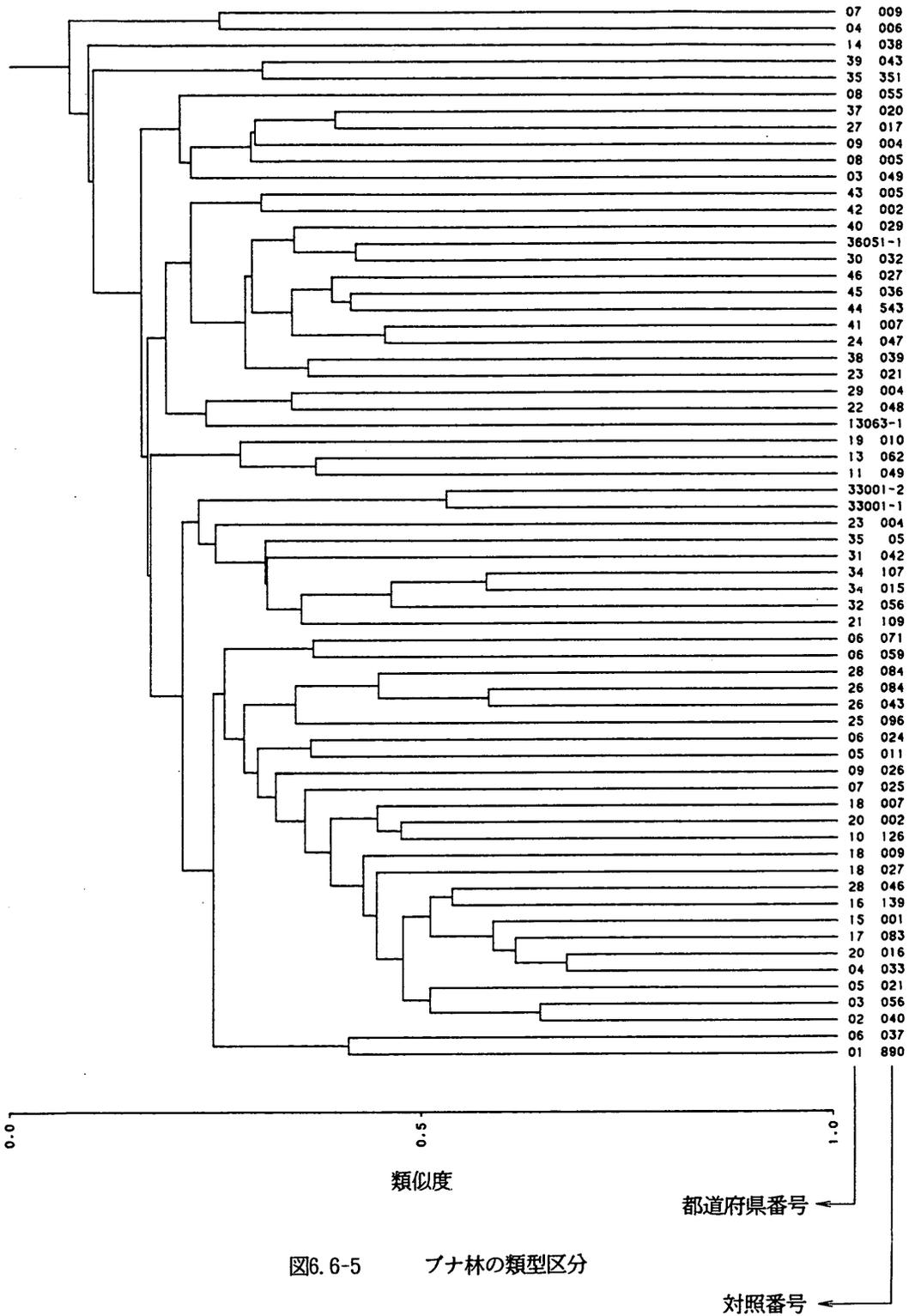


図6.6-5 ブナ林の類型区分

チマキザサーブナ型では、ブナ、ミズナラが共通してみられる。  
この型は、山口（No. 35）、高知（No. 43）が該当する。

スズタケ—ブナ1型では、ブナ、ガマズミ、イヌシデ、イワガラミ、ウラジロノキ、コゴメウツギ、ウリハダカエデ、ツルマサキ、コシアブラ、エゴノキ、チゴユリ等が出現頻度の高い種である。この型は、岩手（No. 49）、茨城（No. 5、55）、栃木（No. 4）、大阪（No. 17）、香川（No. 20）が該当する。

スズタケ—ブナ2型では、ブナ、モミ、ヤマアジサイ、ゴトウツル、コミネカエデ、ウリハダカエデ、コハウチワカエデ、タンナサワフタギ、オオカメノキ等が出現頻度の高い種である。この型は、長崎（No. 2）、熊本（No. 5）が該当する。

スズタケ—ブナ3型では、ブナ、コハウチワカエデ、リョウブ、タンナサワフタギ、シロモジ、カマツカ、スズタケ、オオカメノキ等が出現頻度の高い種である。この型は、愛知（No. 21）、三重（No. 47）、和歌山（No. 32）、徳島（No. 51）、愛媛（No. 39）、福岡（No. 29）、佐賀（No. 7）、大分（No. 54-3）、宮崎（No. 36）、鹿児島（No. 27）が該当する。

スズタケ—ブナ4型では、ブナ、スズタケ、ウラジロモミ、コミネカエデ、オオイタヤメイゲツ、ヒメミヤマスマシレ、タンナサワフタギ、アオダモ等が出現頻度の高い種である。この型は、東京（No. 63）、静岡（No. 48）、奈良（No. 4）が該当する。

スズタケ—ブナ5型では、ブナ、ミズナラ、ハウチワカエデ、リョウブ、サラサドウダン、ホツツジ、タガネソウ、クロモジ、コアジサイ、ウリハダカエデ、オオイタヤメイゲツ、コハウチワカエデ、オオカメノキ、ミヤマガマズミ、ツクバネウツギ等が出現頻度の高い種である。この型は、埼玉（No. 49）、東京（No. 62）、山梨（No. 10）が該当する。

チシマザサーブナ1型では、ブナ、ヤマソテツ、ジュウモンジシダ、ハイイヌガヤ、サワグルミ、クマシデ、ナツツバキ、ミヤマカタバミ等が出現頻度の高い種である。この型は、岡山（No. 33）が該

当する。

チシマザサーブナ2型では、ブナ、クロモジ、タンナサワフタギ、ツノハシバミ、ゴトウツル、コマユミ、ヤマソテツ、ヤマイヌワラビ、ハイイヌガヤ、ヤマアジサイ、ミヤマカタバミ、リョウブ、オオカメノキ等が出現頻度の高い種である。この型は、岐阜（No.109）、愛知（No.4）、鳥取（No.42）、島根（No.56）、広島（No.15、107）、山口（No.5）が該当する。

チシマザサーブナ3型では、ブナ、ミズナラ、オオバクロモジ、ハウチワカエデ、イタヤカエデ、ヒメアオキ、チシマザサ、チマキザサ等が出現頻度の高い種である。この型は、山形（No.59、71）が該当する。

チシマザサーブナ4型では、ブナ、クロモジ、ウリハダカエデ、コシアブラ、ハウチワカエデ、ハイイヌガヤ、アカシデ、ミズナラ、ヒメモチ、ホツツジ、アクシバ等が出現頻度の高い種である。この型は、滋賀（No.96）、京都（No.43、84）、兵庫（No.84）が該当する。

チシマザサーブナ5型では、ブナ、ミズナラ、スギ、シシガシラ、ミヤマイタチシダ、オオバクロモジ、マルバマンサク、ヒメアオキ、イワウチワ、ホツツジ、オオカメノキ等が出現頻度の高い種である。この型は、秋田（No.11）、山形（No.24）が該当する。

チシマザサーブナ6型では、ブナ、オオカメノキ、オオバクロモジ、コシアブラ、ハウチワカエデ、チシマザサ、ヒメモチ、ヒメアオキ、ツルシキミ、ウリハダカエデ、ユキザサ等が出現頻度の高い種である。この型は、青森（No.40）、岩手（No.56）、宮城（No.33）、秋田（No.21）、福島（No.25）、栃木（No.26）、群馬（No.126）、新潟（No.1）、富山（No.139）、石川（No.83）、福井（No.7、9、27）、長野（No.2、16）、兵庫（No.46）が該当する。

チシマザサーブナ7型では、ブナ、ナナカマド、ツルシキミ、オオカメノキ、ハウチワカエデ、チシマザサ等が出現頻度の高い種である。この型は、北海道（準89）、山形（No.37）が該当する。

冷温帯のブナ林は、ブナースズタケ群団とブナーチシマザサ群団

とに2分される (SASAKI, 1970)。

ブナースズタケ群団は、東北の太平洋側のブナーイヌブナ群集、関東、中部のブナーミヤコザサ群集、関東から紀伊半島にかけてのブナーツクバネウツギ群集、四国、九州のブナーシラキ群集に細分される。

ブナーチシマザサ群団は、北海道のブナーアオモリトドマツ群集、日本海型気候の影響を受ける山地に発達するブナーオオバクロモジ群集、中国山地の日本海側に発達するブナークロモジ群集に細分される。

今回類型化されたブナーイヌブナ型は、種組成、分布地からみると、上記のブナーイヌブナ群集に対応すると考えられる。

スズタケブナ2型は、上記のブナーシラキ群集、スズタケブナ3型は、ブナーツクバネウツギ群集及びブナーシラキ群集、スズタケブナ4型及び5型は、ブナーツクバネウツギ群集に対応すると考えられる。

チシマザサーブナ1型及び2型は、上記のブナークロモジ群集に対応すると考えられる。

チシマザサーブナ3型から7型までは、上記のブナーオオバクロモジ群集に対応すると考えられる。

(注) SASAKI, Y. (1970) : Vegetatio 20, 214-249

### ③ シイ、カシ林

シイ、カシ林は、不均質なクラスターを除去すると、比較的均質な10個のクラスターに区分される。10タイプに類型区分されたシイ、カシ林の種組成の呼称は、以下のとおりである。

c1: イノデータブ型

c2: サカキーウラジロガシ型

c3: アカガシーウラジロガシ型

c4: シラカシースダジイ型

c5: サカキーコジイ1型

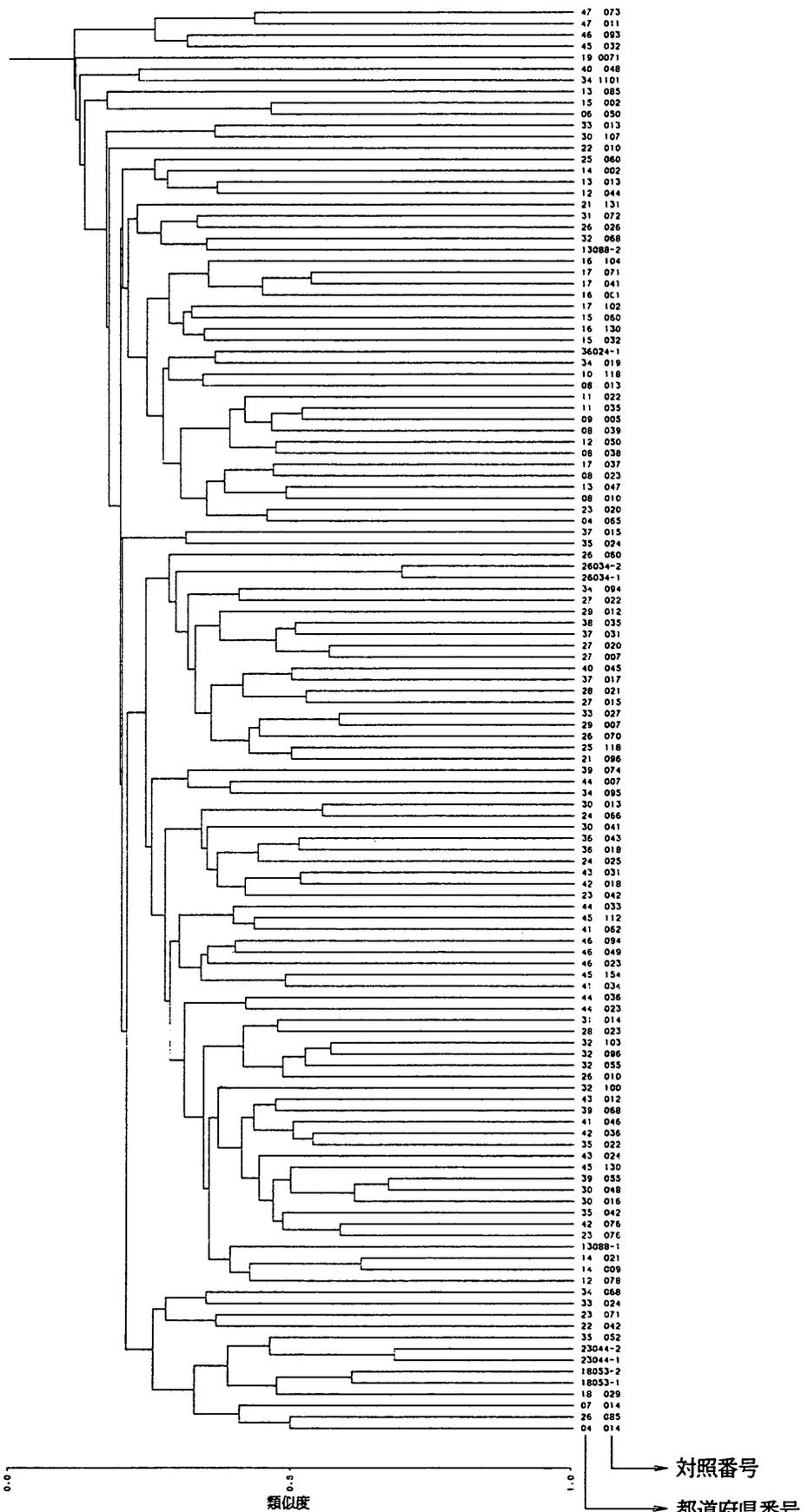


図6.6-6 シイ、カンシンの類型区分

c6: サカキ-コジイ 2 型

c7: サカキ-コジイ 3 型

c8: ミミズバイ-スダジイ型

c9: シイ-タブ型

c10: ウバメガシ-タブ-シイ型

これらの大半は、約20~30%でクラスターを形成している。

イノデ-タブ型では、タブ、シラカシ、シロダモ、アオキ、マンリョウ、ベニシダ、ヤブラン、キツタ等が出現頻度の高い種である。この型は、千葉 (No. 44)、東京 (No. 13)、神奈川 (No. 2)、滋賀 (No. 60) が該当する。

サカキ-ウラジロガシ型では、サカキ、ウラジロガシ、ヤブニッケイ、ヒサカキ、シキミ、クロモジ、シロダモ、ヤブツバキ、アオキ、ハイイヌガヤ、ヤブコウジ、シシガシラ、ミヤマイタチシダ、ジュウモンジシダ等が出現頻度の高い種である。この型は、東京 (No. 88)、岐阜 (No. 131)、京都 (No. 26)、鳥取 (No. 72)、島根 (No. 68) が該当する。

アカガシ-ウラジロガシ型では、シロダモ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ヒメアオキ、ベニシダ、ヤブコウジ、テイカカズラ、キツタ等が出現頻度の高い種である。この型は、新潟 (No. 32、60)、富山 (No. 1、104、130)、石川 (No. 41、71、102) が該当する。

シラカシ-スダジイ型では、シラカシ、スダジイ、ウラジロガシ、ヤブツバキ、モミ、シキミ、ヒサカキ、アオキ、ヤブコウジ、テイカカズラ、ジャノヒゲ、キツタ、ベニシダ等が出現頻度の高い種である。この型は、宮城 (No. 65)、茨城 (No. 10、13、23、38、39)、栃木 (No. 5)、群馬 (No. 118)、埼玉 (No. 22、35)、千葉 (No. 50)、東京 (No. 47)、石川 (No. 37)、愛知 (No. 20)、広島 (No. 19)、徳島 (No. 24) が該当する。

サカキ-コジイ 1 型では、サカキ、コジイ、アラカシ、ウラジロガシ、ヤブツバキ、ヒサカキ、カナメモチ、アオキ、ヤブニッケイ、ミミズバイ、ベニシダ、テイカカズラ等が出現頻度の高い種である。

この型は、岐阜（No.96）、滋賀（No.118）、京都（No.34-1,2、60、70）、大阪（No.7、15、20、22）、奈良（No.7、12）、兵庫（No.21）、岡山（No.27）、広島（No.94）、香川（No.17、31）、愛媛（No.35）、福岡（No.45）が該当する。

サカキーコジイ2型では、シロダモ、ヒサカキ、コジイ、アラカシ、イヌビワ、ヤブツバキ、ヒメユズリハ、ハゼ、マンリョウ、タイミンタチバナ、クロキ、ヤブコウジ等が出現頻度の高い種である。この型は、広島（No.34）、高知（No.74）、大分（No.7）が該当する。

サカキーコジイ3型では、サカキ、コジイ、アラカシ、タブ、ヤブツバキ、クロバイ、ヒサカキ、ミミズバイ、イズセンリョウ、ルリミノキ、センリョウ、ヤマビワ、ベニシダ等が出現頻度の高い種である。この型は、愛知（No.42）、三重（No.25、66）、和歌山（No.13、41）、徳島（No.18、43）、長崎（No.18）、熊本（No.31）が該当する。

ミミズバイースタジイ型では、ヤブツバキ、ヒサカキ、イヌガシ、ヤブニッケイ、ホソバタブ、ミヤマシキミ、タブ、アカガシ、スタジイ、イヌビワ、サネカズラ、アオキ、テイカカズラ、フユイチゴ、ハナミョウガ等が出現頻度の高い種である。この型は、佐賀（No.34、62）、大分（No.33）、宮崎（No.112、154）、鹿児島（No.23、49、94）が該当する。

シータブ型では、タブ、ヒサカキ、テイカカズラ、ヤブツバキ、スタジイ、ヤブニッケイ、ネズミモチ、サカキ、アオキ、モチノキ、アセビ、イヌビワ、カクレミノ、ヤブコウジ、テイカカズラ、ベニシダ等が出現頻度の高い種である。この型は、千葉（No.78）、神奈川（No.9、21）、愛知（No.76）、京都（No.10）、和歌山（No.16、48）、兵庫（No.23）、鳥取（No.14）、島根（No.55、96、100、103）、山口（No.22、42）、高知（No.55、68）、佐賀（No.46）、長崎（No.36、76）、熊本（No.12、24）、大分（No.23、36）、宮崎（No.130）が該当する。

ウバメガシータブーシイ型では、ヤブツバキ、タブ、モチノキ、

トベラ、アオキ、シロダモ、ヤブニッケイ、イヌビワ、ヤブラン、ベニシダ、テイカカズラ、ジャノヒゲ等が出現頻度の高い種である。この型は、宮城（No.14）、福島（No.14）、福井（No.29、53-1,2）、静岡（No.42）、愛知（No.44-1,2、71）、京都（No.85）、岡山（No.24）、広島（No.68）、山口（No.52）が該当する。

日本の暖温帯林は、スタジイ群団に含まれる（鈴木、他、1973）。スタジイ群団は、ウバメガシ亜群団、典型亜群団、ウラジログシ亜群団、タブ亜群団に分かれる。

ウバメガシ亜群団は、ウバメガシトベラ群集、ウバメガシコシダ群集、ハマビワオニヤブソテツ群集に細分される。

典型亜群団は、スタジイーヤブコウジ群集、スタジイータイミンタチバナ群集、コジークロバイ群集、アラカシーナンテン群集、アラカシージャノヒゲ群集、イチイガシ群集に細分される。

ウラジログシ亜群団は、ウラジログシサカキ群集、ウラジログシヒメアオキ群集、アカガシミヤマシキミ群集に細分される。

タブ亜群団は、タブーイノデ群集、タブーホソバカナワラビ群集、カゴノキ群集に細分される。

今回類型化されたイノデータブ型は、タブ亜群団、ウバメガシータブーシイ型は、ウバメガシ亜群団、残りのサカキウラジログシ型、アカガシウラジログシ型、シラカシースタジイ型、サカキコジイ1型、2型、3型、ミミズバイースタジイ型、シイータブ型は、典型亜群団及びウラジログシ亜群団に含まれると考えられる。

（注）鈴木時夫・鈴木和子（1973）：植物社会学（佐々木好之編）  
共立出版株式会社

## IV. とりまとめ、考察



## IV. とりまとめ及び考察

昭和59年度から実施された第3回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査結果の概要は以下のとおりである。

### (1) 追跡調査結果

① 追跡調査は、第2回自然環境保全基礎調査特定植物群落(3,834件)を対象として行ったものであるが、回収された調査票は3,772枚である。

② 変化状況をみると、面積、群落構成とも著しい変化がなかった特定植物群落は、3,384件(88.2%)、面積等に変化を受けた特定植物群落は、420件(11.0%)となる。全国的に変化状況をみると、面積に著しい変化ありが最も多い。

面積に著しい変化があった特定植物群落(192件、重複あり)の割合が高い地方は、北海道、東北、近畿、九州、県別では、長野県、和歌山県、滋賀県、東京都、北海道、広島県等があげられる。

群落または個体群が消滅した特定植物群落(95件、重複あり)の割合が高い地方は、関東、中部、県別では、栃木県、埼玉県、岐阜県、広島県、愛媛県等があげられる。

面積等に変化のあった群落の割合が高い相観区分は、浮水植物群落(100.0%)、河辺植生(58.6%)、浮葉・沈水植物群落(38.7%)、海浜植生(30.3%)、湿地植生(19.0%)等の水辺の植物群落及び暖温帯ササ原(60.0%)、冷温帯、暖温帯、亜熱帯の各単子葉草本草原(それぞれ53.8%、34.8%、33.3%)等である。

面積に著しい変化があった相観区分は、ブナ林等の冷温帯夏緑広葉高木林、海浜植生、シイ林、カシ林等の暖温帯常緑広葉高木林、湿地植生に多い。

群落構成に著しい変化があったものは、暖温帯常緑広葉高木林、

湿地植生、カシ林等の暖温帯植生、海浜植生に多い。

個体群の個体数に著しい変化があったもの及び群落又は個体群が消滅したものは、個体群、湿地植生、海浜植生に多い。

- ③ 全国的に変化原因を件数の多い順に見ると、農林業開発（88件）、その他の開発（土地造成等）（46件）、その他（地盤沈下等類型に属さない各種のインパクト）（40件）、盗採（27件）、人の立入（24件）等があげられる。

農林業開発の影響を受けている特定植物群落（109件、重複あり）が最も多い地方は、北海道、東北、近畿、九州、県別では、北海道、岩手県、長野県、和歌山県、熊本県、大分県、茨城県、滋賀県等があげられる。

その他の開発の影響を受けている特定植物群落（61件、重複あり）が最も多い地方は、関東、四国、中部、県別では、岐阜県、東京都、愛知県、広島県、茨城県、埼玉県、愛媛県等があげられる。

地方別に変化原因をみると、北海道では、農林業開発、その他、道路開発、東北では、農林業開発、盗採、その他の開発、関東では、その他の開発、農林業開発、人の立入、中部では、農林業開発、人の立入、その他の開発、近畿では、農林業開発、道路開発、中国では、道路開発、虫害・菌害、四国では、その他の開発、植物の侵入、九州では、農林業開発、盗採、沖縄では、人の立入、その他、農林業開発が多い。

農林業開発の影響をうけている主な相観区分は、冷温帯夏緑広葉高木林が最も多く、続いて、個体群、植生一般、暖温帯常緑広葉高木林、湿地植生、冷温帯植生、冷温帯常緑針葉高木林等である。

人の立入の影響をうけている相観区分は、暖温帯常緑広葉高木林が多く、個体群、海浜植生、河辺植生、湿地植生等である。

盗採の影響をうけている相観区分は、個体群、湿地植生、亜寒帯植生等である。

道路開発の影響をうけている相観区分は、個体群、暖温帯常緑広

葉高木林、冷温帯夏緑広葉高木林、暖温帯植生、湿地植生、海浜植生等である。

水辺の開発の影響を受けている相観区分は、海浜植生、個体群、浮葉・沈水植物群落、河辺植生等である。

④ 変化状況と変化原因との関連をみると、以下のとおりである。

農林業開発による変化状況は、面積に著しい変化あり、盗採による変化は、個体群の個体数に著しい変化あり、道路開発による変化は、面積に著しい変化あり、人の立入による変化は、群落構成に著しい変化あり、面積に著しい変化ありが主なものである。

次に、比較的变化件数の多い相観区分の変化状況と変化原因を検討した。

シイ林、カシ林、タブ林等のいわゆる照葉樹林の主体をなす暖温帯常緑広葉高木林では、人の立入が最も多く、群落構成に著しい変化を生じているほか、様々な開発の影響を受けやすく、特に首都圏や近畿圏などの大都市圏では、消滅したり面積に著しい減少を生じている例が多い。

ブナ林等の冷温帯夏緑広葉高木林では、農林業開発により、面積に著しい変化を生じている例が多い。

湿地植生では、植物の侵入、農林業開発により、群落構成に著しい変化、面積に著しい変化を生じている例が多い。

暖温帯常緑針葉高木林は、虫害・菌害により、群落構成に著しい変化、面積に著しい変化を生じている例が多い。

各気候帯を代表すると考えられる植物群落を取り出し、その群落を含む特定植物群落について変化状況と変化原因を検討した。

シラビソトウヒ群団では、自然災害により、群落構成に著しい変化を生じている例が多い。

チシマザサーブナ及びスズタケブナ群団では、農林業開発により、面積に著しい変化を生じている例が多い。

スタジイ群落では、農林業開発により、面積、群落構成、個体数

などに著しい変化を生じている例が多い。

ツルコケモモーミズゴケクラス（高層湿原）では、農林業開発により、群落又は個体群の消滅などを生じている例が多い。

ヨシクラス（低層湿原）では、農林業開発により、面積に著しい変化を生じている例が多い。

- ⑤ 人為庄（3地域分類）と変化状況の関係をみると、以下のとおりである。

変化のあった群落（総件数 599）は、森林主体地域には243件、農地主体地域には198件、都市主体地域には158件が含まれる。地域毎の変化群落の割合は、森林主体地域11%、農地主体地域13%、都市主体地域19%となり、都市地域で変化を受けた割合が高い。

変化状況は、森林主体地域では面積に著しい変化ありが多く、農地主体地域でも同様であるが、都市主体地域では面積変化のほか、群落構成に著しい変化のあるものも比較的多い。

- ⑥ 人為庄と変化原因の関係をみると、以下のとおりである。

森林主体地域では、農林業開発が主要な変化原因となり、特定植物群落の面積に著しい変化をもたらしている。

農地主体地域では、森林主体地域と同様に農林業開発が主要な変化原因となり、特定植物群落の面積に著しい変化をもたらしている。

都市主体地域では、上記の2つの地域と異なり、その他の開発、人の立入、その他、水辺の開発などが主な変化原因となり、特定植物群落の面積、群落構成に著しい変化を与えたり、群落又は個体群の消滅をもたらしている。

次に、比較的变化状況の件数の多い相観区分の人為庄と変化状況との関連を検討した。

森林、農地、都市主体地域に分布する暖温帯常緑広葉高木林は、面積に変化を受けている割合がともに高く、また、都市主体地域では、他の地域と比べて面積、群落構成、群落又は個体群の消滅など

の変化を受けている割合が高い。

森林主体地域に分布する冷温帯夏緑広葉高木林は、面積に変化、群落又は個体群が消滅を受けている割合が高く、農地主体地域では、群落構成に変化を受けている割合が高い。

森林、農地、都市主体地域に分布する個体群は、個体群の個体数に変化を受けている割合がともに高く、また、都市主体地域では、他の地域よりも群落構成に変化を受けている割合が高い。

森林、農地、都市主体地域に分布する湿地植生は、面積に変化を受けている割合がともに高く、農地主体地域では、個体群の個体数、都市主体地域では、群落又は個体群が消滅を受けている割合が高い。

森林、農地、都市主体地域に分布する暖温帯常緑針葉高木林は、面積に変化を受けている割合がともに高く、農地主体地域では、群落構成に変化、群落又は個体群が消滅を受けている割合が高い。

農地、都市主体地域に分布する暖温帯植生は、面積、群落構成に変化を受けている割合が高いが、森林主体地域では変化を受けている割合が低い。

森林、農地、都市主体地域に分布する海浜植生は、面積に変化を受けている割合がともに高く、農地、都市主体地域では、群落構成に変化、群落又は個体群が消滅を受けている割合が高い。

森林、農地主体地域に分布する冷温帯常緑針葉高木林は、面積に変化を受けている割合が高く、特に、森林主体地域では、群落又は個体群が消滅を受けている割合が高い。

- ⑦ 存続・消滅に関する意見を集計すると、回収された調査表3,772件のうち、特定植物群落として存続 3,666件（97.2%）、削除 106件（2.8%）となる。

削除という意見が出された特定植物群落の分布は、主に関東、中部、近畿、四国にみられ、東北、九州では少ない。都道府県別にみると、岐阜県15件、埼玉県8件、東京都7件、静岡県7件、富山県6件、滋賀県5件、栃木県4件、群馬県4件、島根県4件等となる。

削除の対象となる主な相観区分を件数の多い順にみると、個体群、暖温帯常緑広葉高木林、海浜植生、湿地植生、冷温帯夏緑広葉高木林、暖温帯夏緑広葉高木林、河辺植生などがあげられる。

削除の意見が比較的多い特定植物群落のうち、主な相観区分の変化状況と存続・削除に関する意見との関連を検討した。

個体群、湿地植生、冷温帯夏緑広葉高木林、河辺植生の削除に関する変化状況をみると、大半は群落又は個体群の消滅が該当する。

暖温帯常緑広葉高木林の削除に関する変化状況をみると、多くは面積に著しい変化ありと群落又は個体群の消滅が該当する。

海浜植生の削除に関する変化状況をみると、約半数は群落又は個体群の消滅が該当する。

一方、存続の対象となる相観区分の変化状況をみると、多くは面積、群落構成とも変化なしとなる。しかし、一部には、面積、群落構成、個体数に著しい変化を受けているものや群落又は個体群の消滅したものがある。

- ⑧ 追跡調査の対象の特定植物群落に対する保護制度（自然環境保全法、自然公園法、文化財保護法）の現状をみると、前記の保護制度のいずれかがかかっている相観区分は、2,401件（63.5%重複あり）、保護制度のいずれもかかっていない相観区分は、1,378件（36.5%）となる。

特定植物群落がどのような保護制度の下に存在しているのかを相観区分別にみると以下のとおりである。

暖温帯常緑広葉高木林、冷温帯夏緑広葉高木林、個体群、湿地植生、海浜植生、常緑針葉高木林（亜寒帯、冷温帯、暖温帯）は、国レベルの自然公園からみると、国立、国定公園特別地域、国立公園特別保護地区、国立公園特別－普通地域の重複等に含まれるものが多い。

植生一般、亜寒帯植生、常緑針葉高木林（亜寒帯、暖温帯）は、原生及び自然環境保全地域等に含まれるものが多い。

暖温帯常緑広葉高木林、冷温帯夏緑広葉高木林、個体群、暖温帯常緑針葉高木林は、都道府県レベルの自然公園、保全地域からみると、都道府県立自然公園特別地域、普通地域に含まれるものが多い。

暖温帯常緑広葉高木林、個体群、湿地植生、冷温帯夏緑広葉高木林は、天然記念物からみると、県指定が多く、国指定、市町村指定等に含まれるものが多い。

- ⑨ 保護制度と特定植物群落の変化状況との関係を見ると、以下のとおりである。

過去5年間において、面積等に変化のあった群落は自然公園法及び自然環境保全法による指定ありでは207件(9.9%、全件数2,091件)、文化財保護法による指定ありでは70件(8.2%、868件)、上記の保護制度なしでは235件となる。このように保護制度下に存在しない特定植物群落は、変化を受ける割合が高いと考えられる。

各変化状況を見ると、面積に著しい変化があった特定植物群落の割合が高い保護制度は、上記の保護制度なしが6.7%と多く、自然公園法及び自然環境保全法が4.5%、文化財保護法が3.0%となる。

群落又は個体群が消滅した特定植物群落の割合が高い保護制度は、上記の保護制度なしが4.8%と多く、自然公園法及び自然環境保全法が1.2%、文化財保護法が1.0%である。

このように保護制度下に存在する特定植物群落は、保護制度下に存在しないものよりも変化を受ける割合が低い。特に、群落又は個体群の消滅の割合を比較すると、保護制度下に存在する特定植物群落は、保護制度下に存在しない群落の約1/4となり、これらの保護制度のかかる地域では、保護制度なしの地域と比較すると、群落又は個体群の消滅をもたらすインパクトの発生は少ないと考えられる。

自然公園内、自然環境保全地域内での変化状況を見ると、普通地域(区)等規制の弱い地域区分で変化がより多く生じ、特別保護地区、原生自然環境保全地域等規制の強い地域区分では変化があまり

生じていない。また、自然公園の特別地域や都道府県自然環境保全地域の特別地区については、個別の変化状況を併せてみると、消滅はあまり生じていないものの、その他の変化の発生割合はあまり低いとはいえない。

文化財保護法がかけられている地域に存在する特定植物群落のうち、比較的变化を受けることが多いのは、都道府県指定天然記念物であると考えられる。また、変化状況を個別にみると、面積変化の割合が高く、群落構成の変化がついでいる。

- ⑩ 保護制度と特定植物群落の変化原因との関係をみると、以下のとおりである。

過去5年間において、農林業開発などの変化原因を受けた群落は自然公園法及び自然環境保全法による指定地域246件、文化財保護法による指定地域114件、保護制度なし265件となる。

このように保護制度下に存在しない特定植物群落は、各種開発に伴うインパクトを受ける割合が高い。

次に、自然公園及び自然環境保全地域における変化原因をみると、都道府県立自然公園区域に分布する特定植物群落では、特に農林業開発、道路開発、観光開発、水辺の開発、その他の開発の影響を受けている割合が高い。また、各自然公園の特別地域に分布する特定植物群落は、盗採の影響を受ける割合が比較的高いのが目立つ。

次に、天然記念物の指定と重複する特定植物群落の変化原因をみると、都道府県指定天然記念物と重複することの多い特定植物群落では、他の天然記念物と比べて、農林業開発、盗採、人の立入、道路開発、観光開発、水辺の開発、その他の開発の影響を受けている割合が高い。

## (2) 追加調査結果

- ① 追加調査(第3回)の対象となる植物群落は、昭和53年度に実施した特定植物群落調査において調査もれとなった植物群落、または、

その後新たに発見された植物群落のうち、「特定植物群落選定基準」に該当するものである。今回、全国で1,356件（約21万ha）の特定植物群落を追加して選定された。

選定された件数が最も多い選定基準はA（原生林、原生林に近い自然林）、続いて、D（湿原など特殊な立地特有の植物群落又は個体群）、E（社寺林など郷土景観を代表する植物群落）等があげられる。面積では、Aが最も多く、続いて、E、D等があげられる。

相観区分別にみると、シイ林、カシ林等の暖温帯常緑広葉高木林が最も多く353件、続いて、個体群の225件、ブナ林等の冷温帯夏緑広葉高木林の199件等があげられる。

- ② 前回調査で選定された特定植物群落の件数は、3,834件、面積は、約94万haである。これから、追跡調査の結果、削除（106件、他1件は別の群落に包含される）されたり、面積が減少した分を差し引き、それに今回追加された群落（1,356件、約21万ha）を加えると、特定植物群落の現状は、全国で5,085件、約113万haとなり、これは国土面積の約3%にあたる。

都道府県別に件数をみると、北海道が最も多く、続いて、山口県、静岡県、島根県等が多い。面積をみると、北海道が最も広く、続いて、長野県、山形県等が多い。

特定植物群落は、全国広範囲に分布しており、北海道、東北、中部、九州に大面積の群落が目立ち、その他の地方では、小面積の群落が分散してみられる。

- ③ 選定基準別では基準A（原生林もしくはそれに自然林）が件数、面積ともに最も多い。

件数は、AについてE（社寺林など郷土景観を代表する植物群落）、D（湿原など特殊な立地特有の植物群落又は個体群）が多い。

面積は、AについてD、B（国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群）が多い。

群落 1 件当りの平均面積と選定基準との関係を見ると、選定基準 A～D は 300ha 以上と面積が大きく、E～G は 100ha 未満と小さい。原生林等として選定された群落は大面積のものが多く、社寺林など郷土景観を代表するものとして選定された群落は小面積のものが多

い。

選定基準 A の地方別の分布は、中部に多く、続いて、中国、九州等があげられる。

選定基準 B の地方別の分布は、九州に多く、続いて、中部等があげられる。

選定基準 C（比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群）の地方別の分布は、中部に多く、続いて、東北、九州等があげられる。

選定基準 D の地方別の分布は、東北に多く、続いて、中部、九州、関東等があげられる。

選定基準 E の地方別の分布は、中国に多く、続いて、中部、近畿等があげられる。

選定基準 F（過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても長期にわたって伐採等の手が入っていないもの）の地方別の分布は、中部に多く、続いて、関東、東北、近畿、九州等があげられる。北海道からは、選定されていない。

選定基準 G（乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群）の地方別の分布は、中部に多く、一方、北海道、四国、沖縄では少ない。

選定基準 H（その他学術上重要な植物群落または個体群）の地方別の分布は、近畿、中国に多く、北海道、四国では少ない。

- ④ 特定植物群落の面積は、1 ha 以上 10ha 未満のものが最も多く、続いて、1 ha 未満となり、両者を合わせると、10ha 未満のものが全体の約 63% を占めている。10ha 以上 100ha 未満のものは約 22%、100ha

以上1,000ha未満が約11%、1,000ha以上のものは約4%、大面積のものほど少ない。

地方別の分布をみると、比較的小規模のものは中部以西から、規模の大きなものは北海道、東北、中部から選定されている。

⑤ 標高別の分布状況は、200m未満に分布するものが最も多く、標高が高くなるにつれて、漸次減少してゆく傾向がみられる。

⑥ 特定植物群落が成立する立地は、件数、面積ともに一般（気候立地）が最も多く、その他の立地は、件数では海岸付近、湿地、湧水地、溪畔斜面が多く、面積では、溪畔斜面、湿地、湧水地、風衝地が多い。

⑦ 乱獲等を危惧して、調査者が（群落の位置等を）秘密扱いとした特定植物群落は、30の県に存在し、186件、3,167.3haにのぼる。これは、件数では全特定植物群落の約4%、面積では0.3%に相当する。

都道府県別にみると、岐阜県と静岡県で秘密扱いの件数が最も多く、続いて、山梨県、熊本県、長野県、京都府、秋田県、滋賀県等があげられる。

⑧ 特定植物群落の保存状態は、記載なしが3,107件、良好なものは、720件、普通のもの、386件、やや不良のものは、768件、不良のものは、97件等となる。

保存状態がやや不良の割合が高い地方は、四国、九州、近畿、関東等、不良の割合が高い地方は、九州、四国、関東等があげられる。

⑨ 当該群落へのインパクトは、人の立入が最も多く、続いて、農林業開発、盗採、周辺の開発、道路開発等があげられる。

人の立入の影響を受けている特定植物群落(516件)は、島根県に

最も多く、続いて、山口県、宮崎県等に存在する。

農林業開発の影響を受けている特定植物群落(333件)は、宮崎県に最も多く、続いて、北海道、秋田県、沖縄県等に存在する。

- ⑩ 自然公園に含まれている(一部も含む)特定植物群落は、2,339件(46.0%)、また、自然環境保全地域に含まれているものは、389件(7.7%)であり、両者を合わせると件数では2,728件(53.7%)、面積では1,109,334.5 ha(86.1%)となる。地域区別にみると大半は、特別地域(区)または特別保護地区に含まれている。

自然公園、自然環境保全地域に含まれている特定植物群落の1件当りの面積は、原生自然環境保全地域が最も大きく約9,000ha、続いて、自然環境保全地域約1,400ha、国立公園約600haの順となる。

このように国の自然公園、自然環境保全地域に含まれている特定植物群落は、1件当たりの面積が比較的大規模なものが多い。

特定植物群落のうち天然記念物の指定と重複するものは、942件(18.5%)、271,916ha(24.0%)となる。件数が最も多いものは、都道府県指定天然記念物であり、面積が最も大きいのは、国指定天然記念物である。天然記念物の指定と重複する特定植物群落は、比較的小規模な場合が多いと考えられる。

選定基準と保護制度との関係を見ると、自然公園、自然環境保全地域に分布している群落では、選定基準A(原生林等)、D(特殊な立地)により選定された群落の割合が高く、選定基準E(郷土景観を代表する群落)により選定された群落の割合が低い。

国指定の天然記念物と重複する群落では、選定基準A、Dにより選定された群落の割合が比較的高い。また、都道府県指定、市町村指定の天然記念物と重複する群落では、選定基準A、Dに加えて、Eにより選定されている割合も比較的高い。

- ⑪ 特定植物群落は、その相観から58区分(第2回調査では、個体群を除く57区分)に分けられている。最も件数の多い相観区分は、シ

イ林、カシ林等の暖温帯常緑広葉高木林(1,287件)であり、続いて、ブナ林等の冷温帯夏緑広葉高木林(675件)、湿地植生(334件)等があげられる。面積では、植生一般が約40万haと大きく、続いて、亜寒帯植生(約22万ha)、冷温帯夏緑広葉高木林(約14万ha)等があげられる。多くの相観区分では、1件当たりの面積が、50ha未満である。

高緯度、高標高の地域に成立する相観区分からは大面積の群落を選定され、暖温帯等の温暖な地域に成立する相観区分からは小面積の群落を選定される傾向が認められる。これらの結果は、人為の影響等を受けつつも残存している群落の現状(面積)をそのまま反映したものといえよう。

各気候帯を構成する植物群落(相観区分)の分布は、以下のとおりである。

「針葉樹林」は、亜寒帯、冷温帯、暖温帯、亜熱帯の各針葉樹林と夏緑針葉樹林の5区分に取りまとめた。針葉樹林は、主として、亜寒帯に分布している。

亜寒帯常緑針葉樹林は、119件(51,585.4ha)が選定されている。これらの分布は、北海道では稚内、雄阿寒岳・雌阿寒岳を中心とした山群、石狩山地、黒松内、東北では、八甲田、八幡平等の奥羽山脈、三国山脈、中部では、赤石山脈、飛驒山脈、白山等の高山ないし亜高山にみられる。近畿では、大台ヶ原、四国では、石鎚山にみられる。優占種は地方により異なり、北海道ではエゾマツ、トドマツ、東北、中部、近畿ではシラビソ、オオシラビソ、コメツガ、トウヒ、四国ではシコクシラベが主に優占している。

冷温帯常緑針葉樹林は、219件(27,795.0ha)が選定されている。これらの分布は、北海道の低地から東北、関東、中部、近畿、四国、九州の各山地及び鹿児島県屋久島の山地でみられる。優占種は、北海道ではアカエゾマツ、トドマツ、エゾマツ、本州以南ではウラジロモミ、スギ、ヒノキ、アカマツ、ヒメコマツ、クロベ、アスナロ等である。

暖温帯常緑針葉樹林は、259件（12,139.2ha）が選定されている。これらの分布は、東北地方の海岸沿いから関東、中部、近畿、四国、九州及び鹿児島県屋久島の山地にみられる。優占種は、アカマツ、モミ、ヒメコマツ、ヒノキアスナロ等である。

「常緑広葉樹林」は、冷温帯、暖温帯、亜熱帯、ヤシ形林、マングローブ林の5区分に取りまとめた。常緑広葉樹林は、主として、暖温帯から亜熱帯に分布する。

冷温帯常緑広葉樹林は、18件（1,534.6ha）が選定されている。これらの分布は、青森県、秋田県、群馬県、新潟県、富山県、岐阜県、静岡県、三重県、滋賀県、愛媛県、佐賀県、長崎県、鹿児島県にみられる。優占種はシャクナゲ類やアセビ、ヤマグルマ、イヌツゲなどで、尾根付近の風衝地や急斜面に生育している。

暖温帯常緑広葉樹林は、1,361件（25,545.3ha）が選定されている。これらの分布は、太平洋側では岩手県、日本海側では秋田県から鹿児島県までみられる。優占種は、シイ類、カシ類、タブ、ヤブツバキ等である。関東以南の各地方では、海岸線、平野部及び山間部にみられる。日本海側では、秋田県男鹿半島（ヤブツバキ林）、山形県飛島（タブ林）から新潟県までは海岸付近に存在する。能登半島および富山平野以南では、海岸線、平野部、丘陵地などでみられる。

亜熱帯常緑広葉樹林は、104件（6,274.2ha）が選定されている。これらの分布は、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県にみられ、大半は、沖縄諸島にみられる。

マングローブ林は、17件（340.6ha）が選定されている。これらの分布は、長崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県までの島嶼や湾岸にみられる。優占種は、マングローブ、ハマジンチョウ、メヒルギ、オヒルギ、サガリバナ等があげられる。

「夏緑広葉樹林」は、亜寒帯、冷温帯、暖温帯、亜熱帯の4区分に取りまとめた。夏緑広葉樹林は、主として冷温帯に分布しておりブナ林が大半を占める。

亜寒帯夏緑広葉樹林は、44件（13,453.2ha）が選定されている。

これらの分布は、宮崎県西臼杵郡の山地風衝低木林（ウラジロヨウウラク－ミヤマナラ群落）を南限として、北海道、東北、中部の亜高山帯にみられる。優占種は、ダケカンバ、ミヤマナラ、ミヤマハンノキ、コメツツジ、ケショウヤナギ等があげられる。

冷温帯夏緑広葉樹林は、762件（141,458.24ha）が選定されている。これらの分布は、千葉県と沖縄県を除く各都道府県でみられる。特に、奥羽山脈から関東山地、中部山岳、中国山地にかけて分布している。優占種は、ブナ、ミズナラ、シデ類、カシワ等である。中部以北に全面積の約7割が存在する。

暖温帯夏緑広葉樹林は、261件（3,380.2ha）が選定されている。これらの分布は、北海道、青森、岩手、群馬、長野、沖縄を除く都府県にみられ、鹿児島県諏訪瀬島の火山山頂付近の植生が南限にあたる。優占種は、コナラ、クヌギ、クリ、ケヤキ、ハンノキ、シデ類、キイシモツケ、マルバサツキ、フサザクラ等があげられる。

「高山植生」としては、高山の岩石地や風衝地に生育する高山荒原植生や日本海側の多雪地に発達する雪田植生を対象とした。

高山荒原植生は、41件（251.0ha）が選定されている。これらは、青森県、秋田県、福島県、群馬県、富山県、石川県、山梨県、岐阜県、静岡県、の9県から選定され、主な分布は、奥羽山脈及び飯豊山、草津白根山、赤石山脈、白山でみられる。

雪田植生は、36件（1,716.9ha）が選定されている。これらは、青森県、秋田県、山形県、福島県、群馬県、新潟県、富山県、石川県、岐阜県の9県から選定され、いずれも日本海型気候の多雪地である。これらの分布は、高山荒原植生と同様に、八甲田山、鳥海山、月山、飯豊山、吾妻山、三国山脈、飛驒山脈、白山でみられる。

湿地植生は、334件（37,291.32ha）が選定されている。これらの分布は、北海道から沖縄県までみられ、亜寒帯から亜熱帯までの様々な湿地植生が対象とされている。面積的には、北海道・東北・関東に97%が遍在している。特に、北海道には100ha以上の広大な面積の湿原植生が13ヶ所存在する。

河辺植生は、26件（2,077.8ha）が選定されている。近年、護岸・治水工事等によって減少している植物群落の1つである。これらの分布は、宮城県追波川、東京都多摩川、神奈川県相模川にみられ、この3河川で92%を占める。

海浜植生は、196件（8,048.4ha）が選定されている。砂丘地帯では農業、造林が行われ、さらに護岸工事、埋め立て、海水浴客による攪乱等が加えられ、全国的に減少している植物群落の1つである。これらの分布は、北海道から沖縄県までの海岸に面した砂浜、海崖等にみられる。優占種は、砂浜、礫浜の群落では、ハマグルマ、コウボウムギ、ハマニンニク、ハマオモト等、海崖の群落では、ホソバワダン、ハチジョウススキ、ダルマガク等である。北海道と東北ではハマナス群落が、九州ではハマオモト群落が比較的多く選定されている。

亜寒帯、冷温帯に属する相観区分は、自然公園法、自然環境保全法の下に含まれる割合が高いが、亜熱帯及び池沼等に属する相観区分は前記の保護制度に含まれる割合が低い。

マングローブ林、蘚苔類植物群落、流水、岩上植物群落等に属する相観区分は、天然記念物の指定と重複する割合が高いが、亜寒帯、亜熱帯等に属する相観区分は、天然記念物の指定と重複する割合が低い。

⑫ 主な群落の分布は、以下のとおりである。

「寒帯・高山帯自然植生」

高山ハイデは、ツツジ科植物を主とした乾生の小低木群落（コメバツガザクラ・ミネズオウ群集）であり、風衝草原は、高山ハイデが発達できないような立地に成立する草原（オヤマノエンドウ・ヒゲハリスゲ群集）である。この植生は、北海道、東北、中部地方の各山地にみられ、117件（360,188ha）が選定されている。面積が10ha未満のものが、約43%（51件）を占める。

雪田植生は、冬の季節風の風下側である山の北面から東面に発達

し、積雪が多い日本海側の高山に広くみられる。この植生は、北海道から静岡県において、77件（312,417ha）が選定されている。面積が10ha未満のものが、約32%（25件）を占める。

#### 「亜寒帯・亜高山帯自然植生」

シラビソ・トウヒ群団は、青森県から高知県において、102件（279,234ha）が選定されている。面積が100haから5,000haまでのものが、約43%（45件）を占める。東北では、積雪が多く、群落の発達が悪くシラビソやトウヒを欠いている。

#### 「ブナクラス域自然植生」

日本の夏緑広葉樹林帯は、最近100年位の間には人々の影響が加えられており、ブナ林等が伐採され、スギ、ヒノキ、カラマツ等が跡地に植林されてきた。日本のブナ林は、北海道渡島半島の黒松内付近を北限とし、鹿児島県大隅半島の高隈山を南限として分布することが知られている。ブナ林を含む特定植物群落は、全国で602件（500,915ha）、北限の「歌才のブナ林」から南限の「高隈山系のブナの南限林」まで各地から選定されている。

チシマザサ・ブナ群団（日本海側のブナ林）は、北海道の渡島半島から本州中部にかけて広く分布しており、そのうち大規模で代表的な群落が特定植物群落として選定されている。近畿・中国地方では、大面積のブナ林は分布していない。この植生は、全国で357件（397,423ha）が選定されており、50ha未満のものが、約50%（176件）を占める。

スタケ・ブナ群団（太平洋側のブナ林）は、本州、四国、九州の寡雪地帯の山地に分布するが、日本海側のものと比較すると、小規模のものが多く面積的にも限られている。この植生は、全国で252件（225,045ha）が選定されており、50ha未満のものが、約50%（131件）を占める。

#### 「ヤブツバキクラス域自然植生」

この常緑広葉樹林帯では、日本人の生活域として古くから人手が加えられてきたため、自然林は非常に少なく、社寺林やあまり人の

近づかない川沿いの急斜面や離島にこの断片を見ることが出来る程度である。常緑広葉樹の自然林は、海岸沿いのシータブ林と内陸のカシ林に分けることができる。

サカキウラジログシ群集は、宮城県から鹿児島県において、248件(33,306ha)が選定され、内陸部を中心に分布がみられる。面積が10ha未満のものが、約54%(135件)を占める。

サカキコジイ群集は、岐阜県から鹿児島県において、211件(4,863ha)が選定され、近畿、中国、四国、九州の内陸低山地で見られる。面積が10ha未満のものが、約77%(162件)を占める。

スタジイ群落は、福島県から沖縄県において、500件(12,874ha)が選定され、海岸線に沿って分布している。面積が10ha未満のものが、約79%(397件)を占める。

タブ群落は、海岸沿いの低地や谷間で土壌が深く、やや湿っているところに生育する。この群落は、岩手県から沖縄県において、215件(10,000ha)が選定されている。面積が10ha未満のものが、約75%(161件)を占める。

ウバメガシ群落は、海岸の岩場とか急斜地のような土壌の極めて浅い場所に生育しており、青森県から沖縄県において、198件(4,222ha)が選定されている。面積が10ha未満のものが、約71%(141件)を占める。

#### 「湿原、砂丘植生」

高層湿原(ツルコケモモ-ミズゴケクラス)は、主に北海道から中部において、88件(40,804ha)が選定されている。面積が10ha未満のものが、約47%(42件)を占める。北海道では、湿地植生として選定された特定植物群落の多くは、高層、中間、低層湿原をそれぞれ含んでいる。

中間湿原(ヌマガヤオーダー)は、北海道から鹿児島県において、200件(37,085ha)が選定されている。面積が10ha未満のものが、約70%(139件)を占める。また、高層湿原分布地には、多少なりとも中間湿原が付随して発達している。

低層湿原（ヨシクラス）は、北海道から沖縄県において、222件（37,332ha）が選定されている。面積が10ha未満のものが、約59%（131件）を占める。

砂丘植生は、北海道から沖縄県において、130件（16,308ha）が選定され、海岸線に沿ってみられる。面積が10ha未満のものが、約63%（80件）を占める。

### （3）生育状況調査結果

① 生育状況調査は、第2回及び第3回自然環境保全基礎調査までに選定された特定植物群落の中から、代表的・典型的及び長期間担保される可能性等をもち、特に、広域的に分布する種（トドマツ、エゾマツ、シラビソ、オオシラビソ、ブナ、スタジイ、コジイ）を優占種とする群落を主な対象とした。全国で、475件が選定された。

② シイ林、カシ林、タブ林等のいわゆる照葉樹林帯の主体をなす暖温帯常緑広葉高木林（100件）、ブナ林、ミズナラ林等が主となる冷温帯夏緑広葉高木林（69件）、湿地植生（41件）等に属する相観区分が、比較的多く選定されている。

亜寒帯常緑針葉高木林（エゾマツ、トドマツ、オオシラビソ、コメツガ、トウヒ等の林）は、約83%（15件）が暖かさの指数 $10^{\circ}$ から $45^{\circ}$ の範囲（亜寒帯）に含まれる。

冷温帯常緑針葉高木林（ウラジロモミ、スギ、ヒノキ、アカマツ、ヒメコマツ、クロベ等の林）は、約70%（16件）が暖かさの指数 $45^{\circ}$ から $85^{\circ}$ の範囲（冷温帯）に含まれる。冷温帯夏緑広葉高木林（ブナ等の林）は、約78%（54件）が暖かさの指数 $45^{\circ}$ から $85^{\circ}$ の範囲（冷温帯）に含まれる。

暖温帯常緑広葉高木林は、約55%（55件）が暖かさの指数 $110^{\circ}$ から $130^{\circ}$ の範囲（暖温帯）に含まれる。

湿地植生は、暖かさの指数 $25^{\circ}$ から $140^{\circ}$ の範囲にみられ、亜寒帯から暖温帯までの様々な湿地植生が含まれる。

③ 亜寒帯、冷温帯の植生は、主に森林主体地域、浮葉・沈水植物群落、海浜植生は、都市主体地域から選定されている。また、シイ林、カシ林等の暖温帯常緑広葉高木林は、森林、農地、都市主体地域からそれぞれ選定されている。

④ 自然公園に含まれている群落は、320件（67.4%）を占める。また、自然環境保全地域に含まれている群落は、37件（7.8%）であり、両者を合わせると、357件（75.2%）となる。地域区分別にみると、大半は自然公園ないし自然環境保全地域の特別地域（区）または特別保護地区に含まれ、普通地域（区）に存在しているのは、43件（9.1%）である。

天然記念物の指定と重複する群落は、142件（29.9%）である。国指定天然記念物が56件（11.8%）、都道府県指定天然記念物が40件（8.4%）、市町村指定天然記念物が23件（4.8%）、国指定特別天然記念物が12件（2.5%）となる。

⑤ インパクトが加えられている群落は、262件（55.0%）あり、なかでも、人の立入49件（10.3%）、農林業開発19件（4.0%）、周辺の開発14件（3.0%）、盗採10件（2.1%）等があげられる。

⑥ 客観的に種組織の類似度による群落の類型化を行うために、一つのアプローチとしてクラスター分析を用いて、各群落の類型化を行い、出現頻度の高い種を選出し、各類型の特徴を検討した。対象群落は、オオシラビソ林（26件）、ブナ林（64件）、シイ、カシ林（126件）である。

オオシラビソ林は、小さな不均質なクラスターを除去すると、比較的均質な5個のクラスターに区分される（トドマツノリウツギ型、カニコウモリーオオシラビソ型、マイヅルソウーオオシラビソ型、イワツツジーアカエゾマツ型、クマイザサートドマツ型）。

類型化されたカニコウモリーオオシラビソ型及びマイヅルソウー

オオシラビソ型は、種組成、分布地からみると、オオシラビソ群団、イワツツジーアカエゾマツ型、クマイザサートドマツ型は、エゾマツ群団に対応すると考えられる。

ブナ林は、不均質なクラスターを除去すると、比較的均質な14個のクラスターに区分される（ブナーイヌブナ型、チマキザサーブナ型、スズタケープナ1型、スズタケープナ2型、スズタケープナ3型、スズタケープナ4型、スズタケープナ5型、チシマザサーブナ1型、チシマザサーブナ2型、チシマザサーブナ3型、チシマザサーブナ4型、チシマザサーブナ5型、チシマザサーブナ6型、チシマザサーブナ7型）。

今回類型化されたブナーイヌブナ型は、種組成、分布地からみると、ブナーイヌブナ群集、スズタケープナ2型は、ブナーシラキ群集、スズタケープナ3型は、ブナーツクバネウツギ群集及びブナーシラキ群集、スズタケープナ4型及び5型は、ブナーツクバネウツギ群集、チシマザサーブナ1型及び2型は、ブナークロモジ群集、チシマザサーブナ3型から7型までは、ブナーオオバクロモジ群集に対応すると考えられる。

シイ、カシ林は、不均質なクラスターを除去すると、比較的均質な10個のクラスターに区分される（イノデータブ型、サカキーウラジログシ型、アカガシーウラジログシ型、シラカシースダジイ型、サカキーコジイ1型、サカキーコジイ2型、サカキーコジイ3型、ミミズバイースダジイ型、シイータブ型、ウバメガシータブーシイ型）。

今回類型化されたイノデータブ型は、タブ垂群団、ウバメガシータブーシイ型は、ウバメガシ垂群団、残りのサカキーウラジログシ型、アカガシーウラジログシ型、シラカシースダジイ型、サカキーコジイ1型、2型、3型、ミミズバイースダジイ型、シイータブ型は、典型垂群団及びウラジログシ垂群団に含まれると考えられる。

#### (4) 考 察

特定植物群落調査結果を整理し、集計解析を行う中でいくつかの問題がみられたので、特定植物群落調査結果の整理上の課題として取りまとめた。次に、特定植物群落調査の集計解析結果に基づいて特定植物群落の保全のあり方等について若干の考察を行った。

#### ① 特定植物調査結果の整理上の課題

追跡調査においては、面積等で変更理由が記入されていない調査票がみられ、集計解析上で多少の混乱を生じたので、調査者に事前に前回の調査結果を渡し、変更がある場合には、その旨を特記事項に記すことを十分に伝えることが望まれる。

また、変化原因及びインパクト中の「農林業開発」は、農地造成、草地造成等の農業開発と伐採、植林等の林業開発とを含むものである。しかし、これらは開発結果が同じであっても以下の点においてその内容が異なるため、農業開発と林業開発とに分けることが望まれる（一般的に、林業開発では地形の形状自体を大きく改変するような行為は少なく、投入される人為的かく乱は植林後の数年間を除くと少ない。一方、農業開発では地形の形状自体の改変を伴う行為もみられ、人為的かく乱は農地又は草地造成後毎年続くと考えられる）。

生育状況調査においては、群落の階層区分の取り扱いに様々なものがみられ、同一群落間での階層等の比較が行い難くなるため、植生調査票への記入方法はできるだけ統一することが望まれる。

#### ② 集計解析結果に基づく考察

特定植物群落の現状は、全国で5,085件、約113万haとなり、これは国土面積の約3%にあたる。全国広範囲に分布しており、北海道、東北、中部、九州に大面積の群落が目立ち、その他の地方では、小面積の群落が分散してみられる。

自然公園、自然環境保全地域に含まれている特定植物群落は、件数で約5割、面積で約9割を占め、大半は、特別地域（区）または特別保護地区に存在する。また、天然記念物の指定と重複するもの

は、件数、面積ともに約2割となる。

特定植物群落へのインパクトは、人の立入が最も多く、続いて、農林業開発、盗採、周辺の開発等があげられ、保存状態をみると、やや不良、不良のものが、関東、近畿、四国、九州に比較的多い。

追跡調査結果からは、変化を受けた特定植物群落は420件(11%)あり、全国的には面積に著しい変化を受けたものが最も多く、その変化原因としては、農林業開発、その他の開発が主なものとしてあげられた。特に、農林業開発では、ブナ林等の冷温帯夏緑広葉高木林、シイ、カシ林等の暖温帯常緑広葉高木林がその影響を受け、面積に著しい変化を生じた例が多い。また、何らかの変化を受けた結果、106件の特定植物群落が削除対象としてあげられた。削除の大半は、群落や個体群が消滅したり、面積に著しい変化を受けたためである。

自然公園法、自然環境保全法、文化財保護法の下に存在する特定植物群落は、これらの保護制度下に存在しないものよりも変化を受ける割合は低い。しかし、都道府県立自然公園、都道府県指定天然記念物と重複する特定植物群落では、農林業開発、道路開発、観光開発、水辺の開発、その他の開発を受ける割合が高い。また、自然公園の特別地域に存在する群落や、天然記念物の指定と重複する特定植物群落といえども、群落等の消滅、面積に著しい変化を受けたために削除された例もみられる。

特定植物群落は、我が国の植物群落のうち、規模や構造、分布等において代表的・典型的なもの、代替性のないものなどについて、都道府県ごとに選定したものである。

現在、インパクトが加えられており、面積等の変化を受けている特定植物群落は、追跡調査の結果を十分に踏まえ、その存続が可能となるよう、群落の存続を脅かすような原因は事前に把握し、より効果的な方策を構ることが望まれる。



## V. 図表編



表1.1-1

## 特定植物群落調査結果（追跡調査）の概要

県 No.	県 名	第 2 回 調 査 時 の 件 数	追 跡 調 査 の 件 数
01	北海道	1 1 5	1 1 5
02	青森県	8 0	1 9
03	岩手県	7 1	7 1
04	宮城県	7 5	7 5
05	秋田県	7 6	7 6
06	山形県	7 9	7 9
07	福島県	1 1 2	1 1 2
08	茨城県	6 5	6 5
09	栃木県	6 5	6 5
10	群馬県	1 1 3	1 1 3
11	埼玉県	6 1	6 1
12	千葉県	8 7	8 7
13	東京都	9 6	9 6
14	神奈川県	9 1	9 1
15	新潟県	9 4	9 4
16	富山県	1 3 6	1 3 6
17	石川県	1 0 2	1 0 2
18	福井県	5 9	5 9
19	山梨県	1 0 1	1 0 1
20	長野県	5 6	5 7
21	岐阜県	1 3 2	1 3 2
22	静岡県	1 3 5	1 3 5
23	愛知県	6 8	6 8
24	三重県	1 0 4	1 0 4
25	滋賀県	1 1 9	1 1 9
26	京都府	8 3	8 3
27	大阪府	3 2	3 2
28	兵庫県	9 4	9 4
29	奈良県	2 5	2 5
30	和歌山県	8 7	8 7
31	鳥取県	6 0	6 0
32	島根県	7 8	7 8
33	岡山県	5 6	5 6
34	広島県	1 2 6	1 2 4
35	山口県	6 9	6 9
36	徳島県	6 8	6 8
37	香川県	3 3	3 3
38	愛媛県	6 1	6 1
39	高知県	7 8	7 8
40	福岡県	7 7	7 7
41	佐賀県	6 5	6 5
42	長崎県	9 0	9 0
43	熊本県	3 7	3 7
44	大分県	7 0	7 0
45	宮崎県	6 1	6 1
46	鹿児島県	9 1	9 1
47	沖縄県	1 0 1	1 0 1
合計		3, 8 3 4	3, 7 7 2

表2.1.1-1 変化状況の集計

変化状況	件数 (%)	
記入なし (不明)	31	0.8
変化なし	3,384	88.2
変化なし・群落構成変化	1	0.0
変化なし・個体数変化	2	0.1
面積変化	159	4.2
面積変化・群落構成変化	11	0.3
面積変化・群落構成変化・個体数変化	3	0.1
面積変化・群落構成変化・個体数変化・消滅	2	0.1
面積変化・群落構成変化・消滅	2	0.1
面積変化・個体数変化	6	0.2
面積変化・個体数変化・消滅	1	0.0
面積変化・消滅	8	0.2
群落構成変化	96	2.6
群落構成変化・個体数変化・消滅	1	0.0
群落構成変化・消滅	1	0.0
個体数変化	47	1.3
個体数変化・消滅	1	0.0
消滅	79	2.1
	3,835	

注1) 前回調査の群落数3,834件との差は、調査対象群落の統合・分割による

注2) 変化なしには、変化の恐れのないものとして調査対象とならなかった群落61件 (青森県) を、また、記入なし (不明) には、秘密扱いのため報告のなかった群落2件 (広島県) を含んでいる

表2.1.2-1 地方別の変化状況（件数）

地方	記入なし	変化なし	面積変化	群落構成変化	個体数変化	消滅	合計
北海道	0	101(87.8)	10( 8.7) (71.4)	4( 3.5) (28.6)	0( 0.0) ( 0.0)	0( 0.0) ( 0.0)	115
東北	3	377(84.9)	32( 7.2) (50.0)	16( 3.6) (25.0)	9( 2.0) (14.1)	7( 1.6) (10.9)	444
関東	2	481(82.9)	26( 4.5) (26.8)	35( 6.0) (36.1)	12( 2.1) (12.4)	24( 4.1) (24.7)	580
中部	7	787(87.9)	40( 4.5) (39.6)	16( 1.8) (15.8)	15( 1.7) (14.9)	30( 3.4) (29.7)	895
近畿	4	485(88.3)	32( 5.8) (53.3)	12( 2.2) (20.0)	4( 0.7) ( 6.7)	12( 2.2) (20.0)	549
中国	4	353(88.9)	15( 3.8) (37.5)	14( 3.5) (35.0)	2( 0.5) ( 5.0)	9( 2.3) (22.5)	397
四国	1	220(91.3)	5( 2.1) (25.0)	7( 2.9) (35.0)	3( 1.2) (15.0)	5( 2.1) (25.0)	241
九州	6	431(86.2)	29( 5.8) (46.0)	11( 2.2) (17.5)	17( 3.4) (27.0)	6( 1.2) ( 9.5)	500
沖縄	2	91(90.1)	3( 3.0) (37.5)	2( 2.0) (25.0)	1( 1.0) (12.5)	2( 2.0) (25.0)	101
合計	29	3,326(87.0)	192( 5.0) (41.1)	117( 3.1) (25.1)	63( 1.6) (13.5)	95( 2.5) (20.3)	3,822

注1) 複数回答のため、合計群落数は、実際の選定群落数とは合致しない。

注2) ( ) 内 上段は、群落全体（横の合計）に対する割合（％）

下段は、変化ありの中での構成比（％）

注3) 「記入なし」には、変化なし及び変化状況不明が含まれる。

表2.1.2-2 都道府県別の変化状況

県名	記入 なし	変化 なし	面積に 変化	群落構成 に変化	個体数 に変化	消滅	合計
北海道	0. 0.00	101. 87.83	10. 8.70	4. 3.48	0. 0.00	0. 0.00	115.
青森	0. 0.00	14. 66.67	4. 19.05	2. 9.52	0. 0.00	1. 4.76	21.
岩手	0. 0.00	58. 81.69	7. 9.86	3. 4.23	2. 2.82	1. 1.41	71.
宮城	1. 1.22	61. 74.39	9. 10.98	5. 6.10	4. 4.88	2. 2.44	82.
秋田	0. 0.00	65. 82.28	7. 8.86	3. 3.80	3. 3.80	1. 1.27	79.
山形	2. 2.53	76. 96.20	1. 1.27	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	79.
福島	0. 0.00	103. 91.96	4. 3.57	3. 2.68	0. 0.00	2. 1.79	112.
茨城	0. 0.00	43. 66.15	3. 4.62	15. 23.08	2. 3.08	2. 3.08	65.
栃木	2. 3.08	56. 86.15	0. 0.00	2. 3.08	1. 1.54	4. 6.15	65.
群馬	0. 0.00	100. 88.50	2. 1.77	3. 2.65	4. 3.54	4. 3.54	113.
埼玉	0. 0.00	50. 81.97	3. 4.92	1. 1.64	1. 1.64	6. 9.84	61.
千葉	0. 0.00	75. 86.21	4. 4.60	2. 2.30	3. 3.45	3. 3.45	87.
東京	0. 0.00	75. 77.32	11. 11.34	7. 7.22	0. 0.00	4. 4.12	97.
神奈川	0. 0.00	82. 89.13	3. 3.26	5. 5.43	1. 1.09	1. 1.09	92.

(注) 上段：件数 下段：横の合計に対する割合(%)

県名	記入 なし	変化 なし	面積に 変化	群落構成 に変化	個体数 に変化	消滅	合計
新潟	0. 0.00	89. 94.68	4. 4.26	0. 0.00	1. 1.06	0. 0.00	94.
富山	0. 0.00	129. 94.85	0. 0.00	1. 0.74	1. 0.74	5. 3.68	136.
石川	0. 0.00	96. 89.72	2. 1.87	3. 2.80	3. 2.80	3. 2.80	107.
福井	0. 0.00	55. 91.67	3. 5.00	2. 3.33	0. 0.00	0. 0.00	60.
山梨	0. 0.00	90. 88.24	4. 3.92	2. 1.96	5. 4.90	1. 0.98	102.
長野	5. 8.33	37. 61.67	13. 21.67	1. 1.67	2. 3.33	2. 3.33	60.
岐阜	1. 0.75	115. 86.47	4. 3.01	1. 0.75	0. 0.00	12. 9.02	133.
静岡	1. 0.74	112. 82.96	9. 6.67	6. 4.44	3. 2.22	4. 2.96	135.
愛知	0. 0.00	64. 94.12	1. 1.47	0. 0.00	0. 0.00	3. 4.41	68.
三重	1. 0.96	98. 94.23	1. 0.96	2. 1.92	0. 0.00	2. 1.92	104.
滋賀	2. 1.63	99. 80.49	12. 9.76	5. 4.07	0. 0.00	5. 4.07	123.
京都	0. 0.00	76. 91.57	2. 2.41	2. 2.41	1. 1.20	2. 2.41	83.
大阪	0. 0.00	31. 96.88	0. 0.00	1. 3.13	0. 0.00	0. 0.00	32.
兵庫	0. 0.00	89. 94.68	4. 4.26	0. 0.00	1. 1.06	0. 0.00	94.
奈良	1. 4.00	21. 84.00	0. 0.00	2. 8.00	0. 0.00	1. 4.00	25.

(注) 上段：件数      下段：横の合計に対する割合(%)

県名	記入 なし	変化 なし	面積に 変化	群落構成 に 変化	個体数 に 変化	消滅	合計
和歌山	0. 0.00	71. 80.68	13. 14.77	0. 0.00	2. 2.27	2. 2.27	88.
鳥取	1. 1.67	51. 85.00	2. 3.33	6. 10.00	0. 0.00	0. 0.00	60.
島根	0. 0.00	74. 93.67	2. 2.53	1. 1.27	1. 1.27	1. 1.27	79.
岡山	2. 3.57	53. 94.64	1. 1.79	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	56.
広島	0. 0.00	110. 82.71	10. 7.52	5. 3.76	0. 0.00	8. 6.02	133.
山口	1. 1.45	65. 94.20	0. 0.00	2. 2.90	1. 1.45	0. 0.00	69.
徳島	0. 0.00	64. 92.75	1. 1.45	2. 2.90	1. 1.45	1. 1.45	69.
香川	0. 0.00	30. 90.91	0. 0.00	1. 3.03	1. 3.03	1. 3.03	33.
愛媛	1. 1.64	50. 81.97	3. 4.92	3. 4.92	1. 1.64	3. 4.92	61.
高知	0. 0.00	76. 97.44	1. 1.28	1. 1.28	0. 0.00	0. 0.00	78.
福岡	0. 0.00	67. 85.90	6. 7.69	1. 1.28	1. 1.28	3. 3.85	78.
佐賀	0. 0.00	64. 98.46	0. 0.00	1. 1.54	0. 0.00	0. 0.00	65.
長崎	6. 6.67	78. 86.67	1. 1.11	1. 1.11	4. 4.44	0. 0.00	90.
熊本	0. 0.00	30. 75.00	6. 15.00	1. 2.50	3. 7.50	0. 0.00	40.

(注) 上段：件数      下段：横の合計に対する割合(%)

県名	記入 なし	変化 なし	面積に 変化	群落構成 に 変化	個体数 に 変化	消滅	合計
大分	0. 0.00	58. 79.45	6. 8.22	4. 5.48	3. 4.11	2. 2.74	73.
宮崎	0. 0.00	50. 81.97	6. 9.84	0. 0.00	5. 8.20	0. 0.00	61.
鹿児島	0. 0.00	84. 90.32	4. 4.30	3. 3.23	1. 1.08	1. 1.08	93.
沖縄	2. 1.98	91. 90.10	3. 2.97	2. 1.98	1. 0.99	2. 1.98	101.
合計	29. 0.76	3326. 87.02	192. 5.02	117. 3.06	63. 1.65	95. 2.49	3822.

(注) 上段：件数      下段：横の合計に対する割合(%)

表2.1.3-1 相観区分別の変化状況

相観区分	記入なし	変化なし	面積に 変化	群落構成に 変化	個体数に 変化	消滅	合計
植生一般	2. 1.94	85. 82.52	13. 12.62	2. 1.94	0. 0.00	1. 0.97	103.
亜寒帯植生	1. 1.82	50. 90.91	1. 1.82	2. 3.64	1. 1.82	0. 0.00	55.
冷温帯植生	0. 0.00	71. 85.54	9. 0.84	2. 2.41	1. 1.20	0. 0.00	83.
暖温帯植生	1. 0.58	151. 87.28	8. 4.62	9. 5.20	1. 0.58	3. 1.73	173.
亜熱帯植生	0. 0.00	8. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	8.
亜寒帯常緑針葉高木林	1. 1.47	63. 92.65	1. 1.47	3. 4.41	0. 0.00	0. 0.00	68.
冷温帯常緑針葉高木林	0. 0.00	119. 88.81	6. 4.48	5. 3.73	2. 1.49	2. 1.49	134.
暖温帯常緑針葉高木林	1. 0.55	159. 86.89	12. 6.56	7. 3.83	0. 0.00	4. 2.19	183.
常緑針葉高木植林	1. 1.33	62. 82.67	4. 5.33	5. 6.67	1. 1.33	2. 2.67	75.
夏緑針葉高木林	1. 9.09	10. 90.91	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	11.
夏緑針葉植林	0. 0.00	2. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2.
暖温帯常緑広葉高木林	8. 0.86	867. 93.53	20. 2.16	25. 2.70	1. 0.11	6. 0.65	927.
亜熱帯常緑広葉高木林	1. 2.08	46. 95.83	1. 2.08	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	48.
常緑広葉高木植林	0. 0.00	12. 85.71	0. 0.00	1. 7.14	1. 7.14	0. 0.00	14.

(注) 上段：件数 下段：横の合計に対する割合(%)

相観区分	記入なし	変化なし	面積に 変化	群落構成に 変化	個体数に 変化	消滅	合計
亜寒帯夏緑広葉高木林	0. 0.00	9. 90.00	1. 10.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	10.
冷温帯夏緑広葉高木林	2. 0.47	386. 89.77	28. 6.51	5. 1.16	1. 0.23	8. 1.86	430.
暖温帯夏緑広葉高木林	0. 0.00	113. 86.92	6. 4.62	6. 4.62	0. 0.00	5. 3.85	130.
亜熱帯夏緑広葉高木林	0. 0.00	1. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1.
夏緑広葉高木植林	0. 0.00	6. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	6.
亜寒帯常緑針葉低木林	0. 0.00	17. 94.44	0. 0.00	0. 0.00	1. 5.56	0. 0.00	18.
冷温帯常緑針葉低木林	0. 0.00	7. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	7.
暖温帯常緑針葉低木林	0. 0.00	13. 81.25	1. 6.25	1. 6.25	1. 6.25	0. 0.00	16.
亜熱帯常緑針葉低木林	0. 0.00	3. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	3.
冷温帯常緑広葉低木林	0. 0.00	14. 93.33	0. 0.00	0. 0.00	1. 6.67	0. 0.00	15.
暖温帯常緑広葉低木林	0. 0.00	43. 97.73	0. 0.00	1. 2.27	0. 0.00	0. 0.00	44.
亜熱帯常緑広葉低木林	1. 5.88	14. 82.35	1. 5.88	1. 5.88	0. 0.00	0. 0.00	17.
亜寒帯夏緑広葉低木林	1. 6.67	14. 93.33	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	15.
冷温帯夏緑広葉低木林	0. 0.00	41. 91.11	1. 2.22	1. 2.22	0. 0.00	2. 4.44	45.

(注) 上段：件数 下段：横の合計に対する割合(%)

相観区分	記入なし	変化なし	面積に 変化	群落構成に 変化	個体数に 変化	消滅	合計
暖温帯夏緑広葉低木林	0. 0.00	33. 86.84	2. 5.26	0. 0.00	0. 0.00	3. 7.89	38.
冷温帯ササ原	0. 0.00	11. 84.62	1. 7.69	1. 7.69	0. 0.00	0. 0.00	13.
暖温帯ササ原	0. 0.00	2. 40.00	2. 40.00	1. 20.00	0. 0.00	0. 0.00	5.
亜熱帯ササ原	0. 0.00	1. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1.
亜寒帯広葉草原	0. 0.00	13. 92.86	0. 0.00	1. 7.14	0. 0.00	0. 0.00	14.
冷温帯広葉草原	0. 0.00	13. 86.67	1. 6.67	0. 0.00	0. 0.00	1. 6.67	15.
暖温帯広葉草原	0. 0.00	4. 80.00	0. 0.00	1. 20.00	0. 0.00	0. 0.00	5.
冷温帯単子葉草本草原	0. 0.00	6. 46.15	3. 23.08	1. 7.69	1. 7.69	2. 15.38	13.
暖温帯単子葉草本草原	0. 0.00	15. 65.22	5. 21.74	0. 0.00	2. 8.70	1. 4.35	23.
亜熱帯単子葉草本草原	0. 0.00	4. 66.67	1. 16.67	1. 16.67	0. 0.00	0. 0.00	6.
草本シダ群落	0. 0.00	10. 90.91	0. 0.00	1. 9.09	0. 0.00	0. 0.00	11.
岩上, 多礫地草本植生	0. 0.00	41. 95.35	0. 0.00	1. 2.33	0. 0.00	1. 2.33	43.
タケ形林	0. 0.00	4. 80.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 20.00	5.
ヤシ形林	0. 0.00	13. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	13.

(注) 上段：件数 下段：横の合計に対する割合(%)

相観区分	記入なし	変化なし	面積に 変化	群落構成に 変化	個体数に 変化	消滅	合計
マングローブ林	0. 0.00	12. 92.31	1. 7.69	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	13.
藓苔類植物群落	0. 0.00	2. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2.
浮葉・沈水植物群落	0. 0.00	19. 61.29	1. 3.23	3. 9.68	1. 3.23	7. 22.58	31.
浮水植物群落	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 33.33	1. 33.33	1. 33.33	3. .
高山荒原植生	0. 0.00	32. 96.97	0. 0.00	0. 0.00	1. 3.03	0. 0.00	33.
雪田植生	0. 0.00	29. 96.67	1. 3.33	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	30.
火山荒原植生	0. 0.00	19. 95.00	1. 5.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	20.
湿地植生	2. 0.81	198. 80.16	16. 6.48	12. 4.86	6. 2.43	13. 5.26	247.
河辺植生	0. 0.00	12. 41.38	10. 34.48	3. 10.34	0. 0.00	4. 13.79	29.
海浜植生	0. 0.00	97. 69.78	21. 15.11	9. 6.47	1. 0.72	11. 7.91	139.
亜寒帯ササ原	0. 0.00	1. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1.
亜寒帯単子葉草本草原	0. 0.00	2. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2.
個体(群)	6. 1.37	354. 80.64	13. 2.96	7. 1.59	40. 9.11	19. 4.33	439.
合計	29. 0.76	3333. 86.91	192. 5.01	119. 3.10	65. 1.69	97. 2.53	3835.

(注) 上段：件数      下段：横の合計に対する割合(%)

表2.1.3-2 特定植物群落の面積増加事例（100%を超える）

県名	No	件名	前回の面積 (ha)	今回の面積 (ha)	備考
北海道	52	風蓮湖畔の塩湿地植生	600.0	3,800	特記に 記入あり
秋田	44	粕毛川源流のブナ林	1	80	同上
東京	14	六郷低水式の汽水帯植物群落	12.0	36.4	同上
東京	33	多摩川羽村大橋下流の カラキリ群落など	12.0	28.5	同上
山梨	17	富士吉田市諏訪の森アカマツ林	1.0	13.4	同上
山梨	39	青木ヶ原のヒノキ・ツガ・クロヨシ林	48.0	4,752	同上
長野	8	梓山の石灰岩地植生	0.1	0.7	同上

表2.2.1-1 変化原因の集計結果

変化原因	件数 (%)
農林業開発	88( 2.3)
その他の開発	46( 1.2)
その他	40( 1.1)
盗採	27( 0.7)
人の立入	24( 0.6)
道路開発	22( 0.5)
植物の侵入	22( 0.5)
自然災害	21( 0.5)
虫害・菌害	18( 0.5)
水辺の開発	16( 0.4)
観光開発	8( 0.2)
周辺の開発	5( 0.1)
動物の侵入	2( 0.1)
汚染物質の侵入	1( 0.0)
記入なし	3,344( 88.7)
複数回答	88( 2.3)
合 計	3,772

表2.2.1-2 変化原因の内容例

変化原因	具体的な内容
人の立入	トラックの駐車場として利用、海水浴による砂浜の過度の利用、登山者が多くヨモギ、オオバコ等が侵入
盗採	野草ブームによる(ヒメサユリ、ウラジロヨウラク、ミスミソウ、イワヒバ、クマガイソウ、ヒメコマツ、ヒカゲツツジ、ホテイアツモリ等)
農林業開発	伐採、植林、農地造成、草地造成、草地開発事業、林道工事
道路開発	道路建設、国道のバイパス建設、橋のかけかえ、道路拡張、改良工事、遊歩道開設
観光開発	ゴルフ練習場の造成、憩いの場の整備
水辺の開発	河川改修、ダム建設、湖周辺の整備、漁港整備
その他の開発	海岸の一部が土捨て場、ブルによる平坦化、塩田跡地が畑になった、水路工事により湿地が完全に水没した、採石、河川敷地を拡大するため埋め立てられた、瀬戸大橋架橋のため埋め立てられた、公共施設の設置、運動場用地として、伐採、埋め立て、住宅地開発、公園造成
周辺の開発	宅地造成に伴う道路建設、ダム工事に伴う水量の変化
植物の侵入	ヒメムカシヨモギ、セイタカアワダチソウ、ススキの侵入、マダケの大繁茂、生育場所の陸化
虫害・菌害	マツクイムシの侵入、マツ林の枯死
動物の侵入	シカによるトウヒ樹皮の環状剥皮
汚染物質の侵入	水質汚染による生育環境の悪化
ゴミの投棄	建築廃棄物の不法投棄
自然災害	台風、風倒、洪水による流失、河川の増水と氾濫、降雪
その他	地盤沈下による立ち枯れ、石灰石の採石、防犯のため伐採、本殿改築による伐採、周囲からの排水などの侵入による水質の変化

表2.2.2-1 地方別の変化原因（件数）

地方	記入 なし	人の 立入	盗採	農林業 開発	道路 開発	観光 開発	水辺の 開発	その他 の開発	周辺の 開発	植物の 侵入	虫害・ 菌害	動物の 侵入	汚染物質 の侵入	ゴミの 投棄	自然 災害	その他	合計
北海道	101 (86.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (7.7)	2 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.7)	3 (2.6)	117
東北	386 (87.7)	4 (0.9)	7 (1.6)	21 (4.8)	3 (0.7)	3 (0.7)	2 (0.5)	6 (1.4)	1 (0.2)	2 (0.5)	1 (0.2)	1 (0.2)	0 (0.0)	1 (0.2)	2 (0.5)	0 (0.0)	440
関東	483 (80.5)	15 (2.5)	10 (1.7)	15 (2.5)	6 (1.0)	4 (0.7)	9 (1.5)	18 (3.0)	4 (0.7)	6 (1.0)	4 (0.7)	0 (0.0)	1 (0.2)	3 (0.5)	9 (1.5)	13 (2.2)	600
中部	779 (85.0)	19 (2.1)	9 (1.0)	19 (2.1)	11 (1.2)	5 (0.5)	7 (0.8)	17 (1.9)	8 (0.9)	12 (1.3)	8 (0.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (0.4)	7 (0.8)	11 (1.2)	916
近畿	493 (87.9)	3 (0.5)	5 (0.9)	16 (2.9)	10 (1.8)	2 (0.4)	3 (0.5)	6 (1.1)	2 (0.4)	4 (0.7)	4 (0.7)	1 (0.2)	2 (0.4)	3 (0.5)	1 (0.2)	6 (1.1)	561
中国	356 (88.3)	2 (0.5)	1 (0.2)	5 (1.2)	8 (2.0)	1 (0.2)	2 (0.5)	4 (1.0)	4 (1.0)	1 (0.2)	6 (1.5)	0 (0.0)	3 (0.7)	0 (0.0)	5 (1.2)	5 (1.2)	403
四国	221 (90.2)	3 (1.2)	2 (0.8)	3 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	5 (2.0)	1 (0.4)	5 (2.0)	3 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)	245
九州	437 (86.2)	4 (0.8)	12 (2.4)	19 (3.7)	5 (1.0)	3 (0.6)	8 (1.6)	4 (0.8)	2 (0.4)	1 (0.2)	1 (0.2)	1 (0.2)	1 (0.2)	1 (0.2)	2 (0.4)	6 (1.2)	507
沖縄	91 (86.7)	3 (2.9)	0 (0.0)	2 (1.9)	0 (0.0)	1 (1.0)	1 (1.0)	1 (1.0)	1 (1.0)	1 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.0)	3 (2.9)	105
合計	3,347 (86.0)	53 (1.4)	46 (1.2)	109 (2.8)	45 (1.2)	19 (0.5)	33 (0.8)	61 (1.6)	23 (0.6)	32 (0.8)	27 (0.7)	3 (0.1)	7 (0.2)	12 (0.3)	29 (0.7)	48 (1.2)	3,894
		(9.7)	(8.4)	(19.9)	(8.2)	(3.5)	(6.0)	(11.1)	(4.2)	(5.9)	(4.9)	(0.5)	(1.3)	(2.2)	(5.3)	(8.8)	

注1) 複数回答のため、合計群落数は、実際の選定群落数とは合致しない。

注2) ( ) 内 上段は、群落全体（横の合計）に対する割合（%）  
下段は、変化群落での構成比（%）

表2.2.2-2 都道府県別の変化原因（件数）

都道府県	記入なし	人の立入	盗採	農林業 開発	道路 開発	観光 開発	水辺の 開発	その他 の開発	周辺の 開発	植物の 侵入	虫害・ 菌害	動物の 侵入	汚染物質 の侵入	ゴミ 投棄	自然 災害	その他	合計
北海道	101.	0.	0.	9.	2.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	2.	3.	117.
	86.32	0.00	0.00	7.69	1.71	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.71	2.56	
	3.02	0.00	0.00	8.26	4.44	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.90	6.25	3.00
青森	14.	0.	0.	4.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	19.
	73.68	0.00	0.00	21.05	0.00	0.00	0.00	5.26	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	0.42	0.00	0.00	3.67	0.00	0.00	0.00	1.64	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.49
岩手	59.	1.	2.	8.	0.	0.	1.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	2.	0.	74.
	79.73	1.35	2.70	10.81	0.00	0.00	1.35	1.35	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.70	0.00	
	1.76	1.89	4.35	7.34	0.00	0.00	3.03	1.64	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.90	0.00	1.90
宮城	65.	1.	2.	3.	1.	1.	0.	2.	0.	1.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	77.
	84.42	1.30	2.60	3.90	1.30	1.30	0.00	2.60	0.00	1.30	0.00	1.30	0.00	0.00	0.00	0.00	
	1.94	1.89	4.35	2.75	2.22	5.26	0.00	3.28	0.00	3.13	0.00	33.33	0.00	0.00	0.00	0.00	1.98
秋田	67.	1.	2.	2.	1.	1.	1.	1.	1.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	78.
	85.90	1.28	2.56	2.56	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	0.00	0.00	0.00	0.00	1.28	0.00	0.00	
	2.00	1.89	4.35	1.83	2.22	5.26	3.03	1.64	4.35	0.00	0.00	0.00	0.00	8.33	0.00	0.00	2.00
山形	78.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	79.
	98.73	0.00	0.00	1.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	2.33	0.00	0.00	0.92	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.03
福島	103.	1.	1.	3.	1.	1.	0.	1.	0.	1.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	113.
	91.15	0.88	0.88	2.65	0.88	0.88	0.00	0.88	0.00	0.88	0.88	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	3.08	1.89	2.17	2.75	2.22	5.26	0.00	1.64	0.00	3.13	3.70	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.90
茨城	43.	1.	2.	5.	2.	2.	1.	3.	0.	1.	4.	0.	0.	0.	0.	1.	65.
	66.15	1.54	3.08	7.69	3.08	3.08	1.54	4.62	0.00	1.54	6.15	0.00	0.00	0.00	0.00	1.54	
	1.28	1.89	4.35	4.59	4.44	10.53	3.03	4.92	0.00	3.13	14.81	0.00	0.00	0.00	0.00	2.08	1.67
栃木	59.	0.	2.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	2.	0.	65.
	90.77	0.00	3.08	1.54	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.54	0.00	0.00	0.00	0.00	3.08	0.00	
	1.76	0.00	4.35	0.92	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.13	0.00	0.00	0.00	0.00	6.90	0.00	1.67
群馬	100.	3.	3.	1.	1.	1.	0.	3.	1.	1.	0.	0.	1.	1.	0.	1.	117.
	85.47	2.56	2.56	0.85	0.85	0.85	0.00	2.56	0.85	0.85	0.00	0.00	0.85	0.85	0.00	0.85	
	2.99	5.66	6.52	0.92	2.22	5.26	0.00	4.92	4.35	3.13	0.00	0.00	14.29	8.33	0.00	2.08	3.00
埼玉	50.	1.	0.	3.	1.	0.	0.	3.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	3.	61.
	81.97	1.64	0.00	4.92	1.64	0.00	0.00	4.92	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.92	
	1.49	1.89	0.00	2.75	2.22	0.00	0.00	4.92	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.25	1.57
千葉	75.	1.	3.	4.	0.	1.	4.	2.	1.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	93.
	80.65	1.08	3.23	4.30	0.00	1.08	4.30	2.15	1.08	1.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.08	
	2.24	1.89	6.52	3.67	0.00	5.26	12.12	3.28	4.35	3.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.08	2.39

上段：件数 中段：横合計に対する割合 下段：縦合計に対する割合

都道府県	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミ投棄	自然災害	その他	合計
東京	75.	4.	0.	0.	1.	0.	0.	6.	1.	0.	0.	0.	0.	2.	7.	6.	102.
	73.53	3.92	0.00	0.00	0.98	0.00	0.00	5.88	0.98	0.00	0.00	0.00	0.00	1.96	6.86	5.88	
	2.24	7.55	0.00	0.00	2.22	0.00	0.00	9.84	4.35	0.00	0.00	0.00	0.00	16.67	24.14	12.50	2.62
神奈川	81.	5.	0.	1.	1.	0.	4.	1.	1.	2.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	97.
	83.51	5.15	0.00	1.03	1.03	0.00	4.12	1.03	1.03	2.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.03	
	2.42	9.43	0.00	0.92	2.22	0.00	12.12	1.64	4.35	6.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.08	2.49
新潟	88.	0.	1.	2.	0.	1.	1.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	1.	2.	0.	97.
	90.72	0.00	1.03	2.06	0.00	1.03	1.03	0.00	1.03	0.00	0.00	0.00	0.00	1.03	2.06	0.00	
	2.63	0.00	2.17	1.83	0.00	5.26	3.03	0.00	4.35	0.00	0.00	0.00	0.00	8.33	6.90	0.00	2.49
富山	129.	1.	0.	1.	0.	0.	0.	1.	0.	4.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	136.
	94.85	0.74	0.00	0.74	0.00	0.00	0.00	0.74	0.00	2.94	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	3.85	1.89	0.00	0.92	0.00	0.00	0.00	1.64	0.00	12.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.49
石川	96.	1.	0.	0.	3.	1.	1.	1.	1.	1.	1.	0.	0.	0.	1.	0.	107.
	89.72	0.93	0.00	0.00	2.80	0.93	0.93	0.93	0.93	0.93	0.93	0.00	0.00	0.00	0.93	0.00	
	2.87	1.89	0.00	0.00	6.67	5.26	3.03	1.64	4.35	3.13	3.70	0.00	0.00	0.00	3.45	0.00	2.75
福井	55.	0.	0.	2.	0.	1.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	60.
	91.67	0.00	0.00	3.33	0.00	1.67	0.00	0.00	1.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.67	
	1.64	0.00	0.00	1.83	0.00	5.26	0.00	0.00	4.35	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.08	1.54
山梨	90.	0.	3.	1.	0.	0.	1.	0.	0.	1.	1.	0.	0.	1.	2.	4.	104.
	86.54	0.00	2.88	0.96	0.00	0.00	0.96	0.00	0.00	0.96	0.96	0.00	0.00	0.96	1.92	3.85	
	2.69	0.00	6.52	0.92	0.00	0.00	3.03	0.00	0.00	3.13	3.70	0.00	0.00	8.33	6.90	8.33	2.67
長野	44.	1.	1.	8.	4.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	3.	63.
	69.84	1.59	1.59	12.70	6.35	1.59	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.59	4.76	
	1.31	1.89	2.17	7.34	8.89	5.26	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.45	6.25	1.62
岐阜	116.	0.	0.	2.	2.	0.	2.	9.	1.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	133.
	87.22	0.00	0.00	1.50	1.50	0.00	1.50	6.77	0.75	0.75	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	3.47	0.00	0.00	1.83	4.44	0.00	6.06	14.75	4.35	3.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.42
静岡	116.	1.	4.	2.	2.	0.	1.	1.	2.	2.	5.	0.	0.	0.	1.	3.	140.
	82.86	0.71	2.86	1.43	1.43	0.00	0.71	0.71	1.43	1.43	3.57	0.00	0.00	0.00	0.71	2.14	
	3.47	1.89	8.70	1.83	4.44	0.00	3.03	1.64	8.70	6.25	18.52	0.00	0.00	0.00	3.45	6.25	3.60
愛知	45.	15.	0.	1.	0.	1.	1.	5.	2.	3.	1.	0.	0.	2.	0.	0.	76.
	59.21	19.74	0.00	1.32	0.00	1.32	1.32	6.58	2.63	3.95	1.32	0.00	0.00	2.63	0.00	0.00	
	1.34	28.30	0.00	0.92	0.00	5.26	3.03	8.20	8.70	9.38	3.70	0.00	0.00	16.67	0.00	0.00	1.95
三重	100.	0.	0.	2.	0.	1.	0.	0.	1.	1.	0.	0.	1.	0.	0.	1.	107.
	93.46	0.00	0.00	1.87	0.00	0.93	0.00	0.00	0.93	0.93	0.00	0.00	0.93	0.00	0.00	0.93	
	2.99	0.00	0.00	1.83	0.00	5.26	0.00	0.00	4.35	3.13	0.00	0.00	14.29	0.00	0.00	2.08	2.75

上段：件数

中段：横合計に対する割合

下段：縦合計に対する割合

都道府県	記入なし	人の立入	盗採	農林業 開発	道路 開発	観光 開発	水辺の 開発	その他 の開発	周辺の 開発	植物の 侵入	虫害・ 動物の 侵入	汚染物質 の侵入	ゴミ 投棄	自然 災害	その他	合計
滋賀	103.	2.	3.	5.	3.	1.	1.	2.	1.	1.	2.	0.	2.	0.	2.	128.
	80.47	1.56	2.34	3.91	2.34	0.78	0.78	1.56	0.78	0.78	1.56	0.00	0.00	1.56	0.00	1.56
	3.08	3.77	6.52	4.59	6.67	5.26	3.03	3.28	4.35	3.13	7.41	0.00	0.00	16.67	0.00	4.17
京都	76.	1.	1.	1.	1.	0.	2.	0.	0.	0.	2.	0.	1.	0.	0.	85.
	89.41	1.18	1.18	1.18	1.18	0.00	2.35	0.00	0.00	0.00	2.35	0.00	1.18	0.00	0.00	0.00
	2.27	1.89	2.17	0.92	2.22	0.00	6.06	0.00	0.00	0.00	7.41	0.00	14.29	0.00	0.00	0.00
大阪	31.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	32.
	96.88	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.93	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
兵庫	89.	0.	0.	1.	1.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	2.	94.
	94.68	0.00	0.00	1.06	1.06	0.00	0.00	1.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.13	0.00
	2.66	0.00	0.00	0.92	2.22	0.00	0.00	1.64	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.17	2.41
奈良	22.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	1.	0.	0.	0.	25.
	88.00	0.00	0.00	0.00	4.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.00	0.00	4.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.66	0.00	0.00	0.00	2.22	0.00	0.00	0.00	0.00	3.13	0.00	33.33	0.00	0.00	0.00	0.00
和歌山	72.	0.	1.	7.	4.	0.	0.	3.	0.	0.	0.	0.	1.	1.	1.	90.
	80.00	0.00	1.11	7.78	4.44	0.00	0.00	3.33	0.00	0.00	0.00	0.00	1.11	1.11	1.11	0.00
	2.15	0.00	2.17	6.42	8.89	0.00	0.00	4.92	0.00	0.00	0.00	0.00	8.33	3.45	2.08	2.31
鳥取	52.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	2.	0.	4.	0.	0.	0.	2.	61.
	85.25	0.00	0.00	1.64	0.00	0.00	0.00	0.00	3.28	0.00	6.56	0.00	0.00	0.00	3.28	0.00
	1.55	0.00	0.00	0.92	0.00	0.00	0.00	0.00	8.70	0.00	14.81	0.00	0.00	0.00	4.17	1.57
島根	74.	1.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	2.	1.	80.
	92.50	1.25	0.00	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	2.50	1.25	0.00
	2.21	1.89	0.00	0.92	0.00	0.00	0.00	0.00	4.35	0.00	0.00	0.00	0.00	6.90	2.08	2.05
岡山	55.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	56.
	98.21	0.00	0.00	0.00	1.79	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	1.64	0.00	0.00	0.00	2.22	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.44
広島	110.	1.	1.	2.	5.	1.	1.	4.	1.	1.	2.	0.	3.	3.	1.	136.
	80.88	0.74	0.74	1.47	3.68	0.74	0.74	2.94	0.74	0.74	1.47	0.00	2.21	0.00	0.74	0.00
	3.29	1.89	2.17	1.83	11.11	5.26	3.03	6.56	4.35	3.13	7.41	0.00	42.86	0.00	10.34	2.08
山口	65.	0.	0.	1.	2.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	70.
	92.86	0.00	0.00	1.43	2.86	0.00	1.43	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.43	0.00
	1.94	0.00	0.00	0.92	4.44	0.00	3.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.08	1.80
徳島	64.	1.	1.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	2.	0.	0.	0.	0.	0.	69.
	92.75	1.45	1.45	1.45	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.90	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	1.91	1.89	2.17	0.92	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

上段：件数      中段：横合計に対する割合      下段：縦合計に対する割合

都道府県	記入なし	人の立入	盗採	農林業 開発	道路 開発	観光 開発	水辺の 開発	その他 の開発	周辺の 開発	植物の 侵入	虫害・ 動物の 侵入	汚染物質 の侵入	ゴミ 投棄	自然 災害	その他	合 計
香川	30.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	1.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	33.
	90.91	0.00	0.00	3.03	0.00	0.00	0.00	3.03	0.00	3.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.90	0.00	0.00	0.92	0.00	0.00	0.00	1.64	0.00	3.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.85
愛媛	51.	2.	1.	1.	0.	0.	1.	3.	1.	2.	2.	0.	0.	0.	1.	65.
	78.46	3.08	1.54	1.54	0.00	0.00	1.54	4.62	1.54	3.08	3.08	0.00	0.00	0.00	0.00	1.54
	1.52	3.77	2.17	0.92	0.00	0.00	3.03	4.92	4.35	6.25	7.41	0.00	0.00	0.00	0.00	2.08
高知	76.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	78.
	97.44	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.28	0.00	0.00	1.28	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	2.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.64	0.00	0.00	3.70	0.00	0.00	0.00	0.00	2.00
福岡	67.	1.	2.	2.	1.	3.	3.	2.	1.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	83.
	80.72	1.20	2.41	2.41	1.20	3.61	3.61	2.41	1.20	0.00	0.00	0.00	0.00	1.20	0.00	0.00
	2.00	1.89	4.35	1.83	2.22	15.79	9.09	3.28	4.35	0.00	0.00	0.00	0.00	3.45	0.00	2.13
佐賀	64.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	65.
	98.46	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.54	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	1.91	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.64	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.67
長崎	86.	1.	3.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	1.	92.
	93.48	1.09	3.26	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.09	0.00	0.00	1.09	0.00
	2.57	1.89	6.52	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	33.33	0.00	0.00	3.45	0.00
熊本	30.	0.	1.	6.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	38.
	78.95	0.00	2.63	15.79	0.00	0.00	2.63	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.90	0.00	2.17	5.50	0.00	0.00	3.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.98
大分	56.	1.	3.	6.	2.	0.	2.	1.	1.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	75.
	74.67	1.33	4.00	8.00	2.67	0.00	2.67	1.33	1.33	0.00	0.00	0.00	1.33	0.00	0.00	2.67
	1.67	1.89	6.52	5.50	4.44	0.00	6.06	1.64	4.35	0.00	0.00	0.00	14.29	0.00	0.00	4.17
宮崎	50.	1.	3.	3.	1.	0.	1.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	2.	62.
	80.65	1.61	4.84	4.84	1.61	0.00	1.61	0.00	0.00	1.61	0.00	0.00	0.00	0.00	3.23	0.00
	1.49	1.89	6.52	2.75	2.22	0.00	3.03	0.00	0.00	3.13	0.00	0.00	0.00	0.00	4.17	1.59
鹿児島	84.	0.	0.	2.	1.	0.	1.	0.	0.	0.	1.	0.	1.	0.	2.	92.
	91.30	0.00	0.00	2.17	1.09	0.00	1.09	0.00	0.00	0.00	1.09	0.00	1.09	0.00	2.17	0.00
	2.51	0.00	0.00	1.83	2.22	0.00	3.03	0.00	0.00	0.00	3.70	0.00	8.33	0.00	4.17	2.36
沖縄	91.	3.	0.	2.	0.	1.	1.	1.	1.	1.	0.	0.	0.	1.	3.	105.
	86.67	2.86	0.00	1.90	0.00	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.00	0.00	0.00	0.95	2.86	0.00
	2.72	5.66	0.00	1.83	0.00	5.26	3.03	1.64	4.35	3.13	0.00	0.00	0.00	3.45	6.25	2.70
合 計	3347.	53.	46.	109.	45.	19.	33.	61.	23.	32.	27.	3.	12.	29.	48.	3894.
	85.95	1.36	1.18	2.80	1.16	0.49	0.85	1.57	0.59	0.82	0.69	0.08	0.31	0.74	1.23	

上段：件数

中段：横合計に対する割合

下段：縦合計に対する割合

表2.2.3-1 相観区分別の変化原因

相観区分	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
植生一般	86. 81.90	0. 0.00	0. 0.00	9. 8.57	2. 1.90	1. 0.95	0. 0.00	2. 1.90	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.95	0. 0.00	0. 0.00	3. 2.86	1. 0.95	105.
亜寒帯植生	50. 87.72	1. 1.75	2. 3.51	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.75	0. 0.00	1. 1.75	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.75	1. 1.75	0. 0.00	57.
冷温帯植生	70. 82.35	1. 1.18	2. 2.35	8. 9.41	1. 1.18	1. 1.18	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.18	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.18	85.
暖温帯植生	151. 86.29	2. 1.14	0. 0.00	6. 3.43	4. 2.29	1. 0.57	1. 0.57	3. 1.71	1. 0.57	0. 0.00	3. 1.71	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.57	1. 0.57	1. 0.57	175.
亜熱帯植生	8. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	8.
亜寒帯常緑針葉高木林	64. 92.75	0. 0.00	0. 0.00	2. 2.90	1. 1.45	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 2.90	0. 0.00	69.
冷温帯常緑針葉高木林	120. 87.59	2. 1.46	0. 0.00	7. 5.11	2. 1.46	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.73	2. 1.46	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.73	0. 0.00	2. 1.46	137.
暖温帯常緑針葉高木林	161. 85.64	0. 0.00	1. 0.53	5. 2.66	2. 1.06	1. 0.53	0. 0.00	4. 2.13	0. 0.00	1. 0.53	8. 4.26	0. 0.00	3. 1.60	0. 0.00	2. 1.06	0. 0.00	188.
常緑針葉高木植林	64. 83.12	0. 0.00	2. 2.60	2. 2.60	2. 2.60	0. 0.00	0. 0.00	2. 2.60	1. 1.30	1. 1.30	2. 2.60	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.30	77.
夏緑針葉高木林	11. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	11.
夏緑針葉植林	2. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2.
暖温帯常緑広葉高木林	863. 91.71	12. 1.28	1. 0.11	9. 0.96	5. 0.53	3. 0.32	2. 0.21	10. 1.06	6. 0.64	3. 0.32	8. 0.85	1. 0.11	0. 0.00	2. 0.21	5. 0.53	11. 1.17	941.
亜熱帯常緑広葉高木林	47. 95.92	0. 0.00	0. 0.00	1. 2.04	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 2.04	49.
常緑広葉高木植林	12. 85.71	1. 7.14	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 7.14	14.
亜寒帯夏緑広葉高木林	9. 90.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 10.00	0. 0.00	10.
冷温帯夏緑広葉高木林	391. 89.89	3. 0.69	0. 0.00	25. 5.75	5. 1.15	2. 0.46	2. 0.46	3. 0.69	2. 0.46	1. 0.23	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.23	435.

(注) 上段：件数 下段：横の合計に対する割合(%)

相観区分	記入 なし	人の 立入	盗採	農林業 開発	道路 開発	観光 開発	水辺の 開発	その他 の開発	周辺の 開発	植物の 侵入	虫害・ 菌害	動物の 侵入	汚染物質 の侵入	ゴミ の投棄	自然 災害	その他	合計
暖温帯夏緑広葉高木林	112. 86.15	2. 1.54	0. 0.00	3. 2.31	2. 1.54	0. 0.00	1. 0.77	6. 4.62	0. 0.00	1. 0.77	1. 0.77	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.77	0. 0.00	1. 0.77	130.
亜熱帯夏緑広葉高木林	1. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1.
夏緑広葉高木植林	6. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	6.
亜寒帯常緑針葉低木林	17. 94.44	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 5.56	0. 0.00	18.
冷温帯常緑針葉低木林	7. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	7.
暖温帯常緑針葉低木林	14. 82.35	0. 0.00	2. 11.76	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 5.88	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	17.
亜熱帯常緑針葉低木林	3. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	3.
冷温帯常緑広葉低木林	14. 93.33	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 6.67	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	15.
暖温帯常緑広葉低木林	43. 97.73	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 2.27	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	44.							
亜熱帯常緑広葉低木林	16. 88.89	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 5.56	0. 0.00	1. 5.56	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	18.
亜寒帯夏緑広葉低木林	15. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	15.
冷温帯夏緑広葉低木林	41. 91.11	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 2.22	0. 0.00	0. 0.00	1. 2.22	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 4.44	45.
暖温帯夏緑広葉低木林	31. 81.58	1. 2.63	0. 0.00	0. 0.00	1. 2.63	0. 0.00	2. 5.26	2. 5.26	1. 2.63	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	38.
冷温帯ササ原	11. 84.62	1. 7.69	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 7.69	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	13.
暖温帯ササ原	2. 50.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 25.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 25.00	4.								
亜熱帯ササ原	1. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1.
亜寒帯広葉草原	13. 92.86	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 7.14	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	14.

(注) 上段：件数 下段：横の合計に対する割合(%)

相観区分	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
冷温帯広葉草原	13. 86.67	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 13.33	15.
暖温帯広葉草原	4. 57.14	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 14.29	1. 14.29	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 14.29	7.
冷温帯単子葉草本草原	8. 66.67	0. 0.00	1. 8.33	2. 16.67	1. 8.33	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	12.
暖温帯単子葉草本草原	14. 63.64	0. 0.00	2. 9.09	4. 18.18	0. 0.00	0. 0.00	1. 4.55	1. 4.55	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	22.
亜熱帯単子葉草本草原	3. 50.00	1. 16.67	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 16.67	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 16.67	6.
草本シダ群落	10. 90.91	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 9.09	11.
岩上、多隙地草本植生	40. 93.02	0. 0.00	2. 4.65	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 2.33	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	43.
タケ形林	4. 80.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 20.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	5.
ヤシ形林	12. 92.31	1. 7.69	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	13.
マングローブ林	11. 78.57	0. 0.00	0. 0.00	1. 7.14	0. 0.00	0. 0.00	1. 7.14	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 7.14	14.
蕨苔類植物群落	2. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2.
浮葉・沈水植物群落	21. 67.74	0. 0.00	0. 0.00	2. 6.45	0. 0.00	1. 3.23	3. 9.68	0. 0.00	0. 0.00	1. 3.23	0. 0.00	0. 0.00	1. 3.23	0. 0.00	0. 0.00	2. 6.45	31.
浮水植物群落	1. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1.
高山荒原植生	32. 96.97	0. 0.00	1. 3.03	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	33.
雪田植生	29. 96.67	0. 0.00	0. 0.00	1. 3.33	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	30.
火山荒原植生	20. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	20.
湿地植生	199. 78.04	3. 1.18	5. 1.96	9. 3.53	4. 1.57	3. 1.18	2. 0.78	8. 3.14	5. 1.96	7. 2.75	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.39	2. 0.78	3. 1.18	4. 1.57	255.

(注) 上段：件数 下段：横の合計に対する割合(%)

相観区分	記入 なし	人の 立入	盗採	農林業 開発	道路 開発	観光 開発	水辺の 開発	その他 の開発	周辺の 開発	植物の 侵入	虫害・ 動物 の侵入	汚染物質 の侵入	ゴミ の投棄	自然 災害	その他	合計	
河辺植生	15. 44.12	4. 11.76	0. 0.00	1. 2.94	1. 2.94	0. 0.00	3. 8.82	3. 8.82	0. 0.00	1. 2.94	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	4. 11.76	2. 5.88	34.	
海浜植生	98. 65.77	9. 6.04	1. 0.67	1. 0.67	4. 2.68	1. 0.67	9. 6.04	8. 5.37	2. 1.34	2. 1.34	1. 0.67	0. 0.00	0. 0.00	2. 1.34	4. 2.68	7. 4.70	149.
亜寒帯ササ原	1. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1.
亜寒帯単子葉草本草原	2. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2.
個体(群)	361. 81.12	9. 2.02	24. 5.39	10. 2.25	6. 1.35	3. 0.67	5. 1.12	6. 1.35	4. 0.90	8. 1.80	0. 0.00	0. 0.00	2. 0.45	2. 0.45	2. 0.45	3. 0.67	445.
合計	3356. 85.99	53. 1.36	46. 1.18	109. 2.79	45. 1.15	19. 0.49	33. 0.85	61. 1.56	23. 0.59	32. 0.82	27. 0.69	3. 0.08	7. 0.18	12. 0.31	29. 0.74	48. 1.23	3903.

(注) 上段：件数 下段：横の合計に対する割合(%)

表2.3.1-1 変化状況と変化原因の集計

変化原因	記入 なし	変化 なし	面積 変化	群 落 構 成 変 化	個 体 数 変 化	消 滅	合 計
記入なし	28. 0.83 93.33	3287. 97.97 98.47	21. 0.63 8.47	8. 0.24 5.00	8. 0.24 9.88	3. 0.09 2.44	3355. 84.30
人の立入	0. 0.00 0.00	20. 35.09 0.60	10. 17.54 4.03	16. 28.07 10.00	7. 12.28 8.64	4. 7.02 3.25	57. 1.43
盗採	0. 0.00 0.00	5. 8.62 0.15	7. 12.07 2.82	10. 17.24 6.25	23. 39.66 28.40	13. 22.41 10.57	58. 1.46
農林業 開発	1. 0.82 3.33	4. 3.28 0.12	76. 62.30 30.65	14. 11.48 8.75	10. 8.20 12.35	17. 13.93 13.82	122. 3.07
道路開発	1. 1.72 3.33	1. 1.72 0.03	31. 53.45 12.50	10. 17.24 6.25	4. 6.90 4.94	11. 18.97 8.94	58. 1.46
観光開発	0. 0.00 0.00	3. 13.04 0.09	9. 39.13 3.63	6. 26.09 3.75	2. 8.70 2.47	3. 13.04 2.44	23. 0.58
水辺の 開発	0. 0.00 0.00	1. 2.94 0.03	10. 29.41 4.03	6. 17.65 3.75	5. 14.71 6.17	12. 35.29 9.76	34. 0.85
その他の 開発	0. 0.00 0.00	3. 4.41 0.09	29. 42.65 11.69	6. 8.82 3.75	2. 2.94 2.47	28. 41.18 22.76	68. 1.71
周辺の 開発	0. 0.00 0.00	2. 7.41 0.06	7. 25.93 2.82	8. 29.63 5.00	3. 11.11 3.70	7. 25.93 5.69	27. 0.68
植物の 侵入	0. 0.00 0.00	3. 7.69 0.09	5. 12.82 2.02	19. 48.72 11.88	6. 15.38 7.41	6. 15.38 4.88	39. 0.98
虫害・ 菌害	0. 0.00 0.00	2. 6.67 0.06	6. 20.00 2.42	21. 70.00 13.12	0. 0.00 0.00	1. 3.33 0.81	30. 0.75
動物の 侵入	0. 0.00 0.00	1. 33.33 0.03	0. 0.00 0.00	2. 66.67 1.25	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	3. 0.08
汚染物質 の侵入	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 20.00 0.81	3. 30.00 1.88	2. 20.00 2.47	3. 30.00 2.44	10. 0.25
ゴミの 投棄	0. 0.00 0.00	3. 23.08 0.09	4. 30.77 1.61	3. 23.08 1.88	2. 15.38 2.47	1. 7.69 0.81	13. 0.33
自然災害	0. 0.00 0.00	2. 6.06 0.06	9. 27.27 3.63	11. 33.33 6.88	3. 9.09 3.70	8. 24.24 6.50	33. 0.83
その他	0. 0.00 0.00	1. 2.00 0.03	22. 44.00 8.87	17. 34.00 10.63	4. 8.00 4.94	6. 12.00 4.88	50. 1.26
合 計	30. 0.75	3338. 83.87	248. 6.23	160. 4.02	81. 2.04	123. 3.09	3980.

上段：件数

中段：横の合計に対する割合（％）

下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.3.2-1 相観区分別にみた変化状況と変化原因（暖温帯常緑広葉高木林）

変化原因	記入なし	変化なし	面積変化	群落構成変化	個体数変化	消滅	合計
記入なし	8. 100.00 0.93	853. 97.71 98.84	2. 7.69 0.23	- - -	- - -	- - -	863. 91.13
人の立入	- - -	9. 1.03 69.23	1. 3.85 7.69	2. 7.14 15.38	- - -	1. 9.09 7.69	13. 1.37
盗採	- - -	- - -	1. 3.85 50.00	- - -	- - -	1. 9.09 50.00	2. 0.21
農林業 開発	- - -	3. 0.34 30.00	4. 15.38 40.00	1. 3.57 10.00	- - -	2. 18.18 20.00	10. 1.06
道路開発	- - -	- - -	3. 11.54 60.00	2. 7.14 40.00	- - -	- - -	5. 0.53
観光開発	- - -	1. 0.11 25.00	1. 3.85 25.00	1. 3.57 25.00	- - -	1. 9.09 25.00	4. 0.42
水辺の 開発	- - -	- - -	- - -	2. 7.14 100.00	- - -	- - -	2. 0.21
その他の 開発	- - -	2. 0.23 18.18	6. 23.08 54.55	- - -	- - -	3. 27.27 27.27	11. 1.16
周辺の 開発	- - -	1. 0.11 14.29	2. 7.69 28.57	2. 7.14 28.57	- - -	2. 18.18 28.57	7. 0.74
植物の 侵入	- - -	1. 0.11 33.33	- - -	2. 7.14 66.67	- - -	- - -	3. 0.32
虫害・ 菌害	- - -	1. 0.11 12.50	1. 3.85 12.50	6. 21.43 75.00	- - -	- - -	8. 0.84
動物の 侵入	- - -	1. 0.11 100.00	- - -	- - -	- - -	- - -	1. 0.11
ゴミの 投棄	- - -	1. 0.11 50.00	1. 3.85 50.00	- - -	- - -	- - -	2. 0.21
自然災害	- - -	- - -	1. 3.85 20.00	3. 10.71 60.00	- - -	1. 9.09 20.00	5. 0.53
その他	- - -	- - -	3. 11.54 27.27	7. 25.00 63.64	1. 100.00 9.09	- - -	11. 1.16
合計	8. 0.84	873. 92.19	26. 2.75	28. 2.96	1. 0.11	11. 1.16	947. 23.72

(注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

表2.3.2-2 相観区分別にみた変化状況と変化原因（個体群）

変化原因	記入 なし	変化 なし	面積 変化	群落構成 変化	個体数 変化	消滅	合計
記入なし	5.	351.	2.	1.	6.	-	365.
	71.43	99.15	12.50	14.29	11.54	-	79.87
	1.37	96.16	0.55	0.27	1.64	-	
人の立入	-	1.	1.	-	6.	1.	9.
	-	0.28	6.25	-	11.54	4.76	1.97
	-	11.11	11.11	-	66.67	11.11	
盗採	-	-	3.	2.	17.	7.	29.
	-	-	18.75	28.57	32.69	33.33	6.35
	-	-	10.34	6.90	58.62	24.14	
農林業 開発	1.	-	2.	-	5.	3.	11.
	14.29	-	12.50	-	9.62	14.29	2.41
	9.09	-	18.18	-	45.45	27.27	
道路開発	1.	-	3.	-	1.	2.	7.
	14.29	-	18.75	-	1.92	9.52	1.53
	14.29	-	42.86	-	14.29	28.57	
観光開発	-	-	1.	1.	1.	-	3.
	-	-	6.25	14.29	1.92	-	0.66
	-	-	33.33	33.33	33.33	-	
水辺の 開発	-	-	-	-	4.	1.	5.
	-	-	-	-	7.69	4.76	1.09
	-	-	-	-	80.00	20.00	
その他の 開発	-	-	1.	-	1.	4.	6.
	-	-	6.25	-	1.92	19.05	1.31
	-	-	16.67	-	16.67	66.67	
周辺の 開発	-	-	1.	-	3.	-	4.
	-	-	6.25	-	5.77	-	0.88
	-	-	25.00	-	75.00	-	
植物の 侵入	-	2.	1.	3.	2.	1.	9.
	-	0.56	6.25	42.86	3.85	4.76	1.97
	-	22.22	11.11	33.33	22.22	11.11	
汚染物質 の侵入	-	-	-	-	2.	-	2.
	-	-	-	-	3.85	-	0.44
	-	-	-	-	100.00	-	
ゴミの 投棄	-	-	-	-	2.	-	2.
	-	-	-	-	3.85	-	0.44
	-	-	-	-	100.00	-	
自然災害	-	-	-	-	2.	-	2.
	-	-	-	-	3.85	-	0.44
	-	-	-	-	100.00	-	
その他	-	-	1.	-	-	2.	3.
	-	-	6.25	-	-	9.52	0.66
	-	-	33.33	-	-	66.67	
合計	7.	354.	16.	7.	52.	21.	457.
	1.53	77.46	3.50	1.53	11.38	4.60	11.45

(注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合(%)  
 下段：横の合計に対する割合(%)

表2.3.2-3 相観区分別にみた変化状況と変化原因（冷温帯夏緑広葉高木林）

変化原因	記入なし	変化なし	面積変化	群落構成変化	個体数変化	消滅	合計
記入なし	2.	385.	3.	-	1.	1.	392.
	100.00	99.74	9.38	-	100.00	9.09	89.50
	0.51	98.21	0.77	-	0.26	0.26	
人の立入	-	-	1.	2.	-	-	3.
	-	-	3.13	33.33	-	-	0.68
	-	-	33.33	66.67	-	-	
農林業	-	-	22.	2.	-	3.	27.
開発	-	-	68.75	33.33	-	27.27	6.16
	-	-	81.48	7.41	-	11.11	
道路開発	-	1.	3.	-	-	1.	5.
	-	0.26	9.38	-	-	9.09	1.14
	-	20.00	60.00	-	-	20.00	
観光開発	-	-	1.	1.	-	-	2.
	-	-	3.13	16.67	-	-	0.46
	-	-	50.00	50.00	-	-	
水辺の	-	-	-	-	-	2.	2.
開発	-	-	-	-	-	18.18	0.46
	-	-	-	-	-	100.00	
その他の	-	-	-	-	-	3.	3.
開発	-	-	-	-	-	27.27	0.68
	-	-	-	-	-	100.00	
周辺の	-	-	1.	-	-	1.	2.
開発	-	-	3.13	-	-	9.09	0.46
	-	-	50.00	-	-	50.00	
植物の	-	-	-	1.	-	-	1.
侵入	-	-	-	16.67	-	-	0.23
	-	-	-	100.00	-	-	
その他	-	-	1.	-	-	-	1.
	-	-	3.13	-	-	-	0.23
	-	-	100.00	-	-	-	
合計	2.	386.	32.	6.	1.	11.	438.
	0.46	88.13	7.31	1.37	0.23	2.51	10.97

(注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

表2.3.2-4 相観区別にみた変化状況と変化原因（湿地植生）

変化原因	記入なし	変化なし	面積変化	群落構成変化	個体数変化	消滅	合計
記入なし	2.00	194.00	1.00	2.00	-	-	199.00
	100.00	97.00	4.55	9.09	-	-	73.16
	1.01	97.49	0.50	1.01	-	-	
人の立入	-	2.00	-	1.00	-	-	3.00
	-	1.00	-	4.55	-	-	1.10
	-	66.67	-	33.33	-	-	
盗採	-	2.00	-	2.00	1.00	1.00	6.00
	-	1.00	-	9.09	12.50	5.56	2.21
	-	33.33	-	33.33	16.67	16.67	
農林業開発	-	-	5.00	1.00	1.00	3.00	10.00
	-	-	22.73	4.55	12.50	16.67	3.68
	-	-	50.00	10.00	10.00	30.00	
道路開発	-	-	4.00	1.00	2.00	2.00	9.00
	-	-	18.18	4.55	25.00	11.11	3.31
	-	-	44.44	11.11	22.22	22.22	
観光開発	-	-	2.00	2.00	1.00	1.00	6.00
	-	-	9.09	9.09	12.50	5.56	2.21
	-	-	33.33	33.33	16.67	16.67	
水辺の開発	-	-	2.00	-	-	-	2.00
	-	-	9.09	-	-	-	0.74
	-	-	100.00	-	-	-	
その他の開発	-	-	3.00	1.00	-	4.00	8.00
	-	-	13.64	4.55	-	22.22	2.94
	-	-	37.50	12.50	-	50.00	
周辺の開発	-	-	2.00	4.00	-	1.00	7.00
	-	-	9.09	18.18	-	5.56	2.57
	-	-	28.57	57.14	-	14.29	
植物の侵入	-	-	1.00	4.00	2.00	4.00	11.00
	-	-	4.55	18.18	25.00	22.22	4.04
	-	-	9.09	36.36	18.18	36.36	
汚染物質の侵入	-	-	-	1.00	-	-	1.00
	-	-	-	4.55	-	-	0.37
	-	-	-	100.00	-	-	
ゴミの投棄	-	-	1.00	1.00	-	1.00	3.00
	-	-	4.55	4.55	-	5.56	1.10
	-	-	33.33	33.33	-	33.33	
自然災害	-	1.00	-	1.00	-	1.00	3.00
	-	0.50	-	4.55	-	5.56	1.10
	-	33.33	-	33.33	-	33.33	
その他	-	1.00	1.00	1.00	1.00	-	4.00
	-	0.50	4.55	4.55	12.50	-	1.47
	-	25.00	25.00	25.00	25.00	-	
合計	2.00	200.00	22.00	22.00	8.00	18.00	272.00
	0.74	73.53	8.09	8.09	2.94	6.62	6.81

(注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

表2.3.2-5 相観区別にみた変化状況と変化原因（暖温帯常緑針葉高木林）

変化原因	記入なし	変化なし	面積変化	群落構成変化	個体数変化	消滅	合計
記入なし	1.	159.	-	1.	-	-	161.
	100.00	100.00	-	7.69	-	-	81.31
	0.62	98.76	-	0.62	-	-	
盗採	-	-	-	-	-	1.	1.
	-	-	-	-	-	14.29	0.51
	-	-	-	-	-	100.00	
農林業 開発	-	-	5.	-	-	-	5.
	-	-	27.78	-	-	-	2.53
	-	-	100.00	-	-	-	
道路開発	-	-	2.	-	-	-	2.
	-	-	11.11	-	-	-	1.01
	-	-	100.00	-	-	-	
観光開発	-	-	1.	-	-	-	1.
	-	-	5.56	-	-	-	0.51
	-	-	100.00	-	-	-	
その他の 開発	-	-	1.	1.	-	2.	4.
	-	-	5.56	7.69	-	28.57	2.02
	-	-	25.00	25.00	-	50.00	
植物の 侵入	-	-	1.	1.	-	-	2.
	-	-	5.56	7.69	-	-	1.01
	-	-	50.00	50.00	-	-	
虫害・ 菌害	-	-	4.	6.	-	1.	11.
	-	-	22.22	46.15	-	14.29	5.56
	-	-	36.36	54.55	-	9.09	
汚染物質 の侵入	-	-	2.	2.	-	2.	6.
	-	-	11.11	15.38	-	28.57	3.03
	-	-	33.33	33.33	-	33.33	
自然災害	-	-	2.	2.	-	1.	5.
	-	-	11.11	15.38	-	14.29	2.53
	-	-	40.00	40.00	-	20.00	
合計	1.	159.	18.	13.	-	7.	198.
	0.51	80.30	9.09	6.57	-	3.54	4.96

(注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

表2.3.2-6 相観区分別にみた変化状況と変化原因（暖温帯植生）

変化原因	記入 なし	変化 なし	面積 変化	群落構成 変化	個体数 変化	消滅	合計
記入なし	1.	149.	-	1.	-	-	151.
	100.00	98.03	-	11.11	-	-	83.89
	0.66	98.68	-	0.66	-	-	
人の立入	-	2.	-	-	-	-	2.
	-	1.32	-	-	-	-	1.11
	-	100.00	-	-	-	-	
農林業 開発	-	-	3.	3.	-	1.	7.
	-	-	25.00	33.33	-	20.00	3.89
	-	-	42.86	42.86	-	14.29	
道路開発	-	-	4.	-	-	3.	7.
	-	-	33.33	-	-	60.00	3.89
	-	-	57.14	-	-	42.86	
観光開発	-	-	1.	-	-	-	1.
	-	-	8.33	-	-	-	0.56
	-	-	100.00	-	-	-	
水辺の 開発	-	-	1.	-	-	-	1.
	-	-	8.33	-	-	-	0.56
	-	-	100.00	-	-	-	
その他の 開発	-	-	2.	1.	-	-	3.
	-	-	16.67	11.11	-	-	1.67
	-	-	66.67	33.33	-	-	
周辺の 開発	-	-	-	1.	-	-	1.
	-	-	-	11.11	-	-	0.56
	-	-	-	100.00	-	-	
虫害・ 菌害	-	-	-	3.	-	-	3.
	-	-	-	33.33	-	-	1.67
	-	-	-	100.00	-	-	
ゴミの 投棄	-	1.	-	-	-	-	1.
	-	0.66	-	-	-	-	0.56
	-	100.00	-	-	-	-	
自然災害	-	-	1.	-	-	1.	2.
	-	-	8.33	-	-	20.00	1.11
	-	-	50.00	-	-	50.00	
その他	-	-	-	-	1.	-	1.
	-	-	-	-	100.00	-	0.56
	-	-	-	-	100.00	-	
合計	1.	152.	12.	9.	1.	5.	180.
	0.56	84.44	6.67	5.00	0.56	2.78	4.51

(注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

表2.3.2-7 相観区分別にみた変化状況と変化原因（海浜植生）

変化原因	記入なし	変化なし	面積変化	群落構成変化	個体数変化	消滅	合計
記入なし	-	96.	2.	-	-	-	98.
	-	98.97	6.90	-	-	-	63.23
	-	97.96	2.04	-	-	-	
人の立入	-	1.	1.	5.	-	1.	10.
	-	1.03	10.34	33.33	-	7.69	6.45
	-	10.00	30.00	50.00	-	10.00	
盗採	-	-	-	1.	-	-	1.
	-	-	-	6.67	-	-	0.65
	-	-	-	100.00	-	-	
農林業開発	-	-	1.	-	-	-	1.
	-	-	3.45	-	-	-	0.65
	-	-	100.00	-	-	-	
道路開発	-	-	4.	-	-	-	4.
	-	-	13.79	-	-	-	2.58
	-	-	100.00	-	-	-	
観光開発	-	-	1.	-	-	-	1.
	-	-	3.45	-	-	-	0.65
	-	-	100.00	-	-	-	
水辺の開発	-	-	4.	3.	1.	2.	10.
	-	-	13.79	20.00	100.00	15.38	6.45
	-	-	40.00	30.00	10.00	20.00	
その他の開発	-	-	5.	1.	-	5.	11.
	-	-	17.24	6.67	-	38.46	7.10
	-	-	45.45	9.09	-	45.45	
周辺の開発	-	-	-	-	-	2.	2.
	-	-	-	-	-	15.38	1.29
	-	-	-	-	-	100.00	
植物の侵入	-	-	1.	2.	-	-	3.
	-	-	3.45	13.33	-	-	1.94
	-	-	33.33	66.67	-	-	
虫害・菌害	-	-	-	1.	-	-	1.
	-	-	-	6.67	-	-	0.65
	-	-	-	100.00	-	-	
ゴミの投棄	-	-	1.	1.	-	-	2.
	-	-	3.45	6.67	-	-	1.29
	-	-	50.00	100.00	-	-	
自然災害	-	-	2.	-	-	2.	4.
	-	-	6.90	-	-	15.38	2.58
	-	-	50.00	-	-	50.00	
その他	-	0	5.	1.	-	1.	7.
	-	-	17.24	6.67	-	7.69	4.52
	-	-	71.43	14.29	-	14.29	
合計	-	97.	29.	15.	1.	13.	155.
	-	62.58	18.71	9.68	0.65	8.39	3.88

(注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

表2.3.2-8 相観区分別にみた変化状況と変化原因（冷温帯常緑針葉高木林）

変化原因	記入 なし	変化 なし	面積 変化	群落構成 変化	個体数 変化	消滅	合計
記入なし	-	119.	1.	-	-	-	120.
	-	100.00	12.50	-	-	-	83.33
	-	99.17	0.83	-	-	-	
人の立入	-	-	1.	2.	1.	-	4.
	-	-	12.50	18.18	25.00	-	2.78
	-	-	25.00	50.00	25.00	-	
農林業 開発	-	-	4.	2.	2.	2.	10.
	-	-	50.00	18.18	50.00	100.00	6.94
	-	-	40.00	20.00	20.00	20.00	
道路開発	-	-	1.	2.	1.	-	4.
	-	-	12.50	18.18	25.00	-	2.78
	-	-	25.00	50.00	25.00	-	
植物の 侵入	-	-	-	1.	-	-	1.
	-	-	-	9.09	-	-	0.69
	-	-	-	100.00	-	-	
虫害・ 菌害	-	-	-	2.	-	-	2.
	-	-	-	18.18	-	-	1.39
	-	-	-	100.00	-	-	
ゴミの 投棄	-	-	-	1.	-	-	1.
	-	-	-	9.09	-	-	0.69
	-	-	-	100.00	-	-	
その他	-	-	1.	1.	-	-	2.
	-	-	12.50	9.09	-	-	1.39
	-	-	50.00	50.00	-	-	
合計	-	119.	8.	11.	4.	2.	144.
	-	82.64	5.56	7.64	2.78	1.39	3.61

(注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

表2.3.3-1 群落別にみた変化状況と変化原因（高山ハイデ及び風衝草原）

変化状況	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計	
記入なし	1. 100.00 1.05	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.96	
変化なし	94. 96.91 98.95	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 100.00	2. 2.06 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 100.00	1. 1.03 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	97. 93.27	
面積変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 100.00 33.33	0. 0.00 0.00	1. 0.96	
群落構成に変化	0. 0.00 0.00	1. 25.00 100.00	1. 25.00 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 66.67	2. 50.00 0.00	0. 0.00 0.00	4. 3.85
個体数に変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 100.00 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.96	
合計	95. 91.35	1. 0.96	2. 1.92	0. 0.00	0. 0.00	2. 1.92	0. 0.00	1. 0.96	3. 2.88	0. 0.00	104.							

上段：件数  
中段：横の合計に対する割合（％）  
下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.3.3-2 群落別にみた変化状況と変化原因（雪田草原）

変化状況	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
記入なし	2. 100.00 3.23	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 2.90
変化なし	60. 96.77 96.77	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 100.00	1. 1.61 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 100.00	1. 1.61 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	62. 89.86
面積変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 100.00 33.33	0. 0.00 0.00	1. 1.45
群落構成に変化	0. 0.00 0.00	1. 25.00 100.00	1. 25.00 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 66.67	2. 50.00 0.00	0. 0.00 0.00	4. 5.80
合計	62. 89.86	1. 1.45	1. 1.45	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.45	0. 0.00	1. 1.45	3. 4.35	0. 0.00	69.						

上段：件数  
中段：横の合計に対する割合（％）  
下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.3.3-3 群落別にみた変化状況と変化原因（シラビソートウヒ群団）

変化状況	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
記入なし	3. 100.00 3.49	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	3. 3.30
変化なし	82. 98.80 95.35	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 100.00	1. 1.20 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	83. 91.21
面積変化	1. 50.00 1.18	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 50.00 33.33	0. 0.00 0.00	2. 2.20
群落構成に 変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 -0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 100.00 66.67	0. 0.00 0.00	2. 2.20
消滅	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 100.00 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 1.10
合計	86. 94.51	0. 0.00	1. 1.10	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.10	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	3. 3.30	0. 0.00	91.

上段：件数  
 中段：横の合計に対する割合（％）  
 下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.3.3-4 群落別にみた変化状況と変化原因（チシマザサーブナ群団）

変化状況	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
変化なし	236. 99.16 97.93	0. 0.00 0.00	1. 0.42 33.33	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.42 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	238. 88.48
面積変化	4. 16.67 1.66	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	17. 70.83 89.47	2. 8.33 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 4.17 100.00	0. 0.00 0.00	24. 8.92							
群落構成に 変化	0. 0.00 0.00	1. 20.00 100.00	1. 20.00 33.33	2. 40.00 10.53	0. 0.00 0.00	1. 20.00 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	5. 1.86
個体数に 変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 100.00 33.33	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.37
消滅	1. 100.00 0.41	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.37
合計	241. 89.59	1. 0.37	3. 1.12	19. 7.06	2. 0.74	2. 0.74	0. 0.00	1. 0.37	0. 0.00	249.							

上段：件数  
 中段：横の合計に対する割合（％）  
 下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.3.3-5 群落別にみた変化状況と変化原因（スズカケバナ群団）

変化状況	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
記入なし	3. 100.00 1.55	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	3. 1.36
変化なし	188. 97.92 97.41	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.52 33.33	1. 0.52 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.52 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.52 100.00	0. 0.00 0.00	192. 86.88
面積変化	1. 5.56 0.52	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	14. 77.78 82.35	1. 5.56 33.33	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 5.56 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 5.56 50.00	18. 8.14
群落構成に変化	1. 25.00 0.52	1. 25.00 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 25.00 33.33	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 25.00 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	4. 1.81
個体数に変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 100.00 5.88	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.45
消滅	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 66.67 11.76	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 33.33 50.00	3. 1.36
合計	193. 87.33	1. 0.45	0. 0.00	17. 7.69	3. 1.36	1. 0.45	0. 0.00	1. 0.45	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 0.90	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.45	2. 0.90	221.

上段：件数  
 中段：横の合計に対する割合（％）  
 下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.3.3-6 群落別にみた変化状況と変化原因（サカキウラジロガシ群集）

変化状況	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計	
記入なし	4. 100.00 2.11	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	4. 1.83	
変化なし	186. 98.94 97.89	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.53 9.09	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.53 25.00	0. 0.00 0.00	188. 86.24	
面積変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	5. 45.45 45.45	2. 18.18 66.67	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 9.09 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 18.18 50.00	1. 9.09 20.00	11. 5.05
群落構成に変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 22.22 18.18	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 22.22 100.00	1. 11.11 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	4. 44.44 80.00	9. 4.13	
個体数に変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 100.00 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.46	
消滅	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	3. 60.00 27.27	1. 20.00 33.33	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 20.00 25.00	0. 0.00 0.00	5. 2.29	
合計	190. 87.16	0. 0.00	1. 0.46	11. 5.05	3. 1.38	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.46	0. 0.00	0. 0.00	2. 0.92	1. 0.46	0. 0.00	0. 0.00	4. 1.83	5. 2.29	218.	

上段：件数  
 中段：横の合計に対する割合（％）  
 下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.3.3-7 群落別にみた変化状況と変化原因（サカキーコジイ群落）

変化状況	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
記入なし	2. 100.00 1.40	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 1.28
変化なし	140. 94.59 97.90	4. 2.70 100.00	0. 0.00 0.00	1. 0.68 33.33	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.68 50.00	1. 0.68 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.68 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	148. 94.87
面積変化	1. 20.00 0.10	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 40.00 66.67	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 20.00 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 20.00 100.00	5. 3.21
群落構成に変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 100.00 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.64
合計	143. 91.67	4. 2.56	0. 0.00	3. 1.92	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 1.28	1. 0.64	0. 0.00	1. 0.64	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.64	0. 0.00	1. 0.64	156. 94.87

上段：件数  
 中段：横の合計に対する割合（％）  
 下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.3.3-8 群落別にみた変化状況と変化原因（スダジイ群落）

変化状況	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
記入なし	2. 100.00 0.60	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 0.56
変化なし	328. 98.50 99.09	2. 0.60 66.67	0. 0.00 0.00	1. 0.30 25.00	0. 0.00 0.00	1. 0.30 50.00	0. 0.00 0.00	1. 0.30 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	333. 99.80
面積変化	1. 25.00 0.30	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 25.00 25.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 25.00 33.33	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 25.00 33.33	4. 1.13
群落構成に変化	0. 0.00 0.00	1. 7.69 33.33	0. 0.00 0.00	1. 7.69 25.00	1. 7.69 100.00	1. 7.69 50.00	1. 7.69 100.00	0. 0.00 0.00	1. 7.69 100.00	0. 0.00 0.00	2. 15.38 66.67	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	3. 23.08 75.00	2. 15.38 66.67	13. 3.66
個体数に変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 100.00 25.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.28
消滅	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 50.00 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 50.00 25.00	0. 0.00 0.00	2. 0.56
合計	331. 93.24	3. 0.85	0. 0.00	4. 1.13	1. 0.28	2. 0.56	1. 0.28	2. 0.56	1. 0.28	0. 0.00	3. 0.85	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	4. 1.13	3. 0.85	355. 93.24

上段：件数  
 中段：横の合計に対する割合（％）  
 下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.3.3-9 群落別にみた変化状況と変化原因（タブ群落）

変化状況	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
記入なし	2. 100.00 1.32	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 1.23
変化なし	149. 98.68 98.03	1. 0.66 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.66 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	151. 0.00 93.21
面積変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 100.00 66.67	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 1.23
群落構成に変化	0. 0.00 0.00	1. 20.00 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 40.00 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 40.00 100.00	0. 0.00 0.00	5. 3.09
個体数に変化	1. 50.00 0.66	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 50.00 33.33	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 1.23
合計	152. 93.83	2. 1.23	0. 0.00	0. 0.00	3. 1.85	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 1.23	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.62	2. 1.23	0. 0.00	162.

上段：件数  
中段：横の合計に対する割合（％）  
下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.3.3-10 群落別にみた変化状況と変化原因（ウバメガシ群落）

変化状況	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
記入なし	1. 100.00 0.68	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.60
変化なし	145. 97.97 98.64	2. 1.35 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.68 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	148. 88.62
面積変化	1. 20.00 0.68	1. 20.00 25.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 20.00 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 40.00 66.67	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	5. 2.99
群落構成に変化	0. 0.00 0.00	1. 10.00 25.00	2. 20.00 50.00	0. 0.00 0.00	1. 10.00 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 10.00 50.00	1. 10.00 100.00	1. 10.00 50.00	1. 10.00 33.33	1. 10.00 100.00	0. 0.00 0.00	1. 10.00 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	10. 5.99
個体数に変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 66.67 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 33.33 50.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	3. 1.80
合計	147. 88.02	4. 2.40	4. 2.40	0. 0.00	1. 0.60	0. 0.00	0. 0.00	2. 1.20	1. 0.60	2. 1.20	3. 1.80	1. 0.60	0. 0.00	2. 1.20	0. 0.00	0. 0.00	167.

上段：件数  
中段：横の合計に対する割合（％）  
下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.3.3-11 群落別にみた変化状況と変化原因（ツルコケモモミズゴケクラス）

変化状況	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
変化なし	55. 98.21 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 1.79 100.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	56. 88.89							
面積変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 50.00 33.33	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 50.00 50.00	2. 3.17
群落構成に変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 66.67 100.00	1. 33.33 50.00	3. 4.76
消滅	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 100.00 66.67	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 3.17
合計	55. 87.30	0. 0.00	0. 0.00	3. 4.76	0. 0.00	1. 1.59	0. 0.00	2. 3.17	2. 3.17	63.						

上段：件数  
 中段：横の合計に対する割合（％）  
 下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.3.3-12 群落別にみた変化状況と変化原因（ヌマガヤオーダー）

変化状況	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計	
記入なし	1. 100.00 0.80	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.58	
変化なし	123. 94.62 98.40	2. 1.54 66.67	2. 1.54 66.67	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.77 16.67	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.77 33.33	1. 0.77 25.00	130. 75.58	
面積変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	3. 27.27 75.00	2. 18.18 28.57	2. 18.18 33.33	0. 0.00 0.00	1. 9.09 14.29	1. 9.09 33.33	1. 9.09 16.67	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 9.09 25.00	11. 6.40	
群落構成に変化	1. 7.14 0.80	1. 7.14 33.33	1. 7.14 33.33	0. 0.00 0.00	1. 7.14 14.29	2. 14.29 33.33	0. 0.00 0.00	1. 7.14 14.29	2. 14.29 66.67	2. 14.29 33.33	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 7.14 100.00	0. 0.00 0.00	1. 7.14 33.33	1. 7.14 25.00	14. 8.14
個体数に変化	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 33.33 28.57	1. 16.67 16.67	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 16.67 16.67	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 16.67 33.33	1. 16.67 25.00	6. 9.49	
消滅	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 10.00 25.00	2. 20.00 28.57	1. 10.00 16.67	0. 0.00 0.00	5. 50.00 71.43	0. 0.00 0.00	1. 10.00 16.67	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	10. 5.81	
合計	125. 72.67	3. 1.74	3. 1.74	4. 2.33	7. 4.07	6. 3.49	0. 0.00	7. 4.07	3. 1.74	6. 3.49	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.58	0. 0.00	3. 1.74	4. 2.33	172.

上段：件数  
 中段：横の合計に対する割合（％）  
 下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.3.3-13 群落別にみた変化状況と変化原因（ヨシクラス）

変化状況	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
記入なし	2.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	2.
	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
	1.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.92
変化なし	142.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	144.
	98.61	0.00	0.69	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.59	98.61
	94.67	0.00	20.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	16.67	66.06
面積変化	1.	2.	0.	9.	3.	2.	4.	3.	1.	0.	0.	0.	0.	1.	1.	1.	28.
	3.57	7.14	0.00	32.14	10.71	7.14	14.29	10.71	3.57	0.00	0.00	0.00	0.00	3.57	3.57	3.57	12.84
	0.67	66.67	0.00	64.29	100.00	66.67	80.00	60.00	16.67	0.00	0.00	0.00	0.00	33.33	25.00	16.67	12.84
群落構成に変化	3.	0.	1.	1.	0.	1.	1.	1.	3.	4.	0.	0.	1.	1.	2.	3.	22.
	13.64	0.00	4.55	4.55	0.00	4.55	4.55	4.55	13.64	18.18	0.00	0.00	4.55	4.55	9.09	13.64	10.09
	2.00	0.00	20.00	7.14	0.00	33.33	20.00	20.00	50.00	44.44	0.00	0.00	50.00	33.33	50.00	50.00	10.09
個体数に変化	1.	1.	2.	2.	0.	0.	0.	0.	1.	1.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	9.
	11.11	11.11	22.22	22.22	0.00	0.00	0.00	0.00	11.11	11.11	0.00	0.00	11.11	0.00	0.00	0.00	4.13
	0.67	33.33	40.00	14.29	0.00	0.00	0.00	0.00	16.67	11.11	0.00	0.00	50.00	0.00	0.00	0.00	4.13
消滅	1.	0.	1.	2.	0.	0.	0.	1.	1.	4.	0.	0.	0.	1.	1.	1.	13.
	7.69	0.00	7.69	15.38	0.00	0.00	0.00	7.69	7.69	30.77	0.00	0.00	0.00	7.69	7.69	7.69	5.96
	0.67	0.00	20.00	14.29	0.00	0.00	0.00	20.00	16.67	44.44	0.00	0.00	0.00	33.33	25.00	16.67	5.96
合計	150.	3.	5.	14.	3.	3.	5.	5.	6.	9.	0.	0.	2.	3.	4.	6.	218.
	68.81	1.38	2.29	6.42	1.38	1.38	2.29	2.29	2.75	4.13	0.00	0.00	0.92	1.38	1.83	2.75	218.

上段：件数  
 中段：横の合計に対する割合（％）  
 下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.3.3-14 群落別にみた変化状況と変化原因（砂丘植生）

変化状況	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
変化なし	75.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	75.
	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
	97.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	66.96
面積変化	2.	2.	0.	1.	3.	1.	3.	3.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	1.	1.	18.
	11.11	11.11	0.00	5.56	16.67	5.56	16.67	16.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	5.56	5.56	5.56	18.
	2.60	33.33	0.00	100.00	100.00	100.00	37.50	60.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	50.00	100.00	33.33	16.07
群落構成に変化	0.	3.	0.	0.	0.	0.	2.	1.	0.	2.	1.	0.	0.	1.	0.	2.	12.
	0.00	25.00	0.00	0.00	0.00	0.00	16.67	8.33	0.00	16.67	8.33	0.00	0.00	8.33	0.00	16.67	10.71
	0.00	50.00	0.00	0.00	0.00	0.00	25.00	20.00	0.00	100.00	100.00	0.00	0.00	50.00	0.00	66.67	10.71
個体数に変化	0.	0.	0.	0.	0.	0.	2.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	2.
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.79
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	25.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.79
消滅	0.	1.	0.	0.	0.	0.	1.	1.	2.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	5.
	0.00	20.00	0.00	0.00	0.00	0.00	20.00	20.00	40.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.46
	0.00	16.67	0.00	0.00	0.00	0.00	12.50	20.00	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.46
合計	77.	6.	0.	1.	3.	1.	8.	5.	2.	2.	1.	0.	0.	2.	1.	3.	112.
	68.75	5.36	0.00	0.89	2.68	0.89	7.14	4.46	1.79	1.79	0.89	0.00	0.00	1.79	0.89	2.68	112.

上段：件数  
 中段：横の合計に対する割合（％）  
 下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.4.1-1 特定植物群落の変化状況と地域類型

変化状況	森林主体地域	農地主体地域	森林主体地域
面積、群落構成とも著しい変化なし	1,962 (89.0)	1,338 (87.1)	716 (81.9)
面積に著しい変化あり	150 ( 6.8) (61.7)	87 ( 5.7) (43.9)	67 ( 7.7) (42.4)
群落構成に著しい変化あり	45 ( 2.0) (18.5)	46 ( 3.0) (23.2)	50 ( 5.7) (31.7)
個体数に著しい変化あり	26 ( 1.2) (10.7)	31 ( 2.0) (15.7)	10 ( 1.1) ( 6.3)
群落又は個体群の消滅	22 ( 1.0) ( 9.1)	34 ( 2.2) (17.2)	31 ( 3.6) (19.6)
合計	2,205	1,536	874

注) ( )内 上段は、各地域類型全体に対する割合(%)  
下段は、変化状況の中での構成比(%)

表2.4.2-1 特定植物群落の変化原因と地域類型

変化原因	不明	森林主体 地域	農地主体 地域	都市主体 地域	合計
記入なし	1.	1973.	1341.	705.	4020.
	0.02	49.08	33.36	17.54	
	100.00	88.63	86.35	76.55	85.51
人の立入	0.	14.	19.	29.	62.
	0.00	22.58	30.65	46.77	
	0.00	0.63	1.22	3.15	1.32
盗採	0.	18.	19.	7.	44.
	0.00	40.91	43.18	15.91	
	0.00	0.81	1.22	0.76	0.94
農林業 開発	0.	112.	54.	16.	182.
	0.00	61.54	29.67	8.79	
	0.00	5.03	3.48	1.74	3.87
道路開発	0.	23.	15.	16.	54.
	0.00	42.59	27.78	29.63	
	0.00	1.03	0.97	1.74	1.15
観光開発	0.	13.	8.	8.	29.
	0.00	44.83	27.59	27.59	
	0.00	0.58	0.52	0.87	0.62
水辺の 開発	0.	7.	16.	22.	45.
	0.00	15.56	35.56	48.89	
	0.00	0.31	1.03	2.39	0.96
その他の 開発	0.	12.	16.	39.	67.
	0.00	17.91	23.88	58.21	
	0.00	0.54	1.03	4.23	1.43
周辺の 開発	0.	3.	9.	9.	21.
	0.00	14.29	42.86	42.86	
	0.00	0.13	0.58	0.98	0.45
植物の 侵入	0.	5.	10.	22.	37.
	0.00	13.51	27.03	59.46	
	0.00	0.22	0.64	2.39	0.79
虫害・ 菌害	0.	4.	16.	7.	27.
	0.00	14.81	59.26	25.93	
	0.00	0.18	1.03	0.76	0.57
動物の 侵入	0.	4.	0.	0.	4.
	0.00	00.00	0.00	0.00	
	0.00	0.18	0.00	0.00	0.09
汚染物質 の侵入	0.	1.	4.	3.	8.
	0.00	12.50	50.00	37.50	
	0.00	0.04	0.26	0.33	0.17
ゴミの 投棄	0.	4.	4.	6.	14.
	0.00	28.57	28.57	42.86	
	0.00	0.18	0.26	0.65	0.30
自然災害	0.	25.	7.	8.	40.
	0.00	62.50	17.50	20.00	
	0.00	1.12	0.45	0.87	0.85
その他	0.	8.	15.	24.	47.
	0.00	17.02	31.91	51.06	
	0.00	0.36	0.97	2.61	1.00
合計	1.	2226.	1553.	921.	4701.
	0.02	47.35	33.04	19.59	

上段：件数

中段：横の合計に対する割合（％）

下段：縦の合計に対する割合（％）

表2.4.3-1 相 区分別にみた変化状況と地域類型（暖温帯常緑広葉高木林）

変化状況	森林主体 地域	農地主体 地域	都市主体 地域	合 計
記入なし	3. 1.36 33.33	5. 1.16 55.56	1. 0.28 11.11	9. 0.89
変化なし	206. 93.21 21.75	411. 95.58 43.40	329. 91.39 34.74	947. 93.58
面積に変化	7. 3.17 25.93	6. 1.40 22.22	14. 3.89 51.85	27. 2.67
群落構成に変化	4. 1.81 18.18	7. 1.63 31.82	11. 3.06 50.00	22. 2.17
個体数に変化	0. . .	0. . .	1. 0.28 100.00	1. 0.10
消 滅	1. 0.45 16.67	1. 0.23 16.67	4. 1.11 66.67	6. 0.59
合 計	221. 21.84	430. 42.49	360. 35.57	1012. 21.83

注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

表2.4.3-2 相観区分別にみた変化状況と地域類型（冷温帯夏緑広葉高木林）

変化状況	森林主体 地域	農地主体 地域	都市主体 地域	合 計
記入なし	2. 0.55 100.00	0. . .	0. . .	2. 0.38
変化なし	317. 86.61 68.61	116. 89.23 25.11	29. 100.00 6.28	462. 88.00
面積に変化	36. 9.84 81.82	8. 6.15 18.18	0. . .	44. 8.38
群落構成に変化	5. 1.37 62.50	3. 2.31 37.50	0. . .	8. 1.52
個体数に変化	0. . .	1. 0.77 100.00	0. . .	1. 0.19
消 滅	6. 1.64 75.00	2. 1.54 25.00	0. . .	8. 1.52
合 計	366. 69.71	130. 24.76	29. 5.52	525. 11.33

注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

表2.4.3-3 相観区分別にみた変化状況と地域類型（個体群）

変化状況	森林主体 地域	農地主体 地域	都市主体 地域	合 計
記入なし	2. 1.12 50.00	1. 0.62 25.00	1. 1.69 25.00	4. 1.00
変化なし	154. 86.52 46.11	135. 83.33 40.42	45. 76.27 13.47	334. 83.71
面積に変化	6. 3.37 42.86	6. 3.70 42.86	2. 3.39 14.29	14. 3.51
群落構成に変化	2. 1.12 28.57	1. 0.62 14.29	4. 6.78 57.14	7. 1.75
個体数に変化	10. 5.62 34.48	14. 8.64 48.28	5. 8.47 17.24	29. 7.27
消 滅	4. 2.25 36.36	5. 3.09 45.45	2. 3.39 18.18	11. 2.76
合 計	178. 44.61	162. 40.60	59. 14.79	399. 8.61

表2.4.3-4 相観区分別にみた変化状況と地域類型（湿地植生）

変化状況	森林主体 地域	農地主体 地域	都市主体 地域	合 計
記入なし	0.	0.	2. 4.35 100.00	2. 0.72
変化なし	132. 84.08 62.86	49. 65.33 23.33	29. 63.04 13.81	210. 75.54
面積に変化	15. 9.55 48.39	11. 14.67 35.48	5. 10.87 16.13	31. 11.15
群落構成に変化	5. 3.18 38.46	3. 4.00 23.08	5. 10.87 38.46	13. 4.68
個体数に変化	4. 2.55 33.33	7. 9.33 58.33	1. 2.17 8.33	12. 4.32
消 滅	1. 0.64 10.00	5. 6.67 50.00	4. 8.70 40.00	10. 3.60
合 計	157. 56.47	75. 26.98	46. 16.55	278. 6.00

注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

表2.4.3-5 相観区分別にみた変化状況と地域類型（暖温帯常緑針葉高木林）

変化状況	森林主体 地域	農地主体 地域	都市主体 地域	合 計
記入なし	1.	0.	0.	1.
	1.37	.	.	0.48
	100.00	.	.	.
変化なし	63.	82.	33.	178.
	86.30	83.67	86.84	85.17
	35.39	46.07	18.54	.
面積に変化	7.	6.	4.	17.
	9.59	6.12	10.53	8.13
	41.18	35.29	23.53	.
群落構成に変化	2.	7.	0.	9.
	2.74	7.14	.	4.31
	22.22	77.78	.	.
消 減	0.	3.	1.	4.
	.	3.06	2.63	1.91
	.	75.00	25.00	.
合 計	73.	98.	38.	209.
	34.93	46.89	18.18	4.51

注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

表2.4.3-6 相観区分別にみた変化状況と地域類型（暖温帯植生）

変化状況	森林主体 地域	農地主体 地域	都市主体 地域	合 計
記入なし	0.	1.	0.	1.
	.	1.14	.	0.49
	.	100.00	.	.
変化なし	47.	76.	56.	179.
	95.92	86.36	81.16	86.89
	26.26	42.46	31.28	.
面積に変化	1.	4.	6.	11.
	2.04	4.55	8.70	5.34
	9.09	36.36	54.55	.
群落構成に変化	0.	5.	4.	9.
	.	5.68	5.80	4.37
	.	55.56	44.44	.
個体数に変化	0.	0.	1.	1.
	.	.	1.45	0.49
	.	.	100.00	.
消 減	1.	2.	2.	5.
	2.04	2.27	2.90	2.43
	20.00	40.00	40.00	.
合 計	49.	88.	69.	206.
	23.79	42.72	33.50	4.44

注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

表2.4.3-7 相観区分別にみた変化状況と地域類型（海浜植生）

変化状況	森林主体 地域	農地主体 地域	都市主体 地域	合 計
変化なし	24.	69.	21.	114.
	77.42	69.70	50.00	66.28
	21.05	60.53	18.42	
面積に変化	4.	15.	14.	33.
	12.90	15.15	33.33	19.19
	12.12	45.45	42.42	
群落構成に変化	2.	8.	3.	13.
	6.45	8.08	7.14	7.56
	15.38	61.54	23.08	
個体数に変化	1.	0.	0.	1.
	3.23	.	.	0.58
	100.00	.	.	
消 滅	0.	7.	4.	11.
	.	7.07	9.52	6.40
	.	63.64	36.36	
合 計	31.	99.	42.	172.
	18.02	57.56	24.42	3.71

注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

表2.4.3-8 相観区分別にみた変化状況と地域類型  
 （冷温帯常緑針葉高木林）

変化状況	森林主体 地域	農地主体 地域	都市主体 地域	合 計
変化なし	103.	32.	8.	143.
	88.03	86.49	88.89	87.73
	72.03	22.38	5.59	
面積に変化	7.	4.	0.	11.
	5.98	10.81	.	6.75
	63.64	36.36	.	
群落構成に変化	2.	1.	1.	4.
	1.71	2.70	11.11	2.45
	50.00	25.00	25.00	
個体数に変化	2.	0.	0.	2.
	1.71	.	.	1.23
	100.00	.	.	
消 滅	3.	0.	0.	3.
	2.56	.	.	1.84
	100.00	.	.	
合 計	117.	37.	9.	163.
	71.78	22.70	5.52	3.52

注) 上段：件数  
 中段：縦の合計に対する割合（％）  
 下段：横の合計に対する割合（％）

表2.5.1-1 存続・削除に関する地方別集計

地方	存続	削除	合計
北海道	115 (100.0) ( 3.1)	0 ( 0.0) ( 0.0)	115
東北	426 ( 98.6) ( 11.6)	6 ( 1.4) ( 5.7)	432
関東	546 ( 94.5) ( 14.9)	32 ( 5.5) ( 30.1)	578
中部	850 ( 96.1) ( 23.2)	6 ( 3.9) ( 32.1)	884
近畿	529 ( 97.2) ( 14.4)	15 ( 2.8) ( 14.2)	544
中国	380 ( 98.2) ( 10.4)	7 ( 1.8) ( 6.6)	387
四国	233 ( 97.1) ( 6.4)	7 ( 2.9) ( 6.6)	240
九州	486 ( 99.0) ( 13.3)	5 ( 1.0) ( 4.7)	491
沖縄	101 (100.0) ( 2.8)	0 ( 0.0) ( 0.0)	101
	3,666	106	3,772

注1) ( )内 上段は、横の合計に対する割合(%)

下段は、縦の合計に対する割合(%)

注2) 存続の中には、他の群落への包含による削除(1件)

と記入なし(55件)を含む

表2.5.1-2 存続・削除に関する都道府県別集計

県名	記入なし	存続	削除	合計	県名	記入なし	存続	削除	合計
北海道	0. 0.00 0.00	115. 100.00 3.19	0. 0.00 0.00	115. 3.05	滋賀県	6. 5.04 10.91	107. 89.92 2.96	6. 5.04 5.61	119. 3.15
青森県	10. 52.63 18.18	8. 42.11 0.22	1. 5.26 0.93	19. 0.50	京都府	0. 0.00 0.00	80. 96.39 2.22	3. 3.61 2.80	83. 2.20
岩手県	0. 0.00 0.00	70. 98.59 1.94	1. 1.41 0.93	71. 1.88	大阪府	0. 0.00 0.00	31. 96.88 0.86	1. 3.13 0.93	32. 0.85
宮城県	1. 1.33 1.82	74. 98.67 2.05	0. 0.00 0.00	75. 1.99	兵庫県	0. 0.00 0.00	94. 100.00 2.60	0. 0.00 0.00	94. 2.49
秋田県	1. 1.32 1.82	74. 97.37 2.05	1. 1.32 0.93	76. 2.01	奈良県	1. 4.00 1.82	24. 96.00 0.66	0. 0.00 0.00	25. 0.66
山形県	0. 0.00 0.00	78. 98.73 2.16	1. 1.27 0.93	79. 2.09	和歌山県	3. 3.45 5.45	82. 94.25 2.27	2. 2.30 1.87	87. 2.31
福島県	4. 3.57 7.27	106. 94.64 2.94	2. 1.79 1.87	112. 2.97	鳥取県	2. 3.33 3.64	58. 96.67 1.61	0. 0.00 0.00	60. 1.59
茨城県	1. 1.54 1.82	59. 90.77 1.63	5. 7.69 4.67	65. 1.72	島根県	3. 3.85 5.45	71. 91.03 1.97	4. 5.13 3.74	78. 2.07
栃木県	2. 3.08 3.64	59. 90.77 1.63	4. 6.15 3.74	65. 1.72	岡山県	2. 3.57 3.64	54. 96.43 1.50	0. 0.00 0.00	56. 1.48
群馬県	6. 5.31 10.91	103. 91.15 2.85	4. 3.54 3.74	113. 3.00	広島県	0. 0.00 0.00	122. 98.39 3.38	2. 1.61 1.87	124. 3.29
埼玉県	0. 0.00 0.00	52. 85.25 1.44	9. 14.75 8.41	61. 1.62	山口県	0. 0.00 0.00	68. 98.55 1.88	1. 1.45 0.93	69. 1.83
千葉県	1. 1.15 1.82	84. 96.55 2.33	2. 2.30 1.87	87. 2.31	徳島県	0. 0.00 0.00	65. 95.59 1.80	3. 4.41 2.80	68. 1.80
東京都	1. 1.04 1.82	88. 91.67 2.44	7. 7.29 6.54	96. 2.55	香川県	0. 0.00 0.00	32. 96.97 0.89	1. 3.03 0.93	33. 0.87
神奈川県	0. 0.00 0.00	90. 98.90 2.49	1. 1.10 0.93	91. 2.41	愛媛県	0. 0.00 0.00	58. 95.08 1.61	3. 4.92 2.80	61. 1.62
新潟県	0. 0.00 0.00	93. 98.94 2.58	1. 1.06 0.93	94. 2.49	高知県	1. 1.28 1.82	77. 98.72 2.13	0. 0.00 0.00	78. 2.07
富山県	0. 0.00 0.00	130. 95.59 3.60	6. 4.41 5.61	136. 3.61	福岡県	0. 0.00 0.00	76. 98.70 2.11	1. 1.30 0.93	77. 2.04
石川県	0. 0.00 0.00	101. 99.02 2.80	1. 0.98 0.93	102. 2.70	佐賀県	1. 1.54 1.82	64. 98.46 1.77	0. 0.00 0.00	65. 1.72
福井県	0. 0.00 0.00	58. 98.31 1.61	1. 1.69 0.93	59. 1.56	長崎県	1. 1.11 1.82	89. 98.89 2.47	0. 0.00 0.00	90. 2.39
山梨県	0. 0.00 0.00	100. 99.01 2.77	1. 0.99 0.93	101. 2.68	熊本県	0. 0.00 0.00	37. 100.00 1.02	0. 0.00 0.00	37. 0.98
長野県	0. 0.00 0.00	56. 98.25 1.55	1. 1.75 0.93	57. 1.51	大分県	2. 2.86 3.64	67. 95.71 1.86	1. 1.43 0.93	70. 1.86
岐阜県	1. 0.76 1.82	117. 88.64 3.24	14. 10.61 13.08	132. 3.50	宮崎県	0. 0.00 0.00	61. 100.00 1.69	0. 0.00 0.00	61. 1.62
静岡県	1. 0.74 1.82	128. 94.81 3.55	6. 4.44 5.66	135. 3.58	鹿児島県	1. 1.10 1.82	87. 95.60 2.41	3. 3.30 2.80	91. 2.41
愛知県	0. 0.00 0.00	65. 95.59 1.80	3. 4.41 2.80	68. 1.80	沖縄県	0. 0.00 0.00	101. 100.00 2.80	0. 0.00 0.00	101. 2.68
三重県	3. 2.88 5.45	98. 94.23 2.71	3. 2.88 2.80	104. 2.76	合計	55. 1.46	3611. 95.73	106. 2.81	3772.

上段：件数  
 中段：権の合計に対する割合（％）  
 下段：繰の合計に対する割合（％）

上段：件数  
 中段：権の合計に対する割合（％）  
 下段：繰の合計に対する割合（％）

表2.5.3-1 変化状況と存続・削除に関する集計

	変化なし	面積に 変化	群落構成 に変化	個体数に 変化	群落・個体 群の消滅	合計
存続	3,360( 90.3) ( 99.9)	171( 4.6) (89.1)	105( 2.8) (88.2)	62( 1.7) (95.4)	23( 0.6) (23.7)	3,721 (97.0)
削除	2( 1.8) ( 0.1)	21(18.4) (10.9)	14(12.3) (11.8)	3( 2.6) ( 4.6)	74(64.9) (72.3)	114 ( 3.0)
合計	3,362	192	119	65	97	3,835

注1) 複数回答のため、合計件数は実際の選定群落数とは合致しない

注2) ( )内 上段は、横の合計に対する割合(%)

下段は、縦の合計に対する割合(%)

注3) 変化なしには、記入なし及び変化状況不明が含まれる。

表2.5.3-2 相観区分別にみた変化状況と存続・削除に関する集計(個体群)

	記入なし	変化なし	面積に 変化	群落構成 に変化	個体数 に変化	消滅	合計
記入なし	0.	11.	1.	1.	2.	0.	15.
	.	3.11	7.69	14.29	5.00	.	3.42
	.	73.33	6.67	6.67	13.33	.	
存続	5.	342.	11.	6.	37.	3.	404.
	83.33	96.61	84.62	85.71	92.50	15.79	92.03
	1.24	84.65	2.72	1.49	9.16	0.74	
削除	1.	1.	1.	0.	1.	16.	20.
	16.67	0.28	7.69	.	2.50	84.21	4.56
	5.00	5.00	5.00	.	5.00	80.00	
合計	6.	354.	13.	7.	40.	19.	439.
	1.37	80.64	2.96	1.59	9.11	4.33	11.45

上段：件数

中段：縦の合計に対する割合(%)

下段：横の合計に対する割合(%)

表2.5.3-3 相観区分別にみた変化状況と存続・削除に関する集計  
(暖温帯常緑広葉高木林)

	記入なし	変化なし	面積に 変化	群落構成 に変化	個体数 に変化	消滅	合計
記入なし	2.	7.	0.	3.	0.	0.	12.
	25.00	0.81	.	12.00	.	.	1.29
	16.67	58.33	.	25.00	.	.	
存続	6.	860.	15.	19.	0.	1.	901.
	75.00	99.19	75.00	76.00	.	16.67	97.20
	0.67	95.45	1.66	2.11	.	0.11	
削除	0.	0.	5.	3.	1.	5.	14.
	.	.	25.00	12.00	100.00	83.33	1.51
	.	.	35.71	21.43	7.14	35.71	
合計	8.	867.	20.	25.	1.	6.	927.
	0.86	93.53	2.16	2.70	0.11	0.65	24.17

上段：件数  
中段：縦の合計に対する割合（％）  
下段：横の合計に対する割合（％）

表2.5.3-4 相観区分別にみた変化状況と存続・削除に関する集計（海浜植生）

	記入なし	変化なし	面積に 変化	群落構成 に変化	個体数 に変化	消滅	合計
記入なし	0.	2.	0.	0.	0.	0.	2.
	.	2.06	.	.	.	.	1.44
	.	100.00	.	.	.	.	
存続	0.	95.	18.	6.	1.	4.	124.
	.	97.94	85.71	66.67	100.00	36.36	89.21
	.	76.61	14.52	4.84	0.81	3.23	
削除	0.	0.	3.	3.	0.	7.	13.
	.	.	14.29	33.33	.	63.64	9.35
	.	.	23.08	23.08	.	53.85	
合計	0.	97.	21.	9.	1.	11.	139.
	.	69.78	15.11	6.47	0.72	7.91	3.62

上段：件数  
中段：縦の合計に対する割合（％）  
下段：横の合計に対する割合（％）

表2.5.3-5 相観区分別にみた変化状況と存続・削除に関する集計（湿地植生）

	記入なし	変化なし	面積に 変化	群落構成 に変化	個体数 に変化	消滅	合計
記入なし	0.	1.	1.	1.	0.	0.	3.
	.	0.51	6.25	8.33	.	.	1.21
	.	33.33	33.33	33.33	.	.	
存続	2.	197.	13.	10.	6.	4.	232.
	100.00	99.49	81.25	83.33	100.00	30.77	93.93
	0.86	84.91	5.60	4.31	2.59	1.72	
削除	0.	0.	2.	1.	0.	9.	12.
	.	.	12.50	8.33	.	69.23	4.86
	.	.	16.67	8.33	.	75.00	
合計	2.	198.	16.	12.	6.	13.	247.
	0.81	80.16	6.48	4.86	2.43	5.26	6.44

上段：件数

中段：縦の合計に対する割合（％）

下段：横の合計に対する割合（％）

表2.5.3-6 相観区分別にみた変化状況と存続・削除に関する集計（冷温帯夏緑広葉高木林）

	記入なし	変化なし	面積に 変化	群落構成 に変化	個体数 に変化	消滅	合計
記入なし	0.	4.	3.	1.	0.	0.	8.
	.	1.04	10.71	20.00	.	.	1.86
	.	50.00	37.50	12.50	.	.	
存続	2.	382.	24.	2.	1.	1.	412.
	100.00	98.96	85.71	40.00	100.00	12.50	95.81
	0.49	92.72	5.83	0.49	0.24	0.24	
削除	0.	0.	1.	2.	0.	7.	10.
	.	.	3.57	40.00	.	87.50	2.33
	.	.	10.00	20.00	.	70.00	
合計	2.	386.	28.	5.	1.	8.	430.
	0.47	89.77	6.51	1.16	0.23	1.86	11.21

上段：件数

中段：縦の合計に対する割合（％）

下段：横の合計に対する割合（％）

表2.5.3-7 相観区分別にみた変化状況と存続・削除に関する集計（暖温帯夏緑広葉高木林）

	記入なし	変化なし	面積に 変化	群落構成 に変化	個体数 に変化	消滅	合計
記入なし	0.	2.	1.	1.	0.	0.	4.
		1.77	16.67	16.67			3.08
		50.00	25.00	25.00			
存続	0.	111.	2.	3.	0.	0.	116.
		98.23	33.33	50.00			89.23
		95.69	1.72	2.59			
削除	0.	0.	3.	2.	0.	5.	10.
			50.00	33.33		100.00	7.69
			30.00	20.00		50.00	
合計	0.	113.	6.	6.	0.	5.	130.
		86.92	4.62	4.62		3.85	3.39

上段：件数

中段：縦の合計に対する割合（％）

下段：横の合計に対する割合（％）

表2.5.3-8 相観区分別にみた変化状況と存続・削除に関する集計（河辺植生）

	記入なし	変化なし	面積に 変化	群落構成 に変化	個体数 に変化	消滅	合計
存続	0.	12.	8.	3.	0.	0.	23.
		100.00	80.00	100.00			79.31
		52.17	34.78	13.04			
削除	0.	0.	2.	0.	0.	4.	6.
			20.00			100.00	20.69
			33.33			66.67	
合計	0.	12.	10.	3.	0.	4.	29.
		41.38	34.48	10.34		13.79	0.76

上段：件数

中段：縦の合計に対する割合（％）

下段：横の合計に対する割合（％）

表3.1-1 保護制度のかかっていない特定植物群落（相観区分）の件数

相観区分	保護制度なし の件数 (A)	相観区分 件数 (B)	A/B × 100 (%)
植生一般	22	103	21
亜寒帯植生	11	53	21
冷温帯植生	22	82	27
暖温帯植生	73	170	43
亜熱帯植生	2	8	25
亜寒帯常緑針葉高木林	9	68	13
冷温帯常緑針葉高木林	48	131	37
暖温帯常緑針葉高木林	75	180	42
夏緑針葉高木林	29	75	39
夏緑針葉高木林	1	11	10
夏緑針葉高木林	0	2	0
暖温帯常緑広葉高木林	394	925	43
亜熱帯常緑広葉高木林	25	48	52
常緑広葉高木林	3	14	21
亜寒帯夏緑広葉高木林	0	10	0
冷温帯夏緑広葉高木林	151	427	35
暖温帯夏緑広葉高木林	64	128	50
夏緑広葉高木林	3	6	50
亜寒帯常緑針葉低木林	4	18	22
冷温帯常緑針葉低木林	1	7	14
暖温帯常緑針葉低木林	1	16	6
亜熱帯常緑針葉低木林	2	3	67
冷温帯常緑広葉低木林	2	15	13
暖温帯常緑広葉低木林	15	44	34
亜熱帯常緑広葉低木林	8	17	47
亜寒帯夏緑広葉低木林	4	15	27
冷温帯夏緑広葉低木林	13	45	29
暖温帯夏緑広葉低木林	10	37	27
冷温帯ササ原	1	13	8
暖温帯ササ原	3	4	75
亜熱帯ササ原	1	1	100
亜寒帯広葉草原	2	14	14
冷温帯広葉草原	3	15	20
暖温帯広葉草原	3	5	60
冷温帯単子葉草原	2	10	20
暖温帯単子葉草原	5	21	24
亜熱帯単子葉草原	4	6	67
草上シダ群落	4	11	36
岩上多磔地草本植生	8	43	19
タケ形林	2	5	40
ヤシ形林	3	13	23
マンングロブ林	2	13	15
ツル植物群落	0	2	0
浮葉・沈水植物群落	19	28	68
浮水植物群落	0	1	0
高山荒原植生	2	33	6
雪山田植生	6	30	20
火山荒原植生	2	20	10
湿地植生	100	239	42
河辺植生	16	28	57
海浜植生	47	135	35
亜寒帯ササ原	0	1	0
亜寒帯単子葉草原	0	2	0
個体群	151	429	35
合計	1,378	3,779	

表3. 2-1 国の自然公園の相観区分別適用状況

相観区分	国立公園			国定公園			左記の重複	合計
	特別保護地区	特別地域	普通地域	左記の重複	特別保護地区	特別地域		
暖温带常緑広葉高木林	15.	72.	8.	14.	7.	96.	1.	225.
	6.67	32.00	3.56	6.22	3.11	42.67	0.44	5.33
	10.56	20.69	15.69	10.00	13.73	23.13	7.14	15.00
亜熱帯	0.	2.	1.	0.	1.	3.	1.	9.
	0.00	22.22	11.11	0.00	11.11	33.33	11.11	11.11
	0.00	0.57	1.96	0.00	1.96	0.72	7.14	1.25
常緑広葉高木植林	0.	1.	0.	0.	1.	3.	0.	5.
	0.00	20.00	0.00	0.00	20.00	60.00	0.00	0.00
	0.00	0.29	0.00	0.00	1.96	0.72	0.00	0.00
亜寒帯夏緑広葉高木林	3.	5.	0.	1.	0.	1.	0.	10.
	30.00	50.00	0.00	10.00	0.00	10.00	0.00	0.00
	2.11	1.44	0.00	0.71	0.00	0.24	0.00	0.81
冷温带	6.	46.	6.	14.	9.	53.	0.	152.
	3.95	30.26	3.95	9.21	5.92	34.87	0.00	11.84
	4.23	13.22	11.76	10.00	17.65	12.77	0.00	22.50
暖温带	0.	6.	1.	1.	1.	8.	0.	19.
	0.00	31.58	5.26	5.26	5.26	42.11	0.00	10.53
	0.00	1.72	1.96	0.71	1.96	1.93	0.00	2.50
亜熱帯	0.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	1.
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.24	0.00	0.00
夏緑広葉高木植林	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	1.
	0.00	0.00	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	1.96	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
亜寒帯常緑針葉低木林	4.	5.	1.	0.	0.	1.	0.	11.
	36.36	45.45	9.09	0.00	0.00	9.09	0.00	0.00
	2.82	1.44	1.96	0.00	0.00	0.24	0.00	0.89
冷温带	2.	1.	0.	1.	1.	1.	0.	6.
	33.33	16.67	0.00	16.67	16.67	16.67	0.00	0.00
	1.41	0.29	0.00	0.71	1.96	0.24	0.00	0.00
雑生一般	1.	3.	1.	21.	2.	12.	1.	47.
	2.13	6.38	2.13	44.68	4.26	25.53	2.13	12.77
	0.70	0.86	1.96	15.00	3.92	2.89	7.14	7.50
亜寒帯植生	8.	2.	0.	13.	0.	1.	0.	26.
	30.77	7.69	0.00	50.00	0.00	3.85	0.00	7.69
	5.63	0.57	0.00	9.29	0.00	0.24	0.00	2.50
冷温带	1.	6.	1.	3.	0.	16.	0.	31.
	3.23	19.35	3.23	9.68	0.00	51.61	0.00	12.90
	0.70	1.72	1.96	2.14	0.00	3.86	0.00	5.00
暖温带	0.	5.	0.	5.	4.	14.	0.	31.
	0.00	16.13	0.00	16.13	12.90	45.16	0.00	9.68
	0.00	1.44	0.00	3.57	7.84	3.37	0.00	3.75
亜熱帯植生	0.	0.	0.	0.	0.	2.	0.	2.
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.48	0.00	0.00
亜寒帯常緑針葉高木林	1.	22.	4.	14.	1.	1.	0.	44.
	2.27	50.00	9.09	31.82	2.27	2.27	0.00	2.27
	0.70	6.32	7.84	10.00	1.96	0.24	0.00	1.25
冷温带	2.	17.	5.	3.	0.	10.	0.	41.
	4.88	41.46	12.20	7.32	0.00	24.39	0.00	9.76
	1.41	4.89	9.80	2.14	0.00	2.41	0.00	5.00
暖温带	2.	15.	0.	4.	0.	19.	0.	42.
	4.76	35.71	0.00	9.52	0.00	45.24	0.00	4.76
	1.41	4.31	0.00	2.86	0.00	4.58	0.00	2.50
常緑針葉高木植林	1.	8.	2.	0.	0.	10.	0.	21.
	4.76	38.10	9.52	0.00	0.00	47.62	0.00	0.00
	0.70	2.30	3.92	0.00	0.00	2.41	0.00	0.00
夏緑針葉高木林	1.	4.	1.	1.	0.	1.	0.	8.
	12.50	50.00	12.50	12.50	0.00	12.50	0.00	0.00
	0.70	1.15	1.96	0.71	0.00	0.24	0.00	0.64

注) 上段：件数  
 中段：植の合計に対する割合(%)  
 下段：縦の合計に対する割合(%)

相類区分	国立公園			左記 の 重複	国定公園			合計	
	特別 保護 地区	特別 地域	普通 地域		特別 保護 地区	特別 地域	普通 地域		
暖温帯常緑針葉低木林	0. 0.00 0.00	3. 20.00 0.86	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 6.67 1.96	10. 66.67 2.41	1. 6.67 7.14	0. 0.00 0.00	15. 1.21
亜熱帯	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 100.00 0.24	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.08
冷温帯常緑広葉低木林	1. 12.50 0.70	2. 25.00 0.57	0. 0.00 0.00	1. 12.50 0.71	1. 12.50 1.96	3. 37.50 0.72	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	8. 0.64
暖温帯	3. 15.79 2.11	6. 31.58 1.72	0. 0.00 0.00	2. 10.53 1.43	1. 5.26 1.96	6. 31.58 1.45	1. 5.26 7.14	0. 0.00 0.00	19. 1.53
亜熱帯	0. 0.00 0.00	1. 20.00 0.29	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	3. 60.00 5.88	1. 20.00 0.24	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	5. 0.40
亜寒帯夏緑広葉低木林	2. 20.00 1.41	3. 30.00 0.86	0. 0.00 0.00	2. 20.00 1.43	0. 0.00 0.00	3. 30.00 0.72	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	10. 0.81
冷温帯	2. 9.09 1.41	1. 4.55 0.29	0. 0.00 0.00	3. 13.64 2.14	0. 0.00 0.00	11. 50.00 2.65	1. 4.55 7.14	4. 18.18 5.00	22. 1.77
暖温帯	1. 6.25 0.70	6. 37.50 1.72	2. 12.50 3.92	0. 0.00 0.00	2. 12.50 3.92	4. 25.00 0.96	1. 6.25 7.14	0. 0.00 0.00	16. 1.29
冷温帯ササ原	1. 11.11 0.70	1. 11.11 0.29	0. 0.00 0.00	1. 11.11 0.71	0. 0.00 0.00	4. 44.44 0.96	2. 22.22 14.29	0. 0.00 0.00	9. 0.73
暖温帯	0. 0.00 0.00	1. 100.00 0.29	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.08
亜寒帯広葉草原	6. 50.00 4.23	4. 33.33 1.15	1. 8.33 1.96	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 8.33 0.24	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	12. 0.97
冷温帯	1. 16.67 0.70	0. 0.00 0.00	1. 16.67 1.96	1. 16.67 0.71	1. 16.67 1.96	1. 16.67 0.24	0. 0.00 0.00	1. 16.67 1.25	6. 0.48
暖温帯	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 50.00 0.71	1. 50.00 1.96	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 0.16
冷温帯単子葉草本草原	0. 0.00 0.00	1. 33.33 0.29	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 66.67 0.48	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	3. 0.24
暖温帯	1. 10.00 0.70	4. 40.00 1.15	0. 0.00 0.00	2. 20.00 1.43	0. 0.00 0.00	3. 30.00 0.72	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	10. 0.81
亜熱帯	0. 0.00 0.00	1. 50.00 0.29	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 50.00 0.24	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 0.16
草本シダ群落	1. 20.00 0.70	3. 60.00 0.86	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 20.00 0.24	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	5. 0.40
岩上、多層地草本雑生	8. 42.11 5.63	5. 26.32 1.44	0. 0.00 0.00	1. 5.26 0.71	1. 5.26 1.96	2. 10.53 0.48	0. 0.00 0.00	2. 10.53 2.50	19. 1.53
タケ形林	0. 0.00 0.00	1. 100.00 0.29	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.08
ヤシ形林	2. 28.57 1.41	1. 14.29 0.29	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	4. 57.14 0.96	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	7. 0.56

注) 上段：件数  
中段：値の合計に対する割合(%)  
下段：縦の合計に対する割合(%)

相観区分	国立公園			左記 の 重複	国定公園			左記 の 重複	合計
	特別 保護 地区	特別 地域	普通 地域		特別 保護 地区	特別 地域	普通 地域		
マングローブ林	0.	4.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	5.
	0.00	80.00	0.00	0.00	20.00	0.00	0.00	0.00	0.40
蕨苔類植物群落	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.
	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08
浮葉・沈水植物群落	0.	0.	0.	0.	0.	2.	0.	0.	2.
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	0.00	0.00	0.16
高山荒原植生	25.	2.	1.	2.	0.	0.	0.	0.	30.
	83.33	6.67	3.33	6.67	0.00	0.00	0.00	0.00	2.42
雪田植生	16.	0.	0.	3.	0.	0.	0.	2.	21.
	76.19	0.00	0.00	14.29	0.00	0.00	0.00	9.52	1.69
火山荒原植生	1.	2.	0.	7.	0.	3.	0.00	3.	16.
	6.25	12.50	0.00	48.75	0.00	18.75	0.00	18.75	1.29
湿地植生	14.	22.	3.	10.	2.	14.	1.	1.	67.
	20.90	32.84	4.48	14.93	2.99	20.90	1.49	1.49	5.40
河辺植生	0.	0.	0.	0.	0.	3.	1.	1.	5.
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	60.00	20.00	20.00	0.40
海浜植生	2.	15.	1.	2.	2.	30.	1.	5.	58.
	3.45	25.86	1.72	3.45	3.45	51.72	1.72	8.62	4.67
亜寒帯ササ原	0.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	1.
	0.00	0.00	0.00	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08
亜寒帯単子葉草本草原	0.	1.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	2.
	0.00	50.00	0.00	0.00	0.00	0.00	50.00	0.00	0.16
個体群	7.	38.	10.	6.	8.	51.	2.	6.	128.
	5.47	29.69	7.81	4.69	6.25	39.84	1.56	4.69	10.31
合計	142.	348.	51.	140.	51.	415.	14.	80.	1241.
	11.44	28.04	4.11	11.28	4.11	33.44	1.13	6.45	

注) 上段：件数  
 中段：横の合計に対する割合(%)  
 下段：縦の合計に対する割合(%)

表3.2-2 国の自然環境保全地域への相観区分別適用状況

相観区分	原生 自然環境 保全地域	特別 地区	普通 地区	上記 の 重複	合計
植生一般	1. 25.00 20.00	3. 75.00 27.27	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	4. 25.00
亜寒帯植生	2. 66.67 40.00	1. 33.33 9.09	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	3. 18.75
冷温帯植生	0. 0.00 0.00	1. 100.00 9.09	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 6.25
亜寒帯常緑針葉高木林	1. 50.00 20.00	1. 50.00 9.09	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 12.50
冷温帯常緑針葉高木林	0. 0.00 0.00	1. 100.00 9.09	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 6.25
暖温帯常緑針葉高木林	1. 100.00 20.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 6.25
暖温帯常緑広葉高木林	0. 0.00 0.00	1. 100.00 9.09	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 6.25
冷温帯夏緑広葉高木林	0. 0.00 0.00	1. 100.00 9.09	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 6.25
岩上、多礫地草本植生	0. 0.00 0.00	1. 100.00 9.09	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 6.25
雪田植生	0. 0.00 0.00	1. 100.00 9.09	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 6.25
合計	5. 31.25	11. 68.75	0.	0.	16.

注) 上段：件数， 中段：横の合計に対する割合（％）  
下段：縦の合計に対する割合（％）

表3.2-3 都道府県の自然公園、自然環境保全地域への  
相観区分別適用状況

相観区分	都道府県立自然公園			都道府県自然環境保全地域			合計
	特別地域	普通地域	左記の重複	特別地区	普通地域	左記の重複	
植生一般	7. 20.00 3.72	13. 37.14 4.64	5. 14.29 10.00	4. 11.43 3.64	0. 0.00 0.00	6. 17.14 8.22	35. 4.30
亜寒帯植生	8. 61.54 4.26	1. 7.69 0.36	1. 7.69 2.00	2. 15.38 1.82	1. 7.69 0.88	0. 0.00 0.00	13. 0.00 1.60
冷温帯	6. 20.69 3.19	14. 48.28 5.00	3. 10.34 6.00	2. 6.90 1.82	2. 6.90 1.77	2. 6.90 2.74	29. 3.56
暖温帯	8. 17.02 4.26	15. 31.91 5.36	2. 4.26 4.00	5. 10.64 4.55	8. 17.02 7.08	9. 19.15 12.33	47. 5.77
亜寒帯常緑針葉高木林	4. 28.57 2.13	0. 0.00 0.00	1. 7.14 2.00	4. 28.57 3.64	3. 21.43 2.65	2. 14.29 2.74	14. 1.72
冷温帯	7. 19.44 3.72	5. 13.89 1.79	4. 11.11 8.00	10. 27.78 9.09	3. 8.33 2.65	7. 19.44 9.59	36. 4.42
暖温帯	11. 21.15 5.85	19. 36.54 6.79	4. 7.69 8.00	8. 15.38 7.27	7. 13.46 6.19	3. 5.77 4.11	52. 6.39
常緑針葉高木植林	5. 27.78 2.66	2. 11.11 0.71	2. 11.11 4.00	2. 11.11 1.82	5. 27.78 4.42	2. 11.11 2.74	18. 2.21
夏緑針葉高木林	1. 100.00 0.53	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.12
植林	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 50.00 0.91	0. 0.00 0.00	1. 50.00 1.37	2. 0.25
暖温帯常緑広葉高木林	43. 24.02 22.87	77. 43.02 27.50	8. 4.47 16.00	13. 7.26 11.82	33. 18.44 29.20	5. 2.79 6.85	179. 21.99
亜熱帯	0. 0.00 0.00	1. 100.00 0.36	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.12
常緑広葉高木植林	0. 0.00 0.00	2. 66.67 0.71	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 33.33 0.88	0. 0.00 0.00	3. 0.37
冷温帯夏緑広葉高木林	20. 17.54 10.64	30. 26.32 10.71	10. 8.77 20.00	19. 16.67 17.27	19. 16.67 16.81	14. 14.04 21.92	114. 14.00
暖温帯	8. 25.00 4.26	16. 50.00 5.71	0. 0.00 0.00	1. 3.13 0.91	5. 15.63 4.42	2. 6.23 2.74	32. 3.93
夏緑広葉高木植林	1. 100.00 0.53	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.12
亜寒帯常緑針葉低木林	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 100.00 1.82	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 0.25
冷温帯常緑広葉低木林	1. 20.00 0.53	2. 40.00 0.71	0. 0.00 0.00	2. 40.00 1.82	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	5. 0.61
暖温帯	1. 16.67 0.00	3. 50.00 1.07	0. 0.00 0.00	1. 16.67 0.91	0. 0.00 0.00	1. 16.67 1.37	6. 0.74
亜熱帯	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 100.00 1.37	1. 0.12

注) 上段: 件数, 中段: 横の合計に対する割合(%), 下段: 縦の合計に対する割合(%)

相観区分	都道府県立自然公園			都道府県自然環境保全地域			合計
	特別地域	普通地域	左記の重複	特別地区	普通地域	左記の重複	
亜寒帯夏緑広葉低木林	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 50.00 0.88	1. 50.00 1.37	2. 100.00 0.25
冷温帯	3. 37.50 1.80	2. 25.00 0.71	1. 12.50 2.00	1. 12.50 0.91	1. 12.50 0.88	0. 0.00 0.00	8. 75.00 0.98
暖温帯	3. \$0.00 1.60	6. 60.00 2.14	1. 10.00 2.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	10. 60.00 1.23
冷温帯ササ原	1. 20.00 0.53	3. 60.00 1.07	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 20.00 0.88	0. 0.00 0.00	5. 40.00 0.61
冷温帯広葉草原	3. 50.00 1.60	1. 16.67 0.36	0. 0.00 0.00	2. 33.33 1.82	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	6. 66.67 0.74
冷温帯単子葉草本草原	1. 20.00 0.53	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	3. 60.00 2.73	1. 20.00 0.88	0. 0.00 0.00	5. 80.00 0.61
暖温帯	1. 25.00 0.53	2. 50.00 0.71	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 25.00 0.88	0. 0.00 0.00	4. 50.00 0.49
草本シダ群落	0. 0.00 0.00	1. 100.00 0.36	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 100.00 0.12
岩上、多雑地草本植生	3. 20.00 1.60	4. 26.67 1.43	2. 13.33 4.00	2. 13.33 1.82	3. 20.00 2.65	1. 6.67 1.37	15. 66.67 1.84
タケ形林	0. 0.00 0.00	2. 100.00 0.71	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 100.00 0.25
浮葉・沈水植物群落	1. 50.00 0.53	1. 50.00 0.36	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 100.00 0.25
高山荒原植生	1. 100.00 0.53	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 100.00 0.12
雪田植生	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 100.00 1.82	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 100.00 0.25
火山荒原植生	1. 50.00 0.53	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 50.00 1.37	2. 100.00 0.25
湿地植生	14. 33.33 7.45	7. 16.67 2.50	2. 4.76 4.00	11. 26.19 10.00	3. 7.14 2.65	5. 11.90 6.85	42. 66.67 5.16
河辺植生	0. 0.00 0.00	7. 100.00 2.50	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	7. 100.00 0.86
海浜植生	4. 17.39 2.13	10. 43.48 3.57	2. 8.70 4.00	0. 0.00 0.00	6. 26.09 5.31	1. 4.35 1.37	23. 66.67 2.83
個体群	21. 24.42 11.17	34. 39.53 12.14	2. 2.33 4.00	13. 15.12 11.82	9. 10.47 7.96	7. 8.14 9.59	86. 100.00 10.57
合計	188. 23.10	280. 34.40	50. 6.14	110. 13.51	113. 13.88	73. 8.97	814. 100.00

注) 上段: 件数, 中段: 個の合計に対する割合(%), 下段: 種の合計に対する割合(%)

表3.2-4 天然記念物の相観区分別適用状況

相観区分	国指定 特別天然 記念物	国指定 天然 記念物	都道府県 指定天然 記念物	市町村 指定天然 記念物	左記天然 記念物 の重複	合計
植生一般	1. 5.56 1.49	7. 38.39 2.32	3. 44.44 2.27	2. 11.11 1.25	0. 0.00 0.00	18. 2.10
亜寒帯植生	2. 20.00 2.99	4. 40.00 1.51	4. 40.00 1.13	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	10. 1.17
冷温帯	0. 0.00 0.00	5. 35.71 2.02	5. 42.86 1.70	2. 14.29 1.25	1. 7.14 3.57	14. 1.64
暖温帯	2. 4.26 2.99	11. 23.40 4.44	25. 53.19 7.08	8. 17.02 5.00	1. 2.13 3.57	47. 5.49
亜熱帯植生	0. 0.00 0.00	3. 60.00 1.21	1. 20.00 0.28	1. 20.00 0.63	0. 0.00 0.00	5. 0.58
亜寒帯常緑針葉高木林	1. 16.67 1.49	5. 83.33 2.02	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	6. 0.70
冷温帯	4. 22.22 5.97	5. 27.78 2.02	5. 27.78 1.42	3. 16.67 1.88	1. 5.56 3.57	18. 2.10
暖温帯	2. 6.25 2.99	7. 21.88 2.82	13. 40.63 3.68	7. 21.88 4.38	3. 9.38 10.71	32. 3.74
常緑針葉植林	1. 5.00 1.49	3. 15.00 1.21	14. 70.00 3.97	1. 5.00 0.63	1. 5.00 3.57	20. 2.34
夏緑針葉高木林	1. 50.00 1.49	1. 50.00 0.40	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 0.23
植林	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 100.00 0.57	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 0.23
暖温帯常緑広葉高木林	4. 1.63 5.97	61. 24.90 24.60	120. 48.98 33.39	53. 21.63 33.13	7. 2.86 25.00	245. 28.62
亜熱帯	0. 0.00 0.00	10. 58.82 4.03	4. 23.53 1.13	0. 0.00 0.00	3. 17.65 10.71	17. 1.99
常緑広葉高木植林	1. 20.00 1.49	4. 80.00 1.61	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	5. 0.58
冷温帯夏緑広葉高木林	2. 4.00 2.99	14. 28.00 5.65	20. 40.00 5.67	12. 24.00 7.50	2. 4.00 7.14	50. 5.84
暖温帯	0. 0.00 0.00	1. 5.00 0.40	9. 45.00 2.55	10. 50.00 6.25	0. 0.00 0.00	20. 2.34
夏緑広葉高木林	0. 0.00 0.00	1. 50.00 0.40	1. 50.00 0.28	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 0.23
亜寒帯常緑針葉低木林	1. 100.00 1.49	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.12
冷温帯	0. 0.00 0.00	2. 100.00 0.81	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 0.23
暖温帯	0. 0.00 0.00	1. 33.33 0.40	2. 66.67 0.57	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	3. 0.35
冷温帯常緑針葉低木林	0. 0.00 0.00	4. 57.14 1.61	2. 28.57 0.57	1. 14.29 0.63	0. 0.00 0.00	7. 0.82
暖温帯常緑針葉低木林	0. 0.00 0.00	5. 50.00 2.02	4. 40.00 1.13	1. 10.00 0.63	0. 0.00 0.00	10. 1.17
亜熱帯	0. 0.00 0.00	4. 80.00 1.61	0. 0.00 0.00	1. 20.00 0.63	0. 0.00 0.00	5. 0.58

注) 上段: 件数, 中段: 横の合計に対する割合(%)  
下段: 縦の合計に対する割合(%)

相観区分	国指定 特別天然 記念物	国指定 天然 記念物	都道府県 指定天然 記念物	市町村 指定天然 記念物	生記天然 記念物 の重複	合計
亜熱帯夏緑広葉低木林	1. 100.00 1.49	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.12
冷温帯	0. 0.00 0.00	5. 50.00 2.02	4. 40.00 1.13	1. 10.00 0.63	0. 0.00 0.00	10. 1.17
暖温帯	0. 0.00 0.00	3. 30.00 1.21	6. 60.00 1.70	1. 10.00 0.63	0. 0.00 0.00	10. 1.17
冷温帯ササ原	0. 0.00 0.00	1. 100.00 0.40	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.12
暖温帯	0. 0.00 0.00	1. 50.00 0.40	1. 50.00 0.28	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 0.23
亜寒帯広葉草原	1. 100.00 1.49	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.12
冷温帯	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 50.00 0.57	1. 25.00 0.63	1. 25.00 3.57	4. 0.47
暖温帯	0. 0.00 0.00	1. 100.00 0.40	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.12
冷温帯単子葉草本草原	0. 0.00 0.00	1. 100.00 0.40	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.12
暖温帯	1. 16.67 1.49	2. 33.33 0.81	1. 16.67 0.28	1. 16.67 0.63	1. 16.67 3.57	6. 0.70
亜熱帯	0. 0.00 0.00	1. 50.00 0.40	1. 50.00 0.28	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 0.23
草本シダ群落	2. 50.00 2.99	1. 25.00 0.40	1. 25.00 0.28	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	4. 0.47
岩上、多層地草本植生	3. 37.50 4.48	2. 25.00 0.81	1. 12.50 0.28	1. 12.50 0.63	1. 12.50 3.57	8. 0.93
ヤシ形林	3. 42.86 4.48	3. 42.86 1.21	1. 14.29 0.28	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	7. 0.82
マングローブ林	0. 0.00 0.00	4. 57.14 1.61	0. 0.00 0.00	3. 42.86 1.88	0. 0.00 0.00	7. 0.82
藓苔類植物群落	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 100.00 3.57	1. 0.12
浮葉・沈水植物群落	0. 0.00 0.00	2. 33.33 0.81	3. 50.00 0.85	1. 16.67 0.63	0. 0.00 0.00	6. 0.70
浮水植物群落	0. 0.00 0.00	1. 100.00 0.40	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.12
高山荒原植生	17. 100.00 25.37	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	17. 1.99
雪田植生	7. 100.00 10.45	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	7. 0.82
火山荒原植生	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	3. 100.00 1.88	0. 0.00 0.00	3. 0.35
湿地植生	6. 10.71 8.96	16. 28.57 6.45	23. 41.07 6.52	10. 17.86 6.25	1. 1.79 3.57	56. 6.54
海浜植生	1. 3.45 1.49	4. 13.79 1.61	11. 37.93 3.12	13. 44.83 8.13	0. 0.00 0.00	29. 3.39
個体群	3. 2.31 4.48	42. 32.31 16.94	58. 44.62 16.43	23. 17.69 14.38	4. 3.08 14.29	130. 15.19
合計	67. 7.83	248. 28.97	353. 41.24	160. 18.69	28. 3.27	856.

注) 上段: 件数, 中段: 個の合計に対する割合(%)  
下段: 個の合計に対する割合(%)

表4.1-1 保護制度別の変化状況（件数）

保護制度	変化なし	面積変化	群落構成変化	個体数変化	消滅	合計
自然公園法及び 自然環境保全法	1,884(90.1)	93( 4.5) (44.9)	54( 2.6) (26.1)	35( 1.7) (16.9)	25( 1.2) (12.1)	2,091
文化財保護法	798(91.8)	26( 3.0) (37.1)	24( 2.8) (34.3)	11( 1.3) (15.7)	9( 1.0) (12.9)	868
上記の保護制度 なし	1,173(83.3)	94( 6.7) (40.0)	50( 3.6) (21.3)	25( 1.8) (10.6)	66( 4.8) (28.1)	1,408
合計	3,855(88.3)	213( 4.9) (41.6)	128( 2.9) (25.0)	71( 1.6) (13.9)	100( 2.3) (19.5)	4,367

注1) 複数回答のため、合計群落数は、実際の選定群落数とは合致しない。

注2) ( )内 上段は、群落全体（横の合計）に対する割合（％）

下段は、変化の中での構成比（％）

注3) 「変化なし」には、記入なし及び変化状況不明が含まれる。

表4.1-2 自然公園・自然環境保全地域の変化状況

保護の現状	記入 なし	変化 なし	面積 変化	群落構成 変化	個体数 変化	消滅	合計
<b>国立公園</b>							
特別保護地区	0. 0.00	139. 97.20	2. 1.40	0. 0.00	2. 1.40	0. 0.00	143.
特別地域	1. 0.28	315. 89.49	15. 4.26	11. 3.13	3. 0.85	7. 1.99	352.
普通地域	0. 0.00	43. 84.31	2. 3.92	0. 0.00	3. 5.88	3. 5.88	51.
上記の重複	1. 0.70	126. 88.73	7. 4.93	5. 3.52	2. 1.41	1. 0.70	142.
<b>国定公園</b>							
特別保護地区	0. 0.00	51. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	51.
特別地域	5. 1.19	379. 90.24	16. 3.81	10. 2.38	6. 1.43	4. 0.95	420.
普通地域	0. 0.00	11. 78.57	1. 7.14	0. 0.00	2. 14.29	0. 0.00	14.
上記の重複	1. 1.25	74. 92.50	3. 3.75	2. 2.50	0. 0.00	0. 0.00	80.
<b>原生自然環境 保全地域</b>							
	0. 0.00	5. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	5.
<b>自然環境保全 地域</b>							
特別地区	0. 0.00	9. 81.82	1. 9.09	1. 9.09	0. 0.00	0. 0.00	11.
<b>都道府県立 自然公園</b>							
特別地域	2. 1.05	169. 88.95	12. 6.32	2. 1.05	5. 2.63	0. 0.00	190.
普通地域	1. 0.35	238. 84.40	23. 8.16	8. 2.84	3. 1.06	9. 3.19	282.
上記の重複	1. 2.00	41. 82.00	3. 6.00	4. 8.00	1. 2.00	0. 0.00	50.
<b>都道府県自然 環境保全地域</b>							
特別地区	0. 0.00	101. 90.99	4. 3.60	2. 1.80	4. 3.60	0. 0.00	111.
普通地区	2. 1.72	101. 87.07	3. 2.59	5. 4.31	4. 3.45	1. 0.86	116.
上記の重複	0. 0.00	68. 93.15	1. 1.37	4. 5.48	0. 0.00	0. 0.00	73.
<b>合計</b>	14. 0.81	1870. 89.40	93. 4.45	54. 2.58	35. 1.67	25. 1.20	2091.

上段：件数      中段：横の合計に対する割合（％）

表4.1-3 削除された特定植物群落一覧（自然公園法、自然環境保全法下に存在する）

県	件名 (NO.)	保護の現状	変化状況	備考
茨城	大子町のコナリ群落 (31)	県立自然公園普通地域	5	道路開発
	石岡市の常緑樹林 (54)	県自然環境保全地域普通地区	3	石材採石
埼玉	大高取山のスギイナシ林 (21)	県立自然公園普通地域	5	植林
	都幾川村のツバキ林 (31)	県立自然公園普通地域	5	植林
	ヤガクサ林 (36)	県立自然公園普通地域	5	駐車上の設置
	武甲山石灰岩地の森林 (40)	県立自然公園普通地域	5	採石のため伐採
	武甲山のイソノキ群落 (41)	県立自然公園普通地域	5	採石のため伐採
東京	多摩川河辺植生 (35)	都立自然公園普通地域	2	取水堰の影響
	式根島大浦の海岸砂丘植生 (76)	富士箱根伊豆国立公園特別地域	3	人の立入
	三宅島新澤池周辺のスギイナシ林 (86)	富士箱根伊豆国立公園特別-普通地域	5	大噴火
新潟	剣龍峽の杉林 (14)	県立自然公園特別地域	2	憩いの場整備
福井	六呂師妻平湿原 (12)	県立自然公園普通地域	2, 3	宿泊施設
岐阜	東杉原の河岸岩上植生 (112)	県立自然公園普通地域	5	徳山ダム建設
	杉原のツバキ群落 (124)	県立自然公園普通地域	5	徳山ダム建設
静岡	川奈崎のクマツツク天然林 (4)	富士箱根伊豆国立公園特別地域	2	クマツツク枯死
	富士山東斜面のオモミソ群落 (21)	富士箱根伊豆国立公園特別地域	5	盗採
	猫越峠のオシロイ群落 (47)	富士箱根伊豆国立公園特別地域	5	樹林環境の変化
	富士山西麓のササキ群落 (62)	富士箱根伊豆国立公園普通地域	5	生育地破壊
三重	砂丘海岸植物群落 (22)	県立自然公園普通地域	2	砂浜の埋立
	父が谷のツバキ林 (79)	吉野熊野国立公園普通地域	5	伐採
	父が谷のコウヤマキ林 (80)	吉野熊野国立公園普通地域	5	伐採
滋賀	西浅井町のハコブシ林 (62)	琵琶湖国定公園特別地域	5	伐採、埋立
	佐波江のツバキ林 (86)	琵琶湖国定公園特別地域	5	護岸工事、河川改修
島根	今津海岸イタドリ自生地 (69)	大山隠岐国立公園特別地域	5	自然災害
徳島	竜宮の磯海浜植物群落 (3)	瀬戸内海国立公園特別地域	3	乾燥場に利用
	淡島の海浜植物群落 (9)	室戸阿南海岸国定公園特別地域	3	過度の利用
愛媛	御五神島のハチジョウススキ群落 (57)	足摺宇和海国立公園特別地域	5	人の立入、採取

注) 変化状況 2:面積に著しい変化あり 3:群落構成に著しい変化あり 5:群落又は個体群の消滅

表4.1-4 天然記念物の変化状況

保護の現状	記入 なし	変化 なし	面積 変化	群落構成 変化	個体数 変化	消滅	合計
国指定特別 天然記念物	0. 0.00	63. 92.65	4. 5.88	1. 1.47	0. 0.00	0. 0.00	68.
	0.00	7.95	15.38	4.17	0.00	0.00	7.83
国指定 天然記念物	2. 0.79	230. 91.27	6. 2.38	8. 3.17	3. 1.19	3. 1.19	252.
	33.33	29.04	23.08	33.33	27.27	33.33	29.03
都道府県指定 天然記念物	3. 0.84	321. 90.17	9. 2.53	11. 3.09	8. 2.25	4. 1.12	356.
	50.00	40.53	34.62	45.83	72.73	44.44	41.01
市町村指定 天然記念物	1. 0.61	153. 93.29	4. 2.44	4. 2.44	0. 0.00	2. 1.22	164.
	16.67	19.32	15.38	16.67	0.00	22.22	18.89
上記の重複	0. 0.00	25. 89.29	3. 10.71	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	28.
	0.00	3.16	11.54	0.00	0.00	0.00	3.23
合計	6. 0.69	792. 91.24	26. 3.00	24. 2.76	11. 1.27	9. 1.04	868.

上段：件数，中段：横の合計に対する割合（％）

下段：縦の合計に対する割合（％）

表4.1-5 削除された特定植物群落一覧（文化財保護法と重複する）

県	件名 (NO.)	保護の現状	変化状況	備考
埼玉	大高取山のスタンイ林 (21)	県指定天然記念物	5	植林
	武甲山石灰岩地の森林 (40)	国指定天然記念物	5	採石のため伐採
	武甲山のワヅキ群落 (41)	国指定天然記念物	5	採石のため伐採
千葉	成東ツガイソ群生地 (17)	県指定天然記念物	5	盗採、スギ林の管理
	安食のオハス群生地 (34)	県指定天然記念物	5	排水し泥を取り除く
富山	十二町瀧のオハス群生地 (125)	国指定天然記念物	5	記述なし
静岡	女神山山頂の石灰岩地植物群落 (118)	県指定天然記念物	4	石灰石の採掘
島根	今津海岸ツタゲキ自生地 (69)	町指定天然記念物	5	自然災害
鹿児島	城山のツクリ林 (40)	国指定天然記念物	2, 3	除去

注) 変化状況 2:面積に著しい変化あり 3:群落構成に著しい変化あり  
 4:個体群の個体数に著しい変化あり 5:群落又は個体群の消滅

表4.1-6 保護制度別の変化原因 (件数)

保護制度	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
自然公園法及び自然環境保全法	1,878 (88.4)	24 (1.1)	27 (1.3)	56 (2.6)	17 (0.8)	11 (0.5)	13 (0.6)	13 (0.6)	6 (0.3)	12 (0.6)	15 (0.7)	3 (0.1)	2 (0.1)	7 (0.3)	21 (1.0)	19 (0.9)	2,124
文化財保護法	793 (87.4)	12 (1.3)	10 (1.1)	10 (1.1)	7 (0.8)	4 (0.4)	7 (0.8)	5 (0.6)	6 (0.7)	10 (1.1)	5 (0.6)	0 (0.0)	5 (0.6)	4 (0.4)	7 (0.8)	22 (2.4)	907
上記の保護制度なし	1,168 (81.5)	24 (1.7)	16 (1.1)	50 (3.5)	27 (1.9)	7 (0.5)	17 (1.2)	47 (3.3)	14 (1.0)	15 (1.1)	12 (0.8)	0 (0.0)	3 (0.2)	4 (0.3)	9 (0.6)	20 (1.4)	1,433
合計	3,839 (86.0)	60 (1.3)	53 (1.2)	116 (2.6)	51 (1.1)	22 (0.5)	37 (0.8)	65 (1.5)	26 (0.6)	37 (0.8)	32 (0.7)	3 (0.1)	10 (0.2)	15 (0.3)	37 (0.8)	61 (1.4)	4,464
		(9.6)	(8.5)	(18.6)	(8.2)	(3.5)	(5.9)	(10.4)	(4.2)	(5.9)	(5.1)	(0.5)	(1.6)	(2.4)	(5.9)	(9.8)	

注1) 複数回答のため、合計群落数は、実際の選定群落数とは合致しない。  
 注2) ( ) 内 上段は、群落全体 (横の合計) に対する割合 (%)  
 下段は、変化原因の中での構成比 (%)  
 注3) 「記入なし」には、変化なし及び変化原因不明が含まれる。

表4.1-7 自然公園・自然環境保全地域の変化原因

保護の現状	記入なし	人の立入	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	水辺の開発	その他の開発	周辺の開発	植物の侵入	虫害・菌害	動物の侵入	汚染物質の侵入	ゴミの投棄	自然災害	その他	合計
以下の保護制度なし	1519.	30.	21.	57.	29.	8.	20.	48.	17.	20.	12.	0.	5.	5.	9.	30.	1830.
	83.01	1.64	1.15	3.11	1.58	0.44	1.09	2.62	0.93	1.09	0.66	0.00	0.27	0.27	0.49	1.64	
	44.72	55.56	43.75	50.44	63.04	42.11	60.61	78.69	73.91	62.50	44.44	0.00	71.43	41.67	30.00	61.22	46.28
<b>国立公園</b>																	
特別保護地区	139.	0.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	1.	1.	143.
	97.20	0.00	0.70	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.70	0.00	0.00	0.00	0.70	0.70	
	4.09	0.00	2.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.70	0.00	0.00	0.00	3.33	2.04	3.62
特別地域	317.	2.	7.	6.	3.	1.	2.	3.	2.	2.	6.	1.	0.	2.	4.	6.	364.
	87.09	0.55	1.92	1.65	0.82	0.27	0.55	0.82	0.55	0.55	1.65	0.27	0.00	0.55	1.10	1.65	
	9.33	3.70	14.58	5.31	6.52	5.26	6.06	4.92	8.70	6.25	22.22	33.33	0.00	16.67	13.33	12.24	9.21
普通地域	45.	0.	1.	4.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	52.
	36.54	0.00	1.92	7.69	1.92	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.92	
	1.32	0.00	2.08	8.54	2.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.04	1.32
上記の重複	127.	0.	0.	5.	0.	0.	0.	1.	0.	1.	1.	0.	1.	0.	6.	1.	143.
	88.81	0.00	0.00	3.50	0.00	0.00	0.00	0.70	0.00	0.70	0.00	0.70	0.00	0.00	4.20	0.70	
	3.74	0.00	0.00	4.42	0.00	0.00	0.00	1.64	0.00	3.13	3.70	0.00	14.29	0.00	20.00	2.04	3.62
<b>固定公園</b>																	
特別保護地区	48.	3.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	52.
	92.31	5.77	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.92	0.00	0.00	
	1.41	5.56	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.33	0.00	0.00	1.32
特別地域	381.	6.	6.	9.	4.	4.	2.	1.	0.	5.	1.	1.	0.	1.	1.	2.	424.
	89.86	1.42	1.42	2.12	0.94	0.94	0.47	0.24	0.00	1.18	0.24	0.24	0.00	0.24	0.24	0.47	
	11.22	11.11	12.50	7.96	8.70	21.05	6.06	1.64	0.00	15.63	3.70	33.33	0.00	8.33	3.33	4.08	10.72
普通地域	12.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	0.	15.
	80.00	6.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.67	0.00	0.00	0.00	6.67	0.00	0.00	0.00	
	0.35	1.85	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.35	0.00	0.00	0.00	14.29	0.00	0.00	0.00	0.38
上記の重複	74.	1.	0.	3.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	0.	1.	1.	81.
	91.36	1.23	0.00	3.70	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.23	0.00	0.00	1.23	1.23	
	2.18	1.85	0.00	2.65	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	33.33	0.00	0.00	3.33	2.04	2.05
<b>原生自然環境保全地域</b>																	
特別地区	5.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	5.
	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	0.15	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13
<b>自然環境保全地域</b>																	
特別地区	9.	1.	1.	1.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	13.
	69.23	7.69	7.69	7.69	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	7.69	0.00	
	0.26	1.85	2.08	0.88	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.33	0.00	0.33
<b>都道府県立自然公園</b>																	
特別地域	169.	3.	4.	6.	5.	2.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	1.	1.	2.	193.
	87.56	1.55	2.07	3.11	2.59	1.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.52	0.52	1.04	
	4.97	5.56	8.33	5.31	10.87	10.53	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.33	3.33	4.08	4.88
普通地域	238.	2.	2.	15.	3.	3.	7.	5.	1.	0.	3.	0.	0.	2.	3.	4.	288.
	82.64	0.69	0.69	5.21	1.04	1.04	2.43	1.74	0.35	0.00	1.04	0.00	0.00	0.69	1.04	1.39	
	7.01	3.70	4.17	13.27	6.52	15.79	21.21	8.20	4.35	0.00	11.11	0.00	0.00	16.67	10.00	8.16	7.28
上記の重複	40.	1.	1.	1.	0.	1.	2.	1.	1.	1.	0.	0.	0.	0.	2.	0.	51.
	78.43	1.96	1.96	1.96	0.00	1.96	3.92	1.96	1.96	1.96	0.00	0.00	0.00	0.00	3.92	0.00	
	1.18	1.85	2.08	0.88	0.00	5.26	6.06	1.64	4.35	3.13	0.00	0.00	0.00	0.00	6.67	0.00	1.29
<b>都道府県立自然環境保全地域</b>																	
特別地区	101.	1.	2.	3.	0.	0.	0.	0.	1.	1.	0.	0.	0.	0.	1.	0.	110.
	91.82	0.91	1.82	2.73	0.00	0.00	0.00	0.00	0.91	0.91	0.00	0.00	0.00	0.00	0.91	0.00	
	2.97	1.85	4.17	2.65	0.00	0.00	0.00	0.00	4.35	3.13	0.00	0.00	0.00	0.00	3.33	0.00	2.78
普通地区	105.	2.	1.	2.	0.	0.	0.	1.	0.	1.	1.	0.	0.	0.	0.	1.	114.
	92.11	1.75	0.88	1.75	0.00	0.00	0.00	0.88	0.00	0.88	0.88	0.00	0.00	0.00	0.00	0.88	
	3.09	3.70	2.08	1.77	0.00	0.00	0.00	1.64	0.00	3.13	3.70	0.00	0.00	0.00	0.00	2.04	2.88
上記の重複	68.	1.	1.	1.	1.	0.	0.	1.	0.	1.	2.	0.	0.	0.	0.	0.	76.
	89.47	1.32	1.32	1.32	1.32	0.00	0.00	1.32	0.00	1.32	2.63	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	2.00	1.85	2.08	0.88	2.17	0.00	0.00	1.64	0.00	3.13	7.41	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.92
<b>合計</b>	3397.	54.	48.	113.	46.	19.	33.	61.	23.	32.	27.	3.	7.	12.	30.	49.	3954.
	85.91	1.37	1.21	2.86	1.16	0.48	0.83	1.54	0.58	0.81	0.68	0.08	0.18	0.30	0.76	1.24	

上段：件数

中段：横の合計に対する割合（％）

下段：縦の合計に対する割合（％）

表4.1-8 天然記念物の変化原因

保護の現状	記入なし	人の立入	盗採	農林業 開発	道路 開発	観光 開発	水辺の 開発	その他 の開発	周辺の 開発	植物の 侵入	虫害・ 菌害	動物の 侵入	汚染物質 の侵入	ゴミの 投棄	自然 災害	その他	合計
国指定特別 天然記念物	64. 91.43 8.07	1. 1.43 8.33	1. 1.43 10.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 1.43 20.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 1.43 14.29	2. 2.86 9.09	70. 7.72
国指定 天然記念物	228. 86.69 28.75	5. 1.90 41.67	1. 0.38 10.00	3. 1.14 30.00	0. 0.00 0.00	1. 0.38 25.00	1. 0.38 14.29	0. 0.00 0.00	2. 0.76 33.33	6. 2.28 60.00	1. 0.38 20.00	0. 0.00 0.00	1. 0.38 20.00	3. 1.14 75.00	1. 0.38 14.29	10. 3.80 45.45	263. 29.00
都道府県指定 天然記念物	322. 85.87 40.61	6. 1.60 50.00	8. 2.13 80.00	6. 1.60 60.00	4. 1.07 57.14	3. 0.80 75.00	5. 1.33 71.43	3. 0.80 60.00	4. 1.07 66.67	2. 0.53 20.00	2. 0.53 40.00	0. 0.00 0.00	2. 0.53 40.00	1. 0.27 25.00	1. 0.27 14.29	6. 1.60 27.27	375. 41.35
市町村指定 天然記念物	154. 92.77 19.42	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	1. 0.60 10.00	3. 1.81 42.86	0. 0.00 0.00	1. 0.60 14.29	1. 0.60 20.00	0. 0.00 0.00	1. 0.60 10.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	0. 0.00 0.00	2. 1.20 28.57	3. 1.81 13.64	166. 18.30
上記の重複	25. 75.76 3.15	0. 0.00 0.00	1. 3.03 10.00	2. 6.06 40.00	0. 0.00 0.00	2. 6.06 40.00	0. 0.00 0.00	2. 6.06 28.57	1. 3.03 4.55	33. 3.64							
合計	793. 87.43	12. 1.32	10. 1.10	10. 1.10	7. 0.77	4. 0.44	7. 0.77	5. -0.55	6. 0.66	10. 1.10	5. 0.55	0. 0.00	5. 0.55	4. 0.44	7. 0.77	22. 2.43	907.

上段：件数

中段：横の合計に対する割合（％）

下段：縦の合計に対する割合（％）

表5.1-1 選定基準別の追加件数及び面積

選定基準	件数	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)
A	529	39.01	129,388.72	61.15
B	196	14.45	16,028.00	7.57
C	158	11.65	4,469.00	2.11
D	401	29.57	34,188.21	16.16
E	390	28.76	54,444.63	25.73
F	38	2.80	1,237.00	0.58
G	140	10.32	4,651.50	2.20
H	214	15.78	14,352.90	6.78
合 計	1,356		211,600.08	

注) 1 群落に対して複数の選定基準が対応している場合があり  
 件数・面積とも A～H の計と合計(定数)は合わない。

表5.1-2 相観区分別の件数及び面積

相観区分	件数	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)
植生一般	5.	0.37	1475.00	0.70
亜寒帯植生	13.	0.96	36393.00	17.20
冷温帯植生	3.	0.22	295.00	0.14
暖温帯植生	8.	0.59	3248.80	1.54
亜熱帯植生	3.	0.22	200.80	0.09
亜寒帯常緑針葉高木林	20.	1.47	15532.70	7.34
冷温帯常緑針葉高木林	51.	3.76	3514.00	1.66
暖温帯常緑針葉高木林	47.	3.47	1120.10	0.53
亜熱帯常緑針葉高木林	1.	0.07	25.00	0.01
常緑針葉高木植林	18.	1.33	1160.00	0.55
夏緑針葉高木林	1.	0.07	300.00	0.14
夏緑針葉高木植林	1.	0.07	1.00	0.00
暖温帯常緑広葉高木林	353.	26.03	7926.30	3.75
亜熱帯常緑広葉高木林	33.	2.43	2623.50	1.24
常緑広葉高木植林	1.	0.07	3.50	0.00
亜寒帯夏緑広葉高木林	3.	0.22	7263.00	3.43
冷温帯夏緑広葉高木林	199.	14.67	61837.91	29.22
暖温帯夏緑広葉高木林	29.	2.14	388.60	0.18
亜熱帯夏緑広葉高木林	2.	0.15	110.10	0.05
亜寒帯常緑針葉低木林	5.	0.37	73.00	0.03
冷温帯常緑針葉低木林	1.	0.07	1.00	0.00
暖温帯常緑針葉低木林	3.	0.22	6.50	0.00
亜熱帯常緑針葉低木林	1.	0.07	0.00	0.00
冷温帯常緑広葉低木林	2.	0.15	495.00	0.23
暖温帯常緑広葉低木林	16.	1.18	56.10	0.03
亜熱帯常緑広葉低木林	6.	0.44	16.70	0.01
亜寒帯夏緑広葉低木林	10.	0.74	1631.70	0.77
冷温帯夏緑広葉低木林	16.	1.18	398.00	0.19
暖温帯夏緑広葉低木林	14.	1.03	26.50	0.01
冷温帯ササ原	1.	0.07	5.00	0.00
亜寒帯広葉草原	1.	0.07	0.00	0.00
冷温帯広葉草原	3.	0.22	47.40	0.02
冷温帯単子葉草本草原	4.	0.29	160.00	0.08
暖温帯単子葉草本草原	4.	0.29	2299.20	1.09
亜熱帯単子葉草本草原	1.	0.07	3.00	0.00
草本シダ群落	2.	0.15	8.50	0.00
岩上, 多礫地草本植生	46.	3.39	2051.10	0.97
タケ形林	2.	0.15	70.00	0.03
ヤシ形林	9.	0.66	93.50	0.04
マングローブ林	2.	0.15	76.00	0.04
ツル植物群落	1.	0.07	5.00	0.00
浮葉・沈水植物群落	21.	1.55	6481.00	3.06
浮水植物群落	1.	0.07	0.10	0.00
高山荒原植生	7.	0.52	7.80	0.00
雪田植生	5.	0.37	502.80	0.24
火山荒原植生	6.	0.44	224.90	0.11
湿地植生	85.	6.27	4749.20	2.24
河辺植生	5.	0.37	124.00	0.06
海浜植生	58.	4.28	4649.40	2.20
亜寒帯ササ原	2.	0.15	12580.00	5.95
個体群	225.	16.59	31340.48	14.81
合計	1356.	100.00	211600.70	100.00

表5.1-3 都道府県別の件数及び面積

県名	件数	面積	(%)
北海道	105	117194.00	55.38
青森	80	37118.82	17.54
岩手	20	1790.80	0.85
宮城	65	2261.32	1.07
秋田	94	19177.22	9.06
山形	10	1373.41	0.65
福島	5	213.00	0.10
茨城	3	13.00	0.01
群馬	37	6010.02	2.84
東京	2	4.30	0.00
神奈川	9	3.68	0.00
新潟	40	1088.31	0.51
富山	36	104.12	0.05
石川	11	9.10	0.00
福井	39	320.83	0.15
山梨	16	235.33	0.11
長野	35	1379.92	0.65
静岡	52	173.83	0.08
愛知	22	46.07	0.02
滋賀	40	304.43	0.14
京都	3	47.50	0.02
兵庫	9	7.70	0.00
奈良	15	189.80	0.09
和歌山	20	106.25	0.05
鳥取	15	8.10	0.00
島根	106	269.11	0.13
岡山	26	58.32	0.03
山口	128	3293.45	1.56
徳島	19	903.56	0.43
香川	2	20.52	0.01
愛媛	15	19.66	0.01
福岡	30	734.63	0.35
長崎	13	34.10	0.02
熊本	56	281.59	0.13
大分	4	6.60	0.00
宮崎	104	13413.81	6.34
鹿児島	6	235.00	0.11
沖縄	64	3149.00	1.49
合計	1356	211600.08	

注) (%) は、面積の割合である。

表5.2-1 追加後の都道府県別の件数及び面積

県名	前回 件数	削除 件数	追加 件数	追加後 の件数	追加後 の面積 (ha)	県土面積に対する 割合 (%)
北海道	115	0	105	220	374312.09	4.48
青森	80	1	80	159	45563.61	5.06
岩手	71	1	20	90	33424.50	2.21
宮城	75	0	65	140	38071.33	5.22
秋田	76	1	94	169	44066.13	3.85
山形	79	1	10	88	130284.92	13.97
福島	112	2	5	115	5751.80	0.42
茨城	65	5	3	63	5504.50	0.90
栃木	65	4	0	61	2142.60	0.33
群馬	113	4	37	146	26033.62	4.10
埼玉	61	9	0	52	461.80	0.12
千葉	87	2	0	85	2538.10	0.50
東京都	96	7	2	91	10049.10	4.68
神奈川県	91	1	9	99	5461.98	2.28
新潟	94	1	40	133	6374.31	0.53
富山	136	6	36	166	304.32	0.07
石川	102	1	11	112	3083.00	0.73
福井	59	1	39	97	949.03	0.23
山梨	101	1	16	116	7759.43	1.82
長野	56	1	35	91	237285.83	18.07
岐阜	132	14	0	118	3390.10	0.32
静岡県	135	6	52	180	7002.33	0.96
愛知	68	3	22	87	714.27	0.14
三重	104	3	0	101	8751.50	1.52
滋賀	119	6	40	153	2484.23	0.62
京都	83	3	3	83	2832.90	0.61
大阪	32	1	0	31	91.90	0.05
兵庫県	94	0	9	103	1124.90	0.13
奈良	25	0	15	40	7874.70	2.13
和歌山	87	2	20	105	2519.05	0.53
鳥取	60	0	15	76	2224.60	0.38
島根	78	4	106	180	2282.81	0.34
岡山	56	0	26	82	945.02	0.13
広島	126	2	0	124	12289.50	1.45
山口	69	1	128	196	4537.75	0.74
徳島	68	3	19	84	2851.86	0.69
香川	33	1	2	34	319.42	0.17
愛媛	61	3	15	73	911.66	0.16
高知	78	0	0	78	11097.80	1.56
福岡	77	1	30	106	3734.83	0.75
佐賀	65	0	0	65	1788.00	0.74
長崎	90	0	13	103	1764.80	0.43
熊本	37	0	56	93	10868.69	1.51
大分	70	1	4	73	14890.70	2.35
宮崎	104	0	61	165	30395.81	4.22
鹿児島	91	3	6	94	10750.30	1.17
沖縄	101	0	64	165	6471.50	2.88
全 国	3834	106	1356	5085	1134336.28	3.04

注1) 長野、鳥取県では、前回の1群落が2つの群落に分けられたことによる件数増を含む。

注2) 静岡県では、前回の1群落が他の群落と統合されたことによる件数減を含む。

表5.2-2 地方別の件数及び面積

地方	件数	面積 (ha)	1件当たりの 平均面積 (ha)
北海道	220 ( 4.3)	374,312.09 (33.0)	1701.4
東北	761 (15.0)	297,162.29 (26.2)	390.5
関東	567 (11.8)	52,191.70 ( 4.6)	87.4
中部	1,098 (21.6)	266,831.02 (23.5)	243.0
近畿	616 (12.1)	25,679.18 ( 2.3)	41.7
中国	656 (12.9)	21,379.68 ( 1.9)	32.6
四国	269 ( 5.3)	15,180.74 ( 1.3)	56.4
九州	699 (13.8)	74,193.13 ( 6.6)	106.1
沖縄	165 ( 3.3)	6,471.50 ( 0.6)	39.2
合計	5,081	1,133,404.68	223.1

(注) ( )内は縦の合計に対する割合 (%)

表5.3-1 選定基準別の件数及び面積

選定基準	件数	構成比 (%)	面積 (ha)	構成比 (%)	1件当たりの 平均面積(ha)
A	1,965	38.67	745,203	65.75	379
B	643	12.65	220,641	19.47	343
C	611	12.03	206,845	18.25	339
D	1,298	25.55	475,644	41.97	366
E	1,308	25.74	104,427	9.21	80
F	177	3.48	10,516	0.93	59
G	525	10.33	31,361	2.77	60
H	653	12.85	92,903	8.20	142
合 計	5,081		1,133,369		223

注) 1群落に対して複数の選定基準が対応している場合があり  
件数・面積ともA～Hの計と合計(定数)は合わない。

表5.3-2 地方別選定基準別の件数及び面積

( ) 内は面積 : ha

選定基準 地方	A	B	C	D	E	F	G	H	合 計
北海道	72(121,535.41)	12( 5,827.80)	11( 26,416.30)	98(214,515.81)	46( 24,019.00)	0( 0.00)	25( 15,570.50)	21( 26,803.10)	285( 434,687.91)
東北	233(231,208.90)	34( 3,025.60)	122( 4,252.30)	286( 31,609.60)	93( 35,757.70)	27( 4,164.60)	42( 2,284.50)	93( 34,010.30)	930( 346,313.52)
関東	219( 39,243.10)	70( 2,852.10)	73( 2,966.30)	142( 11,407.60)	151( 5,474.60)	33( 1,844.20)	51( 1,013.50)	45( 2,410.30)	784( 67,211.72)
中部	523(255,504.80)	158(173,011.29)	149(151,103.10)	278(196,123.00)	247( 8,209.50)	40( 615.60)	183( 8,260.60)	95( 1,452.10)	1,673( 794,280.19)
近畿	192( 14,436.20)	59( 587.00)	60( 5,653.80)	99( 1,863.00)	202( 8,011.50)	24( 521.00)	71( 1,321.70)	107( 16,740.60)	814( 49,134.80)
中国	320( 10,587.20)	47( 5,028.20)	43( 917.30)	116( 4,016.60)	343( 6,505.00)	17( 59.50)	42( 784.30)	107( 1,603.70)	1,035( 29,501.80)
四国	122( 13,477.20)	34( 715.20)	17( 2,089.60)	59( 7,282.60)	50( 1,077.80)	7( 162.00)	14( 47.50)	26( 155.80)	329( 24,987.70)
九州	273( 54,761.30)	195( 27,605.80)	115( 13,103.90)	158( 8,036.40)	125( 14,800.20)	24( 3,117.60)	82( 1,995.30)	87( 6,677.30)	1,059( 130,097.80)
沖縄	11( 4,448.00)	34( 1,988.00)	21( 342.10)	62( 809.60)	51( 572.10)	5( 31.80)	15( 82.70)	72( 3,049.40)	271( 11,323.70)
合計	1,965(745,202.81)	643(220,640.80)	611(206,844.50)	1,298(475,643.84)	1,308(104,427.46)	177( 10,516.30)	525( 31,360.59)	653( 92,902.70)	7,180(1,887,539.00)

表5.3-3 都道府県別選定基準別の件数及び面積

選定基準 県名	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
北海道	72. 121535.41	12. 5827.80	11. 26416.30	98. 214515.81	46. 24019.00	0. 0.00	25. 15570.50	21. 26803.10	285. 434687.91
青森	26. 7817.20	13. 49.70	40. 1761.90	60. 7062.30	24. 33149.00	5. 16.70	14. 69.20	22. 317.10	204. 50243.10
岩手	21. 27020.00	9. 1811.10	21. 1840.10	36. 4726.80	6. 143.00	3. 60.50	3. 4.20	6. 417.80	105. 36023.50
宮城	55. 31468.40	2. 5.50	25. 159.70	55. 2846.60	32. 853.90	8. 1603.00	5. 1956.00	19. 29173.80	201. 68066.93
秋田	79. 38806.30	6. 1004.70	12. 67.00	73. 12089.90	14. 980.30	5. 222.50	7. 43.70	17. 2541.20	213. 55755.61
山形	34. 123241.00	0. 0.00	6. 300.70	31. 4246.20	13. 361.60	3. 2251.00	0. 0.00	5. 72.10	92. 130472.61
福島	18. 2856.00	4. 154.60	18. 122.90	31. 637.80	4. 269.90	3. 10.90	13. 211.40	24. 1488.30	115. 5751.80

上段：件数，下段：面積（ha）

選定基準 県名	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
茨城	9. 2986.00	11. 2533.70	26. 2292.20	6. 416.80	33. 1955.80	8. 920.90	4. 43.00	2. 700.20	99. 11848.60
栃木	24. 1506.40	7. 24.40	8. 41.60	14. 408.50	7. 144.50	2. 1.50	6. 71.00	18. 570.00	86. 2767.90
群馬	46. 22639.50	31. 24.00	20. 15.10	44. 7529.00	10. 795.00	5. 92.10	23. 12.40	7. 52.50	186. 31159.60
埼玉	15. 88.30	3. 0.30	8. 6.70	19. 381.60	34. 84.00	0. 0.00	6. 49.80	9. 26.40	94. 637.10
千葉	23. 877.40	1. 2.00	7. 129.10	13. 192.50	32. 1057.60	5. 68.40	2. 5.10	3. 209.50	86. 2541.60
東京	54. 7030.70	9. 107.00	2. 480.90	20. 1399.00	10. 1299.20	12. 761.30	5. 633.70	1. 700.00	113. 12411.80
神奈川	48. 4114.80	8. 160.70	2. 0.70	26. 1080.20	25. 138.50	1. 0.00	5. 198.50	5. 151.70	120. 5845.10

上段：件数，下段：面積（ha）

選定基準 県名	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
新潟	59. 4932.50	12. 528.70	16. 120.20	35. 1063.60	19. 3435.70	7. 37.70	39. 3519.40	18. 37.10	205. 13674.90
富山	68. 236.80	18. 12.90	26. 15.60	58. 26.60	14. 51.40	2. 5.50	3. 2.50	13. 1.80	202. 353.10
石川	73. 2409.00	6. 4.80	17. 24.40	24. 1519.00	59. 775.40	0. 0.00	2. 5.00	7. 10.80	188. 4748.40
福井	62. 579.60	7. 6.30	5. 5.50	11. 83.50	5. 65.80	5. 207.10	3. 2.70	1. 0.50	99. 951.00
山梨	47. 6978.30	10. 182.00	15. 144.70	18. 173.00	9. 74.20	1. 14.40	9. 164.60	7. 28.20	116. 7759.40
長野	44. 232260.80	33. 171760.09	11. 149454.70	19. 190854.80	13. 1144.20	6. 30.90	17. 1283.80	9. 911.00	152. 747700.38
岐阜	74. 3011.00	31. 136.50	23. 90.80	57. 1141.60	39. 1259.20	4. 27.20	89. 3050.20	5. 52.20	322. 8768.70
静岡	58. 4522.80	23. 337.60	25. 1208.10	43. 1221.10	41. 1032.10	13. 139.20	21. 232.40	34. 409.50	258. 9102.80
愛知	38. 574.00	18. 42.40	11. 39.10	13. 39.80	48. 371.50	2. 153.60	0. 0.00	1. 1.00	131. 1221.40

上段：件数，下段：面積（ha）

選定基準 県名	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
三重	15.	9.	1.	18.	53.	9.	4.	21.	130.
滋賀	1006.10	61.00	2.00	1001.70	6569.80	64.80	95.70	5843.00	14644.09
京都	6.	31.	5.	30.	43.	6.	41.	41.	203.
大阪	783.40	410.00	5.90	347.30	251.80	199.90	583.20	501.60	3083.10
兵庫	30.	3.	12.	11.	32.	1.	5.	5.	99.
奈良	2484.50	0.00	0.20	60.50	489.00	5.00	0.20	2055.00	5094.40
和歌山	4.	0.	4.	0.	18.	0.	2.	3.	31.
	61.30	0.00	2.40	0.00	25.30	0.00	2.10	0.80	91.90
	85.	6.	15.	11.	3.	0.	0.	0.	120.
	1106.00	22.30	67.50	15.60	4.50	0.00	0.00	0.00	1215.90
	19.	4.	6.	7.	24.	4.	11.	28.	103.
	7629.00	58.20	5456.80	97.20	362.40	105.00	571.70	7747.70	22027.99
	33.	6.	17.	22.	29.	4.	8.	9.	128.
	1365.90	35.50	119.00	340.70	308.70	146.30	68.80	592.50	2977.40

上段：件数，下段：面積 (ha)

選定基準 県名	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
鳥取	42.	1.	3.	17.	25.	7.	5.	37.	137.
島根	1031.40	0.00	0.00	332.00	71.30	11.00	2.00	501.30	1949.00
岡山	116.	8.	11.	38.	89.	3.	9.	15.	289.
広島	1401.70	249.00	34.80	517.60	933.20	25.00	47.00	152.80	3361.10
山口	12.	3.	0.	9.	61.	1.	0.	0.	86.
徳島	585.20	9.70	0.00	43.40	360.60	5.00	0.00	0.00	1003.90
香川	35.	6.	5.	28.	54.	2.	4.	0.	134.
愛媛	6129.20	2616.80	126.50	2204.10	3098.90	8.00	28.90	0.00	14212.40
高知	115.	29.	24.	24.	114.	4.	24.	55.	389.
	1439.70	2152.70	756.00	919.50	2041.00	10.50	706.40	949.60	8975.40
	36.	6.	7.	15.	13.	0.	2.	5.	84.
	2224.60	378.50	31.00	165.30	24.50	0.00	2.00	26.00	2851.90
	6.	4.	1.	2.	20.	2.	2.	0.	37.
	141.40	22.20	1.00	22.00	139.50	9.00	26.30	0.00	361.40
	30.	9.	7.	18.	11.	4.	9.	20.	108.
	621.20	10.20	207.30	133.80	144.80	103.00	18.90	120.80	1360.00
	50.	15.	2.	24.	6.	1.	1.	1.	100.
	10490.00	304.30	1850.30	6941.50	769.00	50.00	0.30	9.00	20414.40

上段：件数，下段：面積 (ha)

選定基準 県名	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
福岡	20.	19.	8.	28.	48.	11.	15.	42.	191.
佐賀	1489.00	740.10	121.60	1287.00	2070.60	1456.30	970.90	1821.20	9956.70
長崎	23.	10.	7.	20.	4.	0.	16.	2.	82.
熊本	428.40	10.00	7.50	53.90	1290.30	0.00	15.50	1.00	1806.60
大分	47.	30.	16.	35.	3.	0.	5.	3.	139.
宮崎	1604.80	33.10	13.00	53.40	95.60	0.00	21.50	4.10	1825.50
鹿児島	32.	23.	19.	19.	12.	2.	11.	8.	126.
沖縄	8715.20	5834.90	36.80	2007.10	86.00	4.30	6.70	18.30	16709.29
	40.	7.	8.	8.	16.	2.	3.	1.	85.
	10804.50	168.50	4633.00	3400.70	9316.90	9.50	60.00	0.10	28393.20
	87.	94.	42.	31.	33.	3.	26.	26.	342.
	27537.90	19994.20	8012.70	570.60	1635.80	13.30	916.10	1975.60	60656.23
	24.	12.	15.	17.	9.	6.	6.	5.	94.
	4181.50	825.00	279.30	663.70	305.00	1634.20	4.60	2857.00	10750.30
	11.	34.	21.	62.	51.	5.	15.	72.	271.
	4448.00	1988.00	342.10	809.60	572.10	31.80	82.70	3049.40	11323.70
全国	1965.	643.	611.	1298.	1308.	177.	525.	653.	7180.
	745202.81	220640.80	206844.50	475643.84	104427.46	10516.30	31360.59	92902.70	1887546.00

上段：件数，下段：面積 (ha)

表5.3-4 選定基準別相観別の件数及び面積

選定基準 相観区分	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
植生一般	83. 348450.69	8. 159975.59	13. 168716.41	21. 212151.00	12. 8243.60	1. 700.00	3. 309.00	16. 41090.40	157. 939636.81
亜寒帯植生	18. 68776.30	7. 17636.90	3. 12802.00	54. 160671.80	3. 1198.00	0. 0.00	4. 2298.00	9. 15596.00	98. 278979.03
冷温帯植生	62. 72942.80	10. 6122.50	7. 3844.00	26. 12697.70	17. 2805.70	3. 651.20	10. 4705.00	14. 2754.90	149. 106523.79
暖温帯植生	72. 10671.80	18. 5199.10	26. 2452.70	30. 2896.90	89. 9497.70	19. 1217.60	9. 213.90	22. 6901.00	285. 39050.70
亜熱帯植生	3. 354.50	5. 78.50	2. 60.00	5. 67.20	2. 4.80	0. 0.00	1. 20.00	7. 530.50	25. 1115.50
亜寒帯常緑針葉高木林	77. 48854.30	5. 112.50	11. 1637.00	9. 3152.50	8. 1304.00	0. 0.00	4. 527.50	9. 470.00	123. 56057.80
冷温帯常緑針葉高木林	139. 24473.00	13. 953.60	22. 668.80	29. 1212.20	32. 1301.20	9. 66.80	28. 1005.80	36. 3458.60	308. 33140.00
暖温帯常緑針葉高木林	98. 6360.20	28. 3620.90	27. 257.80	29. 999.20	94. 2077.70	9. 216.00	19. 262.70	32. 712.20	336. 14506.71
亜熱帯常緑針葉高木林	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 25.00	1. 25.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 50.00
常緑針葉高木植林	4. 170.10	21. 43.10	17. 15.20	11. 723.10	25. 1108.40	66. 6963.60	10. 42.40	15. 119.50	169. 9185.40
夏緑針葉高木林	8. 1472.00	2. 2.00	2. 2.00	1. 0.10	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.00	2. 301.00	16. 1778.10
夏緑針葉植林	0. 0.00	0. 0.00	1. 5.00	1. 35.00	0. 0.00	4. 55.00	0. 0.00	0. 0.00	6. 95.00

上段：件数，下段：面積 (ha)

選定基準 相観区分	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
暖温帯常緑広葉高木林	808. 16747.10	84. 6784.90	86. 1086.00	31. 1247.70	671. 7083.50	21. 133.60	56. 368.20	89. 1533.20	1846. 34984.21
亜熱帯常緑広葉高木林	14. 4770.80	8. 1602.50	3. 9.10	16. 452.30	41. 382.10	0. 0.00	4. 42.00	36. 2255.40	122. 9514.20
常緑広葉高木植林	1. 2.50	1. 1.00	0. 0.00	1. 1.00	5. 11.30	9. 153.00	0. 0.00	3. 53.50	20. 222.30
亜寒帯夏緑広葉高木林	11. 7463.50	0. 0.00	3. 9.10	3. 69.50	0. 0.00	0. 0.00	1. 2.00	0. 0.00	18. 7544.10
冷温帯夏緑広葉高木林	427. 122042.80	35. 7062.40	54. 12239.80	51. 2876.20	137. 22403.40	10. 144.00	77. 8267.70	85. 2772.90	876. 177809.16
暖温帯夏緑広葉高木林	59. 601.40	29. 300.50	28. 151.10	17. 517.80	58. 1332.90	12. 48.30	34. 983.50	27. 94.30	264. 4029.80
亜熱帯夏緑広葉高木林	0. 0.00	2. 0.10	1. 0.10	0. 0.00	1. 110.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	4. 110.20
夏緑広葉高木植林	0. 0.00	1. 0.00	1. 0.00	0. 0.00	2. 10.30	5. 13.20	0. 0.00	0. 0.00	9. 23.50
亜寒帯常緑針葉低木林	6. 942.20	3. 804.00	2. 23.00	15. 749.70	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	4. 742.20	30. 3261.10
冷温帯常緑針葉低木林	1. 925.00	3. 5.60	2. 103.60	1. 0.80	1. 1.00	0. 0.00	1. 103.40	0. 0.00	9. 1139.40
暖温帯常緑針葉低木林	0. 0.00	15. 18.30	1. 0.40	18. 66.20	0. 0.00	0. 0.00	2. 1.10	0. 0.00	36. 86.00
亜熱帯常緑針葉低木林	1. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 0.30	0. 0.00	0. 0.00	2. 1.10	2. 1.00	7. 2.40

上段：件数，下段：面積 (ha)

選定基準 相観区分	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
冷温帯常緑広葉低木林	4. 320.10	2. 250.50	2. 22.00	5. 521.50	7. 929.90	0. 0.00	5. 192.90	3. 8.20	28. 2245.10
暖温帯常緑広葉低木林	23. 456.80	8. 17.00	17. 55.70	25. 333.50	13. 1378.50	1. 0.20	11. 56.60	14. 51.50	112. 2349.80
亜熱帯常緑広葉低木林	0. 0.00	7. 128.90	3. 16.40	12. 71.60	1. 4.00	1. 1.00	1. 0.10	8. 365.00	33. 587.00
亜寒帯夏緑広葉低木林	13. 5581.70	6. 250.80	3. 3.20	12. 1518.90	1. 0.30	0. 0.00	5. 154.10	4. 81.10	44. 7590.10
冷温帯夏緑広葉低木林	12. 550.70	26. 637.50	7. 29.50	32. 858.00	13. 1013.50	1. 25.00	20. 373.50	17. 361.00	128. 3848.70
暖温帯夏緑広葉低木林	4. 1.00	28. 181.70	21. 89.50	40. 402.50	6. 79.00	0. 0.00	11. 7.00	12. 26.90	122. 787.60
冷温帯ササ原	2. 61.00	3. 590.10	0. 0.00	6. 74.50	2. 195.00	0. 0.00	3. 110.10	4. 143.10	20. 1173.80
暖温帯ササ原	0. 0.00	2. 0.20	1. 0.10	1. 100.00	1. 5.00	0. 0.00	3. 0.30	1. 0.10	9. 105.70
亜熱帯ササ原	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 90.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 90.00
亜寒帯広葉草原	1. 0.20	0. 0.00	2. 1.00	15. 50.70	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.00	19. 51.90
冷温帯広葉草原	0. 0.00	8. 146.70	6. 6.50	10. 72.00	2. 25.50	0. 0.00	4. 14.00	6. 100.50	36. 365.20

上段：件数，下段：面積 (ha)

選定基準 相観区分	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
暖温帯広葉草原	0. 0.00	0. 0.00	4. 10.00	2. 2.00	1. 1000.00	0. 0.00	1. 1.10	1. 0.00	9. 1013.10
冷温帯単子葉草本草原	0. 0.00	1. 30.00	3. 5.70	4. 117.00	5. 723.00	0. 0.00	5. 1890.00	1. 10.00	19. 2775.70
暖温帯単子葉草本草原	0. 0.00	6. 1526.60	10. 102.40	12. 222.90	8. 1625.30	0. 0.00	6. 1063.80	3. 73.00	45. 4614.00
亜熱帯単子葉草本草原	0. 0.00	2. 2.50	2. 10.50	1. 3.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	4. 20.00	9. 36.00
草本シダ群落	0. 0.00	11. 4.40	13. 8.80	10. 4.60	0. 0.00	0. 0.00	5. 0.50	5. 2.00	44. 20.30
岩上、多礫地草本植生	1. 5.00	46. 3143.10	20. 803.30	77. 3191.50	2. 550.00	0. 0.00	26. 1448.40	12. 236.50	184. 9377.80
タケ形林	0. 0.00	2. 1.30	0. 0.00	0. 0.00	2. 71.00	2. 6.00	0. 0.00	3. 0.60	9. 78.90
ヤシ形林	0. 0.00	7. 72.00	9. 64.30	8. 110.50	7. 62.50	0. 0.00	1. 6.00	6. 119.30	38. 434.60
マングローブ林	0. 0.00	5. 153.60	5. 223.00	12. 266.10	0. 0.00	0. 0.00	1. 2.00	2. 15.00	25. 659.70
ツル植物群落	0. 0.00	2. 0.10	0. 0.00	1. 5.00	1. 5.00	0. 0.00	1. 0.10	1. 0.10	6. 10.30
蘚苔類植物群落	0. 0.00	2. 146.10	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 146.10
浮葉・沈水植物群落	0. 0.00	6. 80.10	3. 69.00	36. 6713.00	2. 32.70	0. 0.00	9. 8.30	5. 42.80	61. 6945.90

上段：件数，下段：面積 (ha)

選定基準 相観区分	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
浮水植物群落	0. 0.00	1. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.10	0. 0.00	2. 0.10
流水岩上植物群落	0. 0.00	2. 0.80	1. 0.30	1. 0.30	0. 0.00	0. 0.00	6. 4.60	0. 0.00	10. 6.00
高山荒原植生	1. 0.00	13. 131.40	11. 0.20	33. 150.00	1. 0.50	0. 0.00	2. 1.20	0. 0.00	61. 283.30
雪田植生	1. 200.00	5. 3.00	2. 0.10	32. 1516.80	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.00	41. 1719.90
火山荒原植生	1. 60.00	2. 2038.00	1. 0.30	19. 8626.10	1. 60.00	0. 0.00	0. 0.00	5. 2528.10	29. 13312.50
湿地植生	3. 1590.00	40. 261.90	44. 274.50	290. 35628.72	8. 2611.00	0. 0.00	46. 6418.50	29. 571.30	460. 47355.93
河辺植生	0. 0.00	7. 108.80	1. 0.20	21. 2063.80	3. 84.50	0. 0.00	2. 88.00	3. 14.30	37. 2359.60
海浜植生	1. 61.50	23. 99.70	25. 139.30	156. 7595.60	9. 243.30	2. 115.10	32. 164.70	25. 407.30	273. 8826.50
亜寒帯ササ原	1. 35.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 4730.00	1. 4730.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 7850.00	4. 17345.00
亜寒帯単子葉草本草原	0. 0.00	1. 0.50	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 200.00	2. 200.50
個体(群)	4. 83.10	71. 309.70	83. 825.80	52. 80.90	11. 30007.30	2. 6.70	52. 200.40	66. 113.30	341. 31627.17
合計	1964. 745027.81	643. 220640.80	611. 206844.50	1298. 475643.84	1308. 104427.46	177. 10516.30	525. 31360.59	652. 92727.70	7178. 1887196.00

上段：件数，下段：面積 (ha)

表5.4-1 地方別面積区分別の件数

地方	- 1ha	-10	-50	-100	-500	-1000	-5000	-10000	10000ha以上	合 計
北海道	4 ( 1.8)	22 (10.0)	41 (18.6)	17 ( 7.7)	56 (25.5)	23 (10.5)	41 (18.6)	9 ( 4.1)	7 ( 3.2)	220
東北	134 (17.6)	221 (29.0)	170 (22.3)	46 ( 6.0)	106 (13.9)	34 ( 4.5)	37 ( 4.9)	8 ( 1.1)	5 ( 0.7)	761
関東	162 (27.1)	216 (36.2)	110 (18.4)	35 ( 5.9)	50 ( 8.4)	12 ( 2.0)	12 ( 2.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	597
中部	421 (38.3)	377 (34.3)	154 (14.0)	41 ( 3.7)	64 ( 5.8)	15 ( 1.4)	15 ( 1.5)	5 ( 0.5)	5 ( 0.5)	1098
近畿	243 (39.5)	210 (34.1)	94 (15.3)	33 ( 5.4)	30 ( 4.9)	2 ( 0.3)	2 ( 0.3)	2 ( 0.3)	0 ( 0.0)	616
中国	195 (29.7)	278 (42.4)	98 (14.9)	40 ( 6.1)	36 ( 5.5)	6 ( 0.9)	3 ( 1.1)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	656
四国	49 (18.2)	123 (45.7)	53 (19.7)	15 ( 5.6)	24 ( 8.9)	2 ( 0.7)	3 ( 1.1)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	269
九州	199 (28.5)	234 (33.5)	125 (17.9)	35 ( 5.0)	66 ( 9.4)	19 ( 2.7)	21 ( 3.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	699
沖縄	58 (35.2)	60 (36.4)	26 (15.8)	6 ( 3.6)	13 ( 7.9)	0 ( 0.0)	2 ( 1.2)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	165
合 計	1465 (28.8)	1741 (34.3)	871 (17.1)	268 ( 5.3)	445 ( 8.8)	113 ( 2.2)	137 ( 2.7)	24 ( 0.5)	17 ( 0.3)	5081

表5.4-2 都道府県別面積区分別の件数

県名	面積区分									合計
	1ha 未満	10ha 未満	50ha 未満	100ha 未満	500ha 未満	1000ha 未満	5000ha 未満	10000ha 未満	10000ha 以上	
北海道	4. 1.82	22. 10.00	41. 18.64	17. 7.73	56. 25.45	23. 10.45	41. 18.64	9. 4.09	7. 3.18	220.
青森	71. 44.65	33. 20.75	30. 18.87	8. 5.03	11. 6.92	1. 0.63	3. 1.89	1. 0.63	1. 0.63	159.
岩手	3. 3.33	19. 21.11	26. 28.89	6. 6.67	20. 22.22	5. 5.56	10. 11.11	1. 1.11	- -	90.
宮城	20. 14.29	53. 37.86	38. 27.14	7. 5.00	12. 8.57	5. 3.57	2. 1.43	2. 1.43	1. 0.71	140.
秋田	17. 10.06	50. 29.59	28. 16.57	12. 7.10	36. 21.30	16. 9.47	10. 5.92	- -	- -	169.
山形	6. 6.82	19. 21.59	13. 14.77	10. 11.36	17. 19.32	5. 5.68	11. 12.50	4. 4.55	3. 3.41	88.
福島	17. 14.78	47. 40.87	35. 30.43	3. 2.61	10. 8.70	2. 1.74	1. 0.87	- -	- -	115.
茨城	9. 14.29	20. 31.75	18. 28.57	5. 7.94	8. 12.70	1. 1.59	2. 3.17	- -	- -	63.
栃木	10. 16.39	30. 49.18	11. 18.03	4. 6.56	5. 8.20	1. 1.64	- -	- -	- -	61.
群馬	59. 40.41	35. 23.97	21. 14.38	8. 5.48	11. 7.53	5. 3.42	7. 4.79	- -	- -	146.
埼玉	18. 34.62	27. 51.92	6. 11.54	- -	1. 1.92	- -	- -	- -	- -	52.
千葉	13. 15.29	47. 55.29	12. 14.12	4. 4.71	9. 10.59	- -	- -	- -	- -	85.
東京	12. 13.19	37. 40.66	24. 26.37	6. 6.59	7. 7.69	3. 3.30	2. 2.20	- -	- -	91.
神奈川	41. 41.41	20. 20.20	18. 18.18	8. 8.08	9. 9.09	2. 2.02	1. 1.01	- -	- -	99.

上段：件数，下段：県合計に対する割合（％）

## 面積区分

県名	1ha 未満	10ha 未満	50ha 未満	100ha 未満	500ha 未満	1000ha 未満	5000ha 未満	10000ha 未満	10000ha 以上	合計
新潟	47. 35.34	46. 34.59	21. 15.79	8. 6.02	10. 7.52	- -	1. 0.75	- -	- -	133.
富山	103. 62.05	58. 34.94	4. 2.41	- -	1. 0.60	- -	- -	- -	- -	166.
石川	62. 55.36	31. 27.68	11. 9.82	- -	6. 5.36	2. 1.79	- -	- -	- -	112.
福井	36. 37.11	41. 42.27	15. 15.46	3. 3.09	2. 2.06	- -	- -	- -	- -	97.
山梨	39. 33.62	39. 33.62	21. 18.10	10. 8.62	4. 3.45	2. 1.72	1. 0.86	- -	- -	116.
長野	10. 11.24	18. 20.22	13. 14.61	4. 4.49	15. 16.85	6. 6.74	13. 14.61	5. 5.62	5. 5.62	89.
岐阜	48. 40.68	34. 28.81	15. 12.71	10. 8.47	10. 8.47	1. 0.85	- -	- -	- -	118.
静岡	59. 32.78	61. 33.89	35. 19.44	6. 3.33	14. 7.78	4. 2.22	1. 0.56	- -	- -	180.
愛知	17. 19.54	49. 56.32	19. 21.84	- -	2. 2.30	- -	- -	- -	- -	87.
三重	35. 34.65	32. 31.68	15. 14.85	6. 5.94	12. 11.88	- -	- -	1. 0.99	- -	101.
滋賀	76. 49.67	39. 25.49	27. 17.65	6. 3.92	4. 2.61	1. 0.65	- -	- -	- -	153.
京都	22. 26.51	39. 46.99	17. 20.48	3. 3.61	1. 1.20	- -	1. 1.20	- -	- -	83.
大阪	15. 48.39	14. 45.16	2. 6.45	- -	- -	- -	- -	- -	- -	31.
兵庫	56. 54.37	34. 33.01	8. 7.77	2. 1.94	3. 2.91	- -	- -	- -	- -	103.
奈良	13. 32.50	11. 27.50	7. 17.50	2. 5.00	4. 10.00	1. 2.50	1. 2.50	1. 2.50	- -	40.
和歌山	26. 24.76	41. 39.05	18. 17.14	14. 13.33	6. 5.71	- -	- -	- -	- -	105.

上段：件数，下段：県合計に対する割合（％）

## 面積区分

県名	1ha 未満	10ha 未満	50ha 未満	100ha 未満	500ha 未満	1000ha 未満	5000ha 未満	10000ha 未満	10000ha 以上	合計
鳥取	35. 47.30	28. 37.84	6. 8.11	1. 1.35	3. 4.05	1. 1.35	- -	- -	- -	74.
島根	39. 21.67	101. 56.11	24. 13.33	11. 6.11	5. 2.78	- -	- -	- -	- -	180.
岡山	17. 20.73	48. 58.54	11. 13.41	4. 4.88	2. 2.44	- -	- -	- -	- -	82.
広島	30. 24.19	30. 24.19	17. 13.71	20. 16.13	23. 18.55	2. 1.61	2. 1.61	- -	- -	124.
山口	74. 37.76	71. 36.22	40. 20.41	4. 2.04	3. 1.53	3. 1.53	1. 0.51	- -	- -	196.
徳島	16. 19.05	40. 47.62	19. 22.62	2. 2.38	6. 7.14	1. 1.19	- -	- -	- -	84.
香川	10. 29.41	18. 52.94	5. 14.71	- -	1. 2.94	- -	- -	- -	- -	34.
愛媛	21. 28.77	37. 50.68	8. 10.96	5. 6.85	2. 2.74	- -	- -	- -	- -	73.
高知	2. 2.56	28. 35.90	21. 26.92	8. 10.26	15. 19.23	1. 1.28	3. 3.85	- -	- -	78.
福岡	25. 23.58	45. 42.45	21. 19.81	5. 4.72	8. 7.55	2. 1.89	- -	- -	- -	106.
佐賀	25. 38.46	24. 36.92	13. 20.00	- -	2. 3.08	- -	1. 1.54	- -	- -	65.
長崎	37. 35.92	44. 42.72	14. 13.59	5. 4.85	3. 2.91	- -	- -	- -	- -	103.
熊本	43. 46.24	21. 22.58	14. 15.05	5. 5.38	3. 3.23	3. 3.23	4. 4.30	- -	- -	93.
大分	10. 13.70	28. 38.36	18. 24.66	1. 1.37	11. 15.07	1. 1.37	4. 5.48	- -	- -	73.
宮崎	46. 27.88	42. 25.45	21. 12.73	11. 6.67	27. 16.36	9. 5.45	9. 5.45	- -	- -	165.
鹿児島	13. 13.83	30. 31.91	24. 25.53	8. 8.51	12. 12.77	4. 4.26	3. 3.19	- -	- -	94.
沖縄	58. 35.15	60. 36.36	26. 15.76	6. 3.64	13. 7.88	- -	2. 1.21	- -	- -	165.
合計	1465. 28.83	1741. 34.26	871. 17.14	268. 5.27	445. 8.76	113. 2.22	137. 2.70	24. 0.47	17. 0.33	5081.

上段：件数，下段：県合計に対する割合（％）

表5.5-1 都道府県別標高区分別の件数及び面積

県名	～200m	～400m	～600m	～800m	～1000m	～1200m	～1400m	～1600m	～1800m	～2000m	～2200m	～2400m	～2600m	～2800m	～3000m	3000m～	合計
北海道	99. 55891.90	29. 20094.90	19. 7664.80	13. 13148.60	14. 12332.60	18. 74178.00	12. 50158.30	7. 7430.00	5. 16013.00	2. 10900.00	1. 70000.00	1. 36500.00	-	-	-	-	220. 374312.09
青森	71. 6893.40	28. 30926.70	15. 417.50	13. 3394.80	6. 98.50	8. 309.60	8. 3005.90	9. 434.50	1. 82.50	-	-	-	-	-	-	-	159. 45563.40
岩手	15. 242.20	13. 1066.50	7. 565.00	12. 1631.00	10. 512.00	10. 9522.00	9. 4057.00	9. 12150.00	2. 1170.00	1. 1300.00	2. 1208.80	-	-	-	-	-	90. 33424.50
宮城	59. 4746.10	28. 1308.80	28. 1644.80	10. 1486.20	5. 125.00	4. 262.50	2. 596.00	2. 8502.00	1. 6500.00	1. 12900.00	-	-	-	-	-	-	140. 38071.41
秋田	43. 932.60	25. 1226.70	23. 1817.30	18. 4963.10	17. 2981.20	25. 17757.20	9. 2724.00	5. 4640.00	3. 5584.00	1. 1440.00	-	-	-	-	-	-	169. 44066.11
山形	15. 2486.90	14. 429.10	10. 1907.30	4. 22.40	2. 4865.00	6. 11674.00	8. 11346.50	7. 18743.00	6. 5991.00	10. 56140.50	5. 17084.70	1. 159.80	-	-	-	-	88. 130249.61
福島	15. 62.60	16. 204.80	20. 1227.50	13. 1323.80	13. 631.80	8. 490.40	4. 1197.30	7. 293.50	8. 113.10	10. 169.00	-	1. 38.00	-	-	-	-	115. 5751.80
茨城	43. 2152.30	8. 407.70	5. 1731.50	5. 493.00	2. 720.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	63. 5504.50
栃木	10. 48.40	8. 34.10	9. 49.80	4. 38.50	3. 40.00	5. 837.30	3. 329.00	6. 87.00	3. 137.00	3. 277.00	3. 133.00	2. 124.50	2. 7.00	-	-	-	61. 2142.60
群馬	15. 57.80	12. 61.70	6. 15.10	9. 124.10	11. 2522.70	12. 1197.30	15. 1460.70	23. 3750.90	17. 9776.50	11. 5494.80	11. 572.00	3. 150.00	1. 850.00	-	-	-	146. 26033.60
埼玉	23. 46.90	6. 16.00	5. 7.80	2. 2.30	2. 17.00	2. 48.00	2. 296.00	4. 8.10	3. 6.60	2. 3.10	1. 10.00	-	-	-	-	-	52. 461.80
千葉	72. 1114.60	13. 1423.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	85. 2538.10
東京	60. 1419.80	7. 131.10	9. 1941.20	4. 1345.00	6. 182.00	1. 700.00	-	2. 180.00	1. 4000.00	-	1. 150.00	-	-	-	-	-	91. 10049.10
神奈川	45. 1103.10	8. 33.40	5. 105.30	10. 300.30	5. 138.80	6. 439.70	10. 836.30	10. 2505.00	-	-	-	-	-	-	-	-	99. 5461.90

上段：件数，下段：面積 (ha)

県名	～200m	～400m	～600m	～800m	～1000m	～1200m	～1400m	～1600m	～1800m	～2000m	～2200m	～2400m	～2600m	～2800m	～3000m	3000m～	合計
新潟	72. 739.70	13. 56.30	13. 263.50	8. 380.50	6. 411.70	3. 457.00	4. 430.00	5. 3280.00	3. 225.60	- -	4. 121.50	2. 8.50	- -	- -	- -	- -	133. 6374.30
富山	36. 37.80	16. 19.00	7. 11.30	13. 9.50	10. 22.50	7. 33.30	9. 112.20	8. 13.00	5. 18.20	4. 1.20	10. 14.20	9. 11.30	9. 0.40	11. 0.40	12. 0.10	- -	166. 304.40
石川	76. 82.50	6. 11.60	9. 24.20	1. 25.00	2. 1.50	2. 140.00	1. 0.10	6. 625.10	4. 785.00	- -	2. 33.00	1. 870.00	1. 450.00	1. 35.00	- -	- -	112. 3083.00
福井	30. 119.00	10. 262.60	11. 92.20	12. 37.00	10. 52.70	8. 156.80	9. 219.60	4. 2.60	2. 1.50	1. 5.00	- -	- -	- -	- -	- -	- -	97. 949.00
山梨	3. 1.10	14. 11.00	10. 7.10	5. 4.40	12. 102.30	7. 4873.00	12. 151.80	10. 300.60	9. 235.50	7. 18.10	9. 728.60	5. 245.70	2. 51.00	5. 697.60	4. 181.60	2. 150.00	116. 7759.40
長野	- -	1. 1.70	- -	7. 1272.30	9. 365.70	9. 560.60	13. 1895.50	8. 4220.80	9. 1906.00	7. 1921.70	13. 23660.00	5. 20700.00	3. 9200.00	- -	2. 32000.00	3. 139550.00	89. 237254.30
岐阜	15. 4.20	24. 324.00	7. 79.50	10. 73.60	9. 275.70	12. 925.60	14. 251.90	4. 322.70	6. 333.00	3. 152.00	3. 8.50	1. 400.00	3. 170.00	4. 61.20	3. 8.20	- -	118. 3390.10
静岡	62. 690.90	16. 145.60	16. 172.30	11. 428.60	14. 181.00	11. 38.20	4. 6.00	11. 966.90	6. 1069.40	4. 189.70	5. 435.50	2. 52.00	5. 1146.80	3. 27.30	5. 570.30	5. 881.80	180. 7002.30
愛知	51. 207.20	12. 65.10	5. 11.20	11. 222.50	3. 5.30	2. 155.00	2. 33.00	1. 15.00	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	87. 714.30

上段：件数，下段：面積 (ha)

県名	～200m	～400m	～600m	～800m	～1000m	～1200m	～1400m	～1600m	～1800m	～2000m	～2200m	～2400m	～2600m	～2800m	～3000m	3000m～	合計
三重	62. 459.40	10. 472.50	6. 6047.50	4. 20.50	9. 607.60	4. 326.00	4. 615.00	1. 200.00	1. 3.00	-	-	-	-	-	-	-	101. 8751.50
滋賀	67. 285.20	19. 241.40	20. 72.90	15. 286.90	12. 317.90	12. 942.50	8. 337.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	153. 2484.30
京都	41. 307.70	15. 51.20	7. 187.00	14. 138.00	6. 2149.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	83. 2832.90
大阪	21. 61.30	5. 9.20	4. 19.90	-	1. 1.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	91. 91.90
兵庫	47. 68.40	21. 100.70	15. 39.60	7. 301.10	8. 84.20	1. 225.00	1. 5.00	3. 300.90	-	-	-	-	-	-	-	-	103. 1124.90
奈良	3. 2.60	9. 143.40	9. 133.80	2. 22.80	7. 143.60	3. 47.00	4. 610.00	-	1. 1321.60	2. 5450.00	-	-	-	-	-	-	40. 7874.80
和歌山	52. 385.10	9. 156.20	10. 199.80	10. 170.10	13. 839.70	7. 292.50	4. 475.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	105. 2519.20
鳥取	23. 202.80	14. 104.40	11. 24.40	5. 3.00	4. -	4. 50.00	7. 940.00	4. -	2. -	-	-	-	-	-	-	-	74. 1324.60
島根	133. 950.30	17. 116.50	17. 348.00	4. 175.00	3. 286.00	3. 185.00	3. 222.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	180. 2282.80
岡山	22. 26.20	26. 207.00	16. 102.10	5. 21.70	4. 21.00	7. 207.00	2. 360.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	82. 945.00
広島	34. 1068.70	19. 182.10	23. 5374.00	21. 1806.30	15. 2584.90	6. 537.50	6. 736.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	124. 12289.50
山口	117. 662.30	47. 2501.50	10. 108.40	9. 123.50	6. 89.10	4. 52.50	3. 1000.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	196. 4537.80

上段：件数，下段：面積 (ha)

県名	～200m	～400m	～600m	～800m	～1000m	～1200m	～1400m	～1600m	～1800m	～2000m	～2200m	～2400m	～2600m	～2800m	～3000m	3000m～	合計
徳島	37. 146.40	7. 9.30	9. 89.10	4. 25.00	5. 89.90	7. 62.50	3. 172.00	5. 157.70	4. 780.00	3. 1320.00	-	-	-	-	-	-	84. 2851.90
香川	19. 147.90	7. 149.90	4. 7.60	-	3. 9.00	-	-	1. 5.00	-	-	-	-	-	-	-	-	34. 319.40
愛媛	26. 138.60	8. 9.40	4. 8.50	2. 27.00	2. 6.30	6. 51.10	6. 182.70	4. 167.00	11. 268.60	4. 52.50	-	-	-	-	-	-	73. 911.70
高知	28. 402.30	7. 545.00	9. 90.00	7. 209.00	5. 232.00	8. 800.00	5. 771.50	5. 1798.00	1. 150.00	3. 6100.00	-	-	-	-	-	-	78. 11097.80
福岡	54. 1265.00	19. 400.20	14. 140.30	6. 392.50	9. 500.80	2. 411.00	2. 625.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	106. 3734.80
佐賀	31. 1376.60	6. 20.30	11. 36.40	6. 61.60	7. 225.80	4. 67.30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	65. 1788.00
長崎	69. 339.20	11. 185.80	12. 608.10	1. 0.50	4. 32.10	3. 96.10	3. 503.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	103. 1764.80
熊本	35. 49.40	11. 86.10	12. 124.70	8. 62.30	14. 347.40	5. 549.00	2. 2150.00	2. 700.00	4. 6800.00	-	-	-	-	-	-	-	93. 10868.90
大分	28. 1121.50	9. 1943.90	8. 670.60	14. 567.90	6. 410.80	-	3. 694.00	3. 1779.00	2. 7703.00	-	-	-	-	-	-	-	73. 14890.70
宮崎	60. 704.00	16. 330.60	16. 2350.80	15. 1975.70	16. 3350.40	12. 4267.20	14. 1386.90	8. 5411.50	8. 10619.00	-	-	-	-	-	-	-	165. 30396.10
鹿児島	46. 2339.40	13. 1180.50	9. 2746.20	7. 614.00	4. 2059.00	6. 544.00	4. 665.00	1. 100.00	3. 252.20	1. 250.00	-	-	-	-	-	-	94. 10750.30
沖縄	144. 1287.30	14. 2374.50	7. 2810.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	165. 6471.80
合計	2129. 92878.20	666. 69783.55	502. 42095.89	361. 37730.89	334. 40973.00	270. 134468.70	234. 91559.02	185. 79089.81	131. 81245.32	80. 104084.61	70. 114159.80	33. 59259.80	26. 11875.20	24. 821.50	26. 32760.20	10. 140581.80	5081. 1133371.75

上段：件数，下段：面積 (ha)

表5.5-2 選定基準別標高区分別の件数及び面積

選定基準	～200m	～400m	～600m	～800m	～1000m	～1200m	～1400m	～1600m	～1800m	～2000m	～2200m	～2400m	～2600m	～2800m	～3000m	3000m～	合計
A	683. 19891.70	234. 14863.90	187. 23332.40	160. 23896.00	154. 33498.00	161. 101448.40	129. 64773.00	96. 67340.01	61. 57140.90	32. 92729.91	40. 40814.10	12. 22283.20	7. 10525.00	2. 615.60	4. 32500.00	3. 139550.00	1965. 745202.81
B	226. 4431.20	89. 2184.50	63. 7051.30	45. 3107.00	47. 4059.00	33. 5073.40	34. 4018.80	33. 5335.20	23. 11876.90	13. 3115.30	8. 1069.50	5. 7100.50	3. 0.00	8. 61.20	9. 32030.20	4. 130127.00	643. 220640.80
C	285. 5790.00	86. 1419.00	64. 1319.20	39. 3566.00	29. 842.50	17. 23060.30	27. 3354.90	18. 1863.40	13. 10002.90	6. 7302.70	9. 5207.60	1. 0.00	6. 1116.00	4. 0.20	5. 12000.00	2. 130000.00	611. 206844.50
D	537. 61080.95	124. 6266.00	122. 8749.10	78. 3183.10	69. 1998.30	57. 9135.10	59. 18300.30	61. 10623.20	49. 26583.00	39. 27381.40	21. 78212.10	17. 48724.60	17. 2609.20	19. 205.90	20. 32110.20	9. 140481.80	1298. 475643.84
E	794. 57599.24	211. 8911.90	114. 9301.40	67. 6873.80	51. 6065.00	28. 3363.10	14. 603.80	13. 5693.80	11. 5964.90	1. 30.00	3. 20.50	1. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1308. 104427.46
F	95. 7654.20	24. 292.70	25. 273.60	11. 649.20	13. 924.10	3. 6.00	4. 674.50	1. 2.00	1. 40.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	177. 10516.30
G	197. 13900.69	68. 1600.60	50. 629.10	43. 2341.50	43. 1460.80	42. 2081.50	27. 2168.80	20. 3685.40	11. 1368.10	11. 362.90	8. 1109.50	3. 501.50	0. 0.00	1. 0.20	1. 150.00	0. 0.00	525. 31360.59
H	249. 3190.10	104. 11879.40	81. 10971.00	53. 3545.00	51. 4970.90	36. 2570.10	30. 18788.50	14. 8799.40	18. 9285.30	9. 18606.10	3. 278.80	3. 3.00	2. 15.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	653. 92902.70
合計	3066. 173536.97	940. 47418.02	706. 61627.11	496. 47161.62	457. 53818.62	377. 146737.86	324. 112682.62	256. 103342.41	187. 122262.03	111. 149528.33	92. 126712.10	42. 78612.80	35. 14265.20	34. 883.10	39. 108790.41	18. 540158.81	7180. 1887546.00

上段：件数，下段：面積（ha）

- 選定基準
- A 原生林もしくはそれに近い自然林
  - B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
  - C 比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地にみられる植物群落または個体群
  - D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
  - E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
  - F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
  - G 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
  - H その他学術上重要な植物群落または個体群

表5.6-1 立地区分別の件数及び面積

立地区分	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)	1件当たりの面積(ha)
一般(気候立地)	2630.	51.76	896200.75	79.07	340.8
急崖地, 岩壁	142.	2.79	4220.10	0.37	29.7
岩角地	151.	2.97	5451.50	0.48	36.1
岩礫地	111.	2.18	12832.70	1.13	115.6
崩壊地	15.	0.30	1515.70	0.13	101.0
砂浜, 礫浜	127.	2.50	12643.80	1.12	99.6
河口	38.	0.75	680.00	0.06	17.9
河辺	96.	1.89	3882.50	0.34	40.4
溪畔斜面	270.	5.31	60751.13	5.36	225.0
流水, 水中	39.	0.77	183.10	0.02	4.7
湿地, 湧水地	397.	7.81	43516.84	3.84	109.6
塩湿地	37.	0.73	414.80	0.04	11.2
池塘	62.	1.22	1567.10	0.14	25.3
雪田・雪の吹き溜り	48.	0.94	1762.00	0.16	36.7
風衝地	174.	3.42	22693.00	2.00	130.4
海岸付近	477.	9.39	21006.60	1.85	44.0
硫気孔, 噴気孔原	18.	0.35	2331.00	0.21	129.5
火山噴出物堆積地	54.	1.06	22342.70	1.97	413.8
石灰岩地	123.	2.42	6916.30	0.61	56.2
蛇紋岩地	33.	0.65	12147.30	1.07	368.1
隆起サンゴ礁	22.	0.43	270.90	0.02	12.3
風穴付近	17.	0.33	39.30	0.00	2.3
合計	5081.	100.00	1133371.75	100.00	223.1

表5.6-2 都道府県別立地区別の件数及び面積

立地区分	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
一般(気候 立地)	97. 284745.4	41. 5744.8	40. 23896.5	62. 32823.5	76. 37637.0	42. 121422.0	54. 4754.9	44. 3361.5	38. 1525.1	43. 16452.3	28. 118.6	59. 1872.3
急崖地, 岩 壁	- -	9. 81.4	1. 0.1	6. 245.3	13. 1498.2	2. 111.3	2. 46.0	3. 266.0	- -	19. 35.8	2. 3.8	2. 22.0
岩角地	1. 74.0	8. 167.4	3. 324.0	4. 79.3	4. 261.0	- -	2. 40.9	3. 301.5	3. 9.0	7. 58.5	6. 309.0	- -
岩礫地	4. 2367.0	3. 0.2	3. 1020.0	4. 10.3	5. 381.0	1. 1030.0	4. 9.5	- -	2. 11.5	3. 425.9	5. 6.6	1. 80.0
崩壊地	1. 1330.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	2. 2.5	- -	- -
砂浜, 礫浜	12. 4356.5	5. 109.1	1. 0.1	2. 1290.0	4. 186.5	1. 2160.0	2. 5.5	3. 1182.0	- -	- -	- -	7. 99.1
河口	1. 8.0	1. 1.0	- -	5. 236.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1. 17.5
河辺	4. 214.3	3. 36.3	- -	11. 1220.6	5. 156.0	2. 350.0	1. 5.0	- -	- -	3. 300.0	- -	- -
溪畔斜面	7. 17422.0	8. 30140.6	3. 74.0	6. 57.6	11. 1854.1	5. 208.0	9. 82.1	- -	4. 22.0	11. 292.3	- -	1. 350.0
流水, 水中	- -	- -	- -	2. 4.5	3. 20.6	- -	- -	- -	- -	5. 35.1	- -	- -
湿地, 湧水 地	27. 31200.4	22. 8037.0	16. 367.0	7. 39.5	24. 804.1	12. 289.2	21. 442.0	4. 145.0	6. 277.0	19. 704.9	- -	4. 27.4
塩湿地	5. 148.0	3. 50.0	- -	2. 21.5	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1. 43.0
池塘	1. 1.0	2. 78.0	- -	2. 565.0	5. 43.2	1. 2.0	3. 166.7	1. 231.5	1. 17.0	4. 1.6	- -	1. 4.0
雪田・雪の 吹き溜り	- -	4. 200.3	- -	- -	1. 2.0	10. 1228.2	4. 74.7	- -	1. 120.0	6. 7.5	- -	- -
風衝地	1. 4730.0	19. 709.0	3. 1870.0	- -	3. 786.5	3. 2925.0	8. 113.0	- -	6. 161.0	6. 4296.0	- -	- -
海岸付近	44. 12832.5	23. 164.1	8. 327.0	21. 1337.3	7. 414.3	5. 233.0	2. 2.5	4. 5.0	- -	- -	- -	8. 22.8
硫気孔, 噴 気孔原	2. 115.4	4. 40.1	1. -	3. 122.0	1. 12.0	- -	- -	- -	- -	1. 0.1	- -	- -
火山噴出物 堆積地	7. 8256.0	1. -	2. 163.8	1. 2.0	- -	2. 289.8	- -	- -	- -	10. 3163.1	- -	- -
石灰岩地	1. 300.0	2. 3.5	5. 277.0	- -	- -	- -	1. 5.0	1. 12.0	- -	3. 66.0	11. 23.8	- -
蛇紋岩地	5. 6211.6	- -	3. 5100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	4. 192.0	- -	- -
風穴付近	- -	1. 0.6	1. 5.0	2. 17.0	7. 9.6	2. 1.1	2. 4.0	- -	- -	- -	- -	- -
合計	220. 374312.09	159. 45563.4	90. 33424.5	140. 38071.4	169. 44066.1	88. 130249.61	115. 5751.8	63. 5504.5	61. 2142.6	146. 26033.6	52. 461.8	85. 2538.1

上段：件数，下段：面積 (ha)

立地区分	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重
一般(氣候49.立地)	8258.7	4046.3	4976.2	222.0	1461.1	822.5	2335.8	233648.3	1731.2	4307.8	455.5	7181.1
急崖地, 岩壁	1.44.3	2.0.7	3.8.3	7.4.1	2.1.0	-	9.7.2	2.1020.0	4.3.6	5.2.5	1.0.1	5.506.0
岩角地	2.1.3	2.100.0	3.408.0	7.1.3	4.120.6	2.0.2	3.70.2	2.501.0	3.226.5	6.470.3	2.5.1	2.27.0
岩礫地	1.1.0	1.21.3	3.70.6	6.1.2	-	1.0.5	7.20.1	-	9.987.6	11.638.8	6.148.5	2.0.2
崩壊地	-	2.22.9	1.3.0	4.0.1	-	-	1.3.0	-	1.1.0	1.150.0	-	-
砂浜, 礫浜	1.1.6	2.9.9	6.236.7	2.10.0	7.25.6	1.50.0	-	-	-	3.41.0	1.1.0	4.27.5
河口	-	1.0.2	-	-	-	-	-	-	-	1.0.1	1.0.3	1.2.0
河辺	10.264.5	3.900.0	2.5.0	7.10.3	-	-	7.21.4	-	4.1.1	3.3.1	-	-
深畔斜面	8.69.2	9.28.8	8.40.9	7.3.7	2.65.0	3.24.0	7.46.1	4.432.0	5.35.6	16.48.4	2.10.1	5.100.0
流水, 水中	-	-	4.93.3	-	-	1.0.0	3.2.0	-	-	3.5.1	-	-
湿地, 湧水地	5.6.5	3.12.1	12.87.9	21.31.3	8.2.9	6.5.6	4.2.8	11.251.3	23.86.7	2.13.3	12.17.8	7.50.2
塩湿地	1.36.4	-	1.0.0	-	1.2.0	-	-	-	-	1.0.5	-	-
池塘	-	-	6.208.7	4.0.0	-	1.2.0	-	-	-	4.25.8	1.20.0	1.10.0
雪田・雪の吹き溜り	-	-	3.21.5	11.0.8	2.33.0	-	1.1.0	-	5.73.0	-	-	-
風衝地	3.143.5	5.220.3	4.143.5	24.19.4	3.1355.0	6.13.5	11.414.5	2.300.0	11.242.8	4.306.5	-	3.277.0
海岸付近	3.67.6	8.99.1	13.68.7	2.0.1	9.16.8	7.30.7	-	-	-	14.202.4	9.29.6	10.330.0
硫気孔, 噴気孔原	-	1.0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
火山噴出物堆積地	6.1054.5	-	-	-	-	-	3.4835.0	-	-	7.681.6	-	-
石灰岩地	1.100.0	-	1.1.0	1.0.0	-	-	1.0.3	5.1101.7	1.1.0	1.0.1	1.3.0	2.240.5
蛇紋岩地	-	-	-	3.0.1	-	-	-	-	-	1.105.0	2.23.3	-
風穴付近	-	-	1.1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	91.10049.1	99.5461.9	133.6374.3	166.304.4	112.3083.0	97.949.0	116.7759.4	89.237254.3	118.3390.1	180.7002.3	87.714.3	101.8751.5

上段：件数，下段：面積（ha）

立地区分	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島
一般(氣候 立地)	79. 1594.3	47. 2682.0	24. 35.5	72. 750.0	38. 7853.1	63. 1977.4	44. 981.2	115. 1154.8	65. 812.4	65. 6454.0	113. 1731.5	48. 2260.5
急崖地, 岩 壁	3. 4.4	2. -	- -	1. 1.0	- -	3. 27.3	2. 3.0	10. 8.5	- -	- -	2. 25.0	- -
岩角地	1. 12.5	3. 10.0	- -	2. 9.1	1. 21.7	2. 2.1	4. 7.4	6. 230.0	- -	4. 365.1	11. 138.0	1. 0.1
岩隙地	2. 39.0	1. 4.0	- -	2. 0.7	- -	- -	1. 0.0	- -	1. 1.0	4. 306.0	1. 0.1	1. 1.0
崩塌地	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1. 3.0	- -	- -	1. 0.2	- -
砂浜, 礫浜	4. 9.3	5. 11.0	- -	1. 2.0	- -	5. 88.1	1. 180.0	4. 93.5	- -	1. 2.0	2. 0.3	- -
河口	- -	- -	- -	1. 0.0	- -	3. 4.8	- -	- -	- -	- -	- -	2. 15.8
河辺	7. 5.8	5. 31.2	- -	1. 27.0	- -	1. 0.0	3. 10.0	4. 119.5	- -	1. 52.0	- -	- -
溪畔斜面	14. 142.6	4. 14.0	5. 56.0	7. 310.0	- -	4. 80.0	7. 8.0	4. 228.0	3. 85.0	18. 3080.7	9. 818.6	5. 30.0
流水, 水中	- -	5. 11.5	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
湿地, 湧水地	27. 186.1	4. 13.0	- -	8. 4.8	1. 0.0	3. 1.7	2. 2.0	4. 4.6	7. 8.4	11. 169.0	10. 60.3	4. 28.4
塩湿地	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	2. 62.7	1. 0.5	- -
池塘	2. 32.0	1. 0.2	- -	1. 0.0	- -	3. 18.1	- -	1. 0.2	- -	2. 12.8	2. 0.7	3. 12.2
風衝地	6. 204.8	1. 5.0	- -	1. 0.8	- -	- -	7. 82.0	- -	- -	1. 3.5	2. 8.0	3. 365.0
海岸付近	- -	4. 51.0	2. 0.4	6. 19.5	- -	14. 198.1	3. 51.0	31. 440.7	3. 2.2	10. 57.2	32. 363.6	10. 26.9
石灰岩地	8. 253.5	- -	- -	- -	- -	2. 1.6	- -	- -	2. 16.0	4. 1664.5	9. 1390.0	6. 92.0
蛇紋岩地	- -	1. 0.0	- -	- -	- -	2. 120.0	- -	- -	1. 20.0	1. 60.0	- -	1. 20.0
風穴付近	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1. 1.0	- -
合計	153. 2484.3	83. 2832.9	31. 91.9	103. 1124.9	40. 7874.8	105. 2519.2	74. 1324.6	180. 2282.8	82. 945.0	124. 12289.5	196. 4537.8	84. 2851.9

上段：件数，下段：面積 (ha)

立地区分	香 川	愛 媛	高 知	福 岡	佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿 児 島	沖 縄
一般（気候）	19. 205.5	31. 517.7	43. 9637.8	60. 2034.3	28. 380.4	39. 1384.0	48. 8580.8	38. 10497.0	91. 24119.1	36. 3183.7	47. 3571.3
急崖地，岩	1. 5.0	3. 1.4	- -	1. 3.0	3. 8.1	1. 10.0	- -	4. 175.6	2. 4.0	- -	4. 36.1
岩角地	1. 2.0	8. 253.5	- -	3. 0.6	- -	14. 33.0	- -	3. 492.8	3. 85.2	- -	5. 232.3
岩礫地	1. 5.0	1. 1.0	- -	1. 2.0	5. 14.0	3. 148.1	- -	1. 8.0	2. 3845.0	2. 1226.0	- -
砂浜，礫浜	4. 29.5	2. 4.5	1. 50.0	7. 219.6	7. 307.5	4. 15.2	1. 0.0	2. 90.5	- -	8. 1800.3	4. 8.4
河口	- -	- -	- -	1. 1.4	1. 0.2	- -	- -	- -	1. 0.0	4. 73.5	13. 319.2
河辺	- -	- -	2. 20.0	2. 113.0	- -	1. 0.0	1. 0.1	- -	2. 16.0	- -	1. 0.3
溪畔斜面	1. 0.5	4. 5.1	5. 137.0	2. 8.0	4. 1040.5	6. 29.5	8. 17.7	2. 1920.0	14. 1304.4	- -	3. 29.0
流水，水中	- -	- -	- -	2. 5.0	- -	- -	- -	- -	3. 0.9	7. 5.1	1. 0.0
湿地，湧水地	- -	1. 1.2	1. 0.5	4. 4.6	6. 12.2	2. 0.0	5. 2.5	6. 70.9	9. 6.7	2. 5.0	4. 33.0
塩湿地	1. 20.0	2. 1.5	- -	2. 1.9	2. 4.5	2. 1.0	2. 1.6	- -	6. 8.7	1. 3.0	1. 8.0
池塘	- -	- -	- -	1. 9.0	2. 0.5	- -	- -	1. 29.4	1. 0.0	2. 63.5	2. 12.0
風衝地	- -	5. 6.6	- -	- -	1. 5.0	1. 80.1	2. 220.0	2. 48.0	1. 0.0	9. 1097.2	7. 1540.5
海岸付近	6. 51.9	10. 10.2	11. 551.5	14. 943.4	6. 15.1	30. 63.9	16. 14.3	7. 991.6	25. 323.9	12. 420.0	28. 226.7
硫気孔，噴 気孔原	- -	2. 40.5	- -	- -	- -	- -	1. 2000.0	- -	1. 0.3	- -	1. 0.3
火山噴出物	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	4. 416.9	2. 642.0	7. 2828.0	2. 10.0
石灰岩地	- -	3. 66.5	10. 418.0	6. 389.0	- -	- -	6. 21.6	3. 210.0	2. 39.9	- -	24. 218.8
蛇紋岩地	- -	1. 2.0	5. 283.0	- -	- -	- -	3. 10.3	- -	- -	- -	- -
隆起サンゴ 礁	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	4. 45.0	18. 225.9
合 計	34. 319.4	73. 911.7	78. 11097.8	106. 3734.8	65. 1788.0	103. 1764.8	93. 10868.9	73. 14890.7	165. 30396.1	94. 10750.3	165. 6471.8

上段：件数，下段：面積（ha）

表5.7-1 都道府県別取扱別の件数及び面積

	秘密以外		秘密扱い		合 計	
	件数	面積 (ha)	件数	面積 (ha)	件数	面積 (ha)
北海道	220. 100.0	374312.1 100.0	- -	- -	220.	374312.1
青 森	154. 96.86	45559.7 99.99	5. 3.14	3.7 0.01	159.	45563.4
岩 手	90. 100.0	33424.5 100.0	- -	- -	90.	33424.5
宮 城	140. 100.0	38071.4 100.0	- -	- -	140.	38071.4
秋 田	159. 94.08	43268.7 98.19	10. 5.92	797.4 1.81	169.	44066.1
山 形	87. 98.86	130249.5 100.0	1. 1.14	0.1 0.0	88.	130249.6
福 島	115. 100.0	5751.8 100.0	- -	- -	115.	5751.8
茨 城	57. 90.48	5237.4 95.15	6. 9.52	267.1 4.85	63.	5504.5
栃 木	52. 85.25	2055.6 95.94	9. 14.75	87.0 4.06	61.	2142.6
群 馬	140. 95.89	26033.6 100.0	6. 4.11	- -	146.	26033.6
埼 玉	49. 94.23	461.5 99.94	3. 5.77	0.3 0.06	52.	461.8
千 葉	82. 96.47	2413.1 95.08	3. 3.53	125.0 4.92	85.	2538.1
東 京	91. 100.0	10049.1 100.0	- -	- -	91.	10049.1

上段：件数及び面積，下段：都道府県合計に対する割合（％）

	秘密以外		秘密扱い		合 計	
	件数	面積 (ha)	件数	面積 (ha)	件数	面積 (ha)
神奈川	97. 97.98	5461.9 100.0	2. 2.02	- -	99.	5461.9
新潟	129. 96.99	6355.7 99.71	4. 3.01	18.6 0.29	133.	6374.3
富 山	165. 99.4	303.4 99.67	1. 0.6	1.0 0.33	166.	304.4
石 川	108. 96.43	3082.4 99.98	4. 3.57	0.6 0.02	112.	3083.0
福 井	97. 100.0	949.0 100.0	- -	- -	97.	949.0
山 梨	100. 86.21	7601.8 97.97	16. 13.79	157.6 2.03	116.	7759.4
長 野	76. 85.39	235925.59 99.44	13. 14.61	1328.7 0.56	89.	237254.3
岐 阜	100. 84.75	3381.7 99.75	18. 15.25	8.4 0.25	118.	3390.1
静 岡	162. 90.0	6820.7 97.41	18. 10.0	181.6 2.59	180.	7002.3
愛 知	87. 100.0	714.3 100.0	- -	- -	87.	714.3
三 重	99. 98.02	8751.3 100.0	2. 1.98	0.2 0.00	101.	8751.5
滋 賀	143. 93.46	2474.7 99.61	10. 6.54	9.6 0.39	153.	2484.3

上段：件数及び面積，下段：都道府県合計に対する割合（％）

	秘密以外		秘密扱い		合 計	
	件数	面積 (ha)	件数	面積 (ha)	件数	面積 (ha)
京 都	70. 84.34	2832.9 100.0	13. 15.66	0.0 0.00	83.	2832.9
大 阪	31. 100.0	91.9 100.0	- -	- -	31.	91.9
兵 庫	103. 100.0	1124.9 100.0	- -	- -	103.	1124.9
奈 良	39. 97.5	7874.7 100.0	1. 2.5	0.1 0.00	40.	7874.8
和歌山	104. 99.05	2518.2 99.96	1. 0.95	1.0 0.04	105.	2519.2
鳥 取	74. 100.0	1324.6 100.0	- -	- -	74.	1324.6
島 根	179. 99.44	2282.3 99.98	1. 0.56	0.5 0.02	180.	2282.8
岡 山	82. 100.0	945.0 100.0	- -	- -	82.	945.0
広 島	122. 98.39	12285.8 99.97	2. 1.61	3.7 0.03	124.	12289.5
山 口	196. 100.0	4537.8 100.0	- -	- -	196.	4537.8
徳 島	83. 98.81	2850.4 99.95	1. 1.19	1.5 0.05	84.	2851.9
香 川	33. 97.06	319.2 99.94	1. 2.94	0.2 0.06	34.	319.4

上段：件数及び面積，下段：都道府県合計に対する割合（％）

	秘密以外		秘密扱い		合 計	
	件数	面積(ha)	件数	面積(ha)	件数	面積(ha)
愛 媛	70. 95.89	910.5 99.87	3. 4.11	1.2 0.13	73.	911.7
高 知	78. 100.0	11097.8 100.0	- -	- -	78.	11097.8
福 岡	105. 99.06	3734.6 99.99	1. 0.94	0.2 0.01	106.	3734.8
佐 賀	56. 86.15	1779.8 99.54	9. 13.85	8.2 0.46	65.	1788.0
長 崎	103. 100.0	1764.8 100.0	- -	- -	103.	1764.8
熊 本	77. 82.8	10847.7 99.8	16. 17.2	21.2 0.20	93.	10868.9
大 分	73. 100.0	14890.7 100.0	- -	- -	73.	14890.7
宮 崎	159. 96.36	30253.5 99.53	6. 3.64	142.6 0.47	165.	30396.1
鹿 児 島	94. 100.0	10750.3 100.0	- -	- -	94.	10750.3
沖 縄	165. 100.0	6471.8 100.0	- -	- -	165.	6471.8
合 計	4895. 96.34	1130203.6 99.72	186. 3.66	3167.3 0.28	5081.	1133371.8

上段：件数及び面積，下段：都道府県合計に対する割合（％）

表5.8-1 地方別保存状態別の件数及び割合

地方	記載なし	良好	普通	やや不良	不良	確認されず	合計
北海道	128(58.2)	40(18.2)	15(6.8)	34(15.5)	2(0.9)	1(0.5)	220
東北	585(76.9)	40(5.3)	41(5.4)	87(11.4)	8(1.1)	0(0.0)	761
関東	363(60.8)	61(10.2)	57(9.5)	100(16.8)	16(2.7)	2(0.3)	597
中部	806(73.4)	109(9.9)	29(2.6)	138(12.6)	14(1.3)	0(0.0)	1,098
近畿	398(64.6)	70(11.4)	33(5.4)	107(17.4)	8(1.3)	0(0.0)	616
中国	316(48.2)	181(27.6)	50(7.6)	102(15.5)	7(1.1)	0(0.0)	656
四国	90(33.5)	60(22.3)	57(21.2)	53(19.7)	9(3.3)	0(0.0)	269
九州	357(51.1)	121(17.3)	66(9.4)	123(17.6)	33(4.7)	0(0.0)	699
沖縄	64(38.8)	38(23.0)	38(23.0)	24(14.5)	1(0.6)	0(0.0)	165
全 国	3,107(61.2)	720(14.2)	386(7.6)	768(15.1)	97(1.9)	3(0.0)	5,081

( )内の数字は、横の合計に対する割合(%)

表5.8-2 都道府県別保存状態別の件数及び面積

県名	記載なし	良好	普通	やや不良	不良	絶滅	確認されず	合計
北海道	128. 172759.7	40. 156517.61	15. 13108.5	34. 30918.4	2. 990.0	-	1. 17.9	220. 374312.09
青森	138. 14631.6	4. 608.0	-	13. 323.5	4. 30000.3	-	-	159. 45563.40
岩手	87. 32829.5	1. 40.0	1. 550.0	1. 5.0	-	-	-	90. 33424.50
宮城	94. 6828.8	6. 95.5	18. 13174.0	22. 17973.1	-	-	-	140. 38071.41
秋田	143. 32344.3	10. 5497.0	4. 744.4	10. 5476.8	2. 3.6	-	-	169. 44066.11
山形	38. 69865.0	10. 16719.7	15. 34216.9	24. 9447.0	1. 1.0	-	-	88. 130249.61
福島	85. 5312.7	9. 93.8	3. 2.9	17. 337.4	1. 5.0	-	-	115. 5751.80
茨城	52. 3915.7	2. 161.0	3. 300.8	6. 1127.0	-	-	-	63. 5504.50
栃木	37. 1863.7	-	17. 261.5	7. 17.4	-	-	-	61. 2142.60
群馬	102. 15955.8	24. 6999.2	7. 713.5	7. 726.6	6. 1638.5	-	-	146. 26033.60
埼玉	44. 440.8	5. 16.5	-	3. 4.5	-	-	-	52. 461.80
千葉	9. 442.0	12. 394.1	23. 535.9	35. 1043.6	6. 122.5	-	-	85. 2538.10
東京	34. 1328.8	16. 2082.7	7. 56.0	34. 6581.6	-	-	-	91. 10049.10
神奈川	85. 5352.1	2. 0.6	-	8. 9.2	4. 100.0	-	-	99. 5461.90
新潟	78. 4472.4	30. 1357.1	1. -	21. 531.5	3. 13.3	-	-	133. 6374.30
富山	140. 290.5	6. 1.9	2. 1.0	17. 6.0	1. 5.0	-	-	166. 304.40
石川	50. 2085.8	16. 353.2	5. 4.3	39. 638.3	2. 1.4	-	-	112. 3083.00
福井	44. 654.5	24. 107.8	12. 20.0	15. 160.7	2. 6.0	-	-	97. 949.00

上段：件数，下段：面積 (ha)

県名	記載なし	良好	普通	やや不良	不良	絶滅	確認されず	合計
山梨	95. 6748.8	10. 758.3	1. 3.0	8. 249.3	- -	- -	2. -	116. 7759.40
長野	76. 140988.0	3. 9692.0	1. 148.0	6. 85316.3	3. 1110.0	- -	- -	89. 237254.30
岐阜	96. 2306.4	8. 337.5	2. 1.5	12. 744.7	- -	- -	- -	118. 3390.10
静岡	149. 6661.9	11. 18.7	4. 5.7	13. 309.6	3. 6.4	- -	- -	180. 7002.30
愛知	78. 659.8	1. 1.5	1. 3.0	7. 50.0	- -	- -	- -	87. 714.30
三重	87. 8706.4	1. 0.8	1. 0.5	11. 42.3	1. 1.5	- -	- -	101. 8751.50
滋賀	95. 2081.9	9. 16.0	9. 185.6	37. 200.8	3. -	- -	- -	153. 2484.30
京都	45. 301.9	18. 174.0	8. 56.0	11. 2301.0	1. -	- -	- -	83. 2832.90
大阪	7. 11.4	6. 17.8	4. 13.9	14. 48.8	- -	- -	- -	31. 91.90
兵庫	73. 1095.7	20. 26.3	3. 1.2	7. 1.7	- -	- -	- -	103. 1124.90
奈良	25. 369.9	4. 1331.9	1. 2.0	9. 6166.0	1. 5.0	- -	- -	40. 7874.80
和歌山	66. 1791.6	12. 204.7	7. 143.2	18. 366.7	2. 13.0	- -	- -	105. 2519.20
鳥取	49. 822.1	16. 291.7	1. 1.0	7. 208.8	1. 1.0	- -	- -	74. 1324.60
島根	53. 710.4	79. 1331.8	12. 66.0	33. 167.6	3. 7.0	- -	- -	180. 2282.80
岡山	24. 574.2	43. 319.7	9. 40.8	6. 10.3	- -	- -	- -	82. 945.00
広島	66. 6563.9	12. 249.4	8. 140.7	35. 4454.3	3. 881.2	- -	- -	124. 12289.50
山口	124. 3815.6	31. 270.0	20. 398.5	21. 53.7	- -	- -	- -	196. 4537.80
徳島	39. 1827.5	10. 40.4	11. 222.4	18. 430.6	6. 331.0	- -	- -	84. 2851.90

上段：件数，下段：面積（ha）

県名	記載なし	良好	普通	やや不良	不良	絶滅	確認されず	合計
香川	7.	7.	12.	8.	-	-	-	34.
	34.2	69.6	180.9	34.7	-	-	-	319.40
愛媛	16.	19.	19.	18.	1.	-	-	73.
	24.7	283.3	203.7	399.0	1.0	-	-	911.70
高知	28.	24.	15.	9.	2.	-	-	78.
	5147.0	3263.5	290.0	2377.3	20.0	-	-	11097.80
福岡	37.	28.	10.	24.	7.	-	-	106.
	1214.6	1358.3	180.4	704.1	277.4	-	-	3734.80
佐賀	18.	29.	4.	14.	-	-	-	65.
	159.3	1271.4	3.1	354.2	-	-	-	1788.00
長崎	31.	28.	25.	17.	2.	-	-	103.
	708.2	227.9	716.6	112.0	0.1	-	-	1764.80
熊本	62.	14.	2.	13.	2.	-	-	93.
	8714.1	250.0	16.0	1862.8	26.0	-	-	10868.90
大分	49.	6.	3.	14.	1.	-	-	73.
	4980.0	12.2	3163.1	6603.4	132.0	-	-	14890.70
宮崎	116.	11.	5.	18.	15.	-	-	165.
	15157.7	1291.3	6.7	5192.1	8748.3	-	-	30396.10
鹿児島	44.	5.	17.	23.	5.	-	-	94.
	3925.8	59.2	1774.5	4981.8	9.0	-	-	10750.30
沖縄	64.	38.	38.	24.	1.	-	-	165.
	1819.5	2334.9	620.2	1677.2	20.0	-	-	6471.80
合計	3107.	720.	386.	768.	97.	-	3.	5081.
	599297.88	216549.64	72277.94	200748.59	44476.5	-	17.9	1133371.75

上段：件数，下段：面積 (ha)

表5.9-1 都道府県別インパクトの種類別の件数及び面積

県名	記載なし	人の立入り	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	その他の開発	水辺の開発	周辺の開発	植物の侵入	動物の侵入	ゴムの投棄	その他	合計			
										虫害、菌害	汚染物質の侵入	自然災害					
北海道	103. 231779.0	22. 32404.9	4. 244.0	49. 75552.8	9. 2941.0	- -	3. 645.0	2. 21.0	26. 30421.0	- -	- -	- -	2. 303.4	- -	220. 374312.09		
青森	97. 14490.6	17. 30012.6	10. 19.2	13. 77.4	4. 640.6	2. -	3. 3.8	3. 202.1	9. 67.1	1. 50.0	- -	- -	- -	- -	159. 45563.40		
岩手	80. 32106.7	6. 1076.0	- -	1. 188.0	- -	1. 40.0	- -	- -	- -	- -	1. 5.0	- -	1. 8.8	- -	90. 33424.50		
宮城	88. 19414.6	8. 190.2	5. 100.0	15. 15606.1	1. 52.0	1. 118.0	2. 240.5	1. 0.1	6. 183.1	2. 8.0	2. 1053.0	1. 1000.0	- -	4. 82.5	3. 23.2	1. 0.1	140. 38071.41
秋田	105. 29986.4	13. 1568.3	10. 1278.4	20. 9998.6	3. 28.7	- -	4. 92.0	3. 106.0	4. 975.5	1. 1.0	- -	- -	1. 0.4	3. 29.5	1. 1.0	1. 0.3	169. 44066.11
山形	58. 119626.91	14. 2667.5	- -	4. 1245.0	3. 546.0	4. 3190.0	1. 200.0	- -	2. 2773.0	- -	- -	- -	2. 1.2	- -	- -	- -	88. 130249.61
福島	96. 5259.4	6. 112.5	1. 4.0	3. 12.1	- -	1. 5.5	- -	- -	3. 36.5	1. 0.3	1. 2.5	- -	- -	3. 319.0	- -	- -	115. 5751.80
茨城	56. 4374.5	1. 42.5	2. 8.0	1. 0.5	1. 1062.0	- -	- -	- -	1. 12.0	1. 5.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	63. 5504.50
栃木	56. 2129.2	1. 1.0	1. 1.0	- -	- -	- -	- -	- -	1. 7.4	- -	- -	- -	1. 2.0	- -	1. 2.0	- -	61. 2142.60
群馬	115. 21591.2	9. 184.6	4. 3.7	4. 2265.0	2. 10.1	3. 13.0	1. 0.8	2. 1375.0	3. 1.7	1. 4.5	- -	- -	1. 550.0	- -	- -	1. 34.0	146. 26033.60
埼玉	48. 455.8	1. 1.5	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1. 3.0	2. 1.5	- -	- -	- -	- -	- -	- -	52. 461.80
千葉	36. 1323.0	16. 35.2	4. 137.3	3. 184.0	3. 2.2	3. 85.5	3. 93.4	4. 355.0	6. 240.5	- -	1. 30.0	- -	- -	5. 51.0	1. 1.0	- -	85. 2538.10
東京	56. 3452.4	14. 562.8	1. 2.2	1. 49.0	1. 52.5	1. 480.0	- -	3. 4101.2	6. 62.7	4. 39.8	- -	1. 1200.0	- -	2. 30.5	1. 16.0	- -	91. 10049.10

上段：件数，下段：面積 (ha)

県名	記載なし	人の立入り	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	その他の開発	その他の開発	植物の侵入	動物の侵入	ゴミの投棄	その他	合計			
							水辺の開発	周辺の開発	虫害、菌害	汚染物質の侵入	自然災害					
神奈川	86. 5350.2	7. 8.7	3. 100.0	- -	- -	- -	- -	1. -	- -	- -	1. 3.0	- -	98. 5461.90			
新潟	94. 5895.1	14. 141.6	- -	7. 28.4	1. 1.0	1. 6.0	2. 84.0	4. 16.5	3. 45.3	2. 30.1	- -	1. 0.5	1. 2.0	2. 120.5	1. 3.3	133. 6374.30
富山	147. 287.4	10. 12.3	1. 1.0	- -	1. 3.0	- -	- -	1. -	- -	4. 0.5	1. 0.2	- -	- -	1. -	- -	166. 304.40
石川	69. 2437.1	18. 485.6	4. 4.5	1. 5.0	5. 131.4	1. 0.5	1. 2.0	3. 1.8	3. 3.2	1. 0.2	1. 0.2	- -	5. 11.5	- -	- -	112. 3083.00
福井	72. 592.7	1. 1.0	- -	12. 233.2	8. 115.1	- -	- -	1. 2.5	- -	- -	- -	- -	- -	3. 4.5	- -	97. 949.00
山梨	104. 7499.5	5. 101.8	1. 150.0	- -	1. -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1. 0.5	4. 7.6	- -	116. 7759.40
長野	83. 150838.3	- -	- -	2. 81100.0	1. 4500.0	- -	- -	1. 15.0	2. 801.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	89. 237254.30
岐阜	108. 2645.8	- -	1. 1.3	2. 530.0	- -	- -	- -	- -	6. 211.0	- -	- -	- -	- -	1. 2.0	- -	118. 3390.10
静岡	143. 6655.9	4. 0.2	7. 105.7	11. 57.6	2. 15.2	- -	1. 0.1	2. 5.9	2. 13.3	3. 7.4	3. 136.0	- -	2. 5.0	- -	- -	180. 7002.30
愛知	65. 633.7	10. 20.8	- -	2. 1.4	2. 16.0	1. 10.9	- -	- -	2. 1.1	- -	1. 2.0	- -	2. 1.4	2. 27.0	- -	87. 714.30
三重	89. 8707.7	5. 7.8	- -	1. 0.6	- -	- -	- -	1. 0.7	4. 2.7	- -	1. 32.0	- -	- -	- -	- -	101. 8751.50
滋賀	87. 2056.1	22. 119.0	9. 1.1	14. 211.1	2. 0.2	3. 48.0	- -	2. 0.4	3. 10.8	4. 0.5	- -	- -	3. 25.0	3. 2.1	1. 10.0	153. 2484.30
京都	71. 673.4	1. 5.5	3. 6.0	2. 2080.0	- -	2. 30.0	1. 4.0	- -	- -	- -	1. 26.0	- -	2. 8.0	- -	- -	83. 2832.90

上段：件数，下段：面積 (ha)

県名	記載なし	人の立入り	盗採	農林業開発	道路開発	観光開発	その他の開発		植物の侵入 虫害、菌害	動物の侵入 汚染物質の侵入	ゴミの投棄 自然災害	その他	合計				
							水辺の開発	周辺の開発									
大阪	18.	5.	-	-	2.	-	-	1.	3.	-	-	1.	-	-	31.		
	42.3	3.2	-	-	3.5	-	-	0.8	1.6	-	-	40.0	-	0.5	-	91.90	
兵庫	92.	7.	-	2.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.	-	-	103.
	1119.3	5.1	-	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1	-	-	1124.90
奈良	23.	6.	-	2.	-	-	-	3.	2.	1.	1.	-	-	2.	-	-	40.
	1545.0	101.6	-	103.0	-	-	-	5267.2	500.5	53.8	200.0	-	-	103.7	-	-	7874.80
和歌山	67.	12.	3.	6.	3.	1.	-	2.	1.	1.	2.	1.	-	1.	5.	-	105.
	2070.1	97.3	90.0	121.9	13.7	1.3	-	10.5	1.2	0.5	86.3	20.0	-	0.4	6.0	-	2519.20
鳥取	62.	6.	1.	1.	1.	-	-	1.	2.	-	-	-	-	-	-	-	74.
	1111.5	5.1	-	-	195.0	-	-	-	13.0	-	-	-	-	-	-	-	1324.60
島根	87.	70.	2.	9.	-	-	-	1.	7.	2.	-	-	-	-	2.	-	180.
	1903.0	225.5	5.0	60.5	-	-	-	2.0	55.1	30.2	-	-	-	-	1.5	-	2282.80
岡山	73.	4.	1.	-	2.	-	-	1.	1.	-	-	-	-	-	-	-	82.
	913.0	5.7	2.5	-	19.8	-	-	1.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	945.00
広島	86.	8.	3.	6.	1.	1.	2.	5.	1.	4.	2.	-	1.	2.	2.	-	124.
	6938.6	27.5	55.7	791.9	0.5	60.0	300.2	355.5	132.0	143.8	2576.6	-	12.0	0.2	895.0	-	12289.50
山口	122.	41.	9.	11.	-	4.	-	2.	-	3.	-	-	-	1.	1.	2.	196.
	2633.1	1167.5	514.5	119.8	-	45.4	-	40.5	-	3.9	-	-	-	2.0	10.0	1.1	4537.80
徳島	54.	3.	7.	7.	2.	-	-	1.	2.	2.	3.	-	-	2.	1.	-	84.
	1227.0	25.4	738.4	824.0	5.5	-	-	4.0	1.2	12.0	9.0	-	-	5.3	0.1	-	2851.90
香川	19.	2.	1.	1.	4.	1.	-	2.	1.	2.	-	-	-	1.	-	-	34.
	222.9	9.0	3.0	-	49.8	-	-	23.8	3.3	7.1	-	-	-	0.5	-	-	319.40
愛媛	37.	18.	4.	3.	2.	1.	-	-	2.	3.	1.	-	-	1.	1.	-	73.
	452.3	135.9	233.5	4.2	45.1	6.0	-	-	0.4	2.1	30.0	-	-	1.0	1.2	-	911.70
高知	63.	1.	-	1.	3.	1.	-	3.	4.	1.	-	-	-	-	1.	-	78.
	8664.5	5.0	-	190.0	2007.0	2.0	-	20.3	203.0	1.0	-	-	-	-	5.0	-	11097.80

上段：件数，下段：面積 (ha)

県名	記載なし	人の立入り	盗採	農林業開発	観光開発	その他の開発	植物の侵入	動物の侵入	ゴミの投棄	その他	合計						
				道路開発		水辺の開発	虫害、菌害	汚染物質の侵入	自然災害								
福岡	55. 2064.7	11. 648.2	5. 96.4	6. 474.7	6. 182.5	3. 38.0	1. 1.4	9. 78.3	3. 31.5	2. 2.6	- -	1. 4.0	3. 112.4	1. 0.1	- -	106. 3734.80	
佐賀	48. 1376.3	2. 12.6	5. 17.5	2. 2.5	- -	2. 40.5	- -	5. 55.6	- -	1. 288.0	- -	- -	- -	- -	- -	65. 1788.00	
長崎	77. 1641.8	17. 92.9	3. 10.1	1. 2.0	2. 4.0	- -	- -	2. 14.0	1. -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	103. 1764.80	
熊本	23. 8639.0	13. 12.8	12. 2.3	24. 2109.5	4. 72.3	3. 6.3	2. 0.2	2. 0.4	3. 21.5	2. 3.0	- -	- -	2. 1.0	3. 0.6	- -	93. 10868.90	
大分	48. 4526.1	7. 44.6	4. 5592.0	5. 3710.6	4. 972.5	- -	- -	- -	3. 12.9	- -	- -	- -	1. 30.0	1. 2.0	- -	73. 14890.70	
宮崎	40. 3867.3	38. 859.7	17. 1909.8	52. 21932.8	3. 678.0	3. 13.1	2. 2.0	1. 14.0	3. 151.9	4. 583.0	- -	- -	1. 0.3	1. 384.2	- -	165. 30396.10	
鹿児島	59. 5541.0	3. 13.0	1. 20.0	6. 747.5	1. 20.0	1. 10.0	1. 0.5	1. 17.0	4. 2561.1	6. 161.2	3. 1650.0	- -	5. 6.0	2. 2.0	1. 1.0	94. 10750.30	
沖縄	93. 2217.4	17. 246.3	6. 111.0	20. 3701.3	2. 2.1	2. 2.3	1. 0.1	4. 35.2	7. 36.5	1. 7.0	- -	3. 10.3	2. 43.0	3. 4.3	3. 48.0	165. 6471.80	
合計	3458. 738980.69	516. 73507.86	155. 11569.1	333. 224322.39	92. 14388.3	47. 4252.3	31. 1670.0	66. 12009.4	154. 39704.02	62. 1188.9	28. 6124.4	7. 2270.3	18. 629.9	60. 831.2	45. 1864.4	8. 55.8	5080. 1193371.75

上段：件数，下段：面積 (ha)

表5.10-1 保護区分別の件数及び面積

保護区分	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)	1件当たりの面積(ha)
保護制度なし	2429.	47.10	179291.88	13.91	74
国立公園					
特別保護地区	171.	3.32	8494.90	0.66	
特別地域	432.	8.38	75172.94	5.83	
普通地域	57.	1.11	6631.50	0.51	
上記の重複	165.	3.20	402728.75	31.25	
国立公園計(含重複)	825.	16.01	493028.09	38.25	598
国定公園					
区分不明	17.	0.33	84792.30	6.58	
特別保護地区	68.	1.32	6799.50	0.53	
特別地域	570.	11.05	106128.17	8.24	
普通地域	42.	0.81	5145.00	0.40	
上記の重複	98.	1.90	67003.30	5.20	
国定公園計(含重複)	795.	15.41	269868.27	20.95	339
原生自然環境保全地域	5.	0.10	44569.00	3.46	8914
自然環境保全地域					
特別地区	2.	0.04	4850.00	0.38	
普通地区	11.	0.21	14057.10	1.09	
上記の重複	1.	0.02	257.00	0.02	
自然環境保全地域計(含重複)	14.	0.27	19164.10	1.49	1369
都道府県立自然公園					
区分不明	4.	0.08	67.00	0.01	
特別地域	306.	5.93	117618.91	9.13	
普通地域	350.	6.79	37555.00	2.91	
上記の重複	59.	1.14	63670.00	4.94	
都道府県立公園計(含重複)	719.	13.94	218910.91	16.99	304
都道府県自然環境保全地域					
区分不明	21.	0.41	3692.10	0.29	
特別地域	131.	2.54	14838.90	1.15	
普通地域	136.	2.64	17751.40	1.38	
上記の重複	82.	1.59	27505.90	2.13	
都道府県立自環計(含重複)	370.	7.18	63788.30	4.95	172
合 計	5157.	100.00	1288626.38	100.00	250

表5.10-2 自然公園・自然環境保全地域別の件数及び面積

公園名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
保護制度なし	2490.	47.71	198582.25	15.18
国立公園				
利尻礼文サロベツ	7.	0.13	17073.00	1.31
知床	2.	0.04	16900.00	1.29
阿寒	10.	0.19	16771.40	1.28
大雪山	6.	0.11	43727.00	3.34
支笏洞爺	14.	0.27	49270.00	3.77
十和田八幡平	45.	0.86	21061.60	1.61
陸中海岸	14.	0.27	742.30	0.06
磐梯朝日	46.	0.88	83741.10	6.40
日光	45.	0.86	5698.70	0.44
上信越高原	56.	1.07	41481.90	3.17
秩父多摩	29.	0.56	10469.40	0.80
富士箱根伊豆	117.	2.24	10632.00	0.81
中部山岳	83.	1.59	80337.30	6.14
南アルプス	36.	0.69	52492.90	4.01
白山	30.	0.57	3347.60	0.26
伊勢志摩	19.	0.36	5600.70	0.43
吉野熊野	28.	0.54	7519.10	0.57
山陰海岸	10.	0.19	261.80	0.02
大山隠岐	49.	0.94	414.10	0.03
瀬戸内海	61.	1.17	4170.40	0.32
足摺宇和海	22.	0.42	669.90	0.05
阿蘇	16.	0.31	8853.10	0.68
雲仙天草	15.	0.29	595.70	0.05
西海	22.	0.42	87.80	0.01
霧島屋久	34.	0.65	9120.50	0.70
西表	10.	0.19	1989.30	0.15

公園名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
国定公園				
網走	14.	0.27	1767.00	0.14
ニセコ積丹小樽海岸	6.	0.11	17024.00	1.30
大沼	3.	0.06	6450.00	0.49
下北半島	12.	0.23	294.40	0.02
津軽	38.	0.73	30998.70	2.37
男鹿	10.	0.19	484.60	0.04
栗駒	33.	0.63	26917.60	2.06
鳥海	18.	0.34	10072.00	0.77
蔵王	13.	0.25	17157.50	1.31
佐渡弥彦	19.	0.36	188.70	0.01
越後三山只見	7.	0.13	7511.30	0.57
水郷筑波	8.	0.15	803.50	0.06
南房総	11.	0.21	38.60	0.00
明治の森高尾	1.	0.02	480.00	0.04
丹沢大山	22.	0.42	3591.70	0.27
能登半島	28.	0.54	53.20	0.00
越前加賀海岸	10.	0.19	113.20	0.01
妙義荒船佐久高原	7.	0.13	38.50	0.00
八ヶ岳中信高原	16.	0.31	13933.00	1.07
天竜奥三河	10.	0.19	1411.60	0.11
揖斐関ヶ原養老	7.	0.13	120.70	0.01
飛驒木曾川	9.	0.17	78.10	0.01
三河湾	18.	0.34	81.90	0.01
愛知高原	8.	0.15	177.80	0.01
若狭湾	28.	0.54	171.20	0.01
鈴鹿	27.	0.52	1023.60	0.08
室生赤目青山	13.	0.25	1137.30	0.09
琵琶湖	54.	1.03	1512.80	0.12
明治の森箕面	3.	0.06	47.00	0.00
大和青垣	2.	0.04	31.00	0.00

公園名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
金剛生駒	3.	0.06	2.40	0.00
高野竜神	9.	0.17	429.00	0.03
氷ノ山後山那岐山	28.	0.54	1611.30	0.12
比婆道後帝釈	11.	0.21	2106.60	0.16
西中国山地	17.	0.33	2477.40	0.19
北長門海岸	16.	0.31	99.70	0.01
秋吉台	7.	0.13	1376.70	0.11
剣山	14.	0.27	4440.70	0.34
室戸阿南海岸	14.	0.27	177.00	0.01
石槌	12.	0.23	3992.70	0.31
北九州	6.	0.11	942.00	0.07
玄海	32.	0.61	1427.20	0.11
壱岐対馬	33.	0.63	740.50	0.06
耶馬日田英彦山	19.	0.36	3703.20	0.28
日豊海岸	16.	0.31	1019.10	0.08
祖母傾	13.	0.25	9343.60	0.71
日南海岸	17.	0.33	1051.40	0.08
奄美群島	9.	0.17	801.00	0.06
沖縄海岸	16.	0.31	262.40	0.02
沖縄戦跡	1.	0.02	8.00	0.00
南三陸金華山	20.	0.38	2083.50	0.16
九州中央	9.	0.17	71944.90	5.50
早池峰	4.	0.08	6860.00	0.52
日高山脈襟裳	14.	0.27	9257.40	0.71
都道府県立自然公園	719.	13.78	218910.83	16.74

公園名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
原生自然環境保全地域				
屋久島	1.	0.02	1219.00	0.09
大井川源流部	1.	0.02	1115.00	0.09
十勝川源流部	2.	0.04	37535.00	2.87
遠音別岳	1.	0.02	4700.00	0.36
自然環境保全地域				
早池峰	4.	0.08	6007.00	0.46
稲尾岳	1.	0.02	450.00	0.03
大平山	1.	0.02	100.00	0.01
利根川源流部	5.	0.10	7257.10	0.55
白髪岳	1.	0.02	500.00	0.04
和賀岳	1.	0.02	3000.00	0.23
笹ヶ峰	1.	0.02	1850.00	0.14
都道府県自然環境 保全地域				
	370.	7.09	63788.31	4.88
合 計	5219.	100.00	1307917.25	100.00

表5.10-3 天然記念物別の件数及び面積

保護区分	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)	1件当たりの 面積(ha)
天然記念物以外	4139.	81.46	861454.81	76.01	808
国指定特別天然 記念物	73.	1.44	6383.00	0.56	87
国指定天然記念物	271.	5.33	193403.17	17.06	714
都道府県指定天然 記念物	381.	7.50	54711.02	4.83	144
市町村指定天然 記念物	188.	3.70	13336.00	1.18	71
上記天然記念物 の重複	29.	0.57	4083.60	0.36	141
合 計	5081.		1133371.75		223

表5.10-4 自然公園・自然環境保全地域別選定基準別の件数及び面積  
選定基準

保護制度	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
保護制度なし	887. 114513.3	306. 12392.7	275. 7526.4	524. 47902.6	810. 27011.2	99. 1502.2	264. 8724.8	317. 9480.2	3482. 229052.3
国立公園									
特別保護地区	43. 4619.9	26. 770.6	29. 75.3	99. 3148.9	4. 222.5	1. 0.5	5. 11.7	9. 18.6	216. 8868.0
特別地域	193. 61663.1	41. 1781.7	56. 780.3	120. 2894.4	72. 4126.6	15. 202.2	40. 1528.5	44. 9426.8	581. 82403.6
普通地域	19. 6216.7	5. 17.6	11. 5238.2	11. 62.7	12. 260.5	3. 11.0	4. 1.5	9. 53.7	74. 11861.9
上記の重複	87. 295526.4	20. 143806.1	17. 165976.0	59. 240865.6	17. 12530.7	2. 200.0	13. 7879.6	29. 18103.0	244. 884887.3
国立公園小計	352. 368026.1	92. 146376.0	113. 172069.8	289. 246971.6	105. 17140.3	21. 413.7	62. 9421.3	91. 27602.1	1115. 988020.8

上段：件数，下段：面積（ha）

- 選定基準
- A 原生林もしくはそれに近い自然林
  - B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
  - C 比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地にみられる植物群落または個体群
  - D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
  - E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
  - F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
  - G 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
  - H その他学術上重要な植物群落または個体群

選定基準

保護制度	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
国立公園									
区分不明	11. 12116.3	7. 7637.6	1. 1716.0	3. 71570.0	-	-	-	3. 894.4	25. 93934.3
特別保護地区	21. 5683.3	16. 435.7	11. 131.9	26. 5315.3	8. 199.5	1. 124.5	7. 14.5	13. 736.5	103. 12641.2
特別地域	222. 59738.8	95. 6303.7	73. 5941.2	159. 11722.5	119. 39946.2	16. 4464.8	59. 3939.1	82. 15882.4	825. 147938.8
普通地域	9. 2784.2	7. 928.1	7. 2065.6	21. 3848.5	6. 96.5	-	7. 203.6	5. 47.6	62. 9974.1
上記の重複	47. 41165.9	13. 16436.1	10. 13191.0	34. 23549.9	17. 4387.3	2. 1270.0	9. 1272.2	11. 24342.1	143. 125614.5
国立公園小計	310. 121488.5	138. 31741.2	102. 23045.7	243. 116006.2	150. 44629.5	19. 5859.3	82. 5429.4	114. 41903.0	1158. 390102.9

上段：件数，下段：面積（ha）

- 選定基準
- A 原生林もしくはそれに近い自然林
  - B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
  - C 比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地にみられる植物群落または個体群
  - D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
  - E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
  - F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
  - G 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
  - H その他学術上重要な植物群落または個体群

選定基準

保護制度	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
原生自然環境	3.	-	1.	2.	1.	-	-	-	7.
保全地域	3369.0	-	1115.0	41200.0	1035.0	-	-	-	46719.0
自然環境保全地域									
区分不明	2.	-	1.	1.	-	-	-	-	4.
	4850.0	-	1850.0	1850.0	-	-	-	-	8550.0
特別地域	6.	2.	1.	4.	-	-	1.	-	14.
	12650.0	1307.0	100.0	5800.1	-	-	100.0	-	19957.1
普通地域	1.	-	-	-	-	-	-	-	1.
	257.0	-	-	-	-	-	-	-	257.0
自環地域小計	9.	2.	2.	5.	-	-	1.	-	19.
	17757.0	1307.0	1950.0	7650.1	-	-	100.0	-	28764.1

上段：件数，下段：面積（ha）

選定基準 A 原生林もしくはそれに近い自然林

B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群

C 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地にみられる植物群落または個体群

D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの

G 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群

H その他学術上重要な植物群落または個体群

選定基準

保護制度	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
都道府県立自然公園									
区分不明	1.	-	1.	-	1.	2.	-	-	5.
	12.0	-	12.0	-	25.0	30.0	-	-	79.0
特別地域	116.	21.	38.	85.	74.	9.	31.	46.	420.
	93674.6	51239.8	50529.6	69564.7	8474.7	101.6	2322.6	11592.0	287499.7
普通地域	145.	55.	44.	72.	86.	12.	43.	45.	502.
	27143.9	11426.4	4084.9	4292.4	9027.4	2351.9	4394.5	972.0	63693.4
上記の重複	36.	9.	6.	11.	8.	4.	6.	4.	84.
	55431.8	24150.7	694.0	34451.5	1192.0	1293.5	2487.0	1242.0	120942.5
都道府県立自然公園小計	298.	85.	89.	168.	169.	27.	80.	95.	1011.
	176262.3	86816.9	55320.5	108308.6	18719.1	3777.0	9204.1	13806.0	472214.6

上段：件数，下段：面積（ha）

選定基準 A 原生林もしくはそれに近い自然林

B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群

C 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地にみられる植物群落または個体群

D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの

G 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群

H その他学術上重要な植物群落または個体群

選 定 基 準

保護制度	A	B	C	D	E	F	G	H	合 計
都道府県自然環境保全地域									
区分不明	7. 3180.0	3. 3004.0	2. 11.0	4. 67.5	7. 428.0	- -	1. 0.5	3. 16.1	27. 6707.1
特別地域	54. 12126.3	17. 773.2	13. 87.0	36. 5468.2	24. 1295.3	3. 15.6	22. 1116.8	21. 531.5	190. 21415.9
普通地域	59. 10928.1	9. 259.4	15. 580.2	29. 4933.1	39. 712.3	7. 1120.0	14. 224.7	12. 240.9	184. 18998.7
上記の重複	42. 23400.0	6. 695.2	9. 658.6	16. 1880.7	20. 1830.1	3. 188.5	4. 327.0	8. 871.7	108. 29851.8
都道府県自 環境地域小計	162. 49634.4	35. 4731.8	39. 1336.8	85. 12349.5	90. 4265.7	13. 1324.1	41. 1671.0	44. 1660.2	509. 76973.5
合 計	2011. 851051.3	658. 283365.4	621. 262364.	1316. 580389.4	1325. 112801.	179. 12876.3	530. 34550.6	661. 94451.6	7301. 2231848.8

上段：件数，下段：面積（ha）

- 選定基準
- A 原生林もしくはそれに近い自然林
  - B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
  - C 比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地にみられる植物群落または個体群
  - D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
  - E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
  - F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
  - G 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
  - H その他学術上重要な植物群落または個体群

表5.10-5 天然記念物別選定基準別の件数及び面積  
選定基準

	A	B	C	D	E	F	G	H	合 計
天然記念物 以外	1694. 683752.2	499. 157855.1	463. 162835.6	1108. 327827.4	1076. 90014.2	130. 10490.3	442. 26543.8	534. 84039.8	5946. 1543363.1
国指定特別 天然記念物	20. 4251.9	17. 4311.8	17. 50.1	37. 2879.5	6. 1396.6	2. 59.4	2. 4.5	10. 235.4	111. 13189.2
国指定天然 記念物	119. 126981.8	63. 96165.6	52. 97420.9	69. 200458.2	61. 11114.2	9. 230.9	20. 2506.4	43. 3522.5	436. 538400.6
都道府県指 定天然記念物	121. 41106.6	54. 22733.4	66. 1292.0	81. 49529.1	105. 3066.9	27. 979.1	43. 4058.7	58. 2600.1	555. 125366.0
市町村指定 天然記念物	67. 9010.8	21. 411.0	24. 262.3	47. 9606.4	70. 6719.3	7. 64.8	18. 705.0	17. 5677.1	271. 32456.7
上記天然記 念物の重複	13. 1477.0	6. 2768.7	4. 540.6	5. 215.5	11. 531.2	4. 1051.8	8. 736.8	6. 588.3	57. 7909.9
合 計	2034. 866580.5	660. 284245.4	626. 262401.5	1347. 590517.1	1329. 112842.5	179. 12876.3	533. 34555.2	668. 96663.2	7376. 2260679.0

上段：件数，下段：面積（ha）

- 選定基準
- A 原生林もしくはそれに近い自然林
  - B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
  - C 比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地にみられる植物群落または個体群
  - D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
  - E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
  - F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
  - G 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
  - H その他学術上重要な植物群落または個体群

表5.11-1 相観区分別の件数及び面積

相観区分	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
植生一般	103.	2.03	397437.10	35.07
亜寒帯植生	71.	1.40	215677.00	19.03
冷温帯植生	100.	1.97	78526.80	6.93
暖温帯植生	189.	3.72	22011.30	1.94
亜熱帯植生	14.	0.28	760.50	0.07
亜寒帯常緑針葉高木林	93.	1.83	49126.30	4.33
冷温帯常緑針葉高木林	212.	4.17	26759.80	2.36
暖温帯常緑針葉高木林	239.	4.70	12071.90	1.07
亜熱帯常緑針葉高木林	1.	0.02	25.00	0.00
常緑針葉高木植林	128.	2.52	7628.80	0.67
夏緑針葉高木林	12.	0.24	1475.10	0.13
夏緑針葉植林	6.	0.12	95.00	0.01
暖温帯常緑広葉高木林	1287.	25.33	23534.50	2.08
亜熱帯常緑広葉高木林	83.	1.63	5760.90	0.51
常緑広葉高木植林	16.	0.31	170.30	0.02
亜寒帯夏緑広葉高木林	14.	0.28	7475.10	0.66
冷温帯夏緑広葉高木林	675.	13.28	138627.94	12.23
暖温帯夏緑広葉高木林	183.	3.60	2631.20	0.23
亜熱帯夏緑広葉高木林	3.	0.06	110.10	0.01
夏緑広葉高木植林	7.	0.14	20.00	0.00
亜寒帯常緑針葉低木林	26.	0.51	2459.10	0.22
冷温帯常緑針葉低木林	7.	0.14	1035.20	0.09
暖温帯常緑針葉低木林	20.	0.39	67.30	0.01
亜熱帯常緑針葉低木林	4.	0.08	1.30	0.00
冷温帯常緑広葉低木林	18.	0.35	1534.60	0.14
暖温帯常緑広葉低木林	74.	1.46	2010.80	0.18
亜熱帯常緑広葉低木林	21.	0.41	513.30	0.05
亜寒帯夏緑広葉低木林	30.	0.59	5978.10	0.53
冷温帯夏緑広葉低木林	87.	1.71	2830.30	0.25
暖温帯夏緑広葉低木林	78.	1.54	749.00	0.07

相観区分	件数	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)
冷温帯ササ原	17.	0.33	1113.60	0.10
暖温帯ササ原	5.	0.10	105.30	0.01
亜熱帯ササ原	1.	0.02	90.00	0.01
亜寒帯広葉草原	17.	0.33	51.90	0.00
冷温帯広葉草原	25.	0.49	271.30	0.02
暖温帯広葉草原	9.	0.18	1013.10	0.09
冷温帯単子葉草本草原	15.	0.30	2725.70	0.24
暖温帯単子葉草本草原	31.	0.61	3015.20	0.27
亜熱帯単子葉草本草原	6.	0.12	23.50	0.00
草本シダ群落	32.	0.63	19.20	0.00
岩上, 多礫地草本植生	124.	2.44	5468.60	0.48
タケ形林	9.	0.18	78.90	0.01
ヤシ形林	22.	0.43	225.80	0.02
マングローブ林	17.	0.33	340.60	0.03
ツル植物群落	3.	0.06	5.10	0.00
蘚苔類植物群落	2.	0.04	146.10	0.01
浮葉・沈水植物群落	46.	0.91	6778.90	0.60
浮水植物群落	2.	0.04	0.10	0.00
流水岩上植物群落	8.	0.16	5.40	0.00
高山荒原植生	41.	0.81	251.00	0.02
雪田植生	36.	0.71	1716.90	0.15
火山荒原植生	25.	0.49	11243.40	0.99
湿地植生	334.	6.57	37291.32	3.29
河辺植生	26.	0.51	2077.80	0.18
海浜植生	196.	3.86	8048.40	0.71
亜寒帯ササ原	3.	0.06	12615.00	1.11
亜寒帯単子葉草本草原	2.	0.04	200.50	0.02
個体 (群)	226.	4.45	31340.78	2.77
合 計	5081.	100.00	1133371.75	100.00

表5.11-2 都道府県別相観区分別の件数及び面積

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
植生一般	10. 59370.90	-	5. 8400.00	4. 16450.00	7. 10436.00	5. 69465.00	1. 24.80	2. 2100.00	-	1. 4500.00	1. 38.00	-
亜寒帯植生	38. 175265.20	2. 109.50	6. 3615.00	1. 12900.00	3. 1505.00	3. 2089.00	-	-	1. 5.00	2. 2.50	-	-
冷温帯植生	14. 6657.80	7. 185.10	2. 165.00	6. 167.00	12. 4579.70	10. 43508.00	1. 45.00	1. 20.00	-	-	2. 12.00	-
暖温帯植生	-	-	-	2. 857.00	-	1. 6.00	-	15. 1693.20	-	-	7. 35.80	25. 1110.20
亜寒帯常緑針葉高木林	26. 26052.20	4. 1400.50	4. 4867.00	-	2. 22.50	2. 3620.00	2. 15.00	-	5. 448.00	9. 4286.00	2. 13.00	-
冷温帯常緑針葉高木林	7. 1058.20	15. 574.50	5. 1945.00	9. 178.10	21. 4286.20	3. 1091.30	17. 1266.70	-	3. 18.20	6. 343.00	6. 18.50	-
暖温帯常緑針葉高木林	-	-	3. 230.00	13. 148.90	-	-	3. 17.30	2. 40.50	3. 18.00	1. 0.10	6. 10.10	2. 400.00
常緑針葉高木植林	-	3. 13.50	4. 33.50	6. 1481.00	2. 140.00	2. 2241.00	-	3. 31.00	1. 0.50	2. 73.50	-	-
夏緑針葉高木林	-	-	-	-	-	-	1. 1.00	-	-	2. 600.00	-	-
夏緑針葉植林	-	1. 2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
暖温帯常緑広葉高木林	-	-	3. 47.00	17. 88.00	2. 1.30	4. 53.00	5. 8.20	20. 411.00	6. 43.10	5. 3.00	17. 14.10	34. 294.30
常緑広葉高木植林	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1. 18.00	-	1. 29.40
亜寒帯夏緑広葉高木林	2. 7260.00	-	-	-	1. 3.00	-	-	-	1. 120.00	2. 12.50	-	-
暖温帯広葉草原	-	-	-	-	-	-	-	-	1. 1.00	-	-	-
冷温帯単子葉草本草原	3. 1135.00	-	-	2. 850.00	-	-	-	-	-	-	-	-
暖温帯単子葉草本草原	-	-	-	2. 1026.00	1. 42.00	-	-	-	-	-	-	-
草本シダ群落	-	2. 1.50	-	2. 2.00	-	-	-	-	-	-	-	-
岩上、多礫地草本植生	8. 1893.70	4. 6.60	7. 389.00	4. 68.20	10. 365.20	1. 1.00	-	3. 555.00	-	7. 256.50	-	-
ツル植物群落	-	-	-	-	1. 5.00	-	-	-	-	-	-	-
蕨苔類植物群落	-	-	-	-	-	-	2. 146.10	-	-	-	-	-
浮葉・沈水植物群落	1. 1.00	1. 6320.00	3. 6.00	2. 4.50	3. 20.60	-	-	-	-	4. 35.00	-	1. 4.00
浮水植物群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1. 0.10	-	-
高山荒原植生	-	3. 0.50	-	-	3. 7.30	-	1. 24.00	-	-	2. 21.00	-	-
雪田植生	-	3. 212.70	-	-	2. 502.00	7. 883.70	3. 74.50	-	-	5. 7.50	-	-
火山荒原植生	3. 3609.00	3. 39.10	3. 163.80	1. 120.00	1. 12.00	2. 289.80	-	-	-	4. 1610.10	-	-

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
冷温帯夏緑広葉高木林	50. 41084.20	22. 4420.90	19. 12107.00	34. 1501.80	46. 20015.00	20. 6118.30	40. 3499.50	3. 238.00	10. 968.30	20. 7832.30	3. 19.50	-
暖温帯夏緑広葉高木林	-	-	-	3. 15.10	3. 1.90	1. 1.00	5. 55.40	-	3. 10.60	-	4. 6.50	2. 380.00
夏緑広葉高木植生	-	-	-	-	-	-	-	-	1. 1.00	-	-	-
亜寒帯常緑針葉低木林	1. 42.00	4. 259.20	-	-	3. 737.00	-	5. 85.00	-	2. 35.00	2. 701.00	-	-
冷温帯常緑針葉低木林	1. 103.40	1. 1.00	-	-	-	-	-	-	-	1. 925.00	-	-
暖温帯常緑針葉低木林	-	1. 2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
冷温帯常緑広葉低木林	-	2. 22.00	-	-	1. 270.00	-	-	-	-	1. 422.40	-	-
暖温帯常緑広葉低木林	-	-	-	-	1. 3.00	1. -	-	2. 1.20	-	-	-	1. 0.50
亜寒帯夏緑広葉低木林	2. 1480.00	8. 14.60	1. 500.00	-	2. 150.00	1. 26.00	1. 2.50	-	2. 69.00	2. 3570.00	1. 0.10	-
冷温帯夏緑広葉低木林	8. 187.70	2. 51.00	1. 4.00	1. 146.00	5. 11.00	2. 173.00	1. 1.50	-	-	2. 20.10	-	-
暖温帯夏緑広葉低木林	-	-	-	-	-	-	1. 4.00	-	1. 1.00	-	1. 0.10	-
亜寒帯広葉草原	-	-	-	-	-	-	-	-	1. 4.50	1. 0.50	-	-
冷温帯広葉草原	1. 47.00	-	-	-	-	-	-	-	-	3. 27.00	-	-
湿地植生	20. 30824.80	7. 1739.50	12. 359.00	9. 645.50	24. 493.30	15. 355.70	18. 447.50	5. 376.50	4. 276.00	14. 692.90	-	4. 43.40
河辺植生	-	-	-	4. 926.00	2. 38.00	-	-	-	-	-	-	-
海浜植生	20. 5568.00	12. 144.90	1. 15.00	8. 437.50	3. 196.50	-	-	-	-	-	-	9. 154.10
亜寒帯ササ原	2. 12580.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
個体(群)	3. 92.00	52. 30042.80	11. 578.20	10. 58.80	7. 47.60	8. 333.80	8. 33.80	7. 38.10	16. 123.40	46. 73.60	2. 294.10	6. 122.20
合計	220. 374312.09	159. 45563.40	90. 33424.50	140. 38071.41	168. 43891.1	88. 130249.61	115. 5751.80	63. 5504.50	61. 2142.60	146. 26033.60	52. 461.80	85. 2538.10

上段：件数，下段：面積 (ha)

	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重
植生一般	1. 700.00	1. 16.40	-	-	-	-	-	16. 196075.00	-	2. 1235.00	-	2. 567.00
亜寒帯植生	-	-	-	2. 13.00	-	-	2. 62.00	3. 19200.00	1. 8.00	6. 908.80	-	-
冷温帯植生	-	1. 43.90	-	2. 10.00	1. 40.00	1. 1.00	-	4. 1940.00	-	-	-	1. 75.00
暖温帯植生	11. 803.40	5. 39.30	-	1. 0.10	-	1. 3.00	-	1. 1000.00	1. 0.10	2. 54.00	7. 160.90	13. 5808.80
亜熱帯植生	-	-	1. 0.70	-	-	-	-	-	-	-	-	-
亜寒帯常緑針葉高木林	1. 150.00	-	2. 90.00	5. 19.00	1. 870.00	-	8. 1616.40	9. 4400.00	4. 625.00	4. 254.20	-	1. 3.00
冷温帯常緑針葉高木林	2. 9.00	-	5. 323.70	14. 19.30	4. 126.00	4. 2.20	5. 4930.00	9. 5820.60	11. 752.30	7. 330.00	1. 4.10	-
暖温帯常緑針葉高木林	-	3. 303.00	-	2. 1.20	7. 11.40	2. 0.50	2. 4.30	2. 448.00	7. 93.50	11. 470.80	3. 36.40	3. 80.80
常緑針葉高木植林	-	2. 26.20	1. 4.50	2. 7.60	-	2. 225.00	2. 15.30	1. 100.00	5. 67.20	13. 204.10	1. 29.10	2. 1.60
夏緑針葉高木林	-	-	-	1. 0.10	-	-	2. 2.00	1. 300.00	1. 1.00	3. 570.00	-	-
夏緑針葉植林	-	-	-	-	-	1. 1.00	-	-	-	-	-	-
暖温帯常緑針葉高木林	37. 2042.00	30. 130.40	22. 21.90	19. 17.00	50. 33.70	26. 98.40	13. 7.80	-	11. 225.70	37. 493.70	38. 165.00	35. 442.60
常緑広葉高木植林	1. 1.00	-	-	-	-	1. 1.00	-	-	-	-	-	-
亜寒帯夏緑広葉高木林	-	-	-	2. 4.10	-	-	3. 8.50	-	2. 62.00	-	-	-
冷温帯夏緑広葉高木林	2. 4080.00	19. 3555.40	32. 4254.50	32. 172.60	14. 1436.90	37. 543.50	20. 446.90	18. 6162.00	19. 1193.00	12. 1614.30	4. 189.00	9. 393.50
暖温帯夏緑広葉高木林	13. 682.30	12. 88.10	6. 4.70	6. 3.00	6. 4.90	2. 2.10	3. 3.80	-	4. 2.10	6. 113.80	3. 40.30	1. 0.50
夏緑広葉高木植林	1. 3.50	1. 6.80	1. 0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
亜寒帯常緑針葉低木林	-	-	1. 8.00	3. 10.30	1. 450.00	-	3. 71.60	-	1. 60.00	-	-	-
冷温帯常緑針葉低木林	-	-	-	-	-	1. 1.00	-	-	-	-	-	-
暖温帯常緑針葉低木林	1. 41.50	-	1. 4.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-
冷温帯常緑広葉低木林	-	-	2. 325.00	1. 0.10	-	-	-	-	2. 85.10	2. 6.60	-	1. 55.00
暖温帯常緑広葉低木林	1. 178.00	-	1. 0.40	1. 0.10	-	-	-	-	3. 20.90	1. 15.00	2. 12.00	4. 262.70
亜寒帯夏緑広葉低木林	-	-	-	3. 1.10	-	-	-	1. 100.00	1. 10.00	-	-	-
冷温帯夏緑広葉低木林	1. 100.00	4. 131.30	3. 4.50	-	-	1. 0.50	2. 21.50	3. 27.00	1. 1.00	1. 200.00	-	2. 222.00
暖温帯夏緑広葉低木林	-	-	1. 14.00	-	1. 0.10	-	-	-	3. 0.80	1. 5.00	3. 5.30	3. 8.00
冷温帯ササ原	-	1. 90.00	-	-	-	1. 1.00	-	-	4. 69.40	1. 50.00	-	-

上段：件数，下段：面積 (ha)

	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重
暖温带ササ原	1. 100.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
亜寒帯広葉草原	-	-	-	2. 0.30	-	-	3. 2.20	-	-	8. 43.40	-	-
冷温带広葉草原	-	1. -	1. 1.40	1. 0.10	-	-	4. 0.90	-	1. 1.00	-	-	-
暖温带広葉草原	-	-	-	-	1. 5.00	-	-	-	-	-	-	-
冷温带単子葉草本草原	-	-	-	-	-	-	1. 20.00	-	-	1. 2.00	-	1. 240.00
暖温带単子葉草本草原	1. 23.00	1. 20.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草本シダ群落	-	1. 0.50	2. 9.00	3. -	-	-	-	-	-	-	-	-
岩上・多雑地草本植生	-	3. 22.90	-	9. 1.10	-	3. 5.00	2. 3.20	2. 20.70	-	1. 0.10	-	1. 23.00
タケ形林	-	-	1. 5.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-
浮葉・沈水植物群落	-	-	7. 283.30	-	-	1. 2.00	-	-	-	1. 5.00	-	-
高山荒原植生	-	-	-	22. 0.30	1. 35.00	-	1. 100.00	-	3. 0.40	4. 62.00	-	-
菅田植生	-	-	1. -	10. 0.50	2. 33.00	-	-	-	3. 3.00	-	-	-
火山荒原植生	2. 829.00	1. 0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
湿地植生	2. 3.00	2. 12.10	10. 81.70	17. 11.90	7. 2.80	5. 5.50	-	7. 84.30	8. 24.10	6. 39.10	10. 36.30	5. 57.00
河辺植生	10. 264.50	1. 800.00	-	2. 4.50	-	-	-	-	-	-	-	-
海浜植生	2. 38.00	6. 15.30	7. 251.30	1. 5.00	5. 23.00	1. 50.00	-	-	-	4. 1.60	-	3. 23.50
亜寒帯ササ原	-	-	1. 35.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-
亜寒帯単子葉草本草原	-	-	-	-	-	-	-	1. 200.00	-	-	-	-
個体(群)	1. 0.90	4. 160.00	24. 651.20	3. 2.10	11. 11.20	7. 6.30	40. 443.00	17. 1376.70	22. 84.50	46. 323.80	15. 35.90	14. 487.50
合計	91. 10049.10	99. 5461.90	133. 6374.30	166. 304.40	112. 3083.00	97. 949.00	116. 7759.4	89. 237254.30	118. 3390.10	180. 7002.30	87. 714.30	101. 8751.50

上段：件数，下段：面積 (ha)

	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島
植生一般	-	-	-	-	2.	7.	2.	-	1.	11.	-	2.
	-	-	-	-	6571.60	721.00	-	-	50.00	3060.20	-	700.00
亜寒帯植生	-	-	-	-	-	-	1.	-	-	-	-	-
冷温帯植生	1.	1.	-	1.	1.	1.	1.	-	-	2.	1.	1.
	618.70	10.00	-	50.00	500.00	226.80	-	-	-	110.90	500.00	300.00
暖温帯植生	1.	5.	-	-	4.	8.	4.	-2.	7.	22.	5.	4.
	13.00	145.00	-	-	174.50	386.30	12.00	32.00	134.50	3598.30	125.20	64.00
亜寒帯常緑針葉高木林	-	-	-	-	1.	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	200.00	-	-	-	-	-	-	-
冷温帯常緑針葉高木林	3.	5.	-	4.	1.	5.	7.	5.	2.	2.	-	3.
	87.00	2041.00	-	306.50	0.50	102.50	9.50	65.00	18.00	33.10	-	164.50
暖温帯常緑針葉高木林	8.	10.	2.	5.	6.	7.	3.	12.	6.	12.	9.	3.
	32.50	135.00	14.60	12.50	89.90	289.00	53.00	430.00	92.70	3174.30	98.60	7.00
常緑針葉高木植林	6.	1.	-	-	2.	5.	-	-	4.	3.	4.	-
	374.30	5.00	-	-	4.20	107.80	-	-	9.50	35.00	5.50	-
暖温帯常緑広葉高木林	42.	20.	26.	66.	11.	39.	23.	102.	44.	29.	100.	28.
	73.40	182.00	35.30	154.70	35.20	200.70	69.00	568.70	104.90	581.00	1159.80	115.10
常緑広葉高木植林	1.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
冷温帯夏緑広葉高木林	25.	7.	2.	8.	5.	4.	14.	10.	7.	10.	8.	8.
	663.20	242.00	2.00	572.10	220.00	142.50	908.30	780.00	487.00	899.40	127.50	938.50
暖温帯夏緑広葉高木林	14.	3.	1.	2.	1.	2.	8.	1.	2.	3.	6.	3.
	91.50	8.00	40.00	2.10	2.00	22.00	8.80	2.00	9.00	195.50	305.30	5.00
冷温帯常緑針葉低木林	1.	-	-	1.	-	-	-	-	-	-	-	-
	3.80	-	-	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-
暖温帯常緑針葉低木林	-	-	-	-	-	-	-	1.	-	-	-	1.
	-	-	-	-	-	-	-	0.50	-	-	-	1.00
亜熱帯常緑針葉低木林	-	-	-	-	-	-	1.	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	0.00	-	-	-	-	-
冷温帯常緑広葉低木林	1.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
暖温帯常緑広葉低木林	1.	-	-	3.	-	5.	-	5.	-	2.	3.	2.
	2.00	-	-	19.20	-	184.60	-	17.00	-	60.80	26.10	12.00
冷温帯夏緑広葉低木林	6.	1.	-	-	-	-	2.	-	1.	-	1.	2.
	153.00	5.00	-	-	-	-	27.00	-	30.00	-	0.20	25.00
暖温帯夏緑広葉低木林	-	-	-	1.	-	3.	-	3.	-	-	3.	3.
	-	-	-	0.20	-	67.00	-	-	-	-	3.40	75.00
冷温帯ササ原	2.	-	-	-	-	-	1.	-	-	-	1.	-
	53.00	-	-	-	-	-	45.00	-	-	-	5.00	-
冷温帯広葉草原	1.	-	-	-	-	-	-	1.	-	-	-	-
	65.10	-	-	-	-	-	-	15.00	-	-	-	-
冷温帯単子葉草原	-	-	-	-	1.	-	1.	-	-	1.	-	-
	-	-	-	-	5.00	-	10.00	-	-	100.00	-	-
暖温帯単子葉草原	-	-	-	-	2.	1.	-	-	-	1.	1.	1.
	-	-	-	-	69.80	34.00	-	-	-	0.20	1270.00	10.00
草本シダ群落	-	-	-	-	-	-	-	2.	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	0.70	-	-	-	-
岩上、多礫地草本植生	-	-	-	-	-	-	-	9.	-	-	2.	-
	-	-	-	-	-	-	-	12.50	-	-	31.00	-
浮葉・沈水植物群落	-	4.	-	-	-	-	-	-	-	2.	-	2.
	-	6.00	-	-	-	-	-	-	-	12.80	-	10.20

上段：件数，下段：面積 (ha)

	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島
湿地植生	17. 184.20	4. 13.20	-	7. 4.80	-	5. 19.30	2. 2.00	3. 2.60	7. 8.40	9. 76.80	8. 60.50	5. 43.90
河辺植生	3. 10.80	2. 30.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
海浜植生	6. 0.20	1. 5.00	-	3. 2.00	-	4. 4.90	1. 180.00	12. 115.60	-	5. 69.90	3. 1.10	2. 0.70
佃体(群)	14. 55.10	19. 5.70	-	2. -	3. 2.10	9. 10.80	3. -	12. 241.20	1. 1.00	10. 281.30	41. 818.60	14. 380.00
合計	153. 2484.30	83. 2832.90	31. 91.90	103. 1124.90	40. 7874.80	105. 2519.20	74. 1324.60	180. 2282.80	82. 945.00	124. 12289.50	196. 4537.80	84. 2851.90

上段：件数，下段：面積 (ha)

	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
植生一般	-	-	3.	2.	2.	1.	2.	5.	2.	-	-
	-	-	2290.00	226.00	150.00	10.00	1100.00	9104.00	2100.60	-	-
冷温帯植生	-	-	6.	2.	-	1.	4.	2.	4.	-	-
	-	-	5690.00	734.00	-	20.00	3850.00	736.00	6965.90	-	-
暖温帯植生	-	-	8.	4.	1.	1.	-	3.	6.	-	-
	-	-	643.00	692.50	40.00	3.00	-	450.40	3247.00	-	-
亜熱帯植生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.	10.
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.00	746.90
亜寒帯常緑針葉高木林	-	1.	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	50.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-
冷温帯常緑針葉高木林	-	5.	1.	2.	-	-	-	1.	3.	1.	-
	-	217.00	208.00	0.30	-	-	-	4.80	300.20	15.00	-
暖温帯常緑針葉高木林	4.	5.	15.	6.	3.	2.	5.	-	8.	3.	-
	328.60	33.50	1148.00	180.50	306.00	72.00	129.00	-	859.70	1799.00	-
亜熱帯常緑針葉高木林	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.00
常緑針葉高木植林	-	1.	-	3.	-	-	-	1.	1.	2.	4.
	-	50.00	-	609.70	-	-	-	1.50	5.10	1600.00	30.00
夏緑針葉植林	-	2.	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	52.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-
暖温帯常緑広葉高木林	20.	13.	25.	45.	15.	34.	23.	32.	58.	17.	-
	238.30	120.50	373.00	673.60	106.30	816.80	403.10	2671.40	7716.30	1647.00	-
亜熱帯常緑広葉高木林	-	-	-	-	-	-	-	1.	1.	6.	73.
	-	-	-	-	-	-	-	0.10	0.30	922.50	4037.50
常緑広葉高木植林	-	1.	-	2.	1.	-	2.	-	1.	2.	2.
	-	2.50	-	69.00	5.00	-	0.60	-	3.50	35.00	2.30
亜寒帯夏緑広葉高木林	-	1.	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	5.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-
冷温帯夏緑広葉高木林	2.	3.	1.	2.	2.	2.	4.	4.	11.	5.	-
	10.00	126.00	300.00	249.00	70.00	492.00	3087.00	255.00	5215.50	189.00	-
暖温帯夏緑広葉高木林	1.	-	-	5.	4.	1.	4.	4.	1.	-	-
	3.00	-	-	64.10	44.00	1.00	45.70	24.70	0.10	-	-
亜熱帯夏緑広葉高木林	-	-	-	-	-	-	-	-	1.	-	2.
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	110.10
夏緑広葉高木植林	1.	-	-	-	-	-	-	-	-	1.	-
	6.00	-	-	-	-	-	-	-	-	2.20	-
冷温帯常緑針葉低木林	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.20	-
暖温帯常緑針葉低木林	-	-	-	-	1.	14.	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	0.10	18.20	-	-	-	-	-
亜熱帯常緑針葉低木林	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.	2.
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.20	1.10
冷温帯常緑広葉低木林	-	1.	-	-	1.	2.	-	-	-	1.	-
	-	5.50	-	-	2.30	90.10	-	-	-	250.00	-
暖温帯常緑広葉低木林	-	5.	-	4.	1.	5.	2.	1.	2.	2.	-
	-	6.60	-	22.20	0.10	185.00	4.10	930.00	5.00	30.00	-
亜熱帯常緑広葉低木林	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.	16.
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	434.00	79.30
亜寒帯夏緑広葉低木林	-	2.	-	-	-	-	-	-	1.	-	-
	-	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-
冷温帯夏緑広葉低木林	-	2.	-	-	1.	1.	1.	-	3.	1.	-
	-	103.00	-	-	5.00	2.00	200.00	-	620.30	50.00	-

上段：件数，下段：面積 (ha)

	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
暖温帯夏緑広葉低木林	1. 2.00	1. 0.50	8. 230.00	1. 5.50	-	6. 3.50	1. 0.50	4. 87.20	4. 2.80	2. 153.00	-
冷温帯ササ原	-	2. 20.10	1. 190.00	-	-	-	-	-	-	1. 250.00	-
暖温帯ササ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1. 5.00	-
亜熱帯ササ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1. 90.00	-
亜寒帯広葉草原	-	2. 1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-
冷温帯広葉草原	-	2. 20.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-
暖温帯広葉草原	-	1. 1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-
冷温帯単子葉草本草原	-	-	-	-	-	-	-	1. 333.00	-	-	-
暖温帯単子葉草本草原	-	-	1. 5.00	3. 116.20	1. 0.10	4. -	2. -	1. 14.60	1. 0.50	1. 150.00	-
亜熱帯単子葉草本草原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6. 23.50
草本シダ群落	-	-	1. 1.00	-	1. 0.10	-	-	-	-	-	1. -
岩上、多隙地草本植生	-	-	-	-	2. 8.30	7. 4.10	-	-	3. 54.00	-	1. 6.00
タケ形林	-	-	-	1. 0.00	-	-	-	-	1. 70.00	2. 2.00	-
ヤシ形林	-	1. 0.30	1. 2.00	-	-	-	-	-	2. 14.00	2. 47.00	15. 160.50
マングローブ林	-	-	-	-	-	2. 1.00	1. 0.10	-	-	4. 75.50	8. 262.00
浮葉・沈水植物群落	-	-	-	3. 14.00	2. 0.50	-	-	1. 29.40	3. 0.60	-	1. -
火山荒原植生	-	-	-	-	-	-	1. 2000.00	-	1. 60.00	2. 2510.00	1. 0.30
湿地植生	-	1. 1.20	1. 0.50	4. 4.60	5. 10.70	1. -	3. 2.30	3. 60.00	7. 4.10	2. 62.00	3. 43.00
河辺植生	-	-	-	-	1. 3.80	-	-	-	-	-	-
海浜植生	1. 20.00	4. 6.00	-	11. 60.40	10. 30.20	5. 18.10	3. 1.50	2. 30.50	7. 96.00	8. 317.10	15. 142.40
個体(群)	4. 7.50	17. 89.10	6. 17.30	6. 13.20	11. 1005.50	14. 26.00	35. 45.00	7. 158.10	33. 3054.60	19. 108.60	4. 2.50
合計	34. 319.40	75. 911.70	78. 11097.80	106. 3734.80	65. 1788.00	103. 1764.80	93. 10868.90	73. 14890.70	165. 30396.10	94. 10750.30	165. 6471.80

上段：件数，下段：面積 (ha)

表5.11-3 相観区分別面積区分別の件数

面積区分

相観区分	~1ha	~10ha	~50ha	~100ha	~500ha	~5000ha	10000ha~	合計		
						~1000ha	~10000ha			
植生一般	2.	-	9.	9.	30.	13.	18.	12.	8.	101.
	2.00	-	9.00	9.00	30.00	13.00	18.00	12.00	8.00	
	0.14	-	1.03	3.36	6.74	11.50	13.14	50.00	47.06	2.19
亜寒帯植生	1.	7.	8.	7.	12.	8.	20.	3.	5.	71.
	1.41	9.86	11.27	9.86	16.90	11.27	28.17	4.23	7.04	
	0.07	0.40	0.92	2.61	2.70	7.08	14.60	12.50	29.41	1.40
冷温帯植生	3.	13.	17.	7.	23.	11.	17.	2.	1.	94.
	3.19	13.83	18.09	7.45	24.47	11.70	18.09	2.13	1.06	
	0.20	0.75	1.95	2.61	5.17	9.73	12.41	8.33	5.88	1.85
暖温帯植生	20.	50.	48.	25.	25.	4.	4.	1.	-	177.
	11.30	28.25	27.12	14.12	14.12	2.26	2.26	0.56	-	
	1.37	2.87	5.51	9.33	5.62	3.54	2.92	4.17	-	3.48
亜熱帯植生	4.	1.	3.	1.	3.	-	-	-	-	12.
	33.33	8.33	25.00	8.33	25.00	-	-	-	-	
	0.27	0.06	0.34	0.37	0.67	-	-	-	-	0.24
亜寒帯常緑針葉高木林	6.	23.	14.	7.	16.	7.	12.	2.	-	87.
	6.90	26.44	16.09	8.05	18.39	8.05	13.79	2.30	-	
	0.41	1.32	1.61	2.61	3.60	6.19	8.76	8.33	-	1.71
冷温帯常緑針葉高木林	30.	67.	54.	10.	28.	8.	7.	-	-	204.
	14.71	32.84	26.47	4.90	13.73	3.92	3.43	-	-	
	2.05	3.85	6.20	3.73	6.29	7.08	5.11	-	-	4.01

上段：件数，中段：相観区分合計に対する割合（％），下段：面積区分合計に対する割合（％）

## 面積区分

相 観 区 分	~1ha	~10ha	~50ha	~100ha	~500ha ~1000ha	~5000ha ~10000ha	10000ha~	合 計
暖温帯	35.	78.	48.	26.	19.	1.	2.	209.
常緑針葉	16.75	37.32	22.97	12.44	9.09	0.48	0.96	
高木林	2.39	4.48	5.51	9.70	4.27	0.88	1.46	4.11
亜熱帯	-	-	1.	-	-	-	-	1.
常緑針葉	-	-	100.00	-	-	-	-	
高木林	-	-	0.11	-	-	-	-	0.02
常緑針葉	14.	40.	20.	6.	6.	2.	3.	91.
高木植林	15.38	43.96	21.98	6.59	6.59	2.20	3.30	
	0.96	2.30	2.30	2.24	1.35	1.77	2.19	1.79
夏緑針葉	1.	4.	1.	1.	3.	1.	-	11.
高木植林	9.09	36.36	9.09	9.09	27.27	9.09	-	
	0.07	0.23	0.11	0.37	0.67	0.88	-	0.22
夏緑針葉	-	3.	-	1.	-	-	-	4.
植林	-	75.00	-	25.00	-	-	-	
	-	0.17	-	0.37	-	-	-	0.08
暖温帯	422.	594.	159.	26.	34.	5.	3.	1243.
常緑広葉	33.95	47.79	12.79	2.09	2.74	0.40	0.24	
高木林	28.81	34.12	18.25	9.70	7.64	4.42	2.19	24.46
亜熱帯	32.	24.	10.	2.	10.	1.	2.	81.
常緑広葉	39.51	29.63	12.35	2.47	12.35	1.23	2.47	
高木林	2.18	1.38	1.15	0.75	2.25	0.88	1.46	1.59

上段：件数，中段：相観区分合計に対する割合（％），下段：面積区分合計に対する割合（％）

## 面積区分

相 観 区 分	~1ha	~10ha	~50ha	~100ha	~500ha	~5000ha	10000ha~	合 計		
						~1000ha	~10000ha			
常緑広葉	3.	8.	5.	-	-	-	-	16.		
高木植林	18.75	50.00	31.25	-	-	-	-			
	0.20	0.46	0.57	-	-	-	-	0.31		
亜寒帯	2.	8.	-	1.	1.	-	2.	14.		
夏緑広葉	14.29	57.14	-	7.14	7.14	-	14.29			
高木林	0.14	0.46	-	0.37	0.22	-	1.46	0.28		
冷温帯	70.	166.	158.	60.	113.	29.	30.	2.	629.	
夏緑広葉	11.13	26.39	25.12	9.54	17.97	4.61	4.77	0.32	0.16	
高木林	4.78	9.53	18.14	22.39	25.39	25.66	21.90	8.33	5.88	12.38
暖温帯	59.	63.	18.	4.	4.	1.	-	-	-	149.
夏緑広葉	39.60	42.28	12.08	2.68	2.68	0.67	-	-	-	
高木林	4.03	3.62	2.07	1.49	0.90	0.88	-	-	-	2.93
亜熱帯	2.	-	-	-	1.	-	-	-	-	3.
夏緑広葉	66.67	-	-	-	33.33	-	-	-	-	
高木林	0.14	-	-	-	0.22	-	-	-	-	0.06
夏緑広葉	1.	5.	-	-	-	-	-	-	-	6.
高木植林	16.67	83.33	-	-	-	-	-	-	-	
	0.07	0.29	-	-	-	-	-	-	-	0.12
亜寒帯	4.	8.	8.	2.	2.	2.	-	-	-	26.
常緑針葉	15.38	30.77	30.77	7.69	7.69	7.69	-	-	-	
低木林	0.27	0.46	0.92	0.75	0.45	1.77	-	-	-	0.51

上段：件数，中段：相観区分合計に対する割合（％），下段：面積区分合計に対する割合（％）

## 面積区分

相 観 区 分	~1ha	~10ha	~50ha	~100ha	~500ha ~1000ha	~5000ha ~10000ha	10000ha~	合 計
冷温帯	2.	3.	-	-	1.	1.	-	7.
常緑針葉	28.57	42.86	-	-	14.29	14.29	-	
低木林	0.14	0.17	-	-	0.22	0.88	-	0.14
暖温帯	10.	9.	1.	-	-	-	-	20.
常緑針葉	50.00	45.00	5.00	-	-	-	-	
低木林	0.68	0.52	0.11	-	-	-	-	0.39
亜熱帯	3.	1.	-	-	-	-	-	4.
常緑広葉	75.00	25.00	-	-	-	-	-	
低木林	0.20	0.06	-	-	-	-	-	0.08
冷温帯	3.	5.	2.	3.	5.	-	-	18.
常緑広葉	16.67	27.78	11.11	16.67	27.78	-	-	
低木林	0.20	0.29	0.23	1.12	1.12	-	-	0.35
暖温帯	19.	20.	15.	2.	4.	1.	-	61.
常緑広葉	31.15	32.79	24.59	3.28	6.56	1.64	-	
低木林	1.30	1.15	1.72	0.75	0.90	0.88	-	1.20
亜熱帯	5.	12.	2.	-	2.	-	-	21.
常緑広葉	23.81	57.14	9.52	-	9.52	-	-	
低木林	0.34	0.69	0.23	-	0.45	-	-	0.41
亜寒帯	10.	7.	2.	3.	3.	1.	2.	28.
夏緑広葉	35.71	25.00	7.14	10.71	10.71	3.57	7.14	
低木林	0.68	0.40	0.23	1.12	0.67	0.88	1.46	0.55

上段：件数，中段：相観区分合計に対する割合（％），下段：面積区分合計に対する割合（％）

面積区分

相観区分	～1ha	～10ha	～50ha	～100ha	～500ha	～1000ha	～5000ha	10000ha～	合計
冷温帯	10.	22.	18.	4.	7.	1.	-	-	62.
夏緑広葉	16.13	35.48	29.03	6.45	11.29	1.61	-	-	
低木林	0.68	1.26	2.07	1.49	1.57	0.88	-	-	1.22
暖温帯	23.	19.	9.	3.	2.	-	-	-	56.
夏緑広葉	41.07	33.93	16.07	5.36	3.57	-	-	-	
低木林	1.57	1.09	1.03	1.12	0.45	-	-	-	1.10
冷温帯	2.	5.	3.	3.	2.	-	-	-	15.
ササ原	13.33	33.33	20.00	20.00	13.33	-	-	-	
	0.14	0.29	0.34	1.12	0.45	-	-	-	0.30
暖温帯	-	1.	-	-	1.	-	-	-	2.
ササ原	-	50.00	-	-	50.00	-	-	-	
	-	0.06	-	-	0.22	-	-	-	0.04
亜熱帯	-	-	-	1.	-	-	-	-	1.
ササ原	-	-	-	100.00	-	-	-	-	
	-	-	-	0.37	-	-	-	-	0.02
亜寒帯	7.	8.	2.	-	-	-	-	-	17.
広葉草原	41.18	47.06	11.76	-	-	-	-	-	
	0.48	0.46	0.23	-	-	-	-	-	0.33
冷温帯	8.	3.	4.	1.	-	-	-	-	16.
広葉草原	50.00	18.75	25.00	6.25	-	-	-	-	
	0.55	0.17	0.46	0.37	-	-	-	-	0.31

上段：件数，中段：相観区分合計に対する割合（％），下段：面積区分合計に対する割合（％）

## 面積区分

相 観 区 分	～1ha	～10ha	～50ha	～100ha	～500ha ～1000ha	～5000ha ～10000ha	10000ha～	合 計
暖温帯 広葉草原	-	3.	-	-	-	-	-	3.
	-	100.00	-	-	-	-	-	
	-	0.17	-	-	-	-	-	0.06
冷温帯 単子葉 草本草原	-	3.	2.	1.	4.	1.	1.	12.
	-	25.00	16.67	8.33	33.33	8.33	8.33	
	-	0.17	0.23	0.37	0.90	0.88	0.73	0.24
暖温帯 単子葉 草本草原	9.	2.	9.	-	3.	1.	1.	25.
	36.00	8.00	36.00	-	12.00	4.00	4.00	
	0.61	0.11	1.03	-	0.67	0.88	0.73	0.49
亜熱帯 単子葉 草本草原	1.	4.	1.	-	-	-	-	6.
	16.67	66.67	16.67	-	-	-	-	
	0.07	0.23	0.11	-	-	-	-	0.12
草本シダ 群落	9.	6.	-	-	-	-	-	15.
	60.00	40.00	-	-	-	-	-	
	0.61	0.34	-	-	-	-	-	0.30
岩上, 多礫地 草本植生	34.	25.	11.	5.	13.	1.	-	89.
	38.20	28.09	12.36	5.62	14.61	1.12	-	
	2.32	1.44	1.26	1.87	2.92	0.88	-	1.75
タケ形林	1.	3.	-	1.	-	-	-	5.
	20.00	60.00	-	20.00	-	-	-	
	0.07	0.17	-	0.37	-	-	-	0.10

上段：件数，中段：相観区分合計に対する割合（％），下段：面積区分合計に対する割合（％）

## 面積区分

相 観 区 分	～1ha	～10ha	～50ha	～100ha	～500ha	～5000ha	10000ha～	合 計
						～1000ha	～10000ha	
ヤシ形林	4.	10.	6.	1.	-	-	-	21.
	19.05	47.62	28.57	4.76	-	-	-	
	0.27	0.57	0.69	0.37	-	-	-	0.41
マング ローブ 林	3.	8.	1.	2.	1.	-	-	15.
	20.00	53.33	6.67	13.33	6.67	-	-	
	0.20	0.46	0.11	0.75	0.22	-	-	0.30
ツル植物 群落	-	1.	-	-	-	-	-	1.
	-	100.00	-	-	-	-	-	
	-	0.06	-	-	-	-	-	0.02
蘚苔類 植物群落	1.	-	-	-	1.	-	-	2.
	50.00	-	-	-	50.00	-	-	
	0.07	-	-	-	0.22	-	-	0.04
浮葉・ 沈水 植物群落	13.	19.	6.	2.	1.	-	1.	42.
	30.95	45.24	14.29	4.76	2.38	-	2.38	
	0.89	1.09	0.69	0.75	0.22	-	4.17	0.83
浮水植物 群落	1.	-	-	-	-	-	-	1.
	100.00	-	-	-	-	-	-	
	0.07	-	-	-	-	-	-	0.02
高山荒原 植生	30.	4.	5.	-	1.	-	-	40.
	75.00	10.00	12.50	-	2.50	-	-	
	2.05	0.23	0.57	-	0.22	-	-	0.79

上段：件数，中段：相観区分合計に対する割合（％），下段：面積区分合計に対する割合（％）

## 面積区分

相 観 区 分	面積区分									合 計
	~1ha	~10ha	~50ha	~100ha	~500ha ~1000ha	~5000ha ~10000ha	10000ha~			
雪田植生	18.	4.	6.	3.	4.	1.	-	-	-	36.
	50.00	11.11	16.67	8.33	11.11	2.78	-	-	-	
	1.23	0.23	0.69	1.12	0.90	0.88	-	-	-	0.71
火山荒原 植生	6.	2.	4.	2.	4.	4.	3.	-	-	25.
	24.00	8.00	16.00	8.00	16.00	16.00	12.00	-	-	
	0.41	0.11	0.46	0.75	0.90	3.54	2.19	-	-	0.49
湿地植生	100.	109.	64.	10.	17.	2.	5.	-	1.	308.
	32.47	35.39	20.78	3.25	5.52	0.65	1.62	-	0.32	
	6.83	6.26	7.35	3.73	3.82	1.77	3.65	-	5.88	6.06
河辺植生	1.	12.	7.	3.	-	2.	-	-	-	25.
	4.00	48.00	28.00	12.00	-	8.00	-	-	-	
	0.07	0.69	0.80	1.12	-	1.77	-	-	-	0.49
海浜植生	65.	53.	41.	9.	14.	1.	2.	-	-	185.
	35.14	28.65	22.16	4.86	7.57	0.54	1.08	-	-	
	4.44	3.04	4.71	3.36	3.15	0.88	1.46	-	-	3.64
亜寒帯 ササ原	-	-	1.	-	-	-	1.	1.	-	3.
	-	-	33.33	-	-	-	33.33	33.33	-	
	-	-	0.11	-	-	-	0.73	4.17	-	0.06
亜寒帯 単子葉 草本草原	-	-	-	-	1.	-	-	-	-	1.
	-	-	-	-	100.00	-	-	-	-	
	-	-	-	-	0.22	-	-	-	-	0.02

上段：件数，中段：相観区分合計に対する割合（％），下段：面積区分合計に対する割合（％）

面積区分

相 観 区 分	～1ha	～10ha	～50ha	～100ha	～500ha	～1000ha	～5000ha	～10000ha	10000ha～	合 計
個 体 ( 群 )	56.	196.	68.	14.	24.	3.	2.	-	1.	664.
	53.61	29.52	10.24	2.11	3.61	0.45	0.30	-	0.15	
	24.30	11.26	7.81	5.22	5.39	2.65	1.46	-	5.88	13.07
合 計	1465.	1741.	871.	268.	445.	113.	137.	24.	17.	5081.
	28.83	34.26	17.14	5.27	8.76	2.22	2.70	0.47	0.33	

上段：件数，中段：相観区分合計に対する割合（％），下段：面積区分合計に対する割合（％）

表5.11-4 相観区分別保護制度別の件数

保護制度	植生一般	亜寒帯植生	冷温帯植生	暖温帯植生	亜熱帯植生	亜寒帯常緑針高木林	冷温帯常緑針高木林	暖温帯常緑針高木林	亜熱帯常緑針高木林	常緑針葉高木植林	夏緑針葉高木林	夏緑針葉植林	暖温帯常緑広葉高木林	亜熱帯常緑広葉高木林	常緑広葉高木植林	亜寒帯夏緑広葉高木林	冷温帯夏緑広葉高木林	暖温帯夏緑広葉高木林	亜熱帯夏緑広葉高木林	夏緑広葉高木植林
保護制度なし	20. 17.86	15. 20.27	25. 23.15	90. 46.63	10. 71.43	19. 19.79	82. 38.14	121. 50.00	0. 0.00	70. 53.85	2. 16.67	2. 33.33	788. 60.90	61. 73.49	7. 43.75	2. 14.29	278. 40.12	111. 60.66	1. 33.33	5. 71.43
保護制度あり	92. 82.14	59. 79.73	83. 76.85	103. 53.37	4. 28.57	77. 80.21	133. 61.86	121. 50.00	1. 100.00	60. 46.15	10. 83.33	4. 66.67	506. 39.10	22. 26.51	9. 56.25	12. 85.71	415. 59.88	72. 39.34	2. 66.67	2. 28.57
-----																				
国立公園																				
特別保護地区	1. 1.09	8. 13.56	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	4. 5.19	2. 1.50	2. 1.65	0. 0.00	1. 1.67	1. 10.00	0. 0.00	20. 3.95	0. 0.00	0. 0.00	4. 33.33	8. 1.93	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
特別地域	3. 3.26	6. 10.17	6. 7.23	9. 8.74	0. 0.00	25. 32.47	25. 18.80	17. 14.05	0. 0.00	11. 18.33	4. 40.00	0. 0.00	83. 16.40	5. 22.73	1. 11.11	6. 50.00	67. 16.14	11. 15.28	0. 0.00	0. 0.00
普通地域	1. 1.09	0. 0.00	1. 1.20	0. 0.00	0. 0.00	4. 5.19	5. 3.76	1. 0.83	0. 0.00	2. 3.33	1. 10.00	0. 0.00	10. 1.98	3. 13.64	0. 0.00	0. 0.00	7. 1.69	1. 1.39	0. 0.00	1. 50.00
上記の重複	20. 21.74	17. 28.81	3. 3.61	5. 4.85	0. 0.00	16. 20.78	5. 3.76	7. 5.79	0. 0.00	1. 1.67	2. 20.00	0. 0.00	13. 2.57	0. 0.00	0. 0.00	1. 8.33	22. 5.30	2. 2.78	0. 0.00	0. 0.00
国立公園																				
区分不明	2. 2.17	4. 6.78	1. 1.20	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.30	1. 0.75	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.20	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	6. 1.45	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
特別保護地区	3. 3.26	1. 1.69	1. 1.20	4. 3.88	0. 0.00	1. 1.30	1. 0.75	1. 0.83	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	10. 1.98	1. 4.55	1. 11.11	0. 0.00	10. 2.41	1. 1.39	0. 0.00	0. 0.00
特別地域	14. 15.21	3. 5.08	18. 21.69	22. 21.36	3. 75.00	3. 3.90	21. 15.79	25. 20.66	0. 0.00	13. 21.67	1. 10.00	0. 0.00	122. 24.11	5. 22.73	3. 33.33	1. 8.33	83. 20.00	14. 19.44	2. 100.00	0. 0.00
普通地域	2. 2.17	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.97	0. 0.00	0. 0.00	3. 2.26	1. 0.83	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	4. 0.79	4. 18.18	0. 0.00	0. 0.00	5. 1.20	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
上記の重複	6. 6.52	3. 5.08	5. 6.02	4. 3.88	0. 0.00	1. 1.30	6. 4.51	3. 2.48	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	12. 2.37	1. 4.55	0. 0.00	0. 0.00	25. 6.02	1. 1.39	0. 0.00	0. 0.00
原生自然環境保全地域	1. 1.09	2. 3.39	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.30	0. 0.00	1. 0.83	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00

(注) 上段は件数。破線以下の下段の数値は、保護制度のもとに存在するもののなかの割合(%)。

保護制度	植生 一般	亜寒帯 植生	冷温帯 植生	暖温帯 植生	亜熱帯 植生	亜寒帯 常緑針 高木林	冷温帯 常緑針 高木林	暖温帯 常緑針 高木林	亜熱帯 常緑針 高木林	常緑針 葉高木 植林	夏緑 針葉 高木林	夏緑 針葉 植林	暖温帯 常緑広 高木林	亜熱帯 常緑広 高木林	常緑広 葉高木 植林	亜寒帯 夏緑広 高木林	冷温帯 夏緑広 高木林	暖温帯 夏緑広 高木林	亜熱帯 夏緑広 高木林	夏緑広 葉高木 植林	
自然環境保全地域																					
区分不明	2. 2.17	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
特別地区	3. 3.26	1. 1.69	1. 1.20	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.30	1. 0.75	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.20	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.24	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
普通地域	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.75	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
都道府県立公園																					
区分不明	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 0.97	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 0.40	0. 0.00	1. 11.11	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
特別地域	10. 10.87	9. 15.25	14. 16.87	8. 7.77	0. 0.00	8. 10.39	16. 12.03	18. 14.88	0. 0.00	9. 15.00	1. 10.00	1. 25.00	59. 11.66	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	45. 10.84	11. 15.28	0. 0.00	1. 50.00	0. 0.00
普通地域	8. 8.70	0. 0.00	17. 20.48	17. 16.50	0. 0.00	0. 0.00	11. 8.27	23. 19.01	0. 0.00	8. 13.33	0. 0.00	0. 0.00	100. 19.76	1. 4.55	2. 22.22	0. 0.00	46. 11.08	18. 25.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
上記の重複	5. 5.43	1. 1.69	4. 4.82	4. 3.88	0. 0.00	1. 1.30	6. 4.51	4. 3.31	0. 0.00	3. 5.00	0. 0.00	0. 0.00	7. 1.38	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	14. 3.37	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
都道府県自然環境保全地域																					
区分不明	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.20	3. 2.91	0. 0.00	0. 0.00	2. 1.50	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	4. 0.79	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	5. 1.20	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
特別地域	4. 4.35	2. 3.39	5. 6.02	6. 5.83	0. 0.00	6. 7.79	12. 9.02	9. 7.44	0. 0.00	3. 5.00	0. 0.00	1. 25.00	16. 3.16	1. 4.55	0. 0.00	0. 0.00	24. 5.78	3. 4.17	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
普通地域	0. 0.00	1. 1.69	4. 4.82	8. 7.77	0. 0.00	3. 3.90	8. 6.02	7. 5.79	1. 100.00	6. 10.00	0. 0.00	0. 0.00	36. 7.11	0. 0.00	1. 11.11	0. 0.00	29. 6.99	7. 9.72	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
上記の重複	7. 7.61	1. 1.69	2. 2.41	11. 10.68	1. 25.00	2. 2.60	7. 5.26	2. 1.65	0. 0.00	3. 5.00	0. 0.00	2. 50.00	6. 1.19	1. 4.55	0. 0.00	0. 0.00	18. 4.34	3. 4.17	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
合計	112.	74.	108.	193.	14.	96.	215.	242.	1.	130.	12.	6.	1294.	83.	16.	14.	693.	183.	3.	7.	

(注) 上段は件数。下段は、保護制度のもとに存在するもののなかの割合(%)。合計は、「保護制度あり」及び「保護制度なし」の計。

保護制度	亜寒帯 常緑針 低木林	冷温帯 常緑針 低木林	暖温帯 常緑針 低木林	亜熱帯 常緑針 低木林	冷温帯 常緑広 低木林	暖温帯 常緑広 低木林	亜熱帯 常緑広 低木林	亜寒帯 夏緑広 低木林	冷温帯 夏緑広 低木林	暖温帯 夏緑広 低木林	冷温帯 ササ原	暖温帯 ササ原	亜熱帯 ササ原	亜寒帯 広葉 草原	冷温帯 広葉 草原	暖温帯 広葉 草原	冷温帯 単子葉 草原	暖温帯 単子葉 草原	亜熱帯 単子葉 草原	草本 シダ 群落
保護制度なし	2. 7.69	1. 14.29	3. 15.00	2. 50.00	4. 22.22	29. 38.16	17. 80.95	11. 35.48	29. 32.95	35. 43.75	2. 10.53	4. 80.00	1. 100.00	4. 23.53	6. 23.08	6. 66.67	4. 26.67	14. 42.42	3. 50.00	18. 56.25
保護制度あり	24. 92.31	6. 85.71	17. 85.00	2. 50.00	14. 77.78	47. 61.84	4. 19.05	20. 64.52	59. 67.05	45. 56.25	17. 89.47	1. 20.00	0. 0.00	13. 76.47	20. 76.92	3. 33.33	11. 73.33	19. 57.58	3. 50.00	14. 43.75
-----																				
国立公園																				
特別保護地区	6. 25.00	1. 16.67	0. 0.00	0. 0.00	2. 14.29	3. 6.38	0. 0.00	2. 10.00	5. 8.47	2. 4.44	1. 5.88	0. 0.00	0. 0.00	7. 53.85	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 7.14
特別地域	7. 29.17	1. 16.67	3. 17.65	0. 0.00	2. 14.29	12. 25.53	0. 0.00	4. 20.00	3. 5.08	10. 22.22	2. 11.76	1. 100.00	0. 0.00	4. 30.77	0. 0.00	0. 0.00	1. 9.09	3. 15.79	0. 0.00	3. 21.43
普通地域	1. 4.17	0. 0.00	1. 1.69	3. 6.67	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 7.69	2. 10.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00						
上記の重複	3. 12.50	1. 16.67	0. 0.00	1. 50.00	1. 7.14	2. 4.26	0. 0.00	2. 10.00	7. 11.86	0. 0.00	1. 5.88	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	3. 15.79	0. 0.00	0. 0.00
国定公園																				
特別保護地区	0. 0.00	1. 16.67	1. 5.88	0. 0.00	1. 7.14	1. 2.13	3. 75.00	2. 10.00	1. 1.69	2. 4.44	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 10.00	1. 33.33	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 7.14
特別地域	1. 4.17	2. 33.33	11. 64.71	1. 50.00	3. 21.43	13. 27.66	1. 25.00	6. 30.00	17. 28.81	9. 20.00	5. 29.41	0. 0.00	0. 0.00	1. 7.69	4. 20.00	1. 33.33	4. 36.36	7. 36.84	1. 33.33	4. 28.57
普通地域	0. 0.00	0. 0.00	1. 5.88	0. 0.00	0. 0.00	1. 2.13	0. 0.00	1. 5.00	1. 1.69	1. 2.22	2. 11.76	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
上記の重複	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 2.13	0. 0.00	0. 0.00	5. 8.47	1. 2.22	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 5.00	1. 33.33	0. 0.00	1. 5.26	0. 0.00	0. 0.00
都道府県立自然公園																				
特別地域	1. 4.17	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 7.14	4. 8.51	0. 0.00	1. 5.00	9. 15.25	3. 6.67	1. 5.88	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	5. 25.00	0. 0.00	1. 9.09	1. 5.26	0. 0.00	1. 7.14
普通地域	1. 4.17	0. 0.00	1. 5.88	0. 0.00	3. 21.43	6. 12.77	0. 0.00	0. 0.00	4. 6.78	12. 26.67	4. 23.53	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 5.00	0. 0.00	3. 27.27	3. 15.79	0. 0.00	2. 14.29
上記の重複	0. 0.00	1. 1.69	1. 2.22	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00							

(注) 上段は件数。破線以下の下段の数値は、保護制度のもとに存在するもののなかの割合(%)。

保護制度	亜寒帯 常緑針 低木林	冷温帯 常緑針 低木林	暖温帯 常緑針 低木林	亜熱帯 常緑針 低木林	冷温帯 常緑広 低木林	暖温帯 常緑広 低木林	亜熱帯 常緑広 低木林	亜寒帯 夏緑広 低木林	冷温帯 夏緑広 低木林	暖温帯 夏緑広 低木林	冷温帯 ササ原	暖温帯 ササ原	亜熱帯 ササ原	亜寒帯 広葉 草原	冷温帯 広葉 草原	暖温帯 広葉 草原	冷温帯 単子葉 草原	暖温帯 単子葉 草原	亜熱帯 単子葉 草原	草本 シダ 群落	
都道府県自然環境保全地域																					
区分不明	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 66.67	1. 7.14									
特別地域	4. 16.67	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 7.14	2. 4.26	0. 0.00	0. 0.00	2. 3.39	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	4. 20.00	0. 0.00	2. 18.18	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 7.14
普通地域	0. 0.00	1. 5.00	2. 3.39	1. 2.22	1. 5.88	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 5.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 5.26	0. 0.00	0. 0.00							
上記の重複	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 4.26	0. 0.00	1. 5.00	1. 1.69	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
合計	26.	7.	20.	4.	18.	76.	21.	31.	88.	80.	19.	5.	1.	17.	26.	9.	15.	33.	6.	32.	

(注) 上段は件数。下段は、保護制度のもとに存在するもののなかの割合(%)。合計は、「保護制度あり」及び「保護制度なし」の計。

保護制度	岩上、 多礫地 草本	タケ 形林	ヤシ 形林	マング ローブ 林	ツル 植物 群落	藓苔類 植物 群落	浮葉 沈水 植物	浮水 植物 群落	流水 岩上 植物	高山 荒原 植生	雪田 植生	火山 荒原 植生	湿地 植生	河辺 植生	海浜 植生	亜寒帯 ササ原	亜寒帯 単子葉 草原	個体 (群)
保護制度なし	48. 38.10	3. 33.33	13. 56.52	11. 64.71	3. 100.00	0. 0.00	35. 76.09	1. 50.00	6. 75.00	2. 4.88	4. 11.11	1. 4.00	173. 51.80	17. 65.38	74. 37.56	1. 33.33	0. 0.00	132. 58.41
保護制度あり	78. 61.90	6. 66.67	10. 43.48	6. 35.29	0. 0.00	2. 100.00	11. 23.91	1. 50.00	2. 25.00	39. 95.12	32. 88.89	24. 96.00	161. 48.20	9. 34.62	123. 62.44	2. 66.67	2. 100.00	94. 41.59
-----																		
国立公園																		
特別保護地区	11. 14.10	0. 0.00	2. 20.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 50.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	29. 74.36	19. 59.38	3. 12.50	18. 11.18	0. 0.00	2. 1.63	0. 0.00	1. 50.00	4. 4.26
特別地域	10. 12.82	2. 33.33	1. 10.00	4. 66.67	0. 0.00	1. 50.00	3. 27.27	0. 0.00	0. 0.00	4. 10.26	1. 3.13	3. 12.50	32. 19.88	0. 0.00	22. 17.89	1. 50.00	0. 0.00	13. 13.83
普通地域	1. 1.28	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 100.00	0. 0.00	1. 2.56	0. 0.00	0. 0.00	5. 3.11	0. 0.00	1. 0.81	0. 0.00	0. 0.00	3. 3.19
上記の重複	2. 2.56	0. 0.00	1. 10.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 2.56	3. 9.38	8. 33.33	12. 7.45	0. 0.00	2. 1.63	1. 50.00	0. 0.00	0. 0.00
国定公園																		
区分不明	1. 1.28	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
特別保護地区	4. 5.13	0. 0.00	0. 0.00	1. 16.67	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 5.13	0. 0.00	0. 0.00	5. 3.11	0. 0.00	3. 2.44	0. 0.00	0. 0.00	2. 2.13
特別地域	9. 11.54	1. 16.67	4. 40.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	3. 27.27	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	5. 20.83	22. 13.66	4. 44.44	39. 31.71	0. 0.00	1. 50.00	38. 40.43
普通地域	1. 1.28	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	3. 1.86	0. 0.00	8. 6.50	0. 0.00	0. 0.00	3. 3.19
上記の重複	4. 5.13	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 6.25	3. 12.50	3. 1.86	0. 0.00	9. 7.32	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
自然環境保全地域																		
特別地区	1. 1.28	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 3.13	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00

(注) 上段は件数。破線以下の下段の数値は、保護制度のもとに存在するもののなかの割合(%)。

保護制度	岩上、 多礫地 草本	タケ 形林	ヤシ 形林	マング ローブ 林	ツル 植物 群落	蘚苔類 植物 群落	浮葉 沈水 植物	浮水 植物 群落	流水 岩上 植物	高山 荒原 植生	雪田 植生	火山 荒原 植生	湿地 植生	河辺 植生	海浜 植生	亜寒帯 ササ原	亜寒帯 単子葉 草原	個体 (群)
都道府県立自然公園																		
特別地域	12. 15.38	0. 0.00	1. 10.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 9.09	0. 0.00	0. 0.00	2. 5.13	2. 6.25	1. 4.17	22. 13.66	1. 11.11	11. 8.94	0. 0.00	0. 0.00	15. 15.96
普通地域	9. 11.54	3. 50.00	0. 0.00	1. 16.67	0. 0.00	0. 0.00	3. 27.27	0. 0.00	2. 100.00	0. 0.00	1. 3.13	0. 0.00	9. 5.59	4. 44.44	14. 11.38	0. 0.00	0. 0.00	13. 13.83
上記の重複	3. 3.85	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 1.24	0. 0.00	3. 2.44	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
都道府県自然環境保全地域																		
区分不明	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	3. 1.86	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
特別地域	4. 5.13	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 9.09	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	3. 9.38	0. 0.00	13. 8.07	0. 0.00	1. 0.81	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.06
普通地域	4. 5.13	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	6. 3.73	0. 0.00	7. 5.69	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.06
上記の重複	2. 2.56	0. 0.00	1. 10.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 4.17	6. 3.73	0. 0.00	1. 0.81	0. 0.00	0. 0.00	1. 1.06
合計	126.	9.	23.	17.	3.	2.	46.	2.	8.	41.	36.	25.	334.	26.	197.	3.	2.	226.

(注) 上段は件数。下段は、保護制度のもとに存在するものなかの割合(%)。合計は、「保護制度あり」及び「保護制度なし」の計。

保護制度	植生 一般	亜寒帯 植生	冷温帯 植生	暖温帯 植生	亜熱帯 植生	亜寒帯 常緑針 高木林	冷温帯 常緑針 高木林	暖温帯 常緑針 高木林	亜熱帯 常緑針 高木林	常緑針 葉高木 植林	夏緑 針葉 高木林	夏緑 針葉 植林	暖温帯 常緑広 高木林	亜熱帯 常緑広 高木林	常緑広 葉高木 植林	亜寒帯 夏緑広 高木林	冷温帯 夏緑広 高木林	暖温帯 夏緑広 高木林	亜熱帯 夏緑広 高木林	夏緑広 葉高木 植林
天然記念物以外	85. 83.33	58. 81.69	85. 85.00	128. 67.72	6. 42.86	85. 91.40	184. 86.79	200. 83.68	1. 100.00	95. 74.22	10. 83.33	3. 50.00	1005. 78.09	62. 74.70	10. 62.50	14. 100.00	607. 89.93	150. 81.97	3. 100.00	4. 57.14
天然記念物	17. 16.67	13. 18.31	15. 15.00	61. 32.28	8. 57.14	8. 8.60	28. 13.21	39. 16.32	0. 0.00	33. 25.78	2. 16.67	3. 50.00	282. 21.91	21. 25.30	6. 37.50	0. 0.00	68. 10.07	33. 18.03	0. 0.00	3. 42.86
国指定特別 天然記念物	1. 5.88	3. 23.08	0. 0.00	2. 3.28	1. 12.50	1. 12.50	4. 14.29	2. 5.13	0. 0.00	1. 3.03	1. 50.00	0. 0.00	7. 2.48	0. 0.00	1. 16.67	0. 0.00	2. 2.94	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
国指定 天然記念物	5. 29.41	5. 38.46	6. 40.00	14. 22.95	3. 37.50	6. 75.00	10. 35.71	11. 28.21	0. 0.00	8. 24.24	1. 50.00	0. 0.00	73. 25.89	10. 47.62	4. 66.67	0. 0.00	23. 33.82	9. 27.27	0. 0.00	1. 33.33
都道府県指定 天然記念物	9. 52.94	5. 38.46	6. 40.00	32. 52.46	1. 12.50	1. 12.50	8. 28.57	15. 38.46	0. 0.00	20. 60.61	0. 0.00	3. 100.00	130. 46.10	5. 23.81	1. 16.67	0. 0.00	25. 36.76	12. 36.36	0. 0.00	1. 33.33
市町村指定 天然記念物	2. 11.76	0. 0.00	2. 13.33	10. 16.39	3. 37.50	0. 0.00	5. 17.86	8. 20.51	0. 0.00	3. 9.09	0. 0.00	0. 0.00	65. 23.05	3. 14.29	0. 0.00	0. 0.00	16. 23.53	11. 33.33	0. 0.00	1. 33.33
上記天然記念物の 重複	0. 0.00	0. 0.00	1. 6.67	3. 4.92	0. 0.00	0. 0.00	1. 3.57	3. 7.69	0. 0.00	1. 3.03	0. 0.00	0. 0.00	7. 2.48	3. 14.29	0. 0.00	0. 0.00	2. 2.94	1. 3.03	0. 0.00	0. 0.00
合 計	102.	71.	100.	189.	14.	93.	212.	239.	1.	128.	12.	6.	1287.	83.	16.	14.	675.	183.	3.	7.

(注) 上段は件数。下段は、天然記念物のもとに存在するものなかの割合(%)。合計は、「天然記念物」及び「天然記念物以外」の計。

保護制度	亜寒帯 常緑針 低木林	冷温帯 常緑針 低木林	暖温帯 常緑針 低木林	亜熱帯 常緑針 低木林	冷温帯 常緑広 低木林	暖温帯 常緑広 低木林	亜熱帯 常緑広 低木林	亜寒帯 夏緑広 低木林	冷温帯 夏緑広 低木林	暖温帯 夏緑広 低木林	冷温帯 ササ原	暖温帯 ササ原	亜熱帯 ササ原	亜寒帯 広葉 草原	冷温帯 広葉 草原	暖温帯 広葉 草原	冷温帯 単子葉 草原	暖温帯 単子葉 草原	亜熱帯 単子葉 草原	草本 シダ 群落	
天然記念物以外	25. 96.15	6. 85.71	17. 85.00	4. 100.00	10. 55.56	58. 78.38	15. 71.43	29. 96.67	71. 81.61	61. 78.21	15. 88.24	3. 60.00	1. 100.00	16. 94.18	22. 88.00	7. 77.78	12. 80.00	21. 67.74	5. 83.33	23. 71.88	
天然記念物	1. 3.85	1. 14.29	3. 15.00	0. 0.00	8. 44.44	16. 21.62	6. 28.57	1. 3.33	16. 18.39	17. 21.79	2. 11.76	2. 40.00	0. 0.00	1. 5.82	3. 12.00	2. 22.22	3. 20.00	10. 32.26	1. 16.67	9. 28.12	
国指定特別 天然記念物	1. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 6.25	0. 0.00	1. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	3. 30.00	0. 0.00	3. 33.33
国指定 天然記念物	0. 0.00	1. 100.00	1. 33.33	0. 0.00	5. 62.50	6. 37.50	4. 66.67	0. 0.00	6. 37.50	3. 17.65	1. 50.00	1. 50.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 66.67	4. 40.00	0. 0.00	3. 33.33	
都道府県指定 天然記念物	0. 0.00	0. 0.00	2. 66.67	0. 0.00	2. 25.00	6. 37.50	0. 0.00	0. 0.00	5. 31.25	11. 64.71	0. 0.00	1. 50.00	0. 0.00	0. 0.00	3. 100.00	1. 50.00	1. 33.33	1. 10.00	1. 100.00	2. 22.22	
市町村指定 天然記念物	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 12.50	3. 18.75	2. 33.33	0. 0.00	4. 25.00	3. 17.65	1. 50.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 50.00	0. 0.00	2. 20.00	0. 0.00	1. 11.11	
上記天然記念物 の重複	0. 0.00	1. 6.25	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00								
合計	26.	7.	20.	4.	18.	74.	21.	30.	87.	78.	17.	5.	1.	17.	25.	9.	15.	31.	6.	32.	

(注) 上段は件数。下段は、天然記念物のもとに存在するものなかの割合(%)。合計は、「天然記念物」及び「天然記念物以外」の計。

保護制度	岩上、 多隙地 草本	タケ 形林	ヤシ 形林	マング ローブ 林	ツル 植物 群落	蘚苔類 植物 群落	浮葉 沈水 植物	浮水 植物 群落	流水 岩上 植物	高山 荒原 植生	雪田 植生	火山 荒原 植生	湿地 植生	河辺 植生	海浜 植生	亜寒帯 ササ原	亜寒帯 単子葉 草原	個体 (群)
天然記念物以外	111. 89.52	6. 66.67	13. 59.09	8. 47.06	3. 100.00	1. 50.00	38. 82.61	2. 100.00	1. 12.50	24. 58.54	29. 80.56	21. 84.00	266. 79.64	26. 100.00	162. 82.65	3. 100.00	2. 100.00	206. 91.15
天然記念物	13. 10.48	3. 33.33	9. 40.91	9. 52.94	0. 0.00	1. 50.00	8. 17.39	0. 0.00	7. 87.50	17. 41.46	7. 19.44	4. 16.00	68. 20.36	0. 0.00	34. 17.35	0. 0.00	0. 0.00	20. 8.85
国指定特別 天然記念物	3. 23.08	0. 0.00	2. 22.22	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	17. 100.00	7. 100.00	0. 0.00	5. 7.35	0. 0.00	1. 2.94	0. 0.00	0. 0.00	2. 10.00
国指定 天然記念物	3. 23.08	0. 0.00	5. 55.56	5. 55.56	0. 0.00	0. 0.00	1. 12.50	0. 0.00	1. 14.29	0. 0.00	0. 0.00	1. 25.00	21. 30.88	0. 0.00	5. 14.71	0. 0.00	0. 0.00	3. 15.00
都道府県指定 天然記念物	4. 30.77	3. 100.00	2. 22.22	1. 11.11	0. 0.00	0. 0.00	5. 62.50	0. 0.00	5. 71.43	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	27. 39.71	0. 0.00	13. 38.24	0. 0.00	0. 0.00	11. 55.00
市町村指定 天然記念物	2. 15.38	0. 0.00	0. 0.00	3. 33.33	0. 0.00	0. 0.00	2. 25.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	3. 75.00	13. 19.12	0. 0.00	14. 41.18	0. 0.00	0. 0.00	4. 20.00
上記天然記念物 の重複	1. 7.69	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 100.00	0. 0.00	0. 0.00	1. 14.29	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00	2. 2.94	0. 0.00	1. 2.94	0. 0.00	0. 0.00	0. 0.00
合 計	124.	9.	22.	17.	3.	2.	46.	2.	8.	41.	36.	25.	334.	26.	196.	3.	2.	226.

(注) 上段は件数。下段は、天然記念物のもとに存在するものなかの割合(%)。合計は、「天然記念物」及び「天然記念物以外」の計。

表5. 12-1 群落別都道府県別の件数及び面積（高山ハイデ及び風衝草原）

県名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
北海道	28.	23.93	157249.00	43.66
青森	5.	4.27	188.30	0.05
岩手	3.	2.56	3350.00	0.93
宮城	1.	0.85	12900.00	3.58
秋田	7.	5.98	1859.30	0.52
山形	4.	3.42	2092.80	0.58
福島	1.	0.85	24.00	0.01
栃木	1.	0.85	5.00	0.00
群馬	6.	5.13	1572.50	0.44
新潟	1.	0.85	0.50	0.00
富山	32.	27.35	10.40	0.00
石川	1.	0.85	35.00	0.01
福井	1.	0.85	5.00	0.00
山梨	5.	4.27	192.00	0.05
長野	7.	5.98	179750.00	49.90
岐阜	3.	2.56	0.40	0.00
静岡	10.	8.55	954.30	0.26
鳥取	1.	0.85	0.00	0.00
合計	117.	100.00	360188.47	100.00

表5.12-2 群落別面積区分別の件数

面積	高山ハイデ及び 風衝草原		雪田草原		シラビソートウ ヒ群団		チシマザサーブ ナ群団		スズタケープナ 群団		サカキーウラジ ログシ群集		サカキーコジイ 群集	
1ha未満	42.	35.90	17.	22.08	5.	4.90	30.	8.40	14.	5.56	40.	16.13	70.	33.18
1~10ha	9.	7.69	8.	10.39	24.	23.53	71.	19.89	54.	21.43	95.	38.31	92.	43.60
10~50ha	15.	12.82	8.	10.39	11.	10.78	75.	21.01	63.	25.00	50.	20.16	28.	13.27
50~100ha	3.	2.56	7.	9.09	5.	4.90	29.	8.12	24.	9.52	17.	6.85	8.	3.79
100~500ha	12.	10.26	9.	11.69	16.	15.69	77.	21.57	52.	20.63	33.	13.31	11.	5.21
500~1000ha	8.	6.84	5.	6.49	11.	10.78	24.	6.72	17.	6.75	7.	2.82	2.	0.95
1000~5000ha	15.	12.82	13.	16.88	18.	17.65	32.	8.96	23.	9.13	4.	1.61		
5000~10000ha	6.	5.13	6.	7.79	6.	5.88	11.	3.08	2.	0.79	2.	0.81		
10000ha以上	7.	5.98	4.	5.19	6.	5.88	8.	2.24	3.	1.19				
合計	117.	100.00%	77.	100.00%	102.	100.00%	357.	100.00%	252.	100.00%	248.	100.00%	211.	100.00%

面積	スタジイ群落		タブ群落		ウバメガシ群落		高層湿原		中間湿原		低層湿原		砂丘植生	
1ha未満	130.	26.00	83.	38.60	66.	33.33	14.	15.91	68.	34.00	58.	26.13	43.	33.08
1~10ha	267.	53.35	78.	36.28	75.	37.88	28.	31.82	71.	35.50	73.	32.88	37.	28.46
10~50ha	70.	14.00	34.	15.81	37.	18.69	21.	23.86	34.	17.00	54.	24.32	21.	16.15
50~100ha	11.	2.20	9.	4.19	10.	5.05	2.	2.27	5.	2.50	11.	4.95	10.	7.69
100~500ha	16.	3.20	9.	4.19	9.	4.55	12.	13.64	12.	6.00	15.	6.76	14.	10.77
500~1000ha	3.	0.60	1.	0.47	1.	0.51	2.	2.27	2.	1.00	5.	2.25	3.	2.31
1000~5000ha	3.	0.60					6.	6.82	6.	3.00	5.	2.25	1.	0.77
5000~10000ha			1.	0.47			2.	2.27	2.	1.00			1.	0.77
10000ha以上							1.	1.14			1.	0.45		
合計	500.	100.00%	215.	100.00%	198.	100.00%	88.	100.00%	200.	100.00%	222.	100.00%	130.	100.00%

表5.12-3 群落別都道府県別の件数及び面積（雪田草原）

県名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
北海道	16.	20.78	151213.00	48.40
青森	5.	6.49	282.80	0.09
岩手	2.	2.60	2150.00	0.69
秋田	5.	6.49	2162.00	0.69
山形	14.	18.18	8591.00	2.75
福島	4.	5.19	78.00	0.02
群馬	9.	11.69	4772.50	1.53
新潟	3.	3.90	21.50	0.01
富山	8.	10.39	3.40	0.00
石川	2.	2.60	33.00	0.01
長野	4.	5.19	142550.00	45.63
岐阜	3.	3.90	3.00	0.00
静岡県	2.	2.60	556.80	0.18
合計	77.	100.00	312417.00	100.00

表5.12-4 群落別都道府県別の件数及び面積（シラビソートウヒ群団）

県名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
青森	3.	2.94	1400.50	0.50
岩手	7.	6.86	9885.00	3.54
宮城	1.	0.98	12900.00	4.62
秋田	4.	3.92	8544.00	3.06
山形	3.	2.94	3626.00	1.30
福島	4.	3.92	36.00	0.01
栃木	6.	5.88	460.00	0.16
群馬	13.	12.75	9487.00	3.40
埼玉	4.	3.92	20.00	0.01
東京	1.	0.98	150.00	0.05
新潟	2.	1.96	90.00	0.03
富山	5.	4.90	18.20	0.01
石川	1.	0.98	870.00	0.31
山梨	9.	8.82	1617.40	0.58
長野	22.	21.57	220100.00	78.82
岐阜	5.	4.90	627.50	0.22
静岡県	5.	4.90	1369.20	0.49
三重	1.	0.98	3.00	0.00
奈良	2.	1.96	5450.00	1.95
徳島	1.	0.98	680.00	0.24
愛媛	2.	1.96	51.00	0.02
高知	1.	0.98	1850.00	0.66
合計	102.	100.00	279234.81	100.00

表5.12-5 群落別都道府県別の件数及び面積（チシマザサーブナ群団）

県名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
北海道	15.	4.20	51016.20	12.84
青森	14.	3.92	3538.80	0.89
岩手	15.	4.20	18033.00	4.54
宮城	11.	3.08	29056.00	7.31
秋田	58.	16.25	34529.60	8.69
山形	29.	8.12	119532.20	30.08
福島	13.	3.64	1917.60	0.48
栃木	1.	0.28	8.00	0.00
群馬	5.	1.40	9025.30	2.27
新潟	15.	4.20	4374.40	1.10
富山	19.	5.32	166.00	0.04
石川	13.	3.64	1413.90	0.36
福井	30.	8.40	425.90	0.11
長野	14.	3.92	114159.00	28.72
岐阜	12.	3.36	913.00	0.23
滋賀	21.	5.88	1140.30	0.29
京都	9.	2.52	2221.00	0.56
兵庫	8.	2.24	883.00	0.22
鳥取	15.	4.20	899.50	0.23
島根	8.	2.24	677.00	0.17
岡山	11.	3.08	585.00	0.15
広島	11.	3.08	1810.50	0.46
山口	10.	2.80	1098.10	0.28
合計	357.	100.00	397423.28	100.00

表5.12-6 群落別都道府県別の件数及び面積（スズケープナ群団）

県名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
岩手	5.	1.98	877.00	0.39
宮城	21.	8.33	14364.20	6.38
福島	12.	4.76	1100.10	0.49
茨城	6.	2.38	2358.00	1.05
栃木	10.	3.97	957.50	0.43
群馬	7.	2.78	2621.20	1.16
埼玉	3.	1.19	335.00	0.15
東京	4.	1.59	4089.00	1.82
神奈川	17.	6.75	3451.40	1.53
山梨	11.	4.37	398.90	0.18
長野	9.	3.57	135734.59	60.31
岐阜	7.	2.78	65.50	0.03
静岡	20.	7.94	3038.80	1.35
愛知	3.	1.19	176.10	0.08
三重	10.	3.97	850.50	0.38
大分	2.	0.79	2.00	0.00
兵庫	1.	0.40	0.10	0.00
奈良	8.	3.17	7196.60	3.20
和歌山	12.	4.76	1036.30	0.46
広島	5.	1.98	924.10	0.41
山口	1.	0.40	0.50	0.00
徳島	11.	4.37	2087.00	0.93
香川	1.	0.40	5.00	0.00
愛媛	5.	1.98	135.20	0.06
高知	9.	3.57	8150.00	3.62
福岡	5.	1.98	1207.00	0.54
佐賀	4.	1.59	102.30	0.05
長崎	2.	0.79	492.00	0.22
熊本	10.	3.97	8025.00	3.57
大分	8.	3.17	9017.00	4.01
宮崎	18.	7.14	16142.70	7.17
鹿児島	5.	1.98	104.00	0.05
合計	252.	100.00	225044.56	100.00

表5.12-7 群落別都道府県別の件数及び面積  
(サカキ-ウラジロガシ群集)

県名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
宮城	3.	1.21	5.00	0.02
福島	2.	0.81	24.90	0.07
茨城	2.	0.81	790.00	2.37
栃木	2.	0.81	31.10	0.09
群馬	1.	0.40	0.30	0.00
埼玉	6.	2.42	4.90	0.01
千葉	8.	3.23	701.50	2.11
東京	2.	0.81	7.60	0.02
神奈川	5.	2.02	39.00	0.12
山梨	4.	1.61	3.10	0.01
岐阜	2.	0.81	1.30	0.00
静岡	3.	1.21	342.00	1.03
愛知	4.	1.61	31.90	0.10
三重	3.	1.21	5505.50	16.53
滋賀	3.	1.21	2.20	0.01
京都	2.	0.81	12.00	0.04
兵庫	8.	3.23	4.70	0.01
奈良	10.	4.03	6732.10	20.21
和歌山	14.	5.65	752.90	2.26
鳥取	5.	2.02	8.50	0.03
島根	15.	6.05	559.50	1.68
岡山	14.	5.65	46.40	0.14
広島	11.	4.44	2010.00	6.03
山口	12.	4.84	97.10	0.29
徳島	9.	3.63	98.00	0.29
香川	2.	0.81	5.50	0.02
愛媛	5.	2.02	11.00	0.03
高知	10.	4.03	283.00	0.85
福岡	9.	3.63	647.20	1.94
佐賀	6.	2.42	82.60	0.25
長崎	13.	5.24	719.50	2.16
熊本	6.	2.42	789.40	2.37
大分	13.	5.24	4766.70	14.31
宮崎	24.	9.68	6785.80	20.37
鹿児島	10.	4.03	1404.00	4.22
合計	248.	100.00	33306.20	100.00

表5.12-8 群落別都道府県別の件数及び面積（サカキコジイ群集）

県名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
岐阜	2.	0.95	220.00	4.52
静岡	4.	1.90	10.20	0.21
愛知	11.	5.21	62.50	1.29
三重	15.	7.11	169.00	3.48
滋賀	24.	11.37	53.10	1.09
京都	10.	4.74	208.50	4.29
大阪	5.	2.37	12.20	0.25
兵庫	26.	12.32	121.40	2.50
奈良	3.	1.42	134.70	2.77
和歌山	10.	4.74	267.10	5.49
島根	2.	0.95	2.50	0.05
岡山	6.	2.84	10.00	0.21
広島	9.	4.27	165.00	3.39
山口	28.	13.27	200.80	4.13
徳島	10.	4.74	13.00	0.27
香川	7.	3.32	168.30	3.46
愛媛	1.	0.47	3.00	0.06
高知	4.	1.90	23.30	0.48
福岡	4.	1.90	65.90	1.36
佐賀	6.	2.84	40.30	0.83
長崎	1.	0.47	4.00	0.08
熊本	4.	1.90	14.60	0.30
大分	8.	3.79	303.40	6.24
宮崎	8.	3.79	2455.00	50.49
鹿児島	3.	1.42	135.00	2.78
合計	211.	100.00	4862.80	100.00

表5.12-9 群落別都道府県別の件数及び面積（スタジイ群落）

県名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
福島	1.	0.20	1.50	0.01
茨城	21.	4.20	274.50	2.13
栃木	1.	0.20	16.00	0.12
埼玉	5.	1.00	4.60	0.04
千葉	32.	6.40	173.90	1.35
東京	26.	5.20	2039.10	15.84
神奈川	18.	3.60	126.70	0.98
新潟	4.	0.80	9.60	0.07
富山	5.	1.00	3.80	0.03
石川	27.	5.40	19.00	0.15
福井	17.	3.40	60.70	0.47
岐阜	1.	0.20	3.00	0.02
静岡	22.	4.40	215.00	1.67
愛知	16.	3.20	63.90	0.50
三重	13.	2.60	141.80	1.10
京都	5.	1.00	29.50	0.23
兵庫	13.	2.60	17.50	0.14
和歌山	14.	2.80	60.30	0.47
鳥取	14.	2.80	55.60	0.43
島根	75.	15.00	159.70	1.24
岡山	5.	1.00	6.60	0.05
広島	6.	1.20	8.70	0.07
山口	37.	7.40	172.90	1.34
徳島	12.	2.40	56.20	0.44
香川	1.	0.20	0.50	0.00
愛媛	1.	0.20	1.00	0.01
高知	7.	1.40	162.50	1.26
福岡	24.	4.80	274.30	2.13
佐賀	1.	0.20	3.50	0.03
長崎	14.	2.80	74.00	0.57
熊本	8.	1.60	109.60	0.85
大分	11.	2.20	91.90	0.71
宮崎	12.	2.40	2456.80	19.08
鹿児島	11.	2.20	1043.50	8.11
沖縄	20.	4.00	4936.70	38.35
合計	500.	100.00	12874.40	100.00

表5.12-10 群落別都道府県別の件数及び面積（タブ群落）

県名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
岩手	3.	1.40	75.00	0.75
宮城	14.	6.51	932.00	9.32
秋田	2.	0.93	1.30	0.01
山形	7.	3.26	309.00	3.09
茨城	4.	1.86	10.80	0.11
千葉	13.	6.05	24.70	0.25
東京	7.	3.26	98.50	0.99
神奈川	11.	5.12	113.20	1.13
新潟	11.	5.12	9.20	0.09
富山	4.	1.86	2.60	0.03
石川	12.	5.58	10.10	0.10
福井	7.	3.26	37.70	0.38
山梨	1.	0.47	0.20	0.00
静岡	6.	2.79	21.70	0.22
愛知	5.	2.33	24.30	0.24
三重	4.	1.86	5524.00	55.24
滋賀	9.	4.19	39.40	0.39
京都	4.	1.86	75.00	0.75
兵庫	1.	0.47	0.20	0.00
奈良	1.	0.47	0.10	0.00
和歌山	7.	3.26	3.60	0.04
鳥取	1.	0.47	0.20	0.00
島根	8.	3.72	34.50	0.35
岡山	1.	0.47	0.60	0.01
山口	8.	3.72	101.10	1.01
香川	1.	0.47	0.00	0.00
愛媛	2.	0.93	80.20	0.80
高知	6.	2.79	204.00	2.04
福岡	10.	4.65	477.70	4.78
佐賀	2.	0.93	10.50	0.11
長崎	8.	3.72	83.30	0.83
熊本	1.	0.47	0.30	0.00
大分	2.	0.93	6.10	0.06
宮崎	13.	6.05	601.10	6.01
鹿児島	5.	2.33	86.00	0.86
沖縄	14.	6.51	1001.80	10.02
合計	215.	100.00	10000.00	100.00

表5.12-11 群落別都道府県別の件数及び面積（ウバメガシ群落）

県名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
青森	3.	1.52	43.00	1.02
岩手	2.	1.01	22.00	0.52
宮城	1.	0.51	1.00	0.02
秋田	1.	0.51	3.00	0.07
山形	1.	0.51	0.00	0.00
福島	2.	1.01	2.50	0.06
茨城	4.	2.02	5.00	0.12
千葉	5.	2.53	17.50	0.41
東京	1.	0.51	178.00	4.22
神奈川	5.	2.53	95.20	2.25
新潟	1.	0.51	0.40	0.01
富山	2.	1.01	0.10	0.00
静岡	12.	6.06	228.30	5.41
愛知	5.	2.53	17.80	0.42
三重	8.	4.04	294.20	6.97
京都	1.	0.51	18.00	0.43
大阪	1.	0.51	0.20	0.00
兵庫	7.	3.54	30.90	0.73
和歌山	11.	5.56	211.30	5.00
島根	14.	7.07	375.70	8.90
岡山	6.	3.03	10.50	0.25
広島	5.	2.53	9.00	0.21
山口	7.	3.54	94.60	2.24
徳島	5.	2.53	14.10	0.33
香川	6.	3.03	56.40	1.34
愛媛	8.	4.04	8.10	0.19
高知	7.	3.54	608.50	14.41
福岡	8.	4.04	275.60	6.53
佐賀	5.	2.53	287.70	6.81
長崎	21.	10.61	207.20	4.91
熊本	7.	3.54	5.10	0.12
大分	1.	0.51	930.00	22.03
宮崎	10.	5.05	60.70	1.44
鹿児島	5.	2.53	38.00	0.90
沖縄	10.	5.05	72.30	1.71
合計	198.	100.00	4221.90	100.00

表5.12-12 群落別都道府県別の件数及び面積（高層湿原）

県名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
北海道	17.	19.32	15124.80	37.07
青森	10.	11.36	1677.70	4.11
岩手	4.	4.55	205.00	0.50
宮城	1.	1.14	12900.00	31.61
秋田	11.	12.50	2238.70	5.49
山形	5.	5.68	194.30	0.48
福島	10.	11.36	385.10	0.94
栃木	2.	2.27	272.00	0.67
群馬	7.	7.95	679.00	1.66
千葉	1.	1.14	25.00	0.06
新潟	2.	2.27	50.00	0.12
富山	7.	7.95	4.60	0.01
石川	1.	1.14	0.10	0.00
長野	5.	5.68	7034.00	17.24
岐阜	1.	1.14	0.70	0.00
京都	2.	2.27	8.00	0.02
岡山	1.	1.14	2.50	0.01
鹿児島	1.	1.14	2.00	0.00
合計	88.	100.00	40803.50	100.00

表5.12-13 群落別都道府県別の件数及び面積（中間湿原）

県名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
北海道	11.	5.50	10047.00	27.09
青森	5.	2.50	1512.80	4.08
岩手	12.	6.00	357.00	0.96
宮城	3.	1.50	6541.50	17.64
秋田	10.	5.00	5457.70	14.72
山形	7.	3.50	136.30	0.37
福島	11.	5.50	279.30	0.75
茨城	3.	1.50	28.00	0.08
栃木	4.	2.00	276.00	0.74
群馬	8.	4.00	640.00	1.73
神奈川	1.	0.50	12.00	0.03
新潟	11.	5.50	94.90	0.26
富山	12.	6.00	15.70	0.04
石川	2.	1.00	1.00	0.00
福井	3.	1.50	4.50	0.01
長野	6.	3.00	6765.00	18.24
岐阜	10.	5.00	25.70	0.07
愛知	10.	5.00	15.80	0.04
三重	2.	1.00	5.70	0.02
滋賀	17.	8.50	35.20	0.09
京都	2.	1.00	13.00	0.04
兵庫	6.	3.00	3.70	0.01
和歌山	1.	0.50	0.50	0.00
鳥取	1.	0.50	1.00	0.00
島根	1.	0.50	2.00	0.01
岡山	6.	3.00	8.30	0.02
広島	9.	4.50	76.00	0.20
山口	6.	3.00	59.90	0.16
徳島	3.	1.50	26.40	0.07
福岡	3.	1.50	2.60	0.01
佐賀	5.	2.50	10.70	0.03
大宮	4.	2.00	4625.00	12.47
宮崎	4.	2.00	3.00	0.01
鹿児島	1.	0.50	2.00	0.01
合計	200.	100.00	37085.19	100.00

表5.12-14 群落別都道府県別の件数及び面積（低層湿原）

県名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
北海道	14.	6.31	29270.50	78.41
青森	8.	3.60	1605.70	4.30
岩手	15.	6.76	391.00	1.05
宮城	13.	5.86	1710.50	4.58
秋田	19.	8.56	622.30	1.67
山形	10.	4.50	128.90	0.35
福島	6.	2.70	213.60	0.57
茨城	4.	1.80	383.50	1.03
栃木	4.	1.80	291.00	0.78
群馬	8.	3.60	552.90	1.48
千葉	6.	2.70	244.90	0.66
東京都	9.	4.05	157.50	0.42
神奈川県	3.	1.35	812.10	2.18
新潟	6.	2.70	50.00	0.13
富山	6.	2.70	6.10	0.02
石川	1.	0.45	0.10	0.00
福井	4.	1.80	6.00	0.02
山梨	1.	0.45	1.10	0.00
長野	3.	1.35	155.30	0.42
岐阜	2.	0.90	20.40	0.05
静岡県	6.	2.70	39.10	0.10
愛知県	2.	0.90	21.00	0.06
三重	5.	2.25	52.70	0.14
滋賀	6.	2.70	213.10	0.57
京都	5.	2.25	35.20	0.09
兵庫県	4.	1.80	3.10	0.01
奈良	2.	0.90	36.50	0.10
和歌山	3.	1.35	18.10	0.05
鳥取	1.	0.45	1.00	0.00
島根	4.	1.80	4.30	0.01
岡山	2.	0.90	2.10	0.01
広島	4.	1.80	2.70	0.01
山口	3.	1.35	10.70	0.03
徳島	2.	0.90	22.00	0.06
愛媛	1.	0.45	1.20	0.00
高知	1.	0.45	0.50	0.00
福岡	5.	2.25	17.60	0.05
佐賀	5.	2.25	10.90	0.03
長崎	2.	0.90	0.00	0.00
熊本	4.	1.80	2.20	0.01
大分	3.	1.35	55.10	0.15
宮崎	3.	1.35	3.50	0.01
鹿児島	2.	0.90	63.00	0.17
沖縄	5.	2.25	93.00	0.25
合計	222.	100.00	37332.01	100.00

表5.12-15 群落別都道府県別の件数及び面積（砂丘植生）

県名	件数	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
北海道	17.	13.08	12816.50	78.59
青森	6.	4.62	35.40	0.22
岩手	1.	0.77	0.10	0.00
宮城	6.	4.62	416.00	2.55
秋田	2.	1.54	161.50	0.99
山形	1.	0.77	230.00	1.41
茨城	4.	3.08	1184.50	7.26
千葉県	7.	5.38	99.10	0.61
東京都	1.	0.77	1.60	0.01
神奈川県	3.	2.31	9.90	0.06
新潟	6.	4.62	254.00	1.56
富山	2.	1.54	5.10	0.03
石川	5.	3.85	21.10	0.13
福井	1.	0.77	50.00	0.31
静岡	2.	1.54	0.10	0.00
愛知	1.	0.77	1.00	0.01
三重	4.	3.08	43.50	0.27
滋賀	8.	6.15	9.50	0.06
京都	1.	0.77	5.00	0.03
兵庫県	1.	0.77	2.00	0.01
和歌山	2.	1.54	1.60	0.01
鳥取	1.	0.77	180.00	1.10
島根	4.	3.08	63.00	0.39
広島	1.	0.77	2.00	0.01
山口	2.	1.54	0.30	0.00
徳島	1.	0.77	0.40	0.00
香川	1.	0.77	6.30	0.04
愛媛	2.	1.54	4.50	0.03
高知	2.	1.54	160.00	0.98
福岡	6.	4.62	58.10	0.36
佐賀	6.	4.62	24.50	0.15
長崎	5.	3.85	18.40	0.11
熊本	3.	2.31	0.30	0.00
大分	2.	1.54	30.50	0.19
宮崎	2.	1.54	87.60	0.54
鹿児島	8.	6.15	316.30	1.94
沖縄	3.	2.31	8.10	0.05
合計	130.	100.00	16307.80	100.00

表6.1-1 生育状況調査の都道府県別の件数

県 No.	県 名	生育調査の件数
01	北海道	27
02	青森県	10
03	岩手県	7
04	宮城県	9
05	秋田県	13
06	山形県	9
07	福島県	10
08	茨城県	9
09	栃木県	9
10	群馬県	9
11	埼玉県	7
12	千葉県	12
13	東京都	15
14	神奈川県	8
15	新潟県	13
16	富山県	9
17	石川県	9
18	福井県	7
19	山梨県	13
20	長野県	10
21	岐阜県	10
22	静岡県	13
23	愛知県	9
24	三重県	8
25	滋賀県	11
26	京都府	14
27	大阪府	5
28	兵庫県	6
29	奈良県	6
30	和歌山県	10
31	鳥取県	9
32	島根県	16
33	岡山県	8
34	広島県	17
35	山口県	13
36	徳島県	9
37	香川県	7
38	愛媛県	8
39	高知県	7
40	福岡県	7
41	佐賀県	8
42	長崎県	10
43	熊本県	8
44	大分県	9
45	宮崎県	16
46	鹿児島県	8
47	沖縄県	8
合計		475

表6.2-1 選定された群落の事例

県名	選定された群落
北海道	湿原植生、ハイマツ林、アカエゾマツ林、トドマツ林、ブナ林など
青森	イソスミレ群落、ハインズ群落、ブナ林、アオモリトドマツ林など
岩手	アカマツ林、湿原植生、ブナ林など
宮城	タブ林、モミ林など
秋田	オオシラビソ林、ブナ林、ハンノキ林、低層湿原など
山形	オオシラビソ林、ブナ林、タブ林など
福島	イヌブナ林、モミ林、ブナ林、アカマツ林、スダジイ林など
茨城	常緑広葉樹林、湿性草原など
栃木	ブナ林、オオシラビソ林、高層湿原など
群馬	低地湿原植生、蛇紋岩地植生、ブナ林など
埼玉	アカマツ林、モミ林、ブナ林、コメツガ林など
千葉	スダジイ林、モミ・ツガ林、ヒメコマツ林など
東京	モミ・イヌブナ林、ハンノキ林、クヌギ・コナラ林など
神奈川	ブナ林、モミ林、シラカシ林、タブ林など
新潟	スダジイ林、タブ林、アカガシ林、ブナ林
富山	スギ林、ウラジロガシ林、ブナ林、ハイマツ林など
石川	スダジイ林、アカガシ林、オオシラビソ林、ブナ林など
福井	ブナ林、トチノキ林、スダジイ林など
山梨	ウロジロガシ林、シオジ・サワグルミ林など
長野	高山植生、オオシラビソ林、ブナ林、ヒノキ林など
岐阜	雪田植生、ブナ林、ツクバネガシ林など
静岡	クロマツ林、ブナ林、アカマツ林など
愛知	コジイ林、タブ林、スダジイ林など
三重	コジイ林、ブナ林、トウヒ林など
滋賀	アカマツ林、タブ林、モミ林、湿原など
京都	砂丘植生、シイ林、シラカシ林、モミ林、アカマツ林、ブナ林など
大阪	アラカシ林、ブナ林、シラカシ林、シイ林など
兵庫	スダジイ林、ブナ林、イヌブナ林など
奈良	シラビソ林、ブナ林、コジイ林、イチイガシ林など
和歌山	コジイ林、スダジイ林、モミ・ツガ林、ブナ林など
鳥取	湿原植生、スダジイ林、スギ林など
島根	照葉樹林、海岸植生など
岡山	ブナ林、シオジ林、モミ林、アカガシ林など
広島	ブナ林、シラカシ林、モミ林、アカマツ林など
山口	ブナ林、モミ・ツガ林、スダジイ林、タブ林など
徳山	シイ林、アカガシ林、ブナ林など
香川	ウバメガシ林、コジイ林、ブナ林など
愛媛	シコクシラベ林、ブナ林、ハリモミ林など
高知	スギ林、ヒノキ林、シイ・タブ林
福岡	ブナ林、クロマツ林、アカガシ林など
佐賀	ブナ林、モミ林、アカガシ林など
長崎	ブナ林、イチイガシ林、アカガシ林など
熊本	ウラジロガシ林、スダジイ林、コジイ林など
大分	コジイ林、スダジイ林、アカガシ林など
宮崎	ツガ林、スダジイ林、スギ林など
鹿児島	ウラジロガシ林、ブナ林、ガジュマル林、コジイ林など
沖縄	イタジイ林、マングローブ林など

表6.2-2 相観区分別の件数

相観区分	件数	構成比(%)
1 植生一般	26.	5.49
2 亜寒帯植生	14.	2.95
3 冷温帯植生	13.	2.74
4 暖温帯植生	26.	5.49
5 亜熱帯植生	1.	0.21
6 亜寒帯常緑針葉高木林	18.	3.80
7 冷温帯常緑針葉高木林	23.	4.85
8 暖温帯常緑針葉高木林	20.	4.22
10 常緑針葉高木植林	7.	1.48
11 夏緑針葉高木林	1.	0.21
13 暖温帯常緑広葉高木林	100.	21.10
14 亜熱帯常緑広葉高木林	5.	1.05
15 常緑広葉高木植林	2.	0.42
17 冷温帯夏緑広葉高木林	69.	14.35
18 暖温帯夏緑広葉高木林	14.	2.95
21 亜寒帯常緑針葉低木林	2.	0.42
22 冷温帯常緑針葉低木林	3.	0.63
23 暖温帯常緑針葉低木林	2.	0.42
25 冷温帯常緑広葉低木林	2.	0.42
26 暖温帯常緑広葉低木林	4.	0.84
28 亜寒帯夏緑広葉低木林	1.	0.21
29 冷温帯夏緑広葉低木林	3.	0.63
30 暖温帯夏緑広葉低木林	4.	0.84
32 暖温帯ササ原	1.	0.21
34 亜寒帯広葉草原	1.	0.21
35 冷温帯広葉草原	2.	0.42
36 暖温帯広葉草原	1.	0.21
38 暖温帯単子葉草本草原	5.	1.05
39 亜熱帯単子葉草本草原	1.	0.21
40 草本シダ群落	1.	0.21
41 岩上, 多礫地草本植生	11.	2.32
42 タケ形林	1.	0.21
43 ヤシ形林	2.	0.42
44 マングローブ林	4.	0.84
47 浮葉・沈水植物群落	3.	0.63
50 高山荒原植生	2.	0.42
51 雪田植生	3.	0.63
52 火山荒原植生	6.	1.27
53 湿地植生	41.	8.65
54 河辺植生	2.	0.42
55 海浜植生	24.	5.06
58 個体(群)	4.	0.84
合 計	475.	

表6.2-3 相観区分別暖かさの指数別の件数

暖かさの 指数(°)	亜寒帯常緑 針葉高木林	冷温帯常緑 針葉高木林	冷温帯夏緑 広葉高木林	暖温帯常緑 広葉高木林	湿地植生
20-25° 未満	1				
25-30	5				3
30-35	4				0
35-40	2				3
40-45	3		1		2
45-50	1	1	4		2
50-55	1	3	6		2
55-60	1	3	8		3
60-65		1	4		2
65-70		6	14		4
70-75		0	4		3
75-80		0	6		1
80-85		2	8		1
85-90		3	7		2
90-95		3	1	2	0
95-100		0	4	4	3
100-105		0	2	6	1
105-110		0		7	0
110-115		1		21	2
115-120				15	2
120-125				10	1
125-130				9	1
130-135				4	0
135-140				1	1
140-145				3	
145-150				1	
合計	18	23	69	83	39

注1) 合計欄の件数が表6.2-2と一致しないのは、調査場所の位置が特定できなかったことによる。

注2) 暖かさの指数(15° - 45° : 亜寒帯、45° - 85° : 冷温帯、85° - 180° : 暖温帯)

表6.3-1 相観区分別地域類型別の件数

相観区分	森林主体地域	農地主体地域	都市主体地域	合計
1 植生一般	24. 92.31	0.	2. 7.69	26.
2 亜寒帯植生	12. 85.71	2. 14.29	0.	14.
3 冷温帯植生	10. 83.33	2. 16.67	0.	12.
4 暖温帯植生	9. 32.14	8. 28.57	11. 39.29	28.
5 亜熱帯植生	0.	1. 100.00	0.	1.
6 亜寒帯常緑針葉高木林	17. 94.44	1. 5.56	0.	18.
7 冷温帯常緑針葉高木林	20. 86.96	3. 13.04	0.	23.
8 暖温帯常緑針葉高木林	4. 19.05	11. 52.38	6. 28.57	21.
10 常緑針葉高木植林	1. 14.29	4. 57.14	2. 28.57	7.
11 夏緑針葉高木林	1. 100.00	0.	0.	1.
13 暖温帯常緑広葉高木林	25. 24.75	39. 38.61	37. 36.63	101.
14 亜熱帯常緑広葉高木林	2. 40.00	3. 60.00	0.	5.
17 冷温帯夏緑広葉高木林	50. 71.01	19. 27.54	1. 1.45	70.
18 暖温帯夏緑広葉高木林	4. 26.67	5. 33.33	6. 40.00	15.

上段：メッシュ数，下段：相観区分合計に対する割合(%)。

相観区分	森林主 体地域	農地主 体地域	都市主 体地域	合計
21 亜寒帯常緑針葉低木林	2. 100.00	0.	0.	2.
22 冷温帯常緑針葉低木林	3. 100.00	0.	0.	3.
23 暖温帯常緑針葉低木林	1. 50.00	1. 50.00	0.	2.
25 冷温帯常緑広葉低木林	0.	2. 100.00	0.	2.
26 暖温帯常緑広葉低木林	2. 50.00	1. 25.00	1. 25.00	4.
28 亜寒帯夏緑広葉低木林	0.	1. 100.00	0.	1.
29 冷温帯夏緑広葉低木林	2. 66.67	1. 33.33	0.	3.
30 暖温帯夏緑広葉低木林	1. 25.00	2. 50.00	1. 25.00	4.
32 暖温帯ササ原	1. 100.00	0.	0.	1.
34 亜寒帯広葉草原	1. 100.00	0.	0.	1.
35 冷温帯広葉草原	1. 50.00	0.	1. 50.00	2.
36 暖温帯広葉草原	0.	1. 100.00	0.	1.
38 暖温帯単子葉草本草原	2. 50.00	1. 25.00	1. 25.00	4.
39 亜熱帯単子葉草本草原	1. 100.00	0.	0.	1.

上段：メッシュ数， 下段：相観区分合計に対する割合(%)。

相観区分	森林主 体地域	農地主 体地域	都市主 体地域	合計
40 草本シダ群落	0.	1.	0.	1.
	.	100.00	.	
41 岩上, 多礫地草本植生	7.	4.	0.	11.
	63.64	36.36	.	
42 タケ形林	1.	0.	0.	1.
	100.00	.	.	
43 ヤシ形林	2.	0.	0.	2.
	100.00	.	.	
44 マングローブ林	3.	1.	0.	4.
	75.00	25.00	.	
47 浮葉・沈水植物群落	0.	0.	3.	3.
	.	.	100.00	
50 高山荒原植生	2.	0.	0.	2.
	100.00	.	.	
51 雪田植生	3.	0.	0.	3.
	100.00	.	.	
52 火山荒原植生	4.	2.	0.	6.
	66.67	33.33	.	
53 湿地植生	24.	11.	4.	39.
	61.54	28.21	10.26	
54 河辺植生	0.	1.	1.	2.
	.	50.00	50.00	
55 海浜植生	5.	7.	11.	23.
	21.74	30.43	47.83	
58 個体(群)	1.	2.	1.	4.
	25.00	50.00	25.00	
合計	248.	137.	89.	474.
	52.22	28.96	18.82	

上段：メッシュ数，下段：相観区分合計に対する割合(%)。

表6.4-1 保護対策の適用状況（自然公園、自然環境保全地域）

保護区分	件数	構成比(%)
国立公園	143.	30.1
特別保護地区	20.	4.2
特別地域	64.	13.5
普通地域	5.	1.1
上記の重複	51.	10.7
区分不明	4.	0.8
国定公園	108.	22.7
特別保護地区	18.	3.8
特別地域	58.	12.2
普通地域	4.	0.8
上記の重複	22.	4.6
区分不明	6.	1.3
原生自然環境保全地域	2.	0.4
自然環境保全地域	1.	0.2
都道府県立自然公園	69.	14.5
特別地域	28.	5.9
普通地域	25.	5.3
上記の重複	16.	3.4
都道府県自然環境保全地域	34.	7.2
特別地域	11.	2.3
普通地域	9.	1.9
上記の重複	9.	1.9
区分不明	5.	1.1
上記の保護制度なし	142.	29.9
合計	475.	

1件の群落が複数の区分にまたがる場合があるため、数値は重複を含む。

表6.4-2 保護対策の適用状況（天然記念物）

保護区分	件数	構成比(%)
国指定特別天然記念物	12.	2.5
国指定天然記念物	56.	11.8
都道府県指定天然記念物	40.	8.4
市町村指定天然記念物	23.	4.8
上記の重複	11.	2.3
上記の天然記念物以外	333.	70.1
合計	475.	

表6.5-1 インパクトの種類別の件数

インパクト	件数	構成比(%)
特になし	189	39.9
人の立入	49	10.3
盗採	10	2.1
農林業開発	19	4.0
道路開発	2	0.4
観光開発	5	1.1
水辺の開発	1	0.2
その他の開発	3	0.6
周辺の開発	14	3.0
動物の侵入	8	1.7
汚染物質の侵入	0	0.0
ゴミの投棄	4	0.8
その他	10	2.1
上記の複数回答	161	33.9
合計	475	

注) 複数回答は、67凡例あり、大半は、1凡例当たり  
2～3件となる。

凡 例

△ 変化した群落 (変化状況 2~4)

× 消滅した群落 (変化状況 5)



図2.1.2-1 特定植物群落変化・消滅群落位置図

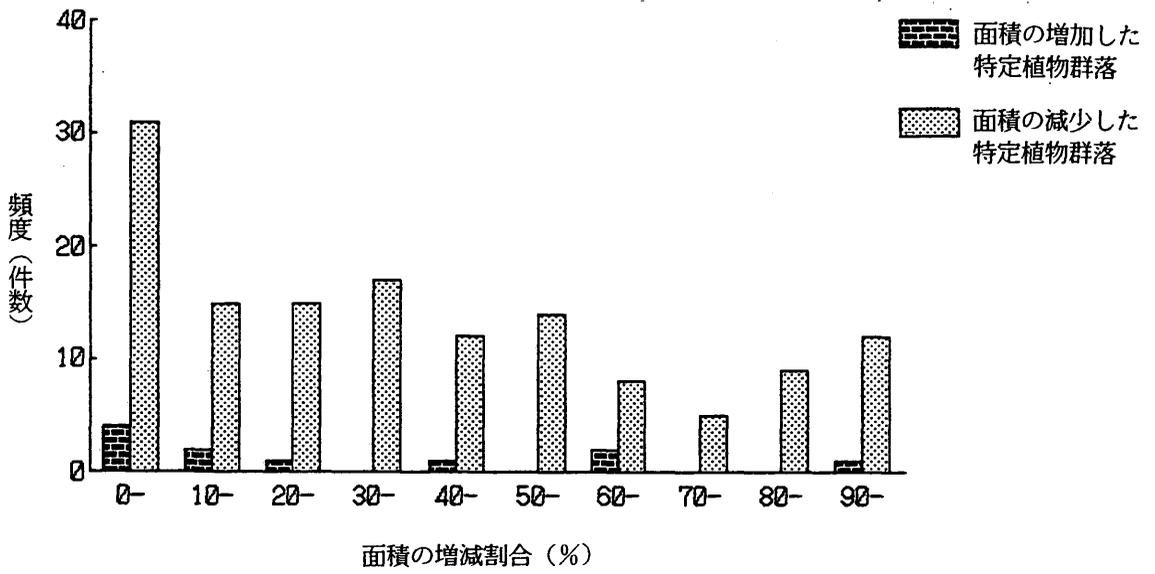
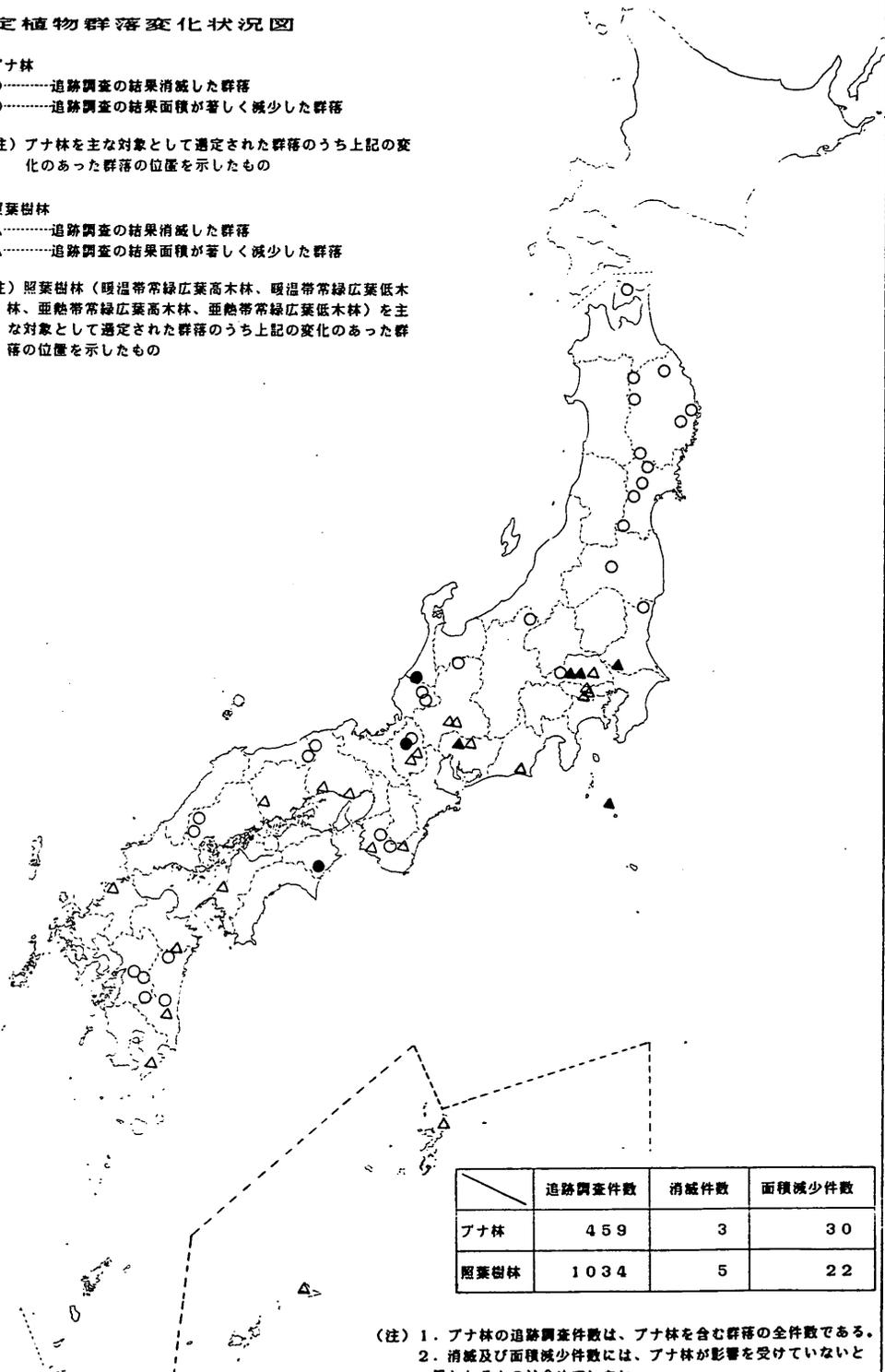


図2.1.3-1 面積の増減した特定植物群落の割合

特定植物群落変化状況図

- ・ブナ林
  - ……………追跡調査の結果消滅した群落
  - ……………追跡調査の結果面積が著しく減少した群落
- (注) ブナ林を主な対象として選定された群落のうち上記の変化のあった群落の位置を示したもの
- ・照葉樹林
  - ▲……………追跡調査の結果消滅した群落
  - △……………追跡調査の結果面積が著しく減少した群落
- (注) 照葉樹林(暖温帯常緑広葉高木林、暖温帯常緑広葉低木林、亜熱帯常緑広葉高木林、亜熱帯常緑広葉低木林)を主な対象として選定された群落のうち上記の変化のあった群落の位置を示したもの



	追跡調査件数	消滅件数	面積減少件数
ブナ林	459	3	30
照葉樹林	1034	5	22

(注) 1. ブナ林の追跡調査件数は、ブナ林を含む群落の全件数である。  
 2. 消滅及び面積減少件数には、ブナ林が影響を受けていないと思われるものは含めていない。

図2.3.3-1 特定植物群落変化状況図



図5.2-1 特定植物群落位置図

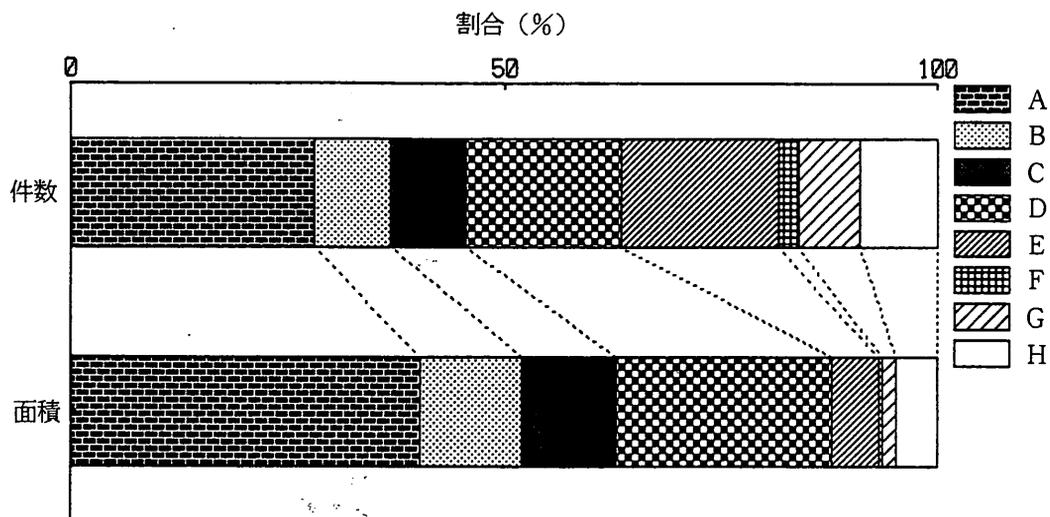


図5.3-1 選定基準別件数及び面積

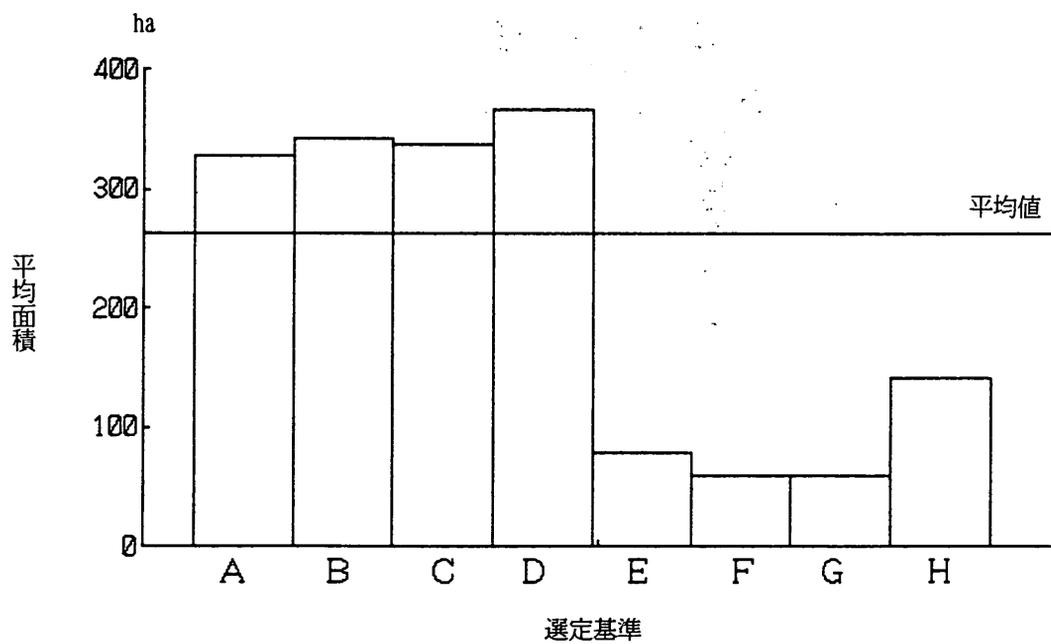


図5.3-2 選定基準別平均面積



図5. 3-3① 原生林等の分布 (選定基準A)



図5.3-3② 希な植物群落の分布（選定基準B）



図5.3-3③ 分布限界にみられる植物群落の分布（選定基準C）



図5.3-3④ 特殊な立地にみられる植物群落の分布（選定基準D）



図5.3-3⑤ 郷土景観を代表する植物群落の分布 (選定基準E)



図5.3-3⑥ 長期にわたって人手の入っていない人工林の分布（選定基準F）



図5.3-3⑦ 人為によって少なくなるおそれのある植物群落の分布（選定基準G）



図5. 3-3⑧ 学術上重要な植物群落の分布 (選定基準H)

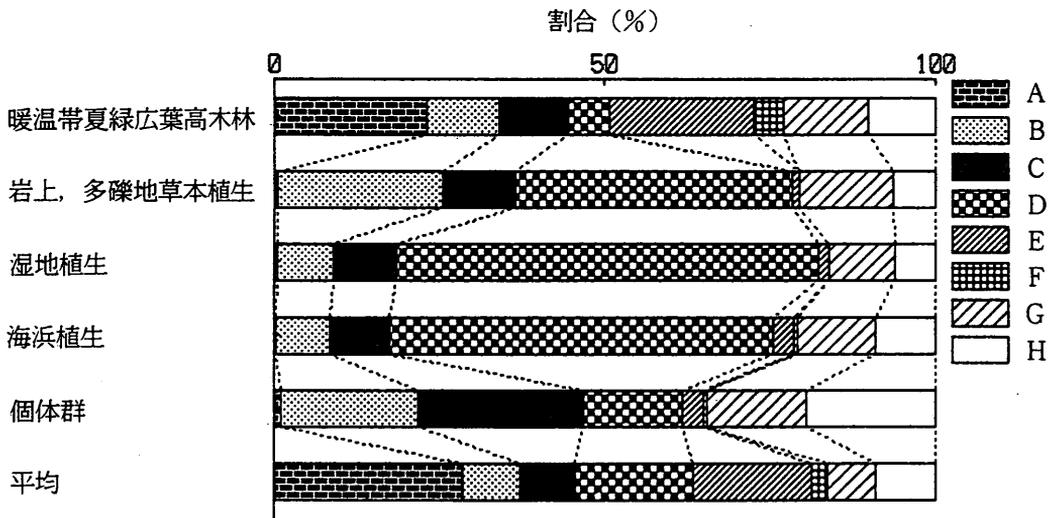
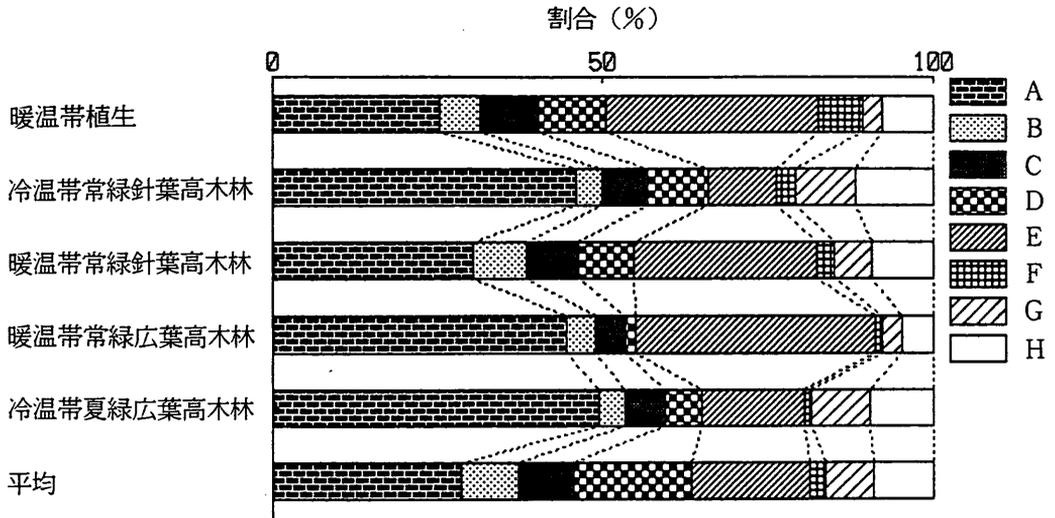


図5.3-4 相観区分別選定基準別の割合

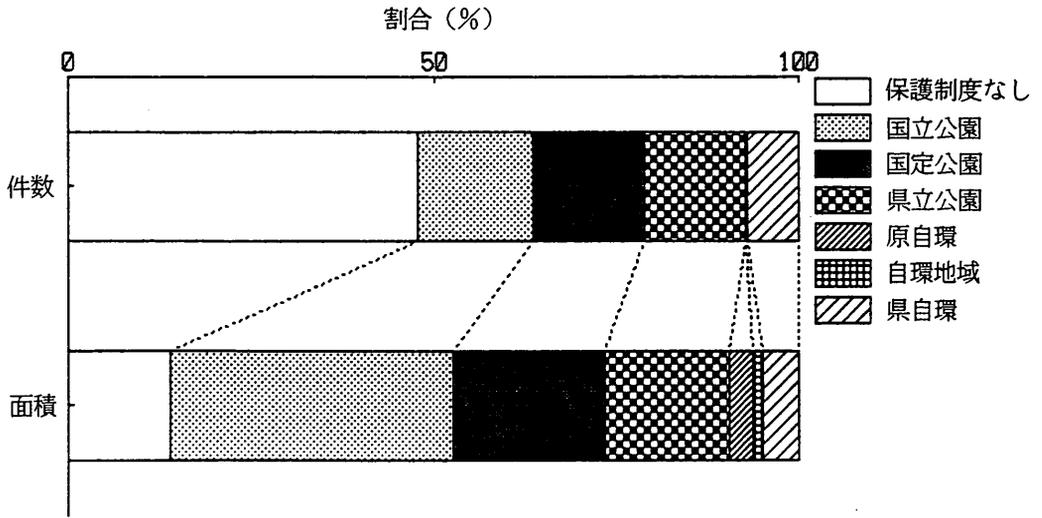


図5.10-1 地域区分別件数及び面積



図5.11-1 亜寒帯常緑針葉樹林の分布



図5.11-2 冷温帯常緑針葉樹林の分布

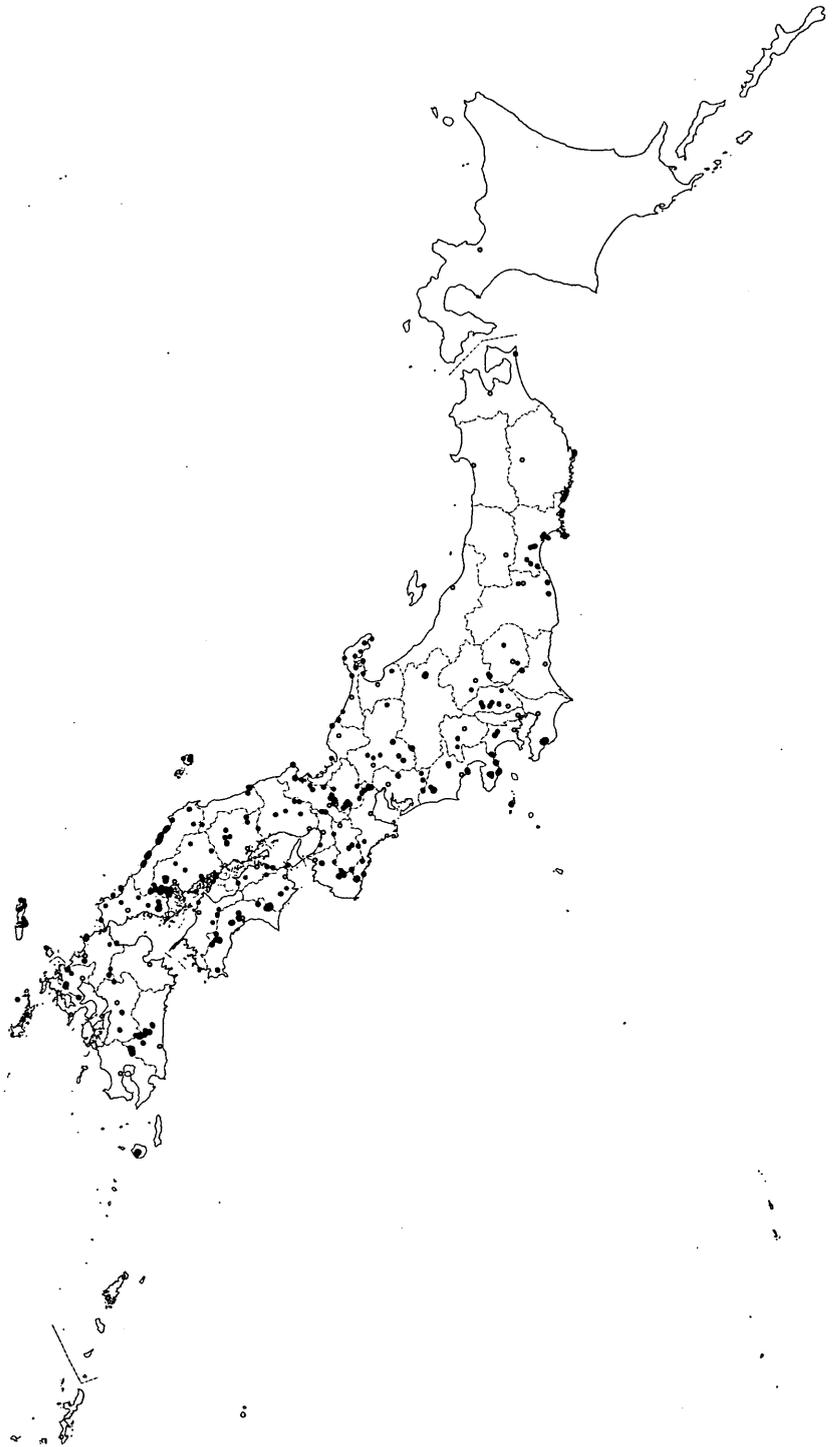


図5.11-3 暖温帯常緑針葉樹林の分布

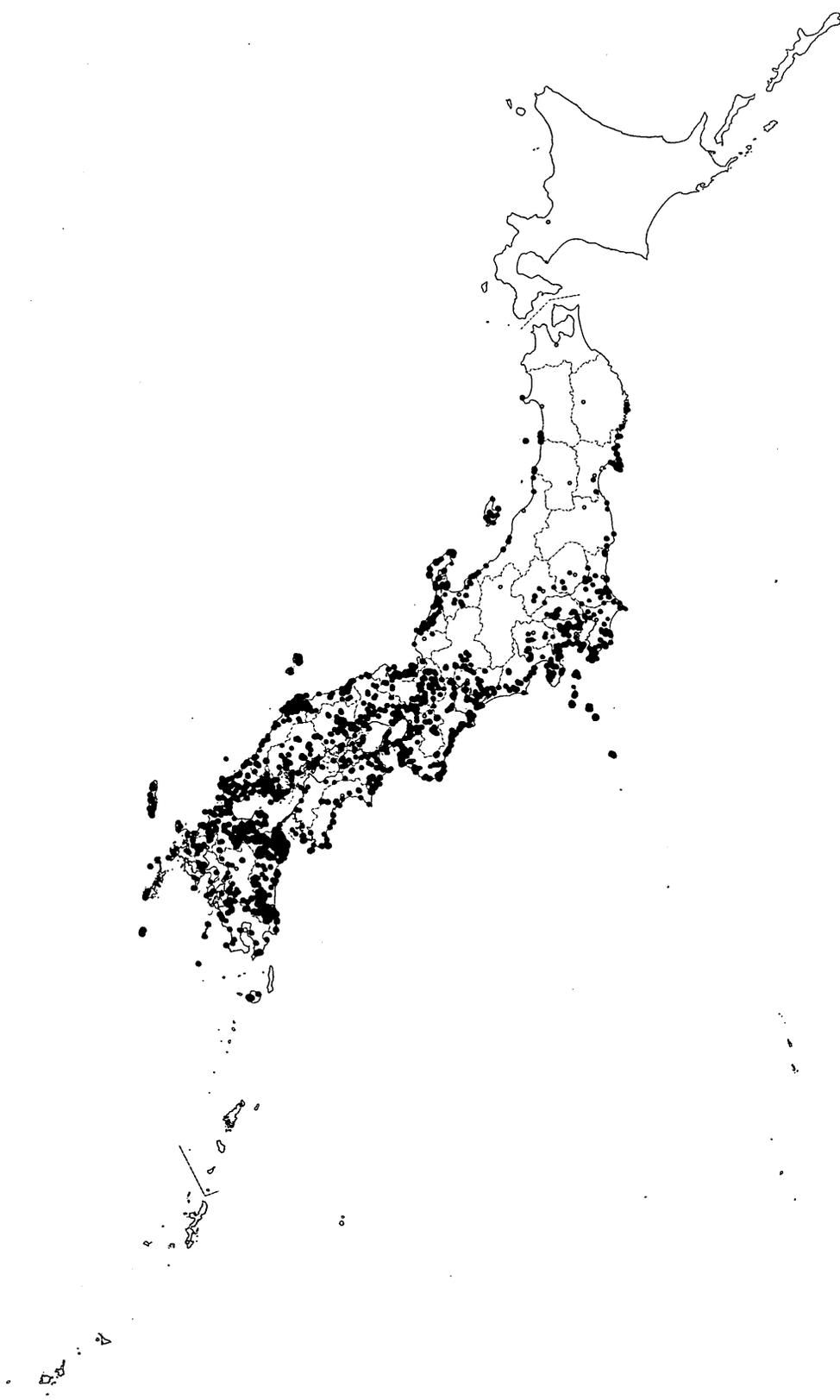


図5.11-4 暖温帯常緑広葉樹林の分布

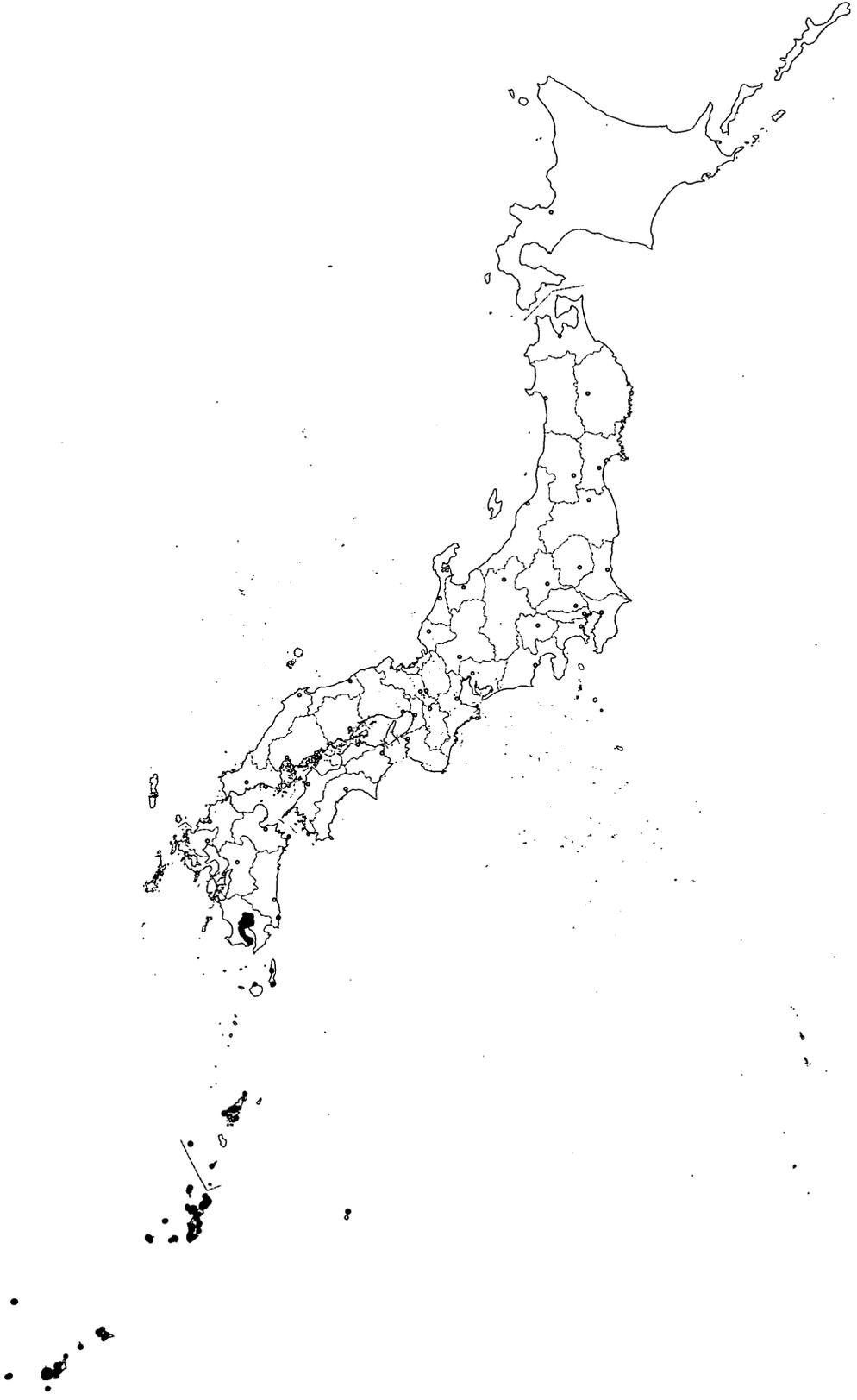


図5.11-5 亜熱帯常緑広葉樹林の分布

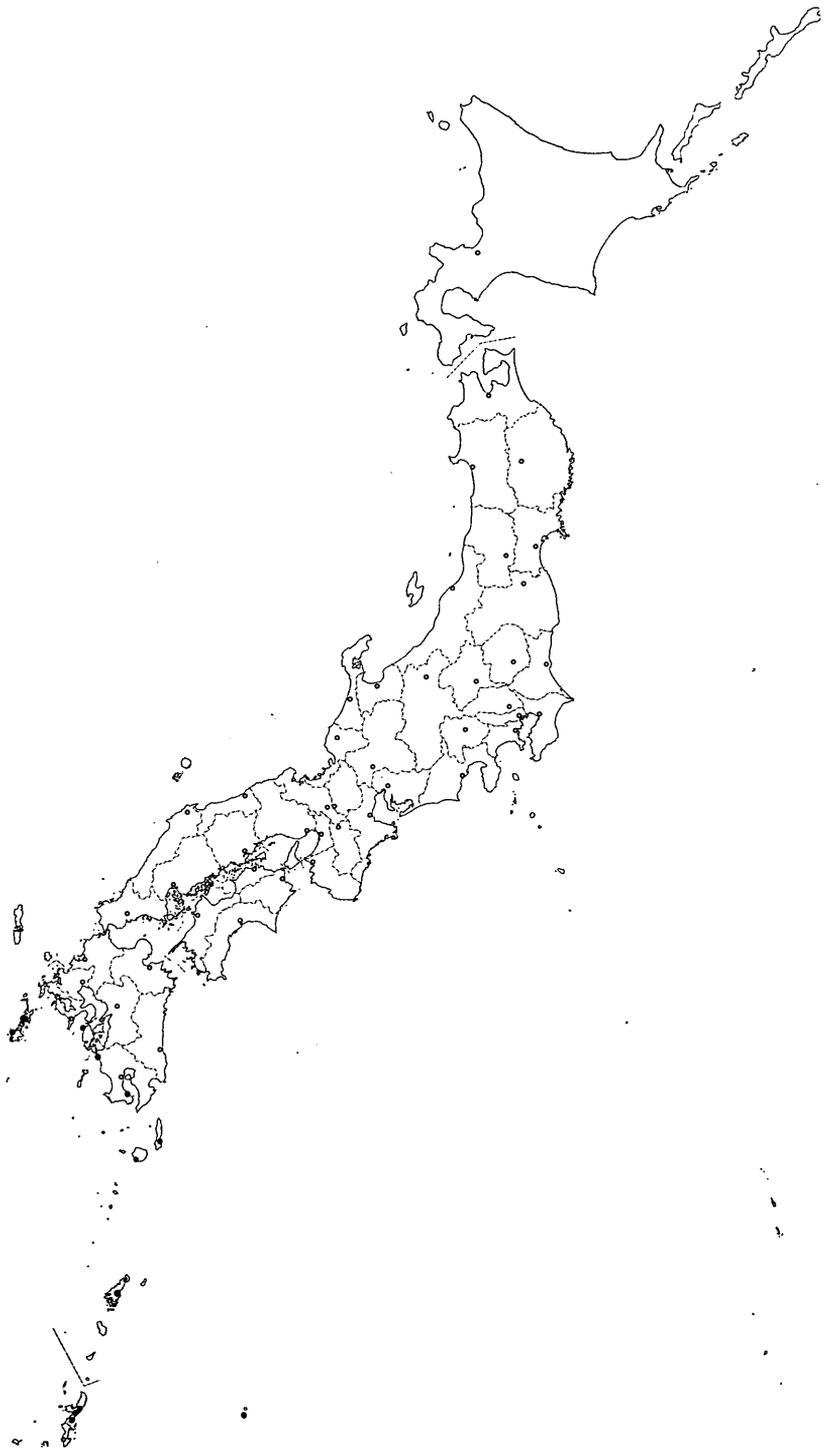


図5.11-6 マングローブ林の分布



図5. 11-7 亜寒帯夏緑広葉樹林の分布



図5.11-8 冷温帯夏緑広葉樹林の分布



図5.11-9 暖温帯夏緑広葉樹林の分布



図5.11-10 高山荒原植生の分布



図5.11-11 浮葉・沈水植物群落の分布



図5.11-12 湿地植生の分布



図5.11-13 河辺植生の分布



図5.11-14 海浜植生の分布



図5.11-15 個体群の分布

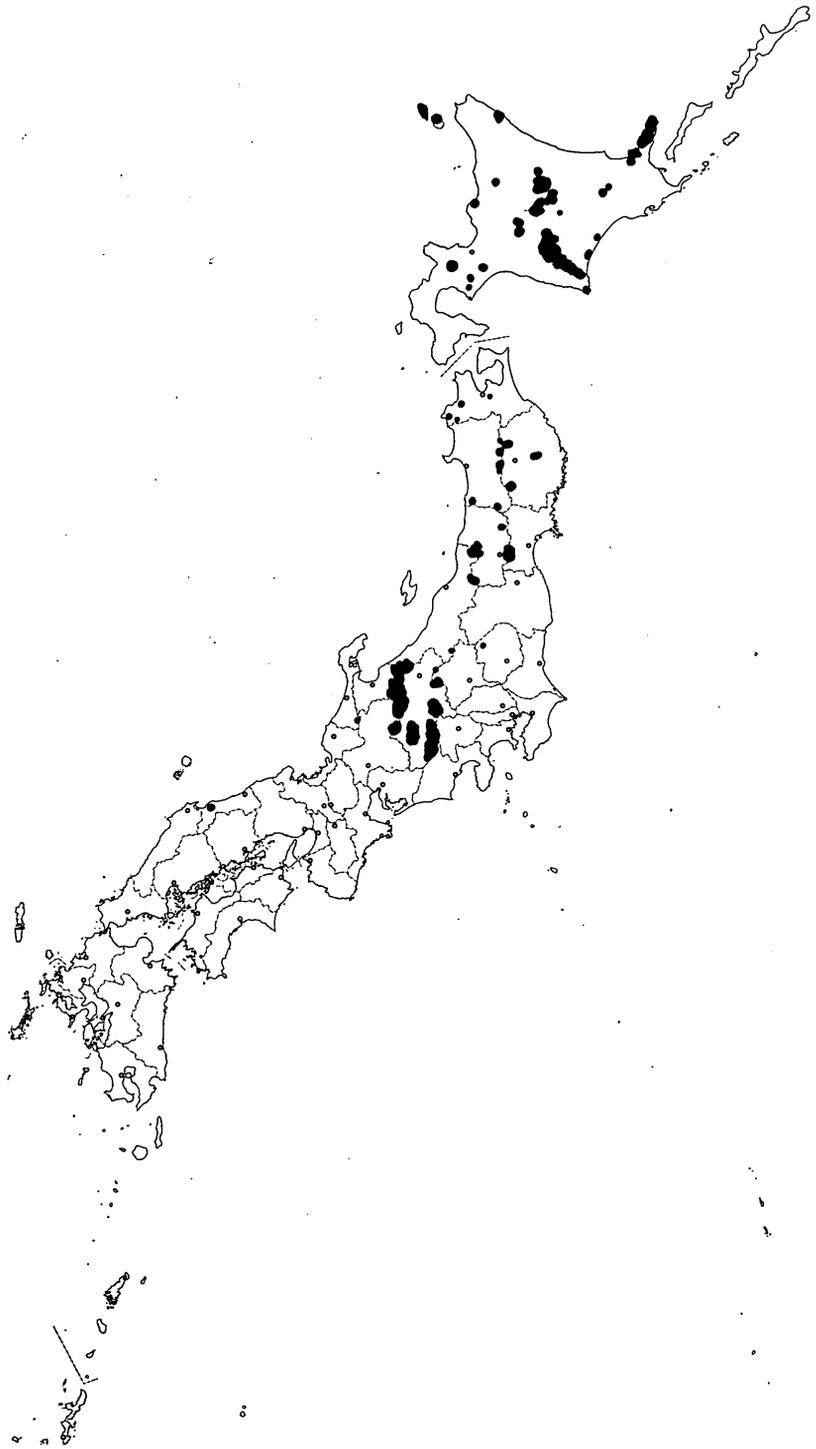


図5.12-1 高山ハイデ及び風衝草原の分布



図5.12-2 雪田草原の分布



図5.12-3 シラビソートウヒ群団の分布

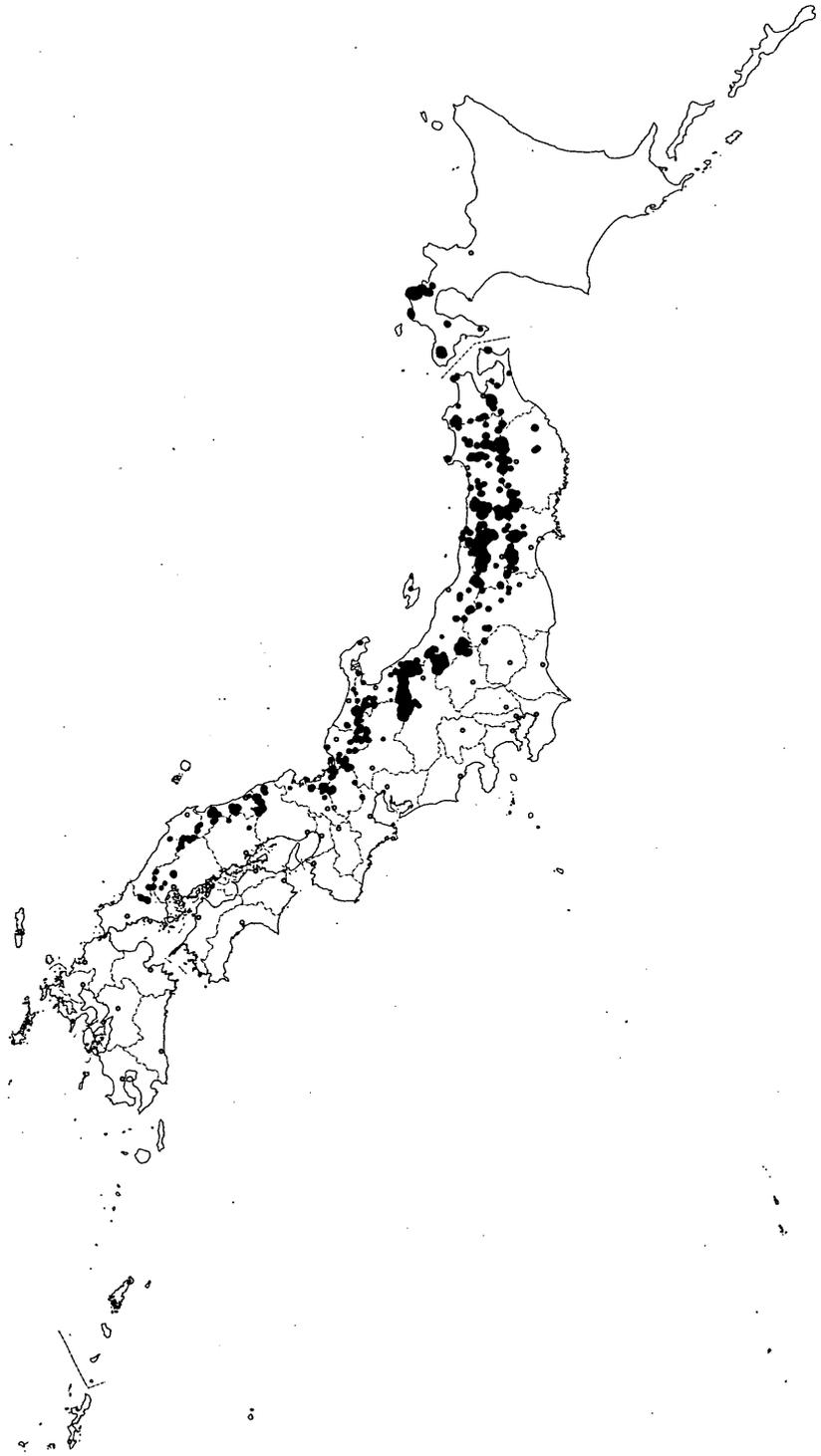


図5.12-4 チシマザサーブナ群団の分布

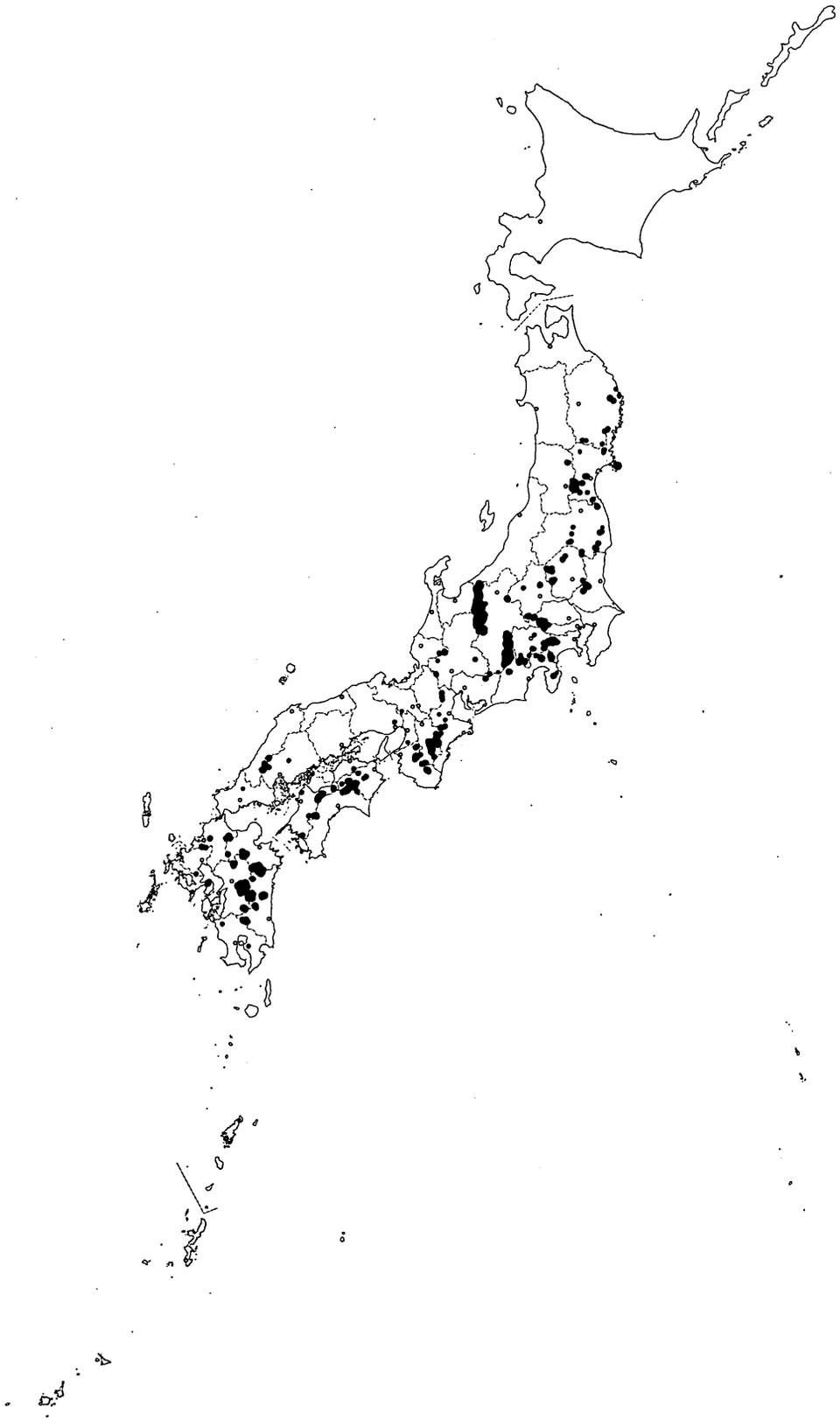


図5.12-5 スズタケープナ群団の分布



図5.12-6 サカキウラジロガシ群集の分布

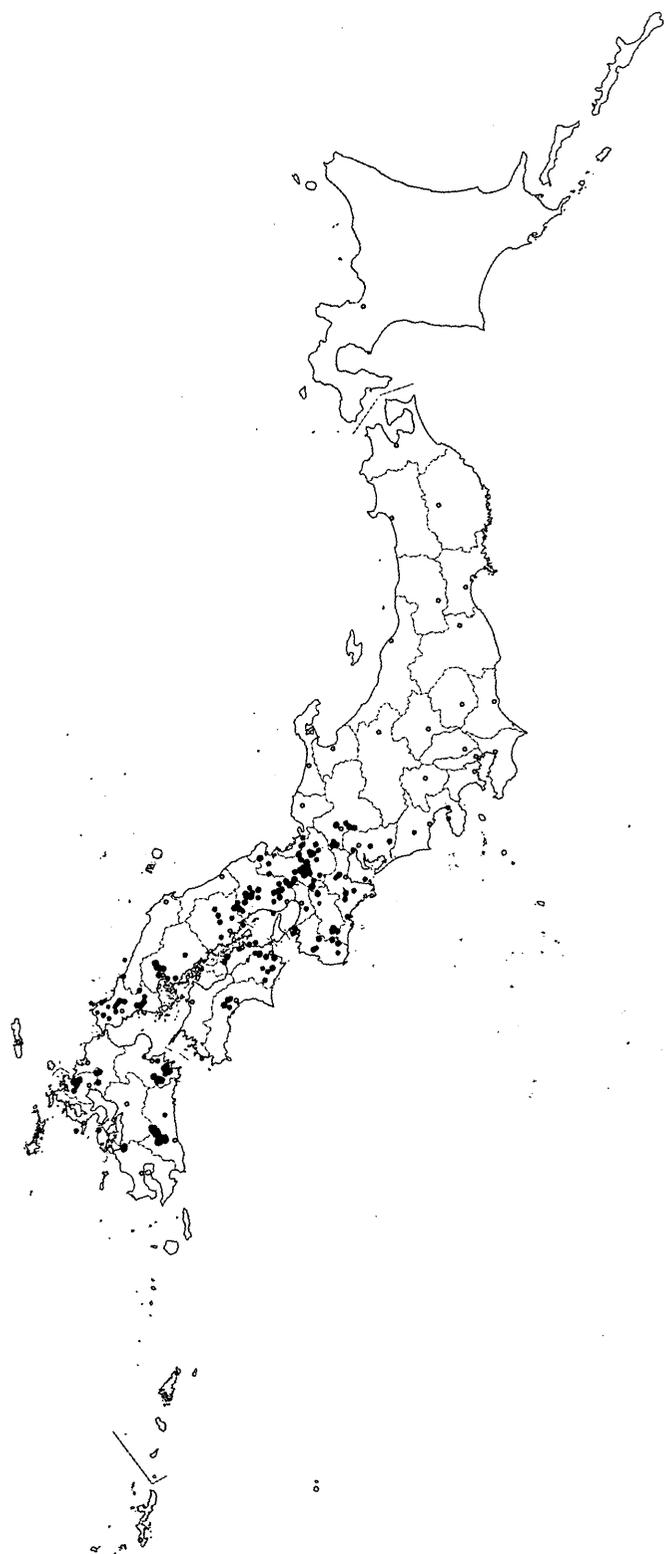


図5.12-7 サカキークジイ群集の分布

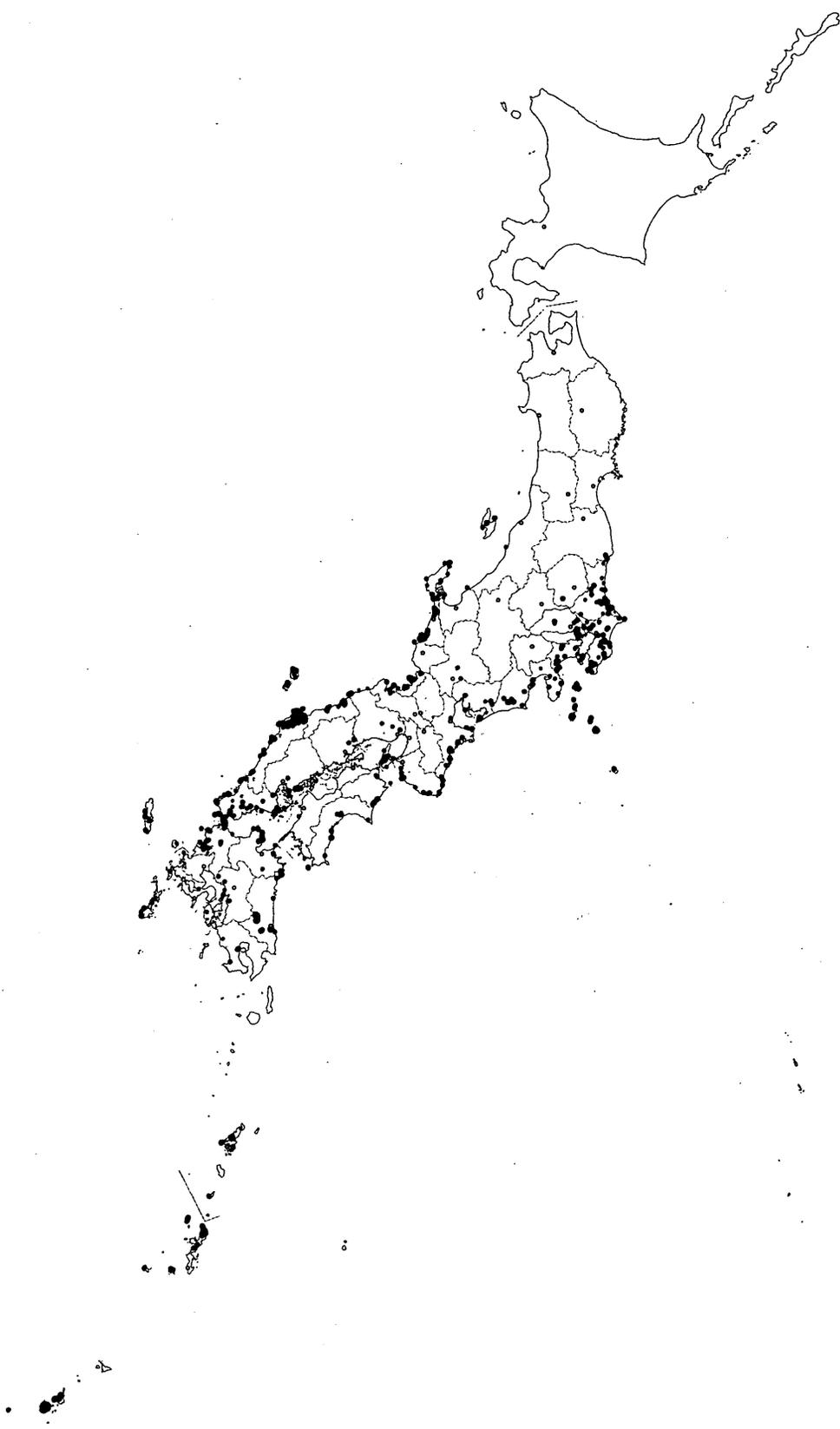


図5.12-8 スダジイ群落の分布



図5.12-9 タブ群落の分布

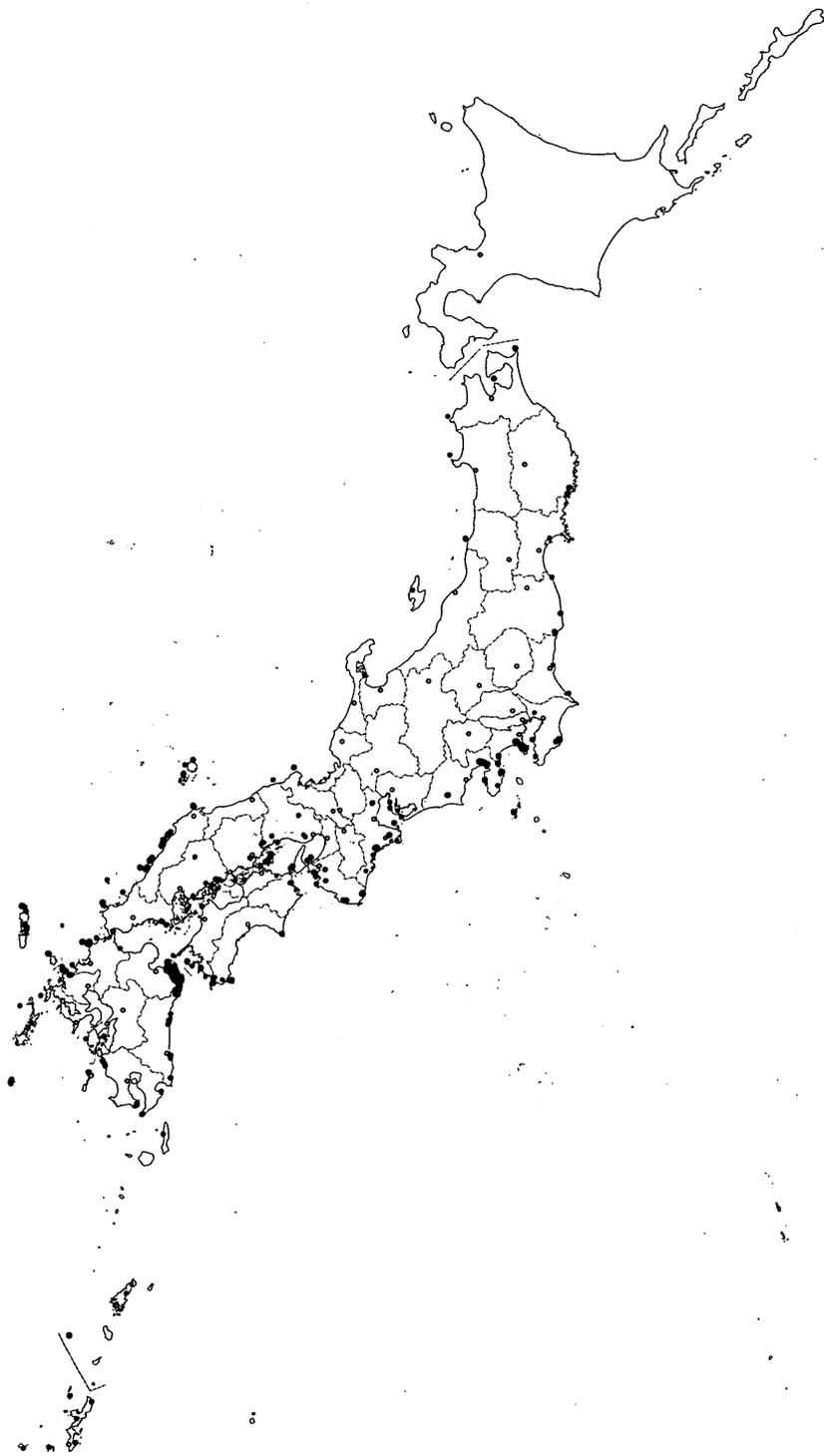


図5.12-10 ウバメガシ群落の分布



図5.12-11 高層湿原の分布



図5.12-12 中間湿原の分布



図5.12-13 低層湿原の分布

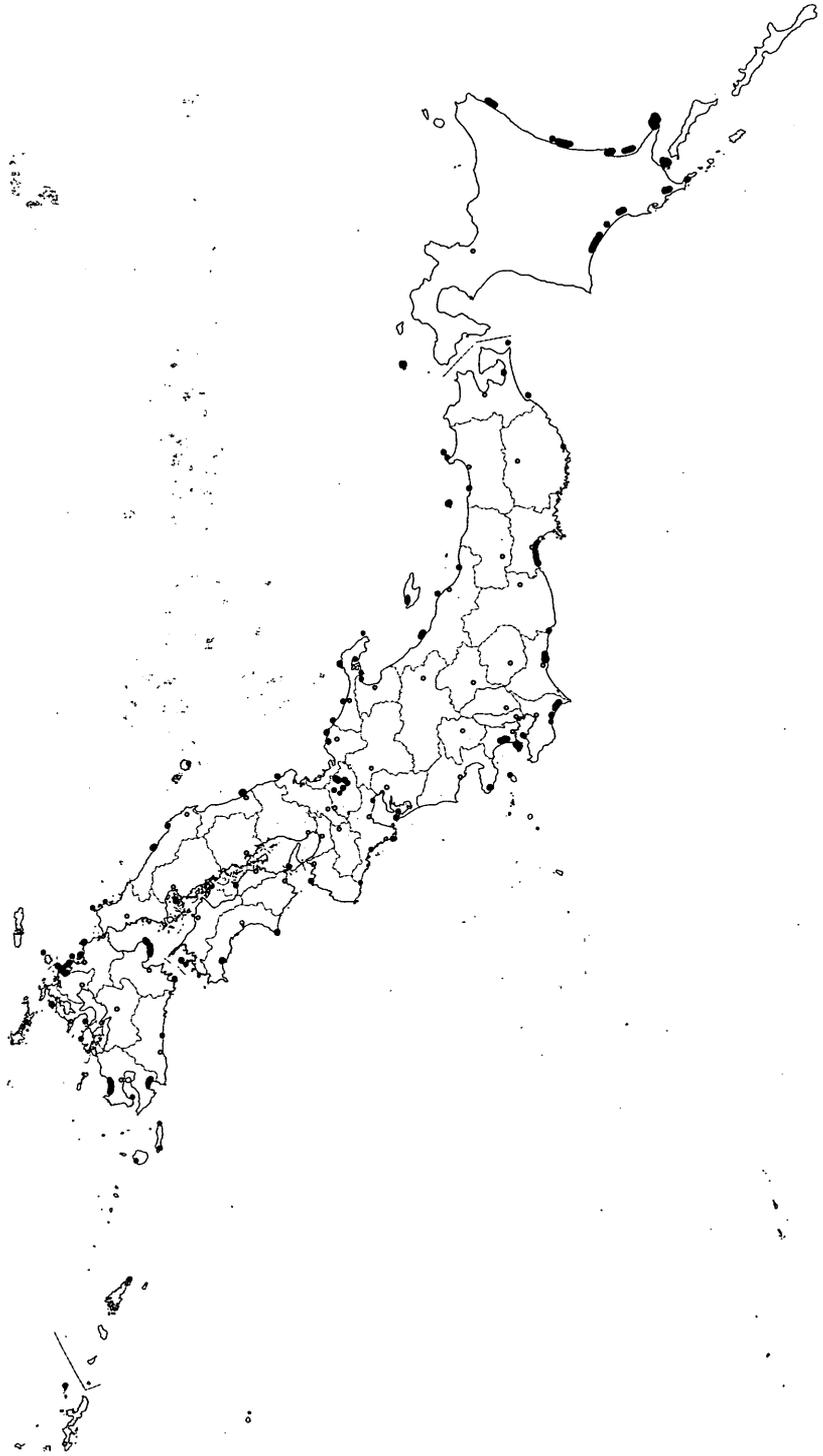


図5.12-14 砂丘植生の分布

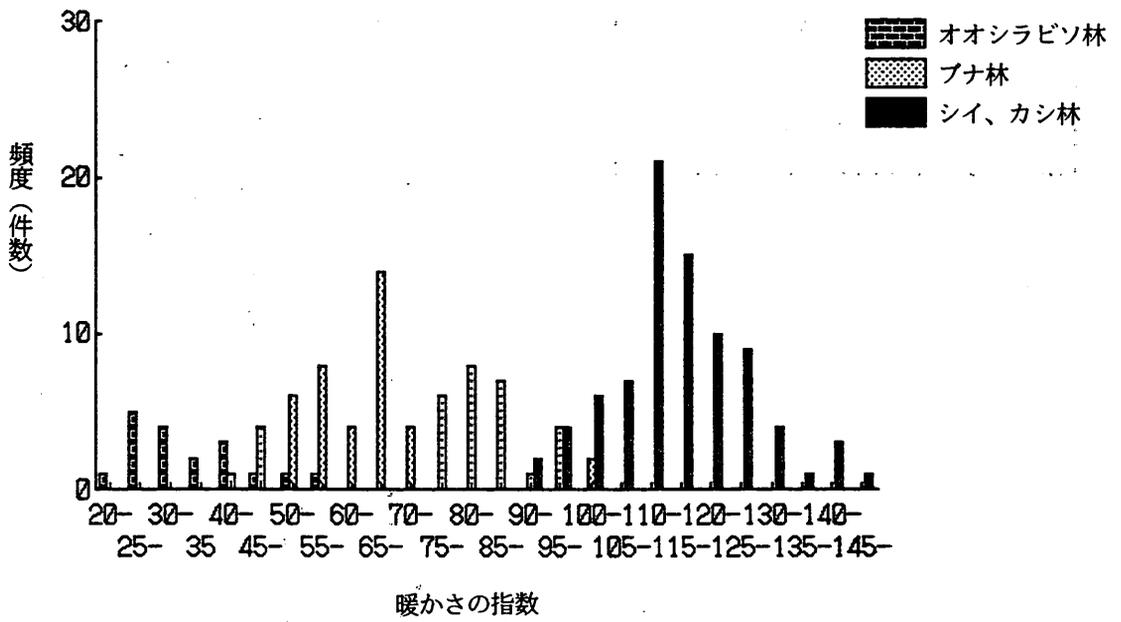


図6.2-1 相観区分別暖かさの指数別の頻度分布

凡 例

番号は各群落の対照番号を示す

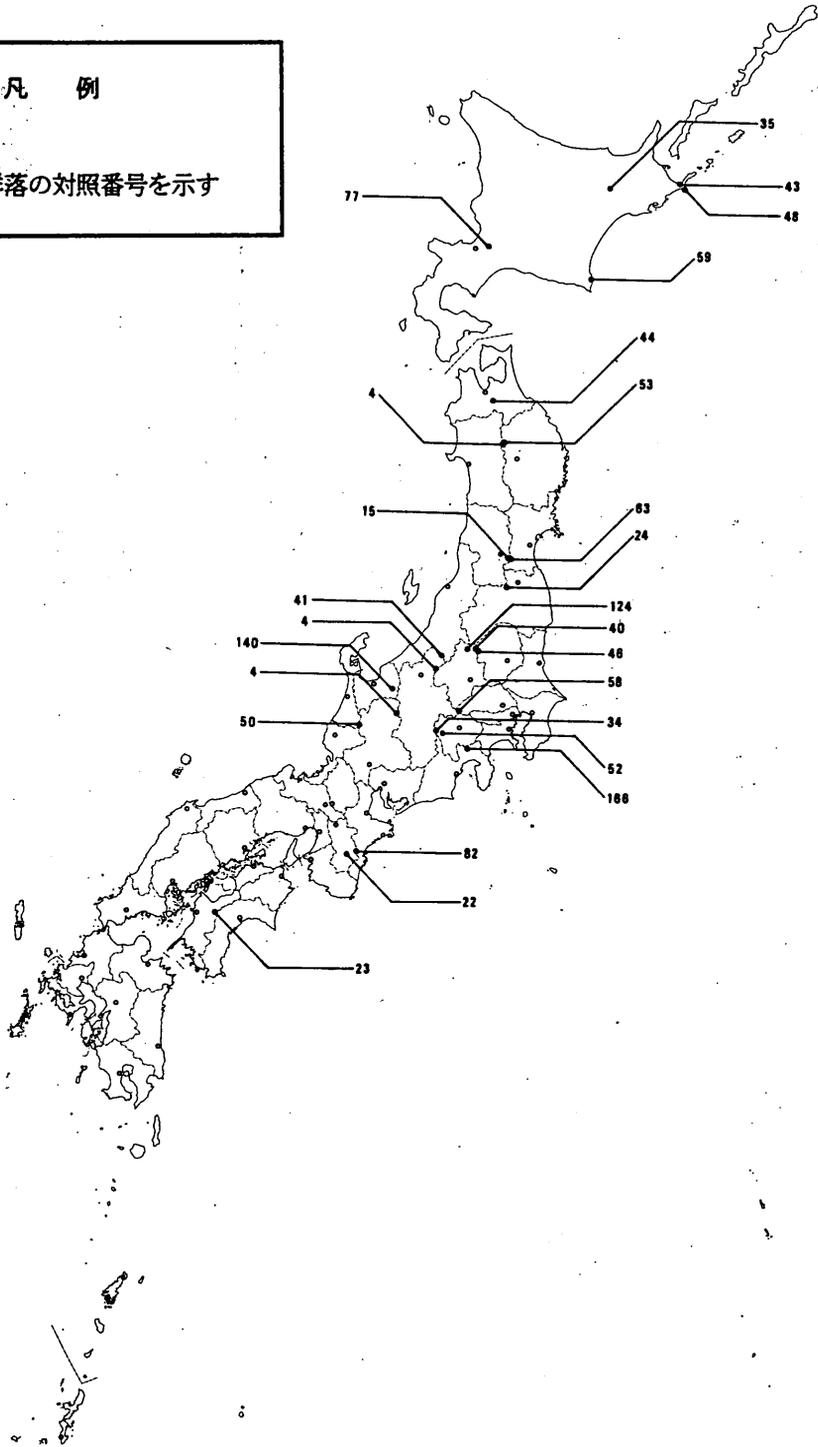


図6.6-1 調査対象群落の分布 (オオシラビソ林)

凡 例

番号は各群落の対照番号を示す

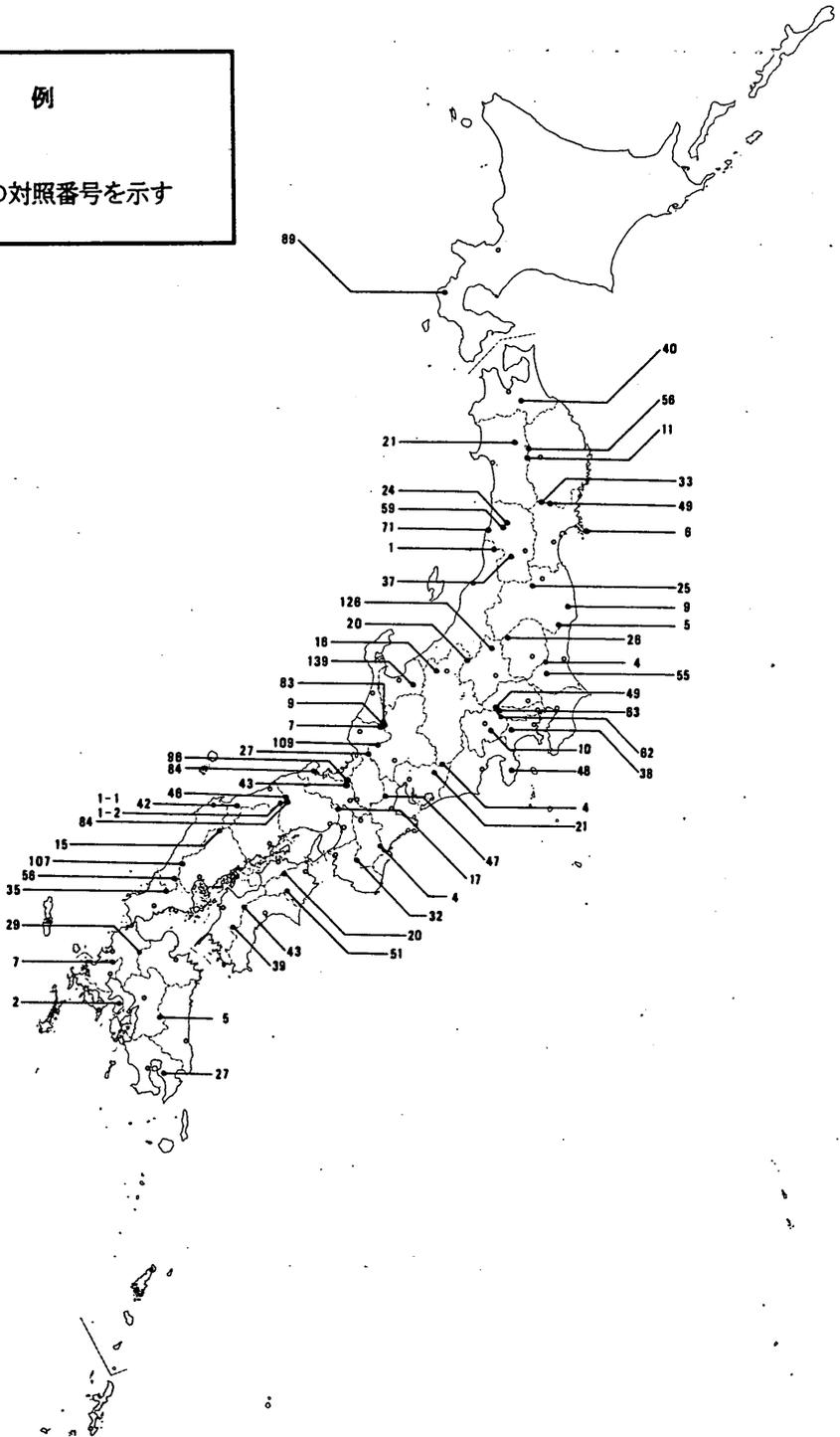


図6. 6-2 調査対象群落の分布 (ブナ林)

凡 例

番号は各群落の対照番号を示す

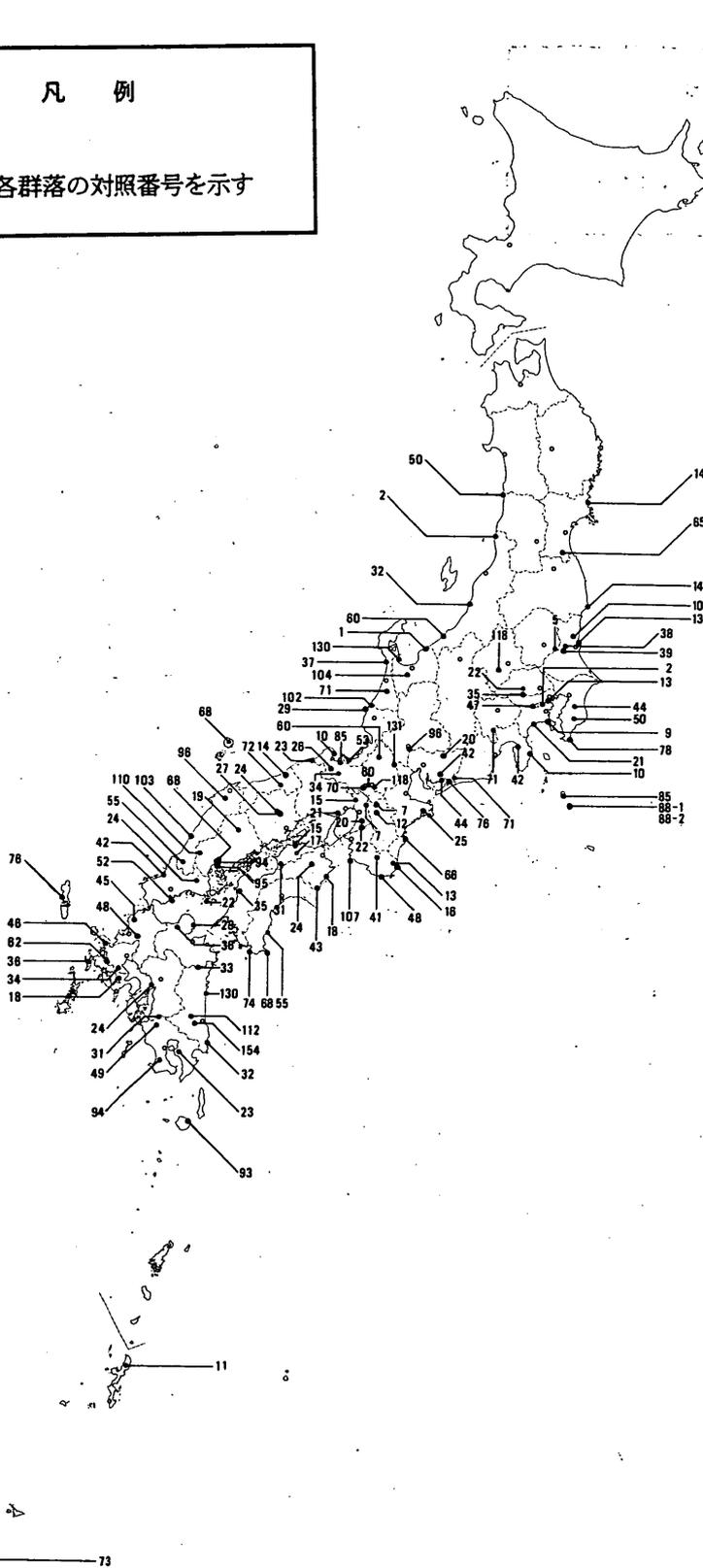


図6. 6-3 調査対象群落の分布 (シイ、カシ林)

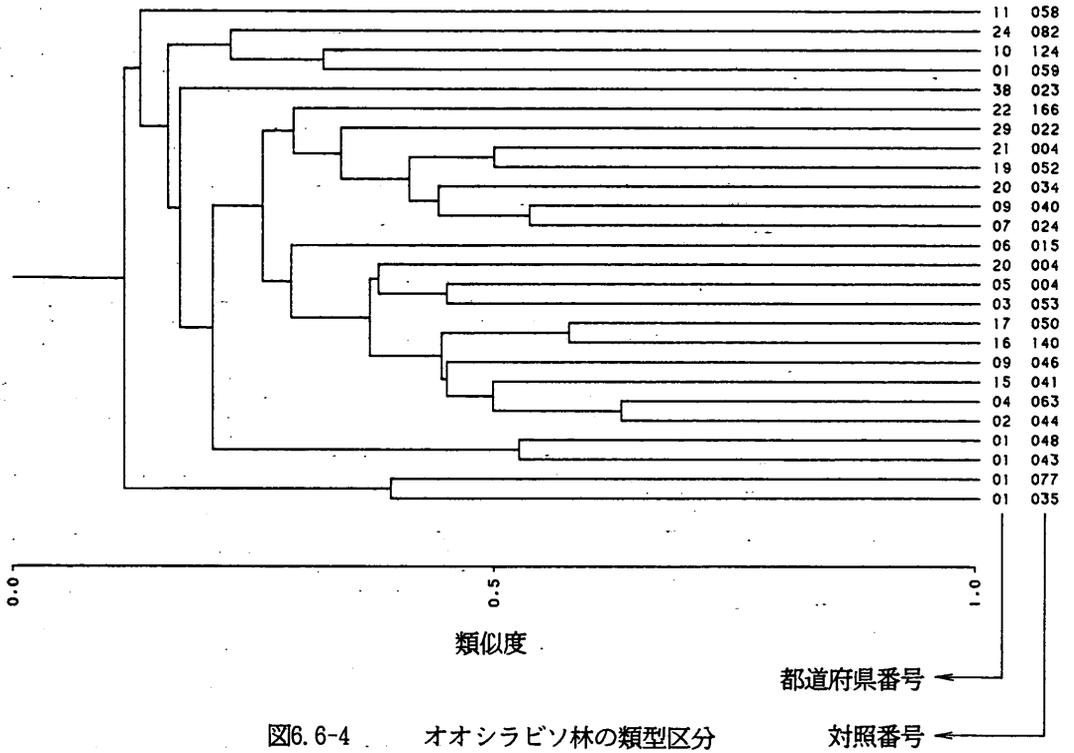


図6.6-4 オオシラビソ林の類型区分

(都道府県番号は表1.1-1を参照)

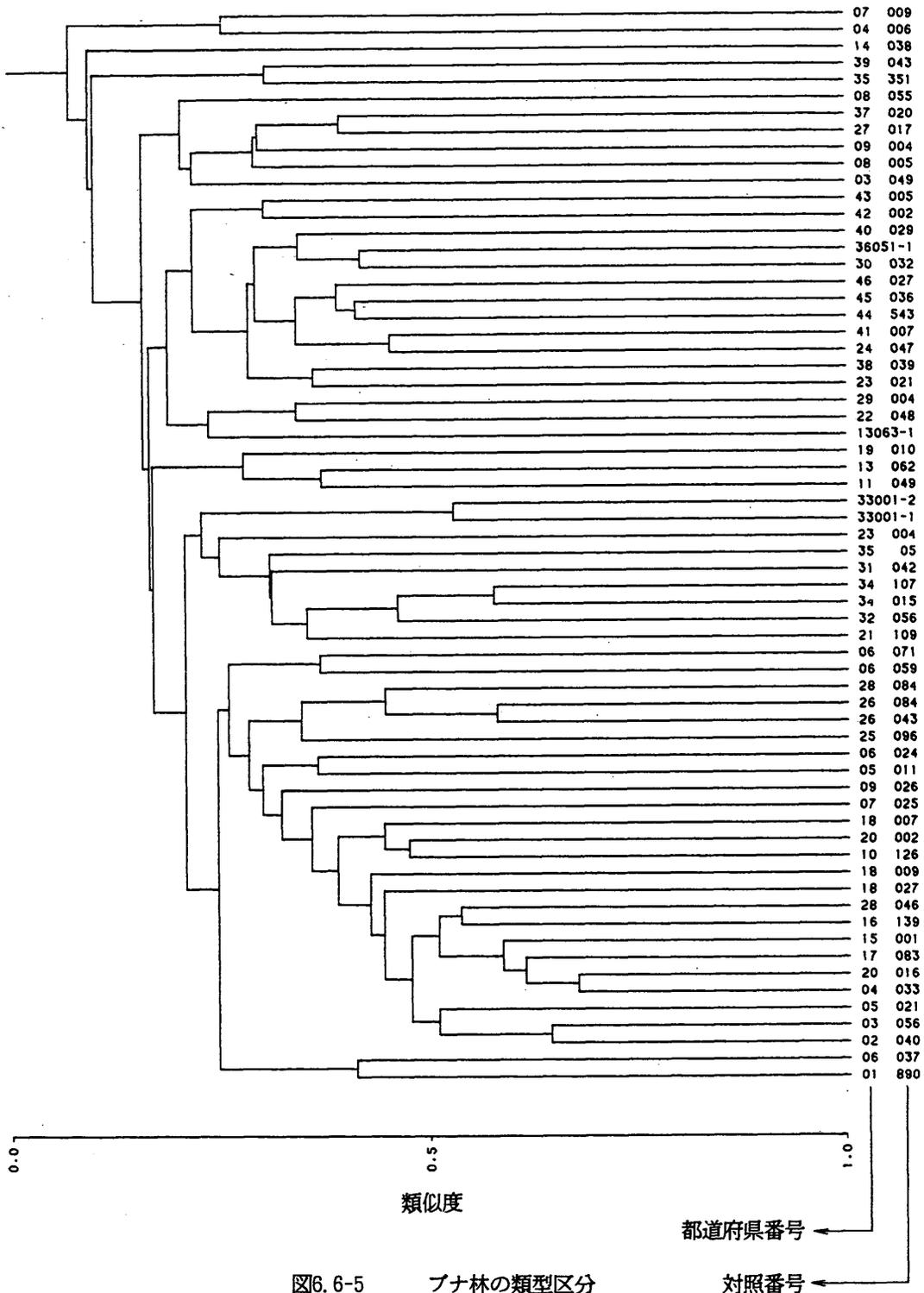


図6.6-5 ブナ林の類型区分



図6.6-6 シイ、カシ林の類型区分



## VI. 特定植物群落一覽



# 1. 変化した群落一覧

変化状況は、その内容が以下の5つに分けられている。

1. 面積、群落構成とも著しい変化なし
2. 面積に著しい変化あり（その面積+・-約 ha）
3. 群落構成に著しい変化あり
4. 個体数（個体群選定の場合）に著しい変化あり
5. 群落又は個体群の消滅

変化原因は、その内容が以下の15に分けられている。

- |   |  |    |                              |
|---|--|----|------------------------------|
| 1 | 人の立入                                   | 9  | 植物の侵入                        |
| 2 | 盗採                                     | 10 | 虫害・菌害                        |
| 3 | 農林業開発                                  | 11 | 動物の侵入                        |
| 4 | 道路開発                                   | 12 | 汚染物質の侵入                      |
| 5 | 観光開発                                   | 13 | ゴミの投棄                        |
| 6 | 水編開発                                   | 14 | 自然災害                         |
| 7 | その他の開発（土地造成等）                          | 15 | その他                          |
| 8 | 周辺の開発<br>（上記3～7の開発が群落の<br>周辺で行われているもの） |    | （地盤沈下、潮流変化、採<br>石・採泥、河川の増水等） |

削除の欄に、「\*」がついている群落は、第3回調査の追跡調査において特定植物群落から削除対照となったものを表す。

対照番号	件名	相観	面積 (ha)	変化 状況	変化 原因	削除
<b>《北海道》</b>						
01 004	サロベツ原野	湿地植生	3540.0	2	03	
01 006	浅茅野湿原植生	湿地植生	395.0	2	03	
01 007	浜頓別クッチャロ湖湿原植生	冷温帯植生	1004.0	2	03	
01 008	浜頓別ベニヤ海岸草原群落	海浜植生	26.0	2	0304	
01 031	チミケップ、湖畔針葉樹林	亜寒帯常緑針葉高木林	25.8	3	0304	
01 040	川湯アカエゾマツ林	亜寒帯常緑針葉高木林	4500.0	2	03	
01 043	風蓮湖春国岱のアカエゾマツ林	冷温帯常緑針葉高木林	54.0	2	15	
01 044	風蓮湖畔塩湿地植生	海浜植生	81.0	2	15	
01 046	モユルリ島の海岸台地草原	冷温帯植生	31.0	3	15	
01 052	釧路湿原岩保岫二次林	冷温帯植生	113.0	2	03	
01 053	釧路湿原植生	湿地植生	18290.0	2	03	
01 067	十勝川上流針葉樹林	亜寒帯常緑針葉高木林	190.0	3	14	
01 099	渡島国仁山高原木地挽山シバ草原	冷温帯単子葉草本草原	1030.0	2	03	
01 115	下ホロカメットク山周辺自然植生	植生一般	5000.0	3	14	
<b>《青森》</b>						
02 009	横浜町向平のヨシ湿原	雪田植生	12.7	2	03	
02 012	仏沼干拓地のツルコケモモ群落	湿地植生		5	03	*
02 013	姉沼のヨシ湿原	湿地植生	15.0	2	07	
02 017	燧岳山腹ブナ群落	冷温帯夏緑広葉高木林	200.0	23	03	
02 032	斗内のアカマツ林	冷温帯常緑針葉高木林	3.0	23	03	
<b>《岩手》</b>						
03 009	磯鶏のヤブツバキ林	暖温帯夏緑広葉高木林	1.0	2	0307	
03 010	白浜のエゾオグルマ	海浜植生	0.1	4	06	
03 011	十二神山のブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	187.0	2	03	
03 012	津軽石川源流地帯のイヌブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	600.0	2	03	
03 017	安家川源流地帯のブナ林	植生一般	400.0	2	03	
03 028	五葉山のゴウザンヨウラク	亜寒帯常緑針葉高木林	100.0	4	02	
03 035	早池峰山の高山植物	亜寒帯植生	1300.0	3	010214	
03 048	宝塔谷池の低層湿原	湿地植生		5	03	*
03 050	四角岳のブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	300.0	2	03	
03 056	葛根田のブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	5000.0	2	03	
03 057	千沼ヶ原の高層湿原	亜寒帯植生	25.0	3	14	
03 069	栗駒山の高層湿原	湿地植生	30.0	3		
03 071	栗駒山のブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	2000.0	2	03	
<b>《宮城》</b>						
04 024	伊豆沼・内沼の沼沢地植物群落	湿地植生	560.0	345		
04 031	仙台湾沿岸の砂浜植物群落	海浜植生	240.0	2		
04 033	栗駒山の原生林	植生一般	6500.0	2	03	
04 035	御獄山のアズマシヤクナゲ自生地	冷温帯夏緑広葉低木林	7.0	4	09	
04 036	六角のススキ草原	冷温帯単子葉草本草原	800.0	2		
04 038	若如のブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	25.0	2	03	
04 044	青葉南のモミ林	冷温帯常緑針葉高木林	6.0	3	0104	
04 047	荒雄川の河辺林	冷温帯夏緑広葉高木林	200.0	2		
04 057	船形山の原生林	植生一般	8500.0	2	03	
04 065	斗蔵山のモミ・ウラジロガシ林	暖温帯植生	7.0	3		
04 069	渡瀬の風穴植物群落	岩上、多隙地草本植生	1.0	234	0207	
04 072	千浦のヒメサユリ自生地	冷温帯夏緑広葉低木林	18.0	2345	02	
04 074	峠田岳のブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	200.0	2	07	
<b>《秋田》</b>						
05 008	乳頭山塊のトガクシショウマ群落	冷温帯ササ原	0.1	234		
05 019	森吉小又峽の森林植生	冷温帯植生	703.0	2		
05 020	滝ヶ森のブナ・スギ林	冷温帯夏緑広葉高木林	350.0	2	03	
05 022	桃洞・佐渡のスギ林	冷温帯常緑針葉高木林	1215.0	2		
05 023	玉川のハルニレ林	冷温帯夏緑広葉高木林		5	06	*

対照番号	件名	相観	面積 (ha)	変化 状況	変化 原因	削除
<b>《秋田》</b>						
05 024	大森山のオニグルミ林・ハンノキ林	冷温帯夏緑広葉高木林	89.0	4		
05 029	金峰山の植物群落	冷温帯植生	49.0	3	02	
05 048	保呂羽山の植生	冷温帯植生	10.5	14	02	
05 052	粕毛川源流のブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	3800.0	2		
05 058	水林のクロマツ林	常緑針葉高木植林	60.0	2	07	
05 060	西目海岸の砂丘植生	海浜植生	61.5	2	04	
05 061	大谷地周辺の植物群落	湿地植生	91.8	3	03	
<b>《山形》</b>						
06 067	大井沢見附湿原	湿地植生		2	03	*
<b>《福島》</b>						
07 001	海老浜のマルバシャリンバイ自生地	暖温帯常緑広葉低木林	0.0	3	02	
07 016	福原のシラカバ林	冷温帯夏緑広葉高木林		5	03	*
07 017	四時川溪谷のイヌシデ林	冷温帯夏緑広葉高木林	1050.0	3	09	
07 019	鹿角平の湿原	湿地植生		5	03	*
07 028	山本不動のアカシデ林	冷温帯夏緑広葉高木林	1.2	2	0105	
07 044	山田原のブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	12.0	2	03	
07 052	熊倉谷地湿原	湿地植生	0.9	2	07	
07 058	湯本のケヤキ林	冷温帯夏緑広葉高木林	1.8	2	04	
07 082	信夫文知観音の樹叢	暖温帯夏緑広葉高木林	1.5	3	10	
<b>《茨城》</b>						
08 006	三鈴室山の植生	冷温帯植生	20.0	2	03	
08 007	浄蓮寺の暖地性植物	暖温帯常緑広葉高木林	20.0	3	06	
08 008	暖地性シダの北限	暖温帯常緑広葉高木林	24.5	4	03	
08 010	常陸太田市平地林の植生	暖温帯植生	26.0	3	10	
08 011	常陸太田市の自然林	暖温帯常緑広葉高木林		3	10	*
08 012	東海村の海岸植生	暖温帯植生	50.0	2	07	
08 014	勝田市海岸の植生	暖温帯植生	1062.0	3	07	
08 016	ハマギクの南限地	暖温帯常緑広葉低木林	1.0	3	04	
08 020	鉢田町の常緑樹林	暖温帯常緑広葉高木林	3.0	3	01	
08 026	大賀の常緑樹林	暖温帯常緑広葉高木林	5.0	3	10	
08 029	鍋足山の特殊な立地の植生	岩上, 多隙地草本植生	300.0	3	02	
08 030	フロダガヤの生育地	岩上, 多隙地草本植生	1.0	4	05	
08 031	大子町のコナラ群落	暖温帯夏緑広葉高木林		5	04	*
08 034	西金砂山の植生	暖温帯植生	90.0	3	03	
08 038	常北町の暖帯林	暖温帯植生	125.0	3	10	
08 039	笠間市の常緑樹林	暖温帯植生	25.0	3	03	
08 047	茨城県南部の社寺林	暖温帯植生		3	03	*
08 052	協和町の植生	暖温帯常緑針葉高木林	40.0	3		
08 054	石岡市の常緑樹林	暖温帯常緑広葉高木林		3	15	*
08 058	土浦付近に見られる森林	暖温帯植生	15.0	2	05	
08 059	取手市の植生	暖温帯常緑広葉高木林		5	07	*
08 061	菅生沼の植生	湿地植生	231.5	3	09	
<b>《栃木》</b>						
09 003	佐久山のヤマクボスゲ群落	常緑針葉高木植林	0.0	3		
09 011	クリンソウ	湿地植生		5	03	*
09 015	関谷狸野沢のクマガエソウ	常緑針葉高木植林		5	02	*
09 018	釈迦ヶ岳のコメツガ・イラモミ林	亜寒帯常緑針葉高木林	83.0	3	14	
09 019	船生落合のコアツモリソウ	常緑針葉高木植林		5	02	*
09 024	水湿地植生(タコノアシ)	湿地植生		5	14	*
09 027	今市平ヶ崎のヒメザゼンソウ	常緑針葉高木植林	0.0	4	09	
<b>《群馬》</b>						
10 003	谷田川のタチスミレ群落	湿地植生	0.9	3	05	
10 017	仙人ヶ岳山麓のカザグルマ群落	タケ形林	0.3	2	01	
10 019	鳴神山のカッコソウ群落	常緑針葉高木植林	0.0	4	0102	

対照番号	件名	相観	面積 (ha)	変化 状況	変化 原因	削除
<b>《群馬》</b>						
10 020	吾妻山のクマガイソウ群落	常緑針葉高木植林		5	02	*
10 021	吾妻山のヤマタバコ群落	暖温帯夏緑広葉高木林	0.1	3	09	
10 034	榎俣川流域のヤチダモ林	冷温帯夏緑広葉高木林		5	07	*
10 039	青木沢のヒメザゼンソウ群落	暖温帯広葉草原		5	04	*
10 041	赤城山のフジアザミヤマホタルブクロ群落	冷温帯広葉草原	2.0	2	15	
10 045	伊勢崎のコモチシダ群落	草本シダ群落	0.0	4	07081213	
10 046	群馬の森のシラカシ人工林	常緑広葉高木植林	18.0	3	01	
10 063	叶山周辺の石灰岩地植生	冷温帯夏緑広葉低木林		5	07	*
10 066	天丸山のヒノキ天然林	冷温帯常緑針葉高木林	7.0	4	03	
10 071	吾妻渓谷のミヨウギシダ北限地	草本シダ群落	0.0	4	02	
<b>《埼玉》</b>						
11 011	原前のコナラ林	暖温帯夏緑広葉高木林		2	07	*
11 012	西山新田のシラカシ林	暖温帯常緑広葉高木林		2	07	*
11 013	与野市月読神社の社寺林	暖温帯常緑広葉高木林		4	15	*
11 014	城山のコナラ林	暖温帯夏緑広葉高木林	1.5	3	01	
11 015	五味ヶ谷のアカマツ林	暖温帯常緑針葉高木林		5	07	*
11 021	大高取山のスダジイ林	暖温帯常緑広葉高木林		5	03	*
11 031	都幾川村のツクバネガシ・ウラジロガシ林	暖温帯常緑広葉高木林		5	03	*
11 036	ヤエガワカンバ林	暖温帯夏緑広葉高木林		5	04	*
11 040	武甲山石灰岩地の森林	植生一般		5	15	*
11 041	武甲山のイワツモツケ群落	冷温帯夏緑広葉低木林		5	15	*
11 053	中双里の森林	植生一般	38.0	2	03	
<b>《千葉》</b>						
12 007	八日市場のハマハナヤスリ群落	海浜植生	2.0	2	07	
12 008	九十九里浜北部の砂丘群落	海浜植生	3.6	2	06	
12 016	成東食虫植物群生地	湿地植生	1.5	4	03	
12 017	成東クマガイソウ群生地	常緑針葉高木植林		5	0102	*
12 018	九十九里地区の植生・ハマナシ群生地	海浜植生	0.0	3	09	
12 023	八積のカモノハシ群落	湿地植生	0.9	2	060708	
12 034	安食のオニバス群生地	浮葉・沈水植物群落		5	0306	*
12 035	甚兵衛沼付近のオニバス群生地	浮葉・沈水植物群落	4.0	5	030506	
12 055	ヒメコマツ・ヒカゲツツジ群集	暖温帯常緑針葉高木林	100.0	4	02	
12 062	鎌ヶ谷郷土の森	暖温帯植生	3.0	2	03	
12 068	富津の海岸草原	海浜植生	4.5	3	15	
12 077	崖地植生群落(ヒロハドウダンツツジ群落)	暖温帯夏緑広葉高木林	20.0	4	02	
<b>《東京》</b>						
13 007	府中稲荷神社の樹林	暖温帯常緑広葉高木林	0.2	2	15	
13 012	清泉女子大学橋内(旧島津邸)の常緑広葉樹林	暖温帯常緑広葉高木林	1.7	3	15	
13 014	六郷低水敷の汽水帯植物群落	海浜植生	36.4	2	15	
13 018	府中崖線中部の残存自然林	暖温帯常緑広葉高木林	0.3	2	070813	
13 025	多摩川中央線鉄橋付近の河畔林など	河辺植生		2	07	*
13 026	多摩川多摩大橋下流の河辺植生	河辺植生	68.5	23	15	
13 028	多摩川拝島橋付近の河辺植生	河辺植生	47.5	2	0104	
13 030	八王子梅坪谷地川畔のケヤキ林	暖温帯夏緑広葉高木林	0.4	1	07	
13 033	多摩川羽村大橋下流のカワラノギク群落など	河辺植生	28.5	2	15	
13 034	多摩川羽村堰下のカワラノギク群落など	河辺植生	1.5	2	07	
13 035	溝地畔下の多摩川河辺植生	河辺植生		2	0114	*
13 037	多摩川橋付近のカワラノギク群落	河辺植生		5	14	*
13 038	八王子川口日枝神社裏のケヤキ林	暖温帯夏緑広葉高木林		5	07	*
13 040	多摩川是政河原のカワラノギク群落	河辺植生		5	0114	*
13 042	多摩川関戸橋下流の河辺植生	河辺植生	14.0	3	14	
13 045	百草八幡のスダジイ林	暖温帯常緑広葉高木林	1.5	3	14	
13 046	多摩丘陵脚部のケヤキ・シラカシ林	暖温帯常緑広葉高木林	3.0	2	07	
13 052	町田市鍛冶谷のスダジイ林	暖温帯常緑広葉高木林	0.1	3	15	

対照番号	件名	相観	面積 (ha)	変化 状況	変化 原因	削除
<b>《東京》</b>						
13 076	式根島大浦の海岸砂丘植生	海浜植生		3	0113	*
13 085	三宅島大路池周辺のスダジイ林・タブ林	暖温帯常緑広葉高木林	37.0	3	14	
13 086	三宅島新滞池周辺のスダジイ林	暖温帯常緑広葉高木林		5	14	*
<b>《神奈川》</b>						
14 001	多摩川口の塩生植物群落	海浜植生	0.2	23	010609	
14 013	三浦半島の海浜植生	海浜植生	0.0	2	01	
14 014	黒川のケヤキ林	暖温帯夏緑広葉高木林		5	06	*
14 017	相模川の河辺植生	河辺植生	800.0	3	0609	
14 019	湘南海岸の砂丘上草本植物群落	海浜植生	6.0	2	01040607	
14 067	山神の樹叢	暖温帯常緑広葉高木林	90.0	3	08	
14 068	中里のカタクリ群落	常緑針葉高木植林	0.0	4	03	
14 071	大松寺林	暖温帯常緑広葉高木林	1.2	3	01	
14 085	皆瀬川野蛇石の渓谷植物群落	草本シダ群落	0.5	3	15	
<b>《新潟》</b>						
15 014	剣龍峽のカシ林	暖温帯夏緑広葉高木林		2	05	*
15 021	ヒメタヌキモ	浮葉・沈水植物群落	18.0	4	14	
15 031	八箇峠のミズナラ林	冷温帯夏緑広葉高木林	9.0	2	03	
15 045	頸城海岸の砂丘植物群落	海浜植生	200.0	2	0613	
15 059	笹ヶ峰のサワグルミ林	冷温帯夏緑広葉高木林	0.5	2	0308	
<b>《富山》</b>						
16 050	黒部川のオランダカラシ群落	湿地植生		5	09	*
16 098	楡原八幡のハルニレ群落	冷温帯夏緑広葉高木林		5	07	*
16 112	細島のサワグルミ群落	冷温帯夏緑広葉高木林		5	03	*
16 121	倶利伽羅峠のアカシダ群落	冷温帯夏緑広葉高木林		3	01	*
16 122	五十里のタクノアシ群落	湿地植生		5	09	*
16 124	十二町瀧のウキヤガラ群落	湿地植生	0.0	4	09	
16 125	十二町瀧のオニバス群落	浮葉・沈水植物群落		5	09	*
<b>《石川》</b>						
17 019	松島、さざえ島、イワタイゲキ自生地	暖温帯常緑針葉高木林	0.1	4	01	
17 025	七海白山神社、モミ林	暖温帯常緑針葉高木林	0.4	3	10	
17 030	堀松・矢蔵谷、大津、食虫植物を含む湿地	湿地植生	0.5	245	0405	
17 038	肩丈山、食虫植物を含む湿地	湿地植生	0.5	2345	0409	
17 097	日置神社、ミズナラ・ブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林		5	04060708	*
17 102	鹿島明神社々叢（鹿島の森）	暖温帯常緑広葉高木林	3.0	3	14	
<b>《福井》</b>						
18 012	六呂師妻平湿原	湿地植生		23	0508	*
18 016	湯上のブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	2.5	2	03	
18 018	鷲鞍岳のブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	39.8	2	03	
18 031	大堤の水生植物群落	浮葉・沈水植物群落	2.0	3	15	
<b>《山梨》</b>						
19 015	山中ハリモミ純林	冷温帯常緑針葉高木林	70.0	3	09101315	
19 017	富士吉田市諏訪の森のアカマツ林	常緑針葉高木植林	14.4	2	15	
19 019	富士山大石茶屋附近レンゲツツジ・フジザクラ群落	冷温帯夏緑広葉低木林	1.5	3	15	
19 032	芦川溪谷のアベマキ	暖温帯夏緑広葉高木林	2.0	2	03	
19 039	青木ヶ原のヒノキ・ツガ・クロソヨグ林	冷温帯常緑針葉高木林	4800.0	2	15	
19 050	トダイアカバナ群落	河辺植生		5	06	*
19 066	キバナノアツモリソウ群落	冷温帯夏緑広葉低木林	0.1	4	02	
19 067	ホテイアツモリソウ群落	冷温帯広葉草原	1.0	4	02	
19 068	ホザキツキヌキソウ群落	冷温帯広葉草原	10.0	14		
19 088	駒ヶ岳地獄谷の高山植物群落	亜寒帯常緑針葉低木林	1.6	4	14	
19 092	キタダゲソウ群落	高山荒原植生	100.0	4	02	
19 093	両俣小屋附近のドロノキ林	亜寒帯夏緑広葉高木林	1.0	2	14	
<b>《長野》</b>						
20 002	カヤノ平のブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	4500.0	2	0304	

対照番号	件名	相観	面積 (ha)	変化 状況	変化 原因	削除
<b>《長野》</b>						
20 007	ハコネコメツツジ群落	冷温帯夏緑広葉低木林	1.0	2		
20 011	菅平の湿性林	冷温帯植生	140.0	2	030405	
20 028	東俣の原生林	冷温帯常緑針葉高木林	70.0	234	010304	
20 029	諏訪上社の社有林	冷温帯夏緑広葉高木林	32.0	2	15	
20 030	ツキヌキノソウ群落	冷温帯広葉草原		5	15	*
20 031	入笠山大阿原湿性草原	湿地植生	20.0	2	15	
20 032	特殊植物群	岩上, 多礫地草本植生	800.0	45	0203	
20 047	末川の原生林	植生一般	5000.0	2		
20 048	御岳の自然植生	植生一般	9550.0	2	14	
20 050	赤沢のヒノキ林	冷温帯常緑針葉高木林	2650.0	2	03	
20 051	うぐい川のヒノキ林	植生一般	3000.0	2	03	
20 052	田立のヒノキ林	冷温帯常緑針葉高木林	1500.0	2	03	
20 054	賤母山の原生林	暖温帯常緑針葉高木林	148.0	2	04	
<b>《岐阜》</b>						
21 022	久々野のツルヨシ群落	河辺植生		5	07	*
21 035	笠置山のカキノハクサ自生地	暖温帯夏緑広葉高木林		5	07	*
21 036	笠置山のアカマツ-ヤマツツジ群落	暖温帯常緑針葉高木林		5	07	*
21 037	笠置山の湿性植物群落	湿地植生		5	07	*
21 039	五明のシデコブシ自生地	暖温帯夏緑広葉低木林		5	07	*
21 043	恵那市のミカツキグサ群生地	湿地植生		5	07	*
21 051	大坂谷のブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	200.0	2	0304	
21 073	浅間山下の湿地植生	暖温帯夏緑広葉高木林		5	07	*
21 076	土岐のサギソウ自生地	湿地植生		5	07	*
21 091	小牧口のアラカシ林	暖温帯常緑広葉高木林		2	03	*
21 093	関のアラカシ林	暖温帯常緑広葉高木林		2	04	*
21 095	熊野神社のシラカシ林	暖温帯常緑広葉高木林	0.8	3	09	
21 099	木曾川下流川島付近のネコヤナギ群集	暖温帯夏緑広葉低木林		5	07	*
21 105	上大須の河畔木林	暖温帯夏緑広葉低木林		25	08	*
21 112	東杉原の河岸岩上植生	岩上, 多礫地草本植生		5	06	*
21 124	杉原のツルヨシ群落	河辺植生		5	06	*
<b>《静岡》</b>						
22 004	川奈崎のクロマツ天然林	暖温帯常緑針葉高木林		2	10	*
22 005	一碧湖の沼沢地植物群落	湿地植生	5.0	2		
22 008	城ヶ崎のクロマツ・常緑広葉樹林	暖温帯常緑針葉高木林	42.0	3	0710	
22 009	かんのんいがいが根の海岸植物群落	海浜植生	1.0	3	010210	
22 014	浮山のクロマツ・トベラ林	暖温帯常緑針葉高木林	0.5	2	10	
22 021	富士山東斜面のカモメラン群落	亜寒帯常緑針葉高木林		5	02	*
22 025	富士山東南斜面のミヤマモジズリ	夏緑針葉高木林		5	02	*
22 044	修善寺の社寺林	暖温帯常緑広葉高木林	7.0	3	10	
22 047	猫越峠のオオクボシダ	冷温帯夏緑広葉高木林		5	15	*
22 056	吉佐美のハマボウ群落	海浜植生	0.5	2	04	
22 057	田牛のハマユ群落	海浜植生	0.0	2	14	
22 060	毛無山のスルガジョウロウホトトギス	岩上, 多礫地草本植生	0.3	4		
22 061	朝霧高原のカナツギ群落	暖温帯夏緑広葉低木林	5.0	2	03	
22 062	富士山西麓のサクラソウ群落	湿地植生		5	15	*
22 063	富士山西麓のヒンジモ群落	浮水植物群落	0.0	4		
22 065	田貫湖畔の湿地性植物	湿地植生	5.0	2	06	
22 070	白糸滝コケイラン・サイハイラン	暖温帯植生	0.0	2	0208	
22 071	本門寺の社叢	常緑針葉高木植生	4.0	3	0308	
22 087	高草山のキスミレとヤマタバコの群落	暖温帯ササ原	0.1	3	09	
22 096	千枚小屋の高基草本群落	亜寒帯広葉草原	0.3	3	09	
22 118	女神山々頂の石灰岩地植物群落	暖温帯植生		4	15	*
22 132	法多山のシイ林	暖温帯常緑広葉高木林	19.0	2		

《愛知》

対照番号	件名	相観	面積 (ha)	変化 状況	変化 原因	削除
<b>《愛知》</b>						
23 006	小槇立冷温帯落葉広葉樹林	冷温帯夏緑広葉高木林		5	03	*
23 033	定光寺の照葉樹林	暖温帯常緑広葉高木林	20.0	2		
23 038	三好湿原	湿地植生		5	07	*
23 059	竜泉寺寺叢	暖温帯常緑広葉高木林		5	0708	*
<b>《三重》</b>						
24 018	御池沼沢植物群落	湿地植生	32.0	3		
24 021	金生水沼沢植物群落	暖温帯常緑広葉低木林	0.7	3	08091215	
24 022	砂浜海岸植物群落	海浜植生		2	05	*
24 079	父が谷のツガ林	冷温帯常緑針葉高木林		5	03	*
24 080	父が谷のコウヤマキ林	冷温帯常緑針葉高木林		5	03	*
<b>《滋賀》</b>						
25 024	雨壺山の常緑広葉樹林	暖温帯常緑広葉高木林		2	04	*
25 025	雨壺山の落葉広葉樹林	暖温帯夏緑広葉高木林	5.8	23	0407	
25 026	彦根市大堀のケヤキ林	暖温帯夏緑広葉高木林		2	03	*
25 036	大蔵寺裏のケヤキ林	暖温帯夏緑広葉高木林		23	03	*
25 039	黒滝のクマガイソウ群落	常緑針葉高木植林		5	02	*
25 046	菅並の自然林	暖温帯植生	13.0	2	03	
25 047	菅山寺のブナ-オオバクロモジ群落	冷温帯夏緑広葉高木林	11.0	2	03	
25 048	七ヶ頭ヶ岳のブナ-オオバクロモジ群落	冷温帯夏緑広葉高木林	0.0	25		
25 056	山本山東山麓のハンノキ林	暖温帯夏緑広葉高木林	0.3	2	1315	
25 059	早崎のオギ群落	河辺植生	1.5	2		
25 062	西浅井町のハンノキ林	暖温帯夏緑広葉高木林		5	07	*
25 064	安曇川畔のクチスズシロソウ群落	河辺植生	8.0	2		
25 073	新海浜のクロマツ林	常緑針葉高木植林	1.3	2	10	
25 074	伊崎不動のシイ林	暖温帯常緑広葉高木林	0.1	2	15	
25 078	布施の湿地	湿地植生	4.0	35	02080913	
25 086	佐波江のクチヤナギ林	暖温帯夏緑広葉低木林		5	06	*
25 087	佐波江のクロマツ-ハマゴウ群落	常緑針葉高木植林	0.0	3	0410	
25 102	八雲ヶ原の湿原	湿地植生	0.7	3	010205	
<b>《京都》</b>						
26 031	大宮町のアカマツ林	暖温帯常緑針葉高木林		3	10	*
26 041	西別院万願寺のアカマツ林	暖温帯常緑針葉高木林	10.0	3	10	
26 056	金井戸のヨシ原および周縁帯	河辺植生	25.0	2	010306	
26 060	宇治のオニバス群落	浮葉・沈水植物群落		5	12	*
26 061	由良川の水草群落	浮葉・沈水植物群落		5	06	*
26 067	ヒメムカゴシダ	草本シダ群落	0.0	2	04	
26 080	シシンラン	暖温帯常緑広葉高木林	0.0	4	02	
<b>《大阪》</b>						
27 028	男神社のムクノキ林	暖温帯夏緑広葉高木林		3	09	*
<b>《兵庫》</b>						
28 022	海神社のウバメガシ林	暖温帯常緑広葉高木林	0.1	2	07	
28 048	加保坂のミズバショウ群落	湿地植生	0.4	4	15	
28 051	砥ノ峰高原の湿地群落	湿地植生	0.9	2	04	
28 062	松尾神社のシリブカガシ林	暖温帯常緑広葉高木林	0.1	2	15	
28 072	扇ノ山のブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	225.0	2		
<b>《奈良》</b>						
29 004	大台ヶ原山原始林	植生一般	1321.6	3	11	
29 006	忍辱山サギスゲ自生地	湿地植生	0.0	5	09	
29 012	田原本町弥富都比賣神社のイチイガシ林	暖温帯常緑広葉高木林	0.1	3	04	
<b>《和歌山》</b>						
30 002	瀬八丁天然林	暖温帯常緑広葉高木林	71.5	2	07	
30 008	白見山民有林天然林	暖温帯常緑針葉高木林	20.0	2	03	
30 015	湯川温泉塩沼地植物群落	海浜植生	2.3	2	15	
30 020	古堺川下流キノクニスズカケ群落	ツル植物群落		5	07	*

対照番号	件名	相観	面積 (ha)	変化 状況	変化 原因	削除
《和歌山》						
30 033	角間木谷ツガ林	暖温帯常緑針葉高木林	0.5	2	03	
30 034	京大演習林湯川川流域天然林	植生一般	120.0	2	03	
30 036	果無山脈ブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	30.0	2	03	
30 038	東ノ川植物群落	暖温帯常緑針葉高木林	63.0	2	0304	
30 044	前ノ川天然林	植生一般	52.0	2	0304	
30 050	貴志川オニバス群落	浮葉・沈水植物群落		5	15	*
30 053	生石山草地植生	暖温帯単子葉草本草原	34.0	2	03	
30 059	御滝神社社寺林	暖温帯常緑広葉高木林	0.8	2	14	
30 060	大滝川キクシノブ群落	暖温帯常緑広葉低木林	1.3	4	02	
30 080	煙樹ヶ浜松林	常緑針葉高木植林	86.0	2	07	
30 085	アコウ個体群	暖温帯常緑広葉高木林	0.3	24	04	
30 087	阿尾ラグーン植物群落	湿地植生	14.8	2	0413	
《鳥取》						
31 005	南田神社社叢	暖温帯常緑広葉高木林	2.0	3	1015	
31 006	陣鉢山周辺の自然林	冷温帯夏緑広葉高木林	195.0	2	03	
31 015	鳥取砂丘植生	海浜植生	180.0	2	15	
31 017	倉田八幡宮の社叢	暖温帯常緑広葉高木林	0.2	3	08	
31 023	大山神社の照葉樹林	暖温帯常緑広葉高木林	2.0	3	10	
31 029	倭文神社社叢	暖温帯常緑広葉高木林	0.3	3	10	
31 058	洗足山のヒノキーヒメコマツ林	冷温帯常緑針葉高木林	3.0	3	10	
31 059	花倉山の自然林	暖温帯植生	10.0	3	08	
《島根》						
32 030	大社海岸砂丘植生	海浜植生		2	1415	*
32 053	燕岳落葉広葉樹林	冷温帯夏緑広葉高木林		23	03	*
32 069	今津海岸イワタイゲキ自生地	海浜植生		5	14	*
32 072	蛸木エゾノヨロイグサ群落	暖温帯広葉草原		4	0108	*
《岡山》						
33 055	穴門山神社の樹林	暖温帯常緑広葉高木林	6.7	2	04	
《広島》						
34 026	松永湾の塩生植物群落	海浜植生	62.5	5	15	
34 032	大万木山の天然林	冷温帯夏緑広葉高木林	175.0	3	0105	
34 065	御園宇大池湿原	湿地植生	1.0	3	08	
34 069	古川地域の河畔植生	暖温帯植生		25	04	*
34 077	長谷の塩生植物群落	海浜植生		25	07	*
34 084	滝山峡の峡谷植生	植生一般	336.2	2	0407	
34 087	宇賀峡・瀬谷の峡谷植生	暖温帯植生	755.0	25	030414	
34 100	大森八幡神社の社叢	暖温帯常緑針葉高木林	1.2	5	0212	
34 102	弥山原始林	暖温帯常緑針葉高木林	159.0	235	101214	
34 103	多々良湯の塩沼地植生	海浜植生	0.2	235	07	
34 104	宮島のアカマツ林	暖温帯常緑針葉高木林	2417.6	23	09101214	
34 119	羅漢溪谷の峡谷植生	暖温帯植生	136.0	25	04	
34 121	冠山のブナ林	冷温帯夏緑広葉高木林	100.0	2	03	
34 124	弥栄峡の峡谷植生	暖温帯植生	126.0	2	040607	
《山口》						
35 023	ホソバナコバイモ群生地	暖温帯単子葉草本草原			0304	*
35 043	荒谷のヤマグチカナワラビ群落	暖温帯常緑広葉低木林	1.0	4	06	
35 045	大正洞口付近の植物群落	常緑針葉高木植林	1.0	3	04	
35 064	客大明神社叢	暖温帯常緑広葉高木林	0.5	3	15	
《徳島》						
36 003	竜宮の磯海浜植物群落	海浜植生		3	09	*
36 009	淡島海浜植物群落	海浜植生		3	01	*
36 050	中太郎山のモミジカラマツ・レンゲシヨウマ群落	冷温帯広葉草原	1.5	24	0209	
36 052	湯桶丸の原生林	冷温帯夏緑広葉高木林		5	03	*
《香川》						

対照番号	件名	相観	面積 (ha)	変化 状況	変化 原因	削除
<b>《香川》</b>						
37 001	当浜のヤブツバキ林	暖温帯常緑広葉高木林	0.8	3	09	
37 006	チョウジガマズミ林	暖温帯常緑針葉高木林	0.2	4	03	
37 022	宇多津のアツケシソウ生育地	海浜植生		5	07	*
<b>《愛媛》</b>						
38 014	国領川河口の塩生植物群落	海浜植生		0.5	2	07
38 022	石鎚山土小屋のヒノキ植林	常緑針葉高木植林	50.0	3	03	
38 027	堂ヶ森のシコクイチゲ群落	冷温帯ササ原		0.1	2	09
38 033	腰折山の安山岩植物群落	暖温帯広葉草原		1.0	3	091015
38 034	腰折山のエヒメアヤメ	常緑針葉高木植林		1.0	4	0102
38 040	大野ヶ原の石灰岩植生	冷温帯ササ原	20.0	3	01	
38 042	松前の海浜植物群落	海浜植生		5	0608	*
38 043	伊予市森の海浜植物群落	海浜植生		5	07	*
38 044	双海町三島神社の照葉樹林	暖温帯常緑広葉高木林		1.0	2	10
38 057	御五神島のハチジョウススキ群落	暖温帯単子葉草本草原		5	07	*
<b>《高知》</b>						
39 031	円行寺周辺の蛇紋岩地植生	暖温帯常緑針葉高木林		10.0	2	07
39 056	入野の松原と海浜砂地植生	暖温帯植生		50.0	3	10
<b>《福岡》</b>						
40 002	今川河口(蓑島)のシチメンソウ群落	海浜植生		5	06	*
40 004	求菩提山のヒメシャガ群落	暖温帯植生		2.0	4	02
40 026	益富山のスタジイ林	暖温帯常緑広葉高木林		25.0	3	040506
40 033	浮羽町分田のアカマツ林	暖温帯常緑針葉高木林		2.0	2	03
40 035	笠原のアカマツ林	暖温帯常緑針葉高木林		5.0	2	03
40 042	遠賀川の河辺草本群落	暖温帯単子葉草本草原		13.0	2	06
40 044	八所宮のスタジイ林	暖温帯常緑広葉高木林		0.2	25	0102050708
40 052	高良台の湿生植物群落	湿地植生		0.1	5	07
40 067	油山のアカマツ林	暖温帯常緑針葉高木林		10.0	2	05
40 073	瑞梅寺川河口の塩沼地植物群落	海浜植生		0.4	2	
<b>《佐賀》</b>						
41 018	平野沼の湿原植物群落	湿地植生		5.0	3	07
<b>《長崎》</b>						
42 029	老岐・天ヶ原のハイビャクシン群落①	暖温帯常緑針葉低木林		0.4	2	
42 056	五島寺脇のタヌキアヤメ個体群	湿地植生		0.0	4	0102
42 061	五島島山島のヘゴ群落	暖温帯常緑広葉高木林		0.0	4	
42 071	対馬・舌崎のハイビャクシン群落	暖温帯常緑針葉低木林		0.0	3	0211
42 075	対馬・仁田川のチョウセンヤマツツジ個体群	暖温帯夏緑広葉低木林		1.0	4	14
42 077	対馬・千尋藻のハイビャクシン群落	暖温帯常緑針葉低木林		1.0	4	02
<b>《熊本》</b>						
43 001	阿蘇端辺原野の山地湿原	湿地植生	-1000.0	24	03	
43 002	阿蘇・波野原の山地草原	暖温帯単子葉草本草原	-600.0	24	03	
43 005	阿蘇・山東原野の山地草原	暖温帯単子葉草本草原	-600.0	24	0203	
43 013	雁俣山の自然林	冷温帯植生		150.0	2	03
43 016	五家荘の自然林	冷温帯夏緑広葉高木林		3000.0	2	03
43 017	白髪岳の自然林	冷温帯植生		500.0	2	03
43 037	高浜のコウボウムギ群落	海浜植生		0.0	3	06
<b>《大分》</b>						
44 002	間越のハマゴウ群落	海浜植生		0.5	4	06
44 020	国東半島の海浜植物群落	海浜植生		30.0	3	0106
44 022	武蔵町のハンノキ林	暖温帯夏緑広葉高木林		10.0	3	03
44 032	ツチトリモチの自生するコジイ林	暖温帯常緑広葉高木林		270.0	2	03
44 034	夏木山一帯の自然林	冷温帯植生		436.0	2	03
44 035	奇瀬川河口のシチメンソウ群落	海浜植生		5	07	*
44 037	宇佐平野のため池の水生物群落	浮葉・沈水植物群落		29.4	13	
44 042	由布・鶴見火山群のススキ草原	冷温帯単子葉草本草原		333.0	25	020304

対照番号	件名	相観	面積 (ha)	変化 状況	変化 原因	削除
<b>《大分》</b>						
44 043	鶴見権現社の常緑広葉樹林	暖温帯常緑広葉高木林	2.0	3	15	
44 045	挾間町、安心院町のオトメクジャク群落	草本シダ群落	2.4	24	0304	
44 048	飛岳のエヒメアヤメの自生する草原	暖温帯単子葉草本草原	132.0	2	04	
44 054	祖母、傾山系の自然林	植生一般	3138.0	2	03	
44 058	野平のミツガシワ群落	湿地植生	0.1	4	0812	
<b>《宮崎》</b>						
45 002	祝子川源流域の原生林	冷温帯植生	3445.0	2	03	
45 004	沖田川のハマボウ群落	暖温帯夏緑広葉低木林	0.3	2	04	
45 005	オナガカンアオイ群落	暖温帯夏緑広葉高木林	141.6	4	02	
45 009	権現山のオオバネム自生地を含む海岸林	暖温帯夏緑広葉高木林	0.0	4	09	
45 017	尾鈴山ツツジ科植物群落	植生一般	1600.6	2	15	
45 018	岩淵池のオニバス群落	浮葉・沈水植物群落	0.0	2	15	
45 019	高岡の照葉樹林	暖温帯常緑広葉高木林	335.0	2	03	
45 022	内海のリュウキュウアイ北限個体群	暖温帯常緑広葉高木林	0.0	4	0106	
45 028	イワザクラ草鱉塚山の南限植物群落	冷温帯夏緑広葉高木林	340.5	4	02	
45 054	牛のまたのサクラソウ群落	湿地植生	1.0	4	02	
45 061	掃部岳周辺の原生林	植生一般	384.2	2	03	
<b>《鹿児島》</b>						
46 020	栗野岳のタブノキ林	暖温帯常緑広葉高木林	30.0	3	15	
46 022	大隅半島北部のススキ草原	暖温帯単子葉草本草原	150.0	2	03	
46 026	鹿児島大学演習林内のタイミンチク林	タケ形林		5	04	*
46 029	吾平町のイスノキ林	暖温帯常緑広葉高木林		23	03	*
46 036	桜島中腹のヤシヤブシアオキ群落	火山荒原植生	10.0	2		
46 040	鹿児島市城山のメダケ林	暖温帯ササ原		23	15	*
46 070	阿久根のハマジンチョウ個体群	マングローブ林	0.0	4	0613	
<b>《沖縄》</b>						
47 009	クナガーグムイの植物群落	亜熱帯常緑広葉低木林	0.3	3	09	
47 011	与那覇岳、伊湯岳一帯の植生	亜熱帯常緑広葉高木林	200.0	2	0315	
47 023	本部田備瀬部落のフクギの屋敷林	常緑広葉高木植林	0.5	4	15	
47 029	恩納村万座毛の海崖植生	亜熱帯単子葉草本草原	0.5	3	05	
47 054	前浜のハテルマカズラ群落	海浜植生	8.0	5	0108	
47 056	白鳥崎のミズガンピ・テンノウメ群落	亜熱帯常緑広葉低木林	6.0	2	07	
47 069	石垣島宮良川のマングローブ林	マングローブ林	4.0	2	0615	
47 099	与那国比川のミズガンピ群落	海浜植生	0.1	5	14	

## 2. 特定植物群落一覽

### 特定植物群落選定基準

- A 原生林もしくはそれに近い自然林  
(特に照葉樹林についてはもれのないように注意すること)
- B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
- C 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
- D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの(特に湿原についてはもれのないように注意すること。)
- E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの(武蔵野の雑木林、社寺林等)
- F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
- G 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
- H その他、学術上重要な植物群落または個体群

対照番号の前に「\*」がついている群落は、第3回調査のうち、追加調査で新たに選定されたものである。

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《北海道》				
01 033	北見相生ミズナラ老令林	A	17.9	植生一般
01 075	支笏地方ササ群落	C	22500.0	
01 091	羊蹄山高山帯植物群落	D	5900.0	
01 093	ニセコ山帯ダケカンバ林	H	15463.0	
01 095	天平山石灰岩植物群落	CG	100.0	
01 107	大千軒岳高山性風衝草原	AD	500.0	
01 110	知床岬周辺自然植生	AD	8700.0	
01 115	下ホロカメットク山周辺自然植生	AD	5000.0	
*01 157	襟藻岬海岸草原	D	220.0	
*01 220	渡島大島自然植生	H	970.0	
01 001	礼文島北方植物群落	DHG	1220.0	亜寒帯植生
01 002	利尻岳高山植物群落	D	2613.0	
01 020	羅臼岳高山植物群落	D	8200.0	
01 021	斜里岳高山植物群落	D	1000.0	
01 022	白鳥山蛇紋岩植物群落	C	800.0	
01 023	暑寒別岳高山植生	D	1200.0	
01 025	天塩岳高山植物群落	D	200.0	
01 027	平山高山植物群落	DG	1000.0	
01 047	ユルリ島の海岸台地草原	H	168.0	
01 054	十勝国、長節沼、大樹晩生海岸草原	DG	76.0	
01 062	アポイ岳蛇紋岩植生	B	379.9	
01 063	日高山脈高山帯	D	70000.0	
01 064	日高沙流川上流針葉樹林	A	743.3	
01 065	東マブカウシ山コマクサ群落	CG	2.0	
01 066	大雪山高山帯植生	D	36500.0	
01 068	富良野西岳石灰岩植物群落	D	300.0	
01 069	雌山石灰岩植物群落	BD	100.0	
01 070	芦別岳山岳植生	D	1700.0	
01 071	夕張岳高山植物群落	BD	2500.0	
01 082	定山溪天狗岳山岳植物群落	D	75.0	
01 083	余市岳高山植物群落	D	200.0	
01 087	オロフレ山ダケカンバ林	H	200.0	
01 088	鷲別岳植物群落	H	50.0	
01 096	狩場山高山植物群落	D	1000.0	
01 108	雌阿寒岳高山植生	BD	1330.0	
01 109	雄阿寒岳高山植生	D	140.0	
01 111	遠音別岳高山植生	D	4700.0	
01 114	海別岳高山植生	D	2500.0	
*01 124	厚岸町床潭～チンベノ鼻海岸台地草原森林	ADE	1090.0	
*01 125	武佐岳の自然植生	A	4210.0	
*01 126	標津岳の自然植生	A	4530.0	
*01 129	摩周湖周辺の自然林	A	1620.0	
*01 149	北見富士 (Alt. 1291m) 自然林	A	760.0	
*01 160	ピヤシリの自然林	A	7130.0	
*01 163	珠文岳～ポロヌブリ山高山植生	AD	540.0	
*01 174	声間ミズナラ矮生林・トドマツ林	ADE	98.0	
*01 184	支笏湖畔自然林	A	15500.0	
*01 186	支笏湖畔樽前山高山岩礫植物群落	D	890.0	
01 003	稚咲内砂丘林および湖沼群	ADG	1776.0	冷温帯植生
01 007	浜頓別クッチャロ湖湿原植生	D	1004.0	
01 009	焼尻島・オンコ林	H	11.0	
01 018	砂丘後背湿原群落	D	1.5	
01 041	野付半島の砂嘴植生	DG	950.0	
01 046	モユルリ島の海岸台地草原	H	31.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《北海道》				
01 051	尻羽岬、昆布森海岸地植生	HG	200.0	冷温帯植生
01 052	釧路湿原岩保袖二次林	E	113.0	
01 077	野幌自然休養林	AE	1600.0	
01 078	札幌藻岩山天然林	AE	284.7	
01 081	手稲星置の滝自然林	E	1.0	
01 090	有珠山広葉樹林	A	277.0	
01 102	鶺鴒川ゴヨウマツ林	AB	361.6	
*01 219	渡島小島海岸地草原	H	160.0	
01 028	上武利針葉樹林	A	12.3	亜寒帯常緑針葉高木林
01 029	常元針葉樹林	A	60.6	
01 031	チミケップ、湖畔針葉樹林	A	25.8	
01 034	雌阿寒岳山麓アカエゾマツ林	A	6100.0	
01 035	雄阿寒岳山麓エゾマツ、トドマツ林	A	7360.0	
01 036	木禽岳針葉樹林	A	12.0	
01 038	屈斜呂湖畔オンコ林	H	1.5	
01 040	川湯アカエゾマツ林	AE	4500.0	
01 045	温根沼のアカエゾマツ林	A	100.0	
01 048	落石岬アカエゾマツ林	AD	23.0	
01 049	茶内オンコ林	H	5.0	
01 061	アボイ岳トドマツ林	A	0.0	
01 067	十勝川上流針葉樹林	A	190.0	
01 085	空沼岳万計沼針葉樹林	A	8.0	
01 112	十勝川源流原生林	AE	1035.0	
*01 118	昆布盛～落石アカエゾマツ(湿原)林	ADE	85.0	
*01 123	藻散布トドマツ林	E	33.0	
*01 127	火散布アカエゾマツ林	ADE	3.0	
*01 133	能取岬トドマツ林	A	600.0	
*01 140	シュンクシタカラ湖自然林	A	400.0	
*01 141	ウコタキヌプリ山自然林	A	4570.0	
*01 168	北大天塩地方演習林蛇紋岩地帯アカエゾマツ林	AD	2160.0	
*01 171	東浦(宗谷丘陵)自然林	A	2400.0	
*01 172	東浦トドマツ林	AE	130.0	
*01 179	天塩川河口アカエゾマツ林	AE	8.0	
*01 201	礼文華海岸自然林	A	730.0	
01 037	屈斜呂湖畔針広混交林	AE	104.5	冷温帯常緑針葉高木林
01 043	風連湖春国岱のアカエゾマツ林	AG	54.0	
01 059	広尾トドマツ林	A	5.5	
01 103	厚沢部ヒバ林	AB	109.6	
01 104	江差ヒノキアスナロ、アオトドマツ自生地	AB	500.7	
01 106	知内トドマツ林	C	0.9	
01 113	尾幌天然林	E	283.0	
*01 199	横津岳～袴腰岳ブナ・ダケカンバ林	A	3800.0	亜寒帯夏緑広葉高木林
*01 200	積丹～余別岳山岳植生	A	3460.0	
01 010	北見滝の上町自然休養林	AE	831.5	冷温帯夏緑広葉高木林
01 013	佐呂間湖常呂カシワ林	A	100.0	
01 015	網走湖畔女満別ヤチダモ林	AE	20.0	
01 032	陸別ミズナラ林	A	10.0	
01 057	札内川上流ケショウヤナギ林	B	6.3	
01 058	帯広農業高校カシワ林	E	4.0	
01 072	柏原カシワ、ミズナラ、コナラ林	G	90.0	
01 076	札幌月寒羊ヶ丘自然林	E	6.0	
01 079	札幌円山天然林	AE	57.3	
01 080	石狩海岸砂丘林	EG	100.0	
01 086	登別天然生ミズナラ林	H	178.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《北海道》				
01	094 歌オブナ林	A	91.4	冷温帯夏緑広葉高木林
01	098 駒ヶ岳落葉広葉樹林	A	2500.0	
01	101 函館山自然林	A	400.0	
01	105 知内ブナ林	A	12.7	
*01	116 根室半島ミズナラ自然林	E	120.0	
*01	119 厚床ミズナラ・カシワ林	E	690.0	
*01	134 呼人のハンノキ・ヤチダモ林	AE	84.0	
*01	135 オホーツクの森	AE	830.0	
*01	138 サロマ湖畔自然休養林	AE	340.0	
*01	139 サロマ湖畔円山の休養林	E	210.0	
*01	143 ティネイの自然林	E	92.0	
*01	145 九大演習林ミズナラ林	E	1130.0	
*01	152 帯広野草園とその周辺の森	H	12.0	
*01	153 帯広国見山	H	46.0	
*01	154 大正カシワ林	E	30.0	
*01	155 更別村のカシワ林	E	21.0	
*01	156 襟藻ミズナラ林	E	43.0	
*01	158 天然性海岸林(ミズナラ)	D	130.0	
*01	162 浜頓別のミズナラ海岸林	E	10.0	
*01	164 上川神社神社林	E	54.0	
*01	165 振内コナラ林	A	29.0	
*01	169 日高沿岸のカシワ林	E	720.0	
*01	180 輪厚付近コナラ林	CE	2270.0	
*01	181 島松～千歳市コナラ・ミズナラ林	AG	2370.0	
*01	182 美々川流域のミズナラ・コナラ自然林	C	560.0	
*01	187 白老ポロト湖広葉樹林	D	230.0	
*01	192 恵山トドマツ林、カシワ・ミズナラ林	D	890.0	
*01	193 恵山町のブナ林	A	10.0	
*01	195 忍路カブト岬エゾイタヤ林	D	21.0	
*01	197 羊蹄山麓の自然林	A	2360.0	
*01	198 洞爺湖周辺広葉樹林	E	100.0	
*01	202 大沼付近落葉広葉樹林	E	950.0	
*01	207 美利河ブナ林	AE	2030.0	
*01	209 大平山ブナ林	A	2440.0	
*01	210 狩場山塊ブナ林	A	10700.0	
*01	213 大千軒岳森林帯	A	5330.0	
*01	214 松前～江差海岸台地上のミズナラ・イタヤ林	E	970.0	
*01	216 北桧山鱈沼周辺の植生	E	55.0	
*01	217 太櫓太田海岸の海岸林	A	800.0	
*01	178 夕来トドマツ林・海岸林	D	42.0	亜寒帯常緑針葉低木林
01	039 硫黄山麓ハイマツ植生	CG	103.4	冷温帯常緑針葉低木林
*01	148 北見紋別のケショウヤナギ林	B	150.0	亜寒帯夏緑広葉低木林
*01	185 支笏湖風不死岳樽前山ミヤマハンノキ林	AD	1330.0	
01	030 温根湯エゾムラサキツツジ群落	H	2.6	冷温帯夏緑広葉低木林
01	056 上更別ヤチカンバ林	DG	3.0	
01	073 ウトナイ湖南岸砂丘カシワ林	GD	12.5	
01	074 ウトナイ湖周辺ヤチハンノキ林	G	36.6	
*01	173 天塩町干拓～更岸海岸林	D	64.0	
*01	177 勇知のミズナラ林	E	32.0	
*01	204 静狩のカシワ林	D	33.0	
*01	212 江差のカシワ林	E	4.0	
*01	132 網走市能取原生花園	D	47.0	冷温帯広葉草原
01	099 渡島国仁山高原本地挽山シバ草原	G	1030.0	冷温帯単子葉草本草原
*01	128 厚岸町大黒島海岸台地植生	D	100.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《北海道》				
*01 211	上の国シバ草原	CG	5.0	冷温帯単子葉草本草原
01 060	幌満岳蛇紋岩植生	B	371.7	岩上、多礫地草本植生
*01 161	斜内山道付近岩崖植物群落	DG	150.0	
*01 188	小樽海岸海岸段崖植物群落	D	150.0	
*01 189	登別硫気孔植生	D	12.0	
*01 203	雷電海岸断崖植物群落	D	170.0	
*01 208	松前、福島の海岸植生	D	390.0	
*01 215	茂津多岬海岸崖地草原	D	530.0	
*01 218	水垂～帆越岬海岸断崖植生	D	120.0	
01 005	キモマ沼オゼコウホネ群落	C	1.0	浮葉・沈水植物群落
01 089	昭和新山火山植生	H	9.0	火山荒原植生
01 097	駒ヶ岳火山植生	D	3000.0	
01 100	恵山火山植生	D	600.0	
01 004	サロベツ原野	DG	3540.0	湿地植生
01 006	浅茅野湿原植生	D	395.0	
01 024	雨滝沼高地湿原植物群落	DG	450.0	
01 026	浮島湿原植生	D	14.8	
01 042	風蓮湿原植生	D	1600.0	
01 050	霧多布湿原植物群落	DG	2250.0	
01 053	釧路湿原植生	D	18290.0	
01 084	無意根山大蛇ヶ原湿原植生	D	6.0	
01 092	ニセコ神沼植物群落	D	10.0	
*01 120	標津湿原	D	150.0	
*01 130	塘路湖周辺湿原植生及び水生植物群落	D	340.0	
*01 136	柴浦塩湿地植生	DG	17.0	
*01 137	キムアネップの塩湿地植生	DG	18.0	
*01 159	松山湿原	D	19.0	
*01 166	狼骨沼周辺の湿原	D	420.0	
*01 167	狼弘川中流の湿原	DE	2530.0	
*01 175	メグマ沼周辺の湿原植生	D	170.0	
*01 183	苫小牧トキサタマップ湿原	D	490.0	
*01 205	静狩湿原	DH	100.0	
*01 206	歌才の湿原植生	D	15.0	
01 008	浜頓別ベニヤ海岸草原群落	H	26.0	海浜植生
01 011	紋別海岸草原群落	H	100.0	
01 012	佐呂間湖テイネイ塩湿地植物群落	D	2.0	
01 014	網走能取湖塩湿地植物群落	D	30.0	
01 016	小清水海岸草原	DE	200.0	
01 017	斜里海岸草原群落	D	7.0	
01 019	以久科海岸草原群落	D	955.0	
01 044	風蓮湖畔塩湿地植生	D	81.0	
01 055	十勝国大樹当緑海岸大地ヒース群落	DG	17.0	
*01 117	根室海岸草原	D	1810.0	
*01 122	後静～貫人海岸草原群落	D	240.0	
*01 131	大楽毛の海岸草原	D	150.0	
*01 142	直別の海岸草原	D	16.0	
*01 144	コムケーシブノツナイ湖自然植生	D	340.0	
*01 146	トイトッキ浜野生植物群落	D	27.0	
*01 147	オムサロ原生花園	D	27.0	
*01 150	黄金道路の海岸植生	D	180.0	
*01 190	尾札部～恵山の海岸植生	D	120.0	
*01 194	日浦海岸の海岸植生	D	30.0	
*01 196	積丹半島海岸段崖植物群落	D	1210.0	
*01 170	宗谷丘陵ササ草原	DE	4730.0	亜寒帯ササ原

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《北海道》				
*01	176 稚内～抜海丘陵ササ草原	H	7850.0	亜寒帯ササ原
*01	121 別海のヤチカンバ自生地	B	11.0	個体(群)
*01	151 えりも岬ヒダカミツバツツジ群落	B	7.0	
*01	191 恵山ゴヨウマツ道内南限自生地	AC	74.0	
《青森》				
02	053 袴腰岳の風衝地植物群落	D	27.0	亜寒帯植生
02	069 岩木山高山植物群落	D	82.5	
02	003 階上岳植物群落	E	50.0	冷温帯植生
02	015 名久井岳植物群落	E	0.6	
02	016 燧岳山頂植生	C	3.0	
02	035 大島自然植物群落	E	5.0	
02	051 矢形石山の風衝地植物群落	D	20.0	
02	052 平館のクロマツ林	F	1.2	
02	075 白神岳高山植物群落	D	105.3	
02	042 八甲田山のコメツガ林	AC	0.5	亜寒帯常緑針葉高木林
02	044 八甲田山のアオモリトドマツ林	AC	1400.0	
*02	092 南八甲田山地亜高山帯のスギ群落	C	0.0	
*02	093 南八甲田山地亜高山帯のヒノキアスナロ群落	C	0.0	
02	007 猿ヶ森オオウメガサソウ群落	C	70.0	冷温帯常緑針葉高木林
02	008 物見崎海岸植物群落	D	9.0	
02	018 大畑川のヒバーヒメコマツ	E	2.0	
02	019 大畑川のヒバ林	A	20.0	
02	021 屏風山のヒバ林	A	165.0	
02	026 東北町の甲地アカマツ林	EH	2.2	
02	032 斗内のアカマツ林	E	3.0	
02	038 夏泊半島のアカマツ-ヒバ林	H	5.0	
02	056 後潟山ヒバ林	A	100.0	
02	057 内真部山ヒバ林	AE	45.0	
02	061 西碓関スギ天然林	AC	21.0	
02	062 早瀬野のスギ-ヒバ天然林	HA	32.8	
02	063 東虹見山スギ-ブナ天然林	ACH	14.0	
02	072 矢倉山スギ天然林	C	10.0	
02	076 白神岳のネズコーヒバ	CHA	75.5	
02	023 城ヶ沢のアカマツ林	F	9.0	常緑針葉高木植林
02	058 眺望山のヒノキ林	F	0.5	
02	067 車力のクロマツ林	F	4.0	
02	078 タブノキ自生北限地	C	0.2	
02	059 眺望山のカラマツ林	F	2.0	夏緑針葉植林
02	004 階上岳周辺のシラカンバ林	G	30.0	冷温帯夏緑広葉高木林
02	010 市柳沼のヤチハンノキ林	D	9.0	
02	017 燧岳山腹ブナ群落	A	200.0	
02	028 野辺地烏帽子岳のブナ林	AE	200.0	
02	029 野辺地烏帽子岳のヒバ林	AE	50.0	
02	039 夏泊半島のカラスザンショウ	C	0.5	
02	040 八甲田山の植物群落(ブナ)	E	200.0	
02	045 八甲田山のアオモリトドマツ-ブナ林	A	300.0	
02	048 奥入瀬川の溪畔林	A	100.0	
02	049 迷ヶ岱のトチ-サワグルミ林	H	40.0	
02	055 大倉岳のダケカンバ林	D	8.0	
02	064 権現崎のブナ林	CH	58.5	
02	073 然ヶ岳のヤチダモ林	DH	2.0	
02	074 赤石川のブナ林	AE	2500.0	
02	079 松神のヤマアイとカラスザンショウ	C	0.5	
02	080 木蓮寺のモクゲンジ	C	0.1	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《青森》				
*02 087	恐山のトチ・サワグルミ林	A	50.0	冷温帯夏緑広葉高木林
*02 088	淋代のブナ林	C	10.0	
*02 094	小泊北部のエゾイタヤシナノキ林	A	600.0	
*02 097	梵珠山のブナ林	H	10.0	
*02 121	六ヶ所村のブナ林	CEH	15.0	
*02 123	六ヶ所村のハンノキ・ヤチダモ林	DEH	35.0	
*02 135	浅所の平地ブナ林	E	0.3	
*02 142	広船のミズナラ林	E	3.0	
02 031	戸来岳のイチイ群落	AH	5.0	亜寒帯常緑針葉低木林
02 043	八甲田高山植物群落(ハイマツ)	A	234.0	
02 070	尾太岳のコメツガ林	H	0.2	
*02 110	青鹿岳のハイマツ群落	C	20.0	
*02 129	恐山のハクサンシャクナゲアカミノイヌツゲ群落	E	1.0	冷温帯常緑針葉低木林
*02 084	猿ヶ森砂丘のハイネズ群落	D	2.0	暖温帯常緑針葉低木林
02 036	ヤブツバキ自生北限地	C	18.0	冷温帯常緑広葉低木林
02 077	舩作のヤブツバキ林	C	4.0	
02 022	釜臥山の山頂植生	G	2.0	亜寒帯夏緑広葉低木林
02 027	野辺地烏帽子岳山頂植生	A	0.2	
02 030	戸来岳のコメツツジ群落	AH	4.0	
02 033	縫道石山の遺存植物群落	C	1.0	
02 054	赤倉岳のミヤマナラ林	D	7.0	
*02 133	八幡岳のミヤマハンノキ林	A	0.1	
*02 134	八幡岳のミヤマナラ林	A	0.1	
*02 151	岩木山のウコンウツギ群落	BCD	0.2	
02 024	横浜町のカシワ林	D	30.0	冷温帯夏緑広葉低木林
02 037	夏泊半島のツクバネ	H	0.1	
02 066	霧山のカシワ林	EG	21.0	
02 014	島守のヤシャゼンマイ	H	1.0	草本シダ群落
*02 081	桑畑山の岩隙シダ群落	B	0.5	
02 002	金山沢の石灰岩植物	D	3.5	岩上、多礫地草本植生
02 065	四ッ滝山のオサバグサ	CG	0.0	
*02 098	黒森山の風穴植物群落	D	0.6	
*02 108	白神岳の露頭植物群落	D	0.5	
*02 112	小舟渡平のハマギク	C	2.0	
*02 085	小川原湖の水生植物群落	D	6320.0	浮葉・沈水植物群落
*02 109	白神岳の風衝草原	D	0.5	高山荒原植生
*02 136	赤倉岳高山植物群落	D	0.0	
*02 153	岩木山の岩壁植物群落	D	0.0	
02 009	横浜町向平のヨシ湿原	D	12.7	雪田植生
02 047	八甲田山の雪田群落	A	200.0	
*02 139	八甲田大岳のアオノツガザクラ	D	0.0	
02 020	恐山硫気孔植物群落	B	38.0	火山荒原植生
*02 130	恐山硫気孔原のヤマタスキラン群落	D	0.8	
*02 131	恐山硫気孔のイソツツジ群落	D	0.3	
02 006	加藤沢沼の湿原植物群落	D	68.0	湿地植生
02 013	姉沼のヨシ湿原	D	15.0	
02 041	田代平植物群落	D	147.0	
02 046	八甲田山の高層湿原群落	A	1500.0	
02 060	熊沢溜池のエゾノミズタデ	BC	10.0	
02 068	屏風山の湿原	D	9.4	
*02 091	南限のヒメワタスゲ群落	BC	0.1	
*02 125	六ヶ所村のワタスゲ群落	DG	0.0	
02 001	鯨海崖植物群落	D	10.0	海浜植生
02 005	尻屋崎海崖植物群落	C	21.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《青森》</b>				
02 011	高瀬川塩沼地植物群落	D	35.0	海浜植生
02 025	横浜町海浜植物群落	D	33.0	
02 034	脇佐海崖植生	D	16.0	
02 050	高野崎の海崖植物群落	D	10.3	
02 071	大戸瀬海崖植物群落	D	4.5	
*02 083	狼ヶ森砂丘のイソスミレ群落	D	0.1	
*02 111	小舟渡平の海岸低木群落	B	0.0	
*02 113	小舟渡平の塩沼地植物群落	D	0.0	
*02 114	小舟渡平の海岸草本群落	D	0.0	
*02 124	尾駮沼河口の塩沼地植生	DEGH	15.0	
*02 082	イチョウシダの群生	D	0.0	個体(群)
*02 086	恐山宇曽利湖ヒメカイウ群落	B	0.0	
*02 089	三戸町のオクチョウジザクラ	G	0.0	
*02 090	ユキワリコザクラの群生	C	0.5	
*02 095	シコタンソウ群落	C	2.0	
*02 096	算用師のオオサクラソウ群落	H	0.5	
*02 099	大鱒島田のコアツモリソウ	G	0.2	
*02 100	イワオモダカの群生	B	0.0	
*02 101	アサギリソウ群落	C	1.0	
*02 102	ベンセ湿原のサギスゲの群生	C	0.2	
*02 103	ベンセ湿原のニッコウキスゲ群生	D	20.0	
*02 104	沢田のニオイシダ	B	0.0	
*02 105	沢田屏風岩のアオモリマンテマ	B	0.2	
*02 106	風合瀬のエチゴトラノオ群生	D	0.3	
*02 107	ツガルミセバヤの群生	B	0.2	
*02 115	大須賀のミチノクヤマタバコ	C	0.0	
*02 116	種差海岸のマルバダケブキ	C	2.0	
*02 117	松館のツルカメバソウ	C	0.0	
*02 118	不習のクリンソウ	G	0.0	
*02 119	尻屋崎のガンコウラン	D	0.3	
*02 120	桑畑山のイブキジャコウソウ	D	0.1	
*02 122	六ヶ所村のリュウキンカの群生	DE	0.3	
*02 126	高瀬川河口のヒメキンポウゲ	C	1.0	
*02 127	五戸町のバイカウツギ	C	0.0	
*02 128	竜興山神社のビロードトラノオ	D	0.1	
*02 132	八幡岳のユキワリコザクラ	CG	0.0	
*02 137	井戸岳のイワウメ	D	0.0	
*02 138	八甲田大岳のムシトリスミレ	D	0.0	
*02 140	北八甲田井戸岳のイワブクロ	D	0.0	
*02 141	北八甲田のヒナザクラ	D	0.0	
*02 143	小泊のカラスザンショウ林	C	0.1	
*02 144	小泊のイイギリ	C	0.0	
*02 145	コケヤチのツルコケモモ	DH	1.0	
*02 146	コケヤチのホロムイソウ	D	0.0	
*02 147	コケヤチのミツガシワ	DH	0.0	
*02 148	ベンセ湿原のニッコウキスゲ	DE	0.0	
*02 149	ベンセ湿原のノハナショウブ	DE	0.0	
*02 150	ベンセ湿原のカキツバタ	D	0.0	
*02 152	岩木山のミチノクコザクラの群落	BDGH	0.3	
*02 154	湯段のミズバショウの群生	DE	0.4	
*02 155	湯段のザゼンソウの群生	DG	0.2	
*02 156	深浦桜沢のヤマシャクヤクの群生	G	0.3	
*02 157	笹内川のオニシオガマの群生	CH	0.0	
*02 158	吉ヶ峰のツガルフジの群生	BEG	0.2	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《青森》</b>				
*02 159	白神山地のフキユキノシタの群生	D	0.1	個体(群)
*02 160	十二湖の樹上着生シダ群	E	30000.0	
<b>《岩手》</b>				
03 017	安家川源流地帯のブナ林	A	400.0	植生一般
03 025	六角牛山のエゾスグリ	C	200.0	
03 027	五葉山の針葉樹林	A	1000.0	
03 034	青松葉山のアオモリトドマツ林	A	300.0	
03 036	早池峰山の針葉樹林	A	3700.0	
03 060	和賀岳のブナ林	A	3000.0	
03 035	早池峰山の高山植物	BD	1300.0	亜寒帯植生
03 054	岩手山の高山植物	D	1200.0	
03 057	千沼ヶ原の高層湿原	D	25.0	
03 058	駒ヶ岳(秋田駒)の高山植物	D	70.0	
03 063	焼石連峰の高山植物	D	850.0	
03 070	栗駒山の高山植物	D	170.0	
03 046	国見山の岩石地植物	D	160.0	冷温帯植生
03 047	国見山のメノマンネングサ	C	160.0	
03 062	湯川沼の高層湿原	D	5.0	
03 028	五葉山のゴヨウザンヨウラク	B	100.0	亜寒帯常緑針葉高木林
03 038	石合沢のアカエゾマツ林	B	7.0	
03 053	八幡平のアオモリトドマツ林	A	3000.0	
03 055	岩手山のアオモリトドマツ林	A	1000.0	
*03 075	薬師岳のアオモリトドマツ林	A	860.0	
03 008	黒森山のモミ林	C	50.0	冷温帯常緑針葉高木林
03 037	早池峰山のヒノキアスナロ林	A	1000.0	
03 059	御明神のスギ・ヒノキアスナロ林	A	550.0	
*03 081	東山のアカマツ林	FH	45.0	
*03 089	御明神のアカマツ林	H	300.0	
03 001	とどヶ崎のアカマツ林	B	200.0	暖温帯常緑針葉高木林
03 030	碓石海岸のクロマツ林	C	15.0	
03 031	青松島のトベラ林	C	15.0	
03 005	侍浜のアカマツ林	E	10.0	常緑針葉高木植林
03 029	高田松原のクロマツ植栽林	F	14.0	
03 042	松森山のアカマツ林	E	8.0	
03 044	平蔵沢のヒノキアスナロ植栽林	F	1.5	
03 004	船越大島のタブノキ林	C	5.0	暖温帯常緑広葉高木林
03 013	三貫島のタブノキ林	A	35.0	
03 014	三貫島のベニシダ	C	35.0	
03 015	長崎海岸のヤブツバキ・ヒサカキ林	C	7.0	
03 002	とどヶ崎のイヌシデ林	C	200.0	冷温帯夏緑広葉高木林
03 003	霞露ヶ岳のイヌシデ林	A	200.0	
03 011	十二神山のブナ林	AC	187.0	
03 012	津軽石川源流地帯のイヌブナ林	AC	600.0	
03 019	早坂高原のシラカンバ林	E	50.0	
03 040	室根山のブナ・イヌブナ	C	20.0	
03 049	自境山のブナ・イヌブナ林	C	20.0	
03 050	四角岳のブナ林	A	300.0	
03 051	夏水山の風穴植物	D	5.0	
03 056	葛根田のブナ林	A	5000.0	
03 061	中山峠のブナ林	A	200.0	
03 067	猿岩のユキツバキ	D	20.0	
03 068	胆沢川源流地帯のブナ林	A	3000.0	
03 071	栗駒山のブナ林	A	2000.0	
*03 073	内間木のコナラーミズナラ林	E	10.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《岩手》</b>				
*03 074	平庭高原のシラカンバ林	E	40.0	冷温帯夏緑広葉高木林
*03 076	閉伊川のケヤキ林	H	12.0	
*03 079	藪川のカシワ林	E	25.0	
*03 080	築川のケヤキ林	H	50.0	
*03 091	女神山のブナ林	A	188.0	
03 009	磯鶏のヤブツバキ林	C	1.0	暖温帯夏緑広葉高木林
03 064	焼石岳のミヤマナラ林	A	500.0	亜寒帯夏緑広葉低木林
*03 078	姫神山のダケカンバ低木林	DG	4.0	冷温帯夏緑広葉低木林
03 006	槇木沢のイワタバコ	CG	0.1	岩上、多隙地草本植生
03 007	安家石灰岩地帯の植物(岩泉)	BCD	100.0	
03 016	久慈溪流の石灰岩植物	CD	50.0	
03 018	安家石灰岩地帯の植物(安家)	BCD	100.0	
03 026	片岩の石灰岩植物	D	7.0	
03 039	蓬来山の蛇紋岩植物	D	100.0	
03 041	猊鼻溪の石灰岩植物	D	20.0	
*03 077	丹藤川溪流植生	D	12.0	
*03 085	夜沼の水生植物群落	DH	2.0	浮葉・沈水植物群落
*03 087	平ヶ倉沼の水生植物群落	D	3.0	
*03 088	白沼の水生植物群落	D	1.0	
*03 082	焼走り溶岩流植生	D	155.0	火山荒原植生
*03 083	岩手山火山口荒原植生	DH	8.8	
*03 086	藤七温泉硫気孔荒原植物群落	D	0.0	
03 020	猿屋裏の高層湿原	D	5.0	湿地植生
03 021	一ッ石の中間湿原	D	5.0	
03 022	琴畑の中間湿原	D	17.0	
03 023	和山の中間湿原	D	15.0	
03 024	五郎作山の中間湿原	D	5.0	
03 032	外山の中間湿原	D	10.0	
03 033	櫃取の中間湿原	D	50.0	
03 043	春子谷池の中間湿原	D	30.0	
03 045	雫石川の沼沢地	D	20.0	
03 052	八幡平の高層湿原	D	170.0	
03 065	平七沼のヒメカユウ	B	2.0	
03 066	平七沼の中間湿原	BD	2.0	
03 069	栗駒山の高層湿原	D	30.0	
03 010	白浜のエゾオグルマ	BG	0.1	海浜植生
*03 072	侍浜のハマハイビャクシン群落	C	15.0	
*03 084	黒石寺のハイビャクシン群落	C	40.0	個体(群)
*03 090	沢内のユキツバキ群落	C	20.0	
<b>《宮城》</b>				
04 006	金華山島の植物群落	AH	1000.0	植生一般
04 033	栗駒山の原生林	AH	6500.0	
04 051	禿岳の自然林	A	450.0	
04 057	船形山の原生林	AH	8500.0	
04 063	蔵王山の植物群落	AH	12900.0	亜寒帯植生
04 015	横山不動尊の自然林	A	25.0	冷温帯植生
04 032	川台山の植物群落	E	35.0	
04 037	小黒ヶ崎の自然林	AE	20.0	
04 055	魚取沼の沼辺植物群落	AD	30.0	
04 058	桑沼周辺の植物群落	AD	52.0	
04 075	弥太郎山のモミ・イヌブナ林	E	5.0	
04 026	松島の海岸林	A	850.0	暖温帯植生
04 065	斗蔵山のモミ・ウラジロガシ林	AC	7.0	
04 007	駒ヶ峰のモミ林	E	12.0	冷温帯常緑針葉高木林

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>【宮城】</b>				
04 016	柳津虚空蔵尊の自然林	A	12.0	冷温帯常緑針葉高木林
04 021	牧山のモミ・イヌブナ林	E	70.0	
04 044	青葉南のモミ林	AE	6.0	
04 046	自生山のスギ自然林	AH	30.0	
*04 103	西風藩山のモミ・イヌブナ林	A	1.0	
*04 108	鎌内沢のクロベ・ヒノキアスナロ林	A	0.1	
*04 118	千本松山のキタゴヨウ・クロベ林	AD	10.0	
*04 127	須金岳のキタゴヨウ・クロベ林	AD	37.0	
04 008	清崎のアカマツ林	AE	90.0	暖温帯常緑針葉高木林
04 010	牧の崎のモミ・スギ林	E	12.0	
04 027	宮戸島のマルバシャリンバイ自生地	C	1.0	
04 040	東北大学植物園のモミ林	AE	30.0	
04 061	曲竹のモミ林	E	3.0	
04 064	高蔵寺の社寺林	E	3.0	
*04 078	巨釜・半造のクロマツ林	ACE	0.2	
*04 079	大島十八鳴浜のアカマツ林	DE	0.1	
*04 082	歌津半島のクロマツ林	AD	3.0	
*04 083	神宮崎のクロマツ林	DE	5.0	
*04 092	富山観音のモミ林	AE	1.0	
*04 093	瑞巖寺のモミ林	AE	0.5	
*04 131	熱日高神社のモミ林	CE	0.1	
*04 136	西風藩山のモミ林	E	1.0	
04 023	石巻湾沿岸の海岸林	F	370.0	常緑針葉高木植林
04 028	塩釜神社の社寺林	F	16.0	
04 030	仙台湾沿岸の海岸林	F	1050.0	
04 039	霊屋のスギ林	F	5.0	
*04 104	太白山のスギ林	F	2.0	
*04 106	福島県境海浜のクロマツ・ハイネズ群落	DF	38.0	
04 001	御崎神社のタブノキ林	AC	1.0	暖温帯常緑広葉高木林
04 002	大島のアカガシ林	AC	1.0	
04 003	八景島の暖地性植物群落	AC	20.0	
04 004	出島のタブノキ林	A	3.0	
04 005	山王島の暖地性植物群落	AC	3.0	
04 009	綱地島のタブノキ林	A	4.0	
04 011	田代島のタブノキ林	A	3.0	
04 013	荒島のタブノキ林	AC	2.0	
04 014	檜島のタブノキ林	AC	20.0	
04 018	貢尻島の暖地性植物群落	AC	6.0	
04 019	桂島のタブノキ林	A	4.0	
04 020	弁天島のタブノキ林	A	4.0	
04 022	湊のケヤキ・シロダモ林	A	12.0	
*04 081	歌津半島のタブ林	A	2.5	
*04 105	高館・館山のモミ・ウラジログシ林	AC	1.0	
*04 130	金津のウラジログシ林	CE	1.0	
*04 138	朴島のタブ林	A	0.5	
04 012	鮎淵観音堂の自然林	AE	3.0	冷温帯夏緑広葉高木林
04 025	平筒沼のアカシデ林	E	100.0	
04 034	切留のイヌブナ林	E	6.0	
04 038	若畑のブナ林	AH	25.0	
04 041	佐保山のモミ・イヌブナ林	AE	15.0	
04 043	青葉南のフサザクラ群落	C	1.0	
04 045	手倉山のブナ、イヌブナ林	AH	40.0	
04 047	荒雄川の河辺林	D	200.0	
04 048	田代のハルニレ林	DH	35.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《宮城》</b>				
04 053	鳴子峡谷の自然林	AD	57.0	冷温帯夏緑広葉高木林
04 056	前森の風穴植物群落	AD	16.0	
04 060	谷山のイヌブナ林	E	100.0	
04 062	鎌先のイヌブナ林	EH	27.0	
04 066	小原溪谷の自然林	E	75.0	
04 067	虎岩のヨコグラノキ自生地	C	1.0	
04 068	寒成山のケヤキ林	E	7.0	
04 071	横川のオオバヤナギ自生地	C	40.0	
04 073	玉の木原のミズバショウ自生地	D	15.0	
04 074	峠田岳のブナ林	A	200.0	
*04 076	黒沢山のイヌブナ林	AH	16.0	
*04 077	黒沢山のケヤキ林	D	0.1	
*04 097	栗駒山世界谷地のハンノキ・ヤチダモ林	AD	40.0	
*04 098	温湯のイヌブナ林（白糸の滝入口）	A	2.0	
*04 099	浅布峡谷のアカシデ林	D	18.0	
*04 100	湯殿山神社のイヌシデ林	A	0.1	
*04 102	遂倉山のケヤキ林	D	0.3	
*04 110	花淵山のアカシデ林	D	17.0	
*04 112	鳴瀬川上流のドロノキ林	AD	0.0	
*04 114	前森のサワグルミ・トチノキ林	A	2.0	
*04 116	鈴沼のサワグルミ林	AD	0.5	
*04 119	船形山北麓のブナ林	A	410.0	
*04 121	鎌倉山のケヤキ林	D	0.2	
*04 123	樺目木のケヤキ林	D	0.1	
*04 126	保呂内沢のハルニレ林	D	33.5	
*04 137	西風蓄山のブナ林	E	0.0	
*04 085	大綱木のクヌギ林	FH	7.0	暖温帯夏緑広葉高木林
*04 107	鬼ヶ棚川のフサザクラ・タマアジサイ群落	C	0.1	
*04 129	洞雲寺のコナラ林	E	8.0	
04 070	馬神岳のカラマツ自生地	C	2.0	亜寒帯夏緑広葉低木林
04 035	御獄山のアズマジャクナゲ自生地	C	7.0	冷温帯夏緑広葉低木林
04 072	千浦のヒメサユリ自生地	C	18.0	
*04 128	須金岳の雪崩地植物群落	D	146.0	
04 036	六角のススキ草原	G	800.0	冷温帯単子葉草本草原
*04 084	徳仙丈山のススキ草原	G	50.0	
*04 101	王城寺原のススキ草原	G	908.0	暖温帯単子葉草本草原
*04 109	鬼首のススキ草原	GE	118.0	
04 050	雌釜、雄釜の噴気孔荒原植物群落	D	1.0	草本シダ群落
04 052	潟沼の噴気孔荒原植物群落	D	1.0	
04 059	磐司岩の岩壁植物群落	D	25.0	岩上、多隙地草本植生
04 069	渡瀬の風穴植物群落	D	1.0	
*04 122	鎌倉山の岩壁植物群落	D	0.2	
*04 132	夫婦岩岩上植物群落	D	42.0	
*04 089	相野沼の水生物群落	D	2.5	浮葉・沈水植物群落
*04 111	田谷地沼の沼沢地植物群落	D	2.0	
04 049	片山地獄地域の硫気孔荒原植物群落	D	120.0	火山荒原植生
04 024	伊豆沼・内沼の沼沢地植物群落	D	560.0	湿地植生
04 054	ウトウ沼の湿原植生	D	5.0	
*04 088	熊栗沼の沼沢地植物群落	DEH	20.0	
*04 096	栗駒山世界谷地の湿生植物群落	DH	40.0	
*04 113	南北かば谷地の沼沢地植物群落	D	6.0	
*04 115	谷地平湿原の湿生植物群落	DH	3.0	
*04 133	磯の水神沼・沼沢植物群落	D	8.0	
*04 134	商人沼の沼沢植物群落	CD	1.5	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《宮城》</b>				
*04 135	ウド沼の沼沢植物群落	D	2.0	湿地植生
04 017	追波川の河辺植生	D	840.0	河辺植生
*04 086	北上川河辺植物群落	DEG	80.0	
*04 117	升沢のオオバヤナギ	BDH	5.0	
*04 139	小野田町柳瀬のヤナギ林	D	1.0	
04 029	蒲生の塩生植物群落	D	20.0	海浜植生
04 031	仙台湾沿岸の砂浜植物群落	D	240.0	
04 042	井土浦の塩生植物群落	D	40.0	
*04 080	大谷海岸のハマナス群落	D	0.0	
*04 087	長面浜の砂丘植生	D	20.0	
*04 090	北上運河（貞山堀）のクロマツ林	F	115.0	
*04 091	浜市のハマナス群落	D	1.0	
*04 094	深川沼のエゾウキヤガラ群落	D	1.5	
*04 095	荒砥沢のベニシュスラン群落	BCH	0.5	個体（群）
*04 120	芳の平のミズバショウ自生地	D	4.0	
*04 124	白石三住のミヤマツチトリモチ自生地	CH	0.2	
*04 125	有谷のヨコグラノキ	CDH	0.1	
*04 140	気仙沼のナツツバキ林	CH	25.0	
<b>《秋田》</b>				
05 004	八幡平の植生	AD	4040.0	植生一般
05 012	朝日岳の自然植生	AD	597.0	
05 013	和賀岳・葉師岳の自然植生	AD	347.0	
05 014	栗駒山の自然植生	AD	493.0	
05 021	森吉山の森林植生	A	4008.0	
05 033	高松岳の森林植生	A	673.0	
05 034	虎毛山の自然植生	AD	278.0	
05 010	秋田駒ヶ岳高山植物群落	DH	1051.0	亜寒帯植生
05 035	神室山の自然植生	AD	442.0	
*05 152	甲山の山頂域の植生	D	12.0	
05 019	森吉小又峽の森林植生	A	703.0	冷温帯植生
05 027	真木・甲山の自然植生	AD	375.0	
05 029	金峰山の植物群落	A	49.0	
05 037	鞍山の風穴植物群落	D	1.0	
05 043	秋形沢の溪谷林	D	750.0	
05 045	大平山の植生	A	340.0	
05 048	保呂羽山の植生	E	10.5	
05 050	雄勝峠のスギ林	A	613.0	
05 056	竜馬山のアカマツ・クロベ・ブナ林	F	80.0	
05 064	丁岳の植生	A	88.2	
05 065	鳥海山の植生	AD	1440.0	
*05 147	男神山の自然林	A	130.0	
05 051	小岳のハイマツ群落	DH	2.5	亜寒帯常緑針葉高木林
*05 086	三ツ又森のオオシラビソープナ林	A	20.0	
05 011	仙岩峠のスギ林	A	336.0	冷温帯常緑針葉高木林
05 016	矢立峠の秋田スギ天然林	AE	25.0	
05 018	長水沢のスギ天然林	E	20.0	
05 022	桃洞・佐渡のスギ林	A	1215.0	
05 038	七座山の自然林	AE	23.0	
05 041	仁鮒・水沢の秋田スギ天然林	AE	18.6	
05 046	筑紫森の植物群落	A	7.0	
05 054	母体のモミ林	CF	1.0	
05 062	鳥海叢杉	A	13.1	
05 069	男鹿半島のスギ自然林	AH	310.0	
*05 094	川口溪谷の針葉樹林	AH	100.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《秋田》</b>				
*05 100	大割沢のスギ林	AG	4.0	冷温帯常緑針葉高木林
*05 103	大林のスギ林	F	1.5	
*05 105	丸舞南又沢の自然林	A	700.0	
*05 114	房住山のブナースギ群落	A	200.0	
*05 116	駒頭ノ森のブナースギ林	A	750.0	
*05 122	赤田大滝のアカマツ林	AH	6.0	
*05 125	鬼倉山のスギ林	A	190.0	
*05 159	釜淵森のスギーブナ林	A	250.0	
*05 160	奥山のスギーブナ林	A	115.0	
*05 169	青砂川のアカマツ林	A	1.0	
05 025	柴倉峠のユキツバキ	C	5.2	常緑針葉高木植林
05 040	羽根山のスギ植林	F	80.0	
05 058	水林のクロマツ林	F	60.0	
05 070	象潟のタブノキ林	AC	1.0	暖温帯常緑広葉高木林
*05 134	金浦のタブ林	C	0.3	
*05 077	鉛山のダケカンバ林	A	3.0	亜寒帯夏緑広葉高木林
05 001	北野のシラカバ林	CH	9.0	冷温帯夏緑広葉高木林
05 002	十和田湖畔の落葉広葉樹林	H	25.0	
05 020	滝ヶ森のブナ・スギ林	AE	350.0	
05 024	大森山のオニグルミ林・ハンノキ林	H	89.0	
05 026	田沢湖畔刺巻のハンノキ林	A	3.0	
05 039	姫ヶ岳のブナ・スギ天然林	AE	200.0	
05 044	番島森の植物群落	A	126.8	
05 052	粕毛川源流のブナ林	A	3800.0	
05 053	横間のカラスザンショウ群生地	C	5.1	
05 059	水林砂丘の森林植生	AD	60.0	
05 063	冬師のハンノキ林	D	320.0	
05 075	男鹿半島のケヤキ群落	AE	6.0	
05 076	外山のユキツバキ群落	C	17.2	
*05 080	生保内川源流部のブナ林	A	2000.0	
*05 081	成瀬川上流域のブナ林	A	3750.0	
*05 082	唐松沢のサワグルミ林	A	4.0	
*05 084	柴倉岳のブナ林	A	200.0	
*05 085	小又川のケヤキ林	A	28.0	
*05 088	葡萄森のブナ林	A	550.0	
*05 090	大仏岳のブナ林	A	780.0	
*05 091	大石岳のブナ林	A	600.0	
*05 092	白岩岳のブナ林	A	1000.0	
*05 093	大場のハンノキ林	D	2.0	
*05 096	大滝沢のブナ林	AH	175.0	
*05 098	田代沼のブナ林	A	300.0	
*05 099	長慶森のブナ林	A	180.0	
*05 102	五反沢川の溪谷林	A	8.0	
*05 104	白子森のブナ林	A	650.0	
*05 121	金峰神社のブナ林	E	2.0	
*05 124	竜馬山のケヤキ林	A	80.0	
*05 126	石沢峽のケヤキ林	E	45.0	
*05 127	八塩山のブナ林	A	200.0	
*05 128	袖川のシロヤナギ林	AD	100.0	
*05 130	三滝山のブナ林	A	250.0	
*05 136	十和田湖のブナ林	A	150.0	
*05 137	十和利山のブナ林	A	85.0	
*05 138	五ノ宮嶽のブナ林	A	550.0	
*05 139	湯瀬の溪谷林	A	400.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《秋田》				
*05 141	笹森山のブナ林	A	400.0	冷温帯夏緑広葉高木林
*05 143	国見峠のブナ林	A	100.0	
*05 144	東山のブナ林	A	300.0	
*05 145	玉川のドロノキ林	A	15.0	
*05 148	荷葉岳のブナ林	A	500.0	
*05 149	田沢湖のコナラ林	E	5.0	
*05 157	大旭又沢のブナ林	A	1100.0	
*05 161	三ノ又沢のブナ林	A	680.0	
*05 163	御嶽神社のブナ林	AB	0.1	
*05 164	不動ノ滝のシナノキ・ケヤキ林	A	7.0	
05 071	象潟のシナノキ・エゾイタヤ林	E	0.2	暖温帯夏緑広葉高木林
*05 109	石川原の落葉広葉樹林	G	1.5	
*05 155	萩形のフサザクラ群落	C	0.2	
05 028	真昼岳の植生	BH	734.0	亜寒帯常緑針葉低木林
*05 083	平ノ松山の風穴植生	D	0.0	
*05 142	駒ヶ岳のスギ群落	CH	3.0	
*05 123	松ヶ崎のカシワ林	E	270.0	冷温帯常緑広葉低木林
05 072	男鹿半島のヤブツバキ群落	C	3.0	暖温帯常緑広葉低木林
*05 158	大石岳のミヤマナラ群落	A	50.0	亜寒帯夏緑広葉低木林
*05 167	鳥海山のミヤマナラ群落	AD	100.0	
05 017	長走風穴植物群落	DH	0.0	冷温帯夏緑広葉低木林
05 066	獅子ヶ鼻の低木林植生	D	4.0	
05 067	寒風山風穴植物群落	D	1.0	
05 074	男鹿半島のカシワ林	D	6.0	
*05 089	初内沢の風穴植生	D	0.0	
05 008	乳頭山塊のトガクシショウマ群落	GH	0.1	冷温帯ササ原
05 068	寒風山禾本草原	D	42.0	暖温帯単子葉草本草原
05 042	露熊山峡の岩崖植生	D	71.0	岩上、多隙地草本植生
*05 079	非瀬沢の風穴植生	D	4.0	
*05 097	糸倉山の岩壁植生	DH	8.0	
*05 101	小又の風穴植生	D	3.6	
*05 115	南沢の岩壁植生	D	0.5	
*05 131	チゴキ崎の海岸植生	D	0.1	
*05 154	藤琴の岩壁植生	BD	5.0	
*05 162	常盤の岩壁植生	BD	250.0	
*05 166	鳥海百宅の岩壁植生	D	8.0	
*05 170	男鹿本山の岩壁植生	BDGH	15.0	
*05 111	萩台山のフジ群落	DE	5.0	ツル植物群落
*05 106	大浦沼の水生植物群落	D	8.0	浮葉・沈水植物群落
*05 108	乙越沼の水生植物群落	D	12.0	
*05 132	滝ノ頭のシャジクモ群落	BD	0.6	
*05 110	雁森岳の岩壁植生	D	0.0	高山荒原植生
*05 140	八幡平畚岳の岩壁植生	D	4.0	
*05 153	北真昼岳の岩壁植生	D	3.3	
*05 087	森吉山の雪田植生	D	2.0	雪田植生
*05 156	萩形の岩壁植生	D	500.0	
05 032	川原毛地獄の硫気孔原植生	D	12.0	火山荒原植生
05 003	白地山湿原の植物群落	D	24.0	湿地植生
05 005	大場谷地・前谷地の湿原植生	D	143.0	
05 006	乳頭山湿原植生	D	2.0	
05 007	小白森湿原植生	D	2.7	
05 009	黒湯のカラクキ湿原植生	D	0.4	
05 015	栗駒山の湿原植生	D	8.0	
05 030	大柳沼のミギワガラシ群落	H	13.5	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《秋田》				
05 031	コケ沼の高層湿原	D	7.0	湿地植生
05 036	田代岳の湿原植物群落	D	14.0	
05 047	湯の台・小方角沢湿原	D	13.0	
05 049	刈女木湿原	D	1.5	
05 055	天王出戸湿原の植生	A	3.0	
05 057	女潟の低層湿原	DG	23.0	
05 061	大谷地周辺の植物群落	D	91.8	
*05 095	六郷女潟の湿原植生	D	0.0	
*05 107	高屋敷の低層湿原	D	10.0	
*05 112	落合沼の低層湿原	D	18.0	
*05 113	浅内沼の低層湿原	D	100.0	
*05 117	地藏田の高層湿原	D	2.0	
*05 120	加田喜沼(高層)湿原の植生	D	5.0	
*05 129	大清水湿原の植生	D	0.4	
*05 150	卒田の沼沢地植物群落	D	6.0	
*05 151	横沢のスギナモ群落	DG	0.0	
*05 168	脇本の湿原	D	5.0	
*05 078	小坂川のホッサガヤ群落	D	37.0	河辺植生
*05 165	新波のオギ群落	D	1.0	
05 060	西目海岸の砂丘植生	AD	61.5	海浜植生
05 073	男鹿半島の海岸植物群落	D	100.0	
*05 133	金浦仁賀保の海岸草原	D	35.0	
*05 118	竹の花公園のチョウジソウ群落	D	3.0	個体(群)
*05 119	二古のヤブツバキ群落	C	20.0	
*05 135	小砂川の暖地性シダ群落	C	2.0	
*05 146	安滝のトガクシショウマ	GH	0.1	
《山形》				
06 001	神室山自然林	A	8170.0	植生一般
06 003	船形山自然林	A	1600.0	
06 017	鳥海山原生林および低木林	A	5400.0	
06 026	月山地域原生林及び低木林	A	15789.0	
06 064	朝日連峰原生林	A	38506.0	
06 020	鳥海山鳥海湖雪田草原	D	280.0	亜寒帯植生
06 065	朝日連峰高山帯植生	D	1030.0	
06 079	飯豊山高山帯植生	D	773.0	
06 002	禿岳自然林	A	2192.0	冷温帯植生
06 004	加無、丁岳自然林	A	7901.0	
06 006	栗山の原生林	A	3991.0	
06 013	滝山の自然林	A	129.0	
06 022	弁慶山自然林	A	4850.0	
06 037	ヌルマタ沢ブナ原生林	A	4020.0	
06 062	金峯山自然林	A	100.0	
06 069	金目川流域原生林	A	10525.0	
06 072	摩耶山の自然林	A	1800.0	
06 078	飯豊山地原生林	A	8000.0	
06 052	吹浦大物忌神社の社叢	E	6.0	暖温帯植生
06 055	飛鳥の特定植物個体群	C	230.0	
06 076	牝ヶ関物見山の暖地性シダ植物群生地	C	20.0	
06 015	蔵王山亜高山帯針葉樹林	A	850.0	亜寒帯常緑針葉高木林
06 044	吾妻山亜高山帯針葉樹林	A	2770.0	
06 007	山寺の赤松天然林	E	56.3	冷温帯常緑針葉高木林
06 012	十歳山アカマツ林	E	55.0	
06 024	最上川横谷地帯のスギ天然林	A	980.0	
06 023	八幡町のヤマトグサ自生地	H	30.0	常緑針葉高木植生

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《山形》				
06 053	庄内砂丘クロマツ林	F	2160.0	常緑針葉高木植林
06 058	羽黒山のスギ林	F	81.0	
06 050	三崎山のタブ林	A	1.0	暖温帯常緑広葉高木林
06 051	女鹿のタブ林	A	1.0	
06 056	飛鳥のタブ林	AE	50.0	
06 075	住吉神社のタブ林	A	1.0	
06 005	新庄関屋のブナ遺存個体群	E	0.1	冷温帯夏緑広葉高木林
06 008	奥山寺遊仙峡渓谷林	A	16.0	
06 009	奥山寺二口峠のブナ林	A	544.0	
06 011	盃山のアベマキ林	H	28.0	
06 014	蔵王山北部及雁戸山のブナ林	A	2221.0	
06 025	ツゲの自生北限地	C	50.0	
06 035	今神御池のブナ原生林	A	720.0	
06 041	珍蔵寺の社寺林	E	1.0	
06 043	亀岡文珠の社寺林	E	6.0	
06 048	白布峠のブナ林	A	320.0	
06 059	羽黒山のブナ・ユキツバキ群落	A	45.0	
06 060	善宝寺のブナ林	E	0.2	
06 061	高館山自然林	E	165.0	
06 063	大井沢ヤナギ河畔林	D	200.0	
06 066	東大鳥川ヤナギ河畔林	D	150.0	
06 071	気比神社社叢	AF	10.0	
06 073	温海岳のブナ林	A	350.0	
06 077	ヤマグルマの分布北限地	C	0.0	
*06 080	翁山・小国川源流のブナ自然林	A	1200.0	
*06 083	仙人沢の峡谷林	D	124.0	
*06 084	本導寺のケヤキ林	E	15.0	
*06 086	善宝寺池のケヤキ林	EA	3.0	
06 057	狩川熊野神社の社叢	E	1.0	暖温帯夏緑広葉高木林
06 074	マルバシャリンバイ自生地	C	0.0	暖温帯常緑広葉低木林
06 030	月山バラモミ沢のアオモリトドマツ自生地	A	26.0	亜寒帯夏緑広葉低木林
06 010	ハマグリ山山稜低木林	AD	160.0	冷温帯夏緑広葉低木林
06 040	風穴の寒地植物群落	H	0.1	
06 049	鳥海山大平のブナ萌芽雨生林	H	13.0	
06 042	ツクシガヤの自生地	C	0.0	冷温帯単子葉草本草原
*06 082	ジャガラモガラ風穴植物群落	H	1.0	岩上、多礫地草本植生
06 019	鳥海山山頂東側の草原	D	141.7	雪田植生
06 021	鳥海山心字雪田群落	D	70.0	
06 029	月山バラモミ沢雪田	D	64.0	
06 031	月山依生池雪田	D	71.0	
06 033	月山大雪城とその周辺雪田草原	D	411.0	
06 034	月山姥ヶ岳雪田	D	117.0	
06 046	吾妻山人形石雪田群落	D	9.0	
06 016	熊野岳・馬の背火山荒原	D	130.0	火山荒原植生
06 018	鳥海山頂・火山・高山帯植生	D	195.8	
06 027	念仏ヶ原湿原	D	40.0	湿地植生
06 028	月山弥陀ヶ原湿原	D	60.0	
06 032	月山月見ヶ原湿原	D	60.0	
06 036	琵琶沼浮島植生	D	2.3	
06 038	白竜湖湿原	D	15.0	
06 039	眺山湿原	D	2.0	
06 045	吾妻山弥兵衛平、明星湖湿原	D	120.0	
06 047	西吾妻山の湿原	D	4.5	
06 054	三千坊谷地	D	2.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《山形》				
06 068	鳥原湿原	D	7.5	湿地植生
06 070	飯豊山谷平地湿原	D	15.0	
*06 081	クルマミ平湿原	D	4.0	
*06 087	置賜葉山の山地湿原群	D	20.0	
*06 088	沼ノ口湿原植生	D	1.4	
*06 089	熊野長峰湿原	D	2.0	
*06 085	蔵岡大物忌神社のブナ残存個体群	E	3.0	個体(群)
《福島》				
07 104	御斎所山の照葉樹及び夏緑広葉樹混交林	H	24.8	植生一般
07 102	鹿狼山の自然林	H	45.0	冷温帯植生
07 024	鳥子平のシラビソ自生地	C	20.0	亜寒帯常緑針葉高木林
07 056	桐峰のアオモリトドマツ林	C	10.0	
07 071	田代山のウラジロモミ林	C	1.0	
07 081	丸山岳のオオシラビソ林	H	5.0	
07 002	大芦のモミ林	H	5.0	冷温帯常緑針葉高木林
07 005	塩浸のアカマツ林	E	0.2	
07 008	背戸峨廊のアカマツ林	A	96.0	
07 010	夏井溪谷のモミ林	A	600.0	
07 023	吾妻山のヤエハクサンシャクナゲ自生地	B	8.0	
07 036	五色沼のアカマツ林	H	200.0	
07 045	舟津浜のアカマツ林	A	4.0	
07 060	二岐山のアスナロ林	H	7.0	
07 061	中山風穴植物群落	D	3.0	
07 065	安座のコウヤマキ自然林	C	25.0	
07 068	三条のスギ林	G	15.0	
07 084	中畑のアカマツ林	F	7.8	
07 087	浄土松のアカマツ林	H	15.9	
07 092	新田川のモミ林	A	122.4	
07 093	新道沢のチョウセンゴユウ林	C	25.6	
07 097	本名御神楽岳のスギ林	G	15.0	
07 098	大戸岳のヒノキアスナロ林	G	47.0	
07 110	鳥屋森のスギ林	G	36.0	
07 111	深沢のヒノキアスナロ林	G	44.8	
07 112	萩野風穴植物群落	D	1.0	
07 006	一の宮のヒメコマツ林	C	9.0	暖温帯常緑針葉高木林
07 089	牛越館山のモミ林	H	3.3	
*07 115	水林のアカマツ林	E	5.0	
07 012	小浜のコシダ、ウラジロ群落	C	0.3	常緑針葉高木植林
07 027	金山のビャッコイ群落	B	0.5	
07 074	燧ヶ岳のカラマツ自生林	C	1.0	夏緑針葉高木林
07 004	初発神社のスダジイ林	C	0.1	暖温帯常緑広葉高木林
07 011	波立海岸の樹叢	C	2.5	
07 013	仁井田のシラカシ林	H	0.1	
07 014	仁井田のスダジイ林	H	1.5	
07 106	好間川溪谷の照葉樹林	H	4.0	
07 003	落合のイタヤカエデ林	G	3.0	冷温帯夏緑広葉高木林
07 009	背戸峨廊のイヌブナ林	A	37.0	
07 015	仙台カルストのケヤキ林	H	5.0	
07 017	四時川溪谷のイヌシデ林	H	1050.0	
07 018	四時川のイヌブナ林	H	103.3	
07 020	布入のブナ林	C	3.0	
07 021	水朴のアカシデ林	H	0.0	
07 022	土湯温泉のブナ林	C	0.5	
07 025	横向のブナ林	A	5.5	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《福島》</b>				
07 026	熱海のケヤキ林	A	10.0	冷温帯夏緑広葉高木林
07 028	山本不動のアカシデ林	H	1.2	
07 029	八溝山のブナ林	A	75.0	
07 032	狐鷹森のハンノキ林	G	3.5	
07 033	山神社のコナラ・ミズナラ林	H	5.0	
07 034	志田浜のケヤキ林	H	1.5	
07 035	天神浜のハンノキ林	G	1.0	
07 039	京ヶ森のハルニレ群落	G	4.5	
07 041	翁島のブナ・ミズナラ林	C	7.0	
07 044	山田原のブナ林	C	12.0	
07 046	江花のイヌブナ林	C	5.5	
07 047	隠津島神社叢	G	6.0	
07 048	羽島湖のヤチダモ林	G	10.0	
07 049	鳥居ころがしのカシワ林	G	25.0	
07 050	剣桂のイタヤカエデ群落	G	0.6	
07 053	田土ヶ入の湿原	D	0.3	
07 054	追原のイヌブナ林	C	0.3	
07 055	芝原のブナ林	C	0.1	
07 057	羽黒山の夏緑樹林	A	20.0	
07 058	湯本のケヤキ林	H	1.8	
07 066	矢野原のシラカバ林	H	0.1	
07 069	沼の平のブナ林	A	2.1	
07 085	古城山のカシミザクラ・コナラ群落	H	3.0	
07 090	茂庭のブナ林	A	861.6	
07 091	黒岩山のブナ林	A	72.3	
07 096	本名御神楽岳のブナ林	A	280.0	
07 100	七ヶ岳のブナ林	A	324.0	
07 101	木地夜鷹山のブナ・ミズナラ林	A	260.0	
07 103	明神ヶ岳のブナ・ミズナラ林	A	34.1	
07 105	木戸川のブナ・ミズナラ林	E	114.7	
*07 117	天鏡閣のコナラ林	E	150.0	
07 007	焼築のケヤキ林	H	0.3	暖温帯夏緑広葉高木林
07 082	信夫文知摺観音の樹叢	F	1.5	
07 083	高松神社の社叢	F	1.6	
*07 113	入定溪谷のケヤキ林	A	12.0	
*07 114	御斎所のケヤキ林	A	40.0	
07 030	東吾妻山のハイマツ群落	D	15.0	亜寒帯常緑針葉低木林
07 059	二岐山の偽高山帯群落	D	4.0	
07 062	飯豊山のハイマツ群落	D	23.0	
07 075	燧ヶ岳のハイマツ群落	D	38.0	
07 099	七ヶ岳のキャラボク自生地	D	5.0	
07 001	海老浜のマルバシャリンバイ自生地	C	0.0	暖温帯常緑広葉低木林
07 080	朝日岳の風衝岩地植生	D	2.5	亜寒帯夏緑広葉低木林
07 079	大島ダム付近のなだれ地低木群落	H	1.5	冷温帯夏緑広葉低木林
07 086	大悲山のヤマツツジ群落	H	4.0	暖温帯夏緑広葉低木林
07 037	るり沼のウカミカゴケ群落	B	0.1	蘚苔類植物群落
07 038	蟹沢浜のミズギゴケ群落	B	146.0	
07 063	飯豊山の乾生草原	D	24.0	高山荒原植生
07 031	人形石の雪田群落	D	10.0	雪田植生
07 064	飯豊山の湿生草原	D	43.5	
07 070	駒ヶ岳の雪田植生	D	21.0	
07 040	法正尻湿原	D	3.6	湿地植生
07 042	雄国沼高層湿原群落	D	45.0	
07 043	赤井谷地沼野湿原群落	D	45.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《福島》</b>				
07 051	谷地中の湿原	D	1.0	湿地植生
07 052	熊倉谷地湿原	D	0.9	
07 067	駒止の高層湿原群落	D	27.0	
07 072	田代山の高層湿原群落	D	21.0	
07 073	大江湿原のニッコウキスゲ群落	D	25.0	
07 076	尾瀬ヶ原湿原	D	200.0	
07 077	浅草岳の雪田群落	D	0.2	
07 078	上田代湿原群落	D	25.0	
07 088	宮床の湿原植物群落	D	8.0	
07 094	黒岩山の湿原植物群落	D	3.7	
07 095	矢野原の湿原植物群落	D	20.6	
07 107	熊沢田代湿原群落	D	3.5	
07 108	広沢田代湿原群落	D	9.0	
07 109	東田代湿原群落	D	3.0	
*07 116	鳥子平の湿原	D	6.0	
<b>《茨城》</b>				
08 053	雑台・吾国山の植生	A	1400.0	植生一般
08 055	筑波山の植生	BCEFH	700.0	
08 006	三結室山の植生	BCG	20.0	冷温帯植生
08 001	平潟海岸崖の植生	C	1.3	暖温帯植生
08 002	大津港五浦の海浜植生	CE	2.5	
08 009	常陸太田市真弓山の植生	CF	12.0	
08 010	常陸太田市平地林の植生	E	26.0	
08 012	東海村の海岸植生	CE	50.0	
08 013	村松の自然植生	CE	70.0	
08 014	勝田市海岸の植生	AB	1062.0	
08 023	鹿島神社の社寺林	CF	42.5	
08 034	西金砂山の植生	ABCD	90.0	
08 035	御前山の暖帯林	C	150.0	
08 038	常北町の暖帯林	AF	125.0	
08 039	笠間市の常緑樹林	E	25.0	
08 049	鷲子山の植生	EF	15.0	
08 058	土浦付近に見られる森林	EG	15.0	
08 065	那珂湊市釜上の植生	E	6.9	
08 036	岩壁の植物群落	C	0.5	暖温帯常緑針葉高木林
08 052	協和町の植生	E	40.0	
08 004	花園山のスギ林	EF	11.5	常緑針葉高木植林
08 033	エビラシダの北限地	B	0.7	
08 048	江戸崎町の暖帯林	F	14.7	
08 064	鴨島五所の植生	E	4.8	
08 003	養生ラン	CE	0.1	暖温帯常緑広葉高木林
08 007	浄蓮寺の暖地性植物	C	20.0	
08 008	暖地性シダの北限	C	24.5	
08 017	大洗海岸の常緑広葉樹林	E	6.2	
08 018	大洋村飯島の常緑樹林	E	2.5	
08 019	大洋村の平地林	E	20.0	
08 020	鉢田町の常緑樹林	E	3.0	
08 021	行方台地斜面の常緑広葉樹林	CE	2.8	
08 024	鹿島郡の常緑広葉樹林	CE	3.0	
08 025	行方台地の常緑樹林	E	2.8	
08 026	大賀の常緑樹林	CE	5.0	
08 037	小松の常緑樹林	E	17.0	
08 040	岩間町の自然植生	E	28.0	
08 041	コ克蘭群生地	C	0.5	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《茨城》</b>				
08 042	玉造町の暖帯林	A	0.5	暖温帯常緑広葉高木林
08 043	八木蒔の植生	E	7.0	
08 044	霞ヶ浦南側の常緑樹林	E	0.8	
08 045	石岡の暖帯林	A	1.5	
08 050	仏頂山の植生	CE	250.0	
08 051	岩瀬町富谷山の植生	CE	36.0	
08 056	椎尾の常緑広葉樹林	E	1.5	
08 057	谷田部町の台地斜面の植生	E	2.5	
08 062	岩井市の暖帯林	E	0.9	
08 005	花園山の自然林	A	100.0	冷温帯夏緑広葉高木林
08 027	八溝山のブナ林	BC	18.0	
08 028	花瓶山のブナ林	A	120.0	
08 016	ハマギクの南限地	C	1.0	暖温帯常緑広葉低木林
08 022	波崎町のウチワサボテンの群落	FH	0.2	
08 029	鍋足山の特殊な立地の植生	BCE	300.0	岩上、多礫地草本植生
08 030	フロダガヤの生育地	B	1.0	
08 032	特殊な立地の植生	BCE	250.0	
*08 067	山方町の特殊な立地の植生	B	5.0	
08 046	霞ヶ浦周辺の湿性草原	E	50.0	湿地植生
08 061	菅生沼の植生	CD	231.5	
08 063	古河市の湿性草原	ABD	87.0	
*08 066	低山の湿原	DG	5.0	
*08 068	平地の湿原	DG	3.0	
08 015	コハマギクの南限地	C	11.0	海浜植生
08 060	下館市内のカコウギカエデ群落	D	0.3	個体(群)
<b>《栃木》</b>				
09 052	女峰山・帝釈山頂の高山植物	DH	5.0	亜寒帯植生
09 033	ウラジロヒカゲツツジ	H	2.0	冷温帯植生
09 061	焼森山のイワタバコ・クマガイソウ群落	G	17.0	暖温帯植生
09 013	大佐飛山のオオシラビソ・コメツガ・チシマザサ群集	A	243.0	亜寒帯常緑針葉高木林
09 018	釈迦ヶ岳のコメツガ・イラモミ林	H	83.0	
09 040	鬼怒沼周辺のオオシラビン林	AH	120.0	
09 046	金精峠のコメツガ・クマイザサ群集	A	1.0	
09 047	金精峠のオオシラビン・クマイザサ群集	A	1.0	
09 031	業師岳のツガ林	ACH	7.0	冷温帯常緑針葉高木林
09 044	湯ノ湖のコメツガ・アスナロ・アズマシャクナゲ群集	A	5.0	
09 056	箒根のモミ天然林	E	6.2	
09 022	井頭植物園のアカマツ林	E	0.4	暖温帯常緑針葉高木林
09 062	石尊山のアカマツ林	E	16.0	
09 065	南高原のヒノキ天然林	C	1.6	
09 003	佐久山のヤマクボスゲ群落	BH	0.0	常緑針葉高木植生
09 006	キジョラン・ハカクシダ群落	BCH	0.0	
09 007	タイワンスゲ群落	BCH	0.0	
09 027	今市平ヶ崎のヒメザゼンソウ	DG	0.0	
09 029	東照宮下のスギ林	F	0.5	
09 055	鷲子山の希少植物	C	5.0	
09 005	高館山のシイ・アラカシ林	A	3.0	暖温帯常緑広葉高木林
09 021	多気山のアラカシ・ウラジロガシ林	A	6.0	
09 036	唐沢山の照葉樹林	A	16.0	
09 037	出流山のシラカシ林	AD	2.0	
09 038	アラカシ林	AG	1.0	
09 060	松倉山の暖帯照葉樹林	A	15.1	
09 048	白根山のダケカンバ・ミヤマハンノキ群落	A	120.0	亜寒帯夏緑広葉高木林
09 004	雨巻山のブナ林	AH	3.0	冷温帯夏緑広葉高木林

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《栃木》</b>				
09 012	矢沢林道のチドリノキ、オクノカンスゲ群集	E	11.0	冷温帯夏緑広葉高木林
09 016	県民の森のクロヒナスゲ群落	BC	17.0	
09 017	塩原大沼のミズバショウ	DG	1.0	
09 025	クサノオウバノギク	BH	0.0	
09 026	田代林道のブナ林	A	8.0	
09 032	いろは坂のブナ・ニッコウザサ群集	A	0.0	
09 042	中宮祠のミズナラ・スズタケ林	A	67.0	
09 045	湯滝西のブナ・ニッコウザサ林	A'	2.0	
09 050	根本山のシオジ林	ACH	10.0	
09 053	野州原のヤシオツツジ群落	H	5.0	
09 058	作原の天然林	A	723.0	
09 059	東高原のブナ・ミズナラ群落	AE	107.3	
09 064	尾出山の天然林	A	37.0	
09 023	井頭植物園のコナラ林	E	2.6	暖温帯夏緑広葉高木林
09 028	神橋西の落葉樹林	E	1.0	
09 035	桜峠のヤマザクラ群落	AH	7.0	
09 002	伊王野のケヤキ林	F	1.0	夏緑広葉高木植林
09 009	三本槍岳頂上のハイマツ、チシマザサ群集	D	33.0	亜寒帯常緑針葉低木林
09 014	大佐飛山のコメツガ・ハイマツ群集	A	2.0	
09 008	那須茶臼岳のヒメイワカガミ	G	52.0	亜寒帯夏緑広葉低木林
09 010	お花畑	DH	67.0	
09 049	白根山頂上のミネヤナギ群落	D	2.0	
09 051	足利小俣のミツバツツジ群落	CH	1.0	暖温帯夏緑広葉低木林
09 054	太郎山頂のお花畑	D	4.5	亜寒帯広葉草原
09 001	ナスヒオウギアヤメ	H	0.0	暖温帯広葉草原
09 020	下川岸のハマエンドウ群落	D	1.0	
09 030	コウシンソウ群落	BGH	0.0	岩上、多隙地草本植生
09 063	岩舟山の暖地植物	B	7.4	
09 034	横根山井戸湿地の高層湿原	D	2.0	湿地植生
09 039	マコモ・タデ類植生	D	17.0	
09 041	鬼怒沼湿原	D	12.0	
09 043	戦場ヶ原湿原	DH	260.0	
09 057	多田羅沼の湿地植物	D	2.0	
<b>《群馬》</b>				
10 104	奥利根の植生	AD	4500.0	植生一般
10 052	朝日岳の蛇紋岩植生	D	1.5	亜寒帯植生
10 077	草津本白根山火口底から山頂への遷移	D	1.0	
10 006	日光白根山のコメツガ林	A	2.5	亜寒帯常緑針葉高木林
10 010	皇海山のオオシラビソ林	A	4.5	
10 048	巻機山のオオシラビソ林	A	3.0	
10 070	赤石山のオオシラビソ林	A	400.0	
10 074	草津白根山のコメツガ林	A'	25.0	
10 078	草津本白根山のシラビソ-オオシラビソ林	A	1.0	
10 097	三国山のコメツガ林	A	125.0	
10 099	黒斑山のシラビソ-オオシラビソ林の縮枯れ	A	225.0	
10 101	水之塔山のリンネソウ群落	B	0.0	
*10 124	尾瀬のオオシラビソ林	A	3500.0	
10 033	奥利根のキタゴヨウウクロベ林	AD	2.0	冷温帯常緑針葉高木林
10 066	天丸山のヒノキ天然林	AG	7.0	
10 092	諏訪山のツガ林	A	40.0	
*10 116	宝川のアスナロ林	A	257.0	
*10 129	赤城山大洞のウラジロモミ林	A	2.0	
*10 134	市城のアカマツ林	A	35.0	
10 016	仙人ヶ岳のシハイスマレ北限地	C	0.0	暖温帯常緑針葉高木林

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《群馬》</b>				
*10 141	貫前神社のモミ林	H	0.1	暖温帯常緑針葉高木林
10 019	鳴神山のカッコソウ群落	BG	0.0	常緑針葉高木植林
10 022	八王子丘陵のアスカイノデ群落	BG	0.1	
10 044	木曾神社のワカナシダ群落	CG	0.0	
10 057	榛名神社のキヨスミコケシノブ北限地	BCD	0.0	
10 058	観音山のアカマツ林	EF	60.0	
10 062	万場町のムカデラン自生地	CG	0.0	
10 110	赤城神社のスキ林と松並木	F	13.5	
10 083	浅間山のカラマツ天然林	A	450.0	夏緑針葉高木林
10 100	車坂峠のカラマツ天然林	A	150.0	
10 018	桐生市泉龍院のシラカシ林	EF	0.1	暖温帯常緑広葉高木林
10 043	橘山のアラカシ林	E	0.1	
10 059	貫前神社のシラカシ林	F	0.5	
*10 118	湯沢鉾泉のシラカシ林	AE	2.0	
*10 137	桂昌寺のウラジロガシツクバネガシ群落	AG	0.3	
10 046	群馬の森のシラカシ人工林	F	18.0	常緑広葉高木植林
10 007	日光白根山のミヤマハンノキ林	D	7.5	亜寒帯夏緑広葉高木林
10 008	日光白根山のダケカンバ林	A	5.0	
10 009	丸沼畔のトチノキ、サワグルミ林	A	6.5	冷温帯夏緑広葉高木林
10 013	袈裟丸山のシオジ北限地	C	0.1	
10 029	武尊山のオクヤマシダ群落	B	0.3	
10 032	奥利根のブナ林	A	25.0	
10 036	朝日岳～小沢岳のブナ林	A	2500.0	
10 042	赤城山のミズナラ林	A	150.0	
10 056	榛名山のカシワ林	A	50.0	
10 093	諏訪山の表日本型ブナ林	A	100.0	
10 096	北沢のシオジ林	A	290.0	
10 098	四阿山のコマガタケスグリ群落	B	0.6	
10 103	湯の丸山のレンゲツツジ群落	E	205.0	
10 105	荒山のミズナラ林	A	40.0	
10 107	鍋割山のミズナラ林	A	67.1	
10 108	鍋割山のミズナラ～ヤマツツジ群落	A	100.0	
10 109	ダケカンバ～アズマシャクナゲ群落	A	10.0	
10 112	あずさ沢のシオジ～チドリノキ林	A	10.0	
10 113	王領地の森ハルニレ林	A	11.0	
*10 126	武尊山北面のブナ林	A	2000.0	
*10 127	発知川のサワグルミ林	A	10.0	
*10 128	赤城山小鳥ヶ島のブナ林	A	0.1	
*10 136	岩櫃山のイヌブナ林	A	7.0	
*10 146	袈裟丸沢のシオジ林	A	0.5	
10 021	吾妻山のヤマタバコ群落	BC	0.1	暖温帯夏緑広葉高木林
10 028	奥利根のオオシラビソ林	A	700.0	亜寒帯常緑針葉低木林
10 076	草津白根山のハイマツ群落	A	1.0	
10 082	浅間山のアカマツ天然林	A	925.0	冷温帯常緑針葉低木林
10 072	草津白根山のアズマシャクナゲ群落	ED	422.4	冷温帯常緑広葉低木林
10 031	奥利根のミヤマナラ林	A	70.0	亜寒帯夏緑広葉低木林
10 049	朝日岳～小沢岳のミヤマナラ林	A	3500.0	
10 011	皇海山麓のアカヤシオ群落	D	0.1	冷温帯夏緑広葉低木林
10 065	多野山地のハコネコメツツジ群落	BG	0.0	
10 081	浅間山のカラフトイバラ群落	B	12.5	
10 091	荒船山のコイワザクラ群落	BC	2.5	
10 094	多野山地のウラジロヒカゲツツジ群落	BG	0.0	
10 111	相馬山のカナウツギ群落	BC	0.0	
*10 123	大仁田のアカヤシオ～トウゴクミツバ群落	AE	20.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《群馬》</b>				
10 064	青倉のザゼンソウ群落	H	0.1	暖温帯夏緑広葉低木林
10 035	奥利根の雪蝕裸地植生	D	0.5	亜寒帯広葉草原
10 014	袈裟丸山のカイトカラコウ群落	B	0.0	冷温帯広葉草原
10 041	赤城山のフジアザミーヤマホタルブクロ群落	BD	2.0	
10 061	妙義山のオオイワインチン群落	C	0.5	
10 079	角落山のミョウギイワザクラ北限地	C	1.0	
10 090	荒船山のオオイワインチン群落	C	2.5	
10 102	棧敷山の高原植物群落	E	25.0	
10 012	根本山のイワイヌワラビ群生地	D	1.0	草本シダ群落
10 045	伊勢崎のコモチシダ群落	BG	0.0	
10 060	妙義山のミョウギシダ群落	B	0.0	
10 067	天丸山のチチホラゴケ群落	C	0.0	
10 071	吾妻渓谷のミョウギシダ北限地	CG	0.0	
10 080	浅間隠山のオニゼンマイ群落	B	0.0	
10 089	黒滝山のコケホラゴケ北限地	C	0.0	
10 095	南牧村のシシラン群生地	D	0.0	
10 015	袈裟丸山のコウシンソウ群落	BG	0.0	岩上、多礫地草本植生
10 023	奥利根の雪渓植生	D	0.0	
10 027	至仏山塊の蛇紋岩植生	D	130.0	
10 053	茂倉岳の蛇紋岩植生	D	0.5	
10 054	谷川岳の蛇紋岩植生	D	60.0	
10 087	妙義山のミョウギイワザクラ群落	B	2.0	
10 088	妙義山の岩壁植生	D	30.0	
*10 121	立処山の石灰岩地植物群落	D	50.0	
*10 142	青倉の石灰岩地植生	D	5.0	
*10 144	天狗岩の石灰岩植生	D	11.0	
10 017	仙人ヶ岳山麓のカザグルマ群落	B	0.3	タケ形林
10 047	鬼石町のイタビカズラ群落	B	0.0	ツル植物群落
10 002	行人沼のヒメビシ群落	BG	1.5	浮葉・沈水植物群落
*10 114	多々良沼干拓地の水生植物群落	DH	34.0	
*10 131	沼田市川田のヒメビシ群落	G	0.1	
*10 132	吉井町のイボビシ群落	G	0.1	
*10 140	吉井・富岡のオニビシ群落	GH	0.8	
*10 139	安中岩野谷丘陵のヒツジグサ群落	G	0.1	浮水植物群落
10 075	草津白根山のコマクサ群落	BG	1.0	高山荒原植生
10 086	蛇骨岳の高山風衝矮生低木群落	D	20.0	
10 024	奥利根の雪田植生	D	0.1	雪田植生
10 030	奥利根の湿原植生	D	6.0	
10 050	朝日岳～小沢岳の雪田植生	D	0.3	
10 051	朝日岳の雪田群落	D	0.3	
*10 133	谷川岳雪渓地帯の植生	D	0.8	
10 073	草津白根山の硫気孔荒原植物	D	0.1	火山荒原植生
10 084	浅間山鬼押し出し上の植生	D	850.0	
10 085	浅間山中腹以上の植生	D	700.0	
10 106	荒山高原のツツジ群落	AE	60.0	
10 001	板倉町のタタラカンガレイ群落	BG	0.0	湿地植生
10 003	谷田川のチヌミレ群落	BCG	0.9	
10 004	茂林寺沼の低地湿原植生	DEG	0.4	
10 005	大清水の湿原植生	D	5.0	
10 025	尾瀬ヶ原の湿原植生	D	550.0	
10 026	外田代の湿原植生	D	75.0	
10 037	武尊山のヒメカユウ群落	B	0.1	
10 038	武尊田代原の湿原植生	D	3.0	
10 040	赤城山の覚満潤湿原植生	D	2.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《群馬》</b>				
10 055	大峰沼の湿原植生	D	1.0	湿地植生
10 068	野反湖のノソリホシクサ群落	BG	0.0	
10 069	赤石山のヒメカユウ南限地	C	0.0	
*10 117	玉原の湿原植生	D	4.0	
*10 125	西山湿原の植生	D	1.5	
*10 135	小池沼の湿原植生	D	1.0	
*10 145	芳ヶ平の湿原植生	D	10.0	
*10 148	野地平の湿原植生	D	35.0	
*10 149	バラギ湿原の植生	D	3.5	
*10 150	鳥居峠の湿原植生	D	1.5	
*10 115	根本山のトウゴクヒメシャラ群落	CH	7.5	個体(群)
*10 119	富岡市上丹生のイブキシダーイワヘゴ群落	BG	0.0	
*10 120	富岡市上高瀬のイタバカズラ群落	BG	0.1	
*10 122	下仁田町のムカデラン北限地	BC	0.0	
*10 130	赤城村のマツバラシ群落	CH	0.0	
*10 138	見城川のハシドイ群落	H	10.0	
*10 143	赤久縄山のテバコモミジガサ群落	C	0.0	
*10 147	鼻曲山のミヤマウラボシ群落	B	0.0	
<b>《埼玉》</b>				
11 053	中双里の森林	ADG	38.0	植生一般
11 045	二子山石灰岩地の森林	ADG	10.0	冷温帯植生
11 048	妙法岳石灰岩地の森林	AD	2.0	
11 061	両神村滝前ツツジ群落	D	294.0	
11 001	久伊豆神社の社寺林	E	1.0	暖温帯植生
11 007	熊野神社の社寺林	E	1.0	
11 018	泉井神社の社寺林	E	0.8	
11 029	井戸山の森林	DEH	10.0	
11 038	龍泉寺の社寺林	E	1.0	
11 059	道元平ウラジロ群落	D	2.0	
11 060	多福寺の平地林	E	20.0	
11 051	イモノキドツケ石灰岩地のコメツガ林	AD	3.0	亜寒帯常緑針葉高木林
11 056	雁坂峠のコメツガ林	A	10.0	
11 044	女形の天然性ヒノキ林	ADE	5.0	冷温帯常緑針葉高木林
11 046	尾の内沢の天然性ヒノキ林	ADH	3.0	
11 047	両神山のコメツガ林	ADH	5.0	
11 054	日室鉱化地帯のヒノキ林	AC	2.0	
11 055	赤沢岳石灰岩地のコメツガ林	ADH	1.5	
11 058	十文字峠石灰岩地のコメツガ林	AD	2.0	
11 002	志多見のアカマツ林	EH	3.0	暖温帯常緑針葉高木林
11 016	高德神社の社寺林	E	2.0	
11 019	熊井のモミ林	E	0.8	
11 026	黒山のモミ林	E	2.0	
11 030	広見寺の社寺林	E	1.5	
11 039	横瀬のヒノキ林	DEH	0.8	
11 004	大崎のスダジイ林	E	1.0	暖温帯常緑広葉高木林
11 005	東内野のスダジイ林	E	0.8	
11 006	浅間神社の社寺林	E	0.5	
11 010	西山崎稲荷神社の社寺林	E	0.8	
11 017	岩槻観音の社寺林	AE	1.5	
11 020	黒石神社の社寺林	E	1.0	
11 022	虚空蔵菩薩の社寺林	CE	0.8	
11 023	宿谷の滝のスダジイ林	CE	0.8	
11 024	鎌北湖のスダジイ林	ACE	1.5	
11 025	イシリヤツのアラカシ林	E	0.5	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《埼玉》				
11 027	諏訪神社のアラカシ林	E	1.0	暖温帯常緑広葉高木林
11 028	金鑽神社の社寺林	E	1.0	
11 033	八徳のアラカシ林	AE	0.8	
11 034	顔振峠のアカガシ林	CE	0.5	
11 035	富士浅間神社の社寺林	E	0.6	
11 037	大坐禪神社の社寺林	CE	0.5	
11 042	橋立鍾乳洞のウラジロガシ林	CD	0.5	
11 032	ブナ峠の森林	E	15.0	冷温帯夏緑広葉高木林
11 043	蟬指石灰岩地の森林	DH	1.5	
11 049	見返地蔵石灰岩地のブナ林	AD	3.0	
11 003	神明神社の社寺林	E	3.0	暖温帯夏緑広葉高木林
11 008	靴屋のコナラ林	E	0.5	
11 009	浦和市立病院付近の斜面林	EGH	1.5	
11 014	城山のコナラ林	E	1.5	
11 057	イワシモツケ群落	BDGH	0.1	亜寒帯夏緑広葉低木林
11 050	チチブミネバリ林	BDG	0.1	冷温帯夏緑広葉低木林
11 052	チチブミネバリ林	BDGC	0.1	暖温帯夏緑広葉低木林
《千葉》				
12 003	香取神社の森	EF	3.5	暖温帯植生
12 006	竜福寺の森	E	2.0	
12 012	小御門神社の森	F	2.5	
12 014	松尾浅間神社の森	E	1.0	
12 026	鷲山寺の森林	E	25.0	
12 031	勝浦八坂神社の森	E	3.0	
12 032	興津城跡の自然	E	80.0	
12 033	古利根沼岸群落	H	200.0	
12 039	二宮神社の森	E	0.5	
12 041	鷺沼古峯神社の森	E	0.5	
12 042	稲毛浅間神社の森	E	0.2	
12 043	大金沢の樹林	E	8.0	
12 046	高滝神社の森	E	3.0	
12 047	浅間山の森	E	10.0	
12 048	野々塚の自然	A	8.0	
12 049	筒森国有林の樹林	A	55.0	
12 053	三石山森林群落	H	3.5	
12 057	上植野の自然	E	126.0	
12 062	鎌ヶ谷郷土の森	F	3.0	
12 066	高岩山付近の森	E	130.0	
12 067	大塚山の自然	E	80.0	
12 074	浮島の植生	A	5.0	
12 080	神余城跡の森	E	7.0	
12 082	沖の島の植生	D	3.5	
12 087	金山ダム周辺の自然	A	350.0	
12 052	清澄山の森林	A	300.0	暖温帯常緑針葉高木林
12 054	元清澄山のモミーツガ林	A	100.0	
12 055	ヒメコマツ-ヒカゲツツジ群落	C	100.0	
12 001	渡海神社の森	A	1.0	暖温帯常緑広葉高木林
12 005	猿田神社の森	E	1.0	
12 010	神崎神社の森	E	1.1	
12 013	麻賀多神社の森	E	1.0	
12 015	浪切不動の森	E	0.5	
12 019	善勝寺の森	E	0.2	
12 024	軍荼利山の森	A	3.8	
12 025	一宮権現森	E	0.1	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《千葉》</b>				
12 027	八幡山の森	E	1.5	暖温帯常緑広葉高木林
12 028	妙楽寺の森	E	11.0	
12 029	臼井城跡のシイ林	A	10.0	
12 037	七百余所神社の森	E	0.5	
12 038	神明社の森	A	1.5	
12 040	船橋八坂神社の周辺の森	E	2.0	
12 044	権現の森	E	1.0	
12 045	笠森寺の森	A	7.3	
12 050	大福山の森	A	2.0	
12 056	内浦山の森	E	200.0	
12 058	誕生寺の森	A	2.5	
12 060	金山、浅間神社の森	A	1.0	
12 063	松戸浅間神社の森	A	1.0	
12 064	国府台、真間山の自然林	A	7.0	
12 070	大山のバクチノキ群生地	C	2.0	
12 071	石堂寺の森	E	2.0	
12 072	丸城跡の森	E	3.0	
12 073	鋸山の森林	A	3.0	
12 075	富山の植生	A	10.0	
12 076	那古寺の森	E	3.0	
12 078	高塚山の森林	C	5.0	
12 081	鷹の島の森	A	2.0	
12 083	安房神社の森	A	5.0	
12 084	小原の自然	A	0.3	
12 085	早物の自然	A	1.0	
12 086	洲崎神社の森	A	1.0	
12 079	白浜の自然(城山)	F	29.4	常緑広葉高木植林
12 036	佐倉城跡の自然	F	30.0	暖温帯夏緑広葉高木林
12 051	梅ヶ瀬溪谷の自然	E	350.0	
12 059	マルバチシャノキ群落	C	0.1	
12 061	カタクリ群生地	G	0.6	
12 077	崖地植生群落(ヒロハドウダンツツジ群落)	C	20.0	
12 030	部原の海岸林	D	0.5	暖温帯常緑広葉低木林
12 035	葛兵衛沼付近のオニバス群生地	D	4.0	浮葉・沈水植物群落
12 004	図能の湿生植物群落	D	20.0	湿地植生
12 011	湿地植物群落	D	5.0	
12 016	成東食虫植物群生地	D	1.5	
12 022	一宮川川口の塩湿地群落	D	17.5	
12 023	八積のカモノハシ群落	D	0.9	
12 002	犬若海岸崖地植生	C	2.0	海浜植生
12 007	八日市場のハマハナヤスリ群落	B	2.0	
12 008	九十九里浜北部の砂丘群落	D	3.6	
12 009	九十九里浜の中央北部の砂丘群落	D	75.0	
12 018	九十九里地区の植生・ハマナシ群生地	C	0.0	
12 020	九十九里町のハマニンニク群落	H	6.0	
12 021	長生村一松の砂丘群落	D	8.0	
12 065	小櫃川川口の塩湿地群落	D	43.0	
12 068	富津の海岸草原	G	4.5	
12 069	佐貫の海岸風衝群落	D	10.0	
<b>《東京》</b>				
13 060	檜原南部の落葉広葉二次林	H	700.0	植生一般
13 002	六義園のスダジイ林	F	6.0	暖温帯植生
13 004	学習院大学構内のスダジイ林など	A	6.0	
13 005	新宿御苑の常緑広葉樹林	F	15.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《東京》				
13 006	明治神宮の樹林	F	60.0	暖温帯植生
13 013	自然教育園のスダジイ林	AF	20.0	
13 041	多摩弾薬庫跡の樹林	EF	150.0	
13 043	七国山保全地域のクヌギ-コナラ林など	EG	10.6	
13 049	東豊田保全地域のクヌギ-コナラ林など	EG	6.0	
13 053	八王子城址のモミ林など	AF	7.5	
13 054	高尾山の自然林とスギ林	ACEF	480.0	
13 073	利島宮塚山のスダジイ林など	A	42.3	
13 064	雲取山周辺の亜高山帯針葉樹林	A	150.0	亜寒帯常緑針葉高木林
13 059	御岳山のモミ-ツガ林	A	3.0	冷温帯常緑針葉高木林
13 061	月夜見峠周辺のモミ林	A	6.0	
13 001	浜離宮恩賜庭園のタブノキ林	F	15.6	暖温帯常緑広葉高木林
13 003	名主の滝付近一帯の崖線のスダジイ林	A	3.0	
13 007	府中稲荷神社の樹林	A	0.2	
13 010	小金井滄浪泉園の樹林	EF	1.0	
13 011	高輪東禅寺のアカガシ林とシラカシ林	A	1.0	
13 012	清泉女子大学構内(旧島津邸)の常緑広葉樹林	F	1.7	
13 015	池上本門寺のスダジイ-アカガシ林	A	5.0	
13 016	等々力溪谷のシラカシ-ケヤキ林	A	5.5	
13 018	府中崖線中部の残存自然林	A	0.3	
13 019	国分寺崖線のケヤキ-シラカシ林	A	1.0	
13 039	八王子川口八幡神社のシラカシ林	A	0.1	
13 045	百草八幡のスダジイ林	A	1.5	
13 046	多摩丘陵脚部のケヤキ-シラカシ林	A	3.0	
13 047	八王子別所蓮生寺の樹林	A	0.3	
13 050	八王子中山の白山神社樹林	A	2.2	
13 052	町田市鍛冶谷のスダジイ林	A	0.1	
13 065	大島波浮のスダジイ林	A	11.5	
13 066	大島動物公園付近のスダジイ林	A	11.8	
13 067	大島泉津のスダジイ林	A	5.8	
13 068	大島シイノキ山スダジイ林	A	0.5	
13 070	大島大宮神社のスダジイ林	A	1.5	
13 072	利島阿豆佐和気命神社のタブ林	A	0.3	
13 074	新島宮塚山のスダジイ林	A	44.3	
13 075	新島大三山の常緑広葉樹林	A	19.0	
13 078	神津島北部のスダジイ林	A	445.0	
13 081	神津島高処山のスダジイ林	A	54.0	
13 082	神津島前浜背後のスダジイ林	A	16.0	
13 083	三宅島推取神社のスダジイ林	A	3.5	
13 085	三宅島大池池周辺のスダジイ林・タブ林	A	37.0	
13 087	三宅島富賀神社のタブ林	A	3.0	
13 088	御蔵島の原生林	A	1200.0	
13 091	八丈島三原山の常緑広葉樹林	A	84.0	
13 092	八丈島神止山のスダジイ林	A	36.0	
13 093	八丈島護神山のスダジイ林	A	2.0	
13 094	八丈島西山のタブ-ヤブニッケイ林	A	21.0	
*13 097	三宅島満願寺のスダジイ林	A	1.7	
*13 098	三宅島若宮神社のタブ林	A	2.6	
13 090	御蔵島のツゲ林	BF	1.0	常緑広葉高木植林
13 062	三頭山のブナ林を主とした自然林	A	80.0	冷温帯夏緑広葉高木林
13 063	日原川上流域の落葉広葉自然林	A	4000.0	
13 008	府中浅間山のムサシノキスゲ群	C	0.9	暖温帯夏緑広葉高木林
13 009	府中浅間山の雑木林	EG	9.0	
13 021	府中崖線西部の残存自然林	A	0.3	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《東京》				
13 022	玉川上水兩岸の樹林帯	E	31.0	暖温帯夏緑広葉高木林
13 023	狭山丘陵のハンノキ林	AB	1.5	
13 024	狭山丘陵の二次林	EG	600.0	
13 027	海道緑地保全地域のクヌギコナラ林など	EG	8.1	
13 029	八王子小宮公園用地のクヌギハンノキ林	AB	1.9	
13 030	八王子梅坪谷地川畔のケヤキ林	A	0.4	
13 048	八王子別所長池のハンノキ林	AB	0.1	
13 051	八王子横川刀匠林のケヤキ林	A	1.2	
13 056	多摩川上中流河岸断崖のケヤキシラカシ林	A	27.5	
13 057	八王子上川今熊神社のモミイヌブナ林	A	1.1	
13 058	上恩方竜蔵神社のモミイヌブナ林	A	0.2	
13 020	武蔵野のケヤキシラカシ屋敷林	EF	3.5	夏緑広葉高木植林
13 077	式根島クロマツ風衝低木林	D	41.5	暖温帯常緑針葉低木林
13 079	神津島天上山の常緑広葉低木林	A	178.0	暖温帯常緑広葉低木林
13 055	日原付近の石灰岩地植生	D	100.0	冷温帯夏緑広葉低木林
13 089	御蔵島御山の風衝草原	D	100.0	暖温帯ササ原
13 095	八丈島西山のシマノガリヤス群落	D	23.0	暖温帯単子葉草本草原
13 069	大島三原山の火山草原	D	780.0	火山荒原植生
13 084	三宅島雄山の火山草原	D	49.0	
13 080	神津島天上山の湿地植物群落	D	2.0	湿地植生
13 096	八丈島西山の湿地植物群落	D	1.0	
13 017	多摩川猪方の三紀層露頭地帯の河辺植生	D	7.0	河辺植生
13 026	多摩川多摩大橋下流の河辺植生	D	68.5	
13 028	多摩川拝島橋付近の河辺植生	D	47.5	
13 031	多摩川昭和用水堰下の河辺植生	D	22.5	
13 032	多摩川五日市線鉄橋下流河川敷の小池沼群生地	D	16.5	
13 033	多摩川羽村大橋下流のカワラノギク群落など	BD	28.5	
13 034	多摩川羽村堰下のカワラノギク群落など	BD	1.5	
13 036	北浅川上流部のカワラノギク群落	BD	6.0	
13 042	多摩川関戸橋下流の河辺植生	BD	14.0	
13 044	多摩川、浅川合流点付近の河辺植生	BD	52.5	
13 014	六郷低水敷の汽水帯植物群落	D	36.4	海浜植生
13 071	大島湯の浜の海岸砂丘植生	D	1.6	
《神奈川》				
14 027	大山の原生林	A	16.4	植生一般
14 090	箱根外輪山の雑木林	AE	43.9	冷温帯植生
14 011	天神島の塩生植物群落	BD	0.0	暖温帯植生
14 076	八幡神社の社叢林	E	0.5	
14 081	石橋尾神社の社叢	EH	0.5	
14 083	寄の溪谷林	AD	17.0	
14 087	谷ヶ平山の山地林	AE	21.3	
14 028	札掛のモミ林	A	100.0	暖温帯常緑針葉高木林
14 055	奥湯河原のモミ林	A	200.0	
14 078	経ヶ岳の自然林	E	3.0	
14 048	大雄山の杉林	D	26.0	常緑針葉高木植林
14 068	中里のカタクリ群落	B	0.0	
14 080	寒川神社の社叢	E	0.2	
14 002	東高根のシラカシ林	E	2.8	暖温帯常緑広葉高木林
14 005	白山神社の社叢林	E	0.0	
14 006	観音崎のイノデータブ群集	A	0.2	
14 007	叶神社の社叢林	A	6.3	
14 008	愛宕山のイノデータブ群集	A	0.3	
14 009	神武寺の常緑広葉樹林	A	5.0	
14 015	大和のシラカシ林	A	0.2	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《神奈川》</b>				
14 016	浄見寺の寺林	D	0.7	暖温帯常緑広葉高木林
14 018	江ノ島の常緑広葉樹林	A	0.3	
14 020	八幡神社の社叢林	D	1.0	
14 021	高麗山の常緑広葉樹林	A	10.9	
14 022	鷹取山の社叢林	A	0.0	
14 046	早雲寺の社叢林	A	1.0	
14 047	塔之沢の常緑広葉樹林	A	0.5	
14 049	宮ノ下の常緑広葉樹林	A	0.2	
14 051	諏訪神社の常緑広葉樹林	E	0.0	
14 066	真鶴半島の常緑広葉樹林	F	0.0	
14 067	山神の樹叢	A	90.0	
14 071	大松寺林	EH	1.2	
14 072	五霊神社周辺の樹林	E	0.4	
14 073	白髭神社の社叢林	DE	0.4	
14 075	油壺の樹林	DE	3.0	
14 077	八菅山神社の森	E	1.0	
14 086	三島社の社叢林	E	0.4	
14 089	県立小田原高等学校の樹叢	E	1.0	
*14 092	池田町のスダジータブノキ林	A	0.0	
*14 093	逗子市池子のスダジイ林	A	0.6	
*14 095	黒川のシラカシ林	A	0.0	
*14 099	怒田のシラカシ林	A	0.0	
*14 100	御嶽神社のスダジイ林	A	3.0	
14 023	大室山のオオモミジガサープナ群集	A	30.0	冷温帯夏緑広葉高木林
14 024	大室山のヤマボウシープナ群集	A	100.0	
14 025	加入道山のオオモミジガサープナ群集	A	10.0	
14 026	加入道山のヤマボウシープナ群集	A	50.0	
14 029	丹沢山塊のシオジ林	A	100.0	
14 030	塔ヶ岳のヤマボウシープナ群集	A	400.0	
14 031	丹沢山のオオモミジガサープナ群集	A	100.0	
14 032	丹沢山のヤマボウシープナ群集	A	1600.0	
14 035	棚沢のオオモミジガサープナ群集	A	50.0	
14 037	蛭ヶ岳のアズマザサープナ群落	A	25.0	
14 038	蛭ヶ岳のオオモミジガサープナ林	A	200.0	
14 040	鍋割山のオオモミジガサープナ群集	A	25.0	
14 041	鍋割山のイヌブナ林	A	80.0	
14 042	犬越路のヤマボウシープナ群集	A	200.0	
14 043	畦ヶ丸山のヤマボウシープナ群集	A	500.0	
14 054	大観山のブナ林	A	20.0	
14 060	台ヶ岳のブナ林	A	45.0	
14 064	芦ノ湖畔の落葉広葉樹林	A	20.0	
14 065	箱根神社のヒメシャラ純林	AC	0.4	
14 003	生田の雑木林	D	50.0	暖温帯夏緑広葉高木林
14 004	大岡のイロハモミジヶヤキ群集	E	0.5	
14 010	鎌倉のヶヤキ林	A	0.0	
14 045	山崎のヶヤキ林	A	6.0	
14 050	早川の溪谷林	E	1.0	
14 069	三ヶ木のカタクリ群落	B	0.0	
14 079	仏果山の自然林	E	5.0	
14 082	牧馬の夏緑広葉樹林	E	21.5	
14 084	養毛の溪谷林	AE	4.1	
*14 094	生田のハンノキ林	AG	0.0	
*14 096	黒川のコナラ雑木林	E	0.0	
*14 097	三増のヶヤキ林	AGH	0.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《神奈川》</b>				
*14 098	三増峠のコナラ林	E	0.0	暖温帯夏緑広葉高木林
14 044	勝福寺、八幡神社の樹叢	E	6.8	夏緑広葉高木植林
14 039	鍋割山山頂の低木林	D	1.0	冷温帯夏緑広葉低木林
14 052	二子山の風衝低木群落	DG	98.0	
14 056	金時山の風衝低木群落	D	0.1	
14 061	箱根中央火口丘のムラサキツリガネツツジ	BG	100.0	
14 062	箱根中央火口丘のサンショウバラの自生地	BH	60.0	
14 091	吉浜の風衝低木林	AD	32.2	
14 057	箱根外輪山のハコネダケ群落	H	90.0	冷温帯ササ原
14 033	不動ヶ峰の風衝草原	D	0.0	冷温帯広葉草原
14 058	箱根仙石原湿原植物群落	E	20.0	暖温帯単子葉草本草原
14 085	皆瀬川野蛇石の溪谷植物群落	B DG	0.5	草本シダ群落
14 034	丹沢山塊のフジアザミ群落	BD	0.2	岩上、多隙地草本植生
14 036	鬼ヶ岩の岩上植生	BD	0.0	
14 088	箱根明星ヶ岳東斜面の植物	D	22.7	
14 063	湯の花沢のミズギ群落	C	0.3	火山荒原植生
14 053	お玉が池の湿地植生	D	0.1	湿地植生
14 059	仙石原のススキ草原	D	12.0	
14 017	相模川の河辺植生	D	800.0	河辺植生
14 001	多摩川口の塩生植物群落	D	0.2	海浜植生
14 012	鎌倉の海岸断崖植物群落	D	0.2	
14 013	三浦半島の海浜植生	D	0.0	
14 019	湘南海岸の砂丘上草本植物群落	D	6.0	
14 070	長浜の海岸砂丘植生	D	3.9	
14 074	三戸浜周辺の海岸植物群落	D	5.0	
<b>《新潟》</b>				
15 030	郡殿の池の湿生植物群落	D	0.7	亜熱帯植生
15 041	苗場山小松原のオオシラビソ林	A	25.0	亜寒帯常緑針葉高木林
15 057	黒沢岳のオオシラビソ林	A	65.0	
15 005	土井コウヤマキ	BC	1.0	冷温帯常緑針葉高木林
15 018	狙倉山の天然スギ	A	300.0	
15 049	金谷山のアカマツ林	E	0.7	
15 069	小杉立の天然スギ	A	17.0	
15 070	大倉のアスナロ林	F	5.0	
15 058	笹ヶ峰のドイツトウヒ林	F	4.5	常緑針葉高木植林
15 002	宮堅八幡宮のタブ林	A	1.8	暖温帯常緑広葉高木林
15 032	御島石部神社のスダジイ林	AGH	1.5	
15 035	宮川神社のシロダモ林	AGH	0.5	
15 043	笠島のタブ林	AGH	0.0	
15 044	胞姫神社のシロダモ林	AGH	0.3	
15 060	能生白山神社のアカガシ林	AGH	0.3	
15 063	諏訪神社のタブ林	AGH	1.5	
15 064	白ひげ神社のタブ林	AGH	1.5	
15 065	玉ノ木のアカガシ林	A	0.8	
15 068	熊野神社のタブ林	AG	0.6	
15 075	豊岡のビワ林	B	0.5	
15 076	長谷寺のウラジロガシ林	AG	0.2	
15 077	赤泊のウラジロガシ林	A	1.0	
15 083	相川のスダジイ林	A	0.2	
15 084	大安寺のスダジイ林	A	0.2	
15 085	尾平神社のタブ林	AG	1.0	
15 086	二見神社のスダジイ林	AG	0.4	
15 087	西三川のヤブツバキ林	EG	0.2	
15 088	西三川のアカガシ林	A	0.1	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《新潟》				
*15 097	滝ノ前のタブノキ林	A	1.0	暖温帯常緑広葉高木林
*15 126	秋葉神社のタブノキ林	AG	0.8	
*15 131	小佐渡北端のスダジイ林	AC	7.5	
15 001	鳴海山のブナ林	A	60.0	冷温帯夏緑広葉高木林
15 003	飯豊山ブナ林	A	25.0	
15 007	臥牛山の落葉広葉樹林	E	0.0	
15 011	宮久のハンノキ林	G	0.7	
15 012	椽平のサクラ樹林	A	117.6	
15 013	二王子山麓のヤマモミジ群落	EF	20.0	
15 019	きりん山のユキツバキ群落	E	60.0	
15 022	守門岳のブナ林	AEG	300.0	
15 031	八箇峠のミズナラ林	E	9.0	
15 033	小木ノ城のケヤキ林	AGH	0.5	
15 036	川西町のブナ林	AEH	4.5	
15 038	中津川のヤナギ林	A	1.0	
15 039	苗場山小松原のブナ林	A	25.0	
15 047	菱ヶ岳のブナ林	AG	50.0	
15 050	権現岳のホンシャクナゲ群落	GE	0.0	
15 051	池の平のシラカンバ林	A	0.0	
15 053	神奈山のブナ林	AG	200.0	
15 059	笹ヶ峰のサワグルミ林	AGH	0.5	
15 071	和木川のサワグルミ林	A	1.0	
15 073	佐渡のヤマトグサ	B	0.0	
15 074	杉池のコナラ林	A	10.0	
15 078	北岳のブナ林	A	2.0	
15 093	宝珠山のブナ林	A	89.5	
*15 095	宮堅八幡宮のシナノキ林	A	0.1	
*15 096	八坂神社の夏緑広葉樹林	AC	5.0	
*15 100	日枝神社のアベマキ林	FH	2.7	
*15 102	菅名岳のブナ・ユキツバキ群落	AE	200.0	
*15 103	菅名岳のカツラ林	ABH	20.0	
*15 105	日尊の倉山周辺のブナ林	A	400.0	
*15 114	見倉のトチノキ林	A	18.0	
*15 115	見倉の風穴植生	D	1.0	
*15 119	大瀧のハンノキ林	G	3.0	
*15 122	不動山のアカシデ林	A	2.0	
*15 123	八十八ヶ所の夏緑広葉樹林	AE	3.0	
*15 130	安養寺のブナ林	AH	0.4	
*15 133	小川のシナノキ・エゾイタヤ林	AG	3.0	
15 008	岩船神社のヤブツバキ林	AE	0.8	暖温帯夏緑広葉高木林
15 010	桃崎浜のアベマキ林	CF	0.0	
15 016	滝沢の落葉広葉樹林	A	3.0	
15 025	椿谷のケヤキ林	A	0.4	
15 034	宮川神社のカシワ林	AGH	0.3	
15 037	黒滝のアカシデ林	A	0.2	
15 020	小山田のヒガンザクラ	F	0.5	夏緑広葉高木植林
*15 121	火打山の高山低木群落	D	8.0	亜寒帯常緑針葉低木林
*15 132	片野尾弁天岬のネズ林	D	4.0	暖温帯常緑針葉低木林
15 072	ドンデン山のハクサンシャクナゲ群落	EG	100.0	冷温帯常緑広葉低木林
*15 129	犬ヶ岳・白鳥山の自然低木林	A	225.0	
15 081	小川のマルバシャリンバイ群落	BH	0.4	暖温帯常緑広葉低木林
15 006	岩ヶ崎のカシワ林	AG	1.0	冷温帯夏緑広葉低木林
15 029	魚沼地方のなだれ低木林	E	3.0	
15 079	達者のカシワ	A	0.5	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《新潟》</b>				
15 094	権現堂山、唐松山のアズマシクナゲ	G	68.7	冷温帯夏緑広葉低木林
*15 127	権現山のフサザクラ群落	C	14.0	暖温帯夏緑広葉低木林
15 028	蓬平のニッコウキスゲ群落	CD	1.4	冷温帯広葉草原
15 027	間瀬のツボクサ群落	C	1.0	暖温帯広葉草原
15 066	大野亀のトビシマカンゾウ群落	BE	30.0	冷温帯単子葉草本草原
15 061	マイコミ平、ドリーネの植物群落	D	1.0	草本シダ群落
*15 101	狼ヶ城岩のシダ植物群落	C	8.0	
15 092	御神楽岳のヒメサユリ	BD	405.0	岩上、多隙地草本植生
15 091	羽茂のマダケ林	F	5.0	タケ形林
15 017	福島潟の沼沢植物群落	D	120.0	浮葉・沈水植物群落
15 021	ヒメタヌキモ	BC	18.0	
15 024	佐潟のオニバス群落	BCD	50.0	
15 046	長峯池の水生植物群落	D	20.0	
*15 106	十二潟の水生物群落	D	6.0	
*15 113	鱒池のミズドクサ群落	DG	4.0	
*15 117	朝日池の水生物群落	D	80.0	
*15 118	小苗代池の水生物群落	DE	3.3	
15 004	飯豊山のイイデリンドウ	DE	0.5	高山荒原植生
*15 111	巻機山の雪田草原	D	0.0	雪田植生
15 015	本田山の湿原植物群落	DEG	0.5	湿地植生
15 040	苗場山小松原の湿原植物群落	D	30.0	
15 042	苗場山頂の湿原植物群落	D	20.0	
15 048	沼の湿生草原	D	25.0	
15 052	いもり池の湿原	D	0.5	
15 055	高谷池の湿原植物群落	D	1.5	
15 062	白馬岳、カモシカ平の湿原植物群落	D	0.1	
15 067	北小浦の湿原植物群落	D	0.1	
15 080	乙和池の湿生植物群落	DH	0.0	
*15 098	大池・中池の水生物群落	DG	4.0	
15 009	塩谷海岸の砂丘植生	DG	20.0	海浜植生
15 023	四ッ郷屋の砂丘植物群落	D	1.0	
15 026	バシクルモン群落	B	0.3	
15 045	頸城海岸の砂丘植物群落	D	200.0	
15 082	相川の塩湿地植物群落	D	0.0	
15 089	素浜の砂丘植物群落	D	10.0	
15 090	素浜のネコノシク	BG	3.0	
*15 099	桃崎浜の砂丘植生	DG	20.0	
15 056	妙高山のチシマザサ群落	A	35.0	亜寒帯ササ原
15 054	妙高、火打山のミョウコウトリカブト	B	0.5	亜寒帯単子葉草本草原
*15 104	野村のモミ	H	2.0	個体(群)
*15 107	福山新田のザゼンソウ	DG	4.0	
*15 108	弥彦山のスハマソウ	EG	0.2	
*15 109	釜沢のミズバショウ	DG	20.0	
*15 110	原虫野新田のザゼンソウ	DG	2.0	
*15 112	西山丘陵のナツツバキ群落	CG	3.0	
*15 116	坂田新田のミズワラビ	G	2.0	
*15 120	桑取のタイミンガサ	C	0.0	
*15 124	頭山のカミガモシダ	C	0.1	
*15 125	寺地のザイフリボク	C	10.0	
*15 128	清水山のヨコグラノキ	C	1.0	
*15 134	小木の鬼の力持沢のコモチシダ群落	CGH	0.2	
<b>《富山》</b>				
*16 141	ミクリガ池のハイマツ群落	AE	10.0	亜寒帯植生
*16 146	東笠山の混性・風衝植物群落	AD	3.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《高山》</b>				
16	032 僧ヶ岳の風衝植生	C	5.0	冷温帯植生
*16	157 水無平の湿性植物群落	D	5.0	
16	133 虹ヶ島の暖地性植物	CH	0.1	暖温帯植生
16	005 朝日岳のオオシラビソ群落	AD	1.0	亜寒帯常緑針葉高木林
16	079 折立～太郎兵衛平のオオシラビソ群落	A	1.0	
16	084 薬師沢のウラジロモミ群落	AC	2.0	
*16	140 美松坂のオオシラビソ群落	AE	10.0	
*16	144 東沢谷出合のオオシラビソ群落	A	5.0	
16	033 黒雉川のツガ群落	A	0.5	冷温帯常緑針葉高木林
16	045 猿飛のツガ群落	A	0.5	
16	047 祖母谷のツガ群落	A	0.1	
16	058 美女平のスギ群落	A	5.0	
16	059 上の小平のクロベ群落	A	1.0	
16	060 上の小平のスギ群落	A	1.0	
16	061 上の小平のキタゴヨウ群落	A	1.0	
16	078 有峰のクロベ群落	A	0.1	
16	101 日尾御前自然林のスギ群落	A	2.0	
16	113 葎島のヒノキ群落	C	0.1	
*16	151 夫婦山のアシオスギ群落	A	1.0	
*16	153 祖父岳のアシオスギ群落	A	1.0	
*16	158 縄ヶ池のアシオスギ群落	A	5.0	
*16	164 大獅子山のヒノキ群落	A	1.0	
16	025 愛本のアカマツ～ユキツバキ群落	G	1.0	暖温帯常緑針葉高木林
16	136 戸津宮の父宮神社のモミ群落	E	0.2	
16	021 入善の杉沢のサワスギ群落	B	2.6	常緑針葉高木植林
16	092 浜黒崎のクロマツ群落	F	5.0	
16	087 高天原のカラマツ群落	D	0.1	夏緑針葉高木林
16	001 宮崎鹿島樹叢の天然林	A	2.4	暖温帯常緑針葉高木林
16	023 下山の宮のウラジログラン群落	A	0.1	
16	026 愛本のウラジログラン群落	A	1.0	
16	028 ウラジログラン群落	A	1.0	
16	054 大岩大松のウラジログラン群落	A	0.1	
16	093 寺家公園のアカガシ群落	A	3.2	
16	095 神通川片路峡のウラジログラン群落	A	1.0	
16	104 常楽寺のウラジログラン群落	A	3.0	
16	126 阿尾城趾のタブ～イノデ群落	A	0.0	
16	128 脇方のスダジイ～ヤブコウジ群落	A	0.1	
16	129 泊神明社のスダジイ～ヤブコウジ群落	A	0.3	
16	130 小境朝日神社のスダジイ群落	A	1.0	
16	131 小境夕日神社のヤブニッケイ群落	A	0.1	
16	132 大境のマサキ～トベラ群落	DH	0.0	
16	134 中波火神社のスダジイ～ヤブコウジ群落	A	0.0	
16	135 磯部神社のユズリハ群落	A	0.2	
*16	138 大海寺野のシロダモ群落	A	1.0	
*16	155 牛岳神社のウラジログラン群落	A	2.0	
*16	171 三千坊山のアカガシ群落	A	0.5	
16	085 祖父沢のオオバヤナギ群落	C	0.1	亜寒帯夏緑針葉高木林
16	086 立山カルデラ多枝原のオオバヤナギ群落	C	4.0	
16	003 イブリ山ブナ平のブナ群落	A	100.0	冷温帯夏緑針葉高木林
16	029 僧ヶ岳のユキツバキ群落	E	1.0	
16	030 宇奈月のトチノキ群落	E	0.5	
16	034 黒雉川のサワグルミ群落	E	0.5	
16	046 樺平のケヤキ群落	AG	0.5	
16	053 東福寺のミズナラ群落	H	0.1	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《高山》</b>				
16 055	流水池のヤチダモ群落	B	0.1	冷温帯夏緑広葉高木林
16 062	水谷のドロノキ群落	H	0.2	
16 075	白樺平のシラカバ群落	CG	1.0	
16 077	有峰のシラカバ群落	C	1.0	
16 097	片掛八坂神社のアカシデ群落	H	1.0	
16 099	蟹寺白山社のアサダ群落	H	0.1	
16 100	西加賀沢自然林のアサダ群落	A	0.1	
16 108	利賀山の神峠のブナ群落	A	2.0	
16 109	利賀山の神峠のトチノキ群落	A	1.0	
16 111	相の倉のブナ群落	A	2.0	
16 114	桂のオニグルミ群落	E	0.5	
16 115	赤祖父山自然林のブナ群落	A	5.0	
16 117	高落葉山のブナ群落	A	5.0	
16 118	医王山のミズナラ群落	E	3.0	
*16 139	ブナ坂のブナ群落	AE	20.0	
*16 142	立山カルデラ泥鰌池のオノエヤナギ群落	A	1.0	
*16 149	上行寺のミズナラ群落	A	3.0	
*16 150	深谷の湿性植物群落	D	0.5	
*16 154	牛岳のブナ群落	A	4.0	
*16 156	鍋谷のアカシデ群落	A	1.0	
*16 159	上梨のブナ群落	A	6.2	
*16 160	田向のミズナラ(カツラ)群落	A	5.0	
*16 163	西赤尾のブナ群落	A	2.0	
*16 165	ブナオ峠のサワグルミ群落	A	3.5	
*16 166	ブナオ峠のヤマハンノキ群落	A	2.5	
*16 167	小白谷のブナ群落	AE	0.5	
*16 168	俱利伽羅峠狼ヶ馬場のブナ群落	AE	0.3	
*16 170	二上山のブナ群落	A	0.5	
16 027	内山のアカシデ群落	A	1.0	暖温帯夏緑広葉高木林
16 051	窪野のアベマキ群落	F	0.5	
16 105	下条日の宮神社のアカシデ群落	A	0.1	
16 119	安居のアベマキ群落	E	0.4	
*16 169	石堤浅井神社のケヤキ群落	A	0.5	
*16 172	森寺城址のイヌシデ群落	A	0.5	
16 063	弥陀ヶ原ハッコウダゴヨウ～オオコメツツジ群落	B	10.0	亜寒帯常緑針葉低木林
16 067	みくりが池のミヤマネズ群落	D	0.1	
16 080	折立～太郎兵衛平のクロベ群落	A	0.2	
16 002	負釣山のアカミノイヌツゲ群落	AH	0.1	冷温帯常緑広葉低木林
16 096	神通峡のサツキ群落	C	0.1	暖温帯常緑広葉低木林
16 007	朝日岳のカラクサイノデ～ベニバナイチゴ群落	D	0.0	亜寒帯夏緑広葉低木林
16 066	奥大日岳のミヤマハンノキ～オオバユキザサ群落	D	0.1	
*16 161	人形山のサラサドウダン風衝低木群落	A	1.0	
16 039	旭岳のミヤマクワガタ～ウラジロタデ群落	D	0.1	亜寒帯広葉草原
16 074	浄土山のタテヤマアザミ～ホソバトリカブト群落	D	0.2	
16 076	折立峠のオオイトドリ群落	CH	0.1	冷温帯広葉草原
16 004	夕日ヶ原のミヤマドジョウツナギ～オクヤマワラビ群落	DH	0.0	草本シダ群落
16 044	白馬鍵のアオチャセンシダ群落	BC	0.0	
16 127	大境のコモチシダ群落	DH	0.0	
16 038	旭岳のシコタンソウ群落	BC	0.0	岩上, 多隙地草本植生
16 057	剣岳のシコタンソウ～シコタンハコベ群落	D	0.0	
16 070	真砂岳のミヤマクワガタ～ウラジロタデ群落	D	0.0	
16 083	太郎山のミヤマタネツケバナ群落	D	0.0	
16 090	水晶岳のクモマグサ群落	B	0.0	
16 094	猿倉山の乾性植物群落	D	1.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《高山》				
16 107	利賀上百瀬のフジアザミ群落	DC	0.0	岩上, 多礫地草本植生
*16 137	僧ヶ岳の石灰岩植物群落	BD	0.0	
*16 152	布谷のイワタバコ群落	BD	0.1	
16 009	雪倉岳のウルップソウ群落	CD	0.0	高山荒原植生
16 010	雪倉岳のオヤマソバ群落	D	0.0	
16 011	雪倉岳のミヤマムラサキ群落	D	0.1	
16 012	雪倉岳のムカゴトランオ群落	D	0.1	
16 013	雪倉岳のクモミミナグサ〜コバノツリクサ群落	BC	0.0	
16 014	鉢岳のチョウノスケ群落	BC	0.0	
16 015	鉢岳のコマクサ群落	CD	0.0	
16 016	白馬岳のクロマメノキ群落	D	0.0	
16 018	白馬岳のツクモグサ群落	CD	0.0	
16 019	白馬岳のイワベンケイソウ群落	D	0.0	
16 020	白馬岳のウルップソウ群落	CD	0.0	
16 036	清水岳のコマクサ群落	D	0.0	
16 037	清水岳のクモミミナグサ〜コバノソメクサ群落	BC	0.0	
16 040	旭岳のジムカデ〜イワヒゲ群落	D	0.0	
16 041	白馬麓のツクモグサ群落	D	0.1	
16 043	白馬麓のハゴロモグサ群落	CD	0.0	
16 049	天狗山のレンゲイワヤナギ群落	BD	0.0	
16 073	一の越のチョウノスケソウ群落	B	0.0	
16 082	薬師岳のコメバツガザクラ〜ミネズオウ群落	D	0.0	
16 089	水晶岳のチョウノスケソウ群落	B	0.0	
16 091	水晶岳のイワウメ群落	D	0.0	
*16 143	野口五郎岳(三ツ岳)のコマクサ群落	ABC	0.0	
16 006	朝日岳のタテヤマキンバイ群落	D	0.0	雪田植生
16 008	朝日岳のハクサンオオバコ群落	DH	0.0	
16 017	白馬岳のツガザクラ群落	D	0.0	
16 031	僧ヶ岳のタテヤマスキ群落	C	0.1	
16 035	清水岳のナンキンコザクラ群落	BC	0.0	
16 042	白馬麓のミヤマタネツケバナ群落	D	0.1	
16 068	真砂谷のアオノツガザクラ群落	D	0.2	
16 069	内蔵助沢のタカネヤハズハハコ〜アオノツガザクラ群落	D	0.1	
16 071	浄土沢のミヤマイ〜ヒロハノコメススキ群落	D	0.0	
16 072	一の越のタテヤマキンバイ群落	B	0.0	
16 048	餓鬼の田圃のヤチスゲ群落	B	0.1	湿地植生
16 052	片貝谷池尻の池のミズバショウ群落	H	0.1	
16 056	つばら池浮島の植物群落	DH	0.0	
16 064	弥陀ヶ原の池塘の植物群落	D	0.0	
16 065	畜生平の池塘の植物群落(ヤチカワズスゲ群落)	D	0.0	
16 081	折立〜太郎兵衛平のヒメシャクナゲ群落	C	2.0	
16 088	高天原のダケスゲ群落	D	0.0	
16 102	白木峰の池塘の植物群落	D	1.0	
16 103	小白木峰のヒメシャクナゲ群落	CD	0.0	
16 106	利賀中村のミズゴケ群落	D	0.2	
16 110	猫池の浮島の植物群落	D	0.0	
16 116	縄ヶ池のミズバショウ群落	D	1.0	
16 120	興法寺の湿性植物	D	0.0	
16 124	十二町瀧のウキヤガラ群落	D	0.0	
*16 145	祐延湖の湿性植物群落	D	3.0	
*16 148	綿打池の沼沢植物群落	D	4.0	
*16 162	小瀬池の平の湿地植物群落	D	0.5	
16 022	黒部川原のカワラハハコ群落	E	0.5	河辺植生
16 024	黒部川原のアキグミ群落	E	4.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《富山》				
16 123	鳥尾の海浜植物群落	D	5.0	海浜植生
*16 147	山本熊野社のユズリハ群落	A	0.1	個体(群)
《石川》				
17 076	目附谷、ブナ林	A	40.0	冷温帯植生
17 050	白山、アオモリトドマツ林	AD	870.0	亜寒帯常緑針葉高木林
17 008	白滝、ヒノキアスナロ林	C	1.0	冷温帯常緑針葉高木林
17 046	犀川源流地域、クロベ-ヒメコマツ林	AE	20.0	
17 048	白山蛇谷、クロベ-ヒメコマツ林	D	100.0	
17 078	大杉谷国有林、自生スギを含むブナ林	AG	5.0	
17 003	鉢崎、ハマドクサ生育地	DH	1.0	暖温帯常緑針葉高木林
17 011	打呂、ヒノキアスナロ林	C	5.0	
17 016	大峯神社、モミ林	AC	0.5	
17 019	松島、さざえ島、イワタイゲキ自生地	CD	0.1	
17 025	七海白山神社、モミ林	AE	0.4	
17 029	赤蔵山、カゴノキを含む社叢林	C	0.7	
17 036	柴垣、ハマオミナエシ自生地	BH	1.0	
17 089	安宅住吉神社、クロマツ林	AE	3.5	
*17 110	大泊八幡神社のクロマツ林	A	0.1	
*17 113	錦城山のモミ林	A	1.2	
17 034	須田、ハイネズ群生地	D	1.0	常緑針葉高木植林
17 001	須々神社スダジイ林	AE	3.0	暖温帯常緑広葉高木林
17 002	片姫神社、タブ林	AE	0.5	
17 004	高倉彦神社、スダジイ・タブ林(山王の森)	AE	0.5	
17 005	珠洲神社奥宮、アカガシ林	AE	3.0	
17 007	徳保八幡神社、タブ林(千本椿)	AE	1.0	
17 014	南志見住吉神社イヌシデ林	AE	0.2	
17 015	越坂、日吉神社スダジイ林	AE	0.2	
17 017	沖波諏訪神社、スダジイ林	AE	1.0	
17 018	加夫刀比古神社、スダジイ林	AE	2.0	
17 022	榎原北代比古神社、タブ林	AE	0.7	
17 023	輪島前神社、タブ林	AE	0.5	
17 028	唐島、タブ林	AE	0.7	
17 031	神代神社、スダジイ林	AE	0.4	
17 033	酒井、日吉神社、スダジイ林	AE	0.2	
17 035	椎葉円ひめ神社、タブ林	AE	1.0	
17 037	気多神社、タブ、スダジイ林	AE	3.0	
17 040	出雲神社、スダジイ林	AE	0.3	
17 041	甲斐崎神社、アカガシ林	AE	0.3	
17 042	医王山神社、ウラジロガシ林	AE	0.2	
17 056	滝神社、スダジイ林	AE	0.3	
17 058	鹿磯、菅原神社タブ林	AE	0.7	
17 059	関野鼻、千本椿	A	0.4	
17 060	藤懸神社、ケヤキ林	AE	1.2	
17 061	高爪神社、タブ、スダジイ林	AE	0.2	
17 062	鹿頭八幡神社、タブ、ケヤキ林	AE	0.2	
17 065	余地八幡神社、スダジイ林	AE	0.4	
17 066	多田八幡神社、スダジイ林	AE	0.2	
17 067	波自加弥神社、スダジイ林	AE	0.3	
17 068	大野湊神社、タブ、ケヤキ林	AE	0.5	
17 071	金剣宮、ウラジロガシ林	AE	0.5	
17 073	宮竹日吉神社、ウラジロガシ林	AE	0.2	
17 074	若宮八幡神社、ウラジロガシ林	AE	0.2	
17 079	観音下、スダジイ林	AE	2.0	
17 087	幡生神社、スダジイ林	AE	0.4	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《石川》				
17 088	津波倉神社、スダジイ林	AE	0.2	暖温帯常緑広葉高木林
17 090	出水神社、スダジイ林	AE	0.4	
17 092	赤瀬白山神社、ツクバネガシ林	AE	0.2	
17 094	馬場住吉神社、スダジイ・アカシデ林	AE	0.2	
17 095	滝ヶ原八幡神社、スダジイ林	AE	0.3	
17 096	横北白山神社、スダジイ林	AE	0.3	
17 098	長谷田白山神社、スダジイ林	AE	0.2	
17 099	上原白山神社、スダジイ林	AE	0.2	
17 102	鹿島明神社々叢（鹿島の森）	AE	3.0	
*17 103	笹波八幡神社のスダジイ林	A	0.1	
*17 105	杉平諏訪神社のウラジロガシ林	A	0.1	
*17 106	末吉日吉神社のスダジイ林	A	0.8	
*17 107	天日陰比め神社のアカガシ林	AE	0.5	
*17 109	刈安笠野神社のアカガシ林	A	0.4	
*17 111	櫻見八幡神社のウラジロガシ林	A	0.2	
*17 112	犬ノ沢八幡神社のタブ林	AE	0.2	
17 009	宝立山黒峰、ブナ林	AE	1.0	冷温帯夏緑広葉高木林
17 010	宝立山、ブナ林	AE	1.5	
17 032	石動山、ブナ林	AE	15.4	
17 039	御山神社、イヌシデ・ブナ林	AE	1.0	
17 044	犀川源流地域、ブナ林	AE	300.0	
17 045	犀川源流地域、ダケカンバ林	AE	35.0	
17 047	千丈平清水谷、ブナ林	A	580.0	
17 051	丸石谷、自生スギを含むブナ林	A	130.0	
17 070	菊水、ブナ林	AH	5.0	
17 082	鈴ヶ岳、ブナ林	AE	100.0	
17 083	チブリ尾根、ブナ林	AE	200.0	
17 084	チブリ尾根、サワグルミ林	AE	40.0	
17 093	杉ノ水川源流地域、サワグルミートチノキ林	AE	25.0	
17 100	サクライソウ自生地	B	0.0	
*17 108	押水町今浜のカシワ林	D	3.0	
17 012	打呂、ヨコグラノキ自生地	BC	3.0	暖温帯夏緑広葉高木林
17 013	柳田、白山神社、タブ林	AE	0.7	
17 027	水越島と大島、アカソガシワ林	H	0.7	
17 057	猿山、シナノキ、エゾイタヤ林	C	3.0	
17 072	佐野神社、ケヤキ林	E	0.2	
17 086	花坂、サクラバハハンノキ自生地	B	0.0	
17 091	赤瀬町、ヒョウガミズキ自生地	BC	0.3	
17 052	白山、ハイマツ低木林	D	450.0	亜寒帯常緑針葉低木林
17 026	大島（七尾北湾）、ハマナス群落	D	0.1	暖温帯夏緑広葉低木林
17 020	舳倉島、アカネムグラを含む草原	C	2.0	暖温帯広葉草原
17 021	大島（七ッ島）、ハマウド群落	C	5.0	
17 049	イワギク自生地	BH	0.5	岩上、多礫地草本植生
17 075	ムシトリスミレ自生地	CDG	0.0	
17 053	白山山頂部、風衝地植生	D	35.0	高山荒原植生
17 054	白山南竜ヶ馬場、ハクサンコザクラ雪田植物社会	D	10.0	雪田植生
17 055	白山南龍ヶ馬場、ショウジョウスゲーイワイチヨウ湿原	D	23.0	
17 024	輪島市下黒川、ミズバショウ群生地	CD	0.4	湿地植生
17 030	堀松・矢蔵谷、大津、食虫植物を含む湿地	D	0.5	
17 038	眉丈山、食虫植物を含む湿地	D	0.5	
17 043	医王山大沼、ムジナスゲ自生地	CD	0.1	
17 077	ヤチカワズスゲ湿原	DH	0.1	
17 080	大倉岳、ミズバショウ群生地	CD	0.2	
17 081	小松市横谷、ミズバショウ群生地	CD	1.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《石川》				
17 085	取立平、ミズバショウ群生地	C	0.1	湿地植生
17 006	シャク崎、海岸植物群落	D	1.0	海浜植生
17 063	海土岬、海岸植物群落	D	10.0	
17 064	上野、塩性植物群落	CD	2.0	
17 069	竹松砂丘、ハマナス群落	D	0.0	
17 101	塩屋一片野、ハマゴウ群落	D	10.0	
*17 104	岩倉山のマルバマンサク群落	H	2.5	個体(群)
《福井》				
18 025	冠平(冠山)の風衝地	A	1.0	冷温帯植生
18 057	一ッ谷国有林の暖地性植物	C	3.0	暖温帯植生
18 056	名田庄村大滝のコヤマキ林	G	0.2	冷温帯常緑針葉高木林
18 058	頭巾山のホンシャクナゲ群落	G	0.5	
*18 062	仏峠の県境附近のヒノキ林	C	0.5	
*18 082	八ヶ峰のアカマツ自然林	F	1.0	
18 028	広野神社社叢のアカマツ林	E	0.5	暖温帯常緑針葉高木林
*18 074	門ヶ崎のクロマツ林	A	0.0	
18 011	平泉寺のスキ林	E	25.0	常緑針葉高木植林
18 013	六呂師のハクウンラン生育地	B	5.0	
*18 094	三頭山のスキ林	F	200.0	
*18 091	法恩寺山のカラマツ林	F	1.0	夏緑針葉植林
18 019	春日神社社叢のスダジイ林	A	1.1	暖温帯常緑広葉高木林
18 029	雄島の暖地性常緑広葉樹林	A	10.2	
18 032	春日神社社叢のタブノキ林	A	0.5	
18 038	天筒山のスダジイ林	A	1.5	
18 044	宇波西神社のスダジイ林	A	0.3	
18 045	御神島のスダジイ林	A	40.0	
18 046	常神半島のスダジイ林、ダブ林	A	1.0	
18 047	神子神社のタブノキ林	A	0.2	
18 048	鳥辺島のスダジイ林	A	1.0	
18 049	若狭姫神社のタブ林	A	0.0	
18 050	冠者島の常緑広葉樹林	A	0.5	
18 051	黒駒神社社叢のスダジイ林	A	1.0	
18 052	黒駒神社社叢のスダジイ林	A	0.5	
18 053	鷹島の暖地生原生林	A	4.0	
18 054	伊装諾神社社叢のスダジイ林	A	0.5	
*18 075	小川神社社叢のスダジイ林	A	0.5	
*18 076	熊野神社社叢のツクバネガシ林	A	0.5	
*18 077	大戸神社社叢のスダジイ林	A	0.4	
*18 078	久須夜神社社叢のスダジイ林	A	0.5	
*18 079	大島半島先端附近のスダジイ林	A	1.0	
*18 080	天満神社社叢のスダジイ林	A	0.2	
*18 081	音海のスダジイ林	A	0.5	
*18 083	杉森神社のウラジロガシ社叢	A	0.5	
*18 085	岩屋観音のウラジロガシ林	E	0.0	
*18 087	ガラガラ山のヤブニッケイ林	A	30.0	
*18 096	越廼村ガラガラ山のヤブニッケイ林	A	2.0	
18 030	東尋坊附近の海岸断崖荒原	D	1.0	常緑広葉高木植林
18 001	クロンボ平のダケカンバ林	A	1.0	冷温帯夏緑広葉高木林
18 002	毘沙門岳のブナ林	A	0.5	
18 003	田茂谷のブナ林	A	5.0	
18 004	油坂峠附近のブナ林	A	1.0	
18 007	赤鬼山のブナ林	A	150.0	
18 008	経ヶ谷のブナ林	A	25.0	
18 009	刈込池周辺のブナ林	A	30.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《福井》</b>				
18 010	刈込池周辺のサウグルミ林	A	20.0	冷温帯夏緑広葉高木林
18 014	鬼亀山のシラカンバ林	A	0.1	
18 015	下打波のトチノキ林	A	50.0	
18 016	湯上のブナ林	A	2.5	
18 017	荒島岳のブナ原生林	A	10.0	
18 018	鷲鞍岳のブナ林	E	39.8	
18 021	宝慶寺寺叢のブナ林	AG	2.0	
18 026	冠山のブナ林	A	33.6	
18 027	夜叉ヶ池周辺のブナ林	A	60.0	
18 034	厨城山のブナ林	A	5.0	
18 035	鬼ヶ岳のミズナラ林	F	5.0	
18 036	新羅神社叢のブナ林	E	0.5	
18 037	西方ヶ岳のブナ林	A	15.0	
18 040	野坂岳のブナ林	A	10.0	
18 043	雲谷山のブナ林	A	2.5	
18 059	青葉山のブナ林	A	2.0	
*18 061	ブナーゴウツツジーイワウチワ群落	C	1.0	
*18 067	西ノ又谷のブナ林	A	4.0	
*18 069	平家岳のダケカンバ林	A	1.0	
*18 072	鉢伏山のブナ林	A	2.0	
*18 073	栃ノ木峠附近のブナ林	A	5.0	
*18 084	鷲鞍岳のミヤマハンノキ林	A	15.0	
*18 086	部子山のブナ林	A	10.0	
*18 088	黒河川流域山地のブナ林	A	0.0	
*18 089	久須夜岳のヤマモミジ林	A	2.0	
*18 090	久須夜岳海岸のケヤキ林	D	25.0	
*18 092	法恩寺のブナ林	A	2.0	
*18 093	法恩寺山のダケカンバ林	A	2.0	
*18 095	劔ヶ岳のブナ林	A	1.0	
*18 098	鉢伏山のミズナラ林	A	3.0	
18 023	春日神社叢のクスギ林	F	0.1	暖温帯夏緑広葉高木林
*18 097	越前海岸のケヤキ林	A	2.0	
18 022	銀杏峰のキャラボク林	B	1.0	冷温帯常緑針葉低木林
18 055	名田庄村大滝のヒメムカゴシダ群落	B	0.1	冷温帯夏緑広葉低木林
*18 064	大長山の風衝低木林	H	0.5	
18 006	赤鬼山の風衝低木林	A	1.0	冷温帯ササ原
18 020	エチゼンダイモンジソウ群落	B	0.0	岩上, 多礫地草本植生
*18 060	二ノ峰の風衝草原	A	5.0	
*18 070	浄法寺山の岩上草原	D	0.0	
18 031	大堤の水性植物群落	D	2.0	浮葉・沈水植物群落
18 005	赤鬼山の湿原	D	1.0	湿地植生
18 024	倉ノ又山のミズバショウ	C	1.0	
18 039	池河内湿原植生	D	3.0	
18 042	フクイカサスゲ群落	B	0.0	
*18 063	取立山のミズバショウ湿原	D	0.5	
18 033	三里浜の砂丘植物群落	D	50.0	海浜植生
18 041	エチゴトラノオ群落	CD	0.0	
*18 065	能郷白山のニッコウキスゲ群落	D	0.5	個体(群)
*18 066	面谷銅山跡のヘビノネゴザ群落	D	0.5	
*18 068	能郷白山山頂附近のテバコフラビ群落	B	0.1	
*18 071	浄法寺山のナツツバキ叢林	B	0.1	
<b>《山梨》</b>				
19 091	仙丈ヶ岳カールの高山植物群落	D	50.0	亜寒帯植生
19 094	旧北岳小屋附近の高山植物群落	D	12.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《山梨》</b>				
19 021	金峰山のネズコ林	A	3.0	亜寒帯常緑針葉高木林
19 022	水晶峠のアズマシャクナゲ群落	C	1.0	
19 037	富士山精進口登山道三合目コメツガ、シラビソ林	A	20.0	
19 052	鳳凰山のシラビソ・オオシラビソ林	A	50.0	
19 069	櫛形山のコメツガ、ダケカンバ林	A	5.0	
19 089	北沢峠のシラベ、オオシラビソ林	A	70.0	
19 095	小金沢山コメツガ、シラベの亜高山帯林衝	A	612.1	
19 097	筑ヶ岳のシラベ、トウヒの亜高山帯林	A	615.1	
19 099	大岩山のシラベ、トウヒの亜高山帯林	A	241.2	
19 005	大滝不動のツガ、ミツバツツジ群落	A	40.0	冷温帯常緑針葉高木林
19 015	山中ハリモミ純林	A	70.0	
19 018	富士山スバルラインのアカマツ林	E	10.0	
19 035	鳴沢村のコケモモ群落	C	25.0	
19 039	青木ヶ原のヒノキ・ツガ・クロソヨゴ林	A	4800.0	
19 051	鳳凰山のウラジロモミ林	A	10.0	
19 061	高田の一の宮浅間神社のアカマツ林	A	4.0	暖温帯常緑針葉高木林
19 074	下山のサカキ群落	C	0.3	
19 017	富士吉田市諏訪の森のアカマツ林	F	14.4	常緑針葉高木植林
19 025	菅田神社のカシ林	E	0.8	
19 077	身延山の千本杉	E	0.9	
19 082	ハナミョウガ	C	0.2	
19 084	丹藏院のリンボクのカギガタアオイ群落	H	0.3	
19 038	富士山奥庭風衝地カラマツ林	H	1.0	夏緑針葉高木林
19 049	ハヶ岳のヒメバラ	B	1.0	
19 062	櫛形山のカラマツ原生林	A	1.0	
19 029	芦川のオオバボダイジュ	C	5.0	夏緑針葉植林
19 001	道志大室指のウラジログシ林	A	0.5	暖温帯常緑広葉高木林
19 006	大月市浅利のシラカシ林	A	1.0	
19 007	都留市川棚のアラカシ林	A	0.2	
19 027	湯村塩沢寺のシラカシ林	A	0.2	
19 031	滝戸山のシラカシ林	A	0.7	
19 034	上野表門神社のシラカシ林	A	0.2	
19 041	下野八幡神社の社叢林	A	0.1	
19 071	湯の奥山神社の社叢	A	2.0	
19 072	下部温泉附近のアラカシ林	A	2.0	
19 073	カギガタアオイ群落	G	0.0	
19 075	久遠寺裏のシラカシ林	A	0.1	
19 081	井出八幡神社の社叢	A	0.2	
19 083	西市森の暖帯林	A	0.1	
19 085	富士川上流の七ッ釜のカシ林	A	0.5	
19 056	鳳凰山さいの河原のダケカンバ林	A	0.5	亜寒帯夏緑針葉高木林
19 090	北沢小屋附近のドロノキ林	A	7.0	
19 093	両俣小屋附近のドロノキ林	A	1.0	
19 002	丹波山三条谷のシオジ、サワグルミ林	A	2.0	冷温帯夏緑広葉高木林
19 003	小金沢シオジ、サワグルミ林	A	15.4	
19 004	竹森のザゼンソウ群落	D	1.1	
19 008	滝子山のブナ、ミズナラ林	A	2.0	
19 010	ブナ、ヒメスミレサイシン群落	A	11.7	
19 012	三国山附近のヒコサンヒメシャラ林	C	3.0	
19 016	富士吉田市新屋山の神社落葉広葉樹林	E	0.5	
19 023	富士見平のシラカバ林	E	20.0	
19 024	金山沢のハジドイ林	H	4.9	
19 026	甲府北部山地のダイセンミツバツツジ群落	C	2.0	
19 036	富士山精進口登山道二合目のミズナラ、ブナ林	A	1.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《山梨》</b>				
19 042	清里のザゼンソウ群落	D	0.5	冷温帯夏緑広葉高木林
19 043	清里のカラコギカエデ	C	100.0	
19 057	広河原のカツラ林	A	2.8	
19 070	大門沢のカツラ林	A	5.0	
19 078	七面山表参道のブナ・イタヤカエデ林	A	50.0	
19 079	七面山裏参道のイヌブナ林	A	10.0	
19 080	七面山裏参道のブナ林	A	12.0	
19 086	富士川上流のブナ・スズタケ群落	A	1.6	
19 096	御正体山のモミ、ツガ、ブナ林	A	96.7	
19 098	篠井山のブナ林	A	92.9	
19 100	大平のシラカバ林	A	14.8	
19 101	清水谷のサワグルミ林	A	22.5	
*19 116	富士山大室山のブナ林	A	80.0	
19 030	滝戸山のアオギリ林	C	1.7	暖温帯夏緑広葉高木林
19 032	芦川溪谷のアベマキ	C	2.0	
19 033	畑熊ミスミソウ	G	2.0	
19 076	早川橋北詰のモクゲンジ群落	B	0.1	
19 048	ハヶ岳の高山植物群落	D	20.0	亜寒帯常緑針葉低木林
19 053	鳳凰山のハイマツ群落	D	50.0	
19 088	駒ヶ岳地獄谷の高山植物群落	D	1.6	
19 019	富士山大石茶屋附近レンゲツツジ・フジザクラ群落	E	1.5	冷温帯夏緑広葉低木林
19 044	美森山のレンゲツツジ群落	E	20.0	
19 045	清里高原を中心としたアオナシ	H	20.0	
19 063	楡形山のアオバヒョウタンボク群落	B	5.0	
19 066	キバナノアツモリソウ群落	G	0.1	
19 058	北岳白根御池附近の湿生植物群落	D	1.0	亜寒帯広葉草原
19 059	北岳草すべりのオニシモツケ群落	C	1.0	
19 060	市川弓削神社のシラカシ林	A	0.2	
19 009	三ツ峠山のカイフウロ	B	75.0	冷温帯広葉草原
19 028	ピランジ群落	D	0.0	
19 064	楡形山のムツムシソウ群落	E	0.5	
19 067	ホテイアツモリソウ群落	G	1.0	
19 068	ホザキツキヌキソウ群落	G	10.0	
*19 102	都留市宝鏡寺のヤマブキソウ群落	D	0.1	
*19 104	諏訪神社のヤマブキソウ	D	0.3	
19 065	楡形山のアヤメ群落	E	20.0	冷温帯単子葉草本草原
19 013	富士山龍坂峠のフジアザミ群落	D	3.0	岩上、多礫地草本植生
19 014	イワオウギ群落	D	3.0	
19 020	ハコネコメツツジ群落	G	1.5	
19 040	万沢のサツキ・シラン群落	B	0.7	
19 046	キヨサトコザクラ(クモイコザクラ)	B	0.0	
19 047	ムシトリスミレ	G	0.0	
19 054	タカネピランジ	D	20.0	
19 055	鳳凰山のホウオウシャジン	D	10.0	
19 087	大城川のイワユキノシタ群落	D	0.2	
19 011	山中湖のフジマリモ	H	1.0	浮葉・沈水植物群落
19 092	キタダケソウ群落	B	100.0	高山荒原植生
*19 103	河口湖のフジマリモ	H	1.0	個体(群)
*19 105	下部町反木川上流域のヨコグラノキ	C	2.0	
*19 106	県南部の暖地性シダ群落	C	0.5	
*19 107	増富のフジシダ	D	0.0	
*19 108	尾白川のユキワリソウ	G	0.0	
*19 109	富士山のオニク	G	150.0	
*19 110	三ツ峠のコウシュウヒゴタイ	B	0.1	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《山梨》</b>				
*19	111 江草岩下のフクジュソウ	H	0.0	個体(群)
*19	112 高尾のヒメザゼンソウ	C	0.0	
*19	113 尾白川のクモイコザクラ	B	0.1	
*19	114 大泉のリュウキンカ	C	1.0	
*19	115 県南部のキバナノショウキラン・キヨスミウツボ	B	0.0	
*19	117 白州町白州のザゼンソウ群落	D	0.2	
<b>《長野》</b>				
20	003 苗場山の自然植生	AD	6000.0	植生一般
20	004 志賀高原の原生林	AD	11000.0	
20	010 四阿山の針葉樹林	A	1800.0	
20	012 烏帽子山自然植生	AC	700.0	
20	015 雨飾山の自然植生	A	3000.0	
20	016 戸隠山の原生林	AB	7000.0	
20	017 黒姫山の原生林	A	700.0	
20	024 美ヶ原の原生林	A	300.0	
20	034 赤石山脈の自然植生	ABCD	50000.0	
20	038 飛騨山脈の自然植生	ABCD	80000.0	
20	044 経ヶ岳の原生林	A	800.0	
20	045 木曾山脈の自然植生	ABD	20000.0	
20	047 末川の原生林	A	5000.0	
20	048 御岳の自然植生	AD	9550.0	
*20	062 布引観音寺付近の植生	BH	75.0	
*20	064 春日溪谷上流部の植生	A	150.0	
20	005 浅間山の自然植生	AD	1200.0	亜寒帯植生
20	009 金峰山の原生林	A	6000.0	
20	013 八ヶ岳の自然植生	ABCD	12000.0	
20	011 菅平の湿性林	ABC	140.0	冷温帯植生
20	019 飯綱山の原生林	A	500.0	
20	027 露ヶ峰の草原	BD	1000.0	
20	037 真那板山の森林群落	EH	300.0	
20	046 天竜川の暖帯林	C	1000.0	暖温帯植生
20	006 御座山の針葉樹林	A	1400.0	亜寒帯常緑針葉高木林
20	043 鉢盛山の原生林	A	2000.0	
20	055 恵那山の原生林	A	1000.0	
20	028 東俣の原生林	A	70.0	冷温帯常緑針葉高木林
20	041 仁科神明宮の社有林	EF	0.3	
20	042 生板のアカマツ林	E	500.0	
20	049 城山の針葉樹林	A	100.0	
20	050 赤沢のヒノキ林	A	2650.0	
20	052 田立のヒノキ林	A	1500.0	
20	053 南木曾岳のヒノキ林	A	1000.0	
*20	082 飯山瑞穂のキタゴヨウ林	BG	0.1	
*20	087 高鳥谷神社のアカマツ林	EF	0.2	
20	020 旭、大峰山のアカマツ林	E	300.0	暖温帯常緑針葉高木林
20	054 賤母山の原生林	A	148.0	
*20	077 油木ヒノキ林	A	100.0	常緑針葉高木植林
*20	074 鋸山熊穴沢のカラマツ天然生林	AH	300.0	夏緑針葉高木林
20	001 関田山脈のブナ林	AC	1100.0	冷温帯夏緑広葉高木林
20	002 カヤノ平のブナ林	AC	4500.0	
20	014 湯川のサワグルミ林	A	20.0	
20	018 戸隠奥社の社有林	A	50.0	
20	022 特殊植物群	BG	2.0	
20	023 特殊植物群	BG	50.0	
20	029 諏訪上社の社有林	AE	32.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《長野》</b>				
*20 059	霧久保沢の溪谷林	A	400.0	冷温帯夏緑広葉高木林
*20 060	志賀高原山麓のミズナラ林	AH	2.0	
*20 061	菅平大洞のブナ残存林	A	5.0	
*20 069	黒姫山麓のサワグルミ林	AD	6.0	
*20 070	聖山北麓のブナ林	GE	2.0	
*20 071	四阿屋山のブナ林	EG	2.5	
*20 072	焼山のブナ林	A	30.0	
*20 073	牛伏寺のブナ林	ABE	1.0	
*20 075	山吹山のケヤキ林	A	6.0	
*20 081	羽広のハンノキ群落	D	2.0	
*20 084	武水別神社のケヤキ林	EF	1.7	
*20 089	小野・矢彦神社の社叢	EF	1.0	
*20 091	風越山のブナ林	AE	0.8	
20 025	美ヶ原の特殊植物群	BG	100.0	亜寒帯夏緑広葉低木林
20 007	ハコネコメツジ群落	BG	1.0	冷温帯夏緑広葉低木林
*20 058	兜岩山のアカヤシオ群落	BH	1.0	
*20 078	馬籠の湿原植生	BFH	25.0	
20 008	特殊植物群	BCG	0.7	岩上, 多礫地草本植生
20 021	特殊植物群	BG	20.0	
20 032	特殊植物群	BG	800.0	
20 033	石灰岩植物群落	BG	200.0	
20 035	石灰岩植物群落	BG	100.0	
20 036	石灰岩植物群落	BG	1.0	
20 031	入笠山大阿原湿性草原	BD	20.0	湿地植生
20 039	湿性草原	CDG	4.0	
20 040	居谷里湿原の湿性群落	BD	0.3	
20 056	唐花見湿原の湿性群落	D	15.0	
*20 065	八ヶ岳東山麓の湿原群	BD	10.0	
*20 068	矢出川(西川)流域の湿地植生	D	25.0	
*20 076	乗鞍山麓の湿原群	BD	10.0	
20 026	鉢伏山の半自然草原	H	200.0	亜寒帯単子葉草本草原
*20 057	佐久市東地のミヤマウラジロ群落	BD	12.5	個体(群)
*20 063	望月のツキヌキソウ群落	B	150.0	
*20 066	横谷溪谷のハナヒョウタンボク群落	B	0.0	
*20 067	美濃戸口のエンピセンノウ	BG	0.0	
*20 079	小野のシダレグリ群落	H	5.0	
*20 080	北又沢のヤシャイノデ群落	B	40.0	
*20 083	八ヶ岳山麓のサラサドウダン群落	H	3.0	
*20 085	長倉のハナヒョウタンボク群落	BG	0.5	
*20 086	菅平のツキヌキソウ群落	BG	0.0	
*20 088	高遠のコヒガンザクラ樹林	EF	2.7	
*20 090	風越山のベニマンサク群落	C	10.0	
<b>《岐阜》</b>				
21 028	御岳山の高山自然低木林	D	8.0	亜寒帯植生
21 048	恵那の沼地植生	DGH	0.1	暖温帯植生
21 004	乗鞍岳のシラベアオモリトドマツ林	A	100.0	亜寒帯常緑針葉高木林
21 005	乗鞍岳のコメツガ林	ADG	5.0	
21 015	寺地山のアオモリトドマツ林	AG	120.0	
21 024	御岳山のコメツガ林	AG	400.0	
21 025	御岳のオサバグサ群落	ABCG	2.5	
21 011	一位の森八幡神社のイチイ林	AEG	0.3	冷温帯常緑針葉高木林
21 031	濁河のヒノキ-シャクナゲ林	AB	0.5	
21 032	付知のコウヤマキ林	ADG	25.0	
21 053	舟山のアスナロ林	AEG	0.5	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《岐阜》</b>				
21 056	八重芝洞のホンシャクナゲ群生地	ADG	10.0	冷温帯常緑針葉高木林
21 059	和良のサワラ林	AEG	10.5	
21 060	和良のアスナロ林	AEG	5.0	
21 083	別山の針葉樹林	ADG	200.0	
21 100	板取のツガ林	AG	2.0	
21 103	板取川上流地域のコヤマキ林	ADG	500.0	
21 106	屏風谷のヒノキ-ホンシャクナゲ群集	ADG	7.0	
21 113	深谷のモミ林	AG	1.5	
21 019	神岡町のアカマツ林	AE	10.0	暖温帯常緑針葉高木林
21 038	篠原のコヤマキ林	AG	3.0	
21 045	恵那のアカマツ-モチツツジ群集	CE	20.0	
21 057	下呂のコヤマキ林	AG	50.0	
21 089	鶴形山のコヤマキ林	AG	2.0	
21 092	美山のアカマツ林	E	7.0	
21 111	舟伏山南側のモミ-シキミ群集	AG	1.5	
21 021	飛騨一宮水無神社のスギヒノキ林	F	0.3	常緑針葉高木植林
21 042	恵那のヒノキ植林地	F	5.4	
21 054	禪昌寺のスギ・ヒノキ混交林	F	1.5	
21 098	金華山のヒノキ林	ADGH	40.0	
21 110	美山のスギ植林	F	20.0	
21 026	濁河のカラマツ天然林	ABCG	1.0	夏緑針葉高木林
21 062	七宗町のアラカシ林	AEG	0.1	暖温帯常緑広葉高木林
21 063	七宗町のアラカシ-アベマキ林	AEG	0.1	
21 064	水無神社のアラカシ林	AEG	0.1	
21 071	浅間山のサカキ-ヒイラギ群集	AEG	1.0	
21 088	須原のスダジイ群落	AEG	3.0	
21 095	熊野神社のシラカシ林	AEG	0.8	
21 096	金華山のツブラジイ林	AEG	220.0	
21 115	粕ヶ原神社のシラカシ林	AEG	0.1	
21 116	小寺のアラカシ林	AEG	0.2	
21 120	行基寺のツブラジイ林	AEG	0.0	
21 131	時山のツクバネガシ林	AEG	0.3	
21 001	安房峠のダケカンバ林	ADG	2.0	亜寒帯夏緑広葉高木林
21 006	乗鞍岳のダケカンバ林	AD	60.0	
21 003	平湯のシラカンバ林	CH	2.0	冷温帯夏緑広葉高木林
21 012	森越八幡神社のイチイ林	AEG	3.5	
21 017	水の平のブナ林	AEG	40.0	
21 020	子ノ原のシラカンバーレンゲツツジ群集	G	200.0	
21 023	秋神のシラカンバ林	ACG	0.5	
21 034	笠置山のミズナラーイヌブナ林	AG	2.0	
21 051	大坂谷のブナ林	AEG	200.0	
21 080	御前岳のブナーオオバクロモジ群集	AEG	30.0	
21 081	ゾウゾウ山のブナ林	AEG	105.0	
21 082	大沼山のブナ林	AEG	130.0	
21 084	尾上郷川上流のブナ林	AEG	50.0	
21 085	大日岳のブナ林	AEG	70.0	
21 101	板取のブナーオオバクロモジ群集	AEG	30.0	
21 102	板取のイヌブナ林	AEG	5.0	
21 107	岩の子谷のホンシャクナゲ群集	ADG	5.0	
21 108	温見峠のセリバオウレン自生地	AG	2.5	
21 109	根尾のブナ林	AEG	120.0	
21 119	養老山の落葉広葉樹林	AG	30.0	
21 125	坂内のブナーオオバクロモジ群集	AEG	80.0	
21 128	金鷲岳のブナーオオバクロモジ群集	AEG	75.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《岐阜》</b>				
21 129	伊吹山のブナ林	AEG	20.0	冷温帯夏緑広葉高木林
21 018	面漆山のケヤキ林	ACG	1.0	暖温帯夏緑広葉高木林
21 033	椈の湖のハナノキ群落	ABCDG	56.5	
21 041	五明のハナノキ自生地	ABCDG	0.3	
21 044	恵那のハナノキ自生地	ABCDG	0.1	
21 047	恵那のシデコブシ自生地	BCDG	0.5	
21 072	浅間山のサクライソウ自生地	BCG	1.0	
21 094	関のコセリバオウレン自生地	ACGH	0.1	
21 114	黒野アラカシ林	AEG	0.5	
21 117	池田町のケヤキ林	AEG	0.1	
21 008	乗鞍岳のハイマツ群落	BD	60.0	亜寒帯常緑針葉低木林
21 118	養老山頂のアセビ群落	ADG	85.0	冷温帯常緑広葉低木林
21 127	金蕨岳のホンシャクナゲ群生地	DEG	0.1	
21 067	鬼岩のミミカキグサ自生地	DG	0.3	暖温帯常緑広葉低木林
21 068	川辺町のアラカシ林	AEG	0.1	
21 090	小牧のアラカシ林	ADEG	0.8	
21 097	金華山のアラカシ林	ADEG	20.0	
21 027	御岳山のダケカンバ林	DH	10.0	亜寒帯夏緑広葉低木林
21 052	万波のミズバショウ群落	BDG	0.5	冷温帯夏緑広葉低木林
21 121	冠山のオオコメツツジ群落	ABDG	1.0	
21 132	烏帽子岳のホンシャクナゲ群生地	ADG	1.0	
21 040	五明のレンゲツツジ自生地	DG	0.1	暖温帯夏緑広葉低木林
21 061	飛騨川中流のチョウセンネコヤナギ群落	D	0.5	
21 065	鬼岩のハナノキ自生地	ABCDG	0.2	
21 066	鬼岩のシデコブシ自生地	BCDG	1.3	
21 069	可児のシデコブシ自生地	ABCDG	0.3	
21 075	多治見のシデコブシ群落	ABCDG	0.3	
21 077	土岐のシデコブシ自生地	ABDG	0.2	
21 086	長良川上流のネコヤナギ群落	D	0.2	
21 087	長良川中流のチョウセンネコヤナギ群落	D	0.1	
21 104	明神山の風衝ササ草原	D	5.0	冷温帯ササ原
21 122	高倉峠付近の風衝群落	D	3.7	
21 123	坂内の尾根筋の風衝植生	D	0.7	
21 126	金蕨岳のチシマザサ草原	AG	60.0	
21 130	伊吹山頂の草本群落	BCDG	1.0	冷温帯広葉草原
21 058	門和佐川のサツキ自生地	DG	0.3	岩上, 多礫地草本植生
21 010	乗鞍岳のコマクサ群生地	BCDG	0.2	高山荒原植生
21 029	御岳山の高山ハイデ	BD	0.2	
21 030	御岳山のコマクサ・タカネスミレの群集	BCD	0.0	
21 007	乗鞍岳の雪田植生	BD	0.3	雪田植生
21 009	乗鞍岳の高山植物群落	BD	0.7	
21 014	寺地山のイワイチョウ群落	BD	2.0	
21 002	安房原湿原	D	20.0	湿地植生
21 013	高峯平のミカヅキグサ群落	DG	0.1	
21 016	水の平のキンバイソウ群落	BDG	1.0	
21 046	恵那のシラタマホシクサ群生地	BCDEG	0.1	
21 049	夕立山のミカヅキグサ群落	DG	0.1	
21 050	白木峰のイワイチョウ群落	BDG	2.0	
21 055	山中峠湿原	BCD	0.7	
21 070	柿下のミカワシオガマ自生地	BCDG	0.5	
21 074	大森のサギソウ自生地	BDG	0.5	
21 078	天生峠湿原	BD	0.4	
21 079	天生高層湿原	BCD	0.7	
<b>《静岡》</b>				
22 001	函南山のブナ・アカガシ天然林	A	120.0	植生一般

対照番号	件名	選定基準	面積	相観
------	----	------	----	----

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《静岡》				
22 013	浮山のヤマモモ・照葉樹林	ADE	7.0	暖温帯常緑広葉高木林
22 016	奈良本水神社の社叢	AE	0.2	
22 035	三島市立公園楽寿園の森	E	4.6	
22 040	大瀬崎のビャクシン群落	DG	5.9	
22 042	淡島のクロマツ常緑広葉樹林	ADE	10.0	
22 043	久連神社のウバメガシ・モッコク林	E	0.5	
22 044	修善寺の社寺林	E	7.0	
22 046	元村大宮神社の社叢	E	1.0	
22 051	白川学術参考保護林	AH	2.8	
22 073	桑崎神社のシイ・タブ林	E	1.0	
22 074	清見寺のシイ・タブ林	AE	20.0	
22 086	久能山の照葉樹林	A	20.0	
22 088	岡出山胞波神社の社叢	E	3.0	
22 115	大代学術参考保護林	A	2.0	
22 117	小笠山のウバメガシ林	D	10.0	
22 119	桜ヶ池池畔の照葉樹林	AE	2.0	
22 121	気田川明神峡のシイ・カシ林	AE	220.0	
22 126	高根金刀比羅神社のシイ林	E	1.0	
22 127	油山寺天狗谷照葉樹林	AEF	50.0	
22 128	上気賀のシイ林	E	50.0	
22 131	三ッ峰のウバメガシ林	CD	29.0	
22 132	法多山のシイ林	E	19.0	
22 134	本坂峠の照葉樹林	A	10.0	
*22 136	伊豆山神社の社叢	A	0.0	
*22 147	猫越嶺山学術参考保護林	A	6.7	
*22 149	土肥神社の社叢	E	0.1	
*22 159	安良里浦守神社のウバメガシ林	D	0.0	
*22 160	巨鯛島のウバメガシ群落	DE	2.0	
*22 169	袖師神明宮の社叢	E	0.0	
*22 170	用宗の照葉樹林	E	0.0	
*22 175	阿波波神社の社叢	A	0.6	
*22 176	巖室神社の社叢	E	0.4	
*22 185	奥山方広寺の寺叢	E	0.0	
*22 187	多米峠の照葉樹林	E	7.0	
22 012	万三郎岳のシャクナゲ群落	AGH	1.3	冷温帯夏緑広葉高木林
22 017	三国山山頂のブナ・カエデ林	E	2.0	
22 018	三国山東斜面のブナ林	A	1.0	
22 019	明神峠のブナ天然林	A	15.0	
22 030	頼朝の井戸の森	A	2.0	
22 033	愛鷹山のブナ原生林	A	625.0	
22 048	天城山のブナ原生林	A	100.0	
22 049	天城のアマギツツジ群落	ACH	1.0	
22 059	籠のシデ・カエデ林	A	1.0	
22 067	天子岳山頂のブナ・ドウダンツツジ	A	2.0	
22 076	阿部峠のシロヤシオ群落	A	10.0	
22 078	阿部峠のオオイタヤマゲツ林	A	10.0	
22 083	井川峠のブナ・ミズナラ林	A	800.0	
22 112	蕎麦粒山のブナ林	A	50.0	
22 113	蕎麦粒山のシロヤシオ群落	AD	24.6	
*22 167	六番学術参考保護林	A	6.3	
22 015	シラヌタの池の植物群落	AH	0.5	暖温帯夏緑広葉高木林
22 024	富士山東麓のコナラ林	E	10.0	
22 027	印野御胎内のコナラ林	E	0.3	
22 045	修善寺桂川べりのケヤキ林	E	1.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《静岡》</b>				
22 053	白浜神社のアオギリ群落	BH	0.2	暖温帯夏緑広葉高木林
22 064	富士山西麓のカタクリ群落	G	2.0	
22 072	富士市丸火公園のコナラークリ林	E	100.0	
*22 139	三島大社の社叢	E	2.0	
22 034	山伏峠のアセビ林	D	4.0	冷温帯常緑広葉低木林
22 052	長九郎山のシャクナゲ群落	H	2.6	
22 039	鰐頭山のウバメガシ林	D	15.0	暖温帯常緑広葉低木林
22 029	十里水のアンタカツジ	H	7.0	冷温帯夏緑広葉低木林
22 068	富士山西麓のホソバシヨリマ	BC	2.0	
22 114	岩岳山、竜馬岳のアカヤシオ・シロヤシオ群落	H	200.0	
22 038	鰐頭山のケナシアイズシモツケ	B	2.0	暖温帯夏緑広葉低木林
22 061	朝霧高原のカノウツギ群落	BH	5.0	
22 082	山伏岳の高茎草本群落	G	50.0	冷温帯ササ原
22 087	高草山のキスミレとヤマタバコの群落	CGH	0.1	暖温帯ササ原
22 058	毛無山々頂の亜高山植物群落	D	1.0	亜寒帯広葉草原
22 092	塩見岳の中性御花畑	D	0.3	
22 093	三伏峠の高茎草原植物群落	D	22.8	
22 096	千枚小屋の高茎草本群落	D	0.3	
22 100	赤石岳の高山植物群	D	10.0	
22 102	茶臼岳の御花畑	D	5.0	
22 103	センジツ原の高山植物群	D	3.0	
22 104	光岳の高山植物群	D	1.0	
22 085	門屋のシャク群落	C	2.0	暖温帯広葉草原
22 020	大洞山のカリヤスモドキ草原	D	2.0	冷温帯単子葉草本草原
22 050	大沢里大滝のシダ群落	H	1.0	草本シダ群落
22 060	毛無山のスルガジョウロウホトトギス	G	0.3	岩上、多礫地草本植生
22 079	阿部峠の湿地性植物群落	BC	0.1	
22 080	阿倍のオオビランジ群落	BGH	150.0	
22 081	阿倍のシラヒゲソウ群落	GH	0.0	
22 116	小笠山のスジヒトツバ	BC	0.0	
22 037	柿田川の水生物群落	H	5.0	浮葉・沈水植物群落
22 063	富士山西麓のヒンジモ群落	B	0.0	浮水植物群落
22 090	北荒川岳の御花畑	D	0.5	高山荒原植生
22 094	三伏峠の乾性御花畑	D	26.5	
22 095	千枚岳の高山植物群	DB	30.0	
22 099	小赤石尾根の高山植物群	D	5.0	
22 005	一碧湖の沼沢地植物群落	D	5.0	湿地植生
22 041	大瀬崎のテツホシダ群落	C	0.0	
22 065	田貫湖畔の湿地性植物	D	5.0	
22 129	鶴ヶ池の沼沢地植物群落	DH	7.3	
22 130	桶ヶ谷沼の沼沢地植物群落	DGH	13.5	
*22 141	浮島沼の湿生植物群落	BG	8.3	
22 009	かんのいいがいが根の海岸植物群落	DH	1.0	海浜植生
22 055	爪木崎のイズアサツキ群落	BHD	1.0	
22 056	吉佐美のハマボウ群落	CD	0.5	
22 057	田牛のハマユ群落	CDG	0.0	
*22 162	青野川河口のメヒルギとハマボウ群落	FD	0.1	
*22 142	天城山狩場国有林のイズカニコウモリ	BH	0.1	個体(群)
*22 148	御浜崎のイヌマキ林	A	0.0	
*22 150	赤川芝山のエノミネシダ群落	BCG	0.1	
*22 151	大久須川日陰平の暖地性シダ植物群落	BCH	5.4	
*22 154	河津大滝のナチシダ群落	CH	0.2	
*22 155	蓮台寺のヒトツバイワヒトデ群落	BC	0.0	
*22 156	茨の木の暖地性シダ植物群落	BCH	0.4	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《静岡》				
*22 157	白川八瀬沢のタキミシダとイワユキノシタ	BDG	0.6	個体(群)
*22 158	一色のハイコモチシダ群落	BCH	0.2	
*22 161	岩地のコウラボシ群落	BC	0.2	
*22 165	猪之頭養鱒場のカタクリ群落	G	0.0	
*22 168	安倍峠のアカヤシオ群落	G	0.0	
*22 171	二軒小屋のレンブクソウ群落	G	0.0	
*22 172	大井川上流椹島のクロソヨゴ群落	D	0.0	
*22 173	大日山のキヨヅミツボ	BH	0.0	
*22 174	粟ヶ岳のミスミノウ	G	0.1	
*22 177	朝日山のイチョウシダ	DH	0.1	
*22 178	ヒョー越のレンブクソウ	GH	0.0	
*22 179	熊伏山のミヤマツチトリモチ	H	0.2	
*22 180	京丸のヒロハアツイタ	CH	0.0	
*22 181	秋葉山のヒゴスミレ	GH	0.0	
*22 182	鶴ヶ池のウスギムヨウラン	CH	0.1	
*22 183	鶴ヶ池のイワタカンアオイ	CG	0.0	
*22 186	細江町のタシロラン	BH	0.0	
《愛知》				
23 004	茶臼山々頂の冷温帯上部の天然林	C	15.0	暖温帯植生
23 017	鳳来寺山植物群落	AEF	124.5	
23 020	伊熊神社野社叢	AE	2.6	
23 023	六所神社社叢	AE	5.0	
23 026	間苜溪谷の樹叢	A	10.0	
23 065	常滑多賀神社社叢	AE	3.0	
23 068	羽豆神社の社叢	AE	0.8	
23 008	白鳥山の山頂林	AC	4.1	冷温帯常緑針葉高木林
23 011	シャクナゲ尾根のホソバシャクナゲ北限自生地	C	1.0	暖温帯常緑針葉高木林
23 012	川合権代の針葉樹天然林	A	18.1	
23 018	黄柳野ツゲ自生地	D	20.0	
23 034	猿投山の常緑針葉樹林	A	15.0	
*23 069	吉川峠蛇紋岩地帯植生	B	3.3	
23 027	本宮山山頂の樹叢	AEF	29.1	常緑針葉高木植林
23 019	旭町八幡神社社叢	AB	1.9	暖温帯常緑広葉高木林
23 025	吉祥山の照葉樹林	A	0.3	
23 029	財賀寺寺叢	AE	3.0	
23 033	定光寺の照葉樹林	AE	20.0	
23 035	小牧大山の照葉樹林	AE	9.3	
23 041	茅原沢神明宮社叢	BE	3.0	
23 042	山中八幡宮社叢	ACE	4.7	
23 044	竹島八百富神社社叢	AEC	5.0	
23 045	沖島(狼ヶ島)の照葉樹林	AE	6.0	
23 046	木島の照葉樹林	AE	3.0	
23 049	泉福寺寺叢	AE	10.0	
23 050	越戸大山の原生林	AE	10.0	
23 051	三島神社社叢	AE	1.0	
23 054	宮山原生林	AE	15.0	
23 056	大山寂光院の照葉樹林	AE	10.0	
23 057	大山城の風致林	AE	15.0	
23 060	蓮華寺寺叢	AE	0.5	
23 062	鷺津啓公園及び長寿寺寺叢	AE	6.0	
23 063	日長神社社叢	AE	1.0	
23 064	阿久比多賀神社社叢	AE	1.0	
23 066	野間神社社叢	AE	1.0	
23 067	碓具神社社叢	ACE	2.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《愛知》				
*23 073	松平神社（東照宮）のシイ林	E	0.7	暖温帯常緑広葉高木林
*23 074	小操（ワクグリ）神社のスダジイ林	E	4.3	
*23 075	大恩寺のスダジイ林	E	6.0	
*23 076	牟呂八幡宮のスダジイ林	E	2.5	
*23 077	雲興寺のツブラジイ林	E	2.0	
*23 078	八柱神社のツブラジイ林	E	0.8	
*23 079	真福寺のツブラジイ林	E	10.9	
*23 080	久麻久神社のツブラジイ林	E	1.3	
*23 081	上畑神社のスダジイヤマモモ林	E	2.5	
*23 082	春日神社のスダジイ林	E	0.4	
*23 083	八剣神社のスダジイ林	E	1.0	
*23 084	阿弥陀寺のスダジイ林	E	0.6	
*23 085	弁天島の照葉樹林	E	0.5	
*23 087	白山神社のアラカシ林	E	0.7	
*23 089	大興寺・八幡神社のツブラジイ林	E	1.8	
*23 090	阿奈志神社のスダジイ林	E	0.3	
23 002	日本ヶ塚山の冷温帯性落葉広葉樹林	A	25.0	冷温帯夏緑広葉高木林
23 003	川宇連のハナノキ自生地	B	1.0	
23 005	萩太郎レンゲショウマ自生地	B	2.0	
23 007	面の木峠のブナ天然林	A	31.0	
23 010	御園岩山落葉広葉樹林	AE	3.0	
23 021	段戸裏谷原生林	A	130.0	
23 001	大沼の落葉広葉樹林	A	15.1	暖温帯夏緑広葉高木林
23 015	塩津マルバノキ群落	C	2.0	
23 058	犬山ヒトツバタゴの自生地	B	0.1	
23 061	熱田神宮の社叢	AE	20.0	
*23 088	八事・興正寺のコナラーアベマキ林	E	5.2	
23 055	古山（伊良湖）原生林	AE	12.0	暖温帯常緑広葉低木林
*23 086	伊良湖岬南斜面低木密林	E	0.0	
23 013	乳岩植物群落	BD	1.0	暖温帯夏緑広葉低木林
23 030	宮地山コアブラツジ群落	E	3.5	
23 037	矢並湿原	D	1.5	
23 048	柁シデコブシ自生地	BC	3.0	
23 053	堀切ハマボウ自生地	BC	0.3	
23 009	上黒川兎鹿嶋植物群落	B	1.6	岩上、多礫地草本植生
23 016	川合ムカデラン自生地	B	0.1	
23 014	名倉ヤチシャジン自生地	B	1.0	湿地植生
23 022	田之土里湿原	D	0.7	
23 024	作手長の山湿原	D	4.1	
23 028	才原湿原	BCD	1.0	
23 031	石巻山石灰岩地植物群落	D	3.0	
23 032	葦毛（イモウ）湿原	D	3.0	
23 036	御船シラヒゲソウ自生地	B	1.0	
23 039	小堤西池のカキツバタ群落	B	20.0	
23 040	小呂湿原	D	2.2	
23 043	須美湿原	D	1.1	
23 047	黒川原湿原	BCD	1.0	
*23 070	伊勢神湿原	D	0.2	
23 052	伊良湖小山中ハギクソウ群落	BD	1.0	海浜植生
*23 071	嵩山バクチノキ自生地	B	0.1	個体（群）
*23 072	多米峠北部イヌツゲ自生地	H	1.0	
《三重》				
24 053	白猪山植物群落	H	110.0	植生一般
24 073	三重大学農学部付属演習林	A	457.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《三重》				
24 039	コグルミ谷の溪谷林	D	75.0	冷温帯植生
24 043	御在所岳藤内壁の蘇苔類群落	A	24.0	
24 016	伊坂ダム周辺の植生	E	125.0	暖温帯植生
24 025	伊勢神宮宮域林	EH	5500.0	
24 026	獅子島の樹叢	ACH	2.0	
24 040	藤原岳キンボウゲ科植物群落	DG	95.0	
24 057	滝原宮の神社林	BEF	44.0	
24 061	大島暖地性植物群落	AH	20.0	
24 063	豊浦神社樹叢	E	0.5	
24 065	高宮神社樹叢	E	0.4	
24 067	九木崎のスタジイ林	AH	100.0	
24 076	蓮溪谷植物群落	DE	0.5	
24 091	神内神社樹叢	E	4.0	
24 092	烏止野神社樹叢	EF	0.1	
24 094	瀬山の植物群落	A	12.0	
24 095	尾呂志神社樹叢	E	0.3	
24 104	国見岩のシャクナゲ群落	E	5.0	
24 038	(河内谷カワノリ自生地周辺植生) 冷川のカワノリ群落	B	3.0	亜熱帯植生
24 082	正木ヶ原トウヒ林	BH	3.0	亜寒帯常緑針葉高木林
24 012	ネガヤの群落	E	0.1	暖温帯常緑針葉高木林
24 013	多度のイヌナシ群落	H	2.0	
24 041	宇賀溪一帯の懸崖植生	D	260.0	
24 078	大和谷の懸崖植物群落	D	85.0	
24 085	高代山トガサワラ群落	ABH	7.1	
24 090	阿田和松原国有林	EF	15.0	
24 097	員弁大池周辺のアカマツ林	E	58.7	
24 030	鬼ヶ城暖地性シダ群落	H	10.0	常緑針葉高木植林
24 058	テナイウヤク群落	B	0.2	
24 070	上野城の樹叢	E	1.5	
24 074	波瀬神社樹叢	E	0.1	
24 083	魚跳シダ生育地	BGH	0.1	
24 003	松下神社樹叢	E	0.7	暖温帯常緑広葉高木林
24 004	丸山庫蔵寺イスノキ林叢	E	5.0	
24 005	浦神社樹叢	E	0.5	
24 006	石鏡神社樹叢	E	0.5	
24 007	伊雑宮樹叢	E	1.5	
24 008	宇気比神社樹叢	E	1.0	
24 011	中原神社樹叢	E	0.7	
24 014	多度神社樹叢	E	3.2	
24 015	宇賀神社の樹叢	E	0.4	
24 017	菟上神社樹叢	E	0.2	
24 019	海山道稲荷神社樹叢	EF	0.3	
24 023	小丹神社樹叢	E	0.2	
24 028	浜神社の樹叢	E	1.0	
24 029	一之瀬神社樹叢	E	1.0	
24 031	鬼ヶ城白滝付近の樹叢	E	1.0	
24 032	細谷暖地性シダ群落	H	3.0	
24 035	八柱神社樹叢	E	5.0	
24 036	見江島の暖地性植物群落(見江島の樹叢)	E	20.0	
24 037	弁天島の暖地性植物群落(弁天島の樹叢)	A	0.5	
24 049	敏太神社樹叢	EF	0.8	
24 050	七栗神社樹叢	E	0.8	
24 059	四方神社樹叢	EF	0.6	
24 060	長島神社樹叢	EF	0.1	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《三重》</b>				
24 062	鈴島暖地性植物群落	AH	10.0	暖温帯常緑広葉高木林
24 064	島勝神社樹叢	EF	0.4	
24 066	九木神社樹叢	BFH	3.5	
24 069	高倉神社社叢	E	1.0	
24 071	赤目溪谷溪谷植物群落	D	138.0	
24 072	香落溪谷植物群落	D	240.0	
24 086	飛島神社樹叢	E	0.5	
24 087	遊木神社社叢	E	0.0	
24 088	徳司神社樹叢	E	0.1	
24 089	花の窟神社樹叢	E	0.2	
24 093	小森ダム突島の植物群落	E	0.1	
24 096	牛鼻神社社叢	E	0.2	
24 099	白山ひめ神社社叢	E	3.6	
24 042	釈迦ヶ岳のブナ林	E	5.0	冷温帯夏緑広葉高木林
24 045	鎌が岳のブナ林	A	6.0	
24 047	野登山ブナ林	A	4.5	
24 051	奥山愛宕神社ブナ林	E	5.0	
24 054	矢頭山植物群落	H	10.0	
24 056	局ヶ岳ブナ林	A	10.0	
24 075	明神平ブナ林	A	3.0	
24 077	迷岳ブナ林	A	150.0	
24 081	大杉谷のブナ林	A	200.0	
24 034	道方の浮島	D	0.5	暖温帯夏緑広葉高木林
24 046	入道岳イヌツゲ及びアセビ群落	E	55.0	冷温帯常緑広葉低木林
24 002	浮島の低木林	D	25.0	暖温帯常緑広葉低木林
24 021	金生水沼沢植物群落	DH	0.7	
24 101	錦港周辺暖地性植物群落	E	164.3	
24 102	島勝浦暖地性植物群落	E	72.7	
24 044	御在所岳ツツジ群落	E	217.0	冷温帯夏緑広葉低木林
24 103	三峰山シロヤシオ群落	E	5.0	
24 027	ハマボウ群落	D	2.0	暖温帯夏緑広葉低木林
24 033	ハマナツメ群落	H	4.0	
24 100	大平山ツツジ群落	H	2.0	
24 052	青山高原ツツジ群落	E	240.0	冷温帯単子葉草本草原
24 048	羽黒山の岩壁植物群落	H	23.0	岩上、多障地草本植生
24 055	ムカデラン群落	B	0.0	
24 084	小原野のシダ群落	BGH	0.1	ツル植物群落
24 010	田代池湿地植物群落	D	5.0	湿地植生
24 018	御池沼沢植物群落	DH	32.0	
24 024	栃ヶ池湿地性植物群落	D	10.0	
24 068	西沢のノハナシヨウブ群落	D	9.5	
24 098	斎宮のノハナシヨウブ群落	GH	0.5	
24 001	神島の海浜植物群落	D	16.0	海浜植生
24 009	和具大島暖地性砂防植物群落	D	7.0	
24 020	伊勢の海県立公園砂丘植物群落	D	0.5	
<b>《滋賀》</b>				
25 101	比良山のブナ林	A	618.7	冷温帯植生
25 046	菅並の自然林	GH	13.0	暖温帯植生
*25 125	鈴鹿山地の針葉樹林	E	2.0	冷温帯常緑針葉高木林
*25 131	湖南花崗岩地域のヒメコマツ林	D	40.0	
*25 155	北比良のアシウスギ林	H	45.0	
25 033	永源寺のアスナロ林	H	12.5	暖温帯常緑針葉高木林
25 040	熊野のヒダリマキガヤ	B	0.2	
25 089	甲西町のウツクシマツ群落	B	18.9	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《滋賀》</b>				
25 090	大島居のヒメコマツ林	B	0.0	暖温帯常緑針葉高木林
25 105	明王谷のモミ-アスナロ林	BH	1.5	
25 111	比叡山のモミ林	GH	1.0	
25 112	八ヶ岳のヒメコマツ林	BH	14.0	
*25 121	霜ヶ原神社のモミ林	EH	0.4	
*25 129	金勝寺のモミ林	E	3.0	
*25 151	飯道山のコヤマキ林	C	0.1	
25 073	新海浜のクロマツ林	F	1.3	常緑針葉高木植林
25 076	近江白浜のクロマツ林	F	2.5	
25 087	佐波江のクロマツ-ハマゴウ群落	F	0.0	
25 109	比叡山のスギ林	F	189.0	
*25 127	奥石神社のスギ-ヒノキ林	FH	6.5	
*25 141	青竜山のアカマツ林	E	175.0	
25 011	山東町のシラカシ林	E	0.1	暖温帯常緑広葉高木林
25 012	誓願寺のシラカシ林	E	0.1	
25 022	大洞弁財天のシイ林	A	0.0	
25 023	彦根城の常緑広葉樹林	EH	25.0	
25 027	甲良神社のウラジロガシ林	E	0.1	
25 032	杜葉尾のアカガシ林	B	2.0	
25 035	愛東町東光寺のアラカシ林	E	1.0	
25 057	津里のタブ林	GH	2.0	
25 058	湖北町今西のタブ林	GH	0.1	
25 060	竹生島のタブ林	DH	8.2	
25 061	須賀神社のタブ林	E	0.4	
25 063	大崎観音のシイ林	EH	0.0	
25 066	新旭町のタブ林	G	3.5	
25 067	大荒比古神社のシイ林	E	0.1	
25 069	犬上川畔のタブ林	GH	0.1	
25 070	荒神山のタブ林	E	0.0	
25 072	多景島のイスノキ林	BD	0.1	
25 074	伊崎不動のシイ林	EH	0.1	
25 079	徳昌寺のツクバネガシ林	EH	2.0	
25 081	安土城趾のシイ林	E	0.1	
25 083	円山のシイ林	EH	0.7	
25 084	八幡山北部のアラカシ林	G	0.4	
25 094	榛神社のシイ林	E	0.1	
25 097	揚梅・滝のシイ林	GH	0.1	
25 108	明王谷のシイ林	G	0.5	
25 110	園城寺のシイ林	E	5.0	
25 113	毛知比神社のシイ林	E	0.3	
25 114	新茂智神社のシイ林	E	0.8	
25 115	若松神社のシイ林	E	0.3	
25 116	大日山観音堂のシイ林	E	0.2	
25 117	南郷御霊神社のシイ林	E	0.6	
25 118	石山寺周辺のシイ林	E	12.0	
25 119	立木観音のシイ林	E	1.0	
*25 123	軽野神社のシイ林	E	1.0	
*25 130	飯道山のアカガシ林	E	0.0	
*25 134	八所神社のタブ林	E	0.1	
*25 135	小津神社のシイ林	E	0.1	
*25 136	山田正八幡宮のシイ林	E	0.1	
*25 137	若宮八幡神社のシイ林	E	0.1	
*25 150	杉之木神社のコジイ林	E	2.0	
*25 158	還来神社のコジイ林	E	1.5	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《滋賀》</b>				
*25 159	八所神社のコジイ林	ACE	1.5	暖温帯常緑広葉高木林
25 088	兵主神社のクスノキ林	E	3.0	常緑広葉高木植林
25 001	甲津原のブナ-オオバクロモジ群集	G	25.0	冷温帯夏緑広葉高木林
25 002	金糞岳のブナ-オオバクロモジ群集	G	23.0	
25 003	三国岳のブナ-オオバクロモジ群集	G	30.0	
25 004	横山岳のブナ-オオバクロモジ群集	GH	97.5	
25 006	己高山のブナ-オオバクロモジ群集	G	30.0	
25 007	伊吹山のオオイタヤメイゲツ林	B	100.0	
25 008	伊吹山のクマガイソウ群落	BG	1.0	
25 015	御池岳のオオイタヤメイゲツ林	A	76.2	
25 017	霊仙山のオオイタヤメイゲツ林	B	8.0	
25 019	今畑神社浦のブナクロモジ群集	GH	1.0	
25 020	武奈町のブナクロモジ群集	GH	0.1	
25 029	御在所山のブナクロモジ群集	GH	10.0	
25 037	鎌ヶ岳ブナクロモジ群集	H	25.0	
25 038	野洲川ダムのヤマシャクヤク群落	BG	0.0	
25 041	溝千山のブナクロモジ群集	H	0.8	
25 044	栃ノ木峠のブナ-オオバクロモジ群集	GH	25.0	
25 047	管山寺のブナ-オオバクロモジ群集	GH	11.0	
25 048	七ヶ頭ヶ岳のブナ-オオバクロモジ群集	G	0.0	
25 049	針川のブナ-オオバクロモジ群集	GH	25.0	
25 051	黒河林道のブナ-オオバクロモジ群集	GH	10.0	
25 054	赤坂山のブナ-オオバクロモジ群集	G	50.0	
25 093	滝谷山のブナ-オオバクロモジ群集	GH	25.0	
25 095	今津町武奈ヶ岳のブナ-オオバクロモジ群集	G	40.0	
25 096	生杉のブナ-オオバクロモジ群集	G	40.0	
25 104	比良山のオオイタヤメイゲツ林	B	1.0	
*25 140	横山岳のオニグルミ群落	FH	0.6	
*25 143	菅並のブナ林	A	9.0	
25 005	横山岳のケヤキ林	AG	78.0	暖温帯夏緑広葉高木林
25 013	姉川堤防のケヤキ林	E	0.1	
25 021	米原町天野川畔のケヤキ林	E	0.1	
25 025	雨壺山の落葉広葉樹林	EG	5.8	
25 043	大原ダム付近のハンノキ林	G	0.5	
25 045	余呉町橋本のケヤキ林	E	1.0	
25 056	山本山東山麓のハンノキ林	G	0.3	
25 075	安曇川のケヤキ林	E	0.0	
25 077	空池堂のケヤキ林	E	1.0	
25 080	安土町宮津のハンノキ林	G	0.1	
25 085	希望が丘のハンノキ林	G	0.1	
25 091	栗東町金勝のハンノキ林	G	0.0	
25 098	北比良のアカガシ林	B	0.5	
*25 148	愛知川堤防の落葉広葉樹林	CE	4.0	
25 031	御在所山のアスナロ林	B	3.8	冷温帯常緑針葉低木林
25 014	鞍掛峠のホンシャクナゲ群落	B	0.5	冷温帯常緑広葉低木林
25 042	鎌掛のホンシャクナゲ群落	B	2.0	暖温帯常緑広葉低木林
25 010	伊吹山のイブキシモツケ群落	D	0.2	冷温帯夏緑広葉低木林
25 016	御池岳のイブキシモツケ群落	D	1.0	
25 028	御在所山周辺のツツジ科低木林	BD	93.8	
25 034	雨乞岳のツツジ科低木林	BG	20.0	
25 055	赤坂山のオコメツツジ群集	B	20.0	
25 106	比良小女郎峠のツツジ科低木林	B	18.0	
25 030	御在所山山頂のイブキササ群落	H	9.0	冷温帯ササ原
25 103	武奈ヶ嶽山頂のイブキササ群落	H	44.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《滋賀》				
25 009	伊吹山の広葉草原	BH	65.1	冷温帯広葉草原
25 018	霊仙山のフクジュソウ群落	BG	2.0	
25 050	永原のエゾリンドウ群落	BD	30.0	湿地植生
25 052	三国山湿原のナガエノアザミ群落	BD	0.1	
25 053	赤坂山明王ノ禿の湿原	BD	0.1	
25 078	布施の湿地	BG	4.0	
25 082	西之湖のヨシ群落	D	167.0	
25 092	箱館山のカキツバタ群落	BD	2.0	
25 099	比良寒風峠の湿原	D	0.0	
25 100	比良オトシの湿原	D	0.5	
25 102	八雲ヶ原の湿原	D	0.7	
25 107	比良少女郎ヶ池の湿原	D	0.5	
*25 120	山室湿原	DH	0.3	
*25 122	藤瀬の湿原	D	0.2	
*25 124	砥園の湿原	D	0.0	
*25 126	ハト峰湿原	D	0.3	
*25 128	希望ヶ丘の湿原	D	0.2	
*25 132	北新田の湿原	D	0.1	
*25 133	杉山の湿原	D	0.3	
*25 138	草津市西部丘陵の湿原	D	0.0	
*25 139	田上の湿原	D	0.0	
*25 152	舞庭野湿原	H	10.0	
25 059	早崎のオギ群落	D	1.5	河辺植生
25 064	安曇川畔のクチスズシロソウ群落	GH	8.0	
25 065	今津南浜のハマヒルガオ群落	BH	1.3	
25 068	大藪町のハマヒルガオ群落	B	0.0	海浜植生
25 071	三津屋のハマヒルガオ群落	BH	0.0	
*25 146	彦根新海浜のハマゴウ群落	D	0.0	
*25 147	佐波江湖畔のタチスズシロソウ群落	CD	0.2	
*25 156	南比良のハマヒルガオ群落	D	0.0	
*25 157	南比良のハマエンドウ群落	D	0.0	
*25 142	余呉町中河内のザゼンソウ群落	C	0.1	個体(群)
*25 144	今津町のザゼンソウ群落	H	0.3	
*25 145	荒神山のカザグルマ群落	BG	0.1	
*25 149	鏡山山麓のトキソウ	DG	0.0	
*25 153	小入谷のニッコウキスゲ群落	H	0.4	
*25 154	小入谷のリュウキンカ群落	H	0.0	
《京都》				
26 016	洞谷の原生林	A	10.0	冷温帯植生
26 001	城山の原生林	AE	12.0	暖温帯植生
26 046	嵐山天然林	E	40.0	
26 047	醍醐寺境内林□	E	80.0	
26 048	笠置山の天然林	E	12.0	
26 054	保津峡の河岸植物群落	D	1.0	
26 004	大悲山のモミ、ツガ林	AE	10.0	冷温帯常緑針葉高木林
26 017	八丁林道のスギ・イヌブナ林	A	3.0	
26 018	ワサ谷のスギ林	A	19.0	
26 021	井戸妹路谷のクレーミズナラ林	A	9.0	
26 026	芦生の原生林	AH	2000.0	
26 003	仏主高山のモミ林	EA	64.0	暖温帯常緑針葉高木林
26 005	鞍馬山のモミ林	AE	19.0	
26 013	経ヶ岬のクロマツ林	A	18.0	
26 015	天ノ橋立のクロマツ林	A	1.0	
26 020	田歌のモミ・ツガ林	A	4.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《京都》				
26 024	百井のモミ林	A	2.0	暖温帯常緑針葉高木林
26 025	比叡山のモミ林	A	1.0	
26 036	君尾山のモミ、スギ林	E	9.0	
26 041	西別院万願寺のアカマツ林	E	10.0	
26 045	大文字山のアカマツ林	E	7.0	
26 070	サクライソウ	B	0.0	
26 077	神崎浜のハマナス	G	0.0	
26 082	トウテイラン	C	0.0	
26 051	箱石クロマツ林	F	5.0	常緑針葉高木植林
26 002	大江町内宮のシイ林	AE	9.0	暖温帯常緑広葉高木林
26 006	安祥寺のシイ林	AE	1.5	
26 007	東山のシイ林	AE	5.0	
26 008	東山のシイ林	AE	5.0	
26 009	松尾大社のシイ林	AE	34.0	
26 010	宇治市紅斎のシイ林	AE	20.0	
26 011	神崎のシイ、タブ林	A	20.0	
26 012	男山の天然林	EA	27.0	
26 014	青島のシイ林	A	5.0	
26 019	鬼岳のブナ林	A	5.0	
26 027	冠島の常緑広葉樹林	E	26.0	
26 029	野原のシイ林	E	2.0	
26 033	舞鶴市三浜のシイ林	E	0.5	
26 034	下福井のシイ林	E	2.0	
26 037	本宮山のシイ林	E	2.0	
26 040	高倉神社のシラカシ林	E	2.0	
26 044	吉田山のアラカシ林	E	10.0	
26 063	保津峡シリブカガシ林	A	1.0	
26 064	保津峡アラカシ林	A	3.0	
26 080	シンラン	C	0.0	
*26 085	蛇島のタブ林	AH	2.0	
26 022	佐々里峠のブナースギ林	A	5.0	冷温帯夏緑広葉高木林
26 023	八丁平のクリーミズナラ林	A	130.0	
26 028	味土野のシデ林	E	2.0	
26 030	青葉山のシデ林	E	3.0	
26 032	上世屋のミズナラ林	E	60.0	
26 038	下野原のシデ林	E	2.0	
*26 084	上世屋のブナ林	AH	40.0	
26 035	夜久野南帯の落葉広葉樹林	E	5.0	暖温帯夏緑広葉高木林
26 042	下鴨神社のエノキ林	E	1.0	
26 043	比叡山のコナラ林	E	2.0	
26 079	内宮のデワノタツナミソウ	C	0.0	
26 039	大江山のミズナラ、リョウブ林	E	5.0	冷温帯夏緑広葉低木林
26 078	大江山のタンゴグミ	B	0.0	
26 075	フクジュソウ	G	0.0	暖温帯夏緑広葉低木林
26 076	カキノハグサ	G	0.0	
26 072	ニッコウキスゲ	C	0.0	冷温帯単子葉草本草原
26 066	ヌカイトチシダ	C	0.0	草本シダ群落
26 067	ヒメムカゴシダ	C	0.0	
26 068	シマシロヤマシダ	B	0.0	
26 069	ヒモカズラ	C	0.0	
26 073	宇治のオオチャルメルソウ	C	0.0	岩上、多礫地草本植生
26 074	ハルユキノシタ	C	0.0	
26 081	イワギリソウ	C	0.0	
26 057	疎水の水草群落	D	4.0	浮葉・沈水植物群落

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《京都》				
26 058	宇治川の水草群落	D	0.0	浮葉・沈水植物群落
26 059	鴨川の水草群落(2)	D	1.0	
26 062	鴨川の水草群落(1)	D	1.0	
26 049	深泥地水生植物群落	HD	8.0	湿地植生
26 050	八丁平湿原群落	DH	5.0	
26 052	福知山市石原のヌカボタデ、ヤナギヌカボ群落	G	0.0	
26 053	大田神社のカキツバタ群落	G	0.2	
26 071	ホロミソウ	C	0.0	
26 055	木津川河川敷のツルヨシ、セイコノヨシ群落	D	5.0	河辺植生
26 056	金井戸のヨシ原および周縁帯	D	25.0	
26 083	貴船川のキフネダイオウ個体群	C	0.2	
26 065	箱石海岸砂丘植生	D	5.0	海浜植生
*26 086	亀岡のオニバス群落	D	5.5	個体(群)
《大阪》				
27 026	南近義神社のサカキ林	E	0.3	暖温帯常緑針葉高木林
27 032	本山寺のモミ・ツガ林	A	14.3	
27 001	若山神社のシイ林	E	1.0	暖温帯常緑広葉高木林
27 002	上宮天満宮のシイ林	E	0.5	
27 003	神峰山寺のシイ林	E	8.0	
27 004	阿為神社のシイ林	E	1.0	
27 005	菅原神社のシイ林	E	1.0	
27 006	星田妙見宮のシイ林	E	2.0	
27 007	山田神社のアラカシ林	E	1.0	
27 008	牧岡神社のアラカシ林	E	0.2	
27 009	恩智神社のアラカシ林	E	0.2	
27 010	建水分神社のシイ林	E	0.6	
27 011	石見川のウラジロガシ林	G	0.1	
27 012	彼方春日神社のシリブカガシ林	H	0.2	
27 013	天見八幡神社のシイ林	E	0.2	
27 014	勝尾寺のウラジロガシ林	E	5.0	
27 015	箕面滝安寺のシイ林	A	2.0	
27 018	吉川神社のシイ林	E	1.0	
27 019	大島神社のアラカシ林	E	1.3	
27 020	美多弥神社のシリブカガシ林	H	0.1	
27 021	信太山聖神社のシリブカガシ林	H	0.5	
27 022	牛滝山のシラカシ林	G	2.0	
27 024	意賀美神社のシイ林	E	1.0	
27 025	犬鳴山のシラカシ林	A	5.0	
27 027	信達神社のシイ林	E	0.2	
27 029	国玉神社のウバメガシ林	C	0.2	
27 030	産土神社のシイ林	E	0.8	
27 031	岬住吉神社のウバメガシ林	C	0.2	
27 017	能勢妙見山のブナ林	C	0.5	冷温帯夏緑広葉高木林
27 023	和泉葛城山のブナ林	C	1.5	
27 016	箕面のイロハモミジヶヤキ林	A	40.0	暖温帯夏緑広葉高木林
《兵庫》				
28 038	三川山のヒメコマツ林とブナ林	A	50.0	冷温帯植生
28 040	万劫のアスナロ林	A	17.0	冷温帯常緑針葉高木林
28 074	赤西溪谷のイヌブナ林	A	48.0	
28 084	音水溪谷のイヌブナ林	A	241.0	
*28 100	魚ヶ滝のアカマツ林	D	0.5	
28 010	神池寺のモミ-アカガシ林	A	0.5	暖温帯常緑針葉高木林
28 014	住吉大明神のモミ-アカガシ林	A	0.4	
28 026	金蔵寺のモミ-ツガ林	A	2.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《兵庫》				
28 054	雪彦山のツガ林	A	1.0	暖温帯常緑針葉高木林
28 086	与戸のヒノキーツクシシャクナゲ群落	D	8.6	
28 001	八坂神社のコジイ-シラカシ林	A	3.0	暖温帯常緑広葉高木林
28 002	八坂神社のコジイ林	A	0.1	
28 003	波豆・八幡神社のツクバネガシ林	A	0.2	
28 004	名塩厄神のコジイ林	A	0.2	
28 006	越木岩神社のヒメユズリハ林	A	0.8	
28 008	岡本・素戔鳴神社のアラカシーヒメユズリハ林	A	0.1	
28 011	一宮神社のコジイ林	A	0.1	
28 013	駒宇佐八幡神社のコジイ林	A	0.1	
28 015	中大沢・素戔鳴神社のスダジイ林	A	0.2	
28 016	公智神社のコジイ林	A	0.1	
28 017	有馬神社のコジイ林	A	0.2	
28 018	山王神社のウラジログアシ林	A	0.1	
28 019	再度山・大竜寺のスダジイ林	A	0.5	
28 020	石峯寺のコジイ林	A	0.2	
28 021	太山寺のコジイ林及びウバメガシ林	AC	11.0	
28 022	海神社のウバメガシ林	A	0.1	
28 023	絹巻神社のスダジイ林	A	2.0	
28 024	温泉寺のスダジイ林	A	1.0	
28 025	伊福部神社のスダジイ林	A	0.1	
28 027	普光寺のコジイ林	A	9.8	
28 028	二宮神社のイチイガシ林	A	0.3	
28 029	福田・大歳神社のイチイガシ林	A	0.2	
28 030	法華山一乗寺のコジイ林	A	5.0	
28 032	常隆寺のスダジイ林	A	1.0	
28 033	三熊山のスダジイ林	A	1.0	
28 034	先山・千光寺のスダジイ林	A	2.0	
28 035	諭鶴羽神社のスダジイ-アカガシ林	A	1.3	
28 037	一日市・八坂神社のスダジイ林	A	4.0	
28 052	祇園神社のウラジログアシ林	A	0.2	
28 053	日吉神社のコジイ林	A	0.3	
28 055	宝殿神社のシラカシ林	A	0.2	
28 056	矢倉神社のツクバネガシ林	A	0.2	
28 057	栃原・天満宮のコジイ林	A	0.3	
28 058	神元神社のコジイ林	AB	0.2	
28 059	二百余社大明神のシイ林	AB	0.3	
28 060	八徳山・八葉寺のコジイ林	AB	13.2	
28 061	櫃蔵神社のコジイ林	AB	7.3	
28 062	松尾神社のシリブカガシ林	A	0.1	
28 063	鶏籠山のコジイ林	AC	50.0	
28 064	賀茂神社のイスノキータブ林	AC	0.2	
28 065	家島神社のウバメガシ林	A	0.1	
28 066	淳仁天皇陵のスダジイ林	A	1.0	
28 067	煙島のイヌマキ林	AC	0.5	
28 069	宇都野神社のスダジイ林	A	1.0	
28 070	不動岩・大歳神社のスダジイ林	A	1.0	
28 075	富満・万勝院のシーカシ林	A	0.5	
28 076	鞍居神社のコジイ林	AB	0.5	
28 077	高嶺神社のスダジイ林	A	0.2	
28 078	大山寺のコジイ林	A	0.5	
28 081	駿行寺のスダジイ林	A	0.5	
28 082	神護寺のスダジイ林	A	0.5	
28 083	生島のスダジイ林	A	2.5	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《兵庫》</b>				
28 087	麻耶山のシイ林	A	2.0	暖温帯常緑広葉高木林
28 089	白山神社のスダジイ-ヤブコウジ群落	AE	2.0	
28 090	伊弉諾神宮の常緑樹林	E	1.5	
28 091	沼島神社のスダジイ-タブ群落	AC	1.5	
28 092	成相寺のスダジイ群落	AE	1.0	
28 094	水生山楠陀落寺のコジイ-カナメモチ群落	A	13.5	
*28 095	御井神社のコジイ林	A	1.0	
*28 096	清竜の滝のシラカシ林	A	0.5	
*28 097	糸井溪谷不動滝のウラジログシ林	A	0.5	
*28 098	青倉神社のウラジログシ林	A	2.0	
*28 099	岩屋観音のウラジログシ林	A	1.0	
*28 101	光明寺のスダジイ林	A	0.5	
*28 102	社町住吉神社のシラカシ-ツクバネガシ林	A	0.7	
*28 103	大屋町一宮神社のシラカシ林	A	1.0	
28 007	六甲山山頂部のブナ林	A	0.1	冷温帯夏緑広葉高木林
28 039	小城のブナ林	A	4.0	
28 041	蘇武岳のブナ林	A	10.0	
28 046	氷ノ山のブナ林	A	300.0	
28 049	逆水谷のシオジ林	A	27.0	
28 071	扇ノ山霧ヶ滝周辺のトチノキ林	AC	1.0	
28 072	扇ノ山のブナ林	A	225.0	
28 073	三室山のブナ林	A	5.0	
28 009	大生部兵主神社のシイ-ウラジログシ林	A	0.1	暖温帯夏緑広葉高木林
28 050	原八幡神社のウラジログシ林	A	2.0	
28 093	氷ノ山のキャラボク群落	BD	0.8	冷温帯常緑針葉低木林
28 012	西光寺山のウバメガシ林	C	0.5	暖温帯常緑広葉低木林
28 079	大島山のウバメガシ林	A	0.1	
28 088	猫先半島の常緑樹林	A	18.6	
28 036	今子海岸のカシワ林	C	0.2	暖温帯夏緑広葉低木林
28 031	的形のノジギク群落	C	0.0	暖温帯単子葉草本草原
28 005	甲山周辺の湿地群落	CD	1.0	湿地植生
28 042	大沼の湿原群落	D	2.0	
28 043	鉢伏高原のヤマドリゼンマイ群落	C	0.2	
28 044	鉢伏山のミツガシワ群落	C	0.0	
28 045	古生沼の湿原群落	CD	0.1	
28 047	杉ヶ沢野湿原群落	D	0.2	
28 048	加保坂のミズバショウ群落	CD	0.4	
28 051	砥ノ峰高原の湿地群落	C	0.9	
28 068	吹上浜の海浜植物群落	D	2.0	海浜植生
28 080	佐方川河口のシバナ群落	D	0.0	
28 085	林山の湿原群落	D	0.0	
<b>《奈良》</b>				
29 004	大台ヶ原山原始林	AH	1321.6	植生一般
29 021	大峯山脈原始林	ACH	5250.0	
29 002	池小屋山原生林	AGH	500.0	冷温帯植生
29 005	針ノ尾自然林	AH	17.0	暖温帯植生
29 007	春日山原始林	AEH	100.0	
29 009	春日大社御蓋山原始林	ABH	53.8	
29 017	吉野町妹山樹叢	ABCE	3.7	
29 022	八剣山のシラベ林	ACH	200.0	亜寒帯常緑針葉高木林
*29 030	三重三荷のツガ林	ABDH	0.5	冷温帯常緑針葉高木林
29 003	三ノ公のツガ、トガサワラ林	AH	21.7	暖温帯常緑針葉高木林
29 019	洞川滝泉寺のモミ林	AE	5.0	
*29 034	宗像神社のコウヤマキ林	ABDEH	0.2	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《奈良》</b>				
*29 035	玉置山のモミ林	AEGH	10.0	暖温帯常緑針葉高木林
*29 036	屯鶴峯のアカマツ林	DEH	50.0	
*29 040	牛廻越峠附近のモミ林	AEG	3.0	
29 018	吉野山のコウヤマキ林	F	0.6	常緑針葉高木植林
29 023	玉置山のスギ巨樹群	F	3.6	
29 011	桜井市与喜山暖帯林	AEH	31.0	暖温帯常緑広葉高木林
29 012	田原本町弥富都比賣神社のイチイガシ林	EH	0.1	
29 014	東吉野村八幡神社のムクノキ林	CEF	0.8	
29 015	東吉野村丹生川上中社のウラジログシ林	ACE	1.3	
29 016	吉野町岩神社のタブ林	EH	0.3	
29 024	新庄町笛吹神社のイチイガシ林	EH	0.5	
*29 028	金剛寺のウラジログシ林	EH	0.5	
*29 029	粉尾十二社神社のウラジログシ林	EGH	0.1	
*29 031	水越神社のシラカシ林	AEH	0.2	
*29 032	白屋八幡神社のタブ林	EH	0.1	
*29 033	福源寺のウラジログシ林	EH	0.3	
29 025	伯母子岳のブナ林	A	100.0	冷温帯夏緑広葉高木林
*29 026	高見山のブナ林	DEGH	5.0	
*29 037	葛城山のミズナラ林	EH	5.0	
*29 038	葛城山のコナラ林	EFH	100.0	
*29 039	金剛山のブナ林	AEGH	10.0	
29 013	河合町広瀬神社のムクノキ林	E	2.0	暖温帯夏緑広葉高木林
29 020	西吉野のフクジュソウ生育地	G	1.1	暖温帯広葉草原
*29 027	三峰山のスキ草原	DG	5.0	冷温帯単子葉草本草原
29 001	曾尔高原のスキ及びヨシ群落	DGH	36.5	暖温帯単子葉草本草原
29 008	奈良市若草山草原群落	EH	33.3	
29 010	吐山のスズラン群落	CG	1.0	
29 006	忍辱山サギスゲ自生地	DGH	0.0	湿地植生
<b>《和歌山》</b>				
30 001	四ノ谷原生林	A	56.0	植生一般
30 034	京大演習林湯川川流域天然林	A	120.0	
30 041	大塔山原生林	A	42.0	
30 042	黒藏谷国有林天然林	H	305.0	
30 044	前ノ川天然林	A	52.0	
30 051	西ノ河原生林	A	86.0	
*30 089	成見川の天然林	AE	60.0	
30 035	亀谷原生林	A	226.8	冷温帯植生
30 009	和田川峡崖地植生	DB	20.0	暖温帯植生
30 013	那智原始林	ACFG	57.0	
30 039	坂秦山天然林	A	52.0	
30 043	大杉大小屋国有林天然林	H	150.0	
30 045	將軍山天然林	A	5.0	
30 056	水上ツガ林	A	100.0	
30 066	日前宮社寺林	E	1.5	
*30 102	沖ノ黒島の自然林	ED	0.8	
30 026	摩尼山天然林	A	18.0	冷温帯常緑針葉高木林
30 028	高野山学術参考保護林	A	30.0	
30 029	高野山ツガ林	A	40.0	
30 030	高野山コウヤマキ林	H	3.5	
*30 091	安川のヒノキコウヤマキ林	DH	11.0	
30 007	白見山国有林天然林	A	70.0	暖温帯常緑針葉高木林
30 008	白見山民有林天然林	A	20.0	
30 033	角間木谷ツガ林	A	0.5	
30 038	東ノ川植物群落	H	63.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《和歌山》				
30 040	笠塔山ツガ原生林	A	77.0	暖温帯常緑針葉高木林
30 054	黒沢山陀紋岩植生	D	55.0	
*30 099	高田のトガサワラ林	B	3.5	
30 004	新宮蘭ノ沢浮島植物群落	D	0.5	常緑針葉高木植林
30 027	高野山墓地林	H	18.0	
30 057	上阿太木神社スギ林	F	3.1	
30 080	煙樹ヶ浜松林	F	86.0	
*30 105	御霊神社のイヌマキ林	F	0.2	
30 002	瀬八丁天然林	A	71.5	暖温帯常緑広葉高木林
30 003	蓬萊山スダジイ林	E	0.6	
30 011	大倉畑山天然林	H	12.0	
30 012	大雲取山天然林	H	23.0	
30 014	水底神社寺林	EC	1.5	
30 016	太地海岸スダジイ林	ACG	6.0	
30 019	八坂神社寺林	G	1.0	
30 021	重畳山スダジイ林	A	1.0	
30 022	九龍島天然林	ACG	1.4	
30 023	檜野スダジイ林	AC	12.0	
30 025	通夜島スダジイ林	A	3.7	
30 031	矢立墓地林	E	1.0	
30 037	平治ノ滝植物群落	G	1.0	
30 046	里野八幡社寺林	E	0.3	
30 047	琴ノ滝周辺天然林	H	7.0	
30 048	江須崎天然林	AC	7.0	
30 052	箕六弁財天社寺林	E	1.0	
30 058	川又観音社寺林	B	3.9	
30 059	御滝神社寺林	CG	0.8	
30 061	岡川八幡神社寺林	E	0.5	
30 062	須佐神社寺林	E	1.1	
30 064	三所神社寺林	E	1.0	
30 065	稲積島天然林	A	4.0	
30 067	和歌山城天然林	E	3.0	
30 068	大年神社寺林	E	0.9	
30 069	木本神社寺林	E	1.0	
30 070	東照宮社寺林	E	3.0	
30 072	友ヶ島照葉樹林	E	20.0	
30 073	春日神社寺林	E	1.0	
30 074	長保寺社寺林	E	3.0	
30 075	立神社寺林	E	1.3	
30 079	松原王子神社寺林	E	0.4	
30 081	龍王神社寺林	E	1.0	
30 083	衣奈神社寺林	E	1.5	
30 084	鏡島タブ林	A	0.3	
30 085	アコウ個体群	C	0.3	
*30 095	鹿島のタブ林	EG	0.3	
*30 098	水藪遺跡のモチノキ林	E	0.3	
*30 101	前ノ川谷のアカガシ林	A	1.2	
*30 104	小殿神社イスノキ林	E	0.2	
30 032	護摩壇山ブナ原生林	A	99.0	冷温帯夏緑広葉高木林
30 036	果無山脈ブナ林	A	30.0	
*30 093	法師山のブナ林	A	9.0	
*30 094	若藪山のブナ林	AE	4.5	
30 005	千穂ヶ峯天然林	E	19.0	暖温帯夏緑広葉高木林
30 063	神島原生林	A	3.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《和歌山》</b>				
30 018	浦神半島ウバメガシ林	DE	145.0	暖温帯常緑広葉低木林
30 060	大滝川キクシノブ群落	CG	1.3	
30 076	宮崎の鼻キョウラン群落	D	0.5	
30 077	黒島暖地性植物群落	C	28.0	
*30 097	霊巖寺山石灰岩地植生	D	1.3	
*30 103	立岩石灰岩地植生	D	0.3	
*30 107	日ノ山のウバメガシ海岸林	D	10.0	
30 024	大島ハドノキ群落	C	0.5	暖温帯夏緑広葉低木林
30 049	竜門山キイシモツケ群落	D	65.0	
30 078	王子川ハマボウ群落	D	1.5	
30 053	生石山草地植生	E	34.0	暖温帯単子葉草本草原
30 010	静閑静崖地植生	DB	6.0	岩上, 多礫地草本植生
30 055	黒沢山沼地植物群落	D	0.3	湿地植生
30 071	友ヶ島深蛇池植物群落	D	3.0	
30 087	阿尾ラグーン植物群落	D	14.8	
*30 096	白浜のミズゴケ群落	C	0.5	
*30 100	皆地の湿地植生	D	0.7	
30 006	孔島ハマユウ群落	D	0.6	海浜植生
30 015	湯川温泉塩沼地植物群落	D	2.3	
30 017	太田川ハマボウ群落	D	1.0	
30 082	三尾海岸オオハグルマ群落	DC	0.1	
30 086	阿尾海浜植物群落	D	1.0	
*30 088	大倉畑山のアケボノツツジ群落	BC	2.0	個体(群)
*30 090	中下番のシマユキカズラ群落	C	0.5	
*30 092	法師山のヒメイワカガミ群落	BC	0.1	
*30 106	三尾のノアサガオ群落	C	0.0	
<b>《鳥取》</b>				
31 012	虫井神社社叢	AH	0.0	植生一般
31 040	大山山頂部の自然草地植生	ADH	0.0	
31 041	大山の山頂部付近の自然低木林	ADH	0.0	亜寒帯植生
31 033	甲ヶ山周辺の自然植生	DH	0.0	冷温帯植生
31 027	三徳山の自然林	AH	0.0	暖温帯植生
31 044	粟嶋神社社叢	AE	1.0	
31 059	花倉山の自然林	AH	10.0	
*31 067	金華山熊野神社社叢	E	1.0	
31 008	唐川のモミ林	H	0.1	冷温帯常緑針葉高木林
31 049	大宮神社のモミ林	AH	0.4	
31 050	石霞溪のアカマツ林	DF	5.0	
31 053	下阿毘縁神社社叢	AH	1.0	
31 058	洗足山のヒノキーヒメコマツ林	ADH	3.0	
*31 064	東大山域のヒメコマツ群落	H	0.0	
*31 073	三滝溪谷のスギーシャクナゲ群落	DG	0.0	
31 004	浦富海岸のクロマツ林	AHD	50.0	暖温帯常緑針葉高木林
31 052	日谷神社社叢	F	1.0	
*31 063	樽谿公園のモミ林	AH	2.0	
31 003	甘露神社のスタジイ二次林	EH	1.0	暖温帯常緑広葉高木林
31 005	南田神社社叢	AE	2.0	
31 009	宇倍神社社叢	E	1.0	
31 011	赤蔵神社社叢	AE	1.5	
31 013	椎谷神社社叢	A	1.0	
31 014	久松山のスタジイ林	AE	0.0	
31 016	大野見宿弥命神社社叢	AE	0.5	
31 017	倉田八幡宮の社叢	AEH	0.2	
31 018	意上奴神社社叢	AEH	2.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《鳥取》				
31 019	松上神社のスタジューサカキ林	AE	3.0	暖温帯常緑広葉高木林
31 020	矢矯神社社叢	AE	0.5	
31 023	犬山神社の照葉樹林	AEH	2.0	
31 026	金山神社社叢	A	0.5	
31 029	倭文神社社叢	AE	0.3	
31 030	波々伎神社社叢	AE	1.0	
31 031	打吹山のスタジイ林	AE	45.0	
31 043	長田神社社叢	AEH	3.0	
31 045	金毘羅神社社叢	AEH	0.5	
31 048	大木屋神社社叢	E	0.7	
*31 061	浦富熊野神社社叢	E	0.8	
*31 062	坂ノ谷神社の照葉樹林	E	1.0	
*31 070	日吉神社のスタジイ林	E	0.5	
*31 071	伏野神社のスタジイ林	E	1.0	
31 001	須賀の山(氷の山)の自然林	A	0.0	冷温帯夏緑広葉高木林
31 006	陣鉢山周辺の自然林	A	195.0	
31 022	高鉢山北谷の自然林	A	0.0	
31 028	三徳山の自然林	AH	0.0	
31 034	地獄谷のミズメーサワグルミ群落	D	10.0	
31 037	甲川のサワグルミ林	AD	0.0	
31 038	甲川のクマシデ林	A	0.0	
31 039	大山寺大神山神社のスギ老令林	F	3.0	
31 042	大山の中腹自然林	A	0.0	
31 054	砥波神社のクリーコナラ林	H	0.3	
31 055	扇の山のブナ林	AH	200.0	
31 057	三國山のブナ林(1)	A	500.0	
*31 074	三滝溪谷のブナ林	AG	0.0	
*31 075	大山のミズナラ林(二次林)	FH	0.0	
31 021	鷲峰神社社叢	AE	1.0	暖温帯夏緑広葉高木林
31 036	甲川のイヌシデ林	AH	3.0	
31 046	日野町秋縄のケヤキ林	AGH	1.0	
31 047	別所のコナラーソヨゴ林	FH	1.0	
31 051	三栄のケヤキ林	AH	1.0	
*31 068	甌山のコナラークヌギ林	HF	1.0	
*31 069	久松山のアベマキ林	FH	0.0	
*31 072	権現の森(アサダーヤブツバキ群落)	EH	0.8	
*31 065	東大山域のクロソヨゴ低木群落	HA	0.0	亜熱帯常緑針葉低木林
31 032	御崎のハマヒサカキ群落	CH	0.0	暖温帯常緑広葉低木林
31 002	須賀の山古散岩の風衝低木群落	DG	0.0	冷温帯夏緑広葉低木林
31 024	那岐山の風衝低木林	DH	27.0	
31 035	鳥ヶ山のミヤマハンノキ林	CDH	0.0	
*31 066	黒坂のキシツツジ群落	BC	0.0	
31 025	那岐山山頂草原	D	45.0	冷温帯ササ原
31 060	田代の風衝草原	HD	10.0	冷温帯単子葉草本草原
31 007	唐川湿原植生	DG	1.0	湿地植生
31 056	菅野湿原	DH	1.0	
31 015	鳥取砂丘植生	DH	180.0	海浜植生
《島根》				
32 050	高島暖地性植物群落	H	30.0	暖温帯植生
32 066	島後オキシャクナゲ自生地	B	200.0	
32 077	焼火神社神域植物群落	AE	2.0	
32 025	猿政山ホンシャクナゲ群落	GH	3.0	冷温帯常緑針葉高木林
32 046	河津ツガ・ホンシャクナゲ群落	HG	12.0	
*32 111	鷲ヶ峰のクロベ林	ADE	3.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>【島根】</b>				
*32 112	中谷の針葉樹林	ABD	20.0	冷温帯常緑針葉高木林
*32108-3	南谷の植生(3)	A	10.0	
*32116-1	那久の山地植生(1)	A	20.0	
32 012	松江推恵神社モミ林	E	1.0	暖温帯常緑針葉高木林
32 017	仁多湯野神社モミ林	E	1.5	
32 029	大社海岸クロマツ林	F	22.5	
32 035	波根・久手海岸クロマツ林	DE	55.0	
32 039	五十猛海岸クロマツ林	DE	13.0	
32 040	仁摩海岸クロマツ林	DE	70.0	
32 041	温泉津海岸クロマツ林	DE	90.0	
32 043	浜田海岸クロマツ林	DE	80.0	
32 047	三隅海岸クロマツ林	DE	30.0	
32 057	六日市コウヤマキ林	H	60.0	
32 063	布施春日神社クロマツ林	F	0.5	
32 067	原田クロベ自生林	H	6.5	
32 001	美保関客人神社照葉樹林	AE	2.0	暖温帯常緑広葉高木林
32 002	美保神社照葉樹林	AE	5.0	
32 003	十神山ホウライカズラ自生地	H	1.0	
32 004	伯太永唱禪寺照葉樹林	AE	2.0	
32 007	枕上山照葉樹林	AE	35.0	
32 008	星上山照葉樹林	AE	1.0	
32 009	朝酌多賀神社照葉樹林	AE	2.0	
32 010	八雲志多備神社照葉樹林	AE	4.0	
32 011	八雲盤坂神社照葉樹林	AE	2.0	
32 013	松江楽山照葉樹林	AE	10.0	
32 014	松江城照葉樹林	AE	2.5	
32 015	松江門城寺照葉樹林	AE	2.2	
32 019	朝日山照葉樹林	AE	2.0	
32 020	一畑寺照葉樹林	AE	2.0	
32 021	鱒淵寺照葉樹林	AE	18.0	
32 022	出雲馬木不動尊照葉樹林	AE	2.0	
32 023	竜頭ヶ滝カシ林	AE	2.0	
32 028	出雲大社裏山照葉樹林	AE	30.0	
32 038	大田物部神社照葉樹林	AE	2.0	
32 045	裏匹見峽溪谷林	AE	200.0	
32 051	益田天石勝神社照葉樹林	AE	1.0	
32 052	高津柿本神社照葉樹林	AE	2.0	
32 054	日原カシ群生林	AE	70.0	
32 055	日原三渡八幡照葉樹林	AE	2.0	
32 064	卯敷白須神社照葉樹林	AE	1.0	
32 068	高尾暖地性闊葉樹林	A	10.0	
32 071	原田照葉樹林	AE	2.0	
32 075	御鳥羽上皇御在所跡照葉樹林	AE	1.0	
32 076	海土美保神社照葉樹林	AE	1.0	
*32 079	島田の照葉樹林	A	1.0	
*32 081	東母里の照葉樹林	A	1.0	
*32 082	福富の照葉樹林	A	4.0	
*32 083	長海の照葉樹林	A	1.5	
*32 084	本庄の照葉樹林	A	1.0	
*32 085	南講武の照葉樹林	A	1.0	
*32 086	宮中川の照葉樹林	A	4.5	
*32 087	広瀬、石原の照葉樹林	A	1.0	
*32 088	富田八幡の照葉樹林	A	2.0	
*32 090	真名井の照葉樹林	A	2.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《島根》</b>				
*32 091	八重垣神社の照葉樹林	A	1.0	暖温帯常緑広葉高木林
*32 092	山地神社のアカガシ林	A	2.0	
*32 093	峠之内の照葉樹林	A	0.5	
*32 094	美龍山岩屋寺の社叢	A	1.5	
*32 095	上来待の照葉樹林	A	1.0	
*32 096	菅原の照葉樹林	A	3.0	
*32 097	小境の照葉樹林	A	0.5	
*32 099	所原の照葉樹林	A	2.0	
*32 102	久村の照葉樹林	A	2.5	
*32 103	多陀寺の照葉樹林	A	2.0	
*32 104	大島の照葉樹林	A	1.0	
*32 105	犬來の照葉樹林	A	0.2	
*32 109	西郷町中ノ津の照葉樹林	A	0.2	
*32 113	西村の照葉樹林	A	0.1	
*32 121	安田の照葉樹林	AE	2.0	
*32 122	雲樹寺の樹林	EF	2.0	
*32 123	井尻の照葉樹林	AE	1.0	
*32 124	森山、川崎の照葉樹林	AE	0.5	
*32 125	森山の照葉樹林	AE	1.5	
*32 126	片江の照葉樹林	AE	0.5	
*32 127	菅浦の照葉樹林	AE	0.5	
*32 128	手角の照葉樹林	AE	1.5	
*32 129	北浦の照葉樹林	AE	1.0	
*32 130	野波の照葉樹林	AE	1.0	
*32 131	佐波の照葉樹林	AE	0.5	
*32 132	吉田の照葉樹林	AE	0.5	
*32 133	飯生の照葉樹林	AE	1.0	
*32 134	広瀬の照葉樹林	AE	0.5	
*32 135	損屋の照葉樹林	AE	0.5	
*32 136	下山佐の照葉樹林	AE	0.5	
*32 137	奥谷の照葉樹林	AE	2.0	
*32 138	日野目天神の照葉樹林	AE	1.0	
*32 139	外中原の照葉樹林	AE	2.0	
*32 140	忌部神社の照葉樹林	AE	1.5	
*32 141	玉湯の照葉樹林	AE	0.5	
*32 142	鬼の舌震の樹林	AE	10.0	
*32 143	笹谷の照葉樹林	AE	1.0	
*32 144	海潮の照葉樹林	AE	1.5	
*32 145	小馬木の照葉樹林	AE	1.0	
*32 147	秋鹿の照葉樹林	AE	2.0	
*32 148	佐々布の照葉樹林	AE	1.5	
*32 149	東林木の照葉樹林	AE	1.0	
*32 150	大東の照葉樹林	AE	1.0	
*32 151	三代の照葉樹林	AE	1.0	
*32 152	唐川の照葉樹林	AE	1.0	
*32 158	静間の照葉樹林	AE	1.0	
*32 159	久利の照葉樹林	AE	1.0	
*32 160	仁摩の照葉樹林	AE	1.0	
*32 162	江津の照葉樹林	AE	0.5	
*32 163	有福八幡宮の照葉樹林	AE	0.5	
*32 164	有福温泉福泉寺の照葉樹林	AE	1.0	
*32 165	三隅の照葉樹林	AE	0.5	
*32 168	日原の照葉樹林	AE	0.5	
*32 169	虫追の照葉樹林	AE	2.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《島根》</b>				
*32 172	一の森の照葉樹林	AE	1.0	暖温帯常緑広葉高木林
*32 175	岸浜の照葉樹林	AE	0.5	
*32080-1	清水の照葉樹林(1)	A	5.0	
*32080-2	清水の照葉樹林(2)	A	5.0	
*32100-1	鷺浦の照葉樹林(1)	A	5.0	
*32100-2	鷺浦の照葉樹林(2)	A	5.0	
*32108-1	南谷の植生(1)	A	10.0	
*32108-2	南谷の植生(2)	ABD	10.0	
*32116-2	那久の山地植生(2)	A	20.0	
*32118-1	弁天島の植生(1)	A	4.0	
32 018	船通山ブナ群落	A	65.0	冷温帯夏緑広葉高木林
32 024	猿政山ブナ林	A	2.0	
32 026	毛無山ブナ林	A	60.0	
32 027	大万木山ブナ林	A	80.0	
32 037	三瓶山北斜面ブナ林	A	60.0	
32 044	奥匹見峡溪谷林	AE	100.0	
32 056	安蔵寺山ブナ林	A	140.0	
32 058	鈴の大谷山ホンシヤクナゲ自生地	GH	16.0	
32 061	筋ヶ岳ブナ林	A	270.0	
*32 110	布施のサワグルミ林	AD	3.0	
*32 157	赤来のブナ林	AE	0.0	
32 005	北浦モクゲンジ林	H	0.2	暖温帯夏緑広葉高木林
32 036	赤名湿地性植物群落	D	2.0	
32 059	鈴の大谷山ヘイケイヌワラビ自生地	B	14.0	
*32 117	重栖のハイネズ群落	D	0.5	暖温帯常緑針葉低木林
32 006	笠浦ハマビワ群落	C	1.0	暖温帯常緑広葉低木林
32 048	大島ハマビワ群落	H	1.5	
*32 107	浄土ヶ浦の海岸崖地植生	DH	3.0	
*32118-2	弁天島の植生(2)	BC	4.0	
*32120-1	船越の海岸植生(1)	CDEG	7.5	
32 074	油井モクゲンジ林	H	2.0	暖温帯夏緑広葉低木林
*32 156	邑智のキシツツジ群落	DE	0.0	
*32 166	匹見川のキシツツジ群落	DE	0.0	
*32 167	日原のキシツツジ群落	DE	0.0	
32 060	筋ヶ岳テリハアザミ群落	H	15.0	冷温帯広葉草原
32 065	津井ノ池テツホシダ群落	C	0.2	草本シダ群落
32 078	浦郷オオエゾデングラ群落	C	0.5	
32 033	立久恵峡断崖地植生	D	4.0	岩上、多隙地草本植生
*32 154	鷺浦の断崖地植生	D	2.0	
*32 155	佐田の岩上植物群落	DG	0.0	
*32 161	断魚溪の断崖地植生	D	5.0	
*32 170	日原の崖地植生	D	1.0	
*32 171	上河内のイワタバコ群落	DG	0.5	
*32 173	中村の断崖地植生	DG	0.0	
*32 174	中村のナメルギボウシ群落	B	0.0	
*32 176	五箇のハナゼキシショウ群落	D	0.0	
32 016	伯太インヨウチク群落	B	1.0	タケ形林
32 032	宇竜キンメイモウソウ群落	H	0.5	
32 049	青浦海岸暖地性植物群落	H	2.0	湿地植生
32 073	油井ノ池湿地性植物群落	D	2.0	
*32 089	東岩坂のアンペライ群落	CD	0.1	
*32 106	女池のヒトモトスキ群落	CD	0.5	
32 031	出雲海岸砂丘植生	D	16.0	海浜植生
32 034	湖陵海岸砂丘植生	D	5.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《島根》</b>				
32 042	浅利黒松海岸砂丘植生	D	50.0	海浜植生
32 062	飯ノ浦海岸植生	D	10.0	
32 070	今津トウテイラン群生地	H	0.1	
*32 098	釜浦海岸のホソバワダン群落	CD	2.5	
*32 101	日御埼海岸の崖地草本群落	CD	10.0	
*32 114	伊後の海岸植生	DE	10.0	
*32 115	津戸のダルマガク群落	DE	3.0	
*32 119	宇受賀の海岸崖地植生	DE	1.5	
*32 177	仁具のトウテイラン群落	B	0.0	
*32120-2	船越の海岸植生(2)	CDEG	7.5	
*32 146	鹿島のシロヤマシダ群生地	G	0.5	個体(群)
*32 153	大社のカツモウイノデ自生地	C	1.0	
<b>《岡山》</b>				
33 007	滝山の樹林	AE	50.0	植生一般
33 008	滝の宮の樹林	E	5.0	暖温帯植生
33 009	宗形神社の樹林	E	1.5	
33 028	化気神社の樹林	E	10.0	
33 029	宇甘溪の樹林	E	70.0	
33 030	臥竜山の樹林	E	30.0	
33 036	両児山の樹林	E	3.0	
33 052	無明谷の石灰岩地帯植生	D	15.0	
33 016	遠藤のスキ天然林	A	15.0	冷温帯常緑針葉高木林
*33 058	倉見の天然スキ林	A	3.0	
33 003	滝谷の樹林	E	1.5	暖温帯常緑針葉高木林
33 046	塩滝の蛇紋岩地帯植生	D	20.0	
33 047	天福寺の樹林	E	5.0	
33 048	祇園寺の樹林	E	5.0	
33 049	臥牛山の樹林	E	60.0	
*33 059	山形八幡神社のモミ林	E	1.2	
33 005	八木山の樹林	E	3.0	常緑針葉高木植林
33 045	木山のヒノキ林	F	5.0	
*33 063	布施神社のスキ林	E	0.5	
*33 082	日しょう坂鍾乳穴神社のスキ林	E	1.0	
33 004	高良八幡のウバメガシ林	E	1.0	暖温帯常緑広葉高木林
33 010	本山寺の樹林	E	5.0	
33 011	波多神社の樹林	E	2.5	
33 012	久々井のシノキ林	E	1.0	
33 013	住吉島のウバメガシ林	AE	0.2	
33 014	熊山の樹林	E	1.5	
33 019	黒沢山の樹林	E	5.0	
33 020	中山神社の樹林	E	5.0	
33 021	幻住寺のシノキ林	E	2.0	
33 022	西幸神社のシノキ林	E	1.0	
33 023	北山神社の樹林	E	3.0	
33 024	両山寺の樹林	E	3.0	
33 025	仏教寺のシノキ林	E	3.0	
33 026	志呂神社のシノキ林	E	5.0	
33 027	布都美魂神社のシノキ林	E	4.0	
33 031	金山八幡宮の樹林	E	1.0	
33 032	竜ノ口の樹林	E	10.0	
33 033	九谷の樹林	BE	2.0	
33 035	吉川八幡神社のシノキ林	E	1.0	
33 037	瑜伽山のシノキ林	E	2.0	
33 043	神庭の樹林	E	2.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《岡山》</b>				
33 044	城山の樹林	E	10.0	暖温帯常緑広葉高木林
33 050	御前神社の樹林	E	2.0	
33 051	猿掛の樹林	E	4.0	
33 055	穴門山神社の樹林	BE	6.7	
33 056	道祖溪の樹林	E	5.0	
*33 060	宇佐八幡宮のアラカシ林	E	0.0	
*33 061	牛窓神社のヤマモモ・クロガネモチ林	E	4.8	
*33 064	大井神社のアラカシ林	E	2.0	
*33 065	柳田八幡神社のヤマモモ林	E	1.2	
*33 066	祇園神社のウバメガシ林	E	1.0	
*33 068	熊野神社のタブノキ林	E	0.6	
*33 070	長田神社のアラカシ林	E	1.3	
*33 071	八幡宮のアラカシ林	E	0.2	
*33 072	福神社のアラカシ林	E	0.4	
*33 073	山神社のシリブカガシ林	E	0.8	
*33 074	天神社のシイノキ林	E	0.2	
*33 075	石立神社のシイノキ林	E	1.2	
*33 076	熊野神社のツクバネガシ林	E	0.4	
*33 077	幣氏神社のアカガシ林	E	0.7	
*33 078	境神社のアラカシ林	E	0.2	
*33 079	八幡神社のシラカシ林	E	0.5	
*33 080	徳蔵神社のツブラジイ林	E	1.0	
*33 081	神田八幡宮のウバメガシ林	E	0.5	
33 001	若杉のブナ林	A	50.0	冷温帯夏緑広葉高木林
33 002	後山の天然林	A	110.0	
33 015	高清水高原のブナ林	A	30.0	
33 018	大空山のブナ林	A	25.0	
33 039	上蒜山のブナ林	A	15.0	
33 041	朝鍋のブナ林	A	7.0	
33 042	神庄のブナ林	A	250.0	
33 040	湯本のケヤキ林	E	1.0	暖温帯夏緑広葉高木林
33 053	荒戸山の樹林	E	8.0	
*33 062	山乗山のブナ林	A	30.0	冷温帯夏緑広葉低木林
33 006	鹿久居島の湿原植物群落	D	0.5	湿地植生
33 017	新古屋の湿地植物群落	D	0.5	
33 034	日応寺の湿原植物群落	D	0.1	
33 038	蛇ヶ川の湿原植物群落	D	0.7	
33 054	鯉ヶ窪の湿原植生群落	D	2.0	
*33 057	細池湿原の湿生植物群落	D	2.5	
*33 067	東湿原のミツガシワ群落	D	2.1	
*33 069	竜頭峽のアテツマンサク林	B	1.0	個体(群)
<b>《広島》</b>				
34 020	岳山の自然林	E	143.0	植生一般
34 036	八国見山の自然林	E	80.6	
34 037	神之瀬峽の自然林	E	75.0	
34 062	白木山の自然林	E	300.0	
34 063	南原峽の自然林	E	925.0	
34 084	滝山峽の峡谷植生	A	336.2	
34 088	安中峽の峡谷植生	A	245.0	
34 091	石ヶ谷峽の峡谷植生	A	389.8	
34 097	東郷山の天然スギ学術参考保護林	A	15.6	
34 110	三段峽の峡谷植生	A	250.0	
34 114	細見谷の溪谷植生	A	300.0	
34 012	道後山の低木群落	CE	71.0	冷温帯植生

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《広島》</b>				
34 115	大峯山の天然林	A	39.9	冷温帯植生
34 001	仙嶽の石灰岩植生	AD	22.7	暖温帯植生
34 002	魚切溪谷の峡谷植生	AD	73.0	
34 005	毘沙門岩の峡谷植生	AD	41.8	
34 008	阿下川の峡谷植生	E	54.3	
34 013	猫山の蛇紋岩植生	D	60.0	
34 018	帝釈峡の峡谷植生	AD	1561.0	
34 019	諏訪神社のシラカシ林、コケ群落	E	0.5	
34 039	津田の明神山の自然林	E	66.7	
34 042	黒川の明神山の自然林	E	20.0	
34 047	鶴亀山の社叢	E	1.4	
34 053	常清滝の峡谷植生	E	54.1	
34 054	小掛峡の峡谷植生	E	52.5	
34 059	鎌倉寺山の自然林	A	160.0	
34 064	福王寺山の自然林	A	137.0	
34 072	柏島の自然林	E	39.7	
34 074	白岳山の石灰岩植生	D	39.0	
34 087	宇賀峡・瀬谷の峡谷植生	E	755.0	
34 116	東山溪谷の峡谷植生	A	132.0	
34 118	万古溪の峡谷植生	A	64.1	
34 119	羅漢溪谷の峡谷植生	A	136.0	
34 122	大滝神社の社叢	E	1.5	
34 124	弥栄峡の峡谷植生	ED	126.0	
34 030	上湯川の八幡神社々叢	E	1.7	冷温帯常緑針葉高木林
34 089	龍頭峡の天然林	A	31.4	
34 006	上豊松李八幡社叢	E	0.5	暖温帯常緑針葉高木林
34 011	当木島・釜戸岬の海岸林	E	2.2	
34 035	釜峰山のアベマキ林	F	6.0	
34 043	沼田西のエヒメアヤメ自生南限地帯	C	1.1	
34 044	忠海黒滝山のアカマツ林	EG	25.0	
34 048	忠海のウバメガシ樹叢	E	0.1	
34 049	豊浜のホルトノキ群叢	C	0.4	
34 056	壬生の社叢	E	1.0	
34 058	竹仁のツクシジャクナゲ群落	B	92.0	
34 090	湯の山のアカマツ林	A	85.1	
34 096	恵下谷山コウヤマキ保護林	A	1.5	
34 100	大森八幡神社の社叢	E	1.2	
34 102	弥山原始林	A	159.0	
34 104	宮島のアカマツ林	B	2417.6	
34 105	ベニマンサク群落	B	100.0	
34 117	津田八幡神社の社叢	E	1.1	
34 123	三倉岳の自然林	A	499.0	
34 014	熊野神社の老杉	E	7.0	常緑針葉高木植生
34 034	甲山城跡の森林	E	19.0	
34 050	安浦柏島の森林	E	9.0	
34 080	寒曳山のヒメシャガ群落	D	0.1	
34 111	キレンゲシヨウマ群落	8G	0.2	
34 003	下豊松鶴岡八幡社叢	E	0.5	暖温帯常緑広葉高木林
34 007	油木八幡神社の社叢	E	12.5	
34 022	宇津戸領宇八幡神社の社叢	E	1.0	
34 024	赤屋八幡神社の社叢	E	0.1	
34 027	向島立花のウバメガシ林	E	4.5	
34 028	御調八幡宮の社叢	E	2.5	
34 029	垂水天満宮のウバメガシ群落	E	1.4	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《広島》				
34 040	岩屋寺の自然林	E	30.0	暖温帯常緑広葉高木林
34 041	尾関山公園の森林	E	10.0	
34 045	忠海八幡神社の社叢	B	0.0	
34 046	竹村寺・用倉山・深山峡の自然林	A	446.9	
34 051	殿河内の社叢	CF	2.0	
34 055	宮崎神社の社叢	E	0.7	
34 061	志路平藪神社の社叢	E	0.7	
34 067	切幡神社のシイ林	E	1.0	
34 068	馬木八幡神社の社叢	E	1.2	
34 070	亀山神社の社叢	E	0.6	
34 071	田戸のシイ林	A	3.0	
34 075	神田神社の社叢	E	0.4	
34 076	八幡山神社の社叢	E	2.0	
34 078	桂浜神社の社叢	E	0.3	
34 079	龍山八幡神社の社叢	E	3.7	
34 085	筒瀬八幡社の社叢	E	0.2	
34 086	養山八幡神社の社叢	E	0.1	
34 092	光広神社の社叢	E	0.4	
34 093	宇那木神社の社叢	E	0.5	
34 094	二葉山のシリブカガシ林	E	2.5	
34 095	向宇品のシイ林	A	21.4	
34 098	極楽寺モミ自然林	A	30.9	
34 015	比婆山のブナ純林	A	150.0	冷温帯夏緑広葉高木林
34 016	吾妻山のサワグルミ群落	A	0.1	
34 017	吾妻嶺原谷の自然林	E	87.5	
34 031	上湯川のサワグルミ林	A	52.0	
34 032	大万木山の天然林	A	175.0	
34 033	指谷山の天然林	A	88.3	
34 057	鷹ノ巣山モミ・ブナ混交林	A	6.5	
34 082	大朝町の天狗シデ群落	B	7.0	
34 107	臥竜山のブナ林	A	140.0	
34 113	恐羅漢山のブナ林	A	100.0	
34 121	冠山のブナ林	A	100.0	
34 004	山野峡の峡谷植生	E	0.5	暖温帯夏緑広葉高木林
34 010	藤尾溪谷の峡谷植生	A	135.0	
34 023	男鹿山スズラン南限地	C	52.0	
34 025	久井の岩海の岩上植生	D	60.0	
34 021	矢野の岩海の岩上植生	D	60.0	暖温帯常緑広葉低木林
34 073	白崎の海岸崖地群落	D	0.8	
34 126	弥栄峡のゲンカイツツジ群落	G	3.5	暖温帯夏緑広葉低木林
34 109	深入山の草原	E	100.0	冷温帯単子葉草本草原
34 101	小なぎり谷のヒトモトススキ群落	D	0.2	暖温帯単子葉草本草原
34 009	オニバス群落	D	12.0	浮葉・沈水植物群落
34 038	四十貫の池の水生物群落	D	0.8	
34 060	大沢湿原	D	56.6	湿地植生
34 065	御園宇大池湿原	D	1.0	
34 066	郷田湿原	D	0.5	
34 081	追坂湿原（田原湿原）	D	10.0	
34 083	枕湿原	D	0.8	
34 099	極楽寺山の湿原	D	0.8	
34 108	八幡湿原	D	6.0	
34 112	牛小屋の湿原	D	0.4	
34 120	越ヶ原湿原	D	0.7	
34 026	松永湾の塩生植物群落	D	62.5	海浜植生

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《広島》				
34 052	大崎下島の海岸崖地群落	D	5.0	海浜植生
34 103	多々良潟の塩沼地植生	D	0.2	
34 106	柿木鼻の砂浜植生	D	2.0	
34 125	弥栄峡の湿原	DG	0.2	
《山口》				
35 005	寂地山のブナ林	ABGH	500.0	冷温帯植生
35 027	明神藪	AE	3.0	暖温帯植生
35 029	蝦蟇山樹林	AE	80.0	
35 048	中尾洞口付近の植物群落	A	0.2	
35 051	吉部大岩郷の植生	A	15.0	
35 056	万倉大岩郷の植生	A	27.0	
35 007	寂地峡のゴヨウマツ群落	DEG	24.0	暖温帯常緑針葉高木林
35 008	大原のシャクナゲ群生地	GH	20.0	
35 010	二鹿のシャクナゲ群生地	G	0.5	
35 013	黒岩峡のドウダンツツジ群生地	BG	10.0	
35 018	皇座山渠塊岩地植物群落	DG	0.5	
*35 082	楳社八幡宮社叢	AE	0.7	
*35 112	竜文寺樹林	EF	6.0	
*35 130	滑山国有林のモミ・ツガ天然林	AEH	10.0	
*35 142	大島のクロマツ防風林	E	20.0	
*35 155	三島神社社叢	ADEH	0.4	
*35 168	青海島の海岸風衝群落	CE	10.0	
*35 178	天井ヶ岳のモミ林	AGH	50.0	
*35 197	吉母黒島樹林	AE	1.0	
35 037	滑山国有林のモミ人工林	FH	2.0	常緑針葉高木植林
35 045	大正洞口付近の植物群落	ABG	1.0	
*35 071	神山神社社叢	H	0.5	
*35 192	狗田孫山スギ林	EFH	2.0	
35 001	下田八幡宮社叢	AE	1.0	暖温帯常緑広葉高木林
35 002	亀島ウバメガシ群落	A	5.0	
35 009	岩国城山のシイ林	AE	30.0	
35 011	あゆ原剣神社社叢	AE	1.0	
35 015	志度石神社社叢	AE	2.0	
35 016	出井神社社叢	AE	4.0	
35 017	志駄岸神社社叢	AE	3.5	
35 019	尾国賀茂宮社叢	AE	0.5	
35 022	蒲井八幡宮社叢	AE	2.0	
35 024	根笠観音樹林	ABEH	1.5	
35 026	水見神社社叢	AGE	19.0	
35 028	河内神社社叢	EF	0.5	
35 030	小祝島樹林	AE	53.0	
35 031	御山神社社叢	AE	1.0	
35 032	姫島樹林	AHE	5.0	
35 034	金郷溪樹林	AGHE	10.0	
35 038	出雲神社社叢	ABGE	2.0	
35 039	花尾八幡宮社叢	AE	4.0	
35 040	玉祖神社社叢	ABGE	0.5	
35 042	指月山樹林	AE	19.0	
35 047	秋芳洞口付近の植物群落	A	5.0	
35 049	熊野神社のツルマンリョウ自生地	ABEH	0.5	
35 052	竹島樹林	AE	4.0	
35 057	南原寺のシイ林	AE	1.0	
35 058	神功皇后社社叢	AEH	0.5	
35 059	黒石八幡宮社叢	AE	1.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《山口》</b>				
35 060	千珠樹林	AE	41.5	暖温帯常緑広葉高木林
35 061	満珠樹林	AE	7.4	
35 063	七神社社叢	AE	1.0	
35 064	客大明神社叢	AE	0.5	
35 065	狗留孫山のアカガシ群落	AB	30.0	
35 066	乞月山樹林	AE	3.0	
35 067	蓋井島のヒゼンマユミ群落	AGH	1.0	
35 068	住吉神社社叢	AEH	0.7	
35 069	赤間宮社叢	AEH	1.0	
*35 070	和佐八幡宮社叢	AE	0.2	
*35 073	長尾八幡宮社叢	AE	1.0	
*35 078	榊八幡宮社叢	AE	0.8	
*35 079	椎尾八幡宮社叢	AE	0.5	
*35 080	椎尾八幡宮社叢	AE	1.5	
*35 081	二井寺山樹林	AE	17.0	
*35 084	城山樹林	ABEH	100.0	
*35 085	松原（三丘）八幡宮社叢	AE	0.5	
*35 086	東荷神社社叢	AE	1.0	
*35 087	岩尾観音樹林	AE	1.0	
*35 088	般若寺樹林	AE	20.0	
*35 089	無動寺樹林	BAE	1.0	
*35 090	石城山樹林	AEH	25.0	
*35 091	高松八幡宮社叢	AE	1.5	
*35 092	須賀社（大和八幡宮）社叢	AE	1.0	
*35 094	賀茂（室津）神社社叢	AE	0.8	
*35 095	白井田八幡宮社叢	AE	0.8	
*35 097	亀山八幡宮の社叢	AE	0.3	
*35 100	双津峡溪谷林	D	30.0	
*35 101	河内神社社叢	AE	1.0	
*35 102	亀山八幡宮社叢	E	2.0	
*35 104	二俣神社社叢	AE	0.6	
*35 105	熊野神社社叢	AE	1.5	
*35 106	権現社（桜田神社）社叢	AE	0.4	
*35 107	降松神社社叢	AE	2.0	
*35 108	中須八幡宮社叢	AE	1.0	
*35 109	降松神社（中宮）社叢	AE	40.0	
*35 110	花岡八幡宮社叢	AE	1.0	
*35 111	須々万八幡宮社叢	E	1.5	
*35 113	周方神社社叢	AE	2.0	
*35 114	遠石八幡宮社叢	AE	2.0	
*35 115	高瀬峡溪谷林	D	500.0	
*35 117	深浦八幡宮社叢	AE	0.8	
*35 119	武氏八幡宮社叢	AE	0.2	
*35 120	笠松神社社叢	AE	0.2	
*35 122	菅原社（片山天神）社叢	AE	0.2	
*35 127	生雲の石灰岩植生	DH	10.0	
*35 135	舟山八幡宮社叢	AE	0.3	
*35 137	黒髪島常緑樹林	AE	1.0	
*35 138	阿弥陀寺樹林	AE	10.0	
*35 143	厳島神社のイスノキ林	AE	0.1	
*35 150	鱈島樹林	AE	35.0	
*35 151	六所神社社叢	AE	1.3	
*35 153	今八幡宮社叢	AE	0.5	
*35 154	鴻の峰樹林	E	2.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《山口》				
*35 158	壬生神社社叢	AE	0.4	暖温帯常緑広葉高木林
*35 159	岩永八幡宮社叢	AE	0.7	
*35 162	龍蔵寺樹林	E	2.0	
*35 163	中郷八幡宮社叢	AE	1.0	
*35 164	中領八幡宮社叢	AE	0.3	
*35 165	浄福寺樹林	AE	0.1	
*35 170	八王子山社叢	AEH	2.0	
*35 171	日置八幡宮社叢	AE	1.5	
*35 174	伊上八幡宮社叢	AE	1.0	
*35 175	渋木八幡宮社叢	AE	2.0	
*35 177	安徳天皇御陵墓樹叢	AE	0.5	
*35 180	神上寺樹林	AE	0.5	
*35 183	別府八幡宮社叢	AE	1.0	
*35 184	松岳山正法寺樹林	AE	28.0	
*35 185	山野井八幡宮社叢	AE	0.8	
*35 186	吉部田八幡宮社叢	AE	1.0	
*35 187	中山溪溪谷林	A	25.0	
*35 188	川尻岬の樹林	A	8.0	
*35 189	江の島樹林	AE	0.3	
*35 191	住吉神社社叢	AE	0.8	
*35 195	吉見竜王神社社叢	AE	1.0	
*35 196	若宮神社社叢	AE	0.3	
35 006	常国のマンシュウボダイジュ群落	BH	10.0	冷温帯夏緑広葉高木林
35 025	長野山連山のブナ林	A	10.0	
35 035	滑山国有林のブナ林	A	35.0	
35 036	滑山国有林のアカマツ林	EH	10.0	
*35 076	羅漢山の落葉広葉樹林	AH	20.0	
*35 096	大将陣の落葉広葉樹林	AE	20.0	
*35 098	高岳のブナ林	A	2.0	
*35 103	ブナ原のブナ林	AH	30.0	
*35 134	物見岳のブナ林	GH	0.5	
35 014	源明山集塊岩地植物群落	DG	5.0	暖温帯夏緑広葉高木林
35 020	牛島のモクゲンジ群生地	B	1.0	
35 021	八島のイワシデ群生地	D	25.0	
*35 125	地福のサクラバハノキ群落	BDH	0.2	
*35 131	長者ヶ原のクヌギ林	E	15.0	
*35 132	崖石峡溪谷林	D	260.0	
*35 176	入見の石灰岩壁植物群落	D	0.1	
35 043	荒谷のヤマグチカナワラビ群落	AG	1.0	暖温帯常緑広葉低木林
35 055	白滝山のツゲ群落	AGH	20.0	
*35 167	日崎の常緑樹林	AE	0.1	
*35 182	華山のアセビ林	EH	6.0	
35 054	一位ヶ岳ベニドウダン群落	H	3.0	冷温帯夏緑広葉低木林
*35 126	嘉年土居(入戸)石灰岩植生	DH	0.2	
35 003	大水無瀬島アコウ自生地	C	36.0	暖温帯夏緑広葉低木林
35 004	小水無瀬島アコウ自生地	C	23.0	
*35 128	佐々連の石灰岩植生	DH	3.0	
*35 152	宮野のサクラバハノキ林	BH	0.2	
*35 179	天井ヶ岳のアオモジ群落	C	0.2	
*35 124	十種ヶ峯のチマキザサ群落	E	5.0	冷温帯ササ原
35 046	秋吉台アカネスゲ個体群	BC	100.0	暖温帯単子葉草本草原
*35 157	秋吉台草原	BE	1270.0	
35 041	笠山風穴植物群落	BG	1.0	岩上、多隙地草本植生
*35 093	平群島のイワシデ群落	BH	30.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《山口》				
35 012	祖生湿地植物群落	D	7.5	湿地植生
35 033	宇生賀のミツガシワ群落	DH	0.2	
35 044	二反田のカキツバタ群落	D	0.5	
35 050	阿知須町湿地植物群落	DE	10.0	
*35 083	中山の湿地植物群落	BDGH	40.0	
*35 123	徳佐平丸のヌマガヤ群落	CDH	0.3	
*35 160	吉田の水湿地植物群落	DGH	0.0	
*35 166	阿知須町のヌマガヤ群落	DH	2.0	
35 053	二位の浜ハマオモト群落	CGH	0.2	海浜植生
35 062	角島のハマオモト群落	CG	0.1	
*35 148	笠山のハマボウ群落	CDH	0.5	
*35 173	伊上浦のハマボウ群落	C	0.5	
*35 072	浮島のホルトノキ群落	H	0.0	個体(群)
*35 074	寂地山のオオヤマレンゲ群落	CH	0.5	
*35 075	寂地山のカタクリ群落	C	500.0	
*35 077	寂地山のサラサドウダン群生地	C	0.5	
*35 099	高岳のベニドウダン群生地	B	0.1	
*35 116	森様	E	0.0	
*35 118	祝島のケグワ自生地	B	0.1	
*35 121	船平山群生のレンゲツツジ	H	0.3	
*35 129	滑山国有林シダ群生地	BH	1.0	
*35 133	ゴシヨイチゴ群生地	BH	0.5	
*35 136	宮野のミツガシワ自生地	CH	0.1	
*35 139	稔畑のノハナショウブ自生地	DG	0.0	
*35 140	西の浦エヒメアヤメ自生南限地帯	C	1.0	
*35 141	櫃島のヒゴタイ・ヒメユリ群生地	BH	0.2	
*35 144	笠山のタマシダ群落	CH	0.1	
*35 145	コウライクチバナ自生地	BCH	0.5	
*35 146	笠山のダルマガキ群落	BCH	1.0	
*35 147	笠山のバクチノキ自生地	CH	0.1	
*35 149	川上のユズおよびナンテン自生地	BH	0.3	
*35 156	ビッチュウヒカゲワラビ群生地	BH	0.1	
*35 161	小郡町ナギ自生北限地帯	C	0.1	
*35 169	八王子山クチバナ自生地	C	5.0	
*35 172	日吉神社のオガタマノキ巨樹群	C	0.3	
*35 181	アオネカズラ群生地	DG	0.1	
*35 190	阿川八幡宮イヌマキ巨樹群	EH	0.5	
*35 193	コウヤミズキ群落	BC	50.0	
*35 194	小串エヒメアヤメ自生南限地帯	CH	26.0	
《徳島》				
36 051	剣山の冷温帯並びに亜寒帯樹林	A	680.0	植生一般
36 054	石立山の高山植物群落	C	20.0	
36 058	矢筈山、烏帽子山の冷温帯林	A	300.0	冷温帯植生
36 024	焼山寺の中間温帯林	A	25.0	暖温帯植生
36 027	杖谷山の石灰岩植物群落	D	15.0	
36 029	大美谷の蛇紋岩植物群落	D	20.0	
36 039	出羽島大池のシラタマモ自生地	C	2.0	
36 065	雲辺寺山の中間温帯林	A	4.0	
36 055	池野河山のスキ天然林	A	150.0	冷温帯常緑針葉高木林
*36 081	三嶺のウラジロモミ林	A	14.0	
*36 082	折宇谷のコウヤマキ林	D	0.5	
36 015	太龍寺山のカヤ林	A	4.0	暖温帯常緑針葉高木林
36 030	臼ヶ谷のカヤ林	A	2.0	
36 045	脇町御所神社のシイ林	E	1.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《徳島》</b>				
36 028	沢谷のタヌキノシヨクダイ発生地	C	1.0	常緑針葉高木植林
36 001	伊島の暖地性植物群落	A	10.0	暖温帯常緑広葉高木林
36 004	大麻山の暖地性植物群落	A	50.0	
36 006	徳島市城山の原生林	A	6.0	
36 007	眉山の暖地性植物群落	E	5.0	
36 011	海正八幡の暖地性植物群落	A	1.0	
36 012	金磯のアコウ自生地	C	1.0	
36 013	勝浦町中山の暖地性植物群落	A	1.0	
36 014	長生の暖地性植物群落	E	0.5	
36 017	北河内のタチバナ自生地	H	1.0	
36 018	蕪王寺のシイ林	E	4.0	
36 019	馬地八幡神社の暖地性植物群落	A	1.0	
36 020	宮川内のウバメガシ林	A	0.1	
36 021	敷島神社のコジイ林	E	2.0	
36 031	水崎のカシ林	E	0.5	
36 032	喜来のナギ林	H	0.5	
36 033	古屋春日神社のコジイ林	E	1.0	
36 034	成瀬神社のアカガシ林	E	0.5	
36 035	上那賀町礫神社のアカガシ林	E	1.0	
36 036	轟ノ滝カシ林	A	10.0	
36 037	大島のタチバナ自生地	H	3.0	
36 038	津島の暖地性植物群落	A	8.0	
36 040	奥浦のヤッコソウ北限地	C	1.0	
36 041	櫛川のヒロハミズバイ林	C	1.0	
36 042	那佐半島のアオギリ林	H	20.0	
36 043	鈴ヶ峰のヤッコソウ自生地	C	5.0	
36 044	穴喰町八坂・八幡神社のシイ林	E	5.0	
36 047	宮内のコジイ林	E	1.0	
36 067	平賀神社のカシ林	E	1.0	
*36 069	鳴門市阿波井神社のスダジイ林	A	1.2	
*36 072	鳴門市春日神社のスダジイ林	A	0.7	
*36 075	網代崎のスダジイ林	A	2.0	
*36 076	海南町大里八幡神社のスダジイ林	A	0.3	
*36 077	海部町小島のスダジイ林	A	1.0	
*36 078	海部町王子神社のコジイ林	A	0.5	
*36 084	三加茂町新田神社のアラカシ林	A	0.7	
*36 086	井川町岩坂山ノ神のアカガシ林	A	0.1	
36 025	柴小屋のブナ林	A	20.0	冷温帯夏緑広葉高木林
36 026	雲早山のブナ林	A	25.0	
36 046	高越山のブナ林	A	15.0	
36 063	国見山のブナ林	A	30.0	
36 068	野鹿池山のシャクナゲ群落	B	2.0	
*36 074	高城山のブナ林	A	251.0	
*36 079	肉刈谷のブナ林	A	101.0	
*36 080	三嶺のブナ林	A	495.0	
*36 083	大川山のイヌシデ林	H	1.5	
36 049	ボロボロ滝のケヤキ林	A	2.0	暖温帯夏緑広葉高木林
36 056	箸蔵寺の暖地性植物群落	E	2.0	
36 057	井川町新田神社の中間温帯林	A	1.0	
36 002	飛島のイブキ群落	G	1.0	暖温帯常緑針葉低木林
36 010	弁天島熱帯性植物群落	A	0.2	暖温帯常緑広葉低木林
*36 073	蒲生田岬のウバメガシ林	A	11.8	
36 022	大川原高原のツツジ群落	B	20.0	冷温帯夏緑広葉低木林
36 048	船窪のツツジ群生地	B	5.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《徳島》</b>				
36 023	鷺敷ラインの河床植物群落	D	20.0	暖温帯夏緑広葉低木林
36 053	高の瀬峡の石灰岩植物群落	D	50.0	
36 059	東祖谷のイヤギボウシ群生地	G	1.0	
36 064	大歩危の河床植物群落	D	5.0	
36 060	三嶺、天狗塚のコメツツジ群落	B	340.0	冷温帯ササ原
36 050	申太郎山のモミジカラマツ・レンゲショウマ群落	B	1.5	冷温帯広葉草原
36 066	塩塚峰のオオバギボウシ群落	B	10.0	暖温帯単子葉草本草原
36 005	木津の沼沢植物群落	D	10.0	浮葉・沈水植物群落
36 062	中津山のジュンサイ群生地	D	0.2	
36 016	蒲生田のアンペライ自生地	D	2.0	湿地植生
36 061	黒沢の湿原植物群落	D	20.0	
*36 071	吉野川河口のヨシ群落	D	15.5	
*36 085	井川町多美湿原	D	0.9	
*36 087	西祖谷山村水ノ口湿原	D	5.5	
36 008	籠の塩生植物群落	D	0.3	海浜植生
*36 070	松茂町月見ヶ丘海岸の砂丘植生	D	0.4	
<b>《香川》</b>				
37 006	チョウジガマズミ林	B	0.2	暖温帯常緑針葉高木林
37 010	白鳥海岸のクロマツ林	E	6.7	
37 013	津田海岸のクロマツ林	E	4.0	
37 023	大麻神社社叢	E	9.4	
37 032	有明浜のクロマツ林	E	12.5	
37 018	大滝山のオオタチツボスミレ生育地	C	1.0	常緑針葉高木植林
37 001	当浜のヤブツバキ林	A	0.8	暖温帯常緑広葉高木林
37 002	福田八幡宮社叢	E	0.3	
37 003	清滝山のアカガシ林	A	5.1	
37 008	内海八幡宮社叢（ウバメガシ）	E	3.0	
37 009	相生地主神社社叢（ツブラジイ）	E	0.2	
37 011	水主神社社叢（ツブラジイ）	E	4.4	
37 012	石清水八幡神社社叢（イヌノキ）	E	0.3	
37 014	皇子神社社叢（ウバメガシ）	E	1.3	
37 015	屋島北嶺のウバメガシ林	E	15.0	
37 016	大窪寺社叢	A	0.5	
37 017	藤尾神社社叢	E	37.0	
37 021	八幡神社社叢（ウラジロガシ）	E	0.4	
37 024	琴平山の照葉樹林	A	125.0	
37 025	島原八幡神社社叢	E	3.3	
37 026	天川神社社叢	E	3.8	
37 028	巖島神社の社叢（タブノキ）	E	0.0	
37 029	弥谷山のウバメガシ林	E	5.0	
37 030	荘内半島のウバメガシ林	E	31.3	
37 031	菅生神社の社叢（ツブラジイ）	E	1.1	
*37 034	豊島のシイ林	E	0.5	
37 020	大滝山のブナ林	A	5.0	冷温帯夏緑広葉高木林
37 027	大川山のイヌシデ林	A	5.0	
37 005	寒霞溪のショウドシマレンギョウ群落	B	0.0	暖温帯夏緑広葉高木林
37 019	大滝山のケヤキ林	F	3.0	
37 007	坂手のアベマキ林	F	6.0	夏緑広葉高木植林
37 004	寒霞溪鹿岩のイワシデ林	BD	2.0	暖温帯夏緑広葉低木林
37 033	有明浜のウンラン生育地	G	6.3	海浜植生
*37 035	木沢塩田跡のアッケシソウ群落	BDG	20.0	
<b>《愛媛》</b>				
38 023	石鎚山のシコクシラベ林	AH	50.0	亜寒帯常緑針葉高木林
38 005	東赤石山のクロベヘヒメコマツ群落	AC	200.0	冷温帯常緑針葉高木林

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《愛媛》</b>				
38 006	東赤石山のインヅチザクラ	H	30.0	冷温帯常緑針葉高木林
38 007	東赤石山のコムツガ林	B	3.0	
38 018	瓶ヶ森のウラジロモミ林	A	10.0	
38 047	篠山のコウヤマキ林	AH	2.0	
38 048	篠山のハリモミ林	AH	2.0	
38 001	奥ノ院の寺叢	E	5.0	暖温帯常緑針葉高木林
38 020	西之川大宮神社の社叢	E	1.0	
38 025	面河山のモミ・ツガ林	A	25.0	
38 032	恵良山のビャクシン林	D	1.0	
38 036	御三戸の石灰岩植物群落	D	1.5	
38 022	石鎚山土小屋のヒノキ植林	F	50.0	常緑針葉高木植林
38 034	腰折山のエヒメアヤメ	CG	1.0	
38 010	銅山峰のカラマツ植林	F	50.0	夏緑針葉植林
38 011	銅山峰の風衝地カラマツ植林	F	2.0	
38 012	銅山峰のアカモノ	D	35.0	
38 002	奥ノ院のシラカシ林	A	2.0	暖温帯常緑広葉高木林
38 003	高井神島のナタオレノキ	H	0.2	
38 004	城師山城神社のウラジロガシ林	AE	1.0	
38 015	出口のアラカシ林	E	0.5	
38 016	喜多浦八幡大神社の照葉樹林	A	1.0	
38 028	御串山の照葉樹林	A	0.3	
38 031	藤野々アラカシ林	A	1.0	
38 035	松山城山の照葉樹林	AE	30.0	
38 044	双海町三島神社の照葉樹林	AE	1.0	
38 045	大州八幡神社の照葉樹林	AE	0.5	
38 050	金山出石寺のアカガシ林	A	2.0	
38 058	鹿島の照葉樹林	A	80.0	
*38 065	岩神社のホルトノキ群落	F	1.0	
38 049	御荘大島の照葉樹林	AE	2.5	常緑広葉高木植林
38 021	岩黒山のダケカンバ林	AC	5.0	亜寒帯夏緑広葉高木林
38 030	高縄山のブナ林	A	6.0	冷温帯夏緑広葉高木林
38 038	四国カルストのブナ林	D	45.0	
38 039	小屋山のブナ林	A	75.0	
38 059	鹿島のアオギリ林	AH	6.0	暖温帯夏緑広葉高木林
38 013	銅山峰のツガザクラ	GH	5.5	冷温帯常緑広葉低木林
38 041	津和地島氏神鼻のカシワ	H	0.0	暖温帯常緑広葉低木林
38 051	沖の島のアコウ群落	A	0.1	
38 053	須の川のウバメガシ林	AD	1.5	
38 056	御五神島の照葉樹林	A	2.0	
38 061	佐田岬のハマヒサカキ群落	A	2.0	
*38 073	堂崎のウバメガシ群落	A	1.0	
38 019	瓶ヶ森のインヅチザクラ	B	0.5	亜寒帯夏緑広葉低木林
*38 068	笹ヶ峰のオオイタヤマイゲツ群落	AE	0.3	
38 037	大川嶺のダイセンミツバツツジ群落	AE	100.0	冷温帯夏緑広葉低木林
38 046	篠山のアケボノツツジ群落	AE	3.0	
38 054	日振島のコササキビトノアサガオ	CH	0.0	暖温帯夏緑広葉低木林
*38 076	戸島のチョウジガマズミ群落	B	0.5	
38 027	堂ヶ森のシコクイチゲ群落	BD	0.1	冷温帯ササ原
38 040	大野ヶ原の石灰岩植生	D	20.0	
38 024	石鎚山の高山性植物群落	D	1.0	亜寒帯広葉草原
*38 069	寒風山の亜高山性植物群落	CDH	0.0	
38 008	赤石山の高山性植物群落	DH	20.0	冷温帯広葉草原
38 009	東赤石山のコケモモとウバタケニンジン	DH	0.2	
38 026	高瀬のキレンゲショウマ群落	BH	0.1	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>〈愛媛〉</b>				
38 033	腰折山の安山岩植物群落	D	1.0	暖温帯広葉草原
38 060	小地島のヒロウ群落	CH	0.3	ヤシ形林
38 017	蛇池の湿地植物群落	D	1.2	湿地植生
38 014	国領川河口の塩生植物群落	D	0.5	海浜植生
38 029	台川口の塩生植物群落	D	1.0	
38 052	沖の島の海浜植物群落	DG	2.5	
38 055	御五神島の海岸植生	D	2.0	
*38 062	玉取山のシロヤシオ	HG	0.2	個体(群)
*38 063	東赤石山のチョウセンゴヨウ	BH	2.0	
*38 064	石鎚山のハクサンシャクナゲ	CH	1.0	
*38 066	宇和島権現山のテツリンジュ	BH	1.0	
*38 067	富郷のツゲ	DG	0.3	
*38 070	寒風山のテバコマンテマ	BGH	0.0	
*38 071	小田深山のカタクリ群落	GH	0.3	
*38 072	日吉村野々谷のズイナ群落	G	0.1	
*38 074	鬼ヶ城のホンシャクナゲ群落	AG	9.0	
*38 075	津島町のトキワバイカツジ群落	B	3.0	
<b>〈高知〉</b>				
39 035	笹ヶ峰・寒風山と周辺の植生	ACD	1850.0	植生一般
39 044	安居溪谷の森林	A	130.0	
39 072	黒尊山地の森林	A	310.0	
39 013	三嶺・西熊山の植生	AD	2250.0	冷温帯植生
39 016	青ザレ山と周辺の植生	A	900.0	
39 017	梶ヶ森の植生	AE	200.0	
39 043	石鎚山地の植生	AD	2000.0	
39 051	黒滝山の森林	AD	120.0	
39 052	不入山のブナ林とコウヤマキ林	AB	220.0	
39 011	室戸岬の暖温帯林と海浜植生	AD	110.0	暖温帯植生
39 030	土佐山の石灰岩地植生	D	10.0	
39 032	筆山の森林と高見山の草地植生	E	15.0	
39 037	朝倉神社の森林	AE	5.0	
39 056	入野の松原と海浜砂地植生	DF	50.0	
39 063	市ノ又の暖温帯林	A	53.0	
39 067	足摺岬の暖温帯林	A	50.0	
39 075	大堂海岸の森林	AE	350.0	
39 023	白髪山のヒノキ林	AD	208.0	冷温帯常緑針葉高木林
39 006	雁巻山の森林	A	350.0	暖温帯常緑針葉高木林
39 007	千本山のスギ林	A	210.0	
39 008	千本山のトガサワラ林	AB	15.0	
39 009	横荒山のツガ林	A	81.0	
39 010	安田川山のトガサワラ林	AB	4.0	
39 015	五王堂の石灰岩地植生	D	15.0	
39 029	工石山の森林	A	110.0	
39 031	円行寺周辺の蛇紋岩地植生	D	10.0	
39 039	日高村の蛇紋岩地植生	D	50.0	
39 053	久保谷山の森林	A	153.0	
39 058	長沢ノ滝周辺の森林	AB	5.0	
39 059	鷹取山のモミ林	A	88.0	
39 061	古屋山のアカマツ林	EH	9.0	
39 062	梶ヶ谷山のモミ林	A	8.0	
39 066	今ノ山の森林	A	40.0	
39 001	甲浦のクサマルハチ自生地	B	1.0	常緑針葉高木植林
39 002	野根八幡宮のシイ林	A	1.0	暖温帯常緑広葉高木林
39 004	春日神社のシイ林	A	2.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《高知》</b>				
39 005	河内神社のシイ林	A	2.0	暖温帯常緑広葉高木林
39 012	西寺のシイ林	AB	2.0	
39 018	西ノ川山の森林	AB	18.0	
39 019	神峰のシイ林	A	3.0	
39 026	龍河洞周辺の石灰岩地植生	D	2.0	
39 033	玉島・衣ヶ島のタブ林	A	4.0	
39 038	清滝寺のイスノキ林	D	1.0	
39 040	青龍寺のシイ林	A	3.0	
39 041	北原のハナガシ林	BCG	0.3	
39 042	灘山の暖温帯林	A	40.0	
39 046	横倉山の森林	AD	30.0	
39 048	二所神社の暖温帯林	A	3.0	
39 049	大山祇神社の暖温帯林	A	5.0	
39 054	三崎山の森林	A	90.0	
39 055	鹿島のシイ・タブ林	A	5.0	
39 064	八束のクサマルハチ自生地	B	1.0	
39 065	布のシイ林	A	1.5	
39 068	白皇山のシイ・アカガシ林	A	20.0	
39 069	臼簀のウバメガシ林	A	50.0	
39 070	鹿島の暖温帯林	A	2.0	
39 071	余立のウバメガシ林	A	30.0	
39 073	篠山の森林	A	20.0	
39 074	弦場のウバメガシ林	A	1.5	
39 076	蒲葵島の植生	A	17.0	
39 078	沖ノ島の暖温帯林	AB	20.0	
39 021	王石山の森林	A	300.0	冷温帯夏緑広葉高木林
39 025	土佐町のゴショイチゴ	B	10.0	暖温帯夏緑広葉高木林
39 003	石立山の石灰岩地植生	D	150.0	暖温帯夏緑広葉低木林
39 014	西谷の石灰岩地植生	D	15.0	
39 022	杖立山のマルバノキ	B	3.0	
39 024	汗見川の川岸植生	D	10.0	
39 028	大坂峠の蛇紋岩地植生	D	10.0	
39 034	岩躑躅山のマルバノキ	B	2.0	
39 036	鏡村の石灰岩地植生	D	15.0	
39 045	池川町の石灰岩地植生	D	5.0	
39 050	葉山の石灰岩地植生	D	15.0	
39 060	四万十川のトサシモツケ群落	D	10.0	
39 057	四国カルストの草地植生	E	190.0	冷温帯ササ原
39 027	油石の蛇紋岩地植生	D	5.0	暖温帯単子葉草本草原
39 020	伊尾木洞のシダ群落	B	1.0	草本シダ群落
39 077	二並島のヒロウ群落	B	2.0	ヤシ形林
39 047	カラ池湿原	D	0.5	湿地植生
<b>《福岡》</b>				
40 034	釈迦、御前岳の自然林	A	55.0	植生一般
40 048	三郡・宝満山の自然林	AEGH	171.0	
40 006	犬ヶ岳の自然林	ABEGH	164.0	冷温帯植生
40 029	英彦山の自然林	AFGH	570.0	
40 004	求善提山のヒメシャガ群落	B	2.0	暖温帯植生
40 005	求善提山のアカガシ林	AE	2.0	
40 019	平尾台の石灰岩台地植物群落	BDH	321.5	
40 022	福智山の自然林	EH	279.0	
40 058	沖ノ島の自然林	ABCDH	90.0	
40 030	障子岳のヒノキ林	C	0.1	冷温帯常緑針葉高木林
*40 092	望雲台の岩角地植物群落	DGH	0.2	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《福岡》</b>				
40 003	椎田海岸のクロマツ林	F	13.0	暖温帯常緑針葉高木林
40 023	御所ヶ谷（行橋市）のヒモヅルを含むアカマツ林	BH	1.0	
40 028	ゲンカイツツジ群落	BGH	0.2	
40 033	浮羽町分田のアカマツ林	EF	2.0	
40 035	笠原のアカマツ林	E	5.0	
40 041	さつき松原のボウランを含むクロマツ林	F	150.0	
40 067	油山のアカマツ林	E	10.0	
*40 081	織幡神社のイヌマキ林	AEH	0.5	
40 031	小石原の行者杉	F	4.7	常緑針葉高木植林
*40 096	岡垣町三里松原のクロマツ林	DEF	600.0	
*40 100	篠栗若杉山のスギ林	EFH	5.0	
40 007	平山観音寺のスダジイ林	E	0.3	暖温帯常緑広葉高木林
40 008	伊川の天疫神社のスダジイ林	A	1.0	
40 010	津村島のヤブニッケイ林	C	0.5	
40 011	日合神社のスダジイ林	E	0.3	
40 012	吉志の天疫神社のスダジイ林	E	2.0	
40 013	沼八幡のスダジイ林	E	1.0	
40 014	河頭山の照葉樹林	E	14.7	
40 015	帆柱山の照葉樹林	E	12.0	
40 016	白山神社のタブ林	A	4.0	
40 017	荘八幡のスダジイ林	E	2.0	
40 018	八旗八幡のスダジイ林	E	1.7	
40 025	大法山のスダジイ林	E	35.0	
40 026	益富山のスダジイ林	E	25.0	
40 032	鳥屋山のスダジイ林	EH	15.7	
40 036	須賀神社のスダジイ林	E	0.5	
40 038	孔大寺山のスダジイ林	E	25.9	
40 044	八所宮のスダジイ林	EH	0.2	
40 045	城山の自然林	ABE	81.5	
40 046	猪野のスダジイ林	E	30.0	
40 047	砥石山のアカガシ林	A	37.5	
40 049	竈門神社のスダジイ林	EH	1.0	
40 051	高良山のシイ（コジイ）林	E	12.5	
40 054	清水山のコジイ林	E	50.0	
40 055	中津宮のバクチノキを含むスダジイ林	B	0.5	
40 056	御岳神社のスダジイ林	E	0.5	
40 061	志賀島のマテバシイ林	E	200.0	
40 062	香椎宮のスダジイ林	E	0.6	
40 063	志賀島のスダジイ林	AE	2.0	
40 064	南公園のスダジイ林	E	4.0	
40 065	鴻巣山のマテバシイ林	E	3.0	
40 066	春日神社のスダジイ林	AE	1.0	
40 068	筑紫耶馬溪のスダジイ林	E	3.0	
*40 078	貴船神社のスダジイ林	AEH	0.5	
*40 079	内尾業師のアラカシ林	DH	5.0	
*40 082	犬鳴峠のウラジロガシ林	AGH	3.5	
*40 088	豊前市大富神社のコジイ林	E	1.4	
*40 089	東大野八幡宮のスダジイ林	E	1.3	
*40 091	岩石山のスダジイ林	FH	40.0	
*40 097	八幡西区野面の八所宮のスダジイ林	E	1.0	
*40 098	笠置山のエノキを含む照葉樹林	E	22.0	
*40 101	長岩山のサザンカの多いコジイ林	CH	2.0	
*40 104	油山観音のスダジイ林	E	1.0	
*40 105	鬼ヶ鼻のアカガシ林	EH	0.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《福岡》</b>				
*40 106	玄界島のタブ林	CE	21.0	暖温帯常緑広葉高木林
*40 107	志摩町姫島のマテバシイ林	EH	6.0	
40 053	船小屋のクスノキ林	F	24.0	常緑広葉高木植林
40 059	立花山のクスノキ林	FH	45.0	
40 027	鷹巣山のミズナラ林	AH	2.0	冷温帯夏緑広葉高木林
40 069	背振山の自然林	AE	247.0	
40 020	竜ヶ鼻の自然林	ABDGH	50.0	暖温帯夏緑広葉高木林
40 021	福智山のケヤキ林	GH	5.0	
40 024	香春岳のイワシデ林	BDH	6.0	
*40 080	山田市白馬山のムクロジ林	BH	0.5	
*40 095	水巻町鷹見神社のムクノキ林	F	2.6	
40 001	部崎のトベラ低木林	A	0.5	暖温帯常緑広葉低木林
40 037	芦屋海岸のトベラ低木林	D	10.0	
40 039	鐘崎のハマビワ低木林	DH	1.0	
40 050	古処山のツゲ林	ABDH	6.0	
40 057	大島のハマヒサカキ低木林	DH	10.7	
*40 087	鹿家のアオモジ林	CEH	5.5	暖温帯夏緑広葉低木林
40 042	遠賀川の河辺草本群落	D	13.0	暖温帯単子葉草本草原
40 070	矢部川の河辺草本群落	D	100.0	
*40 085	小呂島のハチジョウススキ群落	DH	3.2	
*40 102	高良山のモウソウキンメイチク林	H	0.0	タケ形林
40 043	直方のオニバス群落	B	9.0	浮葉・沈水植物群落
40 071	柳川のクリーク水生植物群落	D	4.0	
*40 094	星野村池の山のオグラコウホネ群落	BDG	1.0	
40 052	高良台の湿生植物群落	D	0.1	湿地植生
*40 083	黒木町南部の湿原	BDGH	0.5	
*40 093	小石原の湿原	DGH	2.0	
*40 103	古賀町千鳥池の水生植物群落	B	2.0	
40 009	軽子島のゲンカイイワレンゲ群落	BH	0.0	海浜植生
40 040	さつき松原の海浜植物群落	D	40.0	
40 060	雁巣の海浜植物群落	D	10.0	
40 072	玄界島のハマオモトを含む海浜植物群落	GH	0.4	
40 073	瑞梅寺川河口の塩沼地植物群落	D	0.4	
40 074	彦山海岸の断崖風衝地群落	D	0.1	
40 075	幣の松原の砂丘植物群落	D	6.0	
40 076	芥屋のハマヒサカキ低木林を含む海岸斜面の植物群落	D	0.4	
40 077	姫島のハマオモトを含む海浜植物群落	GH	0.2	
*40 084	和白浜の海浜・塩沼地植物群落	CDGH	1.5	
*40 086	靄山川下流のハマボウ群落	BDGH	1.4	
*40 090	上野峽のゲンカイツツジ群落	BDH	3.0	個体（群）
*40 099	篠栗町呑山のクロモジ林	CH	1.0	
<b>《佐賀》</b>				
41 035	多良岳の自然木	A	120.0	植生一般
41 038	経ヶ岳の自然木	A	30.0	
41 020	浮岳の自然林	A	40.0	暖温帯植生
41 021	作礼山のアカマツ林	A	15.0	暖温帯常緑針葉高木林
41 023	虹の松原のクロマツ林	E	283.0	
41 055	黒髪山のアカマツ林	A	8.0	
41 056	有田のガンビ群落	C	3.0	
41 002	九千部山のホソバシヨリマ群落	B	0.0	常緑針葉高木植林
41 058	唐船山のヒロハコンロンカ群落	B	0.2	
41 003	サクラツツジ群落	C	0.6	暖温帯常緑広葉高木林
41 005	千石山のサザンカ林	C	2.9	
41 008	背振山のアカガシ林	A	10.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《佐賀》</b>				
41 009	カネコシダ群落	B	0.5	暖温帯常緑広葉高木林
41 026	清水のシイ林	A	5.0	
41 027	松尾山のシイ林	A	5.0	
41 030	御船山のシイ林	A	15.0	
41 031	稲佐神社のシイ林	A	6.3	
41 032	飯盛山のシイ、タブ林	A	6.0	
41 033	普明寺のシイ林	A	3.0	
41 034	唐泉山のシイ林	A	10.0	
41 046	田島神社の暖温帯樹林	A	3.5	
41 048	高島のマテバシイ林	A	10.0	
41 050	舞鶴公園の暖温帯樹林	A	7.0	
41 051	岸岳のツクバネウツギ群落	C	0.5	
41 061	山ノ寺のシイ林	A	1.3	
41 062	烏帽子岳のアカガシ林	A	6.3	
41 063	国見山のアカガシ林	A	15.0	
41 045	加唐島のヤブツバキ林	E	5.0	常緑広葉高木植林
41 001	九千部山のブナ、アカガシ林	A	40.0	冷温帯夏緑広葉高木林
41 007	背振山のブナ林	A	30.0	
41 013	羽金山のシナノキ群落	H	0.5	暖温帯夏緑広葉高木林
41 014	コタニワタリ群落	H	0.5	
41 029	八幡岳の自然木	A	40.0	
41 057	牧の山ケヤキ林	A	2.0	
41 059	有田のハンノキ群落	D	1.5	
41 064	ハイビャクシン群落	BG	0.1	暖温帯常緑針葉低木林
41 037	経ヶ岳のツクシシャクナゲ群落	EG	2.3	冷温帯常緑広葉低木林
41 044	小川島のハマヒサカキ群落	DG	0.1	暖温帯常緑広葉低木林
41 019	ミヤマキリシマ群落	G	5.0	冷温帯夏緑広葉低木林
41 004	エヒメアヤメ群落	BG	0.1	暖温帯ササ原
41 010	帯隈山のエヒメアヤメ群落	BG	0.1	
41 011	佐賀平野のノウルシ群落	E	1000.0	暖温帯広葉草原
41 047	波戸岬の草原植物群落	C	0.1	暖温帯単子葉草本草原
41 052	シダ植物群落	CD	0.1	草本シダ群落
41 054	黒髪山のカネコシダ群落	BG	0.0	
41 036	多良岳のチャルメルソウ群落	C	0.3	岩上、多礫地草本植生
41 053	黒髪山の岩角地植物群落	BD	8.0	
41 022	作礼山、ジュサイ池の水生植物群落	D	0.3	浮葉・沈水植物群落
41 025	山王池のオニバス群落	DG	0.2	
41 006	二塚山丘陵の湿原植物群落	DG	0.1	湿地植生
41 015	檜原の湿原植物群落	D	4.3	
41 016	湿原植物群落	DG	1.0	
41 017	湿原植物群落	DG	0.3	
41 018	平野沼の湿原植物群落	DG	5.0	
41 012	大託間の塩生植物群落	D	3.8	河辺植生
41 024	虹の松原、海岸の砂丘植物群落	D	12.5	海浜植生
41 028	六角川のシチメンソウ群落	B	0.2	
41 039	神集島のハマオモト群落	DG	0.0	
41 040	玄海沿岸のダルマギク、ホソバワダン群落	D	4.0	
41 041	湊海岸の砂丘植物群落	D	1.0	
41 042	相賀海岸の砂丘植物群落	D	10.5	
41 043	小川島のハマオモト群落	DG	0.4	
41 049	高島のハマオモト群落	DG	0.1	
41 060	久原のシバナ群落	DG	0.7	
41 065	馬渡島のワスレグサ群落	B	0.8	
<b>《長崎》</b>				
42 009	多良岳山頂部の自然林	A	10.0	植生一般

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《長崎》</b>				
42 047	美良島のハイビャクシン群落	BCD	0.4	暖温帯常緑針葉低木林
42 068	対馬・海栗島のハイビャクシン群落	BD	0.0	
42 070	対馬・鱈浦のハイビャクシン群落	BD	0.0	
42 071	対馬・舌崎のハイビャクシン群落	BD	0.0	
42 072	対馬・唐舟志のハイビャクシン群落	BD	0.0	
42 077	対馬・千尋藻のハイビャクシン群落	BD	1.0	
42 078	対馬・鴨居瀬のハイビャクシン群落(1)	BD	3.0	
42 079	対馬・鴨居瀬のハイビャクシン群落(2)	BD	3.0	
42 080	対馬・黒島のハイビャクシン群落(1)	BD	3.0	
42 081	対馬・黒島のハイビャクシン群落(2)	BD	5.0	
42 001	雲仙・普賢岳のヤマグルマーヒカゲツツジ群落	AD	10.0	冷温帯常緑広葉低木林
42 005	雲仙・野岳のイヌツゲ群落	E	80.1	
42 006	島原・眉山のシマバライチゴ個体群	BC	3.0	暖温帯常緑広葉低木林
42 043	阿値賀島海岸低木群落	A	16.0	
42 049	美良島の海岸低木群落	A	14.0	
42 064	男女群島のモククチバナ群落	A	147.0	
42 065	男女群島のマルバニッケイ群落	C	6.0	
*42 091	長崎市手熊の岩角地群落	DGH	2.0	
42 004	雲仙・普賢岳のニシキウツギ群落	A	2.0	冷温帯夏緑広葉低木林
42 020	加津佐岩戸山上のイワシデ群落	B	2.0	暖温帯夏緑広葉低木林
42 038	平戸礫岩のイワシデ群落	B	1.1	
42 041	平戸志々伎山のイワシデ群落	B	0.2	
42 058	五島七岳のリュウビンタイ個体群	BC	0.1	
42 075	対馬・仁田川のチョウセンヤマツツジ個体群	BC	1.0	
42 084	対馬白岳のイワシデ群落	B	0.1	
*42 093	川原大池のハマナツメ群落	DH	0.1	
*42 094	対馬・上泉町のハマボウ群落	CD	0.0	
42 046	倉島海岸斜面のハチジョウススキ群落	D	0.0	暖温帯単子葉草本草原
42 050	美良島の海岸草本群落	D	0.0	
42 066	男女群島のハチジョウススキ群落	D	0.0	
42 067	男女群島のコウライシバ群落	CD	0.0	
42 010	多良のセンダイソウ群落	C	0.1	岩上, 多礫地草本植生
42 039	礫岩岩角地植物群落	D	2.0	
42 040	平戸佐志岳の岩角地植物群落	D	0.0	
42 042	志々伎山岩角地植物群落	D	0.0	
42 085	対馬白岳の岩隙植物群落	D	0.0	
*42 092	長崎市小江の岩角地群落	DGH	2.0	
*42 098	対馬・黒島の海岸崖地群落	D	0.0	
42 051	五島日ノ島のハマジンチョウ群落	D	1.0	マングローブ林
42 055	五島三井楽のハマジンチョウ群落	D	0.0	
42 053	福江翁頭山のタヌキアヤメ群落	BC	0.0	湿地植生
42 056	五島寺脇のタヌキアヤメ個体群	BC	0.0	
42 019	加津佐野田浜の砂丘群落	D	10.0	海浜植生
42 026	壱岐・辰ノ島の砂丘植物群落	BD	3.0	
42 028	壱岐・名島島のハチジョウススキ群落	D	0.1	
42 035	西彼崎戸のノアサガオ群落	BC	0.4	
*42 095	対馬・佐護湊の砂浜群落	D	0.0	
*42 099	対馬・黒島の海岸砂丘群落	D	5.0	
<b>《熊本》</b>				
43 008	市房山の自然林	AB	600.0	植生一般
43 009	菊池溪谷の自然林	A	500.0	
43 006	大官山の自然林	A	1500.0	冷温帯植生
43 007	内大臣の自然林	A	1700.0	
43 013	雁俣山の自然林	A	150.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《熊本》				
43 017	白髪岳の自然林	A	500.0	冷温帯植生
43 015	大行寺山のツガ林	A	50.0	暖温帯常緑針葉高木林
*43 041	八方ヶ岳のモミ林	AC	12.0	
*43 042	小白髪岳のブナ林	A	25.0	
*43 054	山江村のアカマツ林	E	30.0	
*43 055	山江村のモミ林	A	12.0	
43 012	北向山のウラジログシ林	A	120.0	暖温帯常緑広葉高木林
43 018	大野溪谷のコジイ林	A	71.0	
43 019	小岱山筒ヶ岳のスダジイ林	A	9.5	
43 021	金峰山三ノ岳スダジイ林	A	15.0	
43 024	住吉神社のスダジイ林	A	3.5	
43 026	郡浦神社のスダジイ林	A	0.4	
43 027	古籠神社のスダジイ林	E	3.2	
43 031	水俣市大川のコジイ林	A	26.7	
43 032	御所浦町牧島のウバメガシ林	D	0.6	
43 034	染岳のコジイ林	A	10.1	
43 035	角山の自然林	AH	13.0	
43 036	妙見浦のハマビワ林	DE	0.0	
*43 045	日奈久鳩山のヒメユズリハーアラカシ林	A	1.2	
*43 047	田浦町松田のイスノキ・アラカシ林	A	2.0	
*43 049	肥後峠のアカガシ林	A	0.4	
*43 050	芦北町鶴掛のアラカシ林	D	1.0	
*43 051	山江村のアカガシ林	A	50.0	
*43 052	球磨村横井のツクバネガシ林	A	1.0	
*43 063	矢城山土金国有林のスダジイーバリバリノキ林	A	60.0	
*43 064	水俣市袋字冷水のスダジイ林	E	5.0	
*43 068	水俣市鬼岳のスダジイーイスノキ林	AC	6.0	
*43 072	天草町福連木のチャンチンモドキ林	B	1.0	
*43 089	立田山のコジイ林	E	2.5	
43 023	金峰山のイチイガシ人工林	F	0.3	常緑広葉高木植林
43 028	上宮越えのクスノキ林	E	0.3	
43 010	鞍岳のアセビ群落	B	20.0	冷温帯夏緑広葉高木林
43 011	鞍岳のブナ林	A	52.0	
43 014	五家荘のシラカワ谷のハシドイ林	A	20.0	
43 016	五家荘の自然林	AB	3000.0	
*43 081	清和村のオニグルミ群生地	C	15.0	
43 020	小岱山のトキワマンサク群落	G	1.0	暖温帯夏緑広葉高木林
43 022	黒石原のクヌギ林	E	20.0	
43 025	永尾神社のムクノキ林	A	0.4	
43 030	球磨村権現山のユズ群落	H	0.0	
*43 053	山江村のコナラ林	E	25.0	
*43 067	水俣大滝のカツラーケヤキ林	C	0.3	
43 029	球磨村権現山のツゲ群落	H	0.0	暖温帯常緑広葉低木林
*43 057	御所浦町横浦島のウバメガシ林	BC	0.1	
*43 058	田浦町御立岬のアラカシ林	A	4.0	
43 003	根子岳の自然林	AB	200.0	冷温帯夏緑広葉低木林
*43 062	芦北町佐敷隠道入口アラカシ林	D	0.5	暖温帯夏緑広葉低木林
43 002	阿蘇・波野原の山地草原	BCEG	8930.0	暖温帯単子葉草本草原
43 005	阿蘇・山東原野の山地草原	CE	900.0	
43 033	巴湾のハマジンチョウ群落	BD	0.1	マングローブ林
43 004	阿蘇火山山頂の植物群落	BD	2000.0	火山荒原植生
43 001	阿蘇端辺原野の山地湿原	CE	0.0	湿地植生
*43 043	一ツ目神社裏の湿地	D	0.3	
*43 056	水俣市無田湿原	D	2.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《熊本》</b>				
43	037 高浜のコウボウムギ群落	G	0.0	海浜植生
*43	060 御所浦町大平島のハマサジ群落	DE	0.0	
*43	069 苓北町のシバナ群落	D	1.5	
*43	038 高森町のアズマイチゲ自生地	CG	0.1	個体(群)
*43	039 矢谷渓谷のカネコシダ自生地	BC	1.0	
*43	040 八方ヶ岳のコタニワタリ自生地	CD	0.0	
*43	044 走水滝のコウヤミズキの自生地	BC	0.1	
*43	046 八代市日奈久のカザグルマ自生地	B	10.0	
*43	048 赤松太郎峠のシラン自生地	D	0.2	
*43	059 御所浦町のツメレンゲ自生地	DB	0.0	
*43	061 白岩のコウシュウウヤク自生地(イソヤマアオキ)	D	0.1	
*43	065 水俣市袋のハマナツメ自生地	B	0.2	
*43	066 水俣市袋のキイセンニンソウ	BC	0.1	
*43	070 本渡市のウスユキクちなシダ自生地	BH	1.0	
*43	071 本渡市のヒモヅル自生地	B	0.0	
*43	073 天草町福連木のフクレギシダ	B	0.1	
*43	074 天草町高浜のリュウビンタイ	C	0.1	
*43	075 河浦町のヘゴ自生地	C	0.3	
*43	076 牛深市戸島のハマオモト自生地	D	0.2	
*43	077 牛深市法ヶ島のハカマカズラ自生地	CD	0.3	
*43	078 牛深市須口のコウボウムギ群落	D	0.1	
*43	079 南小国のユキワリイチゲ群落	BG	0.0	
*43	080 高森町のレンブクソウ群落	CH	0.3	
*43	082 鹿北町岳間のカネコシダ自生地	BH	0.0	
*43	083 鞍岳のクサボケ自生地	CG	1.0	
*43	084 五木村白髪岳のヤマシャクヤク自生地	BG	1.0	
*43	085 端海野のマンネンズギ群生地	H	0.0	
*43	086 仰鳥帽子山のフクジュソウ自生地	G	3.0	
*43	087 免田町丸池のリュウキンカ自生地	CG	0.1	
*43	088 江津湖のキタミノウ自生地	BD	0.1	
*43	090 金峰山のテンダイウヤク群生地	FH	4.0	
*43	091 八代市大鼠蔵のキノクニスゲ自生地	G	0.3	
*43	092 三角岳のタマシダ自生地	G	0.2	
*43	093 三角岳のイワガサ自生地	BD	0.1	
<b>《大分》</b>				
44	041 由布、鶴見火山群の自然林	AE	1010.0	植生一般
44	052 九重火山群の植物群落	ACE	4565.0	
44	054 祖母、傾山系の自然林	AD	3138.0	
44	062 九酔溪の自然林	AE	164.0	
44	065 犬ヶ岳の自然林	A	227.0	
44	034 夏木山一帯の自然林	A	436.0	冷温帯植生
44	067 英彦山の自然林	A	300.0	
44	031 穴権現社のユズを含む自然林	D	10.0	暖温帯植生
44	059 耶馬溪一帯の自然林	A	440.0	
44	070 津江神社の自然林	A	0.4	
44	066 鷹ノ巣山のヒノキ林	A	4.8	冷温帯常緑針葉高木林
44	029 三重町のモミ林	F	1.5	常緑針葉高木植林
44	003 沖黒島のピロウ、ヒゼンマユミを含む自然林	C	6.0	暖温帯常緑広葉高木林
44	004 高島の自然林	AC	40.0	
44	005 津久見島のスダジイ林	A	14.0	
44	006 日吉神社のコジイ林	A	1.0	
44	007 佐伯城山のコジイ林	E	25.0	
44	008 城八幡のハナガガシを含む自然林	B	1.8	
44	009 八坂神社のハナガガシ林	B	0.2	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《大分》				
44 010	本匠石灰岩地のアラカシ林	D	200.0	暖温帯常緑広葉高木林
44 012	王子神社のスダジイ林	A	3.0	
44 013	葛原のカマエカズラ群落	B	17.5	
44 014	深島北部一帯の自然林	C	16.0	
44 016	向田のスダジイ林	A	1.3	
44 017	文殊仙寺のウラジログシ林	A	3.3	
44 018	桜八幡のスダジイ林	A	1.6	
44 019	武多都社のスダジイ林	A	3.3	
44 023	小城山のスダジイ林	A	3.4	
44 024	奈多海岸のクロマツ林	F	8.0	
44 025	杵築若宮八幡のスダジイ林	A	1.0	
44 026	熊野権現社のウラジログシ林	A	2.0	
44 027	柞原神宮の自然林	A	1.6	
44 030	鹿毛のスダジイ林	A	0.3	
44 032	ツチトリモチの自生するコジイ林	E	270.0	
44 033	鷹鳥屋山のアカガシ林	A	5.0	
44 036	宇佐神宮のイチイガシ林	A	5.0	
44 038	御許山のアカガシ林	A	10.0	
44 043	鶴見権現社の常緑広葉樹林	A	2.0	
44 051	熊群山の自然林	A	120.0	
44 053	緒方町宮尾国有林のアカガシ林	A	18.0	
44 055	河岸断がいのアラカシ林	E	1900.0	
44 061	角埋山のウラジログシ林	A	8.0	
*44 071	愛宕神社のコジイ林	AE	1.0	
*44 072	霊山のコジイ林	AE	2.8	
*44 073	丸山のコジイ林(コジイーシイモチ群集)	AE	1.7	
*44 074	堂迫のコジイ林(コジイーシイモチ群集)	AE	1.1	
44 001	大島のアコウ林	C	0.1	亜熱帯常緑広葉高木林
44 040	鹿嵐山の自然林	A	48.0	冷温帯夏緑広葉高木林
44 057	中摩殿畑山のブナ林	A	20.0	
44 068	釈迦・御前岳のブナ林	A	167.0	
44 069	御前谷のシオジ林	A	20.0	
44 022	武蔵町のハンノキ林	G	10.0	暖温帯夏緑広葉高木林
44 046	岳本のコナラ林	AE	10.0	
44 049	湖山のコナラ林	AE	3.9	
44 056	御澄池のハンノキ林	C	0.8	
44 015	日豊海岸のがけ斜面低木林	E	930.0	暖温帯常緑広葉低木林
44 021	国東半島一帯の岩上植物群落	D	9.0	暖温帯夏緑広葉低木林
44 039	経塚山のミヤマキリシマ群落	D	8.0	
44 060	高平のイワシデ林	D	0.2	
44 064	久住赤川のカシワ林	E	70.0	
44 042	由布、鶴見火山群のススキ草原	E	333.0	冷温帯単子葉草本草原
44 048	飛岳のエヒメアヤメの自生する草原	B	132.0	暖温帯単子葉草本草原
44 063	清田川のレンゲツツジ群落	B	14.6	
44 011	小半のホウライクジャク群落	B	0.0	草本シダ群落
44 045	挾間町、安心院町のオトメクジャク群落	B	2.4	
44 028	野津町のキンメイモウソウ林	H	0.1	タケ形林
44 037	宇佐平野のため池の水生物群落	E	29.4	浮葉・沈水植物群落
44 044	猪の瀬戸の湿原群落	G	20.0	湿地植生
44 047	日出生台高陣ヶ尾湿原の植物群落	D	35.0	
44 050	小田野池の湿原群落	C	5.0	
44 058	野平のミツガシワ群落	C	0.1	
44 002	間越のハマゴウ群落	D	0.5	海浜植生
44 020	国東半島の海浜植物群落	G	30.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《宮崎》</b>				
45 017	尾鈴山ツツジ科植物群落	AB	1600.6	植生一般
45 056	霧島山原生林	AC	1716.4	
45 061	掃部岳周辺の原生林	A	384.2	
45 002	祝子川源流域の原生林	ABC	3445.0	冷温帯植生
45 013	祖母傾山系の自然林	A	1181.0	
45 014	ミヤマゼキショウなど洞岳石灰岩峰植物群落	BDH	1.9	
45 036	白岩山の岩峰植物群落とクリンユキフデ群落を含む原生林	ABDH	270.0	
45 039	一ツ瀬川源流域の原生林	A	2338.0	
45 029	鶴戸神宮のヘゴ自生地を含む社叢林	ABC	2.1	暖温帯植生
*45 085	尾鈴山西麓の照葉樹林	AB	1350.0	
*45 095	トクノ山系の照葉樹林	AB	880.0	
*45 101	幸島の照葉樹林	ABC	30.0	
*45 112	大森岳南東稜の照葉樹林	AB	725.0	
*45 120	柳岳周辺の照葉樹林	AB	220.0	
*45 140	都井岬の野生馬放牧地の植生	DC	42.0	
45 020	青島亜熱帯性植物群落	EAH	4.5	亜熱帯植生
*45 063	新百姓山周辺の天然ヒノキ自生地群落	BG	0.2	冷温帯常緑針葉高木林
*45 064	鬼の目山の天然スギ自生地群落	ABC	120.0	
*45 163	えびの高原のアカマツ林	AHB	180.0	
45 040	横野のコウヤマキ群落	CB	0.2	暖温帯常緑針葉高木林
45 059	甌岳の針葉樹林	A	73.5	
*45 087	大瀬内谷のコウヤマキ林	BCG	1.0	
*45 089	国見山山系南東稜斜面のモミ・ツガ林	AB	35.0	
*45 110	西俣山周辺の照葉樹林	AB	375.0	
*45 150	相見谷源流域のモミ・ツガ林	ACGH	60.0	
*45 152	須志原南東部の照葉樹林	AB	65.0	
*45 161	満谷国有林のモミ・ツガ林	AHB	250.0	
45 048	今町海岸のボンテンカ北限群落	C	1.0	常緑針葉高木植林
45 052	鉄山のシダ植物群落	B	31.5	
*45 097	広河原のスギの三ツ石学術参考林	FH	5.1	
45 001	高島のピロウ北限群落	C	4.0	暖温帯常緑広葉高木林
45 010	東都農のウバメガシ林	H	1.0	
45 015	細のナガバサンショウソウ群落	B	0.0	
45 019	高岡の照葉樹林	AB	335.0	
45 022	内海のリュウキュウアイ北限個体群	BC	0.0	
45 023	内海のヤッコソウ群落	B	0.0	
45 024	熊野のギョウシンカ北限群落	C	0.1	
45 026	双石山暖帯植物群落	AE	400.0	
45 027	猪八重暖帯植物群落	E	421.9	
45 031	小吹毛井のシナクスモドキ群落	BH	0.1	
45 033	石波の海岸樹林	AE	20.0	
45 043	綾北川のシダ植物群落	H	621.9	
45 053	霧島山系御池、小池の照葉樹林	ABC	219.0	
*45 066	行躰山のイチイガシ林	ABE	25.0	
*45 068	土々呂町赤水のシイ林	ACE	0.3	
*45 070	乙島のシイ林	AB	21.0	
*45 071	福瀬のハナガシ林	ABEH	0.1	
*45 077	楠原神社のカシ林	ABE	1.0	
*45 079	高千穂神社のカシ林	ABE	0.8	
*45 082	家代神社のカシ林	ABE	1.0	
*45 084	日陰山のカシ林	ABE	22.0	
*45 086	銀鏡のイチイガシ林	ABE	2.5	
*45 088	国見山系角禪谷の照葉樹林	AB	70.0	
*45 092	都萬神社のハナガシ林	EH	0.5	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《宮崎》</b>				
*45 093	多羅原国有林の照葉樹林	AB	115.0	暖温帯常緑広葉高木林
*45 096	鱒塚山周辺の照葉樹林	AB	520.0	
*45 098	小松山山系の照葉樹林	AB	737.0	
*45 099	平山海岸のタブ林	AB	14.0	
*45 103	十根川神社のカシ林	ABE	2.5	
*45 104	下の平のシラカシ優占林	ABE	2.0	
*45 106	檜葉の照葉樹林	AB	37.5	
*45 108	小川神社のイチイガシ林	ABE	1.2	
*45 109	児原稲荷神社のイチイガシ林	ABE	15.0	
*45 111	綾北ダム東側山地の照葉樹林	AB	830.0	
*45 113	綾南川の川中周辺の照葉樹林	AB	193.0	
*45 114	七熊山系東稜の照葉樹林	AB	340.0	
*45 115	秋社川周辺の照葉樹林	AB	225.0	
*45 116	境川下流域の照葉樹林	AB	1000.0	
*45 117	田辺周辺の照葉樹林	AB	250.0	
*45 118	大古内川上流域の照葉樹林	AB	110.0	
*45 119	東岳の照葉樹林	AB	415.0	
*45 121	割岩谷の照葉樹林	AB	205.0	
*45 122	上新村の照葉樹林	AB	210.0	
*45 124	ジョウゴ岳の照葉樹林	AB	135.0	
*45 125	熊野江神社のシイ林	ABE	12.5	
*45 128	門川町枇榔島の海岸樹林	AG	3.8	
*45 130	権現崎のスタジイ林	AEG	4.5	
*45 133	北方町大山神社のカシ林	AEB	0.3	
*45 136	八久保のイチイガシ群落	AHB	12.5	
*45 138	河原谷王塚古墳上のイチイガシ林	AE	0.3	
*45 143	中野八重神社のカシ林	ABE	1.0	
*45 144	上椎葉の屋敷林	AE	4.5	
*45 145	椎葉村春向の屋敷林	AE	6.3	
*45 146	合戦原の社叢林	AE	2.5	
*45 148	村社八幡神社のイチイガシ林	AE	2.5	
*45 149	掃部岳北西稜北側斜面の照葉樹林	AH	400.0	
*45 151	須志原西南部の照葉樹林	AB	45.0	
*45 153	楠見のイチイガシ林	AFH	4.7	
*45 154	蔵が野のイチイガシ林	AHB	4.0	
*45 155	長尾官行の照葉樹林	AB	230.0	
*45 156	東霧島神社のイチイガシ林	AE	2.5	
*45 157	青井岳のカヤを含むイチイガシ林	ABH	1.0	
*45 158	鉄山川の照葉樹林	AB	20.0	
*45 160	満谷国有林の照葉樹林	AGHB	60.0	
45 032	虚空蔵島亜熱帯性植物群落	AEH	0.3	亜熱帯常緑広葉高木林
*45 123	真堂のクス学術参考林	FH	3.5	常緑広葉高木植林
45 003	鬼の目山のツチビノキ自生地	B	2.5	冷温帯夏緑広葉高木林
45 028	イワザクラ草鱒塚山の南限植物群落	GC	340.5	
45 035	酒谷のキレンゲショウマ群落	H	2.5	
45 037	扇山の原生林	A	1047.0	
45 038	奥椎葉県境域原生林	ABC	1716.0	
45 041	石堂山のツクシアケボノツツジ群落	B	2.0	
45 042	市房山の自然林	A	40.0	
45 060	えびの高原のノカイドウ群落	B	2.0	
*45 080	二上山のケヤキ林	ABH	10.0	
*45 105	檜葉のブナ林域自然植生	AB	277.5	
*45 107	石堂山～樋口山周辺のブナクラス域自然植生	AB	825.0	
*45 127	鬼の目山山塊の夏緑広葉樹林	AB	930.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《宮崎》				
*45 132	諸塚山のブナ林	AH	50.0	冷温帯夏緑広葉高木林
*45 141	波帰のイヌブナ林	CG	90.0	
*45 142	椎葉高岳周辺のイヌブナ林	CG	200.0	
*45 162	白鳥山の夏緑広葉樹林	AHB	30.0	
45 005	オナガカンアオイ群落	BG	141.6	暖温帯夏緑広葉高木林
45 009	権現山のオオバネム自生地を含む海岸林	BC	0.0	
45 025	加江田川溪谷の亜熱帯性植物群落	EA	14.0	
45 051	狗留孫峽のシダ植物群落	B	8.0	
*45 091	新田原のハンノキ林	CD	0.1	
45 030	鶴戸のギョボク群落	B	0.0	亜熱帯夏緑広葉高木林
45 044	須木村のベニバナヤマシャクヤク群落	BC	0.0	夏緑広葉高木植林
45 007	日向市海岸のヒュウガナルコユリ群落	B	0.0	暖温帯常緑広葉低木林
45 008	権現山海辺南限植物群落	C	0.2	
45 021	内海のキイレツチトリモチ北限群落	C	0.0	
*45 069	土々呂町赤水のウバメガシ林	G	3.5	
*45 129	餘島の海岸風衝林	BD	1.5	
*45 076	西臼杵郡の山地風衝低木林	BDG	0.0	亜寒帯夏緑広葉低木林
45 057	霧島山のミヤマキリシマ群落	E	582.0	冷温帯夏緑広葉低木林
*45 078	戸川岳の石灰岩植生域	D	38.0	
*45 164	えびの高原の硫気孔原植生	D	0.3	
45 004	沖田川のハマボウ群落	BD	0.3	暖温帯夏緑広葉低木林
45 006	竹島のハマナツメ群落	BD	0.0	
*45 067	延岡のオオバネム群落	BC	0.5	
*45 083	耳川のカワラハンノキ群落	BC	2.0	
45 045	須木村九瀬のレンゲツツジ群落	C	0.5	暖温帯単子葉草本草原
45 046	須木のモリアザミ群落	C	0.5	
45 055	小林のエヒメアヤメ群落	CG	0.3	
45 050	小林のカザグルマ自生個体群	CG	0.0	草本シダ群落
45 016	キバナノツキヌキホトトギスなど尾鈴山系溪側岩上植物群落	BH	1.0	岩上、多礫地草本植生
*45 065	行藤山の岩壁植生	BD	4.0	
*45 072	ハナゼキショウ群落	BCG	0.0	
*45 081	矢筈岳・比叡山の岩角地植生域	D	50.0	
*45 137	日南海岸のダンチク群落	E	70.0	タケ形林
45 034	都井岬のソテツ群落	CB	2.0	ヤシ形林
*45 100	築島のヒロウ群落	BCE	12.0	
45 018	岩淵池のオニバス群落	D	0.0	浮葉・沈水植物群落
*45 134	上田島のオニバス群落	DG	0.3	
*45 135	高岡町冷窪のオニバス群落	DG	0.3	
45 047	岩瀬川のカワゴロモ群落	BCD	0.3	流水岩上植物群落
*45 165	高千穂峰・御鉢の火山荒原植生	D	60.0	火山荒原植生
45 011	川南湿原植物群落	BDC	2.5	湿地植生
45 012	高鍋鬼ヶ久保の湿原植物群落	CD	0.1	
45 049	小林市のシラヒゲソウ自生個体群	CG	0.0	
45 054	牛のまたのサクラソウ群落	CG	1.0	
45 058	霧島山系湿原植物群落	DC	2.0	
*45 073	児湯郡の中間湿原群落	DG	0.5	
*45 090	高鍋町の中間湿原	DG	0.5	
*45 159	鍋倉の湿原	DG	0.0	
*45 062	甬馬の塩沼地植生	DG	0.1	海浜植生
*45 074	日向灘中部海岸の海浜植生	D	87.5	
*45 075	小丸川河口の塩沼地植生	DG	8.0	
*45 094	タンボリの塩沼地植物群落	DE	0.3	
*45 126	島の浦の塩沼地植生	DG	0.0	
*45 131	堀の内海岸のグンバイヒルガオ群落	CD	0.1	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《宮崎》				
*45 139	藤のハマナツメ群落	BDG	0.0	海浜植生
*45 102	串間市のサクララン個体群	CD	0.0	個体(群)
*45 147	大河内のレンゲツツジ群落	CH	1.0	
《鹿児島》				
46 087	沖永良部島の琉球石灰岩地荒原植生	D	6.0	亜熱帯植生
46 016	韓国岳のハリモミ林	C	15.0	冷温帯常緑針葉高木林
46 017	えびののノカイドウが自生する群落	B	10.0	
46 018	大浪池斜面のツガ林	A	550.0	暖温帯常緑針葉高木林
46 019	霧島林田付近のモミ林	A	30.0	
46 066	屋久島のヤクスギ原生林	A	1219.0	
46 003	志布志湾奥のクロマツ林	F	600.0	常緑針葉高木植林
46 058	吹上浜のクロマツ林	F	1000.0	
46 005	大隅地方のマテバシイ林	E	24.0	暖温帯常緑広葉高木林
46 007	種子島のコジイ南限林	C	5.0	
46 020	栗野岳のタブノキ林	A	30.0	
46 021	吉松町のヒガンザクラ南限地植生	C	20.0	
46 023	高隅山系のウラジロガシ林	A	10.0	
46 024	高隅山系のイスノキ林	A	5.0	
46 030	肝属山地の照葉樹林	A	450.0	
46 038	鹿児島市多賀山のキイレツチトリモチ自生の森林	B	4.0	
46 049	大口市田代のコジイ林志	A	30.0	
46 050	大口市田代のチャンチンモドキ個体群	C	30.0	
46 052	川内川流域のハナカガシを含むコジイ林	C	75.0	
46 053	出水市矢筈岳のイスノキ林	A	4.0	
46 054	紫尾山頂のアカガシ林	A	45.0	
46 056	ヤッコウソウ自生のスダジイ林	B	4.0	
46 061	加世田市竹田神社叢のスダジイ林	E	7.0	
46 064	屋久島国割岳斜面のバリバリノキ群落	A	30.0	
46 065	屋久島のヤマグルマ群落	A	800.0	
46 067	屋久島瀬切のヤクタネゴヨウ林	A	7.0	
46 073	野間岳のアブノキ林	A	10.0	
46 075	甌島瀬尾のヘゴ自生のタブノキ林	C	20.0	
*46 093	屋久島のスダジイ林	A	75.0	
*46 094	金峰山のスダジイ林	E	2.0	
*46 096	宇治群島のハランを林床に持つ群落	A	45.0	
46 012	種子島のイヌマキを含むタブノキ林	H	20.0	亜熱帯常緑広葉高木林
46 034	鹿児島湾沿岸のアコウ個体群	B	0.0	
46 044	屋久島志戸子のガジュマル林	A	1.0	
46 085	奄美大島湯湾岳東面のスダジイ林	A	500.0	
46 086	徳之島丹朧山のオキナワウラジロガシ林	A	170.0	
46 088	沖永良部島大山のスダジイ林	A	1.5	
46 090	奄美大島南部の海岸風衝高木林	D	230.0	
46 039	鹿児島市城山のクスノキ林	H	5.0	常緑広葉高木植林
46 081	奄美大島万屋のモクマオウ林	F	30.0	
46 014	霧島山のミズナラ林	A	100.0	冷温帯夏緑広葉高木林
46 015	霧島山のブナースズクエ群集	A	50.0	
46 027	高隅山系のブナの南限林	C	20.0	
46 055	紫尾山頂のブナーシロモジ群集	A	17.0	
*46 092	高隅山系のミズナラ林	A	2.0	
46 025	垂水市堀切のケヤキ林	F	2.2	夏緑広葉高木植林
46 048	屋久島のミヤマビャクシン群落	C	0.2	冷温帯常緑針葉低木林
46 011	種子島のハイネズ南限群落	D	0.2	亜熱帯常緑針葉低木林
46 045	屋久島のヤクシマジャクナゲ群落	B	250.0	冷温帯常緑広葉低木林
46 071	阿久根市及び川内市の海岸沿のマサキートベラ群集	E	20.0	暖温帯常緑広葉低木林

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《鹿児島》</b>				
46 074	甌島のウバメガシ低木林	D	10.0	暖温帯常緑広葉低木林
46 009	種子島西岸のマルバニッケイ群落	D	5.0	亜熱帯常緑広葉低木林
46 079	奄美大島笠利崎のアダン林	D	3.0	
46 083	奄美大島のシャリンバイ林	F	1.0	
46 089	奄美大島湯湾岳の山頂植生	B	103.0	
46 091	徳之島井之川岳の山頂植生	H	322.0	
46 013	霧島山のミヤマキリシマーマイヅルソウ群集	B	50.0	冷温帯夏緑広葉低木林
46 076	諏訪瀬島のマルバサツキ群落	B	140.0	暖温帯夏緑広葉低木林
46 077	諏訪瀬島のヤシヤブシ南限地	B	13.0	
46 046	屋久島のヤクザサ群落	B	250.0	冷温帯ササ原
46 043	頰娃町大野岳のゴキダケ林	E	5.0	暖温帯ササ原
46 078	諏訪瀬島のリュウキュウチク林	E	90.0	亜熱帯ササ原
46 022	大隅半島北部のススキ草原	E	150.0	暖温帯単子葉草本草原
46 037	鹿児島市磯の江南竹林	F	1.0	タケ形林
46 051	鶴田地方のモウソウチク林	E	1.0	
46 002	批ろう島のヒロウ林	C	17.0	ヤシ形林
46 006	県本土のソテツ自生北限地	C	2.0	
46 082	奄美大島竜郷町のソテツ低木林	D	30.0	
46 010	熊野のハマジンチョウを含むマングローブ	D	3.0	マングローブ林
46 041	喜入の(リュウキュウコウガイ)メヒルギ北限林	C	1.0	
46 068	屋久島栗生のメヒルギ林	B	0.5	
46 070	阿久根のハマジンチョウ个体群	C	0.0	
46 084	奄美大島住用村のマングローブ	C	71.0	
46 072	川内市のオニバス个体群	D	3.5	浮葉・沈水植物群落
46 001	前川及び安楽川のカワゴケソウ科植物个体群	G	1.0	流水岩上植物群落
46 028	大隅南部のカワゴケソウ科植物个体群	G	2.0	
46 032	川内川流域のカワゴケソウ科植物个体群	G	0.5	
46 033	川内川の新シノリ个体群	B	0.5	
46 060	万之瀬川のマノセカワゴケソウ个体群	G	0.5	
46 062	馬渡川のトキワカワゴケソウ个体群	G	0.5	
46 063	屋久島一湊川のヤクシマカワゴロモ个体群	G	0.1	
46 035	桜島の溶岩地植生	H	2500.0	火山荒原植生
46 036	桜島中腹のヤシヤブシーアオキ群落	H	10.0	
46 031	大口市のノハナショウブ自生地	C	3.0	湿地植生
46 047	屋久島花之江河の湿原植生	D	2.0	
46 057	蘭牟田池の湿原植生	D	60.0	
46 004	志布志湾奥の砂丘植物群落	D	150.0	海浜植生
46 008	西之表のツキイゲ群落	D	0.0	
46 042	指宿のグンバイヒルガオ北限群落	C	0.1	
46 059	吹上浜の砂丘植物群落	D	50.0	
46 069	屋久島栗生のツキイゲ群落	D	0.0	
46 080	奄美大島笠利半島のハマゴウ・ツキイゲ群落	E	6.0	
*46 095	相星川のハマボウ林	D	1.0	
*46 097	宝島の砂丘植生	D	110.0	
<b>《沖縄》</b>				
47 020	伊是名島あから御嶽一帯のウバメガシとリュウキュウマツ群落	BCDH	10.0	亜熱帯植生
47 043	久場島の岳の風衝地植生	BH	0.5	
47 066	石垣島荒川のカンヒザクラ	G	20.0	
47 068	石垣於茂登岳・浮海於茂登一帯の植生	H	300.0	
47 072	西表古見岳一帯の原生林	A	150.0	
47 075	浦内川のマングローブ林	BCD	50.0	
47 077	星立のヤエヤマヤシ並びにマングローブ林	BH	15.0	
*47 129	野底マーベの植生	AH	200.0	
*47 130	マンゲー山の石灰岩地植生	DH	0.5	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《沖縄》</b>				
*47 138	大東神社の社叢林	E	0.3	亜熱帯植生
*47 107	伊是名島チジン山のリュウキュウマツ群落	DE	25.0	亜熱帯常緑針葉高木林
47 021	今帰仁村仲原馬場のリュウキュウマツ並木	F	0.5	常緑針葉高木植林
47 047	北原地域の松並木	F	2.0	
47 052	大野山林のリュウキュウマツ群落	F	25.0	
*47 124	野田山林のリュウキュウマツ群落	DF	2.5	
47 006	辺戸岳の古生層石灰岩地植生	D	16.0	亜熱帯常緑広葉高木林
47 007	辺戸部落拝所のイタジイ群落	H	0.2	
47 010	国頭村安波御嶽の植生	E	1.0	
47 011	与那覇岳、伊湯岳一帯の植生	BH	200.0	
47 012	国頭村比地部落拝所のアカギ群落	E	0.0	
47 013	田港御嶽の植生	BDEH	2.0	
47 018	伊平屋島の山地森林植生	H	20.0	
47 022	諸志御嶽の植生	EH	2.0	
47 024	宮里前御嶽のハスノハギリ林	BH	0.2	
47 025	嘉津宇岳、安和岳の古生層、石灰岩地植生	DH	60.0	
47 026	本部町渡久地、御願の御嶽林	E	0.5	
47 027	瀬底島瀬底御嶽の植生	E	0.0	
47 028	漢那嶽の植生	H	30.0	
47 030	漢那御嶽のアミアラカシ群落	EH	4.0	
47 031	伊計城址の石灰岩地植生	E	4.0	
47 032	平安座島東城の石灰岩地植生	E	0.5	
47 033	クボウ城のタブノキ群落	E	0.5	
47 034	仲順御嶽の植生	E	0.5	
47 035	富里、糸数城址間の断層崖植生	H	15.0	
47 037	城山の周辺の植生	CH	2.0	
47 038	首里金城町の大アカギ群	E	0.3	
47 046	久米島大岳のイタジイ群落	H	10.0	
47 049	狩俣御嶽周辺の植生	CEH	7.0	
47 057	国仲御嶽の植生	EH	0.2	
47 058	多良間島塩川御嶽の植生	EH	1.0	
47 059	多良間島運城嶽のフクギ群落	EH	0.1	
47 060	多良間島土原御嶽の植生	EH	0.1	
47 061	多良間島嶺原のテリハボク群落	H	16.0	
47 063	石垣島明石海岸のハスノハギリ群落	DGH	8.0	
47 067	石垣島ネバル御嶽の植生	EH	0.5	
47 071	小浜島東海岸のハスノハギリ群落	H	0.3	
47 073	西表中部山地の原生林	A	1500.0	
47 079	西表古見のサキシマスオウノキ群落	BD	0.1	
47 082	西表島南岸の植生	H	100.0	
47 084	波照間島白郎原御嶽(すさばるわあ)の植生	EH	0.5	
47 085	波照間阿幸俣御嶽の植生	EH	0.5	
47 087	波照間島真徳利御嶽の植生	EH	0.5	
47 088	黄尾礁の自然植生	AD	8.0	
47 093	魚釣島の原生林	A	150.0	
47 097	与那国島宇良部岳の森林植生	H	45.0	
47 098	与那国島新川鼻の低地林	GH	8.0	
*47 103	普久川上流域の植生	ABH	1000.0	
*47 104	西銘岳周辺のイタジイ林	ABH	400.0	
*47 105	大宜味村ネクマチヂ岳の植生	D	87.0	
*47 111	山内地内の谷間の植生	E	0.0	
*47 112	北中城渡口谷間の植生	GH	1.0	
*47 114	斎場御嶽とその周辺部の植生	DG	25.0	
*47 116	知花城址の植生	EH	0.5	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
《沖縄》				
*47 118	那覇市未吉の植生	E	3.5	亜熱帯常緑広葉高木林
*47 119	座間味島大岳の植生	E	5.0	
*47 120	渡嘉敷島赤間山周辺の植生	E	35.0	
*47 123	イシキナハ御嶽の石灰岩地植生	DE	1.0	
*47 125	飛鳥御嶽のヤブニッケイ群落	E	1.0	
*47 126	渡眞利御嶽のサキシマスオウノキ群落	B	0.2	
*47 128	伊原間半島安良岳の植生	AEH	300.0	
*47 131	名蔵御嶽の植生	EH	0.5	
*47 133	竹富島南東海岸のハスノハギリ群落	DH	0.0	
*47 134	西表島南風見田海岸のハスノハギリ群落	D	7.0	
*47 135	黒島仲本御嶽のハテルマギリ-ハスノハギリ群落	DE	1.0	
*47 139	安田のアカテツの海岸林	D	0.2	
*47 140	安波のサキシマスオウノキ	D	0.0	
*47 141	伊部岳のイタジイ林	A	140.0	
*47 143	大浦御嶽のイタジイ林	E	0.5	
*47 145	今帰仁村上原の古生層石灰岩地の植生	D	7.0	
*47 150	北谷城跡の植生	E	4.0	
*47 151	大里城跡の植生	E	2.0	
*47 152	サンジャー森のアカギ林	E	0.3	
*47 153	潮平御嶽の御嶽林	E	0.0	
*47 158	ウーリ池のタブノキ-クロツグ群落	E	0.3	
*47 159	兼城御嶽の御嶽林	E	0.2	
*47 160	平久保半島安良御嶽のハスノハギリ群落	E	0.3	
*47 162	宮良仲嵩御嶽の御嶽林	E	1.0	
*47 163	屋良部岳の植生	A	400.0	
*47 164	南風見岳の植生	A	200.0	
47 023	本部田備瀬部落のフクギの屋敷林	E	0.5	常緑広葉高木植林
47 062	多良間島の抱護林	F	1.8	
*47 142	根謝銘城跡のクスノハカエデ林	E	110.0	亜熱帯夏緑広葉高木林
*47 149	許田のヤエヤマネム群落	BC	0.1	
47 017	伊平屋島西海岸のオキナワハイネズ群落	DG	0.1	亜熱帯常緑針葉低木林
47 040	阿嘉島北海岸のオキナワハイネズ群落	GH	1.0	
47 001	北大東島の長暮の植生	BCDH	16.0	亜熱帯常緑広葉低木林
47 008	伊江付近の海崖風衝植生	H	6.0	
47 009	タナガーグムイの植物群落	BCD	0.3	
47 036	伊江島北海岸の隆起サンゴ礁海浜植生	D	20.0	
47 041	屋嘉比島のトゲイヌツゲ群落	B	0.3	
47 044	久米島のトクジムのオキナワシャリンバイ-バケイスゲ	H	1.0	
47 053	野原岳東斜面の植生	DH	1.0	
47 055	来間島東海岸の海岸林	H	8.0	
47 056	白鳥崎のミズガンピ・テンノウメ群落	DH	6.0	
47 090	黄尾礁のガジュマル群落	BD	4.0	
*47 117	那覇市浸湖サーザ森のナハキハギ群落	CG	0.1	
*47 136	波照間島毛原崎のミズガンピ群落	BDH	5.0	
*47 154	ウーグ浜のクサトベラーモンパノキ群落	D	0.3	
*47 155	粟国島八重川城の植生	ED	4.0	
*47 157	硫黄島島のマルバニッケイ-シャシャンボ群落	D	7.0	
*47 165	南牧場のトゲイボタ群落	B	0.3	
47 029	恩納村万座毛の海崖植生	BC	0.5	亜熱帯単子葉草本草原
47 070	石垣島御神崎の草地植生	H	2.0	
47 091	南、北小島の草地植生	BH	2.0	
47 095	与那国島東崎の草地植生	H	6.0	
47 096	与那国島サンニヌ台一帯の海崖風衝植生	CH	10.0	
*47 156	硫黄島島のハチジョウススキ群落	D	3.0	

対照番号	件名	選定基準	面積 (ha)	相観
<b>《沖縄》</b>				
47 101	与那国島久部良大池のミモチシダ群落	DCH	0.0	草本シダ群落
*47 106	伊是名城趾のイワヒバ等の風衝植生	BDHG	6.0	岩上、多礫地草本植生
47 003	南大東のピロウ群落	BH	50.0	ヤシ形林
47 016	伊平屋島久葉山のピロウ群落	GH	6.0	
47 065	石垣島米原のヤエヤマヤシ林	B	2.0	
47 074	船浦のニッパヤシ	C	0.0	
47 081	西表ウブンドルのヤエヤマヤシ群落	CB	1.0	
47 094	内離島のニッパヤシ	C	0.0	
47 100	与那国島久部良岳のピロウ群落	H	20.0	
*47 102	北大東島内幕の植生	BDHE	3.0	
*47 108	古宇利島後原のソテツ群落	DE	0.5	
*47 109	本部町辺名原のソテツ群落	DE	5.0	
*47 115	久高島クボウの猿拝所カペールのピロウ林	DE	1.0	
*47 121	粟国島のソテツ群落	DEH	40.0	
*47 122	渡名喜島、大岳、大本田原の植生	CD	30.0	
*47 144	大宜味御嶽のピロウ林	CE	1.0	
*47 147	瀬底島北西部海崖のソテツ群落	D	1.0	
47 005	南大東島大池のオヒルギ	BGH	2.0	マングローブ林
47 014	東村慶佐次川のマングローブ	DH	13.0	
47 015	名護市大浦川のマングローブ林	D	4.0	
47 048	島尻のマングローブ林	D	8.0	
47 064	石垣島の吹通川のマングローブ林	D	7.0	
47 069	石垣島宮良川のマングローブ林	D	4.0	
47 080	仲間川流域のマングローブ、サガリバナ等の湿生林	CBD	150.0	
*47 110	億首川のマングローブ林	BCD	1.0	
*47 132	名蔵川河口域のマングローブ林	D	75.0	
*47 146	塩川のカワツルモ	D	0.0	浮葉・沈水植物群落
47 089	黄尾礁の噴火口壁のホソバワダン群落	DH	0.3	火山荒原植生
47 004	南大東島の池沼の湿地植生	DH	10.0	湿地植生
47 019	田名池の湿地植生	D	20.0	
47 050	池間島の湿地植生	D	13.0	
47 002	南大東島のボロジノニキノウなどの海浜植生	BC	64.0	海浜植生
47 039	荒崎の隆起サンゴ礁植生	DH	8.0	
47 042	久場島のオキナワマツバボタン群落	B	0.3	
47 045	久米島北海岸のミズガンビ群落	BH	2.0	
47 051	東平安名岬のテンノウメなどの風衝植生	GH	5.2	
47 054	前浜のハテルマカズラ群落	DH	8.0	
47 076	鳩間島のアイアシ群落	BC	0.0	
47 078	黒島の海岸植生	H	30.0	
47 083	波照間島高那崎の海浜植生	DH	20.0	
47 086	波照間島南海岸のハテルマギリ群落	DH	0.5	
47 092	魚釣島のタイワンハマサジ群落	C	0.1	
47 099	与那国比川のミズガンビ群落	DGH	0.1	
*47 113	富祖崎のハマジンチョウ並びにメヒルギ群落	BDGH	0.2	
*47 127	来間島西側海浜の海浜植生	D	2.0	
*47 137	北大東島の海岸植生	D	2.0	
*47 148	許田のウバメガシ	C	0.0	個体(群)
*47 161	平久保のヤエヤマシタン	BG	0.0	

## VII. 資料



# 1. 第3回自然環境保全基礎調査 検討会及び分科会

## \*\*自然環境保全基礎調査検討会名簿

座長	宝月 欣二	植物生態学	玉川大学教授
	有賀 祐勝	植物生態学	東京水産大学水産学部教授
	今泉 吉典	動物生態学	東京農業大学教授
	奥富 清	植物生態学	東京農工大学農学部教授
	北森良之助	海洋生物学	元農水省東海区水産研究所水質部 汚濁対策研究室長
	玖村 敦彦	作物学	東京大学農学部教授
	黒田 長久	鳥類学	岡山階鳥類研究所副所長
	佐々 学	環境生物学	富山医科薬科大学学長
	佐藤大七郎	林学	財団法人日本野生生物研究センター理事長
	高井 康雄	土壌学	東京農業大学教授
	田崎 忠良	植物生態学	東邦大学理学部教授
	中島 巖	航測学	千葉大学客員教授
	沼田 真	植物生態学	淑徳大学教授
	半谷 高久	地球化学	東京都立大学名誉教授
	古田 能久	陸水生物学	農水省東海区水産研究所陸水部主任研究官
	宮脇 昭	植物生態学	横浜国立大学環境科学研究センター教授
	門司 正三	植物生態学	東京大学名誉教授
	山本護太郎	海洋学	東海大学海洋学部教授
	吉川 虎雄	自然地理学	東京農業大学教授
	(北沢 右三)	動物生態学	物 故 )

## \*\*特定植物群落調査分科会名簿

座長	奥富 清	東京農工大学農学部教授
	奥田 重俊	横浜国立大学環境科学研究センター教授
	佐々木 寧	埼玉大学経済短期大学助教授
	菅沼 孝之	奈良女子大学理学部教授
	豊原源太郎	広島大学理学部講師

## 2. 昭和60年度特定植物群落調査要綱 (追跡調査)

(追跡調査)

### 1. 調査の目的

昭和53年度に実施した特定植物群落調査において選定した特定植物群落について、その後の改変等の変化状況を把握するための調査を行う。

なお、昭和53年度及び昭和59年度において選定した特定植物群落以外の植物群落で、新たに特定植物群落として追加選定する必要がある場合には、昭和59年度版特定植物群落調査要綱に従って調査を行う。

### 2. 調査実施者

国が都道府県に委託して実施する。

### 3. 調査対象群落

昭和53年度に実施した特定植物群落調査において選定した3,833群落を対象とする。

### 4. 調査実施期間

契約締結の日から昭和61年3月31日までとする。

### 5. 調査内容

昭和53年度において選定した特定植物群落について次の事項を調査する。

- ア. 群落の消滅または一部改変等の変化状況及びその原因
- イ. 保護の現状及び群落に対するインパクトの状況

### 6. 調査方法

対象群落について、既存資料(植生調査等)の収集、市町村等からの情報収集、及び現地確認等により調査を行う。

## 7. 調査結果のとりまとめ

- (1) 受託者は、調査結果を別紙-1「特定植物群落調査調査票（追跡調査）」（以下「調査票」という。）にとりまとめる。
- (2) 「面積に著しい変化」のあった群落（くくり線の変更を要する変化のあった群落）については、昭和53年度調査の際に作成した「特定植物群落生育地図」の該当部分のコピーに改変状況などの概略を記入した変化状況図を、調査票に添付する。（変化部分を赤線でくくり、赤ハッチを入れる）  
なお、生育地が小さく、上記生育地図では小黑丸で表示された群落については、見取り図程度の改変状況図を作成し添付する。（図面の大きさはB5版またはB4版とする。）

## 8. 調査結果の報告

受託者は、調査結果をとりまとめ、別紙-2「特定植物群落調査票帳（追跡調査）作成要領」により、「特定植物群落調査票帳（追跡調査）」2部（正本、写）を作成し、そのうち正本1部を昭和61年3月31日までに環境庁自然保護局長あて提出する。

(別紙-1)

特定植物群落調査票  
(追跡調査)

(12) 取扱	
---------	--

(1) 調査年度	1985
(2) 都道府県	

(3) 対照番号	(4) 地図番号	(5) 1/5万地形図	(6) 件名	(7) 測定基準
----------	----------	-------------	--------	----------

(8) 位 置	(9) 所 在 市 町 村	(10) 標 高	(11) 面 積
	市 町 村	( m )	( ha )

(13) 相 似 区 分	(14) 立 地 区 分
--------------	--------------

(ア) 変化状況及び原因(裏面参照)	(1) 面積、群落構成とも著しい変化なし	(2) 原因(番号に丸)	1. 人の立入	9. 植物の侵入
	2. 面積に著しい変化あり(その面積+・-約 ha)		2. 盗 採	10. 虫害・病害
	3. 群落構成に著しい変化あり		3. 農林業開発	11. 動物の侵入
	4. 個体数(個体群選定の組合)に著しい変化あり		4. 道路開発	12. 汚染物質の侵入
	5. 群落又は個体群の消滅		5. 観光開発	13. ゴミの投棄
			6. 水辺の開発	14. 自然災害
			7. その他の開発	15. その他
			8. 周辺の開発	

(3) 変化の具体的な状況及び原因の具体的な内容(上記(1) 2~5に該当する組合に記入)

(4) 存続・削除に關する意見(番号に丸)	1 特定植物群落として存続	2 特定植物群落から削除
-----------------------	---------------	--------------

(イ) 保護の現状及びインパクト面(裏面参照)	(a) (1) 保護制度の種類・名称												
	(2) 指定状況(番号に丸)	1	継 続	2	新 規	3	変 更	4	解 除				
	(3) 指定の年月(記入)	昭和 年 月			昭和 年 月			昭和 年 月					
	(4) 旧指定名称(記入)												

(イ) 保護の現状及びインパクト面(裏面参照)	(b) (5) インパクトの種類(番号に丸)	0. 特になし	4. 道路開発	8. 周辺の開発	12. 汚染物質の侵入
		1. 人の立入	5. 観光開発	9. 植物の侵入	13. ゴミの投棄
		2. 盗 採	6. 水辺の開発	10. 虫害・病害	14. 自然災害
		3. 農林業開発	7. その他の開発	11. 動物の侵入	15. その他
	(6) 上記インパクトの具体的な内容及び補足事項				

(ウ) 特記事項

(エ) 調査方法等(番号に丸)	1 現地調査	2 聞きとり調査	聞きとり先	3 文献調査	文献番号	著者名	発行年
-----------------	--------	----------	-------	--------	------	-----	-----

調査者所属	調査者氏名
-------	-------

(別紙-1 裏面)

[記入要領]

1) (ア)-(2)「原因」欄

原因となったインパクトの種類について下記別表「インパクトの種類・具体例表」を参考に、該当するものの番号を○でかこむ(原則として主要なもの1つとする)

2) (イ)-(1)「保護制度の種類・名称」欄

当該群落又は当該群落の生育地に関し、現在とられている保護対策について以下の記入例により記入する。

【保護制度の種類・名称】

- ・種類 国立公園、国定公園、都道府県立自然公園、原生自然環境保全地域、自然環境保全地域、都道府県自然環境保全地域、国指定特別天然記念物・特別名勝、国指定天然記念物・名勝、都道府県指定天然記念物、市町村指定天然記念物  
その他の例 緑地保全地区、緑地環境保全地域、郷土記念物、保護林、鳥獣保護区(特別保護地区)、伐採混合せ林、県民の森、市民の森その他当該群落の保護に寄与するとと思われる制度による指定状況等を記入されたい。
- ・名称(記入例) 中部山岳国立公園、飯久島原生自然環境保全地域 等指定地域に地区の名称がつくものについて、その名称を記入する。

3) (イ)-(5)「当該群落へのインパクトの種類」欄

下記別表「インパクトの種類・具体例表」を参照のうえ該当するものの番号を○でかこむ(複数でもよい)

4) (ウ)「特記事項」欄には、当該群落の現状、及び経年変化等に関し、特記事項があれば記入する。

5) (エ)「調査方法」のうち、聞きとり調査記入例

市町村関係者、地域住民、自然保護団体、地元研究者等

別表 (インパクトの種類・具体例表)

インパクトの種類	具 体 例
0. 特になし	
1. 人の立入	開庄、キャンプ地化、観光のための刈払い、子供の遊び場等
2. 道 徑	
3. 農林業開発	伐採・植林、水田・畑地化、放牧、農薬造成 等
4. 道路開発	道路建設、駐車場、排ガス 等
5. 観光開発	観光地化、スキーコース、ロープウェー、釣り場 等
6. 水辺の開発	堤防・護岸整備、護岸工事、河川改修、堰体築造、排水工事 等
7. その他の開発	土地造成、団地造成、パラボアンテナその他工作物の設置 等
8. 周辺の開発	上記3～7の開発が群落の周辺で行われているもの
9. 植物の侵入	伐採跡地植物、先駆植物、帰化植物の侵入 等
10. 虫害・細菌	マツクイムシ、カイガラムシ、スズメ 等
11. 動物の侵入	牛馬、イノシシ、食害、排泄物による富栄養化、シカ、野鳥 等
12. 汚染物質の侵入	排水、ふん尿、農薬、化学肥料 等
13. ゴミの投入	プラスチック容器、農薬、生ごみ、 等
14. 自然災害	風害、雹害、雪害、山崩れ、山火事、乾燥化(樹死) 等
15. その他	

(調査票記入上の注意)

1. 1件(1群落)につき調査票は1枚とする。
2. (2)「都道府県」から(12)「取扱い」欄までは、昭和53年度作成した「特定植物群落調査票」記載の内容をそのまま記入する。  
ただし「(6)件名」については、昭和53年度調査結果の集計整理にあたり、環境庁において修正したものもあるので、「特定植物群落調査報告書-全国版-(1980)」(以下「全国版報告書」という。)の「相観別件名、選定基準リスト(P. 373~601)により確認し、当該全国版報告書掲載のものを記入する。なお、「全国版報告書」は、各都道府県に保管されているものを参照されたい。
3. (13)相観区分、(14)立地区分については、前記「全国版報告書」の「相観別件名、選定基準リスト」、「立地別件名リスト」により、それぞれ該当するものを記入する。
4. (14)立地区分欄までのうちで、明らかな誤記、誤認等で、訂正の必要がある場合には、二重線を引いて訂正し、その理由を(ウ)特記事項欄に略記する。
5. (ア)「変化状況及び原因」欄
  - (1)「変化状況」については、以下の区分により、該当する番号を○でかこむ。
    1. 面積、群落構成とも著しい変化なし  
群落の面積、構成とも著しい変化のないもので、2. 以下に該当しないもの。
    2. 面積に著しい変化あり  
一部改変等により、群落面積に著しい変化(おおむね10%程度以上)のあったもの。(くくり線の変更を要する変化のあった群落)  
(変化部分のおおよその面積を記入する。)
    3. 群落構成に著しい変化あり  
例えば高木層の枯損等、群落の一部あるいは全域にわたって目視程度により、群落構成の著しい変化が認められるもの。

#### 4. 個体数（個体群選定の場合）に著しい変化あり

個体群を対象として選定したものであって、その個体数に著しい変化のあったとみられるもの。

#### 5. 群落または個体群の消滅

群落または個体群が全く消滅したもの。

- (2)「原因」については、上記(1)の2～5に該当する場合、変化の原因となったインパクトの種類を、別表「インパクトの種類・具体例表」を参照の上、当該「原因」欄に掲げたもののうちから選び、番号を○でかこむ。（原則として主要なもの1つとする。）

なお、原因が不明もしくは明定しがたい場合、及び面積の増大を伴った変化の場合等は、「15. その他」に○を付した上で「変化の具体的状況及び変化の原因の具体的内容」欄に具体的に記す。

- (3)「変化の具体的状況及び原因の具体的内容」欄には、上記(1)の2～5に該当する場合、変化の具体的な状況及び変化の原因となったインパクトの具体的内容を記述する。

- (4)「存続・削除に関する意見」は、以上の結果から、変化がなかったもの、なんらかの変化はあっても継続して特定植物群落としてリストアップしておくことが適当なものは、1. 「特定植物群落として存続」、群落または個体群が消滅したか、特定植物群落選定基準に該当し得ない程度の変化があったもので、特定植物群落リストから削除することが適当と思われるものは、2. 「特定植物群落から削除」のそれぞれ該当する番号を○でかこむ。

### 6. (イ)「保護の現状および群落に対するインパクトの状況」欄

#### (a)「保護の現状」

- (1)「保護制度の種類・名称」欄には、自然公園及び自然環境保全地域等の指定、天然記念物の指定等、当該群落または、当該群落の生育地に関して現在とられている保護対策について、以下の記入例により記入する。

[保護制度の種類・名称]

・種類 国立公園、国定公園、都道府県立自然公園、原生自然環境保全地域、自然環境保全地域、都道府県自然環境保全地域、国指定特別天然記念物・特別名勝、国指定天然記念物・名勝、都道府県指定天然記念物、市町村指定天然記念物

(その他の例) 緑地保全地区、緑地環境保全地域、郷土記念物、保護林、鳥獣保護区(特別保護地区)、伐採見合せ林、県民の森、市民の森その他当該群落の保護に寄与すると思われる制度による指定状況等を記入されたい。

・名称(記入例) 中部山岳国立公園、屋久島原生自然環境保全地域等指定地域に地区の名称がつくものについて、その名称を記入する。

(2) 「指定状況」欄は、(1)の保護制度が前回調査の時点から継続されているものは、「1. 継続」、前回調査以降新たに指定等のなされたものは「2. 新規」、前回調査以降、種類・名称に変更のあったものは「3. 変更」、前回調査以降指定等が解除されたものは「4. 解除」のそれぞれ該当する番号を○でかこむ。

(3) 「指定の年月」欄は、2. 新規、3. 変更、4. 解除について、それぞれの指定等の年月を記入する。

(4) 「旧指定名称」欄は、3. 変更、4. 解除について、変更・解除前の保護制度の種類・名称を記入する。

なお、以上「保護の現状」欄については、都道府県において、行政資料(市町村資料も含む)により確認の上記入する。

(b) 「群落に対するインパクトの状況」

(5) 「インパクトの種類」欄は、現状では顕著な変化は認められないが、将来、当該群落の著しい変化が懸念されるインパクトがあれば、別表「インパクトの種類・具体例表」を参照の上、当該「インパクトの種類」欄に掲げたもののうちから選び番号を○でかこむ。(複数でもよい)

(6) 「上記インパクトの具体的内容及び補足事項」欄には上記(5)のインパクトについての具体的内容及び補足事項があれば記入する。

7. (ウ) 「特記事項」欄には、当該群落の現状及び経年変化等に関し、特記事項があれば記入する。
8. (エ) 「調査方法等欄」は、当該調査表作成にあたっての調査方法について、現地調査、聞きとり調査、文献調査の別を、該当する番号を○でかこんで示し、聞きとり調査については聞きとり先(例、市町村関係者、地域住民、自然保護団体、地元研究者等)を、文献調査については文献番号(別紙-2「特定植物群落調査票帳(追跡調査)作成要領」に後述)、著者名、発行年(西暦)を記入する。
9. 「調査者」欄には、当該調査票作成者の所属、氏名を記入する。
10. 今回調査では、植生調査表の添付は、原則として必要ないが、前回調査の際、植生調査表が添付されなかった群落については、その後の既存資料等で該当する群落の植生調査表又は組成表があれば、その写しを参考添付する。

別表 (インパクトの種類・具体例表)

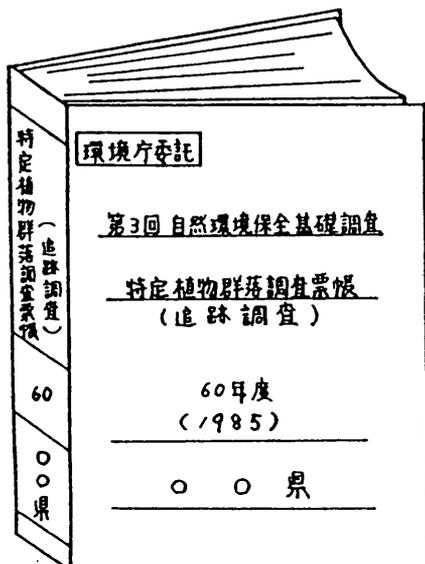
インパクトの種類	具 体 例
0. 特になし	
1. 人の立入	踏圧、キャンプ地化、観光のための刈払い、子供の遊び場等
2. 盗 採	
3. 農林業開発	伐採・植林、水田・畑地化、放牧、装置造成 等
4. 道路開発	道路建設、駐車場、排ガス 等
5. 観光開発	観光地化、スキーコース、ロープウェー、釣り場 等
6. 水辺の開発	港湾・漁港整備、護岸工事、河川改修、堰堤築造、排水工事 等
7. その他の開発	土地造成、団地造成、パラボナアンテナその他工作物の設置 等
8. 周辺の開発	上記3～7の開発が群落の周辺で行われているもの
9. 植物の侵入	伐採跡地植物、先駆植物、帰化植物の侵入 等
10. 虫害・菌害	マツクイムシ、カイガラムシ、スス病 等
11. 動物の侵入	牛馬、イノシシ、食害、排泄物による富栄養化、シカ、野猿 等
12. 汚染物質の侵入	排水、ふん尿、廃油、化学肥料 等
13. ゴミの投棄	プラスチック容器、塵埃、生ごみ、 等
14. 自然災害	風害、塩害、雪害、山崩れ、山火事、乾燥化(覆原) 等
15. その他	

(別紙-2)

### 特定植物群落調査票帳(追跡調査)作成要領

#### 1. 表紙及び背文字

表紙(及び裏表紙)は淡緑色・B5・ファイル(「コクヨ、フ-11、B5・S」(ライオン、No 592、B5-S等)を使用し、タイトル等の様式は下図によるものとし黒サインペンの手書きでよい。



#### 2. 配列

配列は以下の順とする

- (1) 特定植物群落生育地概略図
- (2) 調査票
- (3) 文献リスト
- (4) 調査担当者名簿

#### 3. 特定植物群落生育地概略図

都道府県別の、第2回自然環境保全基礎調査、特定植物群落調査報告書(1978年)の該当部分をコピーして添附する。

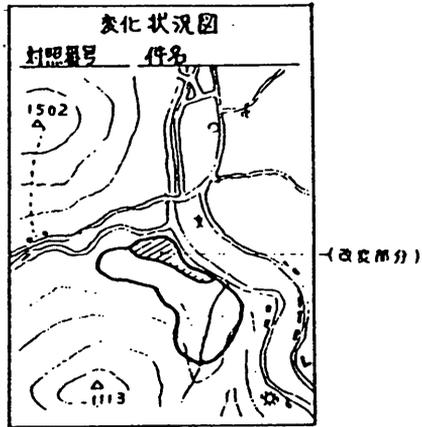
#### 4. 調査票

特定植物群落調査(追跡調査)、及び変化状況図を一式として、対象番号の順に綴る。

変化状況図は、「面積に著しい変化」のあった群落(くくり線の変更を要する変化のあった群落)について、次の例にならい作成する。

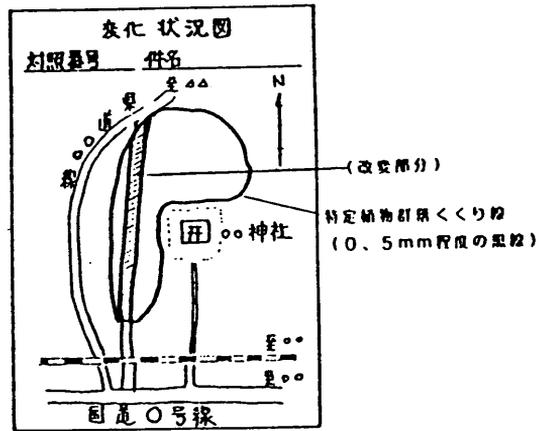
(例1)

昭和53年度調査の際作成した「特定植物群落生育地図」の該当部分のコピーに変化状況を記入する。



(例2)

生育地が小さく、上記「特定植物群落生育地図」では、小黑丸で表示された群落については、可能な限り、1/1,000～1/10,000程度の図面を使用し変化状況図を作成する。図面が入手困難な場合は簡単な見取り図により作成する。



いずれも、変更部分を赤線でくくり、赤でハッチを入れる。図面の大きさは、原則としてB5版又はB4版とする。(縮小も可)

## 5. 文献リスト

当調査で使用した文献について、次の表にならとりまとめる。なお文献には、通し番号(文献番号という)をつける。

文献番号	著者名	発行年 (西暦)	文献名
1			
2			
3			

6. 調査担当者名簿

当調査に実際に従事した者全員の所属、氏名、分担分野を次の表にならいつりまとめる。

番号	氏名	所属	分担分野
1	〇〇〇〇	〇 〇 〇	総括責任者
2	X X X X	X X X	X X X

# 昭和61年度 特定植物群落調査要綱

## 1. 調査の目的及び概要

昭和61年度に実施する特定植物群落調査は、下記の2項目について行うとともに、昭和59～61年度に実施した当該調査結果を「都道府県別報告書」としてとりまとめる。

### (1) 追加調査

昭和53年度及び59・60年度に実施した特定植物群落調査において、選定もれとなった植物群落、あるいは、その後新たに発見された植物群落で、「特定植物群落選定基準」（別紙「特定植物群落調査実施要領(追加調査)」参照）に該当するものをリストアップし、その生育地及び生育状況について調査する。

### (2) 生育状況調査

特定植物群落の生育地及び生育状況の現況を把握し、併せて自然環境保全施策の基礎となるバックデータを蓄積する目的で、既に選定された特定植物群落の中から植物群落の類型ごとに代表的、典型的な群落を抽出し、標本的な群落を対象として、生育地及び生育状況の現況を調査する。

## 2. 調査実施者

国が都道府県に委託して実施する。

## 3. 調査対象地域

全都道府県を対象とする。ただし、「追加調査」については、該当群落のある都道府県を対象とする。

## 4. 調査実施期間

契約締結の日から昭和62年3月31日とする。

## 5. 調査内容及び調査方法

### (1) 追加調査

#### ア 調査対象植物群落（追加選定群落）

別紙1「特定植物群落調査実施要領(追加調査)」により選定する。

（昭和53年度及び59・60年度に実施した特定植物群落調査により選定されたものを除く。）

#### イ 調査事項

(7) 植物群落の位置、面積

(イ) 植物群落の概要

(ウ) 保護の現状

(I) 保護管理に関する所見

#### ウ 調査方法

今までに実施した自然環境保全基礎調査による植生図、空中写真等を参考にしながら、既存資料その他の知見の収集を行うとともに、必要に応じて現地調査を行う等して調査を実施する。

詳細は、別紙1「特定植物群落調査実施要領(追加調査)」による。

### (2) 生育状況調査

#### ア 調査対象植物群落（生育状況調査群落）

別紙2「特定植物群落調査実施要領(生育状況調査)」により、第3回調査までにリストアップされた特定植物群落の中から、当該群落の代表性・典型性及び保全が長期間担保される可能性等を勘案して選定する。

なお、2以上の群落から成る特定植物群落を生育状況調査群落として選定する場合には、当該特定植物群落のうち、どの部分の群落を生育状況調査の対象とするかを明らかにする。

#### イ 調査事項

(7) 生育状況調査群落の概要調査

a. 植物群落の位置、面積等

b. 生育環境

c. 植物群落の概要（周辺の状況を含む）

d. 保護管理の現状

e. 選定理由

f. 現況写真の撮影

(イ) コドラート調査

- a. 一般植生調査（植物社会学的方法による植生調査）
- b. 毎木調査（樹高8m以上の樹木のみ）
- c. コドラート現況写真の撮影

ウ 調査方法

「(7) 生育状況調査群落の概要調査」は、現地調査及び既存資料により行う。

「(イ) コドラート調査」は、現地調査により行う。

詳細は、別紙2「特定植物群落調査実施要領(生育状況調査)」による。

エ 現地調査の実施時期

現地調査（現況写真の撮影を含む）は、夏期に実施する。

6. 調査結果のとりまとめ

受託者は、個々の調査対象群落に関する調査結果につき、別紙1「特定植物群落調査実施要領(追加調査)」及び別紙2「特定植物群落調査実施要領(生育状況調査)」に示す図票等を作成するとともに、これらを、昭和59～60年度に実施した当該都道府県の特定植物群落調査の結果（過年度に提出済の票帳・図帳を除く）と併せて別紙3「都道府県別報告書作成要領」に従って、報告書、図帳等としてとりまとめ、それぞれ2部作成し、そのうち正本1部を昭和62年3月31日までに環境庁自然保護局長あて提出する。

<別紙1>

## 特定植物群落調査実施要領 (追加調査)

### 1. 調査対象植物群落の選定

(1) 調査対象とする植物群落は、群落の面積の大小にかかわらず表1-1「特定植物群落選定基準」に該当するものとする。

(2) 第1回～第3回自然環境保全基礎調査(環境庁)及びIBPのJCT(P)ハンドブック(2)等を参考にしつつ、自然公園、自然環境保全地域及びこれらの候補地に含まれるものを落とすことのないように注意し、都道府県ごとに植物群落を選定する。

<表1-1> 特定植物群落選定基準

- |  |
|--|
| <p>A 原生林もしくはそれに近い自然林<br/>(特に照葉樹林についてはもれのないように注意すること)</p> <p>B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群</p> <p>C 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群</p> <p>D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの(特に湿原についてはもれのないように注意すること。)</p> <p>E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの(武蔵野の雑木林、社寺林等)</p> <p>F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの</p> <p>G 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群</p> <p>H その他、学術上重要な植物群落または個体群</p> |
|--|

(特定植物群落の選定上の注意)

特定植物群落の選定は、原則として、同一の相観を呈する、または優占種を有する群落毎に1件として選定すること。特に、連続する原生林(もしくはそれに近い自然林)であっても、相観または優占種の異なる場合、及びこれら原生林に囲まれて、選定基準Dに該当する湿原等の群落が存在する場合には、それぞれ別個に選定すること。

## 2. 特定植物群落生育地図の作成

選定した特定植物群落の生育地を、別紙1-1「特定植物群落生育地図」(以下「生育地図」という。)にならい、国土地理院発行の5万分の1地形図に表示する。

## 3. 特定植物群落調査票の作成

調査した事項は、別紙1-2「特定植物群落調査票」(以下「調査票」という。)にとりまとめるものとし、調査票には、原則として代表的な地点における植生調査表(別紙1-3の様式による)を添付する。

この場合の植生調査表は、現地調査によるものか、既存文献資料等(原則として5年以内のもの)によるものかは問わないが、選定された特定植物群落の代表的部分の植生の概要が把握できるものであること。

## 4. 特定植物群落生育地概略図の作成

当該都道府県において、第3回自然環境保全基礎調査で新たに選定された特定植物群落の生育地を図示した、概略図を作成する。

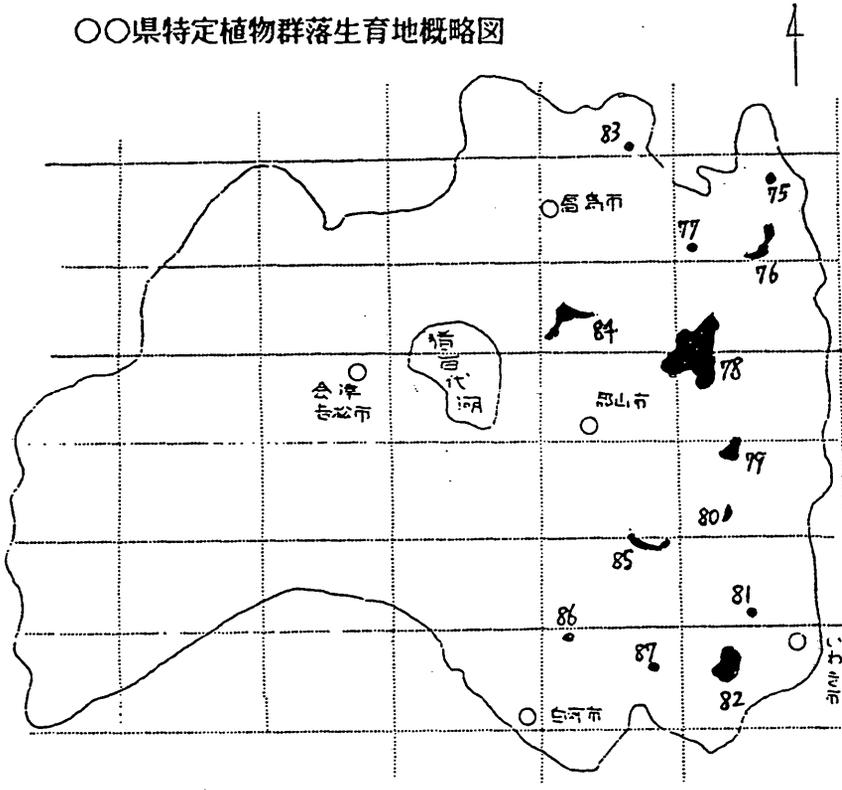
概略図は、生育地図(1/5万)を参考にして、当該都道府県の概略図(B5判もしくはB4判に収まる程度)に、次の例にならい生育地を記入し、対照番号を打つ。

この際、調査票の「取扱」欄が④のものは、その旨を記して概略図には、その生育地を記載しなくてよい。

(注) 特定植物群落生育地概略図は、当該都道府県において、昭和59年度

もしくは60年度にも追加調査が行われている場合には、それらの群落も含めて表示すること。

(例) ○○県特定植物群落生育地概略図



(注) 生育地のわきの数字は、特定植物群落調査票との対照番号である。

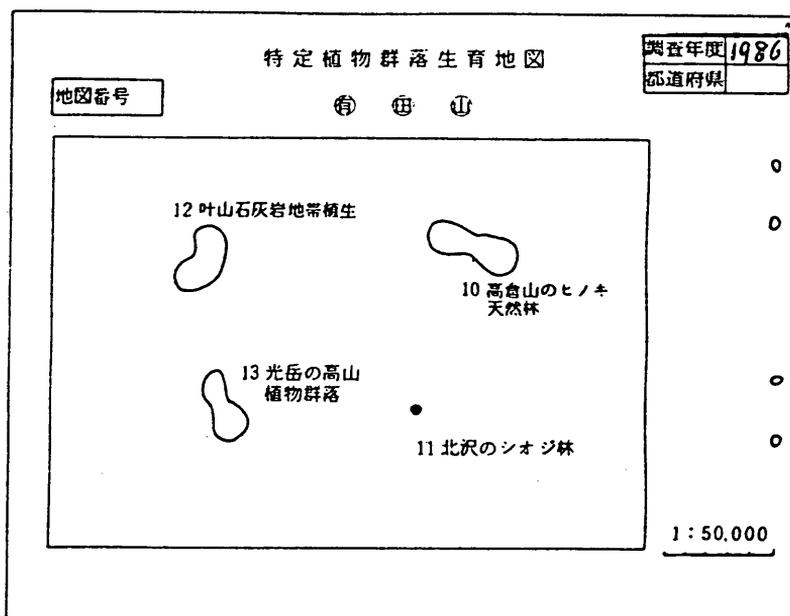
## 5. 調査結果のとりまとめ

上記により作成した生育地図、調査票等は、別紙3「都道府県別報告書作成要領」及び別紙3-1「生育地図帳」に従い、報告書あるいは図帳の形にとりまとめた上で提出する。

<別紙1-1>

## 特定植物群落調査生育地図

生育地図例



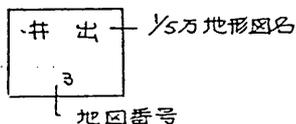
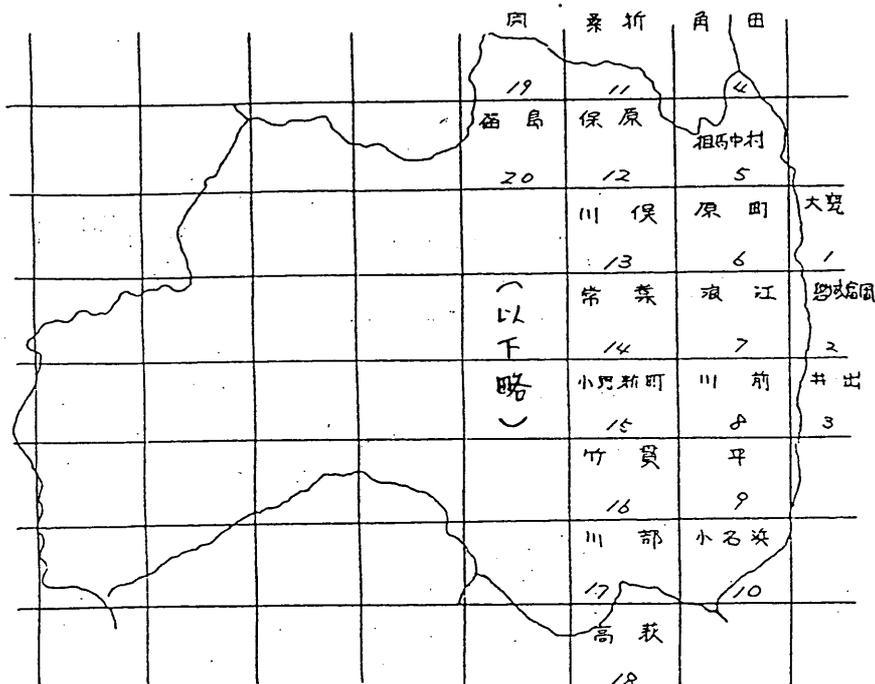
(生育地図作成上の注意)

1. 生育地図には、必ず国土地理院発行の1/5万地形図を使用する。複写図、編纂図等は使用しないこと。

2. 1/5万地形図には、都道府県単位で東側から、北から南へ「地図番号」を打つ。(下図(以下「地図番号図」という)参照)

### 地図番号図

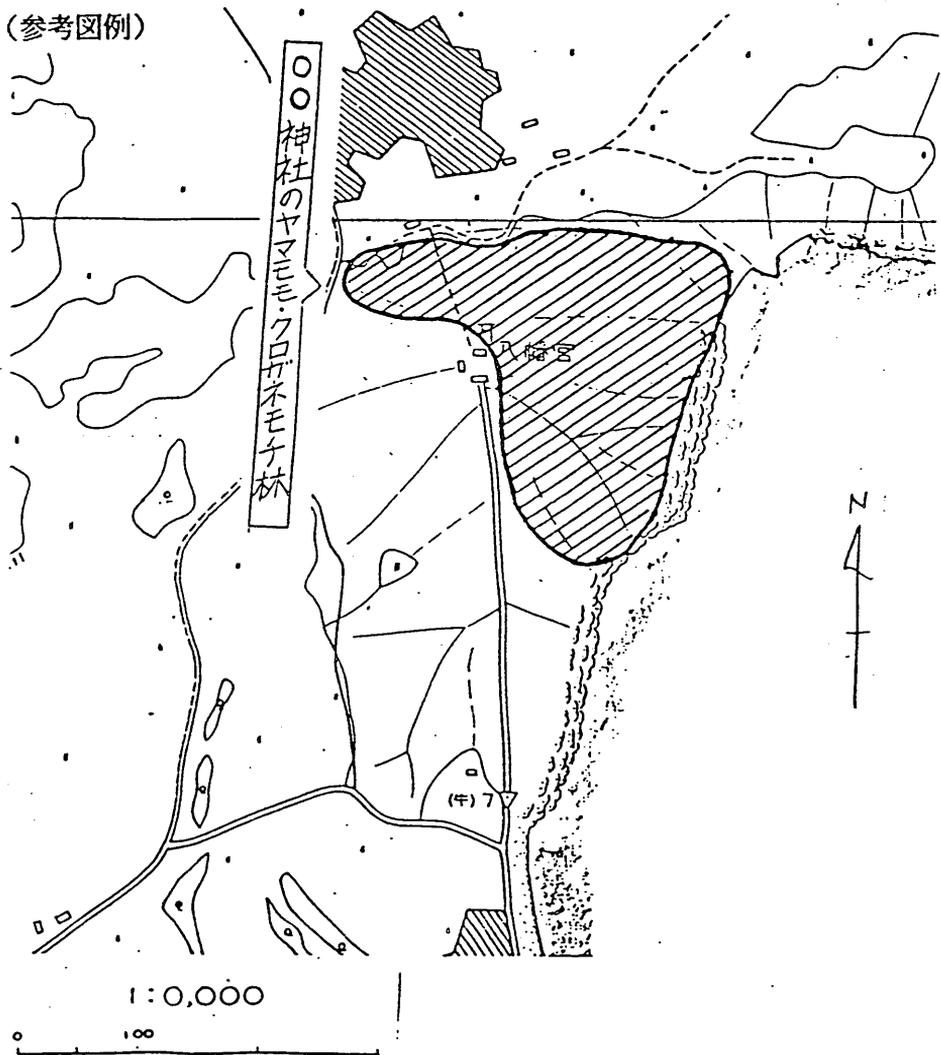
(例：福島県)



3. 調査の結果、植物群落の生育地が表示されていない地形図が出てきた場合は、当該地形図の提出は不要である。
4. 生育地図例のように、地形図の余白の所定の位置に「タイトル」、「地図番号」、「調査年度」(西暦)、「都道府県名」を黒インクで記入する。
5. 対象群落の生育地を黒線でくくり、その位置を示すとともに、調査票と対照できるように対照番号と件名を記入する。くくり線は、巾 0.5mm程度の黒線で引くものとし、生育地が小さくて黒線でくくれない場合は、小黑丸(・)で表示する。

6. 対照番号は、各都道府県ごとに通し番号とし、地図番号の若い生育地図から順次生育地ごとに付す。(ただし、第2回及び第3回自然環境保全基礎調査において、既に選定された群落の対照番号との重複を避け、これまでに用いた番号に引き続く通し番号とすること。)
7. 生育地が2枚以上の地形図にわたる場合は、対照番号と件名は同一のものとし、それらに関係するすべての地形図に記入する。
8. 面積が10ha未満の群落については、参考図として、その生育範囲を示す適当な縮尺の図面(1/10,000~1/1,000程度)を添付すること。なお、参考図の大きさはB4判またはB5判とし、調査票とともに編綴すること。

(参考図例)





# (裏面)

## [ 保護の現状欄の凡例及び記入例 ]

### (1) 保護制度の種類・名称

- ① 種類 国立公園、国定公園、都道府県立自然公園  
原生自然環境保全地域、自然環境保全地域、都道府県自然環境保全地域  
国指定特別天然記念物・特別名勝、国指定天然記念物・名勝、都道府県指定天然記念物、  
市町村指定天然記念物  
その他の例 ( 緑地保全地区、緑地環境保全地域、郷土記念物、保護林、  
鳥獣保護区(特別保護地区)、伐採見合せ林、県民の森、市民の森  
その他当該群落の保護に寄与すると思われる制度による指定状況等を記  
入されたい。 )
- ② 名称(記入例) 中部山岳国立公園、屋久島原生自然環境保全地域 等指定地域に地区の名称が  
つくものについて、その名称を記入する。

### (2) 具体的保護対策の種類

下記の中から該当するものを選び(複数でもよい)、番号で記入する。

#### 0. 特になし

1. 立入禁止柵、制札等群落保護のための措置がなされている。
2. 歩道、木道、案内板(解説板)等利用者のための施設がある。
3. 監視人、管理人が常時(又は季節的に)配置されている。
4. 土地所有者の意向等により、通常立入が制限されている。
5. 毎年、間伐、下刈り等が実施されている。
6. 定期的に清掃活動が行われている。
7. その他
8. 不明

※「7. その他」の具体的内容等補足事項がある場合には「(4)上記の補足…」欄に記入すること。

### (3) 当該群落へのインパクトの種類

下記の中から該当するものを選び(複数でもよい)、番号で記入する。

#### 0. 特になし

1. 人の立入 (例) 踏圧、キャンプ地化、観光のための刈払い、子供の遊び場 等
2. 盗 採
3. 農林業開発 伐採・植林、水田・畑地化、放牧、草地造成 等
4. 道路開発 道路建設、駐車場、排ガス 等
5. 観光開発 観光地化、スキーコース、ロープウェー、釣り場 等
6. 水辺の開発 港湾・漁港整備、護岸工事、河川改修、堰堤築造、排水工事 等
7. その他の開発 土地造成、団地造成、パラボラアンテナその他工作物の設置 等
8. 周辺の開発 上記3～7の開発が群落の周辺で行われているもの
9. 植物の侵入 伐採跡地植物、先駆植物、帰化植物の侵入 等
10. 虫害・菌害 マツクイムシ、カイガラムシ、スス病 等
11. 動物の侵入 牛馬、イノシシ、食害、排泄物による富栄養化、シカ、野猿 等
12. 汚染物質の侵入 排水、ふん尿、廃油、化学肥料 等
13. ゴミの投棄 プラスチック容器、塵埃、生ゴミ 等
14. 自然災害 風害、塩害、雪害、山崩れ、山火事、乾燥化(湿原) 等
15. その他

※それぞれの具体的内容等については「(4)上記の補足…」欄に記入すること。

(特定植物群落調査票記入上の注意)

1. 1件(1生育地)につき、調査票は1枚とする。
2. 調査票には、原則として代表的な地点における植生調査表を別紙1-3の様式に従って1ヵ所以上添付する。生育地が2以上の植物群落から構成されている場合は、植物群落ごとに植生調査表を添付する。ただし草本植生の場合は、代表的な植物群落についての植生調査表を添付すればよい。  
当該生育地における植生調査表が過去5年以内のものであれば、それを添付してさしつかえない。  
いずれの場合においても、当該群落の代表的な組成を示す植生調査表を添付するよう注意すること。
3. 「調査年度」(西暦)、「都道府県」には、それぞれ該当のものを記入する。
4. 「取扱」には、公表することにより乱獲のおそれがある等、その植物群落の生育地の公表が不都合な場合、赤字で⊕と記入する。
5. 「対照番号」、「地図番号」、「1/5万地形図」には、生育地図と対照できるようにそれぞれ該当するものを記入する。  
なお、「対照番号」は、第2回及び第3回自然環境保全基礎調査において、既に選定された群落の対照番号との重複を避け、これまでに用いた番号に引き続く通し番号とすること。
6. 「件名」には、その植物群落の具体的名称を、例えば「朝日岳の蛇紋岩地植生」、「高倉山のヒノキ天然林」などのように、なるべく所在地名と組み合わせ、わかりやすいものとして記入する。
7. 「選定基準」には、その植物群落が選定された理由を、表1-1「特定植物群落選定基準」から選んで記入する。2つ以上の理由がある場合は、そのすべてを記入する。
8. 「位置」には、例えば「朝日岳頂上付近」、「高倉山北斜面のブナ林地帯の中」などのように、その生育地を「件名」に記入した地名より詳しく記入する。
9. 「所在市町村」には、その生育地が属する市郡町村名を記入する。生育地が、2以上の市町村にわたる場合には、主たる生育地の属する市町村名を記入する。
10. 「標高」には、生育地のおおよその標高を10m単位で記入し、幅がある場合には適宜「700~950m」のように記入する。

11. 「面積」には、生育地のおおよその面積を記入する。ただし、部分的な伐採その他により生育地がパッチ状、縞状等に分散している場合には、それぞれの分散した生育地の面積の合計をもって上記の「面積」とすること。
12. 「内容」には、生育地の位置の詳細、その植物群落の概要（主な構成要素、群落高、上層の植被率等）、その植物群落の分布の特徴、保存の状況等を具体的に記入する。人工林の場合はおおよその樹齢を必ず記入すること。  
また、1団地が2以上の群落から構成されている生育地の場合は、植物群落ごとにその植物群落の概要を記入する。ただし、草本植生の場合は、代表的な植物群落についてのみその概要を記入すればよい。

#### （例1） 檜原のシオジ林

出原郡寺田村山本の通称檜原と呼ばれる新津川支流北沢の標高800m付近に、シオジの原生林が生育する。シオジの純林に近く、一部カツラが混成し、亜高木層には、チドリノキ、オオバアサガラ等、林床にはタマアジサイ、キツリフネ、レンゲショウマ、シノブカグマ等が生育する。上層の植被率は90%ほどで、群落高は約25mである。シオジの純林は、本県でもここだけであり、全国的にも珍しく、石灰岩地帯の指標となっている。また、周辺のブナ林とともに非常によく自然の状態が保存されている。

#### （例2） 御蔵島の原生林 1. スタジイ林

御蔵島の集落を中心とした北半の低海拔地（二次林地帯）と御山を中心とした高海拔風衝地を除いた島の大半の地域では、照葉樹の原生林によりよって被われている。

ここの照葉樹林は下半部のスタジイ林と上半部のユズリハーヤマグルマ林に大きく分けられる。

スタジイ林は、オオシマカンスゲースタジイ群集で、その自然性の高さや広がりやの大きさは、我が国でも有数のものといえる。とくに島の南部の林は見事である。しかしながら、このスタジイを主とした原生林は、オオミスナギドリの営巣地でもあり、森林植生とくに林床植生は相当攪乱されているところが多い。

(例3) 御蔵島の原生林 2. ユズリハーヤマグルマ林

原生林概要は、御蔵島の原生林 1. と同じ。

ユズリハーヤマグルマ林は、亜高木林を主とし、海拔が高まるにつれて低木林状となり、風衝地のササ原に代わる。……………

13. 「保護の現状」欄には、自然公園及び自然環境保全地域等の指定、天然記念物の指定等、当該植物ないし植物群落、または当該生育地に関して現在とられている保護対策について、以下の凡例及び記入例により記入する。

〔保護の現状欄の凡例及び記入例〕

(1) 保護制度の種類・名称

- ①種類 国立公園、国定公園、都道府県立自然公園、原生自然環境保全地域、自然環境保全地域、都道府県自然環境保全地域、国指定特別天然記念物・特別名勝、国指定天然記念物・名勝、都道府県指定天然記念物、市町村指定天然記念物

その他の例

緑地保全地区、緑地環境保全地域、郷土記念物、保護林、鳥獣保護区（特別保護地区）、伐採見合せ林、県民の森、市民の森、その他当該群落の保護に寄与と思われる制度による指定状況等を記入されたい。

②名称 (記入例)

中部山岳国立公園、屋久島原生自然環境保全地域等指定地域に地区の名称がつくものについて、その名称を記入する。

(2) 具体的保護対策の種類

下記の中から該当するものを選び（複数でもよい）番号で記入する。

0:特になし

1:立入禁止柵、制札等群落保護のための措置がなされている。

2:歩道、木道、案内板（解説板）等利用者のための施設がある。

3:監視人、管理人が常時（または季節的に）配置されている。

4:土地所有者の意向等により、通常立ち入りが制限されている。

5:毎年、間伐、下刈り等が実施されている。

6:定期的に清掃活動が行われている。

7:その他

8:不明

※「7:その他」の具体的内容等補足事項がある場合には「(4)上記の補足……………」欄に記入すること。

(3) 当該群落へのインパクトの種類

下記の中から該当するものを選び（複数でもよい）、番号で記入する。

- 0: 特になし
- 1: 人の立入           (例)踏圧、キャンプ地化、観光のための刈払い、子供の遊び場等
- 2: 盗採
- 3: 農林業開発       伐採・植林、水田・畑地化、放牧、草地造成等
- 4: 道路開発         道路建設、駐車場、排ガス
- 5: 観光開発         観光地化、スキーコース、ロープウェー、釣り場等
- 6: 水辺の開発         港湾・漁港整備、護岸工事、河川改修、堰堤築造、排水工事等
- 7: その他の開発     土地造成、団地造成、パラボラアンテナその他工作物の設置等
- 8: 周辺の開発         上記3~7の開発が群落の周辺で行われているもの
- 9: 植物の侵入       伐採跡地植物、先駆植物、帰化植物の侵入等
- 10: 虫害・菌害      マツクイムシ、カイガラムシ、スス病等
- 11: 動物の侵入      牛馬・イノシシ・シカ・野猿等による踏みつけ・食害等、排泄物による富栄養化等
- 12: 汚染物質の侵入   排水、糞尿、廃油、化学肥料等
- 13: ゴミの投棄      プラスチック容器、塵埃、生ゴミ等
- 14: 自然災害         風害、塩害、雪害、山崩れ、山火事、乾燥化(湿原)等

15: その他

※それぞれの具体的内容等については「(4)上記の補足……………」欄に記入すること。

- 14. 「保護管理に関する技術的所見」には、当該植物ないし植物群落または当該生育地の保護管理について技術的所見があれば記入する。
- 15. 「資料の種類」には、当該調査票が現地調査によって作成されたものか、文献によったものかの区別を該当するものを○で囲んで示す。

16. 「文献」には、当該調査票が文献によって作成されたものの場合、文献番号（別紙3「都道府県別報告書作成要領」参照）、筆者名、発行年（西暦）を記入する。

17. 「調査者」には、当該調査票作成者の所属、氏名を記入する。

※調査票の表面太線より下のコーディング欄及び裏面の「位置メッシュコード」欄は、環境庁において記入するので、記入の必要はない。



(記入上の注意)

1. 記入欄最上段の「(植生調査) No.」及び「凡例名(群落名)」の欄は、空欄とする。(植生調査の場合にのみ使用)
2. 対照番号及び件名：特定植物群落調査票と対照できるように該当のものを記入する。
3. 群落名：高木層の優占種と、低木層(または草本層)の優占種とをハイフンでつないであらわすのが望ましい。例えば、ブナ-チシマザサ群落、またはブナ-チシマザサ-ミヤマカンスゲ群落などとなる(略してもよい)。
4. 調査地：都道府県、市、町村名は必ず記入し、加えて字、河川、沢、山地名などの記入は5万分の1地形図の名称をなるべく採用する。
5. 図幅：5万分の1地形図名を記入する。なお調査地の位置を明らかにするため、地形図を右のように4等分して、該当する上下左右の箇所を○で囲む。

上左	上右
下左	下右

6. 海拔：近くの三角点、水準点、独標点などで更正した携帯用高度計で測定する。やむをえない場合は5万分の1地形図上で推定する。10mのケタまで記入する。
7. 方位：調査区が面している方向をクリノメータで測定し、N22°Wのように記入し、NNWという表現はできるだけさける。
8. 傾斜：調査区斜面のほぼ平均とみられるところをクリノメータで測定する。
9. 面積：縦×横 m で表現する。調査区面積は少なくとも最小面積の2倍以上の面積をとることがのぞましい。
10. 出現種数：各層の種数の和から2つ以上の階層に出現する種の重複分を差し引いたものを記入する。
11. 地形：調査区的位置する地形区分を○で囲む。斜面上にある場合は、斜面主方向にそって上中下区分と凸凹別で表現する(凸凹のない場合は凸凹チェックなしとする)。傾斜5°以下である程度広がりをもつ場合は平地とするが、谷底平地とは区別すること。谷底平地は谷と平地をダブルチェックして表わす。

12. 土 壤：該当する土壤型名を○で囲む。調査表内の略称はつぎの土壤型を表わしている。

ポド性……ポドゾール性土

擬グライ…擬グライ土

褐森……褐色森林土

沼沢……沼沢土

赤……赤色土

沖積……沖積土

黄……黄色土

高湿草……高山湿草地土

黄褐森……黄褐色森林土

非固岩屑…非固結岩屑土

アンド……火山灰土壤（黒色土壤）

固岩屑……固結岩屑土

グライ……グライ土

水面下……水面下土壤

13. 風当・日当：調査区をとりまく地形的特徴に注意し、遮蔽物の有無や樹形の変化などにも留意してチェックする（○で囲む）。

14. 土 湿：乾とは土塊をにぎって湿りを感じない場合、適とは湿りを感じ、湿とは水が出るがたれない、過湿とは水がしたたる場合、としてチェックする。

15. 階 層：独立または比較的独立した植物層（葉群層）を一つの階層とし、自然の階層を映し出すように把握する。森林の場合、階層は基本的には I 高木層、II 亜高木層、III 低木層、IV 草本層、V コケ層の5層に分かつ。低木層及び草本層が細分可能な場合は、各々に第1、第2またはIII-1、III-2、IV-1、IV-2を区分して記入する。そのため、III、IVには余白を設けてある。草本の場合には草本層は上層と下層に分けられる。その他の区分を必要とする場合には適宜工夫する。低木林の調査では高木層と亜高木層の欄は空白となる。

16. 優占種：各階層の優占種の植物名を記入する。同一の階層に優占種が複数のときは少なくとも二種類を記入する。

17. 高 さ：各階層の葉群層の上限と下限の高さを記入する。例えば8～15mのように上限は～の右側に書く。コケ層は上限だけで足りる。

18. 植被率：各階層毎の植被率（種類別の被度ではなくその階層全体としての植物被覆の割合）を百分率で判定して記入する。

19. 胸 径：胸高直径は高木層及び亜高木層に限り、各層の最大胸高直径のもののみを測定して記入する。

20. 種 数：組成表から数え出して各階層毎に記入する。従って各層で同じ種類（例えば高木性の種など）が重複して数えられることもある。

21. 調査者：直接調査を行った人をもれなく記入することが望ましい。責任者には○印をつけておくこと。

22. 組成表について：調査区内の種類組成、階層、生活形、優占度または被度と群度、活力度及び芽生えについて記入する。表中のS欄は階層、L欄は生活形、D・S欄は優占度または被度と群度、V欄は活力度、SPP.欄は種名をそれぞれ記入する。記入の要領はつぎの通りである。

(S)階層：I, II, III-1, III-2, IV, V のようにし、種類のリストは、I (高木層) からはじめて順次下層にいたる。

(L)生活形：特に、つる植物は l、着生植物は ep と記入する。

(D・S)優占度または被度と群度：種の優占の度合いを判定するには、下記の Braun-Blanquet 法による優占度…被度と群度（推定的個体数）の組み合わせによる測定法を用いる。

- γ ……ごくまれに出現
- + ……少数で被度は非常に低い
- 1 ……多数だが被度は低い、あるいはかなり少数だが被度はやや高い
- 2 ……非常に多数（ただし被度は1/10以下） あるいは被度が1/10～1/4（ただし個体数は任意）
- 3 ……被度が1/4～1/2で個体数は任意
- 4 ……被度が1/2～3/4で個体数は任意
- 5 ……被度が3/4以上で個体数は任意

また群度は次の記号で記入する。

- 1 ……単生する
- 2 ……群状または叢状に生育する
- 3 ……斑状に生育する
- 4 ……小さいコロニーを作って生育するか、あるいはまた大斑かじゅうたんを形成する
- 5 ……大群をなす

この（D・S）欄の記載にあたっては、優占度（または被度）を先にし、群度を次に記す。例えば4・2のようにする。+・1の場合は単に+ とのみする。高木層を占める種の群度については調査区外をも概観して評価する。例えば全山がブナでおおわれているがたまたま調査区内にブナが1本である場合は5・1とせず5・5とする。

(V)活力度と芽生え：開花している (fl)、果実や種子をつけている (fr) 場合は、それぞれの記号をこの欄に記しておく。なお、芽生えである場合にはこの欄に K の記号を記す。

23. 植生断面図：植生調査が実際に行われた植分と、その立地条件との関係を具体的に表現する手段として植生断面の図化は重要である。また地形に対応した群落構造とその配分を概観する手がかりとなる。したがって、図化には地形に対応した群落配分図（図1）と、具体的な対象植分自体の群落断面図（図2）の2通り画く（表に空白がない場合には裏面に画く）。

## <別紙2>

# 特定植物群落調査実施要領 (生育状況調査)

### 1. 昭和61年度に実施する生育状況調査の概要

特定植物群落の生育地及び生育状況の現況を把握し、併せて自然環境保全施策（植生の保護対策、植生の復元、自然環境の創出、環境診断等）の基礎となるバックデータを蓄積する目的で、既に選定された特定植物群落の中から植物群落の種類（地域性、相観区分、立地環境、群落の規模等）ごとに代表的、典型的な群落を抽出し、標本的な群落を対象として、生育地及び生育状況の現況を調査する。

このため、昭和61年度調査においては、今後の自然環境保全基礎調査に向けて、第3回自然環境保全基礎調査までにリストアップされた特定植物群落の中から、当該群落の代表性・典型性及び保全が長期間担保される可能性等を勘案して生育状況調査対象群落（以下「生育状況調査群落」とする）を選定する。

併せて、今後実施しようとする生育状況調査（おおむね5年毎の予定）の基礎とするため、選定した対象群落について、以下に示す要領で基礎的データを収集・整理する。

### 2. 生育状況調査群落の選定

生育状況調査群落は、下記(1)の選定方針 及び(2)の手順に従って選定する。

#### (1) 生育状況調査群落の選定方針

ア 土地所有関係及び法令による保全の担保等により、次回以降も生育状況調査が可能と見込まれるものであること。

イ 2以上の群落から構成されている特定植物群落については、いずれか1つの群落を対象群落として選定する。（1つの特定植物群落の中に、生育状況調査群落として選定すべき群落が、複数存在するときは、それぞれ1カ所としてカウントする。）

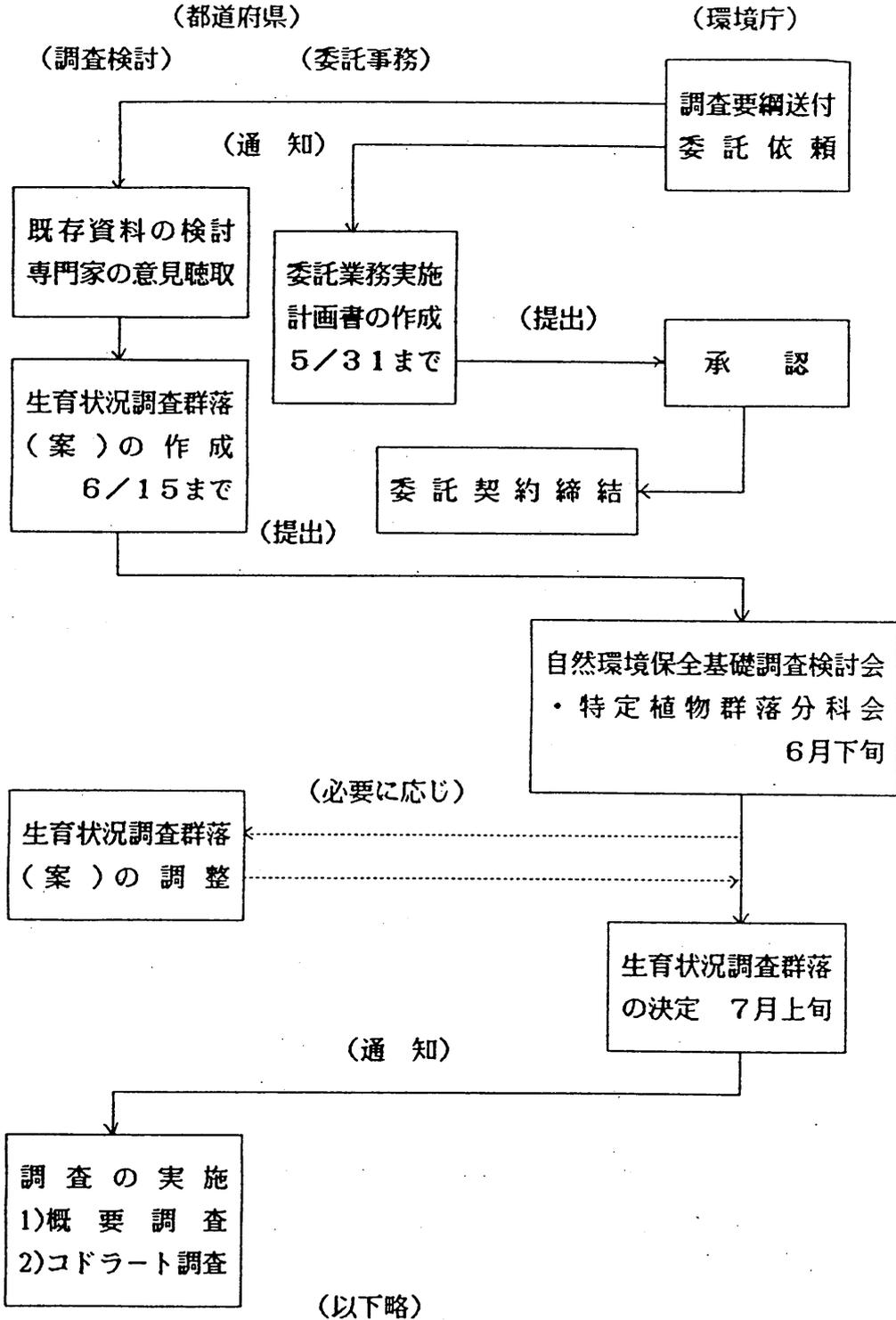
ウ 各都道府県に分布する群落の主な相観区分を一応網羅するものであること。特に、広域的に分布する次の種が分布する都道府県は、当該種を優占種とする群落を1以上選定すること。

- (ア) シラビソまたはオオシラビソ（北海道ではトドマツまたはエゾマツ）
  - (イ) ブナ
  - (ウ) スタジイまたはコジイ
- エ 以上の前提となる選定方針のほか、次の観点も配慮して選定すること。  
特に、他の都道府県に存在しないものは、優先的に配慮すること。
- (ア) 学術的価値がある（隔離分布種、固有種、分布限界種、稀少種）等、貴重種の個体、個体群を含むもの。
  - (イ) 特定の環境に適応しており、環境の変化に対して耐性が弱いとされているもの。（湿原植生、超塩基性岩地植生等）
  - (ウ) 遷移途上の群落等、人為的なインパクトがない場合であっても植生が変化する性格のもの。
- オ 各都道府県毎に選定する生育状況調査群落の数は、原則として別途環境庁が指示する数の範囲内とする。
- 〔当該都道府県の特定植物群落総数（昭和61年度に追加選定予定のものまで含む。また、2以上の群落から構成されている特定植物群落については、その構成群落数を合計して算出した）に対し、5%～10%の範囲内の数（但し、5ヵ所を下回らないこととした）である。〕

## (2) 生育状況調査群落選定の手順

- ア 各都道府県は、学識経験者の意見等を参考に、当該都道府県における生育状況調査群落(案)を作成し、別紙2-1の様式に従い、昭和61年6月15日までに、環境庁自然保護局企画調整課長あて提出する。
- イ 環境庁は、各都道府県の生育状況調査群落(案)について、自然環境保全基礎調査検討会・特定植物群落分科会の指導に基づき、全国的視点からの欠落等を検討し、必要に応じて当該都道府県と調整を図って、7月上旬までに生育状況調査群落を決定し、各都道府県あて通知する。  
(この調整により、提出済みの委託業務実施計画の変更を要する場合には、別途所要の手続きを行う。)
- ウ 各都道府県は、環境庁からの通知を受けて、生育状況調査を実施する。  
(なお、上記アの提出に際し、代替案として、調査可能な群落を2～3追記すること；詳しくは、別紙2-1参照)

昭和61年度生育状況調査の手順



### 3. 生育状況調査の内容

生育状況調査は、「生育状況調査群落の概要調査」と「コドラート調査」を行う。それぞれの内容は、以下のとおりである。

#### 3-1. 生育状況調査群落の概要調査

生育状況調査群落の概要調査は、生育状況調査群落（2以上の群落から構成されている特定植物群落の場合は、生育状況調査の対象となる部分をいう。以下同じ。）の全体及び周辺の状況の概要を把握する目的で、下記の項目について、現地調査及び既存資料の収集により行う。調査の内容及び手法の詳細並びに結果の整理方法については、別紙2-2「生育状況調査群落概要調査票」、別紙2-6「現況写真撮影方法記録表」による。

- (1) 生育状況調査群落の位置、標高、面積
- (2) 生育環境（地形、地質、気象）
- (3) 周辺の植生及び土地利用
- (4) 生育状況調査群落の概要
- (5) 保護管理の現状（法令等による規制、具体的保護対策の種類、生育状況調査群落へのインパクト、土地所有関係）
- (6) 生育状況調査群落の選定理由
- (7) 生育状況調査群落の現況写真の撮影

※なお、「(7)生育状況調査群落の現況写真の撮影」については、気象害を把握する等、生育状況調査の参考とするため、次回の調査までの間も、原則として毎年夏に行う。

#### 3-2. コドラート（調査用方形区）調査

コドラート調査は、生育状況調査群落の中心部（典型的部分）に再調査しやすいコドラート（調査用方形区）を設定し、次のとおり、高木林（樹高8m以上の林）と、それ以外の植生タイプに分けて実施する。

◆高木林（樹高8m以上の林）以外の植生タイプの場合

コドラート内について、植物社会学的方法による植生調査を行う。（以下、この植物社会学的方法による植生調査を「一般植生調査」という。）

◆高木林（樹高8m以上の林）の場合

コドラート内の樹高8m以上の全樹木について、毎木調査を行うとともに、コドラート内の典型的部分に設定したサブコドラートについて、一般植生調査を行う。

◆いずれの植生タイプにおいても、コドラートをできる限り全体的に把握しうる広い範囲を撮影できる定点から、コドラートの現況写真を撮影する。

(1) コドラートの設定

ア 設定方針

コドラートは、調査群落の特性を勘案して当該群落を代表する典型的な場所で、後日の再調査時の再現性を考慮して、目立つ地形・地物に隣接する等、確認しやすい場所に設定する。

イ コドラートの面積

コドラートの面積（水平投影面積によらず、斜面に沿った実測面積とする）は、次の値を標準とする。

\*高木林(樹高8m以上の林)……………400㎡（原則として20×20m）

[但し、一般植生調査は、典型的な部分について原則として225㎡

（15×15m；ただし、不均質その他によって225㎡を確保することが困難な群落については100㎡（10×10m）以上）のサブコドラートを設定して行う。]

\*低木林(樹高8m以下の林)……………100㎡（原則として10×10m）

\*草原・低層湿原(ススキ、ヨシ等の背の高い草原及び湿原)

……………25㎡（原則として5×5m）

\*草原(高山草原、シバ草原等背の低い草原)…4㎡（原則として2×2m）

\*中間・高層湿原……………1㎡（原則として1×1m）

#### ウ コドラートの形状等

コドラートの形状は方形を原則とするが、後日再確認できることが優先されるべきであるので、例えば、森林であれば目印となる樹木を、草原であれば目印となる岩石または樹木等を結ぶ形とするなど、非整形な形状で設定することもやむを得ない。

また、湿原のように、目印となるものがない場合で、土地所有者の了解が得られる場合には、塩化ビニールパイプ等植生に及ぼす影響の少ないものを標識として設置する。

#### エ コドラートの位置の記録

設定したコドラートの位置を、後日再確認しうよう、別紙2-3「コドラート位置図」に記録しておく。

### (2) 一般植生調査

一般植生調査は、上記により設定したコドラート（高木林にあってはサブコドラート）内の全ての植生を対象に行う。

具体的には、次の項目について調査する。

#### ア 生育環境

海拔、方位、傾斜、面積、

地形、土壌、

風当、日当、土湿（湿原の場合は地下水位）

#### イ 各階層（高木、亜高木、低木、草本、コケの各層）の現況

優占種、高さ、植被率、

高木及び亜高木の最大胸径、種数

#### ウ 組成表

種名、階層、生活形、被度（優占種）及び群度、活力度、植生断面図

#### エ 群落の状態

群落内の植生について、病虫害及び気象害の発生状況、枯損・枯死の有無、健全度（生育良好、一部不良がある、かなり不良といった程度を把握する。）

調査方法及び結果の整理方法の詳細は、別紙2-4「一般植生調査実施上の注意事項」及び別紙1-3「植生調査表」による。

(3) 毎木調査（高木林(樹高8m以上の林)のみ)

コドラート内の高さ8m以上の樹木を対象に次の事項を調査し、「毎木調査票」及び「樹冠投影図」を作成する。

ア 種名

イ 樹木の位置（「樹冠投影図」に示す。）

ウ 樹高

エ 胸高直径

オ 樹木の状態（健全度等）

調査方法及び結果の整理方法の詳細は、別紙2-5「毎木調査票」による。

(4) コドラート現況写真の撮影

コドラートをできる限り全体的に把握しうる範囲を撮影できる定点から、コドラートの現況写真を撮影する。

撮影上の注意、次回調査までの撮影等については、「3-1.(7)生育状況調査群落の現況写真の撮影」に準じ、別紙2-6「現況写真撮影方法記録票」に基づいて行う。

<別紙2-1>

## 生育状況調査群落（案）提出様式

年 月 日

環境庁自然保護局企画調整課長殿

〇 〇 県 〇 〇 部（局）長

昭和61年度自然環境保全基礎調査・特定植物群落調査  
生育状況調査群落（案）について

標記について、次のとおり提出します。

記

- 別添1. 生育状況調査群落（案）一覧表
- 別添2. 生育状況調査群落（案）概略図
- 別添3. 各群落の特定植物群落調査票及び  
特定植物群落調査票（追跡調査）の写

生育状況調査群落 (案) 一覧表

〇〇都道府県

(記入例)

整理番号	対照番号	特定植物群落名 (対象群落名)	位置	群落の内容	土地所有	立地	選定理由	特記事項
①	23	石鏡山のシコクシラベ林	石鏡山より少し下方、3の頭元より、面河への下り道の途中	シコクシラベ -イシツチササ 群落	国(林) 国(他) 公有地 民有地	海岸 平地 山地 高山	1,2,4	国立公園特別地域 固有種
②	3	志賀高原の原生林 (魚野川のブナ林)	魚野川支流雑魚川清水小屋付近の又七山北斜面 (標高およそ1200~1300m)	マルバマンサク -ブナ群落	国(林) 国(他) 公有地 民有地	海岸 平地 山地 高山	1,2	国立公園普通地域
③	30	郡殿の池の湿性植物群落	郡殿の池の浮島上および池の周縁部	コオニユリ -カキツバタ 群落	国(林) 国(他) 公有地 民有地	海岸 平地 山地 高山	4,5	県自然環境保全地域 湿原
④					国(林) 国(他) 公有地 民有地	海岸 平地 山地 高山		
⑤					国(林) 国(他) 公有地 民有地	海岸 平地 山地 高山		
⑥					国(林) 国(他) 公有地 民有地	海岸 平地 山地 高山		
⑦					国(林) 国(他) 公有地 民有地	海岸 平地 山地 高山		
⑧					国(林) 国(他) 公有地 民有地	海岸 平地 山地 高山		
代①	2	阿蘇・波野原の山地草原 (波野村のスズラン群落)	波野村池の久保	スズランを含む ススキ -トゲシバ群落	国(林) 国(他) 公有地 民有地	海岸 平地 山地 高山	1,5	県自然環境保全地域 二次草原に生育する稀少種
代②	75	草津本白根山のコマクサ群落	草津町草津本白根山の火口	コマクサ群落	国(林) 国(他) 公有地 民有地	海岸 平地 山地 高山	4,5	国立公園特別地域 地元団体等により植生復元活動が進められている 稀少種、火山荒原植生

## 別添1 生育状況調査群落（案）一覧表 記入上の注意

1. 整理番号：「生育状況調査群落（案）概略図」と対照できるよう、通し番号（次の対照番号と区別するため①，②，③…… とする）を付して、記入する。なお、代替案として追記した群落については、記入例のように、代①、代②…… とする。
2. 対照番号：「特定植物群落調査票」（これまでに作成されたもの；以下同じ）における当該群落の対照番号を記入する。
3. 特定植物群落名（生育状況調査群落名）：「特定植物群落調査票」における当該群落の件名を記入する。  
なお、2以上の群落から構成されている特定植物群落の場合には、生育状況調査の直接対象となる群落（生育状況調査群落）を明らかにするよう「○○山○○付近の○○群落」というように、地名+群落名の組み合わせによる名称を付し、（ ）書きで記入する。
4. 位 置：「特定植物群落調査票」における当該群落の位置を記入する。  
なお、2以上の群落から構成される特定植物群落の場合には、生育状況調査群落の位置を極力具体的に記載する。（記入例参照）
5. 群落の内容：生育状況調査群落の内容を示す群落名（または群集名等）を記載する。
6. 土地所有：生育状況調査群落の土地所有区分を○で囲む。  
（複数○をつけてもよい。）なお、国有地の場合は、国有林か、それ以外かを区別すること。  
（凡例） 国（林）；国有林  
          国（他）；国有林以外の国有地  
また、民有地の場合は、土地所有者の協力の得られる可能性を「特記事項」欄に記載すること。

7. 立地：生育状況調査群落の立地を、おおまかに分けて、いずれかの区分を○で囲む。

（凡例）

海岸；海浜部及びそれに隣接する地域

平地；海岸以外の平野部、盆地及びそれに連なる小丘陵等

山地；高山・亜高山以外の山地、高原等

高山；高山・亜高山性植生を呈する地域

8. 選定理由：当該群落は、生育状況調査群落の選定方針に照らし、いずれに該当するかを下記の中から選び、番号で記入する。（複数記入してよい。）

なお、補足事項あるいは特記事項があれば「特記事項」欄に記載する。特に4. 5. 7. に該当する場合は、補足説明を記載する。

〔選定理由〕

- 1: 当該都道府県内に分布する主要な群落
- 2: 次の広域的に分布する種を優占種とする群落
  - ①シラビソまたはオオシラビソ（北海道ではトドマツまたはエゾマツ）
  - ②ブナ
  - ③スダジイまたはコジイ
- 3: 当該都道府県にのみ存在する群落
- 4: 貴重種（隔離分布種、固有種、分布限界種、稀少種等）を含む群落
- 5: 特定の環境に適応し、環境の変化に対して耐性が弱い群落（湿原植生、超塩基性岩地植生等）
- 6: 遷移途上の群落人為的インパクトがない場合であっても植生が変化する性格の群落
- 7: その他

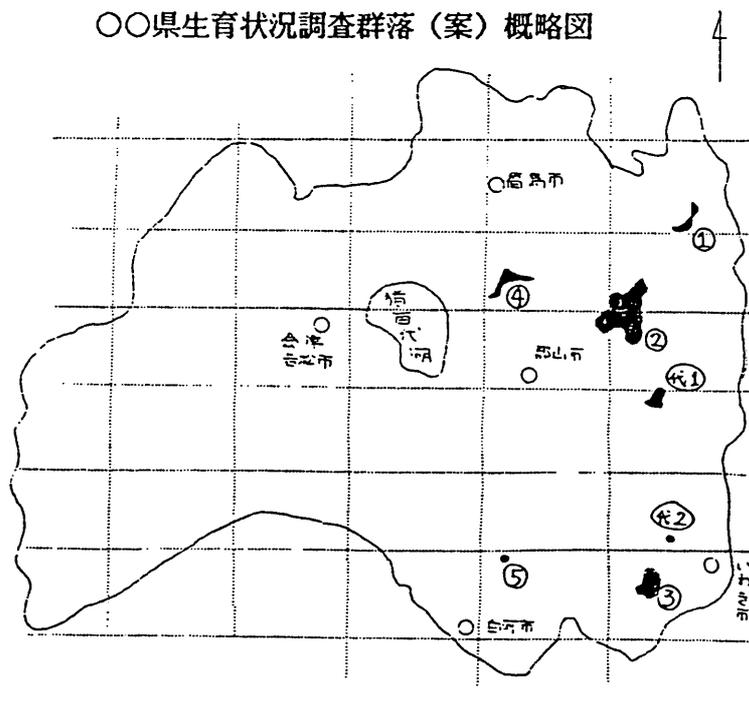
9. 特記事項：以上のほか、当該生育状況調査群落を選定するにあたり、特記すべき事項、参考となる事項等を記載する。

## 別添2 生育状況調査群落（案）概略図

生育状況調査群落（代替案を含む）の位置を図示した概略図を作成し、添付する。

概略図は、特定植物群落生育地図（5万分の1）を参考にして、当該都道府県の概略図（B5判もしくはB4判に収まる程度）に、次の例にならい、生育地を記入し、整理番号を打つ。

（例）



（注） 生育地のわきの数字は、生育状況調査群落（案）一覧表の整理番号である。

### 別添3 各群落の特定植物群落調査票及び特定植物群落調査票（追跡調査）の写

個々の生育状況調査群落（代替案を含む）に係る特定植物群落調査票（当初選定時のもの；53年度または59，60年度調査）及び特定植物群落調査票（追跡調査；60年度）のコピーをとり、整理番号順に編綴し、添付する。

なお、61年度に追加選定予定の群落を生育状況調査群落とするときには、添付しなくてもよい。

<別紙2-2>

生育状況調査群落概要調査票

(10)取扱				(1) 調査年月日											
				(2) 都道府県											
(3) 対照番号		(4) 特定植物群落調査群落名 (生育状況調査群落名)													
(5) 1/5万地形図名		(6) 位 置		(7) 所在市町村											
				市 部		町 村									
(8) 標 高 (最高部)		(最低部)				(9) 面 積									
						h a									
生 育 環 境	(1) 地 形					(2) 地 質									
	(3) 気 象	(4) 観測地 (位置)	(標高)												
		項目 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年 平 均 計
		(5) 平均気温													
		(6) 降水量													
	(4) 対象群落の概要														
(5) 周辺の植生及び土地利用															
(1) 保護管理の現状	(1) 保護制度の種類・名称														
	(2) 具体的保護対策の種類			(3) 生育状況調査群落へのインパクト											
	(4) 土地所有関係														
(4) 選定理由															
(h) 補足事項															
(1) 調査者所属						(7) 調査者氏名									

(生育状況調査群落概要調査票記入上の注意)

1. 1つの生育状況調査群落につき、調査票は1枚とする。
2. 「(2) 都道府県」、「(3) 対照番号」、「(5) 1/5万地形図名」から「(7) 所在市町村」まで及び「(10)取扱」の各欄は、これまでに作成された「特定植物群落調査票」の記載内容をそのまま記入する。

なお、「位置」及び「所在市町村」の欄は、2以上の群落から構成される特定植物群落を調査対象とした場合は、生育状況調査の直接対象となる群落(生育状況調査群落)について記載する。

ただし、既存の調査票記載内容に、誤記・誤認等があり、訂正を要するときは、二重線を引いて訂正し、その理由を(カ)「補足事項」欄に略記する。
3. 「(4) 特定植物群落名(生育状況調査群落名)」欄には、生育状況調査対象として抽出した特定植物群落の件名を記入するものであるが、当該特定植物群落が2以上の群落から構成される場合には、生育状況調査群落の名称を特定植物群落名の後に( )書きする。
4. 「(8) 標高」欄には、生育状況調査群落の生育地の最高地点及び最低地点の標高を記載する。標高は、既存の植生図もしくは「特定植物群落生育地図」(当該特定植物群落を当初に選定した際に作成したもの；以下同じ)等を参考にして把握したもので足りる。
5. 「(9) 面積」欄の記入にあたって、2以上の群落から構成される特定植物群落の場合は、当該特定植物群落全体ではなく、生育状況調査群落そのものの面積を記入する。
6. 「(7) 生育環境」欄

「(1) 地形」欄は、生育状況調査群落の存する地域の地形が、国土庁(あるいは経済企画庁総合開発局)作成の土地分類図中の地形分類図による地形分類のいずれに該当するかを調べ、記入する。(例：山地の場合……大・中・小起伏山地、山麓地)

「(2) 地質」欄は、生育状況調査群落の存する地域の地質が、国土庁（あるいは経済企画庁総合開発局）作成の土地分類図中の表層地質図による地質分類のいずれに該当するかを調べ、記入する。

「(3) 気象」欄は、月別の平均気温及び降水量について、役場、学校、防災観測施設等、生育状況調査群落に最も近いところで得られるデータを記入する。データは、生育状況調査群落の存する土地の標高等に応じて補正する必要はないが、「観測地」欄にその位置及び標高を記入する。

#### 7. 「(イ) 生育状況調査群落の概要」欄

生育状況調査群落について、これまでに作成された「特定植物群落調査票」の「内容」欄を参照して記載するほか、特記すべき事項があればそれを記載する。

#### 8. 「(ウ) 周辺の植生及び土地利用」欄

生育状況調査群落に隣接する地域の植生及び土地利用を既存資料（自然環境保全基礎調査で作成された現存植生図及び国土庁（経済企画庁総合開発局）作成の土地分類図中の土地利用現況図等）により把握し、概要を記入する。生育状況調査群落に何らかの影響を及ぼすことが懸念される土地利用及び開発行為については、既存資料及び現地調査により把握し、特記する。

#### 9. 「(I) 保護管理の現状」欄

「(1) 保護制度の種類・名称」欄には、自然公園及び自然環境保全地域等の指定、天然記念物の指定等、生育状況調査群落または、その生育地に関して現在なされている地域指定等の保護対策について、以下の例により記入する。

[保護制度の種類・名称]

- ①種類……………国立公園、国定公園、都道府県立自然公園、原生自然環境保全地域、自然環境保全地域、都道府県自然環境保全地域、国指定特別天然記念物・特別名勝、国指定天然記念物・名勝、都道府県指定天然記念物、市町村指定天然記念物

(その他の例)

緑地保全地区、緑地環境保全地域、郷土記念物、保護林、鳥獣保護区(特別保護地区)、伐採見合せ林、県民の森、市民の森、その他当該群落の保護に寄与と思われる制度による指定状況等を記入されたい。

②名 称……………中部山岳国立公園、屋久島原生自然環境保全地域等指定地域に地区の名称がつくものについて、その名称を記入する。

「(2) 具体的保護対策の種類」欄には、生育状況調査群落について現地で講じられている具体的保護対策を下記の中から選び(複数でもよい)、該当するものを番号で記入する。

なお、「7:その他」の具体的内容等補足事項がある場合には「(か) 補足事項」欄に記入する。

(具体的保護対策の種類)

0:特になし

1:立入禁止柵、制札等群落保護のための措置がなされている。

2:歩道、木道、案内板(解説板)等利用者のための施設がある。

3:監視人、管理人が常時(または季節的に)配置されている。

4:土地所有者の意向等により、通常立ち入りが制限されている。

5:毎年、間伐、下刈り等が実施されている。

6:定期的に清掃活動が行われている。

7:その他

8:不明

「(3) 生育状況調査群落へのインパクト」欄には、下記の中から該当するものを選び(複数でもよい)、番号で記入する。

なお、「8:周辺の開発」及び「12:その他」の具体的内容等補足事項がある場合には「(か) 補足事項」欄に記入する。

(インパクトの種類)

(具体例)

- |             |                                       |
|-------------|---------------------------------------|
| 0: 特になし     |                                       |
| 1: 人の立入     | 踏圧等                                   |
| 2: 盗採       |                                       |
| 3: 農林業開発    | 伐採・植林、水田・畑地化、放牧、草地造成等                 |
| 4: 道路開発     | 道路建設、駐車場、排ガス                          |
| 5: 観光開発     | 観光地化、スキーコース、ロープウェイ、釣り場等               |
| 6: 水辺の開発    | 港湾・漁港整備、護岸工事、河川改修、堰堤築造、排水工事等          |
| 7: その他の開発   | 土地造成、団地造成、バラボラアンテナその他工作物の設置等          |
| 8: 周辺の開発    | 上記3～7の開発が群落の周辺で行われているもの               |
| 9: 動物の侵入    | 牛馬・イノシシ・シカ・野猿等による踏みつけ・食害等、排泄物による富栄養化等 |
| 10: 汚染物質の侵入 | 排水、糞尿、廃油、化学肥料等                        |
| 11: ゴミの投棄   | プラスチック容器、塵埃、生ゴミ等                      |
| 12: その他     |                                       |

「(4) 土地所有関係」欄には、国・公有地の場合は、生育状況調査群落に係る土地を管理する機関名まで記入し、私有地の場合は、私有地であることを明らかにするに留める。

10. 「(イ) 生育状況調査群落選定理由」欄

下記の中から該当するものを選び（複数でもよい）、番号で記入するとともに、補足事項あるいは特記事項があればそれを記載する。特に4. 5. 7. に該当する場合は、補足説明を記載する。

〔選定理由〕

- 1: 当該都道府県内に分布する主要な群落
- 2: 次の広域的に分布する種を優占種とする群落
  - ①シラビソまたはオオシラビソ（北海道ではトドマツまたはエゾマツ）
  - ②ブナ
  - ③スタジイまたはコジイ
- 3: 当該都道府県にのみ存在する群落
- 4: 貴重種を含む群落
- 5: 特定の環境に適応し、環境の変化に対して耐性が弱い群落
- 6: 遷移途上の群落
- 7: その他

11. 「(キ) 調査者所属」及び「(ク) 調査者氏名」欄には、当該調査票作成者の所属、氏名を記入する。

12. 添付図面及び現況写真

当該調査票には、位置図、現況写真を添付する。

(1) 位置図

位置図として特定植物群落生育地図（当該特定植物群落を当初に選定した際に作成したもの）の写しを添付する。なお、2以上の群落から構成される特定植物群落の場合は、図中に生育状況調査群落そのものの範囲を明示する。

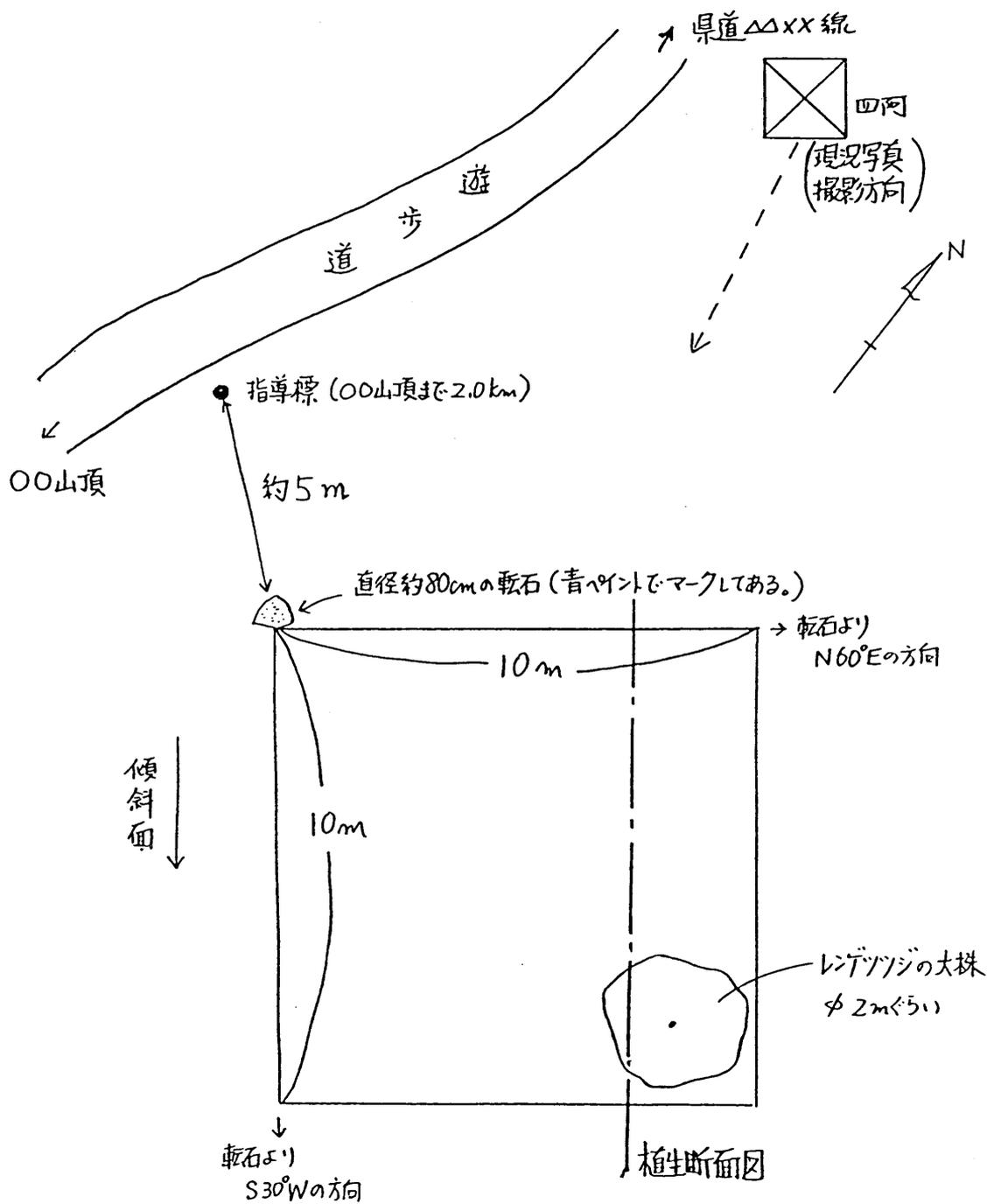
(2) 現況写真

生育状況調査群落の全景もしくは代表的な部分の現況を定点から35mm判ネガカラーフィルムにより撮影し、プリント（サービスサイズでよい）を添付する。なお、ネガは、防湿に配慮して都道府県において保管する。

（＜別紙2－6＞参照）



〈例一 2〉 コドラートの詳細図



<別紙2-4>

## 一般植生調査実施上の注意

コドラート調査における一般植生調査は、次回以降の調査の基礎とするため、実施要領 3-2 (2) (27頁) に示した各項目について、もれのないよう調査する。

特に、下記の点は、従来の特定植物群落調査（追加調査を含む）における植生調査表作成方法と異なる点なので、注意すること。

（カッコ内は、<別紙1-3>植生調査表の記入上の注意（18~21頁）の項目番号及び名称である。）

1. コドラートの設定方針に示したとおり、再確認のしやすさを重視して、非整形な形状のコドラートも設定できることとしたため、コドラートの大きさは、○×○mという表記によらず、一律に面積（㎡）で記載する。（「9. 面積」）

2. 植生断面図（群落配分図及び群落断面図）は、コドラート内の代表的部分について作成し、植生調査表裏面の方眼紙に記載する。（「23. 植生断面図」）

また、植生断面図を作成した位置を、高木林（樹高3m以上の林）にあっては樹冠投影図（<別紙2-5>参照）に、それ以外のタイプの植生にあってはコドラート位置図（<別紙2-3>参照）に記載する。

3. 湿原の場合、可能ならば地下水位を測定し、「土湿」欄の下に、「地下水位=○.○m」というように m単位で小数第1位まで記載する。（「14. 土湿」）

なお、測定位置は原則としてコドラートに接した外側とする。

また、測定方法の概要につき、植生断面図に図解して記載する。

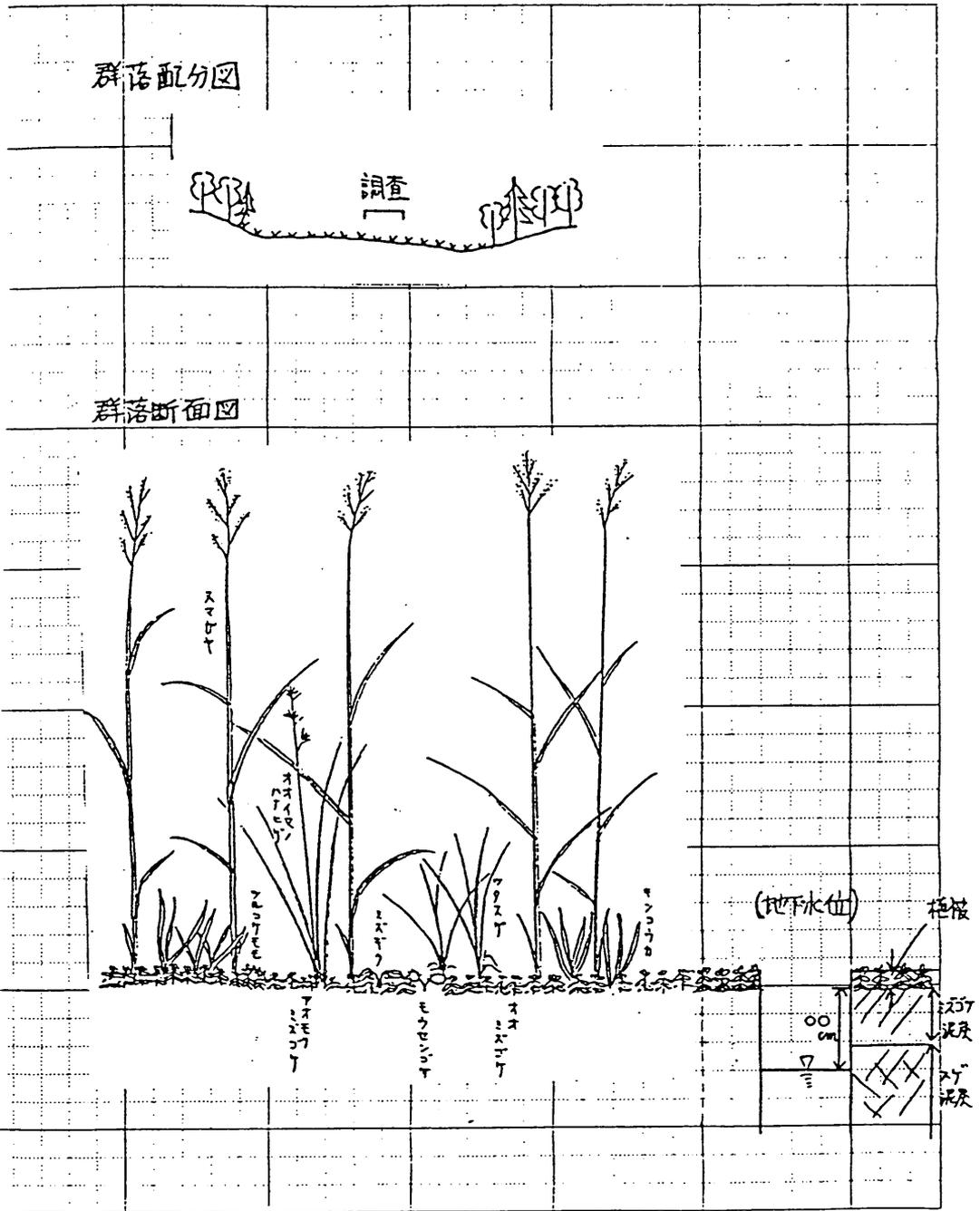
4. 群落内の植生について、病虫害及び気象害の発生状況、枯損・枯死の有無、健全度（生育良好、一部に不良がある、かなり不良といった程度を把握）を調査し植生調査表の備考欄に記入する。

5. 最新の空中写真（2B・二倍引伸印画・カラー）でコドラートを含む地域のものを用意する。空中写真には、コドラートの位置を記載し、都道府県において保管する。

※ 以上の点以外については、<別紙1-3>植生調査表の記入上の注意（18~21頁）に従って行う。



(生育状況調査における植生調査表の記入例――裏面)



<別紙2-5>

### 毎木調査票

(1) 調査年月日	
(2) 都道府県	

(3) 対照番号		(4) 特定植物群落調査群落名 (生育状況調査群落名)			
(5) 番号	(6) No テープ	(7) 種名	(8) 樹高 (m)	(9) 胸高 直径 (cm)	(10) 樹木の状況
(11) 樹高の 測定方法	測高器 測竿 目測			(12) 調査者 氏名	

(毎木調査票及び樹冠投影図作成上の注意)

I 毎木調査票

1. 「(3) 対照番号」欄には、これまでに作成された「特定植物群落調査票」に記載された番号を記入する。
2. 「(4) 特定植物群落名(生育状況調査群落名)」欄には、「生育状況調査群落概要調査票」の同欄と同様に記載する。
3. 「(5) 番号」欄には、毎木調査の対象となる樹木の番号を計測した順に記載する。
4. 「(6) Noテープ」欄には、毎木調査の対象樹木の樹幹に貼付したナンバーテープの番号を記載する。
5. 「(8) 樹高」欄には、測定した樹高(目測の場合は m 単位、その他の測定方法の場合は小数第 1 位まで求める。)を記入する。
6. 「(9) 胸高直径」欄には、cm 単位で測定した胸高直径を記入する。

胸高直径は、直径換算目盛のある巻尺により計測するものとするが、普通の巻尺による場合は、計測した樹幹周を 3.14 で除して求める。

胸高直径の計測位置は、計測しようとする樹木の斜面上部において地上約 1.3 m の位置で樹幹の直径を計測し、土地所有者の了承が得られれば、計測した位置にペンキ等により印をつけておく。
7. 「(10) 樹木の状態」欄は、毎木調査の対象となる樹木について、枯損の状態、樹勢の現況、病虫害及び気象害の発生状況等、樹木の状態を記載する。

また、菌類及び地衣類(サルオガセ等、顕著なもの)が着生している場合は、本欄に記載する。

### [樹勢の記載例]

- ・一部に茶褐色の葉が見られる。
- ・大きな枝の一部が枯れる。
- ・落葉した枝が見られる。
- ・落葉した枝が多く、幹がよく見える。

8. 「(11)樹高の測定方法」欄は、樹高の測定方法につき、測高器、測竿、目測の中から該当するものを○で囲む。なお、その他の方法によった場合は、余白に記入する。

9. 「(12)調査者氏名」欄には、毎木調査を実施した者の氏名を記入する。

※なお、測定した各樹木の位置は、「Ⅱ 樹冠投影図」に示すものとする。

## Ⅱ 樹冠投影図

1. 用紙は、環境庁が送付するA3判の方眼紙あるいはそれと同等のものを用いる。

2. 縮尺は、原則として1/100とする。

3. X軸及びY軸の右端及び上端に両軸の方位をN25°Eのように記載する。

また、コードラート内の顕著な地物（露岩等）の位置をプロットするとともに地物の種類を記載する。

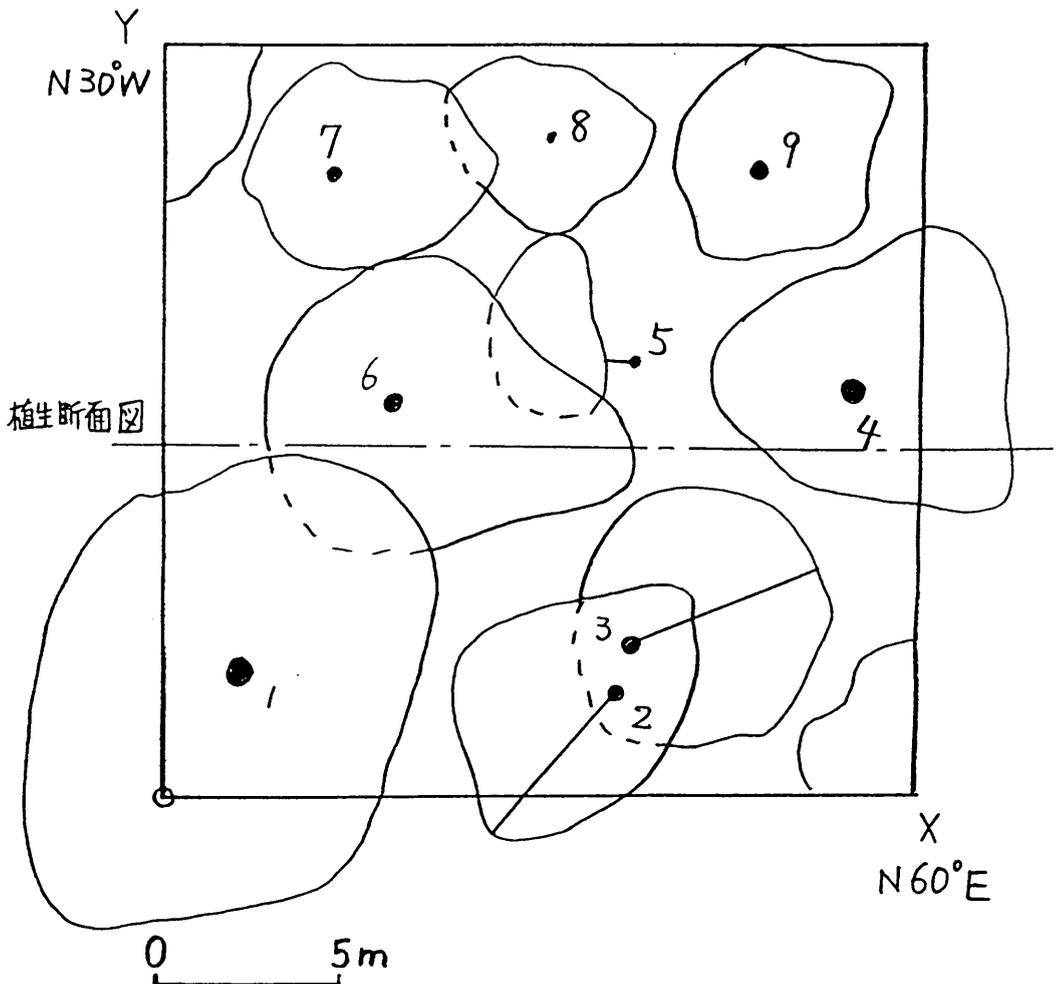
4. 調査対象の各樹木（樹高8m以上）の根元の位置を直径にほぼ比例する黒点で示し、傍に樹木番号（毎木調査票の「(4) 番号」欄の番号）を記入する。

5. 各樹木の樹冠のひろがり（輪郭）を画く。樹冠が重なり合う場合は、下層のものを点線で記載する。（次頁の図参照）

6. 樹冠の重なりが複雑な場合や、樹木の根元が樹冠の輪郭外に存在する場合は、根元の位置と樹冠の輪郭を線で結んでまぎれないようにしておく。(下図参照)

7. コドラート外に根元があって、樹冠だけがコドラート内にかかっている樹高おおむね8m以上の樹木がある場合は、コドラートに係る部分の樹冠の輪郭のみを樹冠投影図上に表現する。

(例)



<別紙2-6>

現況写真撮影方法記録票

(1) 調査年度	
(2) 都道府県	

(3) 対照番号		(4) 特定植物群落調査群落名 (生育状況調査群落名)			
(7) 種別		(4) 撮影日時	昭和 年 月 日	(9) 使用レンズ	—
(1) 撮影定点の位置					
(4) 撮影の目標物及び方向					
(7) 種別		(4) 撮影日時	昭和 年 月 日	(9) 使用レンズ	—
(1) 撮影定点の位置					
(4) 撮影の目標物及び方向					
(7) 種別		(4) 撮影日時	昭和 年 月 日	(9) 使用レンズ	—
(1) 撮影定点の位置					
(4) 撮影の目標物及び方向					
(7) 種別		(4) 撮影日時	昭和 年 月 日	(9) 使用レンズ	—
(1) 撮影定点の位置					
(4) 撮影の目標物及び方向					

(現況写真撮影方法記録票記入上の注意)

1. 生育状況調査群落及びコドラートの現況写真は、本年度に限らず、毎年夏、継続的に定点から類似の構図で撮影する必要があるので撮影方法を記録しておくものである。
2. 「(3) 対照番号」欄には、これまでに作成された「特定植物群落調査票」における対照番号を記入する。
3. 「(4) 特定植物群落名(生育状況調査群落名)」欄には、「生育状況調査群落概要調査票」の同欄と同様に記入する。
4. 「(7) 種別」欄には、現況写真の撮影対象について、「生育状況調査群落全景」、「生育状況調査群落代表的地域」、「コドラート」の別を記入する。
5. 現況写真の撮影にあたって、定点と生育状況調査群落もしくはコドラートとの距離に応じて標準レンズのほか、広角レンズもしくは望遠レンズを使用することがのぞましいので、「(9) 使用レンズ」欄に、使用したレンズの焦点距離を記載する。
6. 「(1) 撮影定点の位置」欄には、定点の位置を地番もしくは林小班で表示するとともに、後日、定点の位置を確認しやすいようにその特徴を記載する。  
なお、定点の再確認のために、定点そのものについても現況写真を撮影しておく。

また、定点の位置をそれぞれ、生育状況調査群落位置図もしくはコドラート位置図に記録しておく。

(定点の位置の記載例)

〇〇県〇〇郡〇〇町××事業区124林班イ小班

△△山登山道沿いの見晴台と呼ばれる展望台で、山頂まで4.5kmの指導標が設置されている。

7. 「(イ) 撮影の目標物および方向」欄には、現況写真撮影の構図を定めるにあたって目標となる地形（山頂、川、岩壁等）及び地物（顕著な樹木あるいは露岩等）を記載する。

（記載例）

定点東端の通称「天狗岩」の上から、NNEの方向にある△△山山頂が、ファインダー左端上部に収まる方向で撮影する。

<別紙3>

## 都道府県別報告書作成要領

### 1. 目的

第3回自然環境保全基礎調査で行った特定植物群落調査（追加調査、追跡調査、生育状況調査）の結果及びその概要をとりまとめる。

### 2. 規格

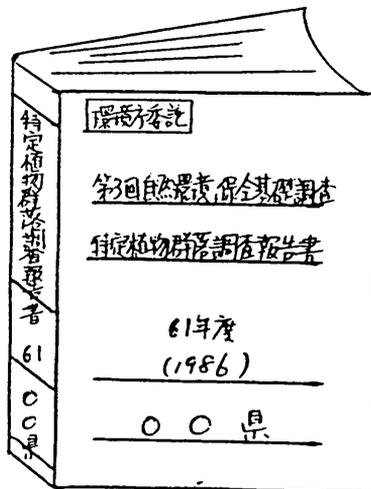
B5判、左とじ、横書きとする。

用紙は、（24桁）B列5番 または、400字詰め原稿用紙（B5判、横書き）とする。

（注）印刷は、環境庁において行うので、提出するのは原稿のみでよい。（手書き、タイプを問わないが、手書きの場合は、楷書とすること。）

### 3. 表紙及び背文字

表紙（及び裏表紙）は淡緑色、B5、ファイル（「コクヨ、フー11、B5S」「ライオン、Na529、B5-S」等）を使用し、タイトル等の様式は下図による。（黒サインペンの手書きでよい。）



（注）一冊に編綴できない場合は分冊としてよいが、適宜一連番号を付すこと。

#### 4. 配 列

報告書における各項目の配列は以下のとおりとする。

(ただし、追加調査を行っていない都道府県は、当該部分を省略し、以下順次繰り上げる。)

また、以下の内容のうち、既に過年度に「調査票帳」等として提出済みのものについては、改めて添付する必要はないが、当該報告書のどの部分に挿入すべきかを明記しておくこと。

##### (1) 目 次

##### (2) 要 約 (〇〇県の特定植物群落の概要)

##### (3) 調査結果の概要

##### (4) 特定植物群落生育地概略 (総括) 図

##### (5) 追加調査

###### ①追加選定特定植物群落の概要

###### ②特定植物群落生育地概略図 (追加調査)

###### ③特定植物群落調査票

##### (6) 追跡調査

###### ①追跡調査結果の概要

###### ②特定植物群落生育地概略図

###### ③特定植物群落調査票 (追跡調査)

##### (7) 生育状況調査

###### ①生育状況調査群落の概要

###### ②生育状況調査群落概略図

###### ③生育状況調査群落概要調査票

###### ④コドラート位置図

###### ⑤植生調査表

###### ⑥毎木調査票

###### ⑦現況写真撮影方法記録票

生育状況調査群落毎にまとめる

##### (7) 文献リスト

##### (8) 調査担当者名簿

5. 要約（〇〇県の特定期植物群落の概要）

59～61年度に実施した特定期植物群落調査の内容及び結果を要約し、当該都道府県の特定期植物群落の現況について簡潔に記述する。

（当該都道府県において実施した調査の種類（追加調査、追跡調査、生育状況調査）及び調査群落数等については必ず記述すること。）

6. 調査結果の概要

調査結果を次の例にならい、表1及び表2にとりまとめる。

（表1） 〇〇県特定期植物群落総括表

	(1) 53年度 群落数	(2) 改 変 群落数	(3) 削 除 群落数	(4) 追 加 群落数	(5) 現 況 群落数
特定期植物群落全体					
(内訳)選定基準A					
" B					
" C					
" D					
" E					
" F					
" G					
" H					

(凡 例)

- (1) 53年度群落数 : 第2回自然環境保全基礎調査(53年度調査)において選定された特定植物群落数。
- (2) 改変群落数 : 第3回自然環境保全基礎調査において、前回調査以降に、著しい改変の見られた群落の数。(下記の削除群落数を内数として含む。)
- (3) 削除群落数 : 第3回自然環境保全基礎調査において、改変が著しく、特定植物群落から削除することが適当とされた群落の数。
- (4) 追加群落数 : 第3回自然環境保全基礎調査において、新たに選定された特定植物群落数。
- (5) 現況群落数 : 第3回自然環境保全基礎調査終了時点の特定植物群落数。

(注) 「特定植物群落全体」欄の数字は、該当する群落の実数であり、「内訳(特定植物群落選定基準別)」欄の数字は、個々の選定基準に該当する群落の、延べ数であるので、複数の選定基準に該当する特定植物群落がある場合には、内訳の合計と全体の数は合わない。)

(記入上の注意)

- 1. 「53年度群落数」には、第2回自然環境保全基礎調査(53年度調査)において選定された特定植物群落数(当時既に消滅していた群落は含めない。)を記入する。
- 2. 「改変群落数」には、追跡調査(60年度)において、「改変あり」と記録された群落(「特定植物群落調査票(追跡調査)(7)(1)変化状況」欄で2~5に○が付された群落)の数を記入する。
- 3. 「削除群落数」には、追跡調査(60年度)において、「特定植物群落から削除」と記録された群落(「特定植物群落調査票(追跡調査)(7)(4)存続・削除に関する意見」欄で2に○が付された群落)の数を記入する。
- 4. 「追加群落数」には、追加調査(59~61年度)において、新たに選定された特定植物群落数を記入する。
- 5. 「現況群落数」には、61年度末現在の特定植物群落数を記入する。

[ (53年度群落数) - (削除群落数) + (追加群落数) ]

(表2) ○○県特定植物群落(生育状況調査群落)総括表

	生育状況群落数
生育状況群落全体	
(内訳)生育状況群落選定理由1のもの	
//          2	
//          3	
//          4	
//          5	
//          6	
//          7	

(凡例)

生育状況調査群落数 : 61年度において、生育状況調査群落として選定された群落の数。

(1つの特定植物群落の中から2以上の生育状況調査群落が選定された場合には、特定植物群落としての「件数」に係わりなく、生育状況調査群落としてカウントされた数。)

生育状況調査群落選定理由1: 当該都道府県内に分布する主要な群落

                  //          2: 次の広域的に分布する種を優占種とする群落

                                  ①シラビソまたはオオシラビソ(北海道ではトドマツまたはエゾマツ)

②ブナ

③スタジイまたはコジイ

- // 3: 当該都道府県にのみ存在する群落
- // 4: 貴重種を含む群落
- // 5: 特定の環境に適応し、環境の変化に対して耐性が弱い群落
- // 6: 遷移途上の群落
- // 7: その他

(注) 「生育状況調査群落全体」欄の数字は、該当する群落の実数であり、「内訳(生育状況調査群落選定理由別)」欄の数字は、個々の選定理由に該当する群落の、延べ数であるので、複数の選定理由に該当する生育状況調査群落がある場合には、内訳の合計と全体の数は合わない。)

(記入上の注意)

(内訳) 欄には、「生育状況調査群落概要調査票」に記載された、各群落のそれぞれの選定理由に基づき該当する群落の延べ数を記載する。

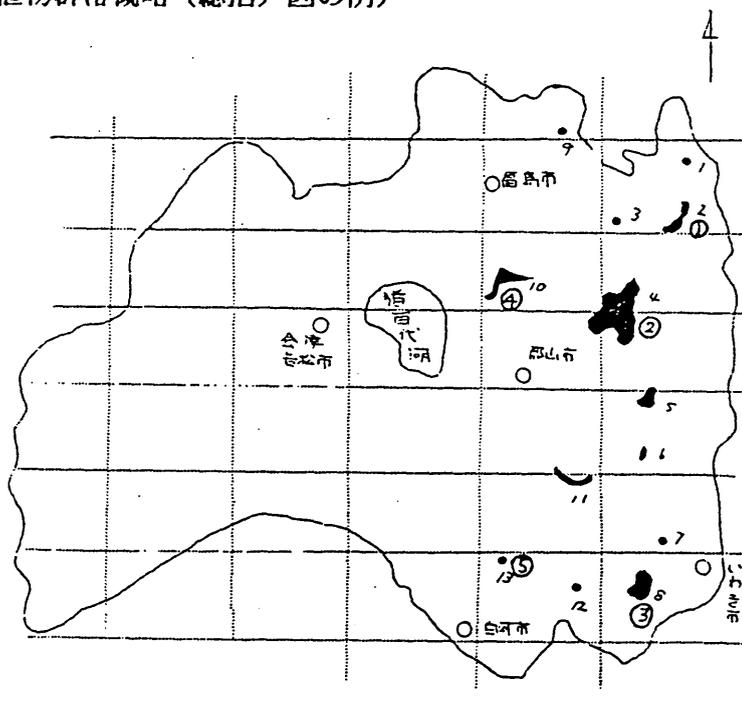
## 7. 特定植物群落概略(総括) 図

当該都道府県の特定植物群落を総括的に表示した概略図を作成する。

概略図は、特定植物群落生育地図(5万分の1)を参考にして、当該都道府県の概略図(B5判もしくはB4判に収まる程度)に、次の例にならい、生育地を記入し、対照番号ならびに整理番号(生育状況調査群落の場合)を打つ。

この際、調査票の「取扱」欄が、のものは、その旨を記して概略図からその生育地を省略する。

(特定植物群落概略(総括)図の例)



## 8. 追加調査

- (1) 「①追加選定特定植物群落の概要」では、59～61年度調査において、当該都道府県で追加選定された特定植物群落の特徴及び概要等につき、総括的に記述する。
- (2) 「②特定植物群落生育地概略図(追加調査)」には、本要綱<別紙1>4.(5～6頁)により作成した、59～61年度調査において、当該都道府県で追加選定された特定植物群落の「特定植物群落生育地概略図」を添付する。
- (3) 「③特定植物群落調査票」には、59～61年度調査において、当該都道府県で追加選定された特定植物群落に係る「特定植物群落調査票」を、群落の対照番号順に並べて添付する。

(過年度に提出済の調査票を重ねて添付する必要はないが、特に、調査票の「対照番号」が、上記の「特定植物群落生育地概略図(追加調査)」図中の対照番号と整合するよう留意されたい。提出済の調査票の対照番号を訂正する必要がある場合には、別途、環境庁に連絡すること。)

9. 追跡調査

- (1) 「①追跡調査の概要」では、60年度に実施した追跡調査に関し、当該都道府県の調査結果の概要等につき、総括的に記述する。
- (2) 「②特定植物群落生育地概略図」及び「③特定植物群落調査票（追跡調査）」には、60年度に作成した「特定植物群落調査票帳（追跡調査）」の当該部分を充てる。

10. 生育状況調査

- (1) 「①生育状況調査群落の概要」には、61年度に実施した生育状況調査において、当該都道府県で生育状況調査群落として選定、調査された群落の特徴及び概要等につき、次の表にとりまとめる。

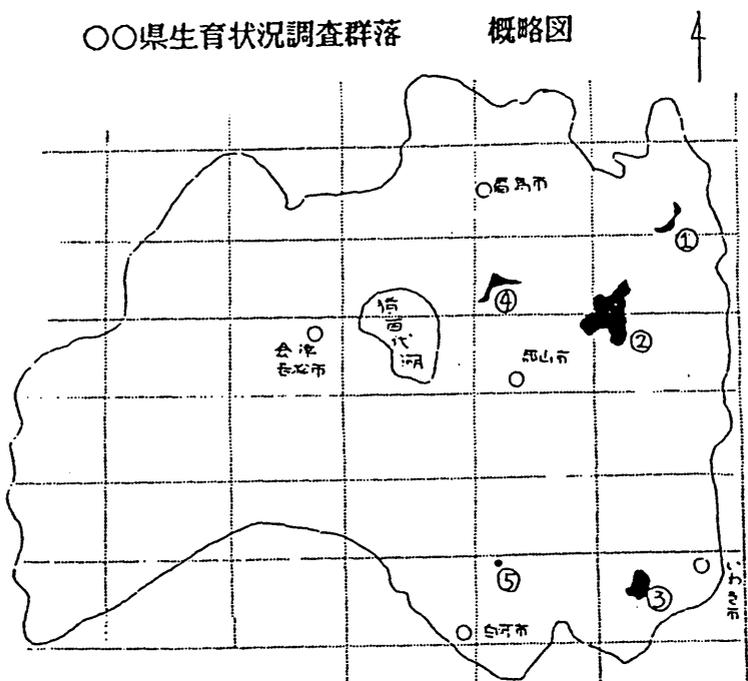
(〇〇県生育状況調査群落一覧表)

整理番号	対照番号	特定植物群落名(対照群落名)	位 置	群落の内容	土 地 所 有 地	立 地	選定理由	特 記 事 項
①								
②								
③								
④								
⑤								
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

(2) 「②生育状況調査群落概略図」は、次の例にならい、当該都道府県の生育状況調査群落の生育地を、概略図（B5判もしくはB4判に収まる程度）に記入し、整理番号を打つ。

この際、生育状況調査群落概要調査票の「取扱」欄が、~~●~~のものは、その旨を記して概略図からその生育地を省略する。

〈例〉



(3) 「③生育状況調査群落概要調査票」～「⑦現況写真撮影方法記録票」は、生育状況調査群落毎にまとめ、整理番号順に編綴する。

## 11. 文献リスト

59～61年度の「特定植物群落調査」で使用した文献について、次の表にのらとりまとめる。なお、文献には通し番号（文献番号という）をつける。

なお、過年度提出分の調査票で使用した文献番号に重複のある場合は、例になら、対照できるようにする。

文 献 番 号	筆 者 名	発 行 年 (西 暦)	文 献 名
1 (59-1)			
2 (59-2)(60-1)			
3			
4 (60-2)			

(注) 「文献番号」欄の(59-1),(59-2),(60-1),(60-2)の数字は、それぞれ、59年度、60年度に作成された調査票における文献番号を示す。

## 12. 調査担当者名簿

59～61年度の「特定植物群落調査」に実際に従事した者全員の所属、氏名、分担分野を次の表にならいつりまとめる。

番号	氏名	所属	分担分野
1	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	総括責任者
2	× × × ×	× × ×	× × ×
3			

<別紙3-1>

## 生育地図帳

生育地図帳は、61年度に実施した「追加調査」群落について作成する。

(<別紙1-1>, 7頁参照)

### 1. 表紙及び裏表紙

表紙は、国土地理院発行の1/5万地形図の大きさとし、白色板紙とする。  
様式は下図によるものとし、黒サインペンの手書きでよい。

裏表紙は、厚手のボール紙を使用する。

環境庁委託	。
第3回自然環境保全基礎調査	。
特定植物群落生育地図帳	。
61年度	。
(1986)	。
〇〇県	。

右とじ

### 2. 配 列

配列は以下の順とする。

- (1) 表 紙
- (2) 地図番号図
- (3) 特定植物群落生育地図 (地図番号の順とする。)
- (4) 裏表紙

※「地図番号図」については8頁参照。

環境庁委託調査

第3回自然環境保全基礎調査  
特定植物群落調査報告書  
(全国版)

昭和63年3月

調査受託者 財団法人 日本野生生物研究センター  
〒113 東京都文京区本郷  
3丁目39番12号  
TEL03(813)8806



